千葉県教育振興財団調査報告第580集

千原台ニュータウンXVIII

－市原市ナキノ台遺跡（下層）－

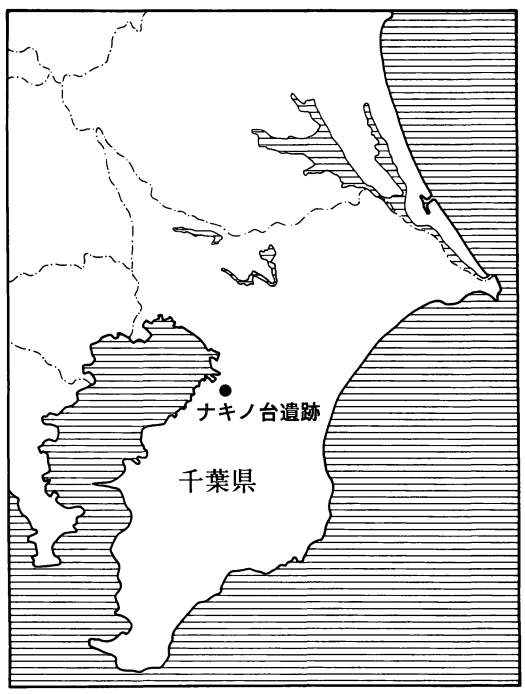
平成19年10月

独立行政法人　都市再生機構

財団法人　千葉県教育振興財団

千原台ニュータウンXVIII

－市原市ナキノ台遺跡（下層）－



序　　文

財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は，埋蔵文化財の調査研究，文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され，以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび，千葉県教育振興財団調査報告第580集として，独立行政法人都市再生機構千葉地域支社の千原台地区土地区画整理事業に伴って実施した市原市ナキノ台遺跡（下層）の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では，旧石器時代各時期の石器集中地点が45か所検出され，この地域における旧石器時代の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり，この報告書が学術資料として，また地域の歴史解明の資料として広く活用されることを願っております。

終わりに，調査に際し御指導，御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関，また，発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成19年10月

財団法人 千葉県教育振興財団
理事長　　福　島　義　弘

凡　　例

1　本書は，独立行政法人都市再生機構千葉地域支社による千原台地区におけるニュータウン建設計画（土地区画整理事業）に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　本書に収録したのは，ナキノ台遺跡（遺跡コード219-015）の旧石器時代（下層）の報告である。千葉県市原市押沼字水堀江592（現ちはら台南４丁目13番地）ほかに所在する。なお，上層については未刊行である。

3　発掘調査から報告書刊行に至る業務は，独立行政法人都市再生機構千葉地域支社の委託を受け，財団法人千葉県教育振興財団が実施した。

4　発掘調査及び整理作業の経緯と組織・担当者は，第１章第１節に記載した。

5　本書の執筆は上席研究員　蜂屋孝之，田島　新が担当した。

6　発掘調査から報告書刊行に至るまで，千葉県教育庁教育振興部文化財課，独立行政法人都市再生機構千葉地域支社，市原市教育委員会の御指導，御協力を得た。

7　周辺航空写真は，財団法人日本地図センターによる昭和45年撮影のものを使用した。

8　本書で使用した地形図は，下記のとおりである。

第１図　国土地理院発行　　1/25,000地形図「蘇我」（NI-54-19-15-2）

第２図　昭和測量工業株式会社・日本測量株式会社調整昭和46年測量

1/1,000　千原台地区現況図（Ⅸ-11・16）

9　本書で使用した図面の方位は，すべて座標北である。座標値は，日本測地系である。

10　出土遺物写真の縮尺は，単体は1/2，接合は2/3である。

11　石材の色の記載については，小山正忠・竹原秀雄 1999『新版 標準土色帖』日本色研事業株式会社の色名を使用し，色の測定にあたっては，第一合成株式会社の土色計「SCR-1」を用いた。

12　挿図に使用した記号の用例は，次のとおりである。黒曜石及び頁岩については肉眼観察により，原産地を細分した。

石器；ナイフ形石器(KN)，台形石器(TP)，槍先形石器(PO)，角錐状石器(KP)，掻器(ES)，削器(SS)，楔形石器(PQ)，加工痕ある剥片(RF)，使用痕ある剥片(UF)，石刃(BL)，局部磨製石斧(HX)，敲石（HS)，剥片（FL)，砕片（CH)，石核（CO)，原石（SM)，礫（PE)

石材；黒曜石Ａ（OBA：栃木県・高原山産)，黒曜石Ｂ（OBB：信州・和田峠周辺産)，黒曜石Ｃ（OBC：信州・麦草峠産)，黒曜石Ｇ（OBG：不明)，安山岩（AN)，軟質の安山岩=トロトロ石（TO)，流紋岩（RH)，頁岩Ａ（SHA：硬質緻密で光沢のある東北産頁岩)，頁岩Ｂ（SHB：北関東産の頁岩とくに西荒川産を意識しているが，緑色のものは凝灰岩とした)，頁岩Ｃ(SHC:県南嶺岡産の頁岩)，頁岩Ｄ（SHD：珪化度の高い頁岩で産地不明のもの)，頁岩Ｅ（SHE：上記以外の頁岩)，チャート（CH)，凝灰岩（TU)，粘板岩（SL)，砂岩（SA)，ホルンフェルス（HO)，瑪瑙・玉髄（CC)

礫石材；安山岩（AN)，軟質の安山岩=トロトロ石（TO)，流紋岩（RH)，頁岩（SH)，チャート（CH)，凝灰岩（TU)，粘板岩（SL)，砂岩（SA)，ホルンフェルス（HO)，蛇紋岩（SP)，花崗岩（GR)

本 文 目 次

第１章　はじめに …… 1
第１節　調査の概要 …… 1
１　発掘調査の経緯 …… 1
２　調査の方法 …… 2
第２節　遺跡の位置と環境 …… 2
１　遺跡の位置と地形 …… 2
２　ナキノ台遺跡と周辺の遺跡 …… 2
第３節　基本土層 …… 6
第２章　旧石器時代 …… 9
第１節　調査成果の概要 …… 9
第２節　第１文化層 …… 11
第３節　第２文化層 …… 90
第４節　第３文化層 …… 101
第５節　第４文化層 …… 105
第６節　時期不明・その他 …… 244
第３章　まとめ …… 246
報告書抄録 …… 巻末

挿 図 目 次

調査の概要
第１図　ナキノ台遺跡周辺の旧石器時代遺跡 …… 4
第２図　ナキノ台遺跡調査概要図及び基本土層図 …… 7
第３図　ナキノ台遺跡ブロック別分布状況 …… 10

第１文化層
第４図　Ｃ１－Ａブロック出土遺物分布（１） …… 13
第５図　Ｃ１－Ａブロック出土遺物分布（２） …… 14
第６図　Ｃ１－Ａブロック出土遺物分布（３） …… 15
第７図　Ｃ１－Ａブロック出土遺物分布（４） …… 16
第８図　Ｃ１－Ａブロック出土遺物分布（５） …… 17
第９図　Ｃ１－Ａブロック出土遺物分布（６） …… 18
第10図　Ｃ１－Ａブロック出土遺物分布（７） …… 19
第11図　Ｃ１－Ａブロック出土遺物分布（８） …… 20
第12図　Ｃ１－Ａブロック出土遺物分布（９） …… 21
第13図　Ｃ１－Ａブロック出土遺物（１） …… 30
第14図　Ｃ１－Ａブロック出土遺物（２） …… 31
第15図　Ｃ１－Ａブロック出土遺物（３） …… 32
第16図　Ｃ１－Ａブロック出土遺物（４） …… 33
第17図　Ｃ１－Ａブロック出土遺物（５） …… 34
第18図　Ｃ１－Ａブロック出土遺物（６） …… 35
第19図　Ｃ１－Ａブロック出土遺物（７） …… 36
第20図　Ｃ１－Ａブロック出土遺物（８） …… 38
第21図　Ｃ１－Ａブロック出土遺物（９） …… 39

第22図　Ｃ１-Ａブロック出土遺物(10) ……40
第23図　Ｃ１-Ａブロック出土遺物(11) ……41
第24図　Ｃ１-Ａブロック出土遺物(12) ……42
第25図　Ｃ１-Ｂブロック出土遺物分布（１）……46
第26図　Ｃ１-Ｂブロック出土遺物分布（２）……47
第27図　Ｃ１-Ｂブロック出土遺物 ……49
第28図　Ｄ１-Ａブロック出土遺物分布（１）……51
第29図　Ｄ１-Ａブロック出土遺物分布（２）……51
第30図　Ｄ１-Ａブロック出土遺物 ……52
第31図　Ｃ２-Ａブロック出土遺物分布（１）……54
第32図　Ｃ２-Ａブロック出土遺物分布（２）……54
第33図　Ｃ２-Ａブロック出土遺物（１）……55
第34図　Ｃ２-Ａブロック出土遺物（２）……56
第35図　Ｃ２-Ｂブロック出土遺物分布（１）……58
第36図　Ｃ２-Ｂブロック出土遺物分布（２）……58
第37図　Ｃ２-Ｂブロック出土遺物 ……59
第38図　Ｇ４-Ａブロック出土遺物分布（１）……60
第39図　Ｇ４-Ａブロック出土遺物分布（２）……61
第40図　Ｇ４-Ａブロック出土遺物（１）……65
第41図　Ｇ４-Ａブロック出土遺物（２）……66
第42図　Ｇ４-Ａブロック出土遺物（３）……67
第43図　Ｇ４-Ａブロック出土遺物（４）……68
第44図　Ｃ７-Ａブロック出土遺物分布（１）……71
第45図　Ｃ７-Ａブロック出土遺物分布（２）……71
第46図　Ｃ７-Ａブロック出土遺物 ……72
第47図　Ｂ９-Ａブロック出土遺物分布（１）……74
第48図　Ｂ９-Ａブロック出土遺物分布（２）……74
第49図　Ｂ９-Ａブロック出土遺物 ……75
第50図　Ｃ９-Ａブロック出土遺物分布（１）……77
第51図　Ｃ９-Ａブロック出土遺物分布（２）……77
第52図　Ｃ９-Ａブロック出土遺物 ……78
第53図　Ｄ10-Ａブロック出土遺物分布（１）……80
第54図　Ｄ10-Ａブロック出土遺物分布（２）……80
第55図　Ｄ10-Ａブロック出土遺物 ……81
第56図　Ｃ10-Ａブロック出土遺物 ……82
第57図　Ｅ９-Ｃブロック出土遺物分布（１）……84
第58図　Ｅ９-Ｃブロック出土遺物分布（２）……84
第59図　Ｅ９-Ｃブロック出土遺物 ……85
第60図　第１文化層ブロック外出土遺物 ……86
第61図　第１文化層ブロック外出土遺物分布 ……87
第62図　焼土遺構 ……89
第63図　土坑 ……89
第64図　第１文化層炭化物集中地点 ……89

第２文化層

第65図　Ｅ４-Ａブロック出土遺物分布（１）……91
第66図　Ｅ４-Ａブロック出土遺物分布（２）……91
第67図　Ｅ４-Ａブロック出土遺物（１）……92
第68図　Ｅ４-Ａブロック出土遺物（２）……93
第69図　Ｅ４-Ｂブロック出土遺物分布（１）……94
第70図　Ｅ４-Ｂブロック出土遺物分布（２）……94
第71図　Ｅ４-Ｂブロック出土遺物 ……95
第72図　Ｂ９-Ｃブロック出土遺物分布（１）……97
第73図　Ｂ９-Ｃブロック出土遺物分布（２）……97
第74図　Ｂ９-Ｃブロック出土遺物 ……98
第75図　Ｄ10-Ｂブロック出土遺物分布（１）……99
第76図　Ｄ10-Ｂブロック出土遺物分布（２）……99
第77図　Ｄ10-Ｂブロック出土遺物 ……100

第３文化層

第78図　Ｃ８-Ａブロック出土遺物分布（１）……101
第79図　Ｃ８-Ａブロック出土遺物分布（２）……101
第80図　Ｃ８-Ａブロック出土遺物 ……102
第81図　Ｂ９-Ｂブロック出土遺物分布（１）……103
第82図　Ｂ９-Ｂブロック出土遺物分布（２）……103
第83図　Ｂ９-Ｂブロック出土遺物 ……103
第84図　第３文化層ブロック外出土遺物分布 …104

第４文化層

第85図　Ｃ１-Ｃブロック出土遺物分布（１）……106
第86図　Ｃ１-Ｃブロック出土遺物分布（２）……107
第87図　Ｃ１-Ｃブロック出土遺物（１）……109
第88図　Ｃ１-Ｃブロック出土遺物（２）……110
第89図　Ｃ１-Ｃブロック出土遺物（３）……111

第90図　Ｃ１-Ｃブロック出土遺物（４）……112
第91図　Ｃ１-Ｄブロック出土遺物分布（１）…114
第92図　Ｃ１-Ｄブロック出土遺物分布（２）…115
第93図　Ｃ１-Ｄブロック出土遺物分布（３）…116
第94図　Ｃ１-Ｄブロック出土遺物分布（４）…116
第95図　Ｃ１-Ｄブロック出土遺物 ……117
第96図　Ｃ１-Ｅブロック出土遺物分布（１）…119
第97図　Ｃ１-Ｅブロック出土遺物分布（２）…119
第98図　Ｃ１-Ｅブロック出土遺物分布（３）…120
第99図　Ｃ１-Ｅブロック出土遺物分布（４）…120
第100図　Ｃ１-Ｅブロック出土遺物 ……121
第101図　Ｃ１-Ｆブロック出土遺物分布（１）…122
第102図　Ｃ１-Ｆブロック出土遺物分布（２）…122
第103図　Ｃ１-Ｆブロック出土遺物分布（３）…123
第104図　Ｃ１-Ｆブロック出土遺物分布（４）…123
第105図　Ｃ１-Ｆブロック出土遺物分布（５）…123
第106図　Ｃ１-Ｆブロック出土遺物 ……124
第107図　Ｄ１-Ｂブロック出土遺物分布（１）…125
第108図　Ｄ１-Ｂブロック出土遺物分布（２）…126
第109図　Ｄ１-Ｂブロック出土遺物分布（３）…127
第110図　Ｄ１-Ｂブロック出土遺物分布（４）…128
第111図　Ｄ１-Ｂブロック出土遺物（１）……132
第112図　Ｄ１-Ｂブロック出土遺物（２）……133
第113図　Ｃ２-Ｃブロック出土遺物分布（１）…135
第114図　Ｃ２-Ｃブロック出土遺物分布（２）…136
第115図　Ｃ２-Ｃブロック出土遺物分布（３）…137
第116図　Ｃ２-Ｃブロック出土遺物分布（４）…137
第117図　Ｃ２-Ｃブロック出土遺物 ……138
第118図　Ｃ２-Ｄブロック出土遺物分布（１）…140
第119図　Ｃ２-Ｄブロック出土遺物分布（２）…140
第120図　Ｃ２-Ｄブロック出土遺物分布（３）…141
第121図　Ｃ２-Ｄブロック出土遺物分布（４）…141
第122図　Ｃ２-Ｄブロック出土遺物 ……141
第123図　Ｄ２-Ａブロック出土遺物分布（１）…143
第124図　Ｄ２-Ａブロック出土遺物分布（２）…143
第125図　Ｄ２-Ａブロック出土遺物分布（３）…144
第126図　Ｄ２-Ａブロック出土遺物分布（４）…144
第127図　Ｄ２-Ａブロック出土遺物 ……145
第128図　Ｄ２-Ｂブロック出土遺物分布（１）…146
第129図　Ｄ２-Ｂブロック出土遺物分布（２）…147
第130図　Ｄ２-Ｂブロック出土遺物分布（３）…148
第131図　Ｄ２-Ｂブロック出土遺物分布（４）…148
第132図　Ｄ２-Ｂブロック出土遺物（１）……149
第133図　Ｄ２-Ｂブロック出土遺物（２）……150
第134図　Ｄ２-Ｃブロック出土遺物分布（１）…152
第135図　Ｄ２-Ｃブロック出土遺物分布（２）…153
第136図　Ｄ２-Ｃブロック出土遺物分布（３）…154
第137図　Ｄ２-Ｃブロック出土遺物分布（４）…154
第138図　Ｄ２-Ｃブロック出土遺物 ……157
第139図　Ｅ６-Ａブロック出土遺物分布（１）…159
第140図　Ｅ６-Ａブロック出土遺物分布（２）…159
第141図　Ｅ６-Ａブロック出土遺物分布（３）…160
第142図　Ｅ６-Ａブロック出土遺物分布（４）…160
第143図　Ｅ６-Ａブロック出土遺物 ……161
第144図　Ｄ７-Ａブロック出土遺物分布（１）…163
第145図　Ｄ７-Ａブロック出土遺物分布（２）…163
第146図　Ｄ７-Ａブロック出土遺物分布（３）…163
第147図　Ｄ７-Ａブロック出土遺物分布（４）…163
第148図　Ｄ７-Ａブロック出土遺物 ……164
第149図　Ｅ７-Ａブロック出土遺物分布（１）…165
第150図　Ｅ７-Ａブロック出土遺物分布（２）…166
第151図　Ｅ７-Ａブロック出土遺物分布（３）…167
第152図　Ｅ７-Ａブロック出土遺物分布（４）…168
第153図　Ｅ７-Ａブロック出土遺物分布（５）…168
第154図　Ｅ７-Ａブロック出土遺物分布（６）…169
第155図　Ｅ７-Ａブロック出土遺物分布（７）…170
第156図　Ｅ７-Ａブロック出土遺物（１）……171
第157図　Ｅ７-Ａブロック出土遺物（２）……174
第158図　Ｅ７-Ｂブロック出土遺物分布（１）…176
第159図　Ｅ７-Ｂブロック出土遺物分布（２）…176
第160図　Ｅ７-Ｂブロック出土遺物分布（３）…177
第161図　Ｅ７-Ｂブロック出土遺物分布（４）…177
第162図　Ｅ７-Ｂブロック出土遺物 ……179
第163図　Ｅ７-Ｃブロック出土遺物分布（１）…182

第164図　Ｅ７-Ｃブロック出土遺物分布（２）…182
第165図　Ｅ７-Ｃブロック出土遺物分布（３）…183
第166図　Ｅ７-Ｃブロック出土遺物分布（４）…183
第167図　Ｅ７-Ｃブロック出土遺物分布（５）…184
第168図　Ｅ７-Ｃブロック出土遺物 ……186
第169図　Ｅ８-Ａブロック出土遺物分布（１）…187
第170図　Ｅ８-Ａブロック出土遺物分布（２）…187
第171図　Ｅ８-Ａブロック出土遺物 ……188
第172図　Ｅ８-Ｂブロック出土遺物分布（１）…190
第173図　Ｅ８-Ｂブロック出土遺物分布（２）…190
第174図　Ｅ８-Ｂブロック出土遺物分布（３）…191
第175図　Ｅ８-Ｂブロック出土遺物分布（４）…191
第176図　Ｅ８-Ｂブロック出土遺物 ……191
第177図　Ｅ８-Ｃブロック出土遺物分布（１）…193
第178図　Ｅ８-Ｃブロック出土遺物分布（２）…193
第179図　Ｅ８-Ｃブロック出土遺物分布（３）…194
第180図　Ｅ８-Ｃブロック出土遺物分布（４）…194
第181図　Ｅ８-Ｃブロック出土遺物分布（５）…194
第182図　Ｅ８-Ｃブロック出土遺物 ……196
第183図　Ｅ８-Ｄブロック出土遺物分布（１）…198
第184図　Ｅ８-Ｄブロック出土遺物分布（２）…198
第185図　Ｅ８-Ｄブロック出土遺物分布（３）…198
第186図　Ｅ８-Ｄブロック出土遺物分布（４）…198
第187図　Ｅ８-Ｄブロック出土遺物 ……199
第188図　Ｅ８-Ｅブロック出土遺物分布（１）…200
第189図　Ｅ８-Ｅブロック出土遺物分布（２）…200
第190図　Ｅ８-Ｆブロック出土遺物分布（１）…202
第191図　Ｅ８-Ｆブロック出土遺物分布（２）…202
第192図　Ｅ８-Ｆブロック出土遺物分布（３）…203
第193図　Ｅ８-Ｆブロック出土遺物分布（４）…203
第194図　Ｅ８-Ｆブロック出土遺物分布（５）…204
第195図　Ｅ８-Ｆブロック出土遺物 ……205
第196図　Ｅ８-Ｇブロック出土遺物分布（１）…209
第197図　Ｅ８-Ｇブロック出土遺物分布（２）…209
第198図　Ｅ８-Ｇブロック出土遺物分布（３）…210
第199図　Ｅ８-Ｇブロック出土遺物分布（４）…210
第200図　Ｅ８-Ｇブロック出土遺物分布（５）…210
第201図　Ｅ８-Ｇブロック出土遺物 ……211
第202図　Ｅ８-Ｈブロック出土遺物分布（１）…214
第203図　Ｅ８-Ｈブロック出土遺物分布（２）…214
第204図　Ｅ８-Ｈブロック出土遺物分布（３）…215
第205図　Ｅ８-Ｈブロック出土遺物分布（４）…215
第206図　Ｅ８-Ｈブロック出土遺物 ……216
第207図　Ｅ９-Ａブロック出土遺物分布（１）…218
第208図　Ｅ９-Ａブロック出土遺物分布（２）…219
第209図　Ｅ９-Ａブロック出土遺物分布（３）…220
第210図　Ｅ９-Ａブロック出土遺物分布（４）…220
第211図　Ｅ９-Ａブロック出土遺物分布（５）…221
第212図　Ｅ９-Ａブロック出土遺物（１）……223
第213図　Ｅ９-Ａブロック出土遺物（２）……224
第214図　Ｅ９-Ｂブロック出土遺物分布（１）…226
第215図　Ｅ９-Ｂブロック出土遺物分布（２）…226
第216図　Ｅ９-Ｂブロック出土遺物分布（３）…227
第217図　Ｅ９-Ｂブロック出土遺物分布（４）…227
第218図　Ｅ９-Ｂブロック出土遺物分布（５）…228
第219図　Ｅ９-Ｂブロック出土遺物（１）……229
第220図　Ｅ９-Ｂブロック出土遺物（２）……230
第221図　Ｄ９-Ａブロック出土遺物分布（１）…232
第222図　Ｄ９-Ａブロック出土遺物分布（２）…232
第223図　Ｄ９-Ａブロック出土遺物分布（３）…233
第224図　Ｄ９-Ａブロック出土遺物分布（４）…233
第225図　Ｄ９-Ａブロック出土遺物分布（５）…234
第226図　Ｄ９-Ａブロック出土遺物分布（６）…234
第227図　Ｄ９-Ａブロック出土遺物分布（７）…235
第228図　Ｄ９-Ａブロック出土遺物 ……236
第229図　Ｄ９-Ｂブロック出土遺物 ……238
第230図　第４文化層ブロック外出土遺物分布 ‥240
第231図　第４文化層ブロック外出土遺物 ……241
第232図　竪穴状遺構 ……242
第233図　風倒木痕 ……243

時期不明・その他

第234図　時期不明・その他ブロック外 ……245
出土遺物分布

第235図　時期不明・その他ブロック外 ……245
出土遺物

まとめ
第236図　ブロック別石器垂直分布グラフ（１）…248
第237図　ブロック別石器垂直分布グラフ（２）…249
第238図　ブロック別石器垂直分布グラフ（３）…250
第239図　ブロック別石器垂直分布グラフ（４）…251

表　目　次

第１文化層
第１表　Ｃ１-Ａブロック母岩別石器組成表 ……43
第２表　Ｃ１-Ａブロック石材別石器組成表 ……45
第３表　Ｃ１-Ａブロック礫組成表 ……45
第４表　Ｃ１-Ｂブロック母岩別石器組成表 ……47
第５表　Ｃ１-Ｂブロック石材別石器組成表 ……47
第６表　Ｄ１-Ａブロック母岩別石器組成表 ……52
第７表　Ｄ１-Ａブロック石材別石器組成表 ……52
第８表　Ｃ２-Ａブロック母岩別石器組成表 ……55
第９表　Ｃ２-Ａブロック石材別石器組成表 ……56
第10表　Ｃ２-Ｂブロック母岩別石器組成表 ……57
第11表　Ｃ２-Ｂブロック石材別石器組成表 ……57
第12表　Ｃ２-Ｂブロック礫組成表 ……59
第13表　Ｇ４-Ａブロック母岩別石器組成表 ……69
第14表　Ｇ４-Ａブロック石材別石器組成表 ……69
第15表　Ｇ４-Ａブロック礫組成表 ……69
第16表　Ｃ７-Ａブロック母岩別石器組成表 ……70
第17表　Ｃ７-Ａブロック石材別石器組成表 ……70
第18表　Ｂ９-Ａブロック母岩別石器組成表 ……73
第19表　Ｂ９-Ａブロック石材別石器組成表 ……73
第20表　Ｃ９-Ａブロック母岩別石器組成表 ……76
第21表　Ｃ９-Ａブロック石材別石器組成表 ……76
第22表　Ｄ10-Ａブロック母岩別石器組成表 ……81
第23表　Ｄ10-Ａブロック石材別石器組成表 ……81
第24表　Ｃ10-Ａブロック母岩別石器組成表 ……83
第25表　Ｃ10-Ａブロック石材別石器組成表 ……83
第26表　Ｅ９-Ｃブロック母岩別石器組成表 ……85
第27表　Ｅ９-Ｃブロック石材別石器組成表 ……85
第28表　Ｅ９-Ｃブロック礫組成表 ……86

第２文化層
第29表　Ｅ４-Ａブロック母岩別石器組成表 ……90
第30表　Ｅ４-Ａブロック石材別石器組成表 ……90
第31表　Ｅ４-Ｂブロック母岩別石器組成表 ……95
第32表　Ｅ４-Ｂブロック石材別石器組成表 ……95
第33表　Ｂ９-Ｃブロック母岩別石器組成表 ……98
第34表　Ｂ９-Ｃブロック石材別石器組成表 ……98
第35表　Ｄ10-Ｂブロック母岩別石器組成表 ……100
第36表　Ｄ10-Ｂブロック石材別石器組成表 ……100

第３文化層
第37表　Ｃ８-Ａブロック母岩別石器組成表 ……102
第38表　Ｃ８-Ａブロック石材別石器組成表 ……102
第39表　Ｂ９-Ｂブロック母岩別石器組成表 ……104
第40表　Ｂ９-Ｂブロック石材別石器組成表 ……104

第４文化層
第41表　Ｃ１-Ｃブロック母岩別石器組成表 ……108
第42表　Ｃ１-Ｃブロック石材別石器組成表 ……109
第43表　Ｃ１-Ｃブロック礫組成表 ……112
第44表　Ｃ１-Ｄブロック母岩別石器組成表 ……114
第45表　Ｃ１-Ｄブロック石材別石器組成表 ……114
第46表　Ｃ１-Ｄブロック礫組成表 ……115
第47表　Ｃ１-Ｅブロック母岩別石器組成表 ……118
第48表　Ｃ１-Ｅブロック石材別石器組成表 ……118

第49表　Ｃ１-Ｅブロック礫組成表 ……118
第50表　Ｃ１-Ｆブロック母岩別石器組成表 ……124
第51表　Ｃ１-Ｆブロック石材別石器組成表 ……124
第52表　Ｃ１-Ｆブロック礫組成表 ……124
第53表　Ｄ１-Ｂブロック母岩別石器組成表 ……131
第54表　Ｄ１-Ｂブロック石材別石器組成表 ……131
第55表　Ｄ１-Ｂブロック礫組成表 ……134
第56表　Ｃ２-Ｃブロック母岩別石器組成表 ……139
第57表　Ｃ２-Ｃブロック石材別石器組成表 ……139
第58表　Ｃ２-Ｃブロック礫組成表 ……139
第59表　Ｃ２-Ｄブロック母岩別石器組成表 ……142
第60表　Ｃ２-Ｄブロック石材別石器組成表 ……142
第61表　Ｃ２-Ｄブロック礫組成表 ……142
第62表　Ｄ２-Ａブロック母岩別石器組成表 ……144
第63表　Ｄ２-Ａブロック石材別石器組成表 ……144
第64表　Ｄ２-Ａブロック礫組成表 ……144
第65表　Ｄ２-Ｂブロック母岩別石器組成表 ……151
第66表　Ｄ２-Ｂブロック石材別石器組成表 ……151
第67表　Ｄ２-Ｂブロック礫組成表 ……151
第68表　Ｄ２-Ｃブロック母岩別石器組成表 ……156
第69表　Ｄ２-Ｃブロック石材別石器組成表 ……156
第70表　Ｄ２-Ｃブロック礫組成表 ……156
第71表　Ｅ６-Ａブロック母岩別石器組成表 ……161
第72表　Ｅ６-Ａブロック石材別石器組成表 ……161
第73表　Ｅ６-Ａブロック礫組成表 ……162
第74表　Ｄ７-Ａブロック母岩別石器組成表 ……164
第75表　Ｄ７-Ａブロック石材別石器組成表 ……164
第76表　Ｄ７-Ａブロック礫組成表 ……164
第77表　Ｅ７-Ａブロック母岩別石器組成表 ……172
第78表　Ｅ７-Ａブロック石材別石器組成表 ……172
第79表　Ｅ７-Ａブロック礫組成表 ……173
第80表　Ｅ７-Ｂブロック母岩別石器組成表 ……180
第81表　Ｅ７-Ｂブロック石材別石器組成表 ……180
第82表　Ｅ７-Ｂブロック礫組成表 ……180
第83表　Ｅ７-Ｃブロック母岩別石器組成表 ……185
第84表　Ｅ７-Ｃブロック石材別石器組成表 ……185
第85表　Ｅ７-Ｃブロック礫組成表 ……185
第86表　Ｅ８-Ａブロック母岩別石器組成表 …188
第87表　Ｅ８-Ａブロック石材別石器組成表 …188
第88表　Ｅ８-Ａブロック礫組成表 ……188
第89表　Ｅ８-Ｂブロック母岩別石器組成表 …189
第90表　Ｅ８-Ｂブロック石材別石器組成表 …189
第91表　Ｅ８-Ｂブロック礫組成表 ……189
第92表　Ｅ８-Ｃブロック母岩別石器組成表 …195
第93表　Ｅ８-Ｃブロック石材別石器組成表 …195
第94表　Ｅ８-Ｃブロック礫組成表 ……195
第95表　Ｅ８-Ｄブロック母岩別石器組成表 …199
第96表　Ｅ８-Ｄブロック石材別石器組成表 …199
第97表　Ｅ８-Ｄブロック礫組成表 ……199
第98表　Ｅ８-Ｅブロック礫組成表 ……201
第99表　Ｅ８-Ｆブロック母岩別石器組成表 …206
第100表　Ｅ８-Ｆブロック石材別石器組成表 …206
第101表　Ｅ８-Ｆブロック礫組成表 ……207
第102表　Ｅ８-Ｇブロック母岩別石器組成表 …212
第103表　Ｅ８-Ｇブロック石材別石器組成表 …212
第104表　Ｅ８-Ｇブロック礫組成表 ……212
第105表　Ｅ８-Ｈブロック母岩別石器組成表 …217
第106表　Ｅ８-Ｈブロック石材別石器組成表 …217
第107表　Ｅ８-Ｈブロック礫組成表 ……217
第108表　Ｅ９-Ａブロック母岩別石器組成表 …218
第109表　Ｅ９-Ａブロック石材別石器組成表 …219
第110表　Ｅ９-Ａブロック礫組成表 ……222
第111表　Ｅ９-Ｂブロック母岩別石器組成表 …231
第112表　Ｅ９-Ｂブロック石材別石器組成表 …231
第113表　Ｅ９-Ｂブロック礫組成表 ……231
第114表　Ｄ９-Ａブロック母岩別石器組成表 …236
第115表　Ｄ９-Ａブロック石材別石器組成表 …236
第116表　Ｄ９-Ａブロック礫組成表 ……237
第117表　Ｄ９-Ｂブロック母岩別石器組成表 …238
第118表　Ｄ９-Ｂブロック石材別石器組成表 …238
第119表　ブロック別礫分類 ……239
第120表　ブロック別礫遺存率 ……239
第121表　ブロック別母岩復元率 ……239

図 版 目 次

カラー図版

1．第１文化層出土遺物１
2．第１文化層出土遺物２
3．第１文化層出土遺物３
4．第１文化層出土遺物４
5．第１文化層出土遺物５
6．第１文化層出土遺物６・第２文化層出土遺物・第３文化層出土遺物
7．第４文化層出土遺物１
8．第４文化層出土遺物２
9．第４文化層出土遺物３
10．第４文化層出土遺物４・時期不明出土遺物・その他出土遺物
11．接合資料１
12．接合資料２
13．接合資料３
14．竪穴状遺構

図版

図版１　ナキノ台遺跡周辺航空写真（約1:10,000　昭和45年撮影）
図版２　土層断面，第１文化層遺物出土状況１
図版３　第１文化層遺物出土状況２
図版４　第１文化層遺物出土状況３
図版５　第１文化層遺物出土状況４，第２文化層遺物出土状況，第４文化層遺物出土状況１
図版６　第４文化層遺物出土状況２
図版７　第４文化層遺物出土状況３

第1章　はじめに

第1節　調査の概要

1　発掘調査の経緯

市原市と千葉市にまたがる台地上に，住宅・都市整備公団（現独立行政法人都市再生機構）による千原台地区土地区画整理事業が計画された。このため，千葉県教育委員会は，事業地内の用地内の埋蔵文化財の取扱いについて関係諸機関と協議した結果，現状保存が困難な部分については，やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなり，記録保存については，財団法人千葉県教育振興財団が委託を受けて発掘調査を実施することとなった。

今回報告するナキノ台遺跡の調査は，昭和57年度と昭和58年度に行われた。

本書はナキノ台遺跡から出土した旧石器時代（下層調査）を対象としたもので，発掘調査及び整理事業に関わる各年度の実施内容・担当者は以下のとおりである。

昭和57年度
　組　織　調査部長　白石竹雄，班長　三森俊彦
　担当者　調査研究員　小林清隆・上守秀明
　内　容　下層調査対象面積　21,000㎡
昭和58年度
　組　織　調査部長　白石竹雄，班長　三森俊彦
　担当者　調査研究員　上守秀明・渡邉修一
　内　容　下層調査対象面積　20,000㎡
平成16年度
　組　織　調査部長　矢戸三男，所長　谷　旬
　担当者　上席研究員　田島　新
　内　容　水洗・注記から素図作成の一部まで
平成17年度
　組　織　調査部長　矢戸三男，所長　谷　旬
　担当者　上席研究員　田島　新
　内　容　素図作成の一部から実測・トレースの一部まで
平成18年度
　組　織　調査研究部長　矢戸三男，所長　西川博孝
　担当者　上席研究員　蜂屋孝之・田島　新
　内　容　実測・トレースの一部から編集まで
平成19年度
　組　織　調査研究部長　矢戸三男，所長　折原　繁
　内　容　報告書刊行

2　調査の方法

発掘区の設定は，国家座標を基準として40m×40mの大グリッドを設け，この中を４m×４mの小グリッドに分割して行った。また，下層確認調査は，小グリッドをさらに４分割して２m×２mのグリッドを設定し，調査対象面積の４％を基本として武蔵野ローム層上面まで掘り下げた。

出土遺物は，４m×４mの小グリッドごとに１点ずつ取り上げた。

第２節　遺跡の位置と環境

1　遺跡の位置と地形

ナキノ台遺跡は，ちはら台ニュータウン造成地域の中心からやや東側，市原市ちはら台南４丁目13番地（旧押沼字水堀江592）ほかに所在し，千葉市街地からは東南へ12km，下総台地南部を西に向かって流れる村田川の河口からは７kmほど上流の右岸台地上に位置する。標高は，40m～50mの下総台地上位面である。

2　ナキノ台遺跡と周辺の遺跡（第１図，図版１）

ナキノ台遺跡からは，旧石器時代から奈良・平安時代にかけての各種遺構が検出された。主な遺構としては，旧石器時代各時期の石器ブロック，古墳時代の集落などである。

旧石器時代については，立川ローム層下部から上部に至る各層から約3,200点の石器・礫が出土しており，45か所のブロックを確認している。立川ローム層第２黒色帯から石斧12点や多量の焼礫を伴うⅣ層下部の石器群及び竪穴状遺構が発見されている。

ナキノ台遺跡は，ちはら台地区東部にあたり，村田川に沿って分布する旧石器時代の遺跡としては，草刈遺跡などとともに最も下流に位置する（第１図１）。ちはら台ニュータウン事業地内において旧石器時代石器群が出土した遺跡を，村田川を遡りながらあげてみると草刈遺跡（２），草刈六之台遺跡（３），中永谷遺跡（４），川焼台遺跡（５），鶴牧遺跡（６），鶴牧古墳群（７），ばあ山遺跡（８），野馬堀遺跡（９）が並ぶ。ちはら台地区北東部端には押沼遺跡群（10～12）がある。

草刈遺跡では，武蔵野ローム層Ⅺ層から立川ローム層Ⅲ層にかけて７枚の文化層が確認された。最も古い第１文化層は，武蔵野ローム層Ⅺ層から立川ローム層Ⅹ層最下部にかけて出土した県内最古の石器群である。第２文化層は，Ⅹ層から出土した石器群で，嶺岡産珪質頁岩の台形石器や楔形石器などに石斧が伴っている。第３文化層は，Ⅸ層下部から出土した石器群で，嶺岡産珪質頁岩の台形石器に石斧が伴う。第４文化層は，Ⅶ層からⅨ層上部にかけて出土した石器群で，最も多くのブロックが検出されている。房総半島南部産の石材による不定型な剥片石器群を主体とし，これに遠隔地石材による石刃石器群が搬入品として存在する。この文化層は出土層位の差などから２～３時期に細分される可能性が指摘されている。第５文化層は，Ⅶ層上部からⅥ層にかけて出土した石器群で，３種類のブロックが存在する。①東北産頁岩による石刃石器群，②東北産と推定される頁岩と信州産黒曜石による小型の石刃石器群及び不定型な剥片石器群，③房総半島南部産と推定される石材による不定型な剥片石器群である。これらは，概ね同時期に帰属すると考えられている。第６文化層はハードローム層最上部からソフトローム層下部にかけて出土した石器群で，武蔵野台地におけるⅣ層下部の石器群に対応するものと考えられている。信州産黒曜石，房総半島南部産の石材，上総丘陵砂礫層の石材などによるナイフ形石器や角錐状石器などの石器類を主体とするブロックと焼け礫を主体として少量の石器をもつブロックがある。第７文化層はソフトローム層から

出土した槍先形石器を指標とする石器群などが出土しており，特異な剥片剥離技術を伴っている。また，３時期の時間差が想定されている。

草刈六之台遺跡では，立川ローム層Ⅹ層からⅢ層にかけて７枚の文化層が確認されたが，Ⅵ層以下の資料が充実している。とくにⅩ層，Ⅸ層下部，Ⅸ層上部で確認した３枚の文化層からは，それぞれ刃部磨製石斧を含む石器群が出土している。さらにⅨ層下部では神津島産黒曜石による大型の台形石器，Ⅸ層上部では信州産黒曜石を主体とする石刃石器群に刃部磨製石斧とともに石斧用の砥石が伴っており，草刈遺跡との関係が想定される。

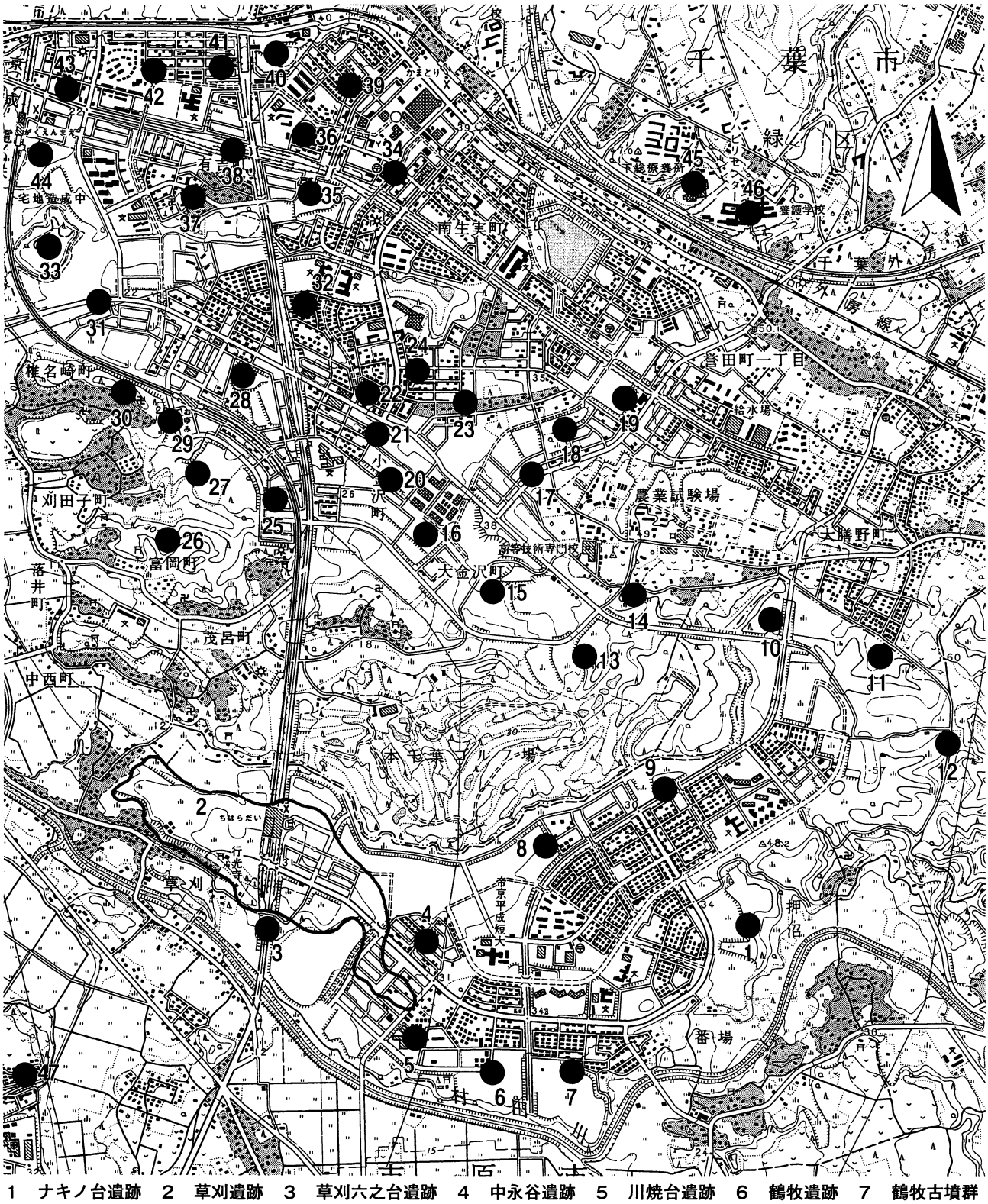
中永谷遺跡では立川ローム層Ⅶ層とⅣ層下部の資料が中心である。野馬堀遺跡ではⅩ層，Ⅳ層，Ⅲ層から剥片類が，ばあ山遺跡ではⅥ層から剥片，上層遺構等から石刃，信州産と推定される黒曜石による槍先形石器が出土している。

押沼大六天遺跡では，立川ローム層Ⅸ層からⅢ層にかけて，帰属時期不明の文化層を含め，５枚の文化層が確認され，Ⅸ層下部からⅨ層上部とⅣ層下部で多くのブロックが検出されている。最も古い第１文化層は，Ⅸ層下部から上部にかけて出土した石器群で，最も多くのブロックが検出されている。①定型的な石器が見られない石器群，②小型の台形石器を伴う石器群，③凝灰岩，北関東産頁岩，瑪瑙・玉髄，安山岩などによる刃部磨製石斧を伴う石刃石器群，④嶺岡産頁岩，安山岩，流紋岩，ホルンフェルスなどによる台形石器や刃部磨製石斧などを伴う石器群である。この文化層は出土層位の差などから２～３時期に細分される可能性がある。第２文化層はハードローム層最上部を中心として出土した石器群で，武蔵野台地におけるⅤ層ないしⅣ層下部の石器群に対応するものと考えられる。栃木県高原山産黒曜石，北関東産頁岩，瑪瑙・玉髄などによるナイフ形石器などの石器類を主体とするブロックと焼け礫を主体として少量の石器をもつブロックがある。第３文化層はソフトローム層から出土した石器群で，武蔵野台地におけるⅣ層上部の砂川期の石器群に対応するものと考えられる。嶺岡産頁岩，チャート，凝灰岩，ホルンフェルスなどによる石刃の生産からナイフ形石器を中心とした石器の生産に関係する石器群である。第４文化層はソフトローム層から出土した槍先形石器を伴う旧石器時代終末期の石器群である。２時期に細分される可能性がある。

また，整理作業が未了のため詳細は不明であるが，押沼遺跡群の中では，押沼大六天遺跡に隣接する押沼第１遺跡Ｇ地点や押沼第２遺跡で印西市木刈峠遺跡１・７・24ユニットや八千代市権現後遺跡第４文化層などに代表されるⅥ層石器群，さらに押沼第２遺跡では黒曜石や珪質頁岩による野岳・休場型細石刃核を指標とする細石刃石器群が出土している。

草刈遺跡の北側では，東南部ニュータウン事業地内を中心に旧石器時代の石器群が確認されている。大規模な遺跡は少ないが，一地域全体の様子を窺うことのできる貴重な資料である。以下，出土層位ごとに概観する。

Ⅹ層の資料は，はっきりしないが，高沢遺跡（42）ではⅩ層上部からⅨ層下部で楔形石器，刃部磨製石斧に関係すると考えられる剥片を利用した加工痕ある剥片，小型の剥片類による小規模なブロックが検出されている。石材は半数が良質の黒曜石（信州産か）で，このほか玉髄，凝灰岩，頁岩がある。Ⅸ層の資料は多くの遺跡で出土している。白鳥台遺跡（19）では安山岩製の楔形石器，剥片類に軟質砂岩による石斧用の砥石が伴っている。城ノ台遺跡（33）でも安山岩製の楔形石器を中心とする石器群が出土している。鎌取遺跡（39）では安山岩による台形石器を主体とする石器群と頁岩製の石刃石器群がブロックを違えて



1　ナキノ台遺跡　2　草刈遺跡　3　草刈六之台遺跡　4　中永谷遺跡　5　川焼台遺跡　6　鶴牧遺跡　7　鶴牧古墳群　8　ばあ山遺跡　9　野馬堀遺跡　10　押沼大六天遺跡　11　押沼第１遺跡　12　押沼第２遺跡　13　バクチ穴遺跡　14　大膳野南貝塚　15　太田法師遺跡　16　ムコアラク遺跡　17　六通金山遺跡　18　六通神社南遺跡　19　白鳥台遺跡　20　御塚台遺跡　21　小金沢古墳群　22　小金沢貝塚　23　六通貝塚　24　六通遺跡　25　神明社裏遺跡　26　春日作遺跡　27　椎名崎古墳群Ｃ支群　28　椎名崎古墳群Ｂ支群　29　今台遺跡　30　椎名神社遺跡　31　椎名崎遺跡　32　木戸作遺跡　33　城ノ台遺跡　34　馬ノ口遺跡　35　有吉南貝塚　36　有吉北貝塚　37　有吉城跡　38　有吉南遺跡　39　鎌取遺跡　40　鎌取場台遺跡　41　南二重堀遺跡　42　高沢遺跡　43　有吉遺跡　44　上赤塚遺跡　45　辺田山谷遺跡　46　コロニー内遺跡　47　大厩遺跡

第１図　ナキノ台遺跡周辺の旧石器時代遺跡（1：25,000）

出土している。小金沢貝塚（22），馬ノ口遺跡（34）でも台形石器を含む石器群がある。有吉城跡（37）では石斧が数点出土しているが，頻繁な刃部再生の後，楔形石器や石核に転用されている。六通金山遺跡（17）でも刃部磨製石斧が出土している。神明社裏遺跡（25）では６枚の文化層から37か所のブロックが検出されているが，出土層準などで重複が見られることから，文化層の再編も示唆されている。第２黒色帯下半部の上層を中心に出土した石器群が主体である。

Ⅳ層では，バクチ穴遺跡（13）で高原山産と考えられる黒曜石や珪質頁岩を中心とする切出形のナイフ形石器，角錐状石器，掻器の一群があり，類例は鎌取遺跡，小金沢古墳群（21），有吉遺跡（43）などでも出土している。小金沢古墳群，鎌取場台遺跡（40）では礫群も見られる。

Ⅲ層には複数時期の石器群があるが，有吉遺跡（第４次調査）からは，旧石器時代終末期に帰属する細身の木葉形をした槍先形石器のブロックがある。同時期の資料は小金沢古墳群にもあり，槍先形石器を製作したブロックとして注目される。ムコアラク遺跡（16）では，樋状剥離をもつ槍先形石器がある。

細石刃石器群の出土は乏しいが，春日作遺跡（26）からは県南嶺岡産の珪質頁岩と信州産黒曜石による細石刃石器群がある。細石刃核は得られていない。また，椎名崎古墳群Ｂ支群（28）でも古墳の墳丘下から黒曜石による野岳・休場型細石刃核を指標とする細石刃石器群が出土している。

六通神社南遺跡（18）では土器出現期に帰属する大型の槍先形石器がまとまっており，石器石材の原産地推定分析によると奈良県二上山のサヌカイトや岐阜県の下呂石が含まれている。また，東南部ニュータウン北東に隣接する辺田山谷遺跡（45）では，富里市南大溜袋遺跡に代表される狭長な槍先形石器が散見される。

東南部ニュータウンでは，このほかにも，太田法師遺跡（15）で多数の旧石器時代資料が出土しているが，整理作業が未了のため詳細は不明である。

千原台ニュータウン関連文献

（財）千葉県文化財センター　1980　『千原台ニュータウンⅠ（野馬堀遺跡・ばあ山遺跡・他）』
（財）千葉県文化財センター　1983　『千原台ニュータウンⅡ　草刈遺跡Ａ区（第１次調査）　鶴牧古墳群・人形塚』
（財）千葉県文化財センター　1986　『千原台ニュータウンⅢ　草刈遺跡（Ｂ区）』
（財）千葉県文化財センター　1991　『千原台ニュータウンⅣ　中永谷遺跡』
（財）千葉県文化財センター　1994　『千原台ニュータウンⅥ　－草刈六之台遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　2003　『千原台ニュータウンⅧ　－市原市草刈遺跡（東部地区縄文時代）－』
（財）千葉県文化財センター　2003　『千原台ニュータウンⅨ　－市原市押沼第１・第２遺跡（上層）－』
（財）千葉県文化財センター　2004　『千原台ニュータウンⅩ　－市原市草刈遺跡（東部地区旧石器時代）－』
（財）千葉県文化財センター　2005　『千原台ニュータウンⅫ　－市原市草刈遺跡（西部地区旧石器時代）－』
（財）千葉県文化財センター　2006　『千原台ニュータウンⅩⅤ　－市原市押沼大六天遺跡（下層）－』

千葉東南部ニュータウン関連文献

（財）千葉県文化財センター　1979　『千葉東南部ニュータウン６　－椎名崎遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1979　『千葉東南部ニュータウン７　－木戸作遺跡（第２次）－』

（財）千葉県文化財センター　1979　『千葉東南部ニュータウン８　－ムコアラク遺跡・小金沢古墳群－』
（財）千葉県文化財センター　1980　『千葉東南部ニュータウン９　－六通遺跡・御塚台遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1982　『千葉東南部ニュータウン10　－小金沢貝塚－』
（財）千葉県文化財センター　1981　『千葉東南部ニュータウン11　－六通金山遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1983　『千葉東南部ニュータウン12　－南二重堀遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1983　『千葉東南部ニュータウン14　－バクチ穴遺跡・有吉遺跡（第３次）・有吉南遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1984　『千葉東南部ニュータウン15　－馬ノ口遺跡・有吉城跡・白鳥台遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1990　『千葉東南部ニュータウン17　－高沢遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1993　『千葉東南部ニュータウン18　－鎌取遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1998　『千葉東南部ニュータウン19　－千葉市有吉北貝塚１－』
（財）千葉県文化財センター　1999　『千葉東南部ニュータウン21　－有吉遺跡（第４次）・高沢古墳群－』
（財）千葉県文化財センター　1999　『千葉東南部ニュータウン22　－鎌取場台－』
（財）千葉県文化財センター　2003　『千葉東南部ニュータウン26　－千葉市椎名神社遺跡・古城小弓遺跡・六通神社南遺跡・御塚台遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　2003　『千葉東南部ニュータウン27　－千葉市春日作遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　2004　『千葉東南部ニュータウン29　－千葉市バクチ穴遺跡・大膳野南貝塚・有吉城跡２（旧石器時代）－』
（財）千葉県文化財センター　2005　『千葉東南部ニュータウン32　－千葉市小金沢古墳群２－』
（財）千葉県文化財センター　2006　『千葉東南部ニュータウン34　－千葉市城ノ台遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　2006　『千葉東南部ニュータウン35　－千葉市椎名崎古墳群Ｂ支群－』
（財）千葉県文化財センター　2006　『千葉東南部ニュータウン36　－千葉市神明社裏遺跡１（旧石器時代）－』

第３節　基本土層

本遺跡における立川ローム層の堆積状況は，下総台地で広く観察される基本層序と共通する。千葉市から市原市にかけての東京湾岸地域では不明瞭なことが多い第２黒色帯下部中の間層（Ⅸb層）が確認されており，当地域の中では比較的良好な堆積状況を示している。立川ローム層の厚さは，薄いところで1.1m，南側の厚いところで1.6mあり，概ね1.2mである。

Ⅲ層：軟質ロームで，厚さは30cm～60cmである。

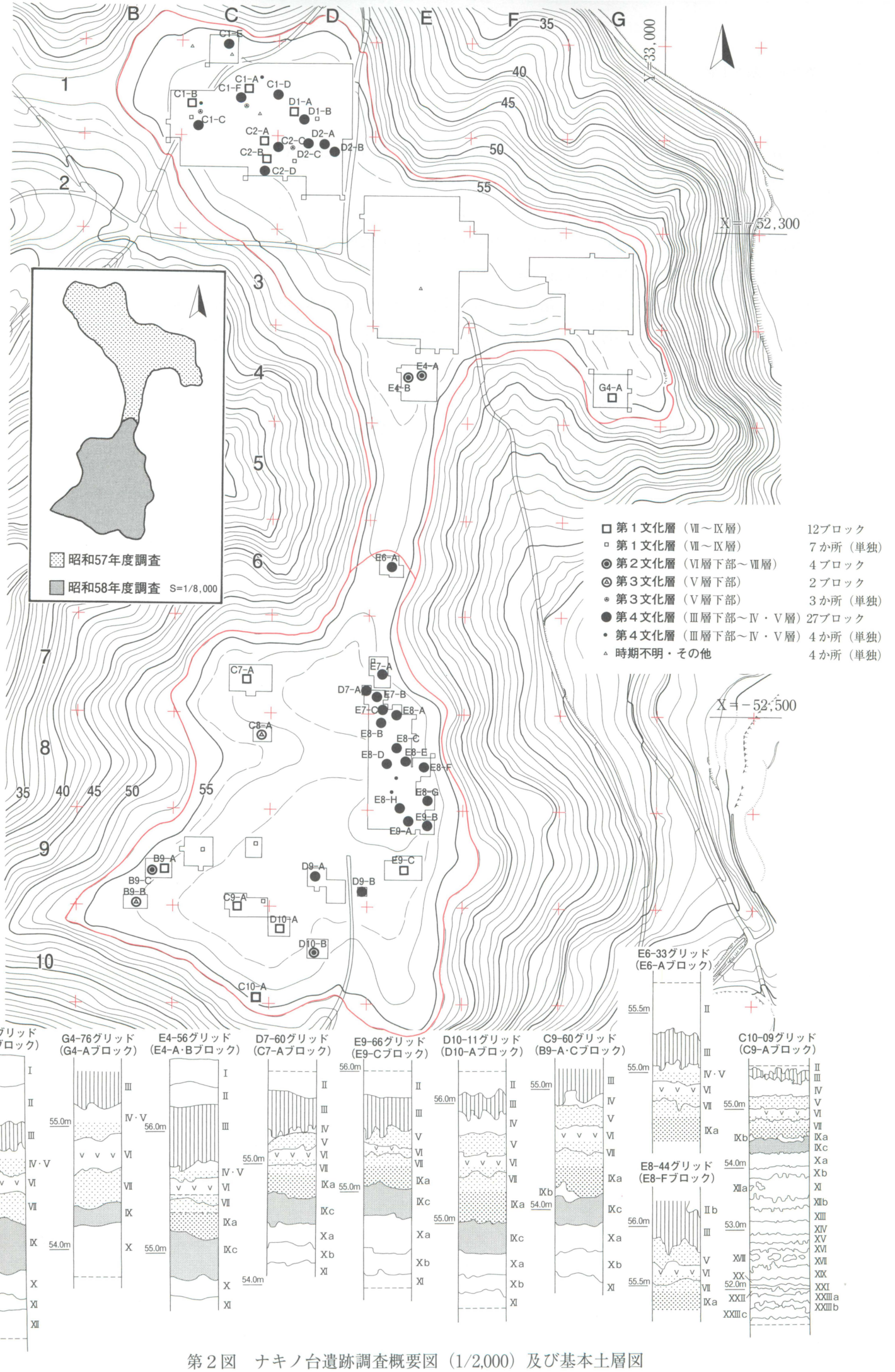
Ⅳ層：硬質ロームである。武蔵野台地のⅣ層上部に相当する層は軟質化してⅢ層に取り込まれており，本層は武蔵野台地Ⅳ層下部に対応すると考えられる。厚さは５cm～20cmである。

Ⅴ層：硬質ロームで，第１黒色帯に相当する。厚さは５cm～20cmほどである。

Ⅵ層：明褐色～黄褐色の硬質ロームで，黒色粒と火山ガラスによって構成されるＡＴ（姶良丹沢火山層）のブロックがまとまっている。厚さは５cm～25cmである。

Ⅶ層：硬質ロームで，第２黒色帯上半部に相当する。ＡＴが細かく拡散しており，あまり暗い色調ではない。厚さは10cm～35cmである。

Ⅸ層：硬質ロームで，第２黒色帯下半部である。調査当時は単一の土層として認識されていたり，Ⅶa層（現



第２図　ナキノ台遺跡調査概要図（1/2,000）及び基本土層図

在のⅦ層下部とⅨa層），Ⅶb層（現在のⅨb層），Ⅶc層（現在のⅨc層）に区分されたりしている。整理作業の中で細分可能な場合は，以下のとおりとした。

Ⅸa層：褐色の硬質ローム層で，第２黒色帯下半部の上層にあたる。厚さは15cm～30cmである。

Ⅸb層：褐色の硬質ローム層で，第２黒色帯下半部中の間層である。安定した土層ではないが，一部の調査区で確認できた。厚さは５cm～10cmである。

Ⅸc層：暗褐色の硬質ローム層で，第２黒色帯下半部の下層にあたる。厚さは20cm～30cmである。

Ⅹ層：明褐色～暗黄褐色の硬質ローム層である。厚さは15cm～50cmである。さらに２枚に分層される地点もある。

Ⅺ層：青褐色～暗灰褐色の硬質ローム層で，Ⅹ層との境界は波状をなし，不整合になっており，やや軟質である。武蔵野ローム層最上部と考えられる。厚さは15cm～20cmである。

第２章　旧石器時代

第１節　調査成果の概要

ナキノ台遺跡では，旧石器時代（下層）調査を昭和57年度と昭和58年度に実施した。調査区の位置は，押沼遺跡群の西端にあたり，西側と南側は，千葉市と市原市とを画する茂呂谷津に面している。

昭和57年度については，21,000㎡を調査対象として，４％を基本に確認調査を行い，その結果に基づいて7,314㎡の本調査を行った。

昭和58年度については，20,000㎡を調査対象として，４％を基本に確認調査を行い，その結果に基づいて2,608㎡の本調査を行った。

調査の結果，ブロック45か所と単独出土地点14か所，竪穴状遺構１基，焼土遺構１基，土坑１基，炭化物集中地点６か所を検出した（第２・３図）。本遺跡における45か所のブロックは以下のとおり，調査時の所見なども勘案して，４枚の文化層に区分した。

第１文化層は，立川ローム層第２黒色帯（Ⅶ層～Ⅸ層）を中心に包含される石器群で，石器476点，礫20点が12か所のブロック（C1-A・B，D1-A，C2-A・B，G4-A，C7-A，B9-A，C9-A，D10-A，C10-A，E9-Cブロック）と７か所の単独出土地点から出土した。本文化層は，出土層位に幅があり，石器群の内容も一様ではないことから，２～３時期に細分される可能性もある。また，E4-04・05グリッドでは焼土遺構が検出されている。さらに，C9-48グリッドでは土坑が検出されており，後述する炭化物集中地点のC-１と重複している。他に，炭化物集中地点（C-１～C-６）が６か所検出されている。

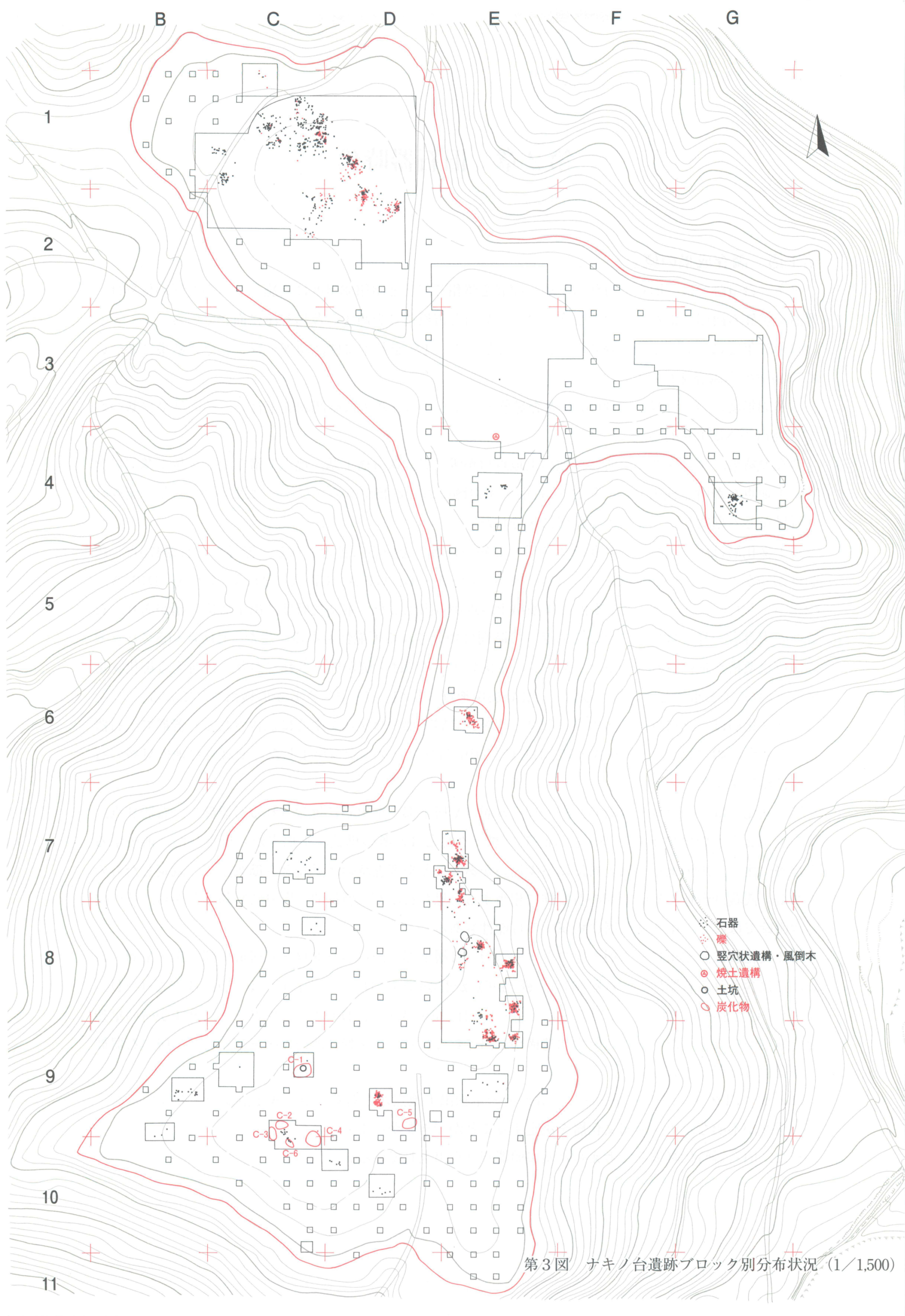
第２文化層は，立川ローム層のハードローム層（Ⅵ層下部～Ⅶ層）を中心に包含される石器群で，石器42点が４か所のブロック（E4-A・B，B9-C，D10-Bブロック）から出土した。武蔵野台地のⅥ層の石器群に相当すると考えられる。

第３文化層は，立川ローム層のハードローム層（Ⅴ層下部）を中心に包含される石器群で，石器９点，礫１点が２か所のブロック（C8-A，B9-Bブロック）と３か所の単独出土地点から出土した。前後する文化層に比べ，出土地点・出土層位に多少違いがあることや調査時の所見なども勘案して，設定したものである。武蔵野台地のⅤ層下部の石器群に相当すると思われるが，層位的・資料的制約などから，その内容は明確ではなく，第４文化層に帰属する可能性もある。

第４文化層は，立川ローム層のソフトローム層（Ⅲ層下部）からハードローム層最上部（Ⅳ・Ⅴ層）にかけて包含される石器群で，石器463点，礫2,146点が27か所のブロック（C1-C～F，D1-B，C2-C・D，D2-A～C，E6-A，D7-A，E7-A～C，E8-A～H，E9-A・B，D9-A・Bブロック）と４か所の単独出土地点から出土した。他に，竪穴状遺構が検出されている。武蔵野台地のⅣ層下部ないしⅤ層の石器群に相当すると考えられる。

この他，C1グリッドの表採を除く，３か所の単独出土地点から石器４点，礫１点が出土しているが，出土層準が不明なため，帰属文化層を決定することができなかった。

また，旧石器時代終末期と考えられる尖頭器が２点出土している。



第３図　ナキノ台遺跡ブロック別分布状況（1／1,500）

第2節　第1文化層

第1文化層は，立川ローム層第2黒色帯(Ⅶ～Ⅸ層)を中心に包含されている石器群である。C1-A・B，D1-A，C2-A・B，G4-A，C7-A，B9-A，C9-A，D10-A，C10-A，E9-Cブロックの12か所が該当する。

なお，出土層位や石器群の内容等が一様ではないことから，2～3時期に細分される可能性もあるが，C1-A，D1-Aブロックにはブロック間に接合関係，これら及びC1-B，C2-Aブロックにはブロック間に母岩の共有関係があることから同時期と考えられる。他に，単独出土地点7か所，焼土遺構1基，土坑1基，炭化物集中地点6か所を検出した。

1　C1-Aブロック（第4～24図，第1～3表，カラー図版1～3・11，図版2）

1）ブロックの概要

C1-Aブロックは，調査範囲北側のC1-27・28・34～39・44～49・54～59・65～69・78・79，D1-30・40・50・60・70グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸27m，短軸21mの範囲に286点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅶ層からⅩ層にかけて，110cmほどの高低差をもっているが，中心はⅨ層で，50cmほどの高低差をもって包含されている（第4～12図）。

ブロックは，ナイフ形石器6点，台形石器4点，掻器1点，削器3点，楔形石器6点（5個体），加工痕ある剥片14点(13個体)，使用痕ある剥片35点(31個体)，石刃8点，局部磨製石斧8点，剥片156点(154個体)，砕片13点，石核17点，原石1点の合計272点（264個体）と礫14点で構成される。石器石材は，黒曜石A7点（6個体），黒曜石G4点（2個体），安山岩28点，軟質の安山岩27点，流紋岩3点，頁岩B21点，頁岩C88点（87個体），頁岩D11点，頁岩E8点，チャート29点（27個体），凝灰岩11点，砂岩6点，ホルンフェルス18点(17個体)，瑪瑙・玉髄11点(10個体)である。礫石材は，安山岩3点（2母岩;4.4g），チャート2点（2母岩；30.0g），凝灰岩3点（3母岩；174.4g），砂岩4点（3母岩；57.9g），ホルンフェルス1点（1母岩；120.9g），蛇紋岩1点（1母岩；112.8g）で，識別率は100%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは140母岩を識別した。内訳は，黒曜石A5母岩（C1-1～3・151，D1-1），黒曜石G1母岩（C1-4），安山岩11母岩（C1-5～15），軟質の安山岩8母岩（C1-16～23），流紋岩3母岩（C1-25～27），頁岩B16母岩（C1-28～43），頁岩C40母岩（C1-44～83），頁岩D10母岩（C1-84～92・150），頁岩E7母岩（C1-93～99），チャート15母岩（C1-100～111・113～115），凝灰岩7母岩（C1-116～122），砂岩6母岩（C1-123～128），ホルンフェルス5母岩（C1-129・131・132・134・135），瑪瑙・玉髄6母岩（C1-137～142）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は97%（264/272点）である。

・**C1-1**：漆黒色不透明の黒曜石である。φ2㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，砕片1点の合計2点（44.7g）である。接合資料は，使用痕ある剥片1点，砕片1点の合計2点（44.7g）である。

・**C1-2**：自然面は紙ヤスリ状で褐灰色（10YR6/1），内部は黒色不透明の黒曜石である。φ1㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。本ブロックでは剥片1点（20.0g）の単独資料であるが，その他に同一母岩がD1-Aブロックに1点ある。

・C1-３：黒色不透明の黒曜石である。黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。使用痕ある剥片１点（10.5ｇ）の単独資料である。

・C1-４：内部は黒色と灰色が縞状に入り，節理は灰色（10Y5/1）の黒曜石である。産地は不明である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片３点（１個体），剥片１点の合計４点（２個体；15.9ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片３点（１個体；15.2ｇ）である。

・C1-５：内部はオリーブ灰色（5GY6/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片10点，砕片２点の合計12点（98.9ｇ）である。接合資料は，剥片２点（31.0ｇ）である。

・C1-６：自然面は爪形の裂痕が密でにぶい黄色（2.5Y6/3），内部は灰色（5Y6/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片３点（13.1ｇ）である。

・C1-７：内部は灰オリーブ色（5Y5/3）・灰色（5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片３点，砕片１点の合計４点（19.1ｇ）である。

・C1-８：灰色（5Y5/1）の安山岩である。使用痕ある剥片１点（6.5ｇ）の単独資料である。

・C1-９：内部は黄灰色（2.5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。使用痕ある剥片１点（16.6ｇ）の単独資料である。

・C1-10：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰色（5Y5/1）の安山岩である。使用痕ある剥片１点（12.9ｇ）の単独資料である。

・C1-11：灰オリーブ色（5Y6/2）の安山岩である。加工痕ある剥片１点（4.7ｇ）の単独資料である。

・C1-12：自然面は爪形の裂痕が密で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y6/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石核１点（22.7ｇ）の単独資料である。

・C1-13：自然面は爪形の裂痕が密で黄灰色（2.5Y6/1），内部は黄灰色（5Y5/1）の安山岩である。剥片１点（40.5ｇ）の単独資料である。

・C1-14：自然面は爪形の裂痕が密で黄褐色（2.5Y5/3），内部は暗灰黄色（5Y5/2）の安山岩である。剥片１点（1.2ｇ）の単独資料である。

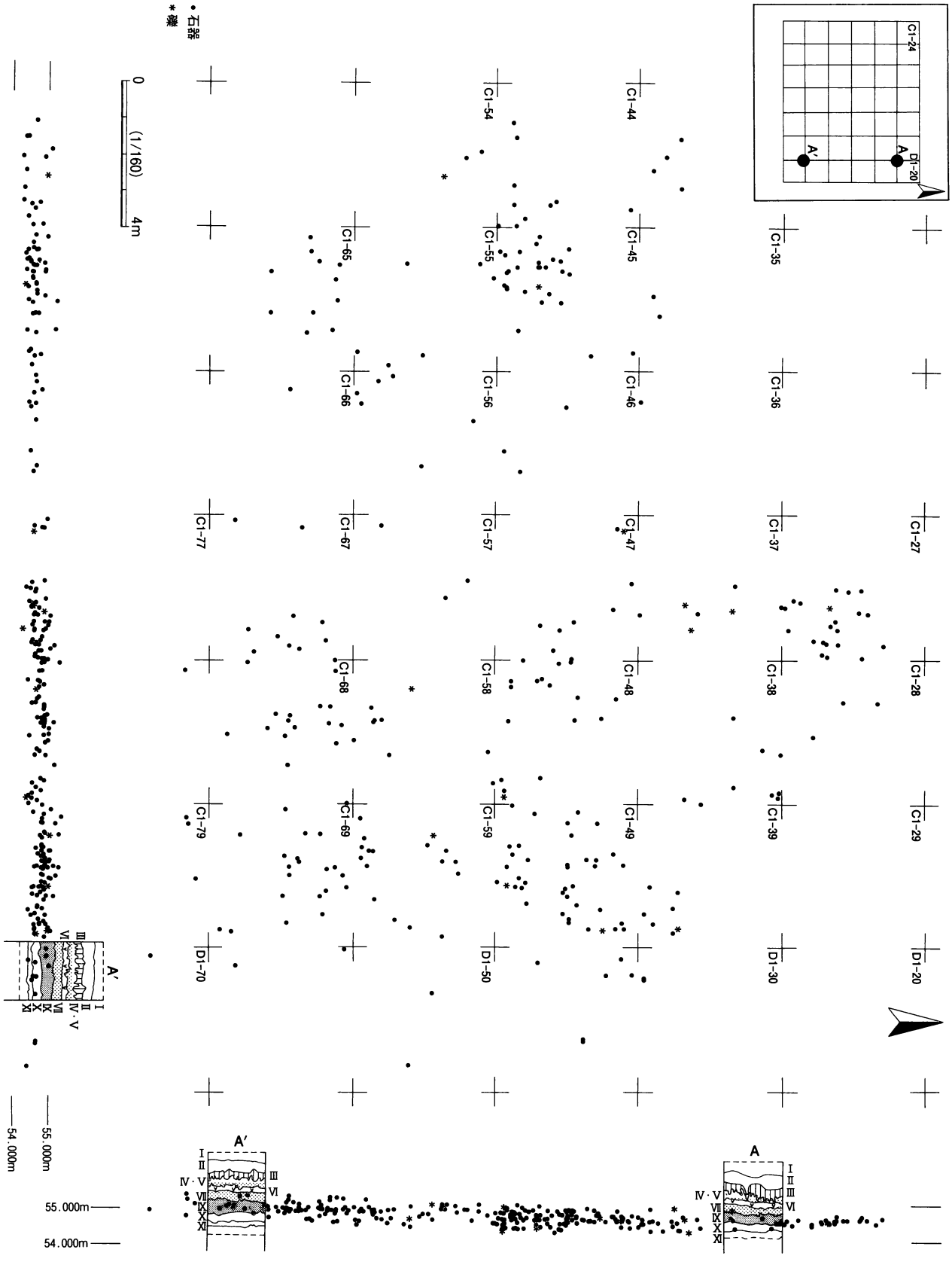
・C1-15：自然面は浅いクレーター状で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石核１点（51.3ｇ）の単独資料である。

・C1-16：自然面は平滑でオリーブ黄色（5Y6/3）・にぶい黄色（2.5Y6/4），内部は灰色（7.5Y6/1），新鮮な面は灰色（N5/0）の軟質の安山岩である。石器群の内訳は，剥片８点，石核１点の合計９点（104.8ｇ）である。接合資料は，剥片２点，石核１点の合計３点（81.6ｇ）である。その他に同一母岩がD1-Ａブロックに１点ある。

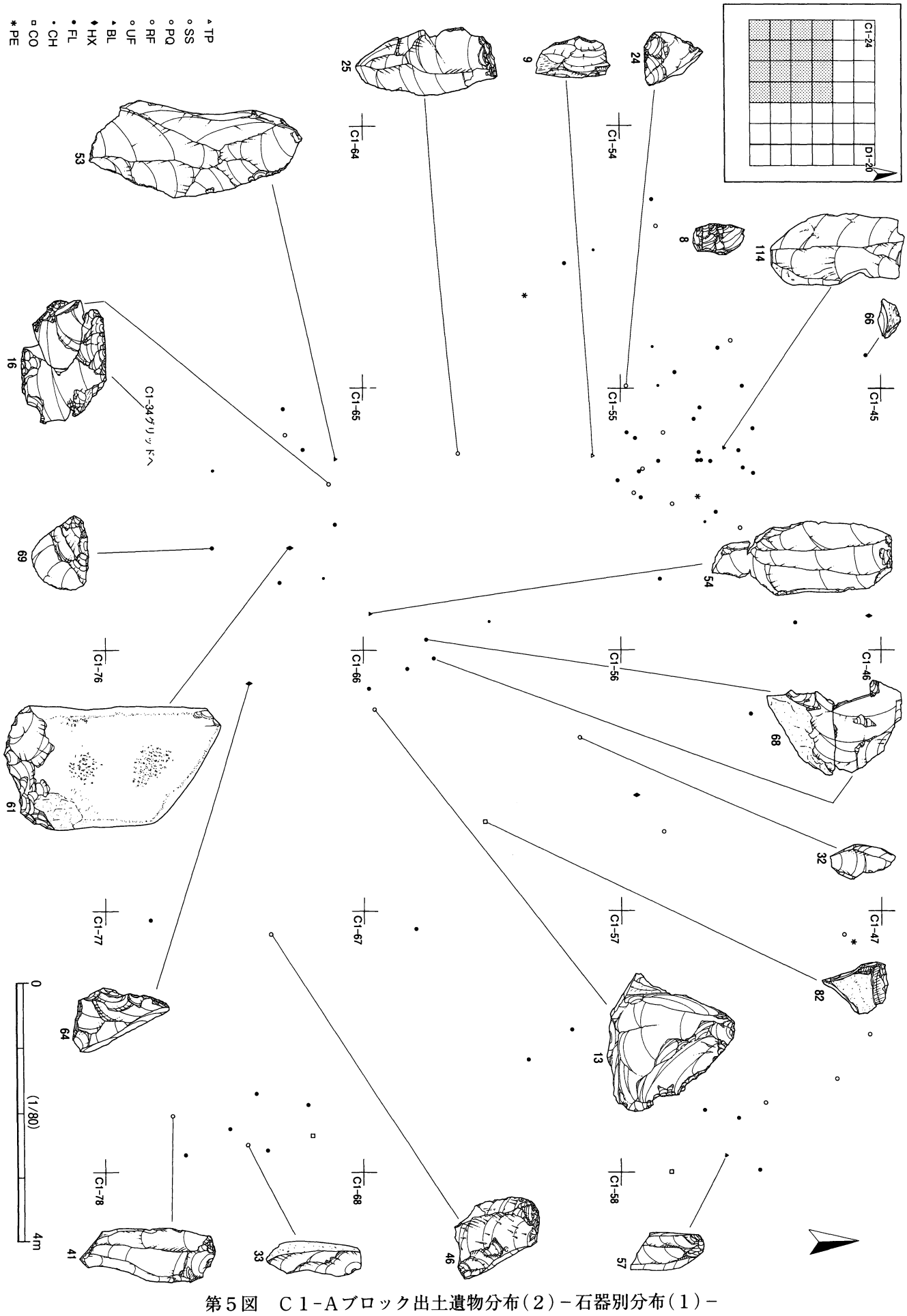
・C1-17：自然面は平滑で灰白色（7.5Y7/1），内部は灰白色（7.5Y7/1）の地に灰白色（5Y8/1）が部分的に混じり，新鮮な面は灰色（7.5Y5/1）の軟質の安山岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，加工痕ある剥片１点，石刃２点，剥片３点の合計７点（67.6ｇ）である。接合資料は，ナイフ形石器１点，加工痕ある剥片１点，石刃１点の合計３点（33.6ｇ）である。

・C1-18：自然面は平滑で暗灰黄色（2.5Y5/2），灰オリーブ色（5Y6/2），内部は灰白色（5Y7/1），新鮮な面は灰色（5Y5/1）の軟質の安山岩である。石器群の内訳は，剥片５点（48.8ｇ）である。接合資料は，剥片２点（4.1ｇ）である。

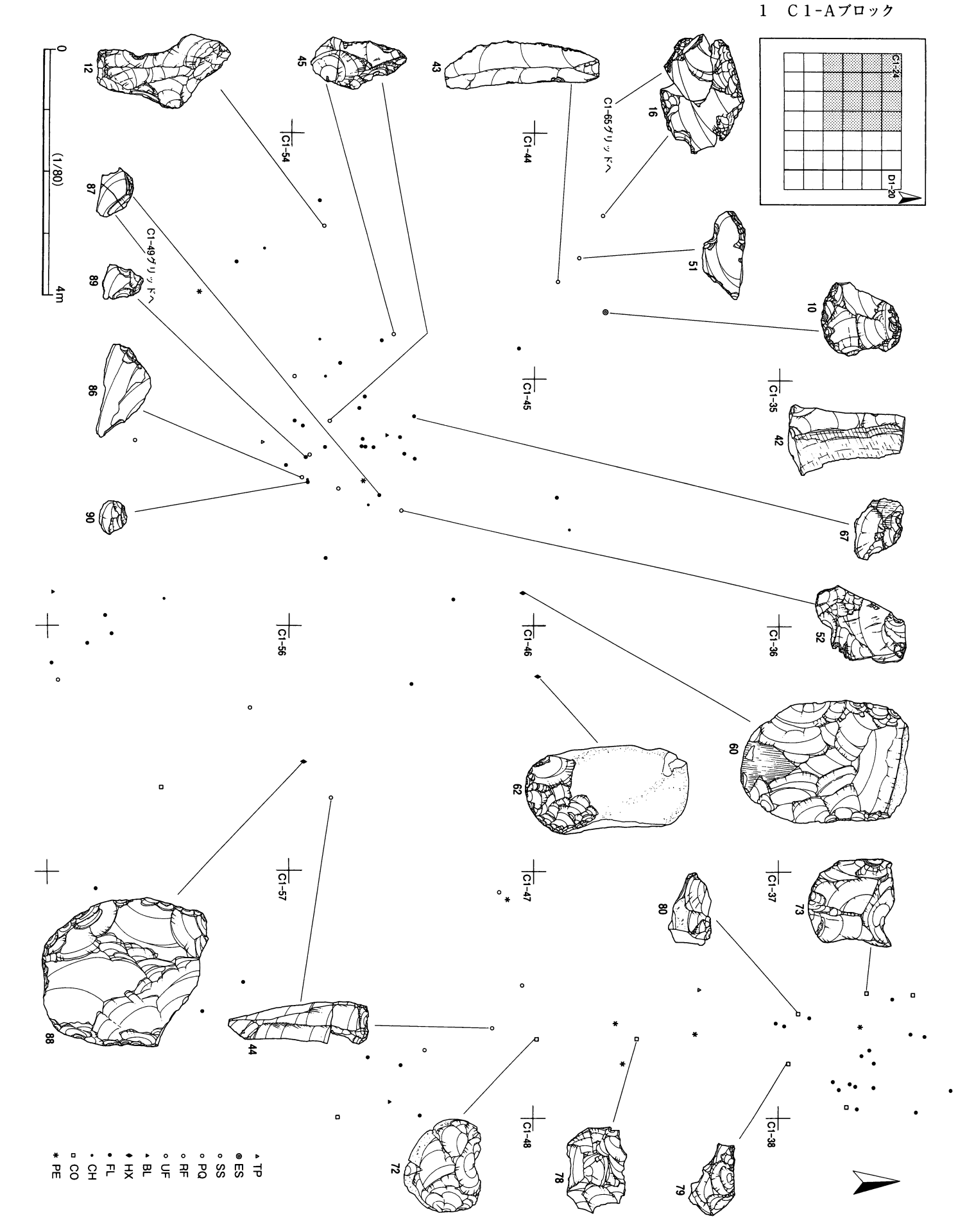
・C1-19：自然面は平滑で黄褐色（2.5Y5/3），内部は灰白色（N8/0），新鮮な面は灰色（N6/0）の軟質の



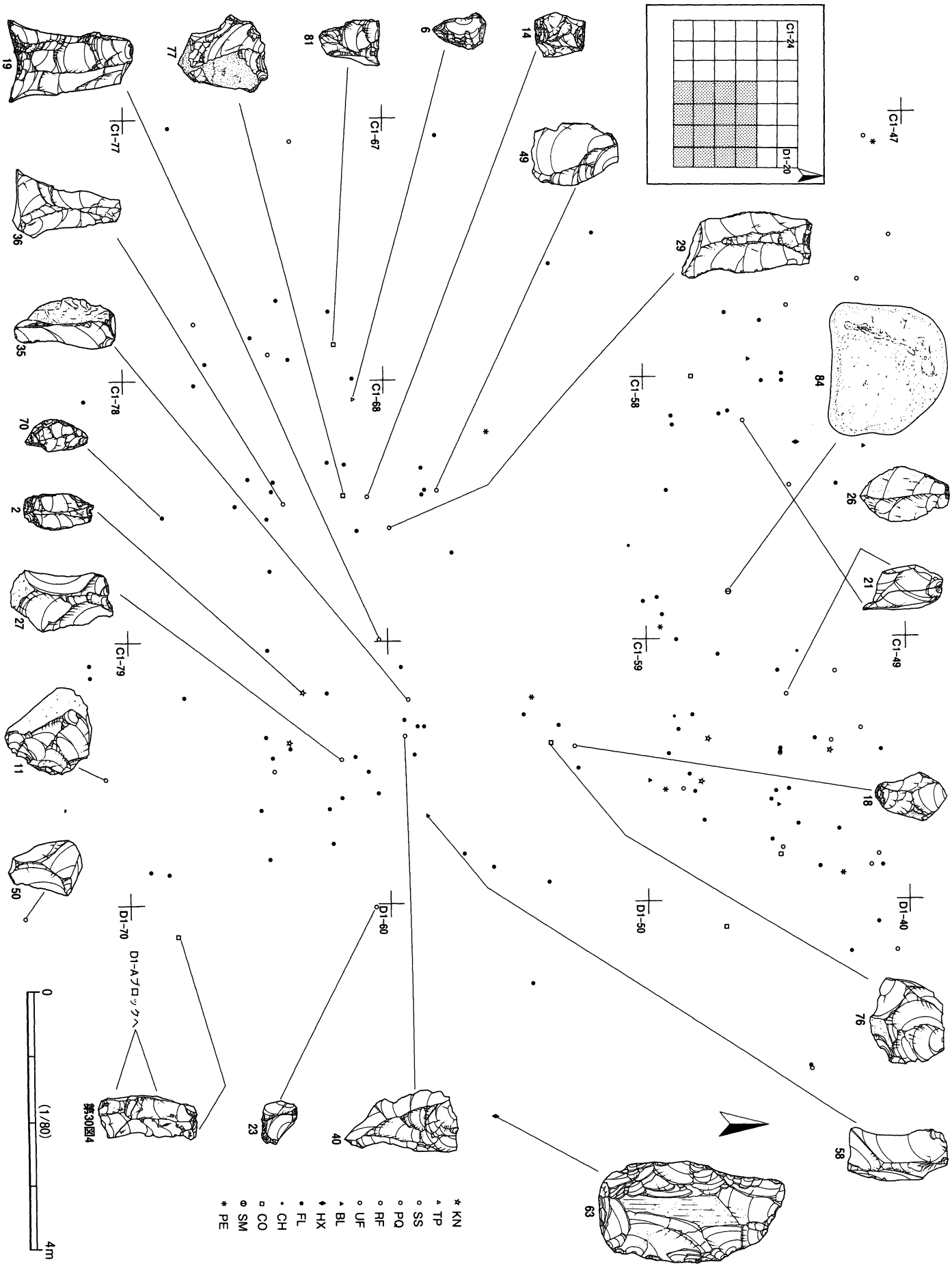
第４図　Ｃ１-Ａブロック出土遺物分布（１）



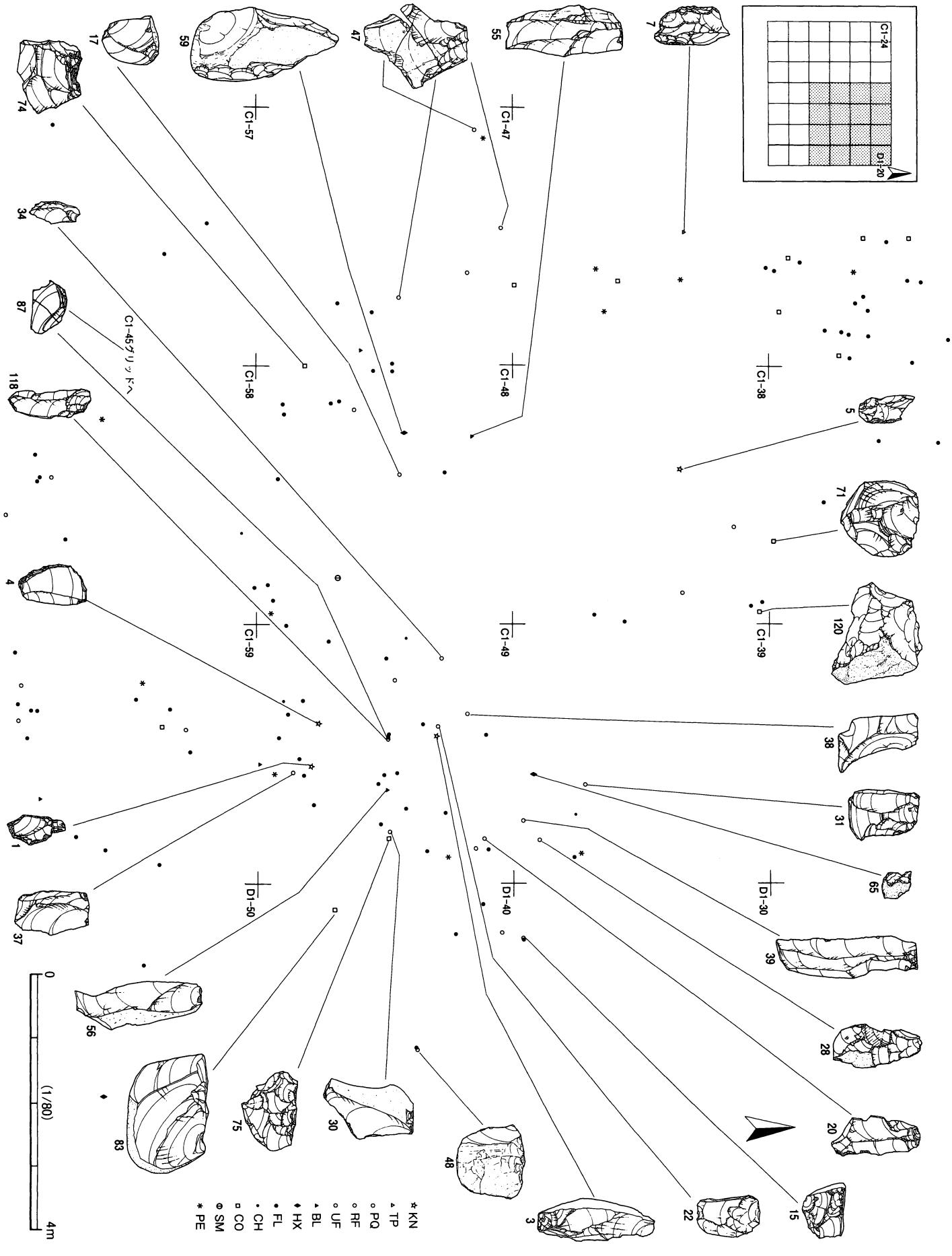
第５図　Ｃ１-Ａブロック出土遺物分布（２）－石器別分布（１）－



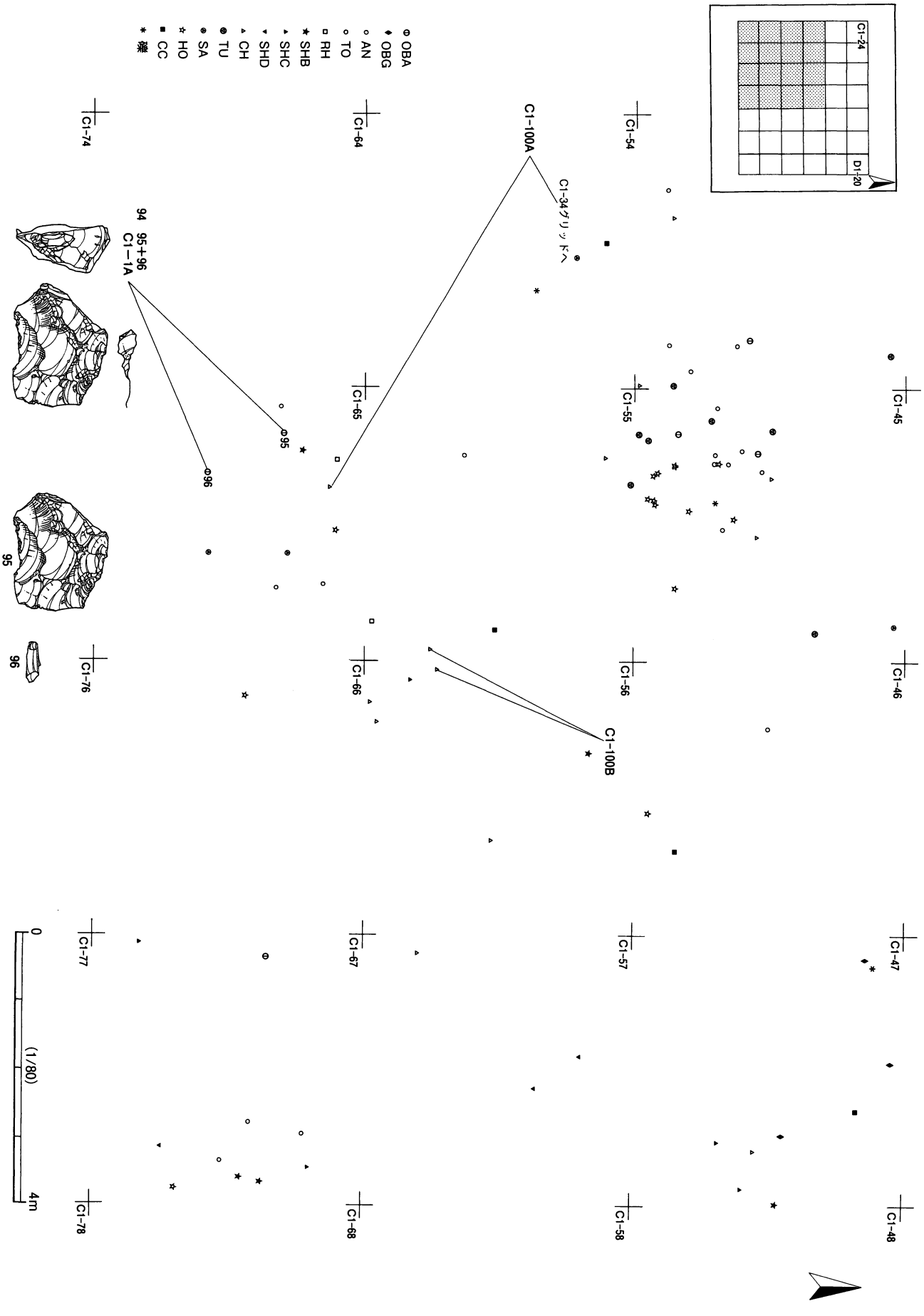
第6図　C1-Aブロック出土遺物分布(3)－石器別分布(2)－



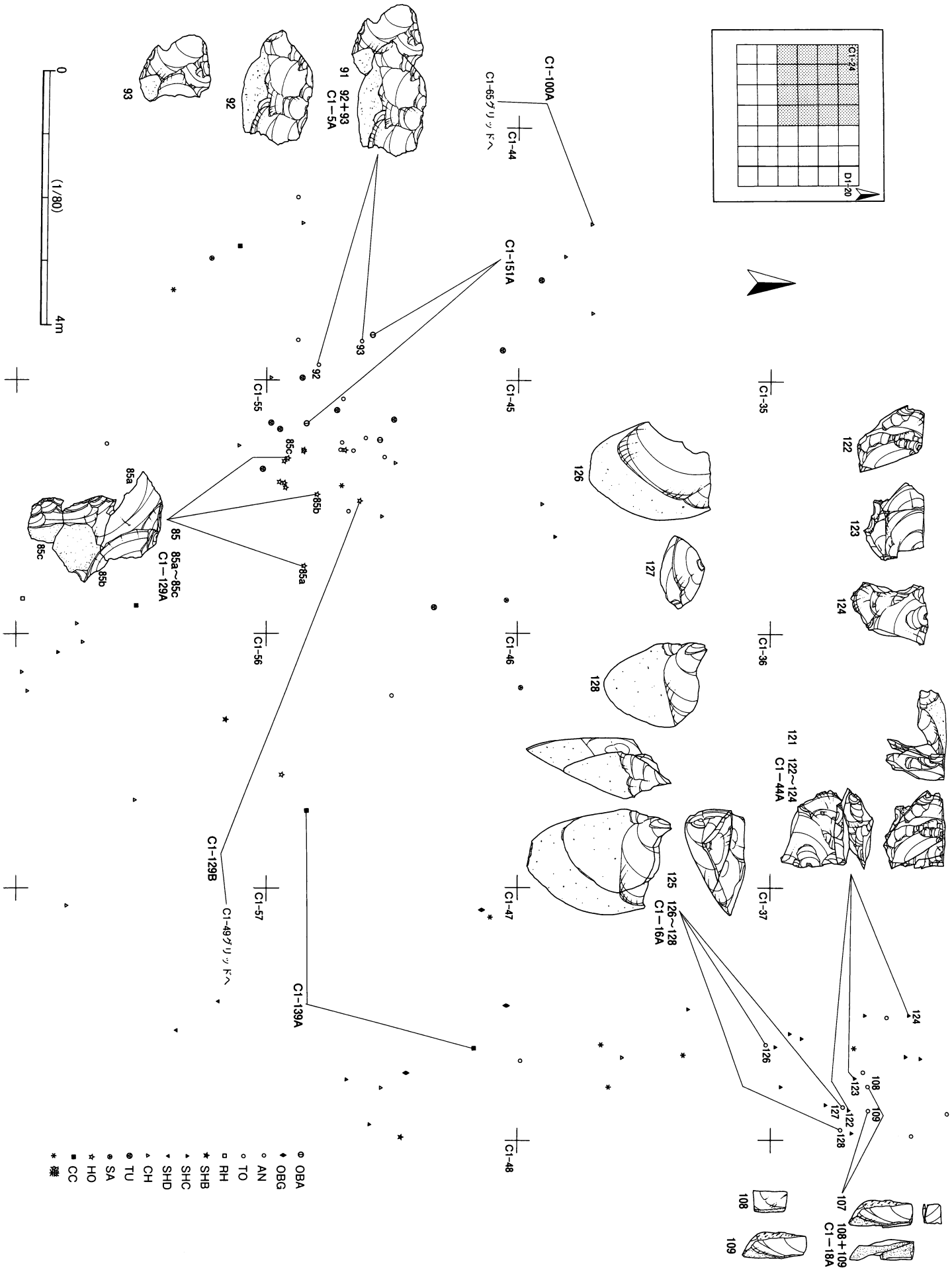
第７図　Ｃ１-Ａブロック出土遺物分布（４）－石器別分布（３）－



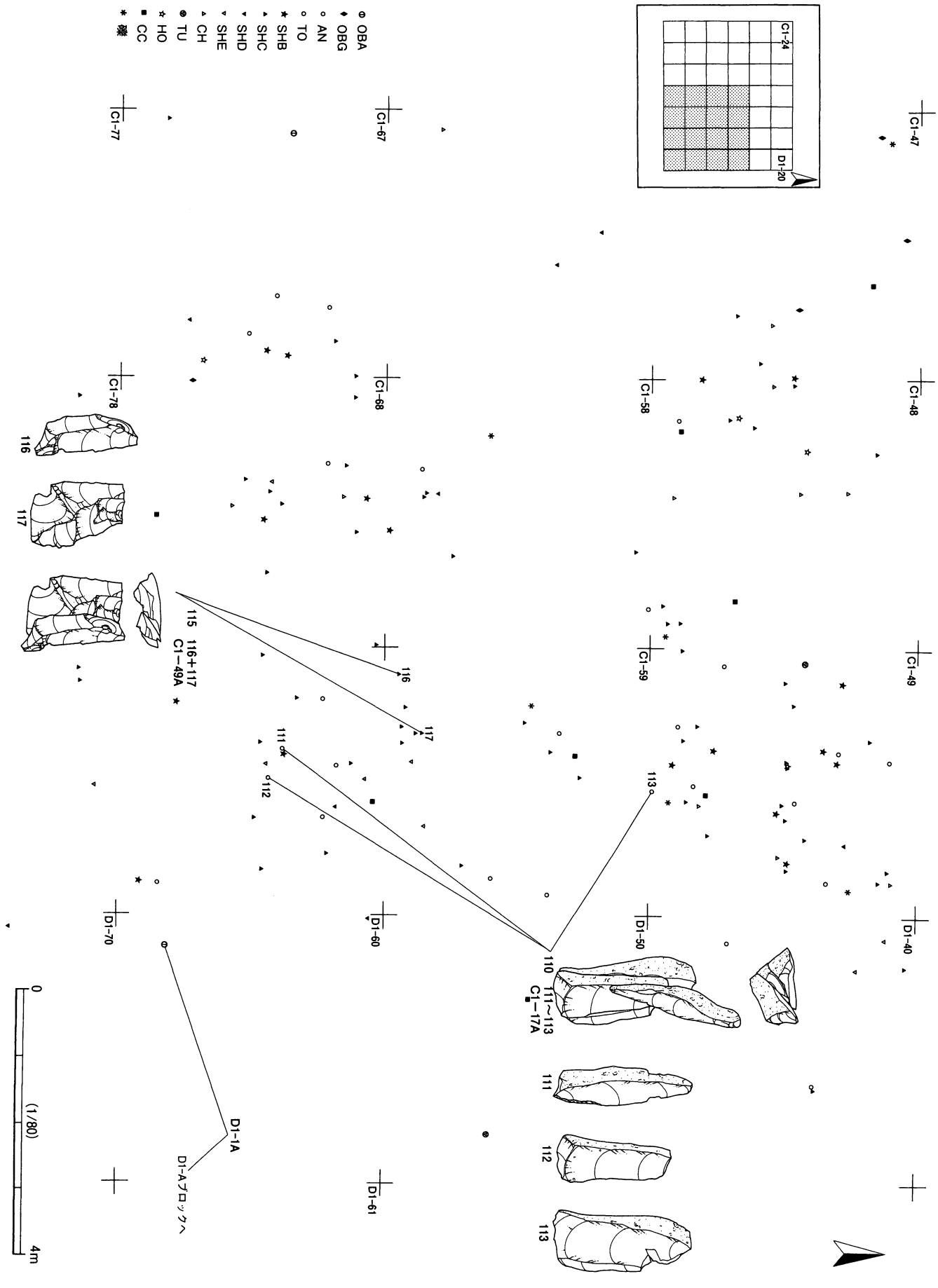
第8図　C1-Aブロック出土遺物分布(5)－石器別分布(4)－



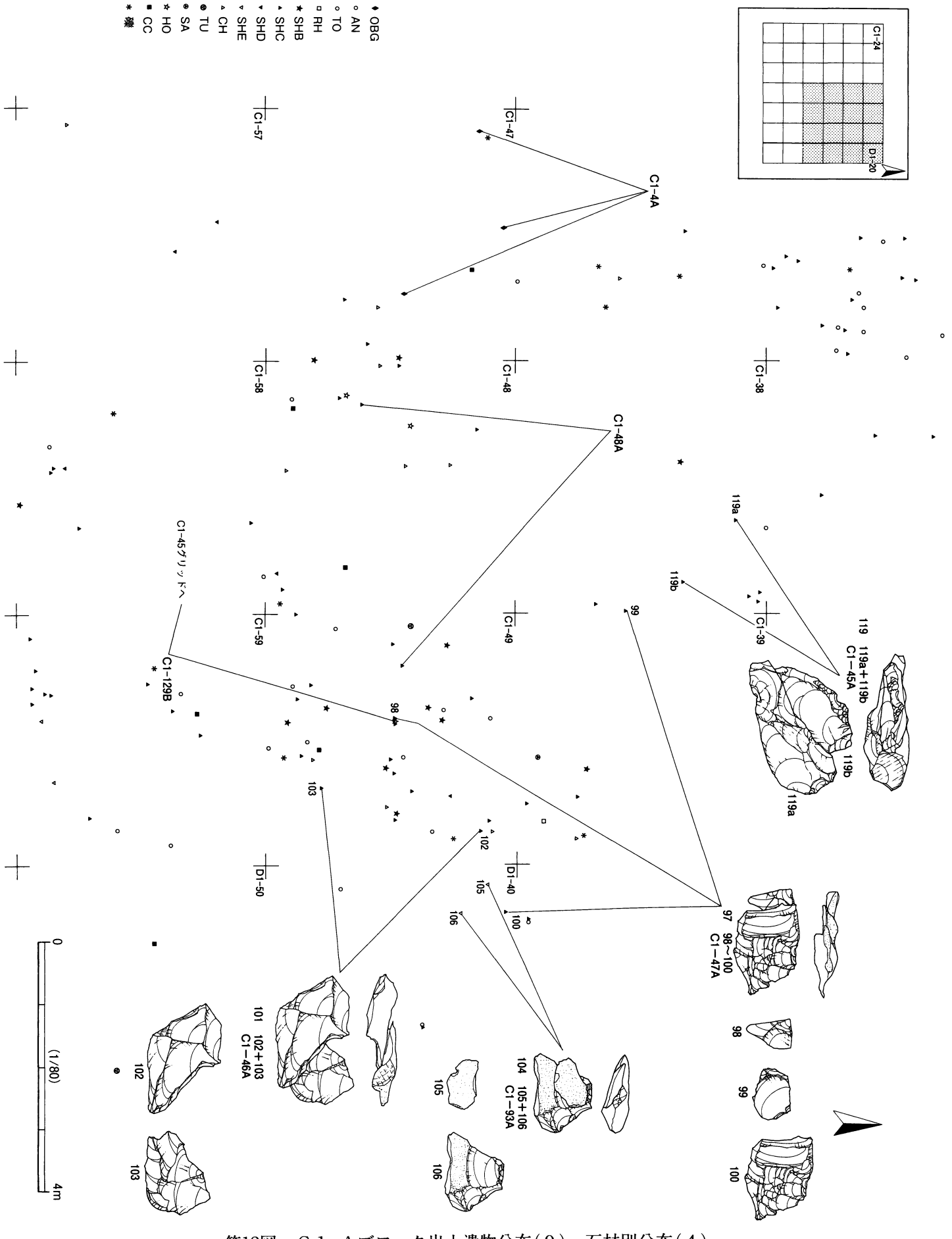
第９図　Ｃ１-Ａブロック出土遺物分布（６）－石材別分布（１）－



第10図　Ｃ１-Ａブロック出土遺物分布（７）－石材別分布（２）－



第11図　Ｃ１-Ａブロック出土遺物分布（８）－石材別分布（３）－



第12図　C1-Aブロック出土遺物分布(9)－石材別分布(4)－

安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点（20.2ｇ）である。

・**C1-20**：自然面は平滑で淡黄色（2.5Y8/4），内部は淡黄色（2.5Y8/4）・灰白色（10Y7/1），新鮮な面は灰色（7.5Y5/1）の軟質な安山岩である。剥片１点（20.4ｇ）の単独資料である。

・**C1-21**：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3），内部は灰白色（10Y7/1），新鮮な面は灰色（N6/0）の軟質な安山岩である。剥片１点（3.1ｇ）の単独資料である。

・**C1-22**：自然面は平滑で浅黄色（2.5Y7/3），内部は灰白色（10Y7/1），新鮮な面は灰色（N6/0）の軟質な安山岩である。剥片１点（8.1ｇ）の単独資料である。

・**C1-23**：自然面は平滑で灰白色(5Y7/2)の地に暗灰黄色(2.5Y5/2)の点紋が入り，内部は灰白色(7.5Y7/1)，新鮮な面は灰色（7.5Y5/1）の軟質な安山岩である。石核１点（107.1ｇ）の単独資料である。

・**C1-25**：内部は淡黄色（5Y8/3)･明黄褐色（10YR6/6)･灰白色（7.5Y8/2），新鮮な面は灰白色（7.5Y8/2）で石英の結晶が入る流紋岩である。石刃１点（51.4ｇ）の単独資料である。

・**C1-26**：自然面は平滑でにぶい黄橙色（10YR6/4），内部は灰オリーブ色（7.5Y5/2）・灰色（7.5Y4/1）で石英の結晶が入る流紋岩である。使用痕ある剥片１点（4.5ｇ）の単独資料である。

・**C1-27**：灰白色（2.5Y7/1）・灰白色（5Y8/2）の地に黒褐色（10YR2/2）が混じる流紋岩である。石刃１点（20.1ｇ）の単独資料である。

・**C1-28**：自然面は平滑で暗赤灰色（2.5YR3/1），内部は黒褐色（7.5YR3/2）・暗灰色（N3/0），節理は暗赤灰色(2.5YR3/1)の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片１点の合計２点(21.7ｇ）である。

・**C1-29**：灰オリーブ色（5Y6/2）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点，使用痕ある剥片１点の合計２点（23.9ｇ）である。

・**C1-30**：自然面は爪形の浅い裂痕が密でにぶい黄褐色（10YR4/3），内部は浅黄色（5Y7/3）・オリーブ黄色（5Y6/3）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片２点の合計３点（17.6ｇ）である。

・**C1-31**：オリーブ黒色（7.5Y3/1）の北関東産頁岩である。剥片１点（1.6ｇ）の単独資料である。

・**C1-32**：内部は黒褐色（10YR3/2），新鮮な面は灰黄褐色（10YR4/2）の北関東産頁岩である。ナイフ形石器１点（2.0ｇ）の単独資料である。

・**C1-33**：内部は浅黄色（2.5Y7/3），新鮮な面は灰黄色（2.5Y6/2）の北関東産頁岩である。ナイフ形石器１点（2.8ｇ）の単独資料である。

・**C1-34**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰黄褐色（10YR4/2）の北関東産頁岩である。使用痕ある剥片１点（10.1ｇ）の単独資料である。

・**C1-35**：にぶい黄色（2.5Y6/3）の北関東産頁岩である。使用痕ある剥片１点（2.0ｇ）の単独資料である。

・**C1-36**：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3），内部は黄褐色（2.5Y5/3）の北関東産頁岩である。使用痕ある剥片１点（4.9ｇ）の単独資料である。

・**C1-37**：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は明黄褐色（10YR6/6)，にぶい黄色（2.5Y6/4）の北関東産頁岩である。使用痕ある剥片１点（0.8ｇ）の単独資料である。

・**C1-38**：内部はにぶい黄色（2.5Y6/4），新鮮な面は灰白色（2.5Y7/1）の北関東産頁岩である。石核１点（14.7ｇ）の単独資料である。

・C1-39：自然面は平滑で黄褐色（2.5Y5/4），内部はオリーブ黄色（5Y6/3）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（10.6ｇ）である。

・C1-40：自然面は平滑でオリーブ褐色（2.5Y4/3），内部は黒褐色（10YR3/2）の北関東産頁岩である。剥片１点（5.3ｇ）の単独資料である。

・C1-41：自然面は平滑で，自然面及び内部はにぶい黄褐色（10YR5/4）の北関東産頁岩である。剥片１点（2.8ｇ）の単独資料である。

・C1-42：灰オリーブ色（7.5Y5/2）の北関東産頁岩である。剥片１点（0.8ｇ）の単独資料である。

・C1-43：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は灰オリーブ色（5Y5/3），節理はにぶい黄橙色（10YR6/4）の北関東産頁岩である。剥片１点（1.5ｇ）の単独資料である。

・C1-44：自然面は比較的平滑で黒褐色（10YR3/2），内部は灰オリーブ色（7.5Y4/2）・灰色（7.5Y4/1），節理は黄褐色（2.5Y5/3）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点，石核１点の合計３点（36.9ｇ）である。接合資料は，剥片２点，石核１点の合計３点（36.9ｇ）である。

・C1-45：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3），内部はにぶい黄褐色（10YR5/4）・灰オリーブ色（5Y5/2）・暗灰黄色（2.5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片２点，石核１点の合計３点（102.7ｇ）である。接合資料は，加工痕ある剥片２点（50.1ｇ）である。

・C1-46：自然面は平滑で灰黄褐色（10YR4/2），内部は暗灰黄色（2.5Y4/2）の地に灰黄色（5Y7/2）・暗灰黄色（N3/0）が混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（20.9ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（20.9ｇ）である。

・C1-47：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3），内部は灰色（7.5Y4/1），節理はにぶい黄褐色（10YR4/3）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片２点の合計３点（16.6ｇ）である。接合資料は，加工痕ある剥片１点，剥片２点の合計３点（16.6ｇ）である。

・C1-48：灰オリーブ色（5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片２点（１個体；6.4ｇ）である。接合資料は，加工痕ある剥片２点（１個体；6.4ｇ）である。

・C1-49：灰オリーブ色（5Y6/2）・灰オリーブ色（5Y4/2）の地に赤褐色（2.5YR4/6）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片２点の合計３点（18.3ｇ）である。接合資料は，剥片２点（15.8ｇ）である。

・C1-50：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・灰黄色（2.5Y7/2）の地に灰色（5Y4/1）・灰白色（5Y7/1）が部分的に混じる資料，自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は浅黄色（2.5Y7/3）・黄灰色（2.5Y5/1）・灰白色（2.5Y8/2）の資料など母岩内での変異がある嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片２点，使用痕ある剥片１点，剥片９点，砕片１点の合計13点（86.3ｇ）である。

・C1-51：内部は灰色（5Y5/1）・灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y4/1），節理は褐色（10YR4/6）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，使用痕ある剥片１点，剥片２点の合計４点（29.6ｇ）である。

・C1-52：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3），内部は灰色（7.5Y5/1），節理は灰褐色（7.5YR4/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片７点（48.0ｇ）である。

・C1-53：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部はにぶい黄褐色（10YR5/4）・灰オリー

ブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，石刃２点，剥片１点の合計３点（39.2ｇ）である。

・C1-54：灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（11.3ｇ）である。その他に同一母岩がD1-Aブロックに１点ある。

・C1-55：内部は灰オリーブ色(5Y5/2)，節理は黄褐色(2.5Y5/3)の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片３点（20.2ｇ）である。

・C1-56：灰色（7.5Y4/1）の地に灰オリーブ色（7.5Y6/2）・オリーブ黒色（7.5Y3/1）が混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，石刃１点，剥片２点の合計３点（17.0ｇ）である。

・C1-57：内部は暗灰黄色（2.5Y4/2），節理はオリーブ褐色（2.5Y4/6）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，台形石器１点，剥片１点，砕片１点の合計３点（15.1ｇ）である。

・C1-58：暗灰黄色（2.5Y4/2）・オリーブ褐色（2.5Y4/4）の嶺岡産頁岩である。台形石器１点（5.8ｇ）の単独資料である。

・C1-59：内部は灰オリーブ色（7.5Y5/2)･灰オリーブ色（7.5Y4/2），新鮮な面は灰オリーブ色（7.5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点（12.1ｇ）の単独資料である。

・C1-60：内部及び新鮮な面は灰オリーブ色（5Y4/2），節理は褐色（7.5YR4/6）の嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点（7.1ｇ）の単独資料である。

・C1-61：灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y4/1）の嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点（12.9ｇ）の単独資料である。

・C1-62：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は黒褐色（10YR3/1)･オリーブ黄色（5Y6/3）の嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点（14.3ｇ）の単独資料である。

・C1-63：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4）・褐色（7.5YR4/3），内部は灰色（5Y5/1）・灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（17.1ｇ）の単独資料である。

・C1-64：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は黄褐色（2.5Y5/3）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（7.4ｇ）の単独資料である。

・C1-65：灰オリーブ色（5Y4/2）・褐色（10YR4/4）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（10.4ｇ）の単独資料である。

・C1-66：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色(10YR5/4)，内部は黄灰色(2.5Y4/1)の嶺岡産頁岩である。剥片１点（22.0ｇ）の単独資料である。

・C1-67：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3），内部は灰オリーブ色（5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（21.7ｇ）の単独資料である。

・C1-68：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（8.6ｇ）の単独資料である。

・C1-69：自然面は比較的平滑で，自然面・内部・節理はにぶい黄褐色（10YR5/3）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（5.1ｇ）の単独資料である。

・C1-70：灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（5.2ｇ）の単独資料である。

・C1-71：自然面は比較的平滑で褐色（10YR4/4），内部は黄灰色（2.5Y5/1）・黄灰色（2.5Y4/1），節理は褐色（7.5YR4/3）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（12.3ｇ）の単独資料である。

・C1-72：自然面は爪形の裂痕が密で，自然面及び節理はにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は灰オリーブ

色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（13.5ｇ）の単独資料である。

・**C1-73**：自然面は平滑で灰黄褐色（10YR4/2），内部は暗灰黄褐色（2.5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（5.8ｇ）である。

・**C1-74**：自然面は比較的平滑で褐色（10YR4/4），内部は灰オリーブ色（5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（7.5ｇ）の単独資料である。

・**C1-75**：自然面は爪形の裂痕が粗で，自然面及び内部はにぶい黄褐色（10YR4/3）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（54.6ｇ）の単独資料である。

・**C1-76**：自然面は比較的平滑で暗褐色（10YR3/3），内部は灰オリーブ色（7.5Y5/2），節理はにぶい赤褐色（2.5YR4/4）の嶺岡産頁岩である。石核１点（58.1ｇ）の単独資料である。

・**C1-77**：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。石核１点（15.6ｇ）の単独資料である。

・**C1-78**：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3），内部は灰オリーブ色（5Y5/2），節理はにぶい黄橙色（10YR6/4）・灰赤色（2.5YR4/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（43.5ｇ）の単独資料である。

・**C1-79**：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。石核１点（28.8ｇ）の単独資料である。

・**C1-80**：自然面は平滑でオリーブ褐色(2.5Y4/3)，内部は灰色(5Y4/1)，節理はオリーブ褐色(2.5Y4/3)の嶺岡産頁岩である。石核１点（13.5ｇ）の単独資料である。

・**C1-81**：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色(10YR4/3)，内部は黄灰色(2.5Y4/1)の嶺岡産頁岩である。楔形石器１点（6.5ｇ）の単独資料である。

・**C1-82**：自然面は平滑でにぶい赤褐色（5YR4/3），内部は黄灰色（2.5Y4/1）の嶺岡産頁岩である。石核１点（13.4ｇ）の単独資料である。

・**C1-83**：自然面は比較的平滑で褐色（7.5YR4/4），内部は暗灰黄色（2.5Y4/2）の地に黒褐色（2.5Y3/1）の筋が入る嶺岡産頁岩である。石核１点（8.0ｇ）の単独資料である。

・**C1-84**：オリーブ灰色（2.5GY6/1）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（7.9ｇ）の単独資料である。

・**C1-85**：自然面は平滑でにぶい黄色（2.5Y6/3），内部は灰白色（2.5Y7/1）・灰オリーブ色（5Y6/2），節理はにぶい黄色(2.5Y6/3)，新鮮な面は灰色(5Y6/1)の硬質緻密な頁岩である。使用痕ある剥片１点(14.1ｇ）の単独資料である。

・**C1-86**：灰色（5Y4/1）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（2.4ｇ）の単独資料である。

・**C1-87**：灰オリーブ色（5Y5/2）の硬質緻密な頁岩である。使用痕ある剥片１点（4.8ｇ）の単独資料である。

・**C1-88**：内部及び新鮮な面は灰黄色（2.5Y7/2）の硬質緻密な頁岩である。使用痕ある剥片１点（6.8ｇ）の単独資料である。

・**C1-89**：内部は灰オリーブ色（7.5Y6/2）・灰色（7.5Y6/1）の地に灰黄褐色（10YR5/2）の筋が入り，節理はにぶい橙色(7.5YR7/4)の硬質緻密な頁岩である。使用痕ある剥片１点(27.7ｇ)の単独資料である。

・**C1-90**：内部は黄灰色（2.5Y6/1），節理は明黄褐色（10YR6/6）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（3.7ｇ）の単独資料である。

・**C1-91**：自然面は平滑でにぶい黄橙色(10YR6/3)，内部は黒褐色(7.5YR2/2)，節理は淡黄色(2.5Y8/4)・

明黄褐色（10YR6/6）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（23.7ｇ）である。

・**C1-92**：自然面は平滑でにぶい赤褐色（5YR4/3），内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（8.3ｇ）の単独資料である。

・**C1-93**：自然面は平滑で褐灰色（10YR4/1），内部は灰色（7.5Y6/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（11.9ｇ）である。接合資料は，剥片２点（11.9ｇ）である。

・**C1-94**：自然面は平滑で，自然面及び内部は浅黄色（5Y7/3），新鮮な面は灰色（N4/0）の頁岩である。削器１点（28.6ｇ）の単独資料である。

・**C1-95**：内部は灰色（7.5Y6/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石刃１点（8.7ｇ）の単独資料である。部分的にC1-93に似た部位もあることから，あるいは同一母岩の可能性がある。

・**C1-96**：内部は灰オリーブ色（7.5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。剥片１点（13.6ｇ）の単独資料である。

・**C1-97**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部はオリーブ灰色(2.5GY6/1)，節理は黄褐色(2.5Y5/3)，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。剥片１点（33.4ｇ）の単独資料である。

・**C1-98**：自然面は平滑で褐色（7.5YR4/3），内部は浅黄色（2.5Y7/3）の頁岩である。剥片１点（39.3ｇ）の単独資料である。

・**C1-99**：内部は灰オリーブ色（7.5Y6/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。剥片１点（3.3ｇ）の単独資料である。

・**C1-100**：自然面は比較的平滑でにぶい褐色（7.5YR5/3），内部は灰オリーブ色（5Y5/2)･灰色（N4/0)･暗灰色（N3/0）・オリーブ灰色（2.5GY5/1），節理は灰オリーブ色（5Y4/2）のチャートである。石器群の内訳は，楔形石器２点（１個体），剥片３点（２個体）の合計５点（３個体；54.2ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは楔形石器２点（１個体；32.3ｇ），Ｂは剥片２点（１個体；17.1ｇ）である。

・**C1-101**：内部はオリーブ灰色（5GY5/1）・暗灰黄色（2.5Y5/2），節理は浅黄色（2.5Y7/3）のチャートである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片１点，剥片２点の合計４点（55.4ｇ）である。

・**C1-102**：自然面は敲打痕状の裂痕が密で淡黄色（2.5Y8/3），内部は緑灰色（7.5GY5/1）・緑黒色（7.5GY2/1）・暗オリーブ色（5Y4/3）が縞状に入るチャートである。石器群の内訳は，台形石器２点，剥片１点の合計３点（53.5ｇ）である。

・**C1-103**：内部はオリーブ灰色（5GY5/1)･灰色（N4/0）の地に黒色の筋が入り，節理は灰色（5Y4/1）のチャートである。本ブロックでは削器１点（17.7ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がC1-Bブロックに１点ある。

・**C1-104**：オリーブ灰色（5GY5/1）・灰色（N4/0）の地に黒色の筋が入り，節理が黒色（N2/0）のチャートである。部分的にC1-103に似た部位もあることから，あるいは同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，削器１点，使用痕ある剥片１点の合計２点（73.9ｇ）である。

・**C1-105**：自然面は平滑で暗灰色（N3/0），内部は暗灰色（N3/0）の地にオリーブ灰色（5GY5/1）が部分的に混じり，節理は明黄褐色（10YR7/6）のチャートである。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（31.9ｇ）である。

・**C1-106**：自然面は爪形の裂痕が密で灰褐色（5YR4/2），内部は灰褐色（5YR4/2）の地に灰オリーブ色

(7.5Y6/2)が部分的に混じるチャートである。石器群の内訳は，楔形石器1点，剥片3点の合計4点(44.5g）である。

・C1-107：オリーブ灰色（5GY5/1）の地に黒色の筋が網目状に入るチャートである。掻器1点（15.1g）の単独資料である。

・C1-108：自然面は敲打痕状の裂痕が粗で黄褐色（2.5Y5/3），内部は灰オリーブ色（5Y5/3）の地に暗オリーブ灰色（2.5GY3/1）の筋が入り，節理はオリーブ灰色（2.5GY6/1）のチャートである。剥片1点（18.1g）の単独資料である。

・C1-109：自然面は爪形の浅い裂痕が密で暗灰黄色（2.5Y4/2），内部はオリーブ灰色（2.5GY5/1），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）のチャートである。剥片1点（6.8g）の単独資料である。

・C1-110：灰色（5Y5/1)・灰白色（5Y7/1)・にぶい黄褐色（10YR5/4）のチャートである。剥片1点（4.8g）の単独資料である。

・C1-111：暗オリーブ灰色（5GY4/1）の地に黒色の筋が入るチャートである。剥片1点（3.0g）の単独資料である。

・C1-113：自然面は爪形の浅い裂痕が密で灰オリーブ色（7.5Y4/2），内部は暗オリーブ灰色（5GY4/1）のチャートである。剥片1点（5.8g）の単独資料である。

・C1-114：自然面は比較的平滑で灰オリーブ色（5Y5/3），内部は灰色（5Y5/1)・黄褐色（2.5Y5/4）のチャートである。石核1点（29.8g）の単独資料である。

・C1-115：自然面は比較的平滑で灰色（7.5Y4/1），内部は暗灰色（N3/0）の地に黒色の筋が網目状に入るチャートである。石核1点（8.1g）の単独資料である。

・C1-116：オリーブ灰色（5GY6/1）で珪化度の高い凝灰岩である。使用痕ある剥片1点（13.2g）の単独資料である。

・C1-117：自然面は平滑で，自然面及び内部はオリーブ灰色（5GY5/1）の凝灰岩である。局部磨製石斧1点（170.5g）の単独資料である。

・C1-118：内部は灰オリーブ色(7.5Y6/2)，新鮮な面は暗灰色(N3/0)の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片3点（5.8g）である。

・C1-119：灰色（7.5Y6/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片2点（4.4g）である。

・C1-120：自然面は比較的平滑でにぶい黄色（2.5Y6/4），内部は浅黄色（2.5Y7/3）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片1点，砕片1点の合計2点（1.0g）である。

・C1-121：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は緑灰色（7.5GY5/1）の凝灰岩である。剥片1点（0.6g）の単独資料である。

・C1-122：自然面は平滑で明オリーブ灰色（5GY7/1），内部はオリーブ灰色（2.5GY6/1）で珪化度の高い凝灰岩である。砕片1点（0.4g）の単独資料である。

・C1-123：自然面は平滑で緑灰色（7.5GY6/1)・オリーブ灰色（2.5GY6/1），内部は緑灰色（7.5GY6/1)・オリーブ灰色（2.5GY6/1）の地に暗灰色（N3/0）の筋が網目状に入る砂岩であるが，凝灰岩の可能性もある。局部磨製石斧1点（173.9g）の単独資料である。

・C1-124：自然面は平滑で緑灰色（7.5GY5/1），内部は灰色（7.5Y6/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の砂岩であるが，凝灰岩の可能性もある。局部磨製石斧1点（166.4g）の単独資料である。

・C1-125：自然面は平滑で，自然面及び内部は緑灰色（7.5GY6/1），節理は黒褐色（10YR3/2）の砂岩としたが，凝灰岩の可能性が極めて高い。局部磨製石斧１点（98.0ｇ）の単独資料である。
・C1-126：オリーブ灰色（2.5GY6/1）の砂岩としたが，凝灰岩の可能性が極めて高い。剥片１点（7.5ｇ）の単独資料である。
・C1-127：自然面は平滑で，自然面及び内部はオリーブ灰色（5GY5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の砂岩としたが，凝灰岩の可能性が極めて高い。局部磨製石斧１点（0.7ｇ）の単独資料である。
・C1-128：自然面は平滑でにぶい黄色（2.5Y6/4），内部は灰白色（7.5Y7/1）・灰色（7.5Y5/1），節理はにぶい黄色（2.5Y6/4），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の砂岩である。剥片１点（51.7ｇ）の単独資料である。
・C1-129：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片３点，局部磨製石斧２点，剥片８点（７個体），砕片１点の合計14点（13個体;175.6ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは加工痕ある剥片２点，剥片１点の合計３点（22.0ｇ），Ｂは剥片２点（１個体；1.4ｇ）である。
・C1-131：自然面は比較的平滑で灰色（7.5Y4/1）の地に暗褐色（7.5YR3/3）が部分的に混じり，内部は灰色（7.5Y4/1）・灰色（7.5Y5/1）のホルンフェルスである。自然面は節理の可能性もある。局部磨製石斧１点（33.4ｇ）の単独資料である。
・C1-132：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y6/1），節理は褐灰色（10YR5/1）のホルンフェルスである。剥片１点（13.6ｇ）の単独資料である。
・C1-134：自然面は比較的平滑で灰色（5Y4/1）の地ににぶい褐色（7.5YR5/3）が部分的に入り，内部は灰色（5Y4/1）・灰色（5Y5/1）のホルンフェルスである。剥片１点（106.6ｇ）の単独資料である。
・C1-135：内部はオリーブ黒色（7.5Y3/1），節理は灰褐色（5YR4/2）のホルンフェルスである。剥片１点（8.1ｇ）の単独資料である。
・C1-137：黄灰色（2.5Y6/1）の地に灰色（N4/0）が混じる半透明の瑪瑙･玉髄である。石器群の内訳は，楔形石器１点，剥片１点，砕片１点の合計３点（15.4ｇ）である。
・C1-138：自然面は平滑で明黄褐色（10YR6/6），内部は灰白色（2.5Y8/2）・浅黄色（2.5Y7/4）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片２点（25.9ｇ）である。
・C1-139：灰白色（2.5Y8/2）・灰白色（2.5Y8/1）の半透明な瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片２点（１個体；8.0ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片２点（１個体；8.0ｇ）である。
・C1-140：浅黄色（2.5Y7/4）の半透明な瑪瑙・玉髄である。ナイフ形石器１点（2.6ｇ）の単独資料である。
・C1-141：自然面は平滑で明黄褐色（10YR6/6）の半透明な瑪瑙・玉髄である。原石１点（139.1ｇ）の単独資料である。
・C1-142：淡黄色（2.5Y8/4）の半透明な瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片１点，砕片１点の合計２点（1.7ｇ）である。
・C1-150：黒色（2.5Y2/1）と黄灰色（2.5Y5/1）が互層になった硬質緻密な頁岩である。本ブロックでは加工痕ある剥片１点（2.2ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がC2-Ａブロックに１点ある。
・C1-151：淡黒色半透明の黒曜石である。φ１㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片２点（１個体；5.7ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片２

点（1個体；5.7g）である。その他に同一母岩がD1-Aブロックに4点ある。

・**D1-1**：自然面は平滑で浅黄色（2.5Y7/4），内部は淡黒色半透明の黒曜石である。φ1㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。本ブロックでは石核1点（0.9g）の単独資料であるが，D1-Aブロックの石核2点（1個体）と接合している。その他に同一母岩がD1-Aブロックに7点ある。

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の砕片1点（0.6g），嶺岡産頁岩の剥片6点・砕片1点，の合計7点（7.4g）がある。

3）出土遺物（第13～19図，第20図79～84）

1は瑪瑙・玉髄による二側縁加工のナイフ形石器である。横長剥片を横位に用い，両側縁に細かい調整加工を行っている。基部が欠損している。2は嶺岡産頁岩による基部加工のナイフ形石器である。石刃状の縦長剥片の打面側を基部として，基部と先端に細かい調整加工を行っている。3は北関東産頁岩による基部加工のナイフ形石器である。石刃状の縦長剥片の打面側を基部として，基部に直角に近い調整加工を行っている。4・5は北関東産頁岩による一側縁加工あるいは部分加工のナイフ形石器である。4は左側縁，5は右側縁に調整加工を行っている。両者とも先端部が欠損している。

6・7は嶺岡産頁岩，8・9はチャートによる横長剥片を横位に用いた台形石器である。6は表面右側縁と裏面両側縁，7は表面両側縁と裏面左側縁の一部，8・9は表面左側縁と裏面右側縁に平坦剥離や細かい調整加工を行っている。

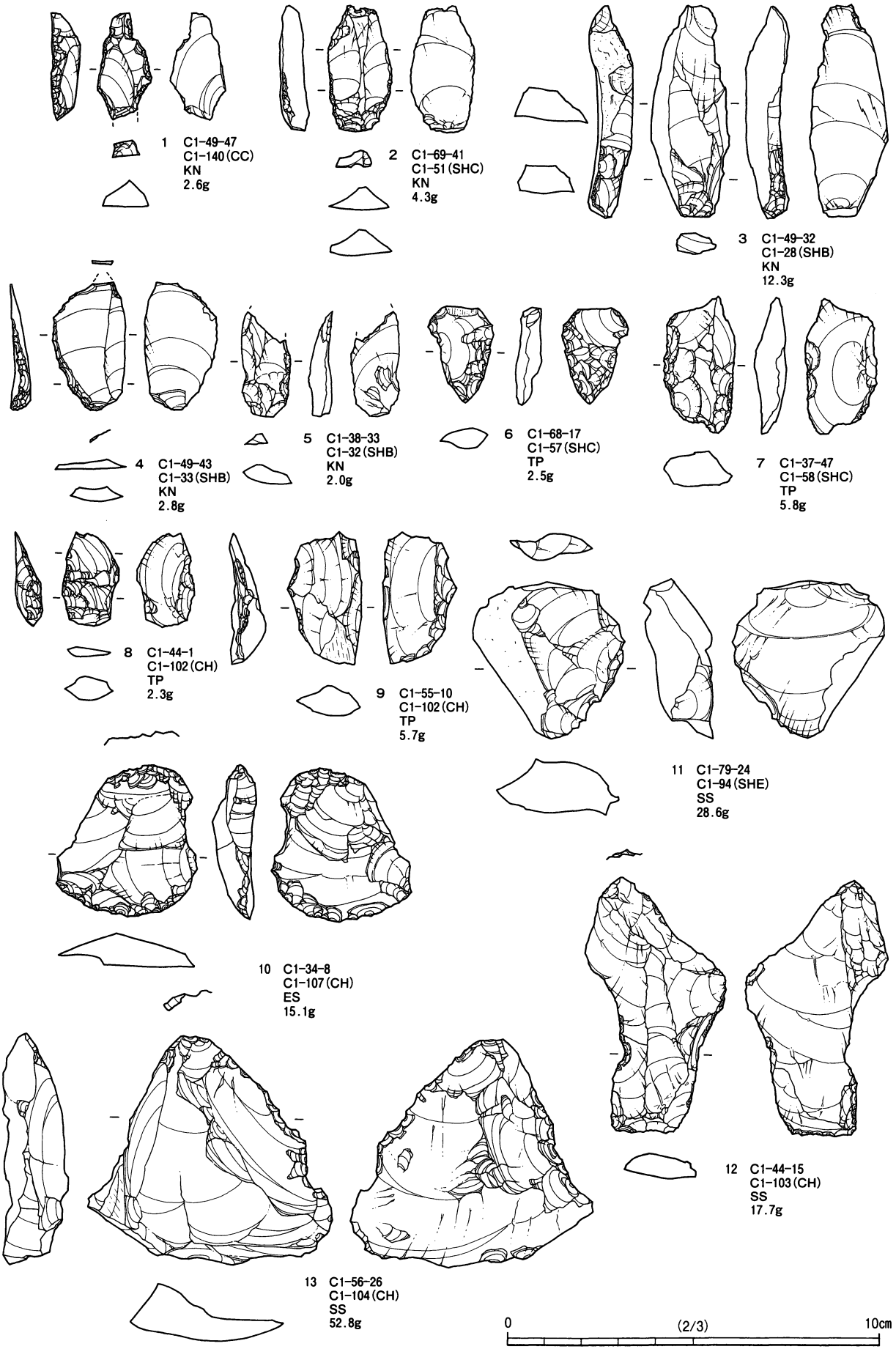
10はチャートによる掻器である。不定型な剥片の両面の末端と打面側に調整加工を行っている。楔形石器の可能性もある。

11は頁岩，12・13はチャートによる削器である。11は右側縁の一部に調整加工を行っている。右側面の下部に比較的大きな剥離痕が見られることから石核の可能性も考えられる。12は正面両側縁の一部，裏面末端と右側縁下部に細かい調整加工を行っている。13は正面右側縁と裏面両側縁に細かい調整加工を行っている。裏面右側面などに比較的大きな剥離痕が見られることから石核の可能性も考えられる。

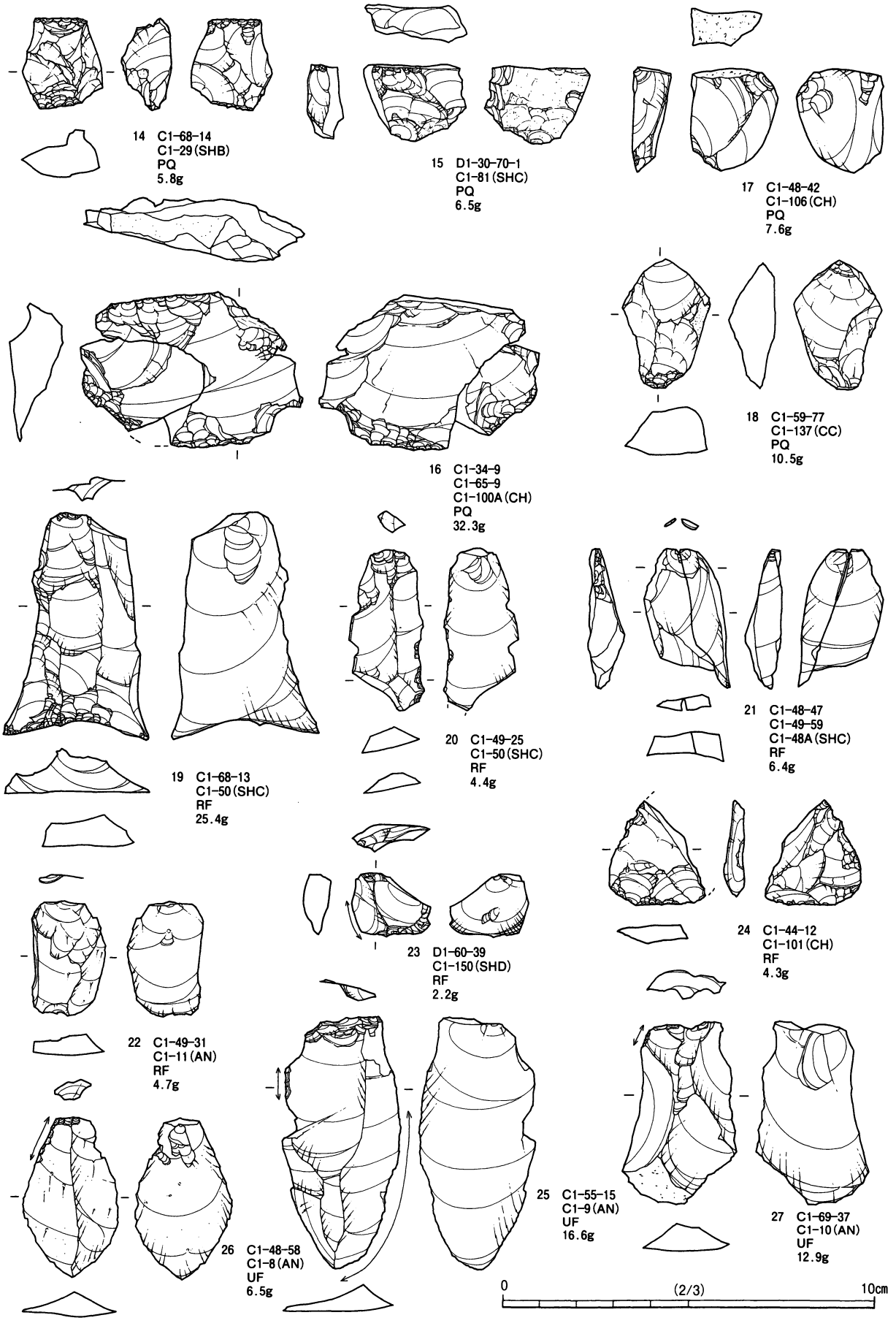
14は北関東産頁岩，15は嶺岡産頁岩，16・17はチャート，18は瑪瑙・玉髄による楔形石器である。14・16～18は対向する上下両端に細かい剥離痕が見られる。15は対向する上下両端と裏面左側縁に細かい剥離痕が見られ，裏面右側面は折断面である。

19～21は嶺岡産頁岩，22は安山岩，23は硬質緻密な頁岩，24はチャートによる加工痕ある剥片である。19は打面側の一部，20は右側縁下部，21は左側縁上部，22・23は末端の一部に調整加工を行っており，23は左側縁に微細な剥離痕が見られる。24は表面末端と裏面右側縁に細かい剥離痕が見られる。右半部が欠損しており，楔形石器の可能性もある。

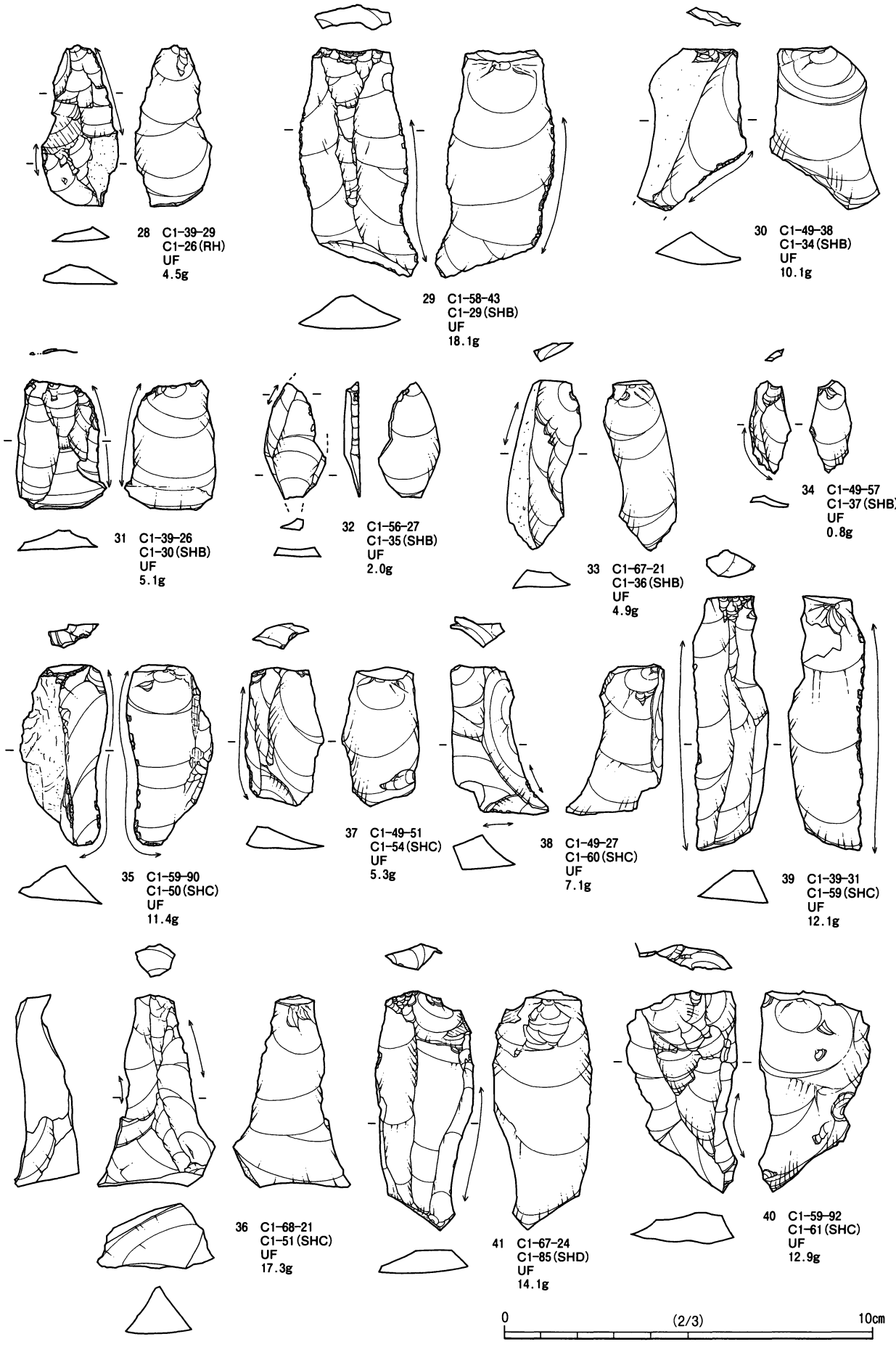
25～27は安山岩，28は流紋岩，29～34は北関東産頁岩，35～40・48は嶺岡産頁岩，41・42・49・50は硬質緻密な頁岩，43は凝灰岩，44は瑪瑙・玉髄，45・46は栃木県高原山産の黒曜石，47は産地不明の黒曜石，51・52はチャートによる使用痕ある剥片である。25・28は右側縁と左側縁の一部，26・27・32～34・44は左側縁の一部，29は表面右側縁と裏面右側縁，30・50・52は末端，31・35は表面右側縁と裏面左側縁，36は両側縁の一部，37は左側縁，38は末端と右側縁の一部，39は表面左側縁と裏面右側縁，40・41・47は右側縁の一部，42は裏面末端と右側縁，43は表面両側縁と裏面右側縁の一部，45は表面左側縁と裏面右側縁，46は表面左側縁と裏面左側縁，48は両面両側縁，49・51は右側縁に微細な剥離痕が見られる。



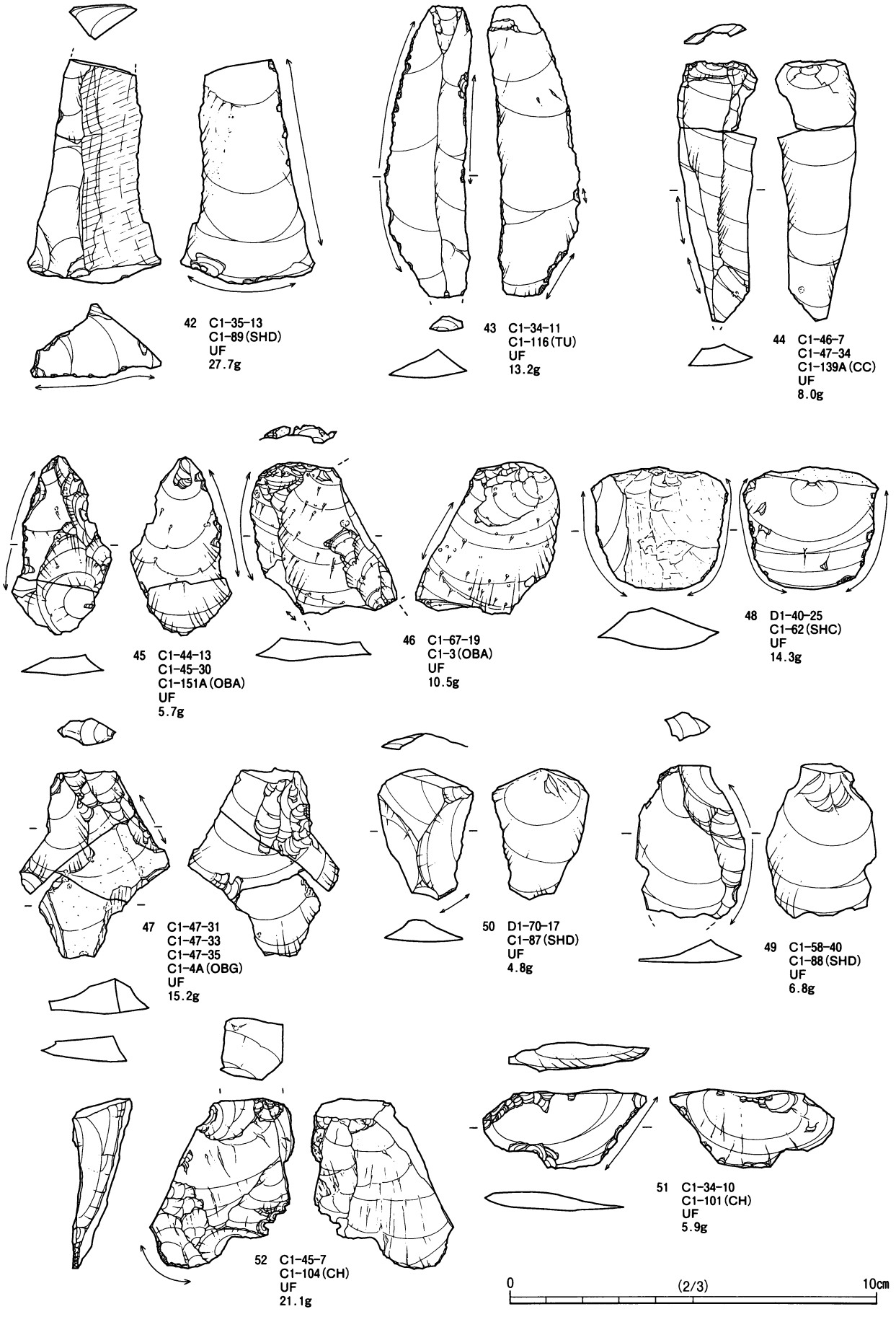
第13図　Ｃ１-Ａブロック出土遺物（１）



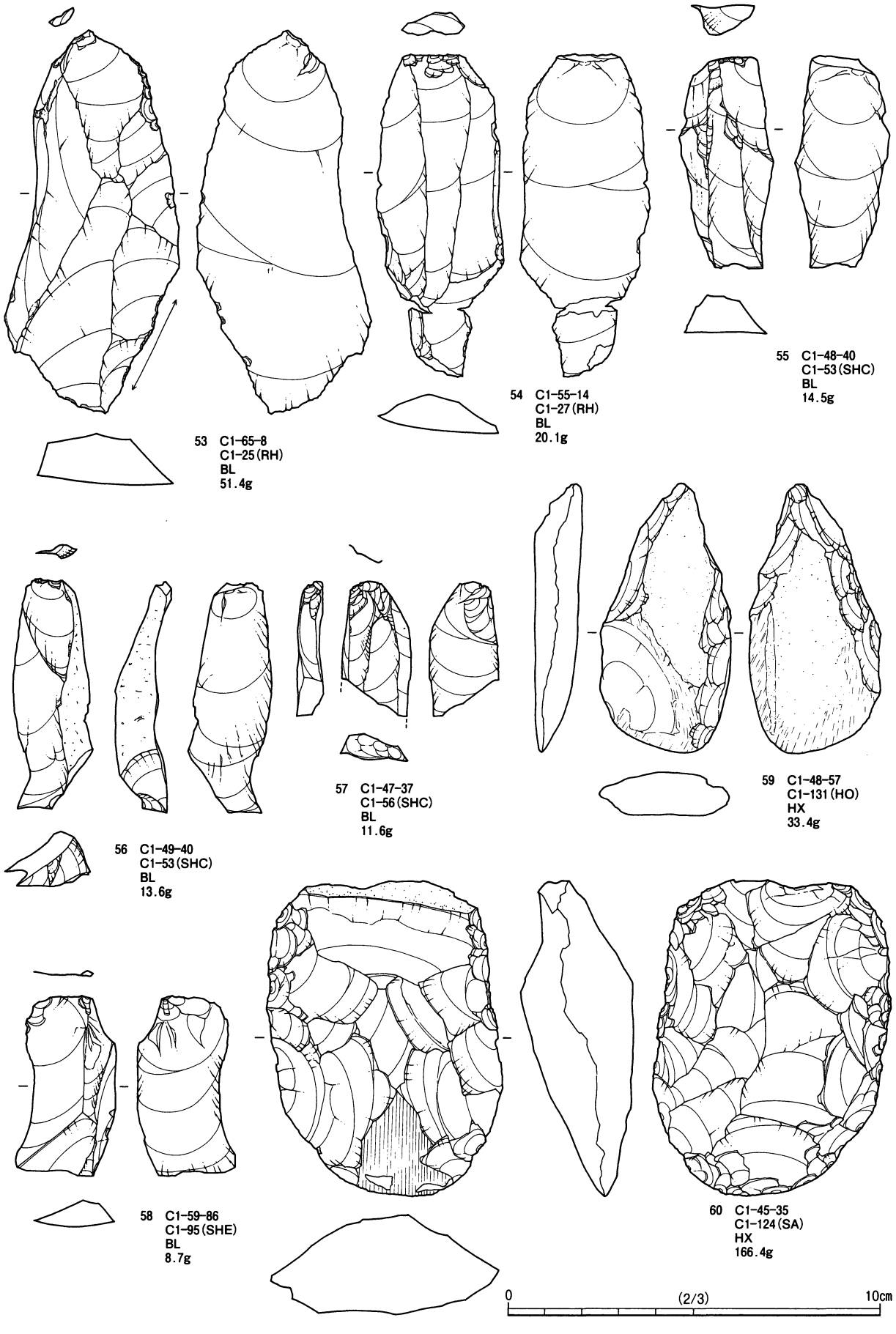
第14図　C1-Aブロック出土遺物(2)



第15図　Ｃ１-Ａブロック出土遺物（３）



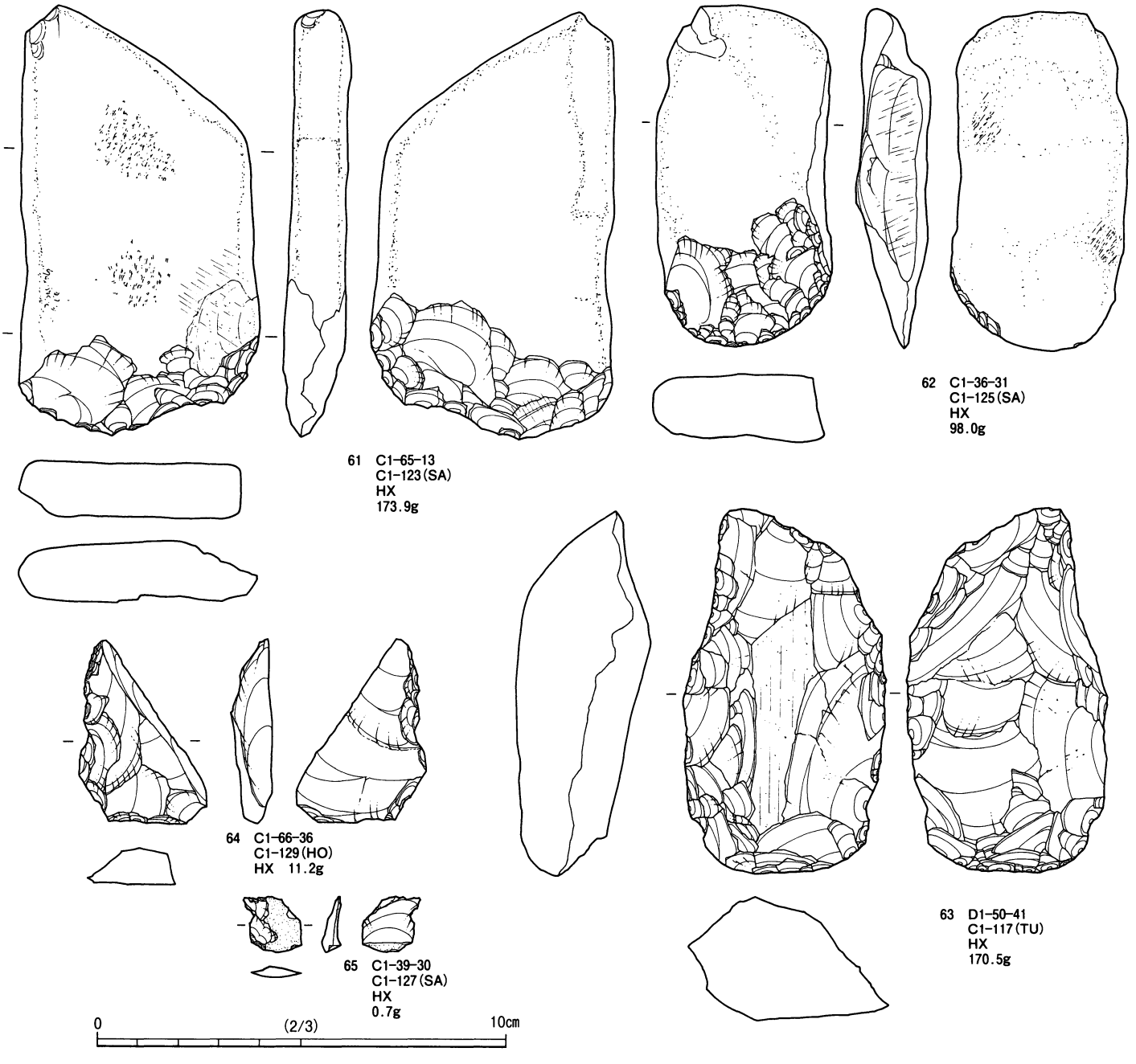
第16図　C1-Aブロック出土遺物(4)



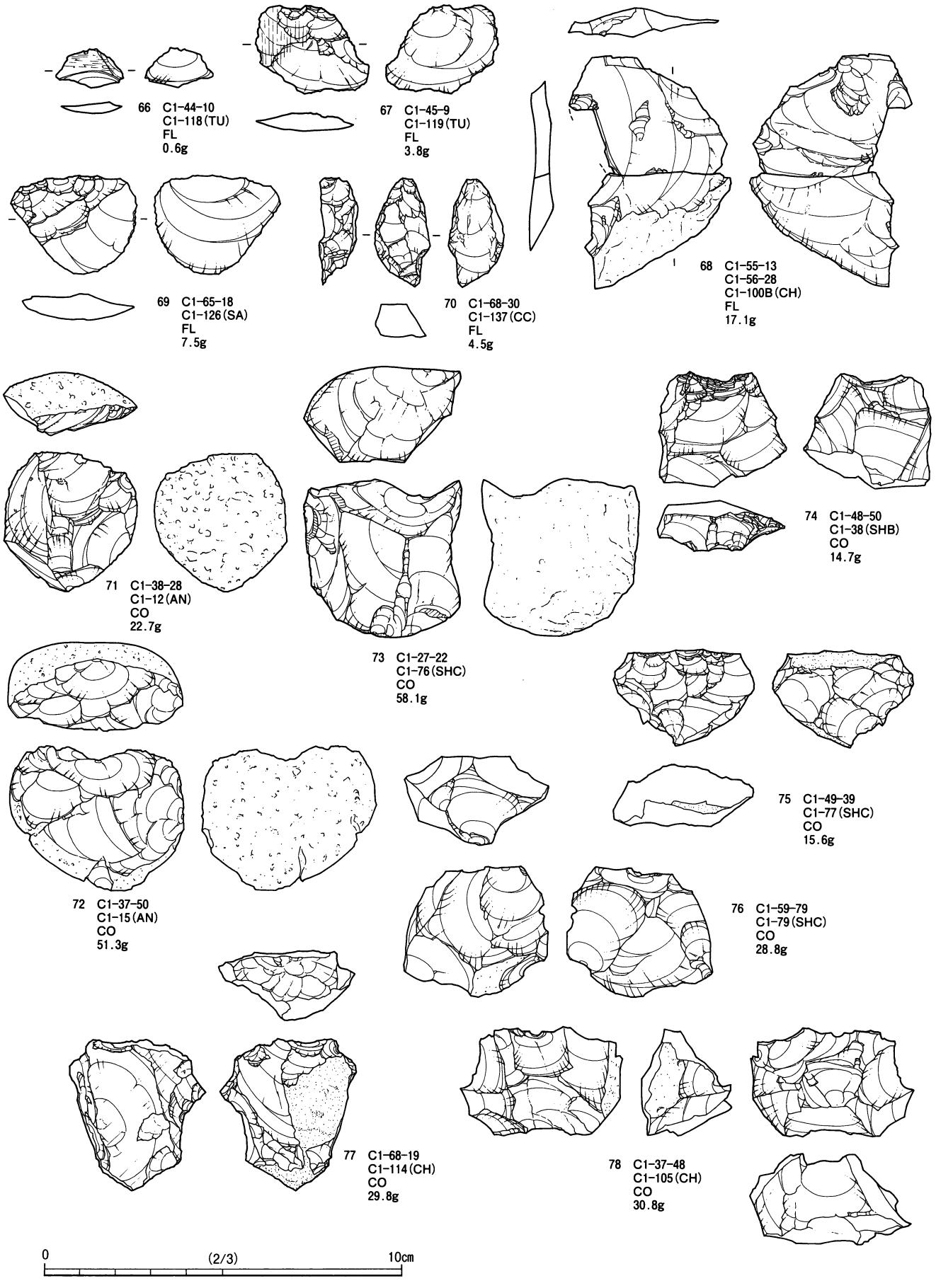
第17図　Ｃ１-Ａブロック出土遺物（５）

53・54は流紋岩，55～57は嶺岡産頁岩，58は頁岩による石刃である。53は右側縁の上部に細かい調整加工，右側縁の下部に微細な剥離痕が見られる。

59・64はホルンフェルス，60～62・65は砂岩，63は凝灰岩による局部磨製石斧である。59は扁平な礫を素材として，周辺に末端が階段状となる調整加工を行っている。刃部の研磨痕が顕著である。なお，自然面として図示した面と裏面の左側縁下半部の研磨面は節理の可能性もある。60は両面に求心的な調整加工を行っている。表面の刃部側の一部に研磨痕が見られる。61は不定型で扁平な礫を素材として，両面の刃部側に調整加工を行っている。刃部の稜線の一部と裏面の一部に研磨痕が見られる。また，表面の器体中央に2か所に引っ掻いたような軽い敲打痕状の痕跡が見られる。62は隅丸長方形状の扁平な礫を素材とし



第18図　C1-Aブロック出土遺物(6)



第19図　Ｃ１-Ａブロック出土遺物（７）

て，表面の刃部側に調整加工を行っている。裏面の一部に細かい剥離痕が見られるが，刃こぼれ等の可能性がある。また，右側面の剥離面あるいは折断面は形状を対称に整えるための加工によるものかもしれない。63は両面に求心的な調整加工を行っている。表面の自然面の一部に光沢が見られ，剥離面との境界も多少磨耗している。64は石斧の一部か調整剥片と考えられる。65は刃部片である。66・67は凝灰岩，69は砂岩による石斧の調整剥片である。66・67は表面の一部に光沢痕が見られ，研磨痕としたが，66の研磨面は自然面の可能性もある。

68はチャート，70は瑪瑙・玉髄による剥片で，楔形石器に関係するものかもしれない。

71・72は安山岩，73・75・76・79～81は嶺岡産頁岩，74は北関東産頁岩，77・78・82はチャート，83は軟質の安山岩による石核である。71～73は求心的な剥離作業により不定型な剥片を剥離している。74～82は90度の打面転移によって不定型な剥片を剥離している。83は打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。

84は瑪瑙・玉髄による原石である。

4）接合資料とその関連資料（第20図85～90，第21～24図）

・C1-129（第20図85～90）　灰色（7.5Y5/1）などのホルンフェルスである。加工痕ある剥片３点，局部磨製石斧２点，剥片８点（７個体），砕片１点の合計14点（13個体）で構成される。接合資料は，２グループある。A（85）は加工痕ある剥片２点（85ｂ・85ｃ），剥片１点（85ａ）の接合資料である。３つに分割された剥片の内，85ｂ・85ｃは左側縁に調整加工を行っている。あるいはこの２点も１個体であったものが欠損したものかもしれない。B（87）は剥片２点（１個体）の接合資料である。86・88～90は接合しなかった同一母岩の資料である。86は加工痕ある剥片である。左側縁に調整加工を行っている。88は局部磨製石斧である。片面に自然面を残す剥片を素材として，周辺に末端が階段状となる調整加工を行っている。刃部側の研磨痕として図示した面は自然面の可能性もある。89･90は石斧の調整剥片と考えられる。

・C1-５（第21図91～93）　オリーブ灰色（5GY6/1）などの安山岩である。剥片10点，砕片２点の合計12点で構成される。91は剥片２点（92・93）の接合資料である。92→93の順に上方向から不定型な剥片を剥離している。

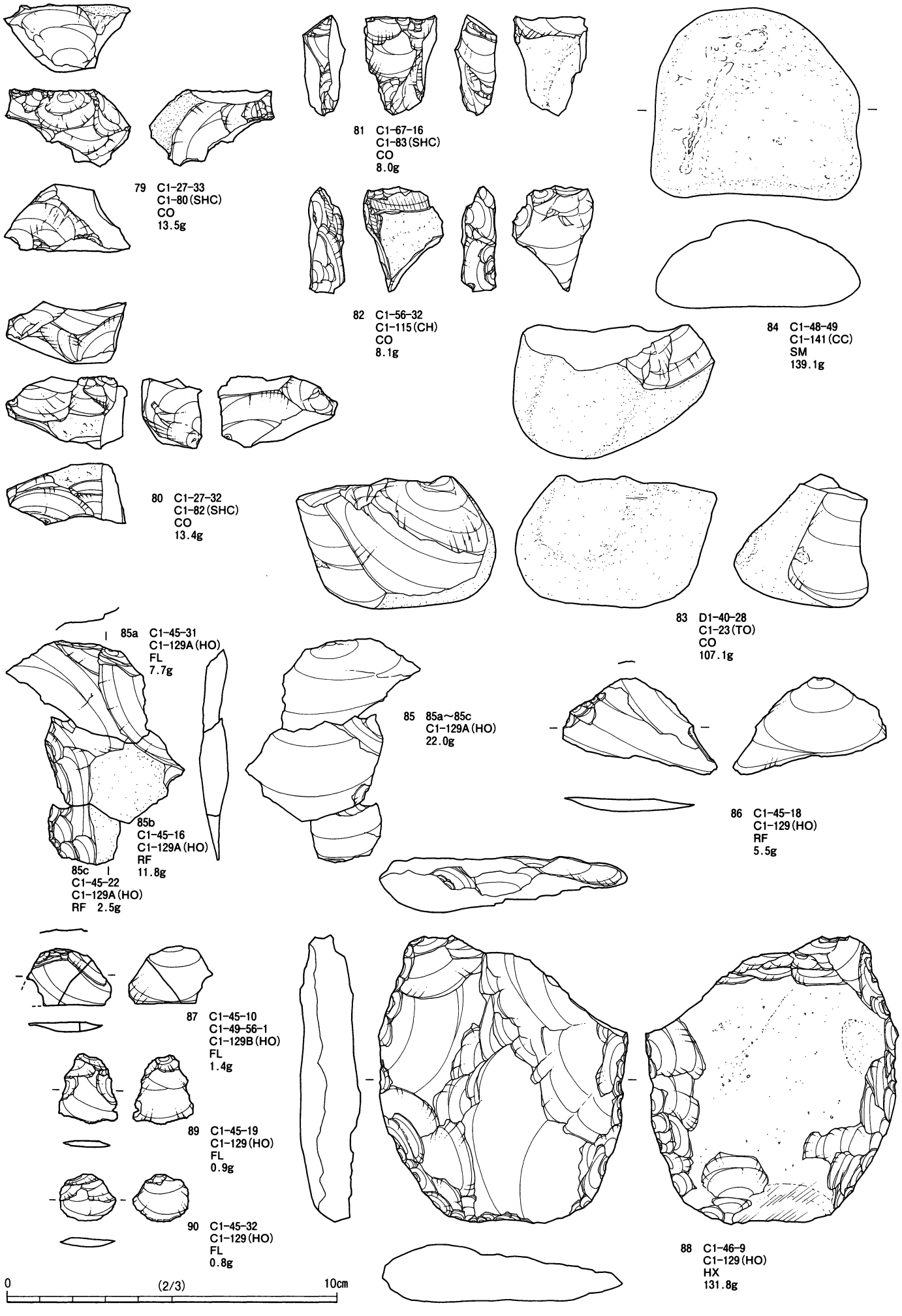
・C1-１（第21図94～96）　漆黒色不透明の黒曜石である。栃木県高原山産と考えられる。使用痕ある剥片１点，砕片１点の合計２点で構成される。94は使用痕ある剥片１点（95），砕片１点（96）の接合資料である。95は末端と右側縁に微細な剥離痕が見られる。

・C1-47（第21図97～100）　灰色（7.5Y4/1）などの嶺岡産頁岩である。加工痕ある剥片１点，剥片２点の合計３点で構成される。97は加工痕ある剥片１点（100），剥片２点（98・99）の接合資料である。98→99→100の順に上方向から不定型な剥片を剥離している。100は裏面末端に調整加工を行っている。

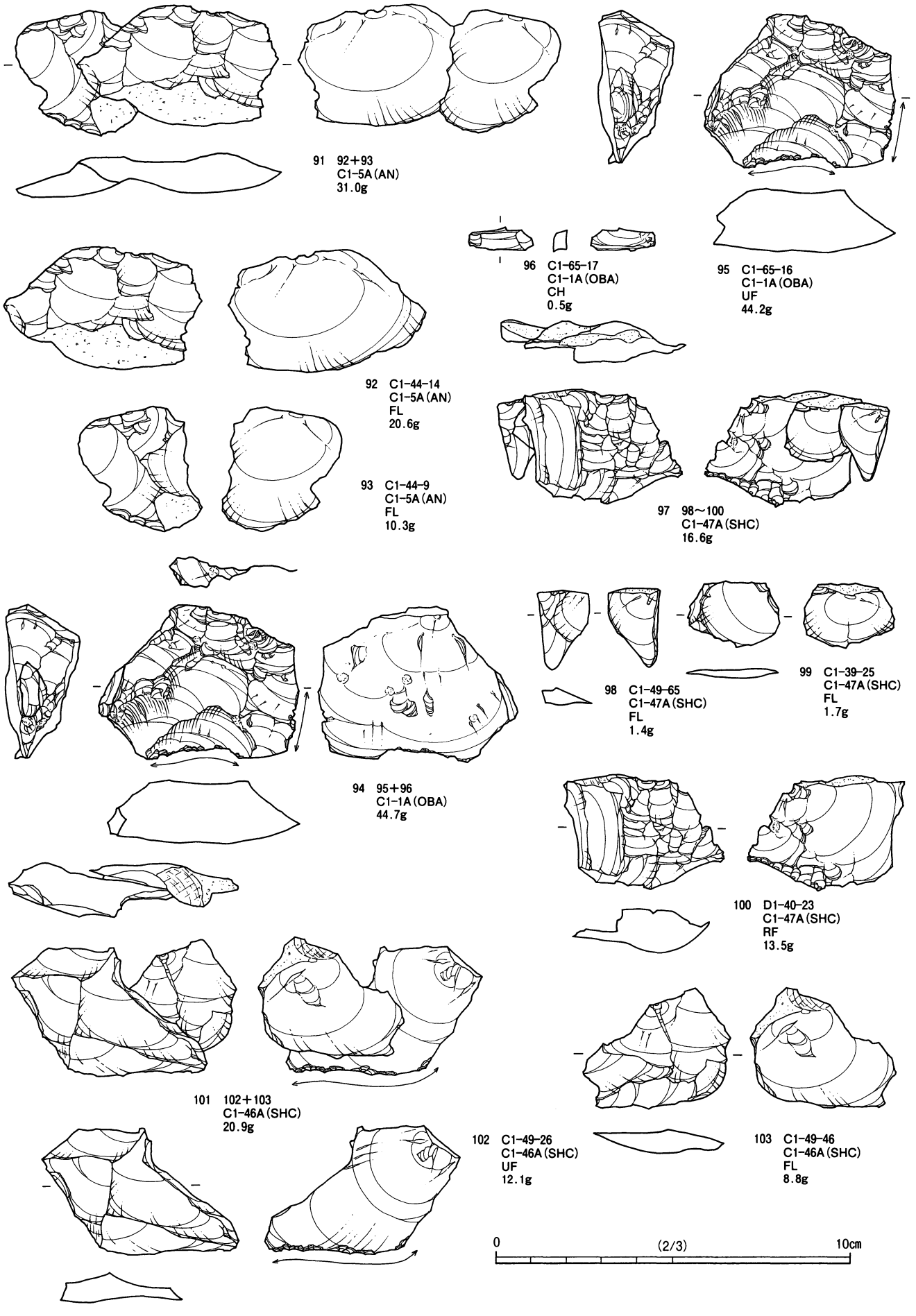
・C1-46（第21図101～103）　暗灰黄色（2.5Y4/2）などの嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点で構成される。101は使用痕ある剥片１点（102），剥片１点（103）の接合資料である。102→103の順に上方向から不定型な剥片を剥離している。102は裏面末端に微細な剥離痕が見られる。

・C1-93（第22図104～106）　灰色(7.5Y6/1)の頁岩である。剥片２点で構成される。104は剥片２点(105･106）の接合資料である。105→106の順に上方向から不定型な剥片を剥離している。

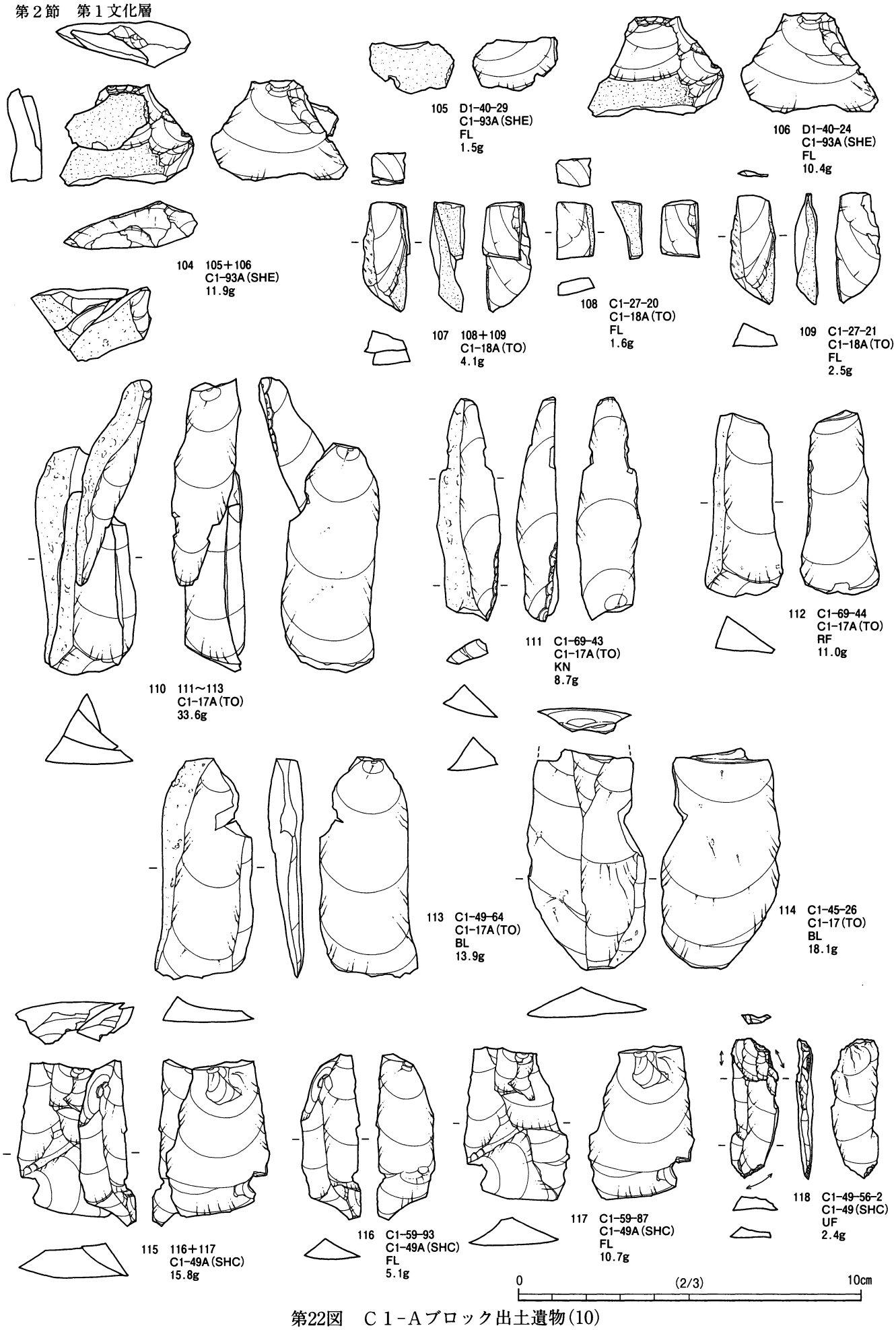
・C1-18（第22図107～109）　灰白色（5Y7/1）などの軟質の安山岩である。剥片５点で構成される。107は剥片２点（108・109）の接合資料である。109→108の順に上方向から縦長剥片を剥離している。



第20図　Ｃ１-Ａブロック出土遺物（８）



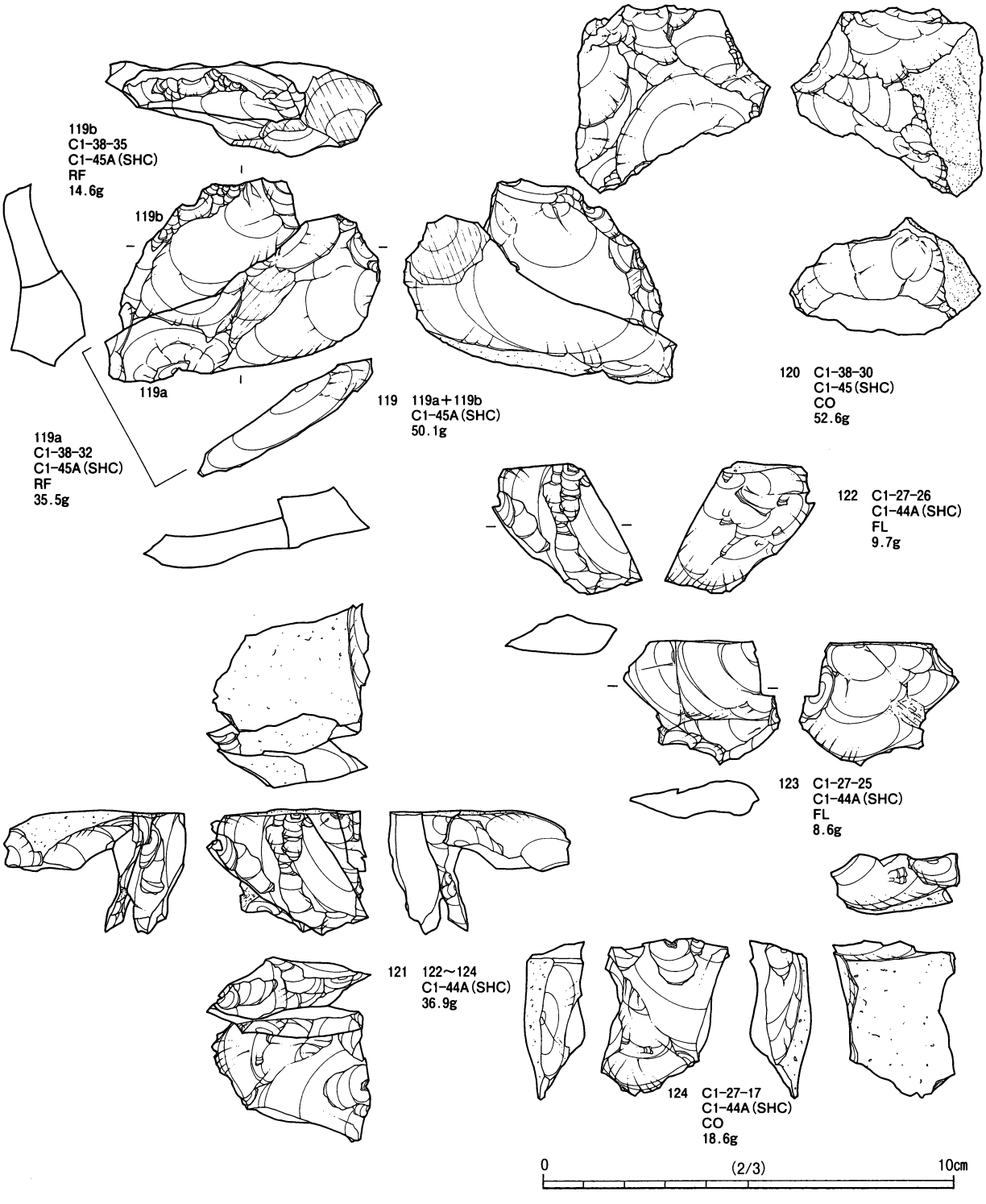
第21図　C1-Aブロック出土遺物(9)



第22図　Ｃ１-Ａブロック出土遺物(10)

・**C1-17（第22図110～114）**　灰白色（7.5Y7/1）などの軟質の安山岩である。ナイフ形石器1点，加工痕ある剥片1点，石刃2点，剥片3点の合計7点で構成される。110は部分加工のナイフ形石器1点(111)，加工痕ある剥片1点（112），石刃1点（113）の接合資料である。111は打面側を基部として，右側縁下部に調整加工を行っている。114は接合しなかった同一母岩の石刃である。

・**C1-49（第22図115～118）**　灰オリーブ色（5Y6/2）などの嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片1点，



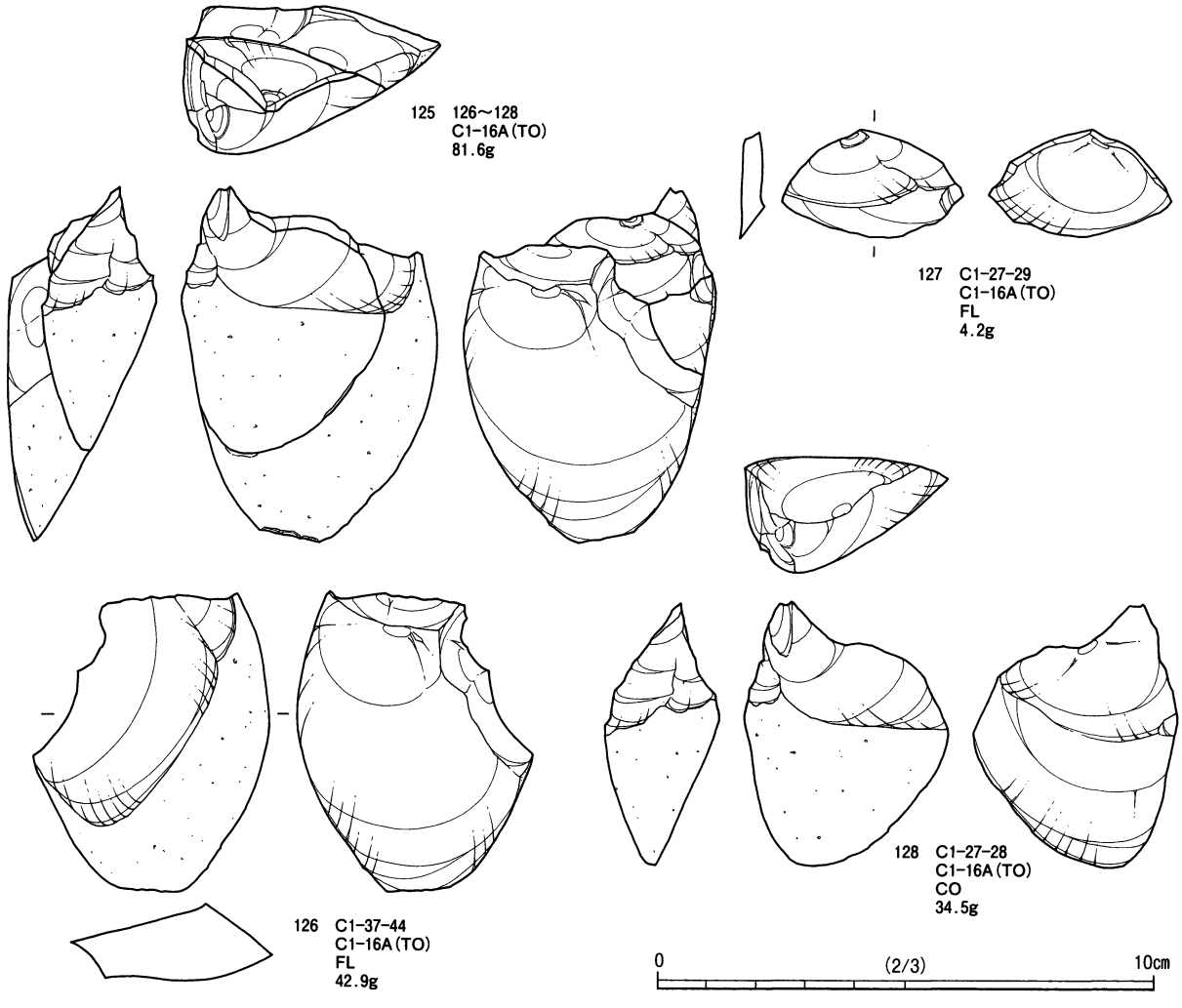
第23図　C1-Aブロック出土遺物(11)

剥片２点の合計３点で構成される。115は剥片２点（116・117）の接合資料である。116→117の順に上方向から石刃状の縦長剥片を剥離している。118は接合しなかった同一母岩の使用痕ある剥片である。石刃状の縦長剥片の末端と両側縁上部に微細な剥離痕が見られる。

・**C1-45（第23図119・120）**　にぶい黄褐色（10YR5/4）などの嶺岡産頁岩である。加工痕ある剥片２点，石核１点の合計３点で構成される。119は末端の一部に主要剥離面を切る細かい剥離痕が見られることから加工痕ある剥片とした。この個体が２つに欠損し，119ｂは裏面右側縁に比較的大きな調整加工を行っている。120は接合しなかった同一母岩の石核である。打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。

・**C1-44（第23図121～124）**　灰オリーブ色（7.5Y4/2）などの嶺岡産頁岩である。剥片２点，石核１点の合計３点で構成される。121は剥片２点（122・123），石核１点（124）の接合資料である。122→123の順に上方向から剥離し，90度打面を転移して124を剥離している。124は素材の主要剥離面側に残る剥離痕から，その後も不定型な剥片を剥離したことが分かる。

・**C1-16（第24図）**　灰色（7.5Y6/1）などの軟質の安山岩である。剥片８点，石核１点の合計９点で構成される。125は剥片２点（126・127），石核１点（128）の接合資料である。127・128→126の順に上方向から剥離した後，127・128は素材の表面側の剥離面を打面として，127を含む不定型な剥片を剥離している。



第24図　Ｃ１-Ａブロック出土遺物(12)

第1表　C1-Aブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
C1-1(OBA)											1								1						2
C1-2(OBA)																		1							1
C1-3(OBA)											1														1
C1-4(OBG)											3(1)							1							4(2)
C1-5(AN)																		10	2						12
C1-6(AN)																		3							3
C1-7(AN)																		3	1						4
C1-8(AN)											1														1
C1-9(AN)											1														1
C1-10(AN)											1														1
C1-11(AN)										1															1
C1-12(AN)																				1					1
C1-13(AN)																		1							1
C1-14(AN)																		1							1
C1-15(AN)																				1					1
C1-16(TO)																		8		1					9
C1-17(TO)	1									1		2						3							7
C1-18(TO)																		5							5
C1-19(TO)																		2							2
C1-20(TO)																		1							1
C1-21(TO)																		1							1
C1-22(TO)																		1							1
C1-23(TO)																				1					1
C1-25(RH)												1													1
C1-26(RH)											1														1
C1-27(RH)												1													1
C1-28(SHB)	1																	1							2
C1-29(SHB)									1		1														2
C1-30(SHB)											1							2							3
C1-31(SHB)																		1							1
C1-32(SHB)	1																								1
C1-33(SHB)	1																								1
C1-34(SHB)											1														1
C1-35(SHB)											1														1
C1-36(SHB)											1														1
C1-37(SHB)											1														1
C1-38(SHB)																				1					1
C1-39(SHB)																		2							2
C1-40(SHB)																		1							1
C1-41(SHB)																		1							1
C1-42(SHB)																		1							1
C1-43(SHB)																		1							1
C1-44(SHC)																		2		1					3
C1-45(SHC)										2										1					3
C1-46(SHC)											1							1							2
C1-47(SHC)										1								2							3
C1-48(SHC)										2(1)															2(1)
C1-49(SHC)											1							2							3
C1-50(SHC)										2	1							9	1						13
C1-51(SHC)	1										1							2							4
C1-52(SHC)																		7							7
C1-53(SHC)												2						1							3
C1-54(SHC)											1							1							2
C1-55(SHC)																		3							3
C1-56(SHC)												1						2							3
C1-57(SHC)		1																1	1						3
C1-58(SHC)		1																							1
C1-59(SHC)											1														1
C1-60(SHC)											1														1
C1-61(SHC)											1														1

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
C1-62(SHC)											1														1
C1-63(SHC)																		1							1
C1-64(SHC)																		1							1
C1-65(SHC)																		1							1
C1-66(SHC)																		1							1
C1-67(SHC)																		1							1
C1-68(SHC)																		1							1
C1-69(SHC)																		1							1
C1-70(SHC)																		1							1
C1-71(SHC)																		1							1
C1-72(SHC)																		1							1
C1-73(SHC)																		2							2
C1-74(SHC)																		1							1
C1-75(SHC)																		1							1
C1-76(SHC)																				1					1
C1-77(SHC)																				1					1
C1-78(SHC)																		1							1
C1-79(SHC)																				1					1
C1-80(SHC)																				1					1
C1-81(SHC)									1																1
C1-82(SHC)																				1					1
C1-83(SHC)																				1					1
C1-84(SHD)																		1							1
C1-85(SHD)											1														1
C1-86(SHD)																		1							1
C1-87(SHD)											1														1
C1-88(SHD)											1														1
C1-89(SHD)											1														1
C1-90(SHD)																		1							1
C1-91(SHD)																		2							2
C1-92(SHD)																		1							1
C1-93(SHE)																		2							2
C1-94(SHE)						1																			1
C1-95(SHE)												1													1
C1-96(SHE)																		1							1
C1-97(SHE)																		1							1
C1-98(SHE)																		1							1
C1-99(SHE)																		1							1
C1-100(CH)									2(1)									3(2)							5(3)
C1-101(CH)										1	1							2							4
C1-102(CH)		2																1							3
C1-103(CH)						1																			1
C1-104(CH)						1					1														2
C1-105(CH)																		1		1					2
C1-106(CH)									1									3							4
C1-107(CH)					1																				1
C1-108(CH)																		1							1
C1-109(CH)																		1							1
C1-110(CH)																		1							1
C1-111(CH)																		1							1
C1-113(CH)																		1							1
C1-114(CH)																				1					1
C1-115(CH)																				1					1
C1-116(TU)											1														1
C1-117(TU)														1											1
C1-118(TU)																		3							3
C1-119(TU)																		2							2
C1-120(TU)																		1	1						2
C1-121(TU)																		1							1
C1-122(TU)																			1						1

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
C1-123(SA)														1											1
C1-124(SA)														1											1
C1-125(SA)														1											1
C1-126(SA)																		1							1
C1-127(SA)														1											1
C1-128(SA)																		1							1
C1-129(HO)										3				2				8(7)	1						14(13)
C1-131(HO)														1											1
C1-132(HO)																		1							1
C1-134(HO)																		1							1
C1-135(HO)																		1							1
C1-137(CC)									1									1	1						3
C1-138(CC)																		2							2
C1-139(CC)											2(1)														2(1)
C1-140(CC)	1																								1
C1-141(CC)																					1				1
C1-142(CC)																		1	1						2
C1-150(SHD)										1															1
C1-151(OBA)											2(1)														2(1)
D1-1(OBA)																				1					1
その他(AN)																			1						1
その他(SHC)																		6	1						7
合　計	6	4			1	3			6(5)	14(13)	35(31)	8		8				156(154)	13	17	1				272(264)

第2表　C1-Aブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
黒曜石A(OBA)											4(3)							1	1	1					7(6)
黒曜石G(OBG)											3(1)							1							4(2)
安山岩(AN)										1	3							18	4	2					28
安山岩(TO)	1									1		2						21		2					27
流紋岩(RH)											1	2													3
頁岩B(SHB)	3								1		6							10		1					21
頁岩C(SHC)	1	2							1	7(6)	9	3						54	3	8					88(87)
頁岩D(SHD)										1	4							6							11
頁岩E(SHE)						1						1						6							8
チャート(CH)		2			1	2			3(2)	1	2							15(14)		3					29(27)
凝灰岩(TU)											1			1				7	2						11
砂岩(SA)														4				2							6
ホルンフェルス(HO)										3				3				11(10)	1						18(17)
瑪瑙・玉髄(CC)	1								1		2(1)							4	2		1				11(10)
合　計	6	4			1	3			6(5)	14(13)	35(31)	8		8				156(154)	13	17	1				272(264)

第3表　C1-Aブロック礫組成表

母　岩	石 材	個数	重量
C1R-8	SA	1	21.8
C1R-9	SA	2	28.5
C1R-10	SA	1	7.5
C1R-15	CH	1	20.3
C1R-16	CH	1	9.7

母　岩	石 材	個数	重量
C1R-17	AN	2	1.8
C1R-18	AN	1	2.6
C1R-19	TU	1	9.6
C1R-20	TU	1	73.9
C1R-21	TU	1	91.0
C1R-22	HO	1	120.9
C1R-23	SP	1	112.8

石　材	個数	重量
安山岩(AN)	3	4.4
チャート(CH)	2	30.0
凝灰岩(TU)	3	174.4
砂岩(SA)	4	57.9
ホルンフェルス(HO)	1	120.9
その他(SP)	1	112.8
合　計	14	500.4

２　C1-Bブロック（第25～27図，第４・５表，カラー図版４・11，図版３）

１）ブロックの概要

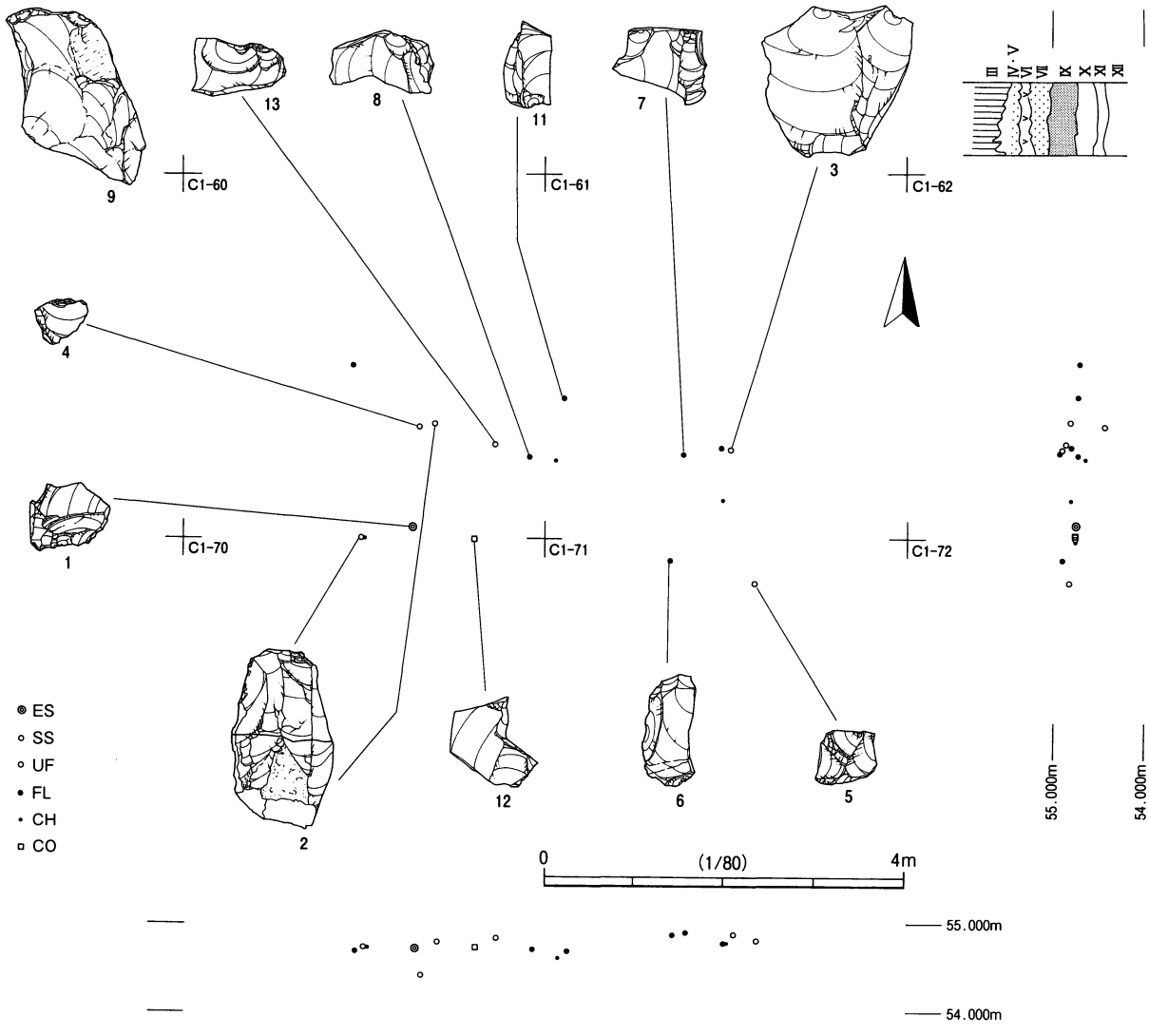
C1-Bブロックは，調査範囲北側のC1-60・61・70・71グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の西側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸５m，短軸３mの範囲に19点の石器が分布する。出土層位は，Ⅸ層を中心に，Ⅸ層からⅩ層にかけて，50cmほどの高低差をもって包含されている（第25・26図）。

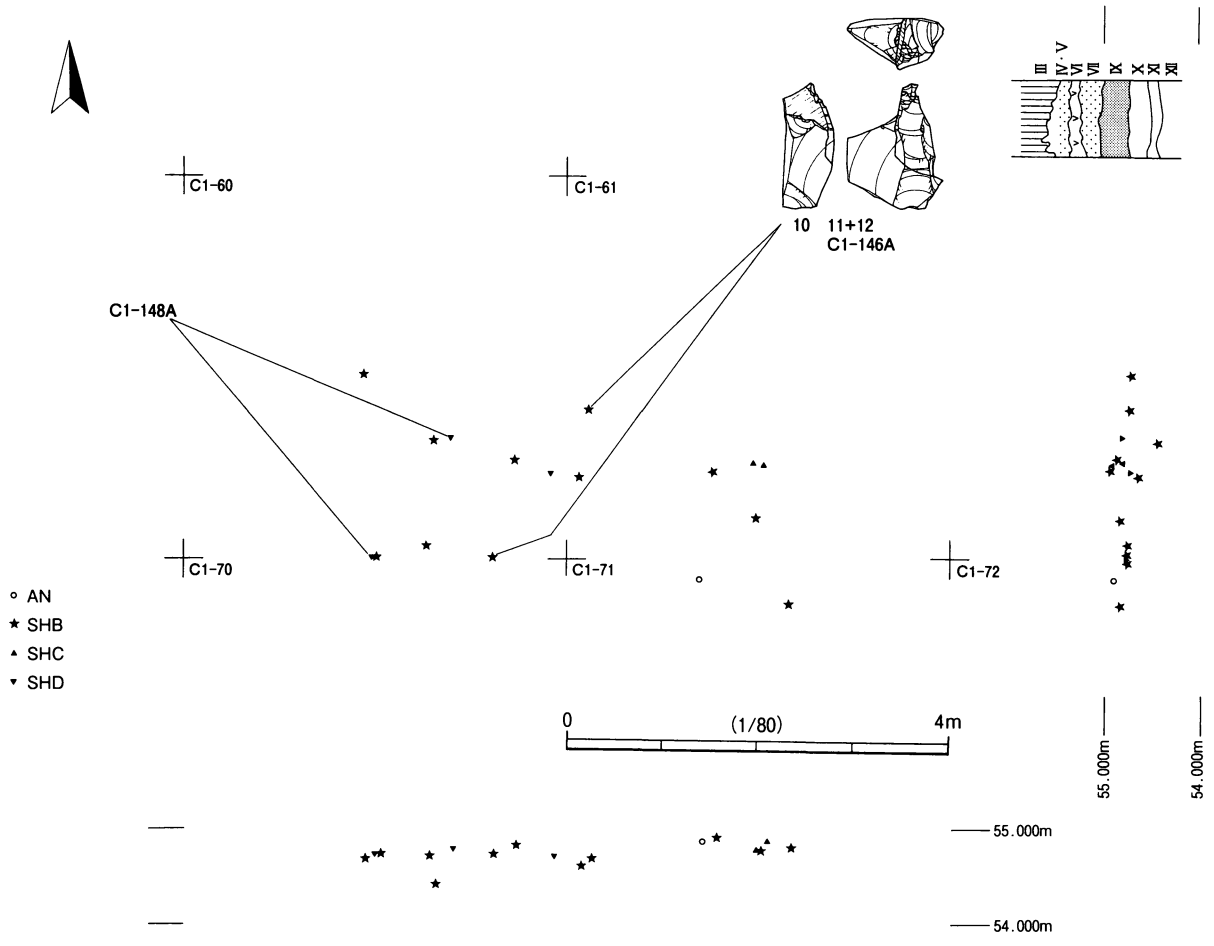
ブロックは，掻器１点，削器２点（１個体），使用痕ある剥片４点，剥片７点，砕片４点，石核１点の合計19点（18個体）で構成される。石器石材は，安山岩１点，頁岩B12点，頁岩C２点，頁岩D３点（２個体），チャート１点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは８母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（C1-143），頁岩B３母岩（C1-144～146），頁岩C１母岩（C1-147），頁岩D２母岩（C1-148・149），チャート１母岩（C1-103）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は95％（18/19点）である。



第25図　Ｃ１-Ｂブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第26図　C1-Bブロック出土遺物分布(2)－石材別分布－

第4表　C1-Bブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
C1-103(CH)																		1							1
C1-143(AN)																		1							1
C1-144(SHB)					1						2							1	3						7
C1-145(SHB)																		1	1						2
C1-146(SHB)											1							1		1					3
C1-147(SHC)											1														1
C1-148(SHD)						2(1)																			2(1)
C1-149(SHD)																		1							1
その他(SHC)																		1							1
合　計					1	2(1)					4							7	4	1					19(18)

第5表　C1-Bブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
安山岩(AN)																		1							1
頁岩B(SHB)					1						3							3	4	1					12
頁岩C(SHC)											1							1							2
頁岩D(SHD)						2(1)												1							3(2)
チャート(CH)																		1							1
合　計					1	2(1)					4							7	4	1					19(18)

・**C1-103**：オリーブ灰色（5GY5/1）などのチャートである。母岩の特徴はC1-Aに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（23.9ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がC1-Aブロックに１点ある。

・**C1-143**：内部は灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片１点（9.7ｇ）の単独資料である。

・**C1-144**：内部は暗灰黄色(2.5Y5/2)，新鮮な面は灰色(N4/0)の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，掻器１点，使用痕ある剥片２点，剥片１点，砕片３点の合計７点（10.5ｇ）である。

・**C1-145**：黄褐色(2.5Y5/3)の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点，砕片１点の合計２点(5.4ｇ）である。

・**C1-146**：内部及び節理はにぶい黄褐色（10YR5/3）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片１点，石核１点の合計３点（18.5ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（15.6ｇ）である。

・**C1-147**：黄褐色（2.5Y5/3）・灰オリーブ色（7.5Y5/2）の地にオリーブ黄色（5Y6/3）が混じる嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点（28.9ｇ）の単独資料である。

・**C1-148**：自然面は爪形の裂痕が密でにぶい赤褐色（2.5YR4/4），内部は黒褐色（10YR3/2）・褐色（10YR4/4）・黒褐色（10YR3/1）・にぶい赤褐色（2.5YR4/4）が縞状に入る硬質緻密な頁岩である。削器２点（１個体；44.4ｇ）である。

・**C1-149**：オリーブ褐色（2.5Y4/3）・灰色（7.5Y4/1）・灰白色（5Y7/2）の硬質緻密な頁岩である。本ブロックでは剥片１点（4.7ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がD1-Aブロックに１点ある。

なお，母岩分類できなかった資料に，嶺岡産頁岩の剥片１点（0.7ｇ）がある。

３）出土遺物（第27図１～９）

１は北関東産頁岩による掻器である。表面右側縁の両面末端に60度ほどの調整加工を行っている。

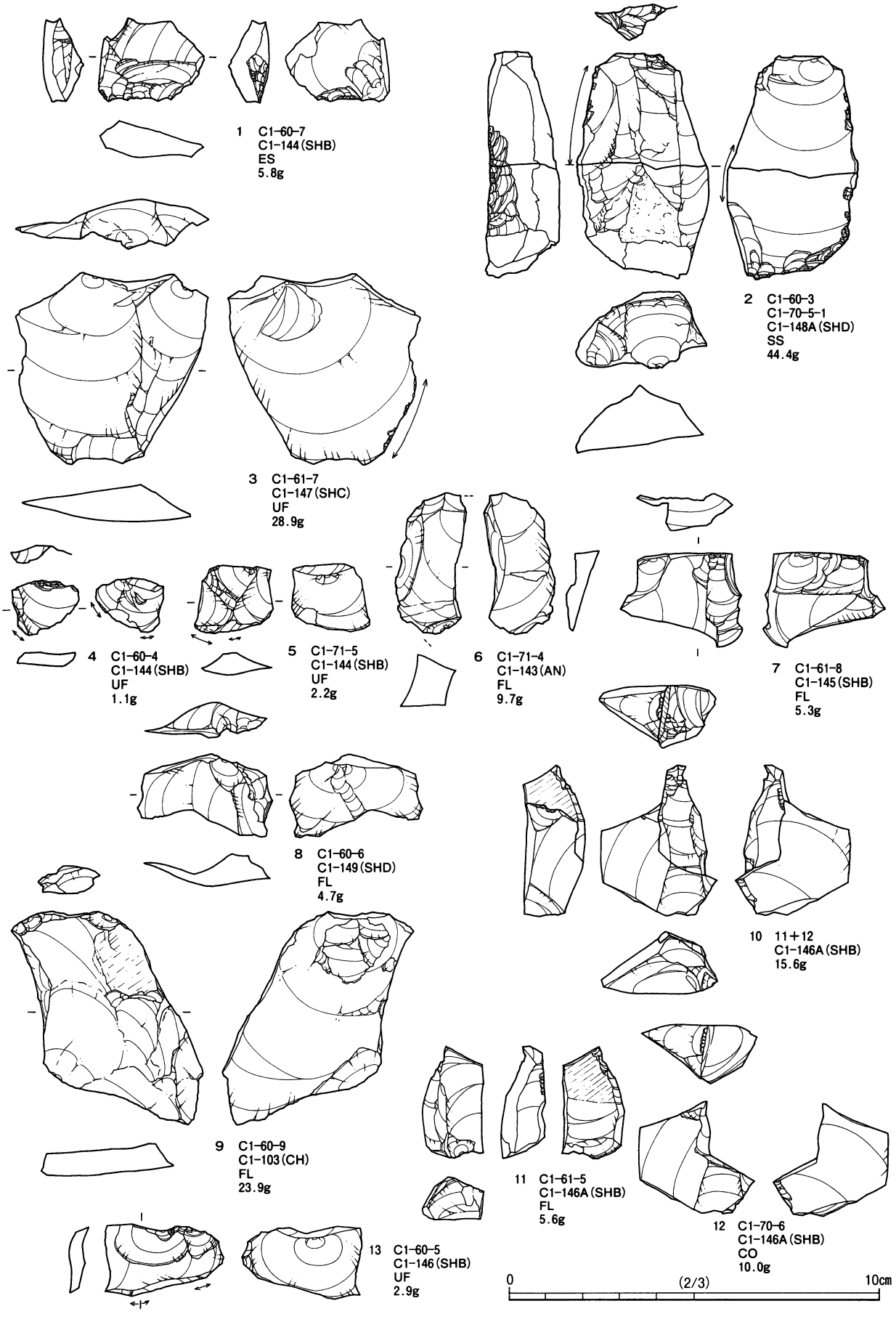
２は硬質緻密な頁岩による削器である。石核の底面を残す石刃状の縦長剥片を素材として，表面左側縁の下半部と裏面末端に調整加工を行っている。表面左側縁の上半部と裏面左側縁の一部に微細な剥離痕が見られる。

３は嶺岡産頁岩，４・５は北関東産頁岩による使用痕ある剥片である。３は裏面右側縁，４は両面末端と裏面左側縁，５は末端に微細な剥離痕が見られる。

６は安山岩，７は北関東産頁岩，８は硬質緻密な頁岩，９はチャートによる剥片である。

４）接合資料とその関連資料（第27図10～13）

・**C1-146（第27図10～13）**　にぶい黄褐色（10YR5/3）の北関東産頁岩である。使用痕ある剥片１点，剥片１点，石核１点の合計３点で構成される。10は剥片１点（11），石核１点（12）の接合資料である。大型の剥片の側面を加撃して11を剥離している。13は接合しなかった同一母岩の使用痕ある剥片である。末端に微細な剥離痕が見られる。



第27図　C1-Bブロック出土遺物

３　D1-Aブロック（第28～30図，第６・７表，カラー図版４，図版３）

１）ブロックの概要

D1-Aブロックは，調査範囲北側のD1-71・72グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は30mである。

ブロックの規模と形状は，長軸３m，短軸２mの範囲に27点と２mほど離れて１点の石器が分布する。出土層位は，Ⅸ層で，25cmほどの高低差をもって包含されている（第28・29図）。

ブロックは，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片１点，剥片７点，砕片17点，石核２点（１個体）の合計28点（27個体）で構成される。石器石材は，黒曜石A14点（13個体），黒曜石G９点，軟質の安山岩１点，流紋岩１点，頁岩C２点，頁岩D１点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは８母岩を識別した。内訳は，黒曜石A３母岩（C1-２・151，D1-１），軟質の安山岩１母岩（C1-16），流紋岩１母岩（D1-３），頁岩C２母岩（C1-54, D1-２），頁岩D１母岩（C1-149）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は68％（19/28点）である。

・**C1-２**：黒色不透明の黒曜石である。栃木県高原山産と考えられる。母岩の特徴はC1-Aブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（0.7g）の単独資料であるが，その他に同一母岩がC1-Aブロックに１点ある。

・**C1-16**：灰色（7.5Y6/1）などの軟質の安山岩である。母岩の特徴はC1-Aブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（7.7g）の単独資料であるが，その他に同一母岩がC1-Aブロックに９点ある。

・**C1-54**：灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。母岩の特徴はC1-Aブロックに記したとおりである。本ブロックでは使用痕ある剥片１点（7.4g）の単独資料であるが，その他に同一母岩がC1-Aブロックに２点ある。

・**C1-149**：オリーブ褐色（2.5Y4/3）などの硬質緻密な頁岩である。母岩の特徴はC1-Bブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（1.4g）の単独資料であるが，その他に同一母岩がC1-Bブロックに１点ある。

・**C1-151**：淡黒色半透明の黒曜石である。栃木県高原山産と考えられる。母岩の特徴はC1-Aブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片１点，砕片２点の合計４点（3.0g）である。その他に同一母岩がC1-Aブロックに２点ある。

・**D1-１**：淡黒色半透明の黒曜石である。栃木県高原山産と考えられる。母岩の特徴はC1-Aブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，剥片２点，砕片５点，石核２点（１個体）の合計９点（８個体；20.9g）である。接合資料は，石核２点（１個体;16.5g）で，C1-Aブロックの石核１点と接合している。

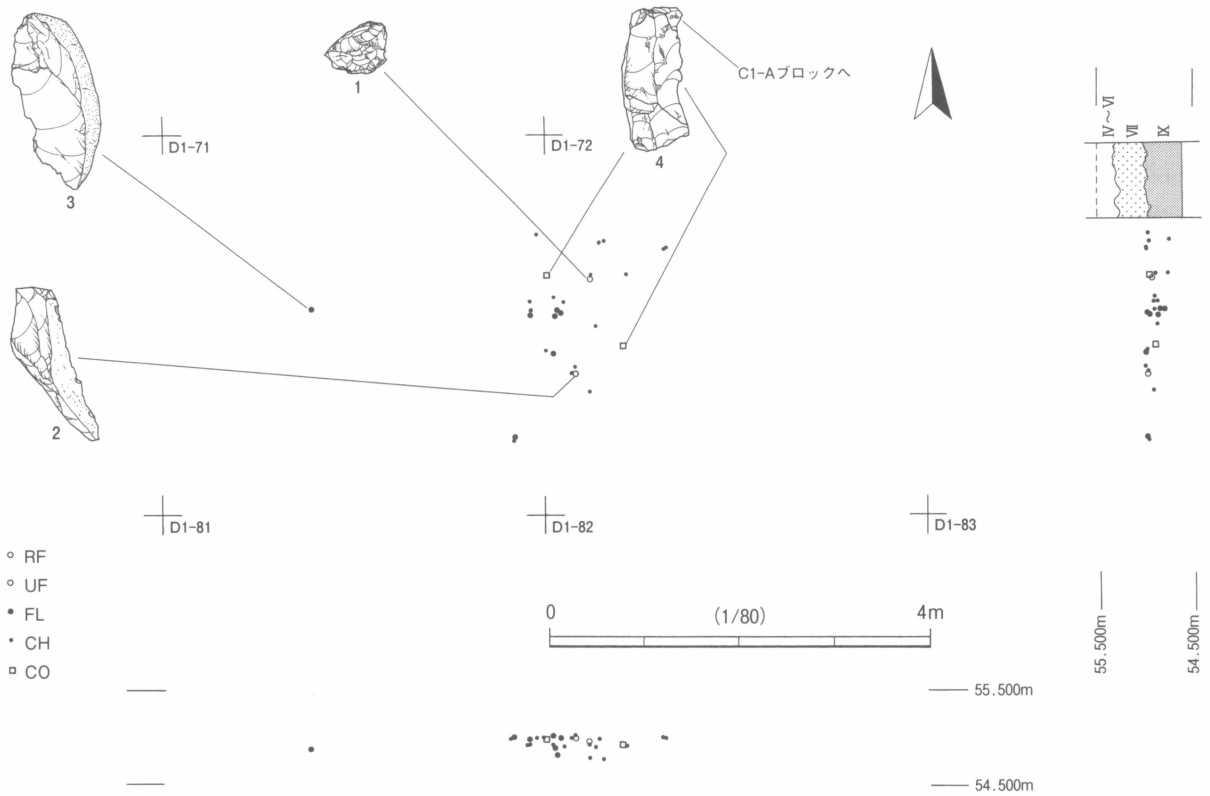
・**D1-２**：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3），内部及び新鮮な面はオリーブ褐色（2.5Y4/4）・黄灰色（2.5Y5/1）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（14.3g）の単独資料である。

・**D1-３**：暗褐色（7.5YR3/4）の流紋岩である。砕片１点（0.1g）の単独資料であるが，いわゆるイモ石の可能性が高い。

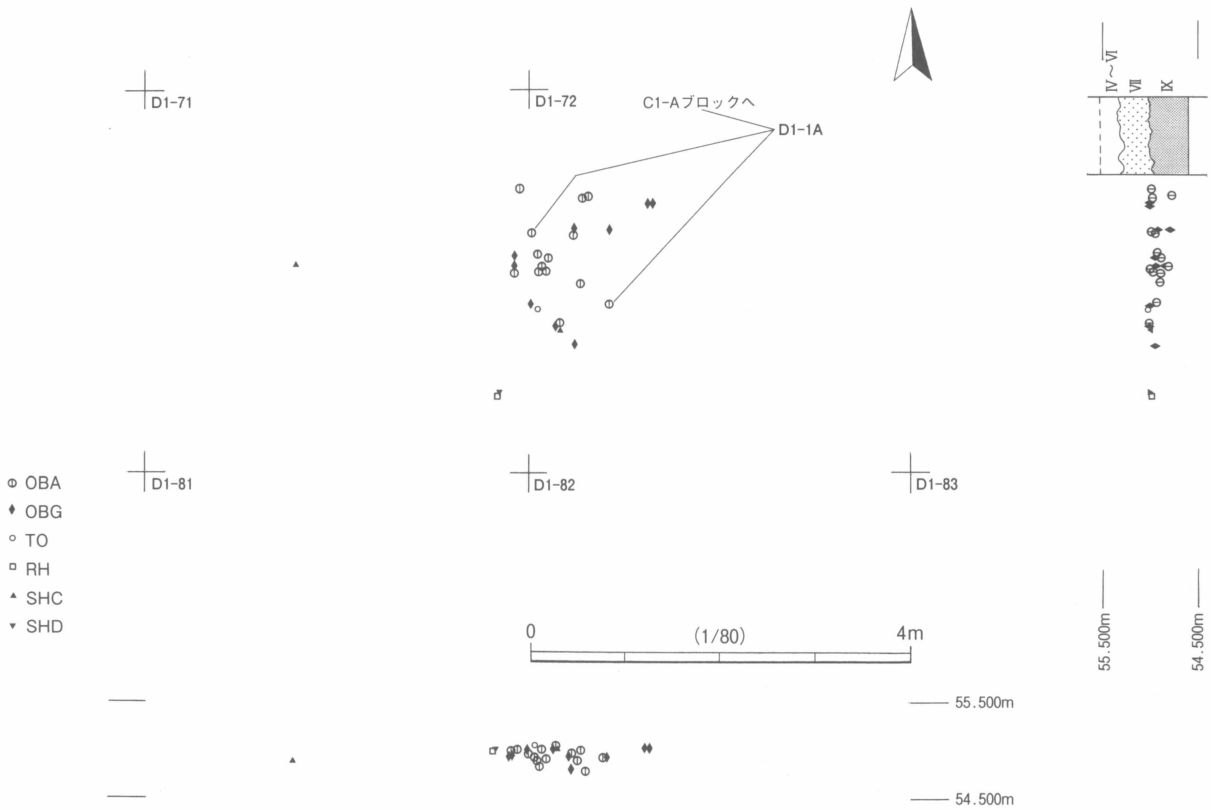
なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Gの砕片９点（1.3g）がある。

３）出土遺物（第30図）

１は栃木県高原山産の黒曜石による加工痕ある剥片である。末端の一部に調整加工を行っている。ある



第28図　D1-Aブロック出土遺物分布(1)－石器別分布－



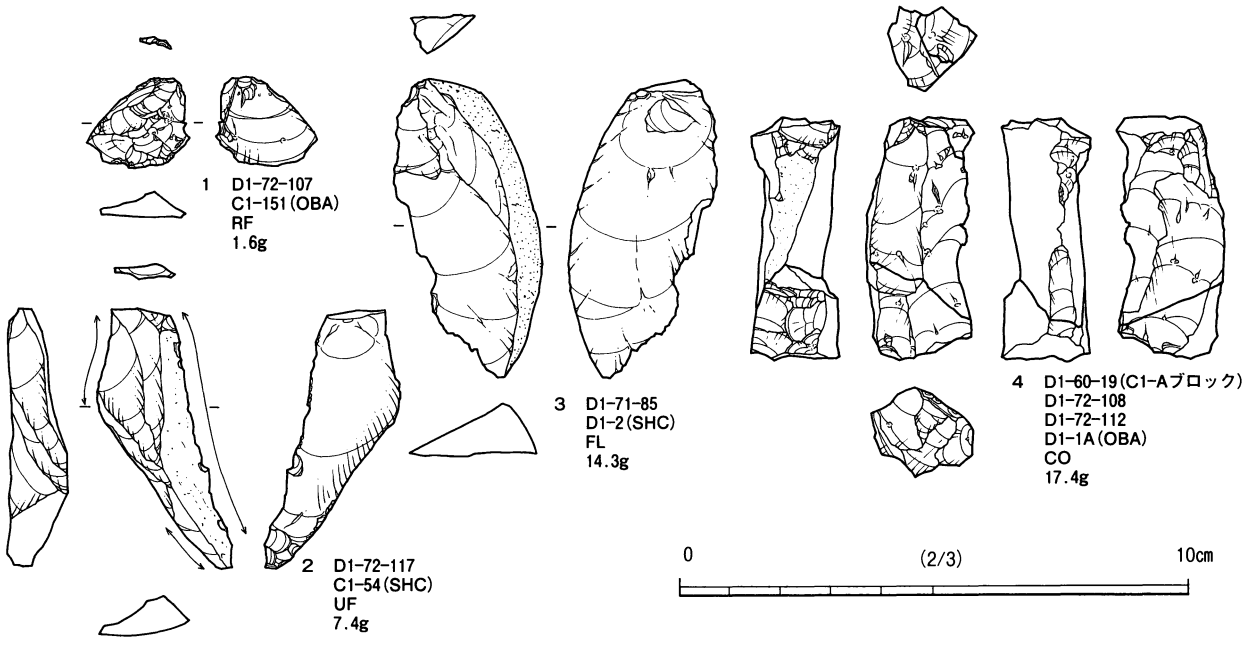
第29図　D1-Aブロック出土遺物分布(2)－石材別分布－

いは部分加工のナイフ形石器と考えられる。

２は嶺岡産頁岩による使用痕ある剥片である。石刃状の縦長剥片の両側縁に微細な剥離痕が見られる。

３は嶺岡産頁岩による石刃状の縦長剥片である。

４は栃木県高原山産の黒曜石による石核である。２点が接合して１個体となる。石刃状の縦長剥片の側面を加撃して小型で石刃状の縦長剥片を剥離している。



第30図　Ｄ１-Ａブロック出土遺物

第６表　Ｄ１-Ａブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
C1-2(OBA)																		1							1
C1-16(TO)																		1							1
C1-54(SHC)											1														1
C1-149(SHD)																		1							1
C1-151(OBA)										1								1	2						4
D1-1(OBA)																		2	5	2(1)					9(8)
D1-2(SHC)																		1							1
D1-3(RH)																			1						1
その他(OBG)																			9						9
合　計										1	1							7	17	2(1)					28(27)

第７表　Ｄ１-Ａブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石A(OBA)										1								4	7	2(1)					14(13)
黒曜石G(OBG)																			9						9
安山岩(TO)																		1							1
流紋岩(RH)																			1						1
頁岩C(SHC)											1							1							2
頁岩D(SHD)																		1							1
合　計										1	1							7	17	2(1)					28(27)

4　C2-Aブロック（第31～34図，第8・9表，カラー図版4・11）

1）ブロックの概要

C2-Aブロックは，調査範囲北側のC2-8・9・19グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は40mである。

ブロックの規模と形状は，長軸4m，短軸2mの範囲に11点の石器が分布するが，詳細に見ると，1mほどの空白部を挟んで，東西にそれぞれ長軸2m，短軸1mの分布域を形成している。出土層位は，Ⅶ層を中心として，30cmほどの高低差をもって包含されている（第31・32図）。

ブロックは，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片1点，剥片7点（6個体），石核2点の合計11点（10個体）で構成される。石器石材は，安山岩2点，頁岩C3点，頁岩D1点，チャート3点（2個体），ホルンフェルス1点，瑪瑙・玉髄1点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは8母岩を識別した。内訳は，安山岩2母岩（C2-1・2），頁岩C2母岩（C2-3・7），頁岩D1母岩（C1-150），チャート1母岩（C2-4），ホルンフェルス1母岩（C2-5），瑪瑙・玉髄1母岩（C2-6）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（11/11点）である。

・**C1-150**：黒色（2.5Y2/1）などの硬質緻密な頁岩である。母岩の特徴はC1-Aブロックに記したとおりである。本ブロックでは使用痕ある剥片1点（1.8g）の単独資料であるが，その他に同一母岩がC1-Aブロックに1点ある。

・**C2-1**：黄灰色（2.5Y4/1）の安山岩である。剥片1点（1.2g）の単独資料である。

・**C2-2**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰色（5Y5/1）の安山岩である。剥片1点（5.5g）の単独資料である。

・**C2-3**：自然面は比較的平滑で褐色（7.5YR4/3），内部はにぶい赤褐色（5YR4/4）・にぶい黄褐色（10YR5/4）・灰オリーブ色（7.5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（41.8g）である。接合資料は，剥片2点（41.8g）である。

・**C2-4**：自然面は平滑で，自然面及び内部は暗灰色（N3/0）の地に暗オリーブ灰色（5GY4/1）が混じるチャートである。石器群の内訳は，剥片2点（1個体），石核1点の合計3点（2個体;285.3g）である。接合資料は，剥片2点（1個体），石核1点の合計3点（2個体；285.3g）である。

・**C2-5**：自然面は比較的平滑で灰色（7.5Y4/1），内部は灰色（7.5Y4/1）の地に暗灰色（N3/0）が混じるホルンフェルスである。石核1点（284.6g）の単独資料である。

・**C2-6**：にぶい黄橙色（10YR7/4）の半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片1点（1.9g）の単独資料である。

・**C2-7**：自然面は比較的平滑で褐色（10YR4/4），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。加工痕ある剥片1点（5.3g）の単独資料である。

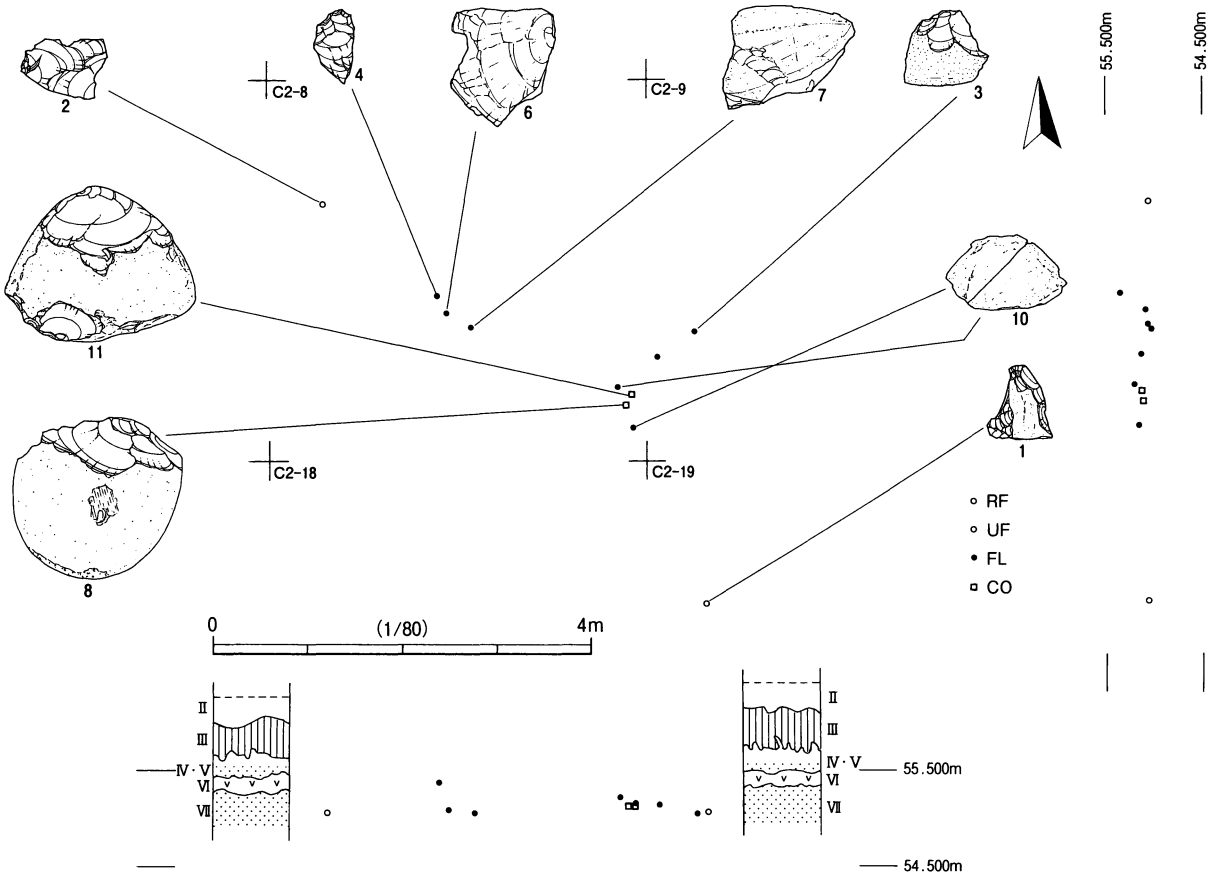
3）出土遺物（第33図1～4，第34図8）

1は嶺岡産頁岩による加工痕ある剥片である。左側面の折断面に調整加工を行っている。

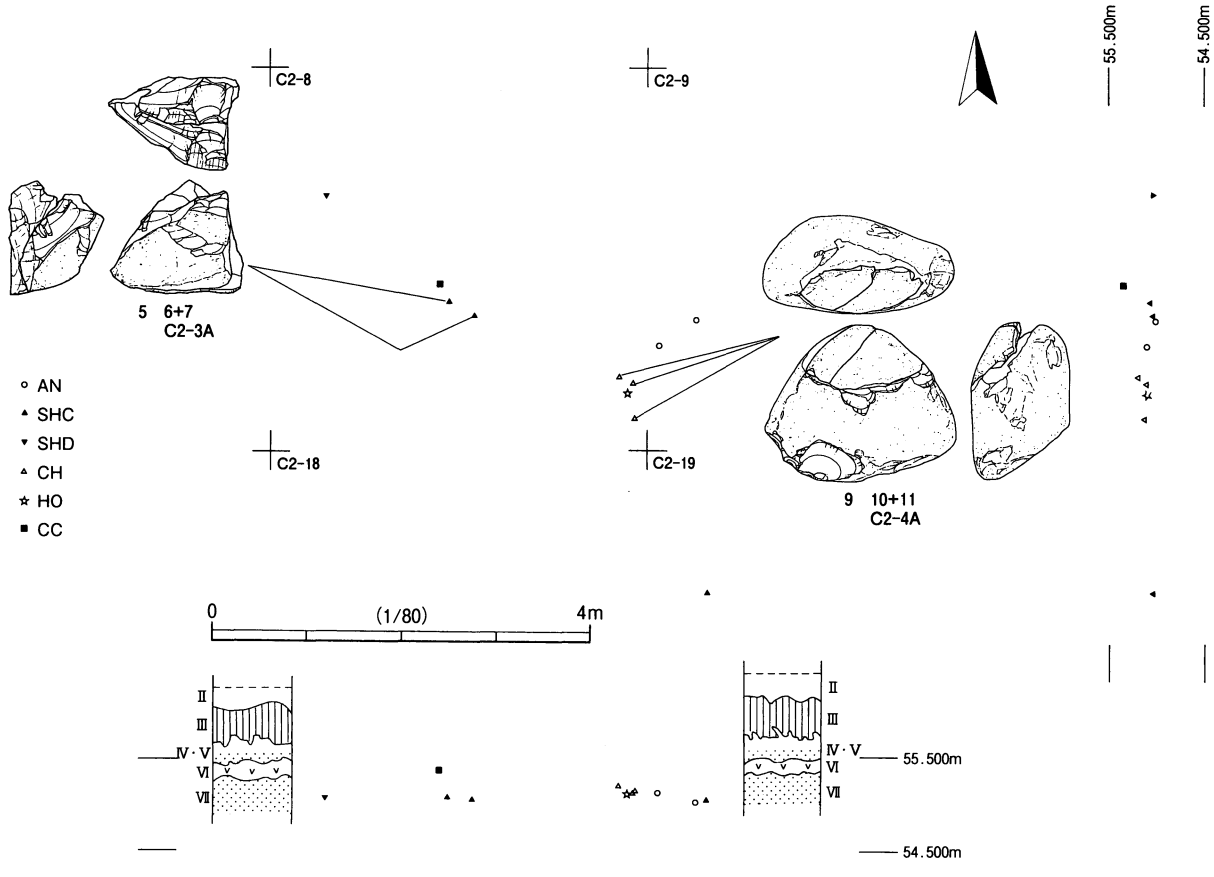
2は硬質緻密な頁岩による使用痕ある剥片である。末端に三日月状の剥離痕が見られる。

3は安山岩，4は瑪瑙・玉髄による不定型な剥片である。

8はホルンフェルスによる石核である。拳大の楕円礫を素材として，上部で打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。下部には敲打痕が見られる。



第31図　Ｃ２-Ａブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－

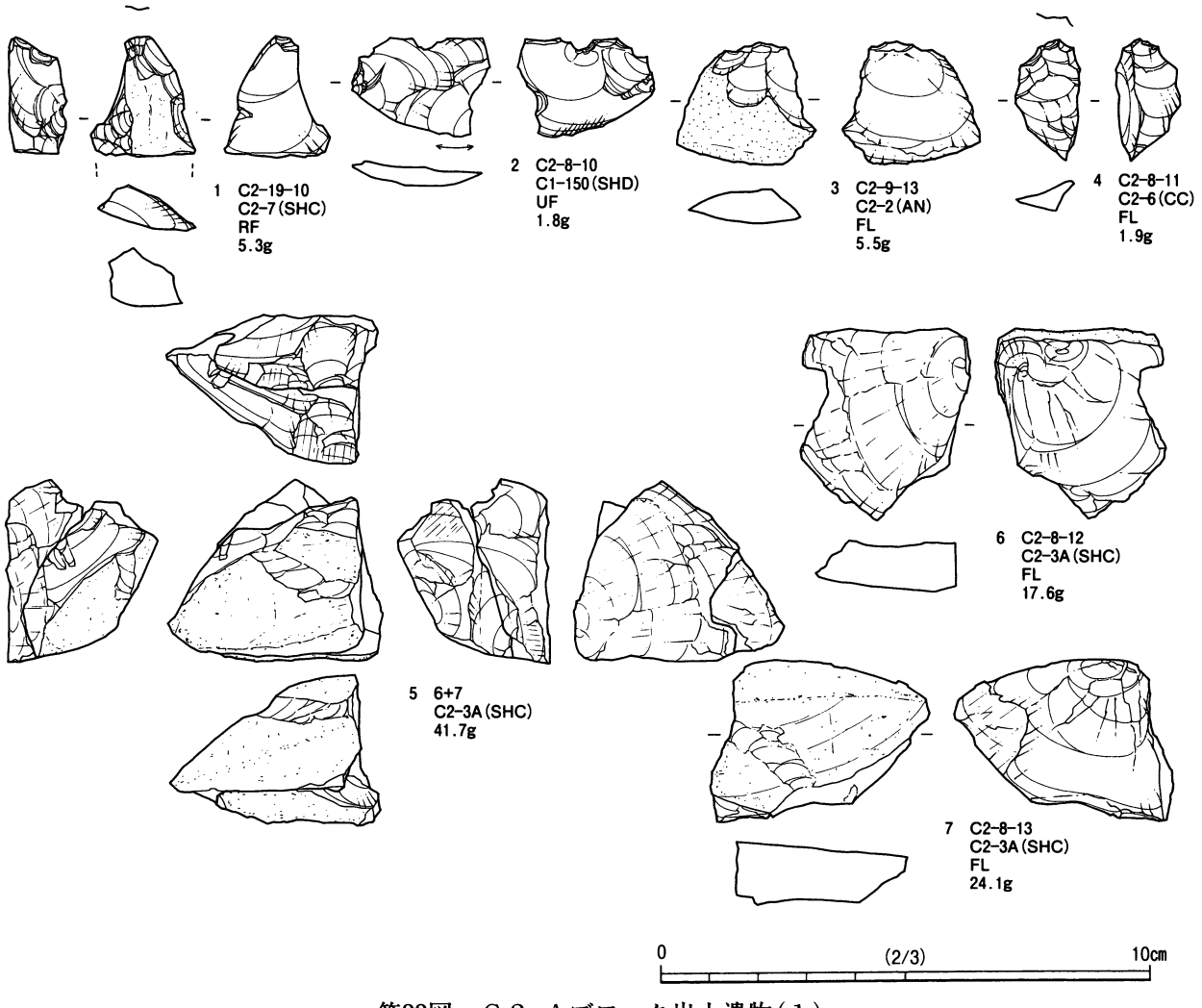


第32図　Ｃ２-Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

4）接合資料とその関連資料（第33図５～７，第34図９～11）

・C2-３（第33図５～７）　にぶい赤褐色（5YR4/4）などの嶺岡産頁岩である。剥片２点で構成される。５は剥片２点（６・７）の接合資料である。７の剥離とほぼ同時に，節理で６が剥離したと思われる。

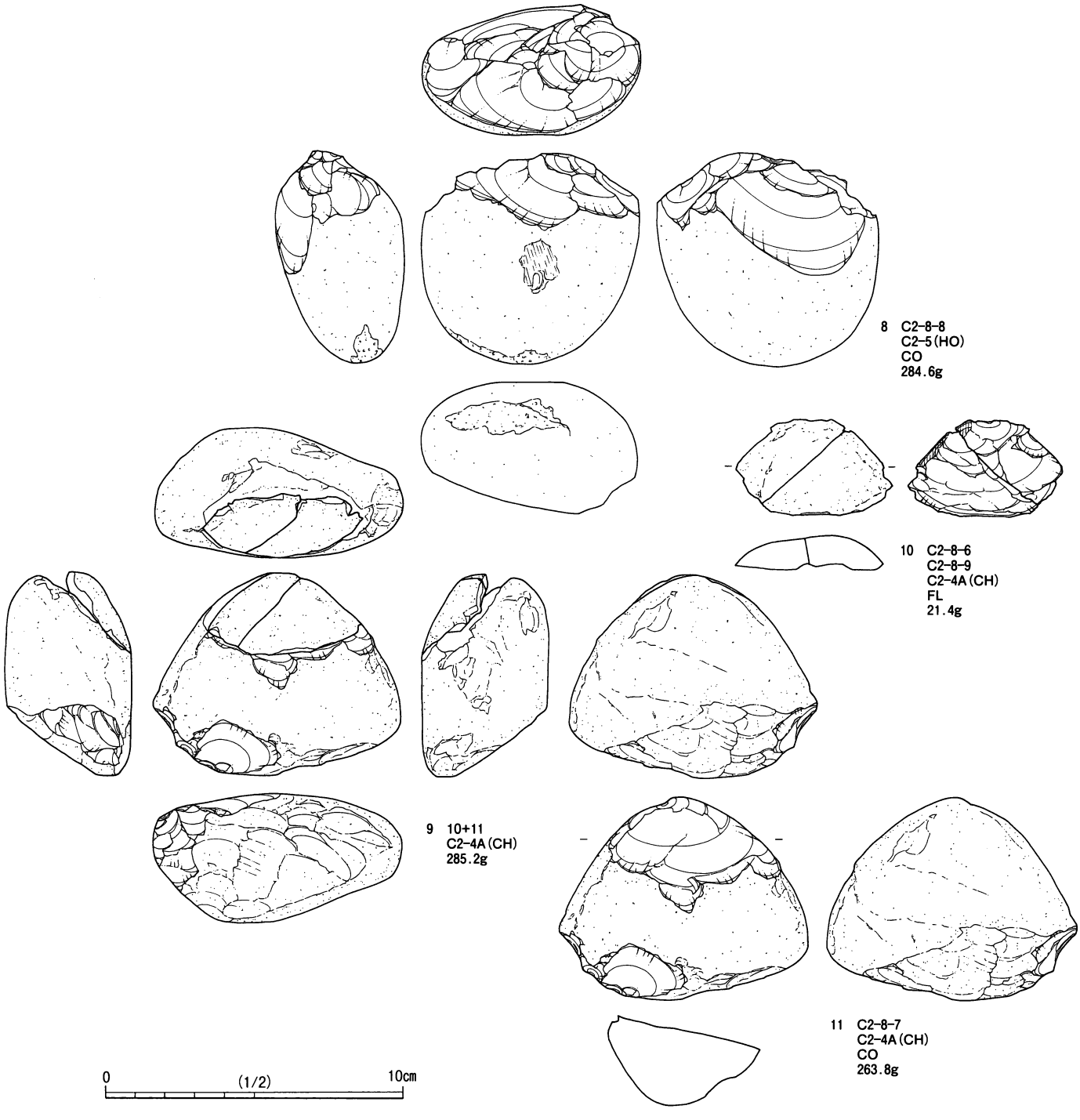
・C2-４（第34図９～11）　暗灰色（N3/0）などのチャートである。剥片２点（１個体），石核１点の合計３点で構成される。９は剥片２点（１個体；10），石核１点（11）の接合資料である。小振りな三角おむすびのような形状の礫から10を含む不定型な剥片を剥離している。



第33図　C２-Aブロック出土遺物（１）

第８表　C２-Aブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
C1-150(SHD)											1														1
C2-1(AN)																		1							1
C2-2(AN)																		1							1
C2-3(SHC)																		2							2
C2-4(CH)																		2(1)		1					3(2)
C2-5(HO)																				1					1
C2-6(CC)																		1							1
C2-7(SHC)										1															1
合　計										1	1							7(6)		2					11(10)



第34図　Ｃ２-Ａブロック出土遺物（２）

第９表　Ｃ２-Ａブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
安山岩(AN)																		2							2
頁岩C(SHC)										1								2							3
頁岩D(SHD)											1														1
チャート(CH)																		2(1)		1					3(2)
ホルンフェルス(HO)																				1					1
瑪瑙・玉髄(CC)																		1							1
合　計										1	1							7(6)		2					11(10)

5　C2-Bブロック（第35～37図，第10～12表，カラー図版4・11，図版3）

1）ブロックの概要

C2-Bブロックは，調査範囲北側のC2-28・29・38グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の西側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は30mである。

ブロックの規模と形状は，直径6mの範囲に12点の石器・礫が散漫な状態で分布する。出土層位は，調査時の所見によれば，Ⅶ層を中心として，40cmほどの高低差をもって包含されている（第35・36図）。

ブロックは，ナイフ形石器1点，加工痕ある剥片1点，剥片7点（6個体），砕片1点の合計10点（9個体）と礫2点で構成される。石器石材は，安山岩1点，頁岩B1点，頁岩E6点，ホルンフェルス2点（1個体）である。礫石材は，チャート1点（1母岩；116.2g），砂岩1点（1母岩；22.8g）で，識別率は100%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは4母岩を識別した。内訳は，安山岩1母岩（C2-22），頁岩B1母岩（C2-8），頁岩E1母岩（C2-9），ホルンフェルス1母岩（C2-10）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は90%（9/10点）である。

・**C2-8**：灰黄褐色（10YR4/2）の北関東産頁岩である。剥片1点（3.9g）の単独資料である。

・**C2-9**：内部は灰オリーブ色(7.5Y6/2)，新鮮な面は褐灰色(5YR4/1)の頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，剥片3点，砕片1点の合計5点(26.9g)である。接合資料は，加工痕ある剥片1点，剥片1点の合計2点（9.6g）である。

・**C2-10**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（7.5Y4/2）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片2点（1個体；25.7g）である。接合資料は，剥片2点（1個体；25.7g）である。

・**C2-22**：内部は灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片1点（2.3g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，頁岩のナイフ形石器1点（0.1g）がある。

3）出土遺物（第37図1・2）

1は北関東産頁岩，2はホルンフェルスによる不定型な剥片である。2は接合して1個体となる。

4）接合資料とその関連資料（第37図3～6）

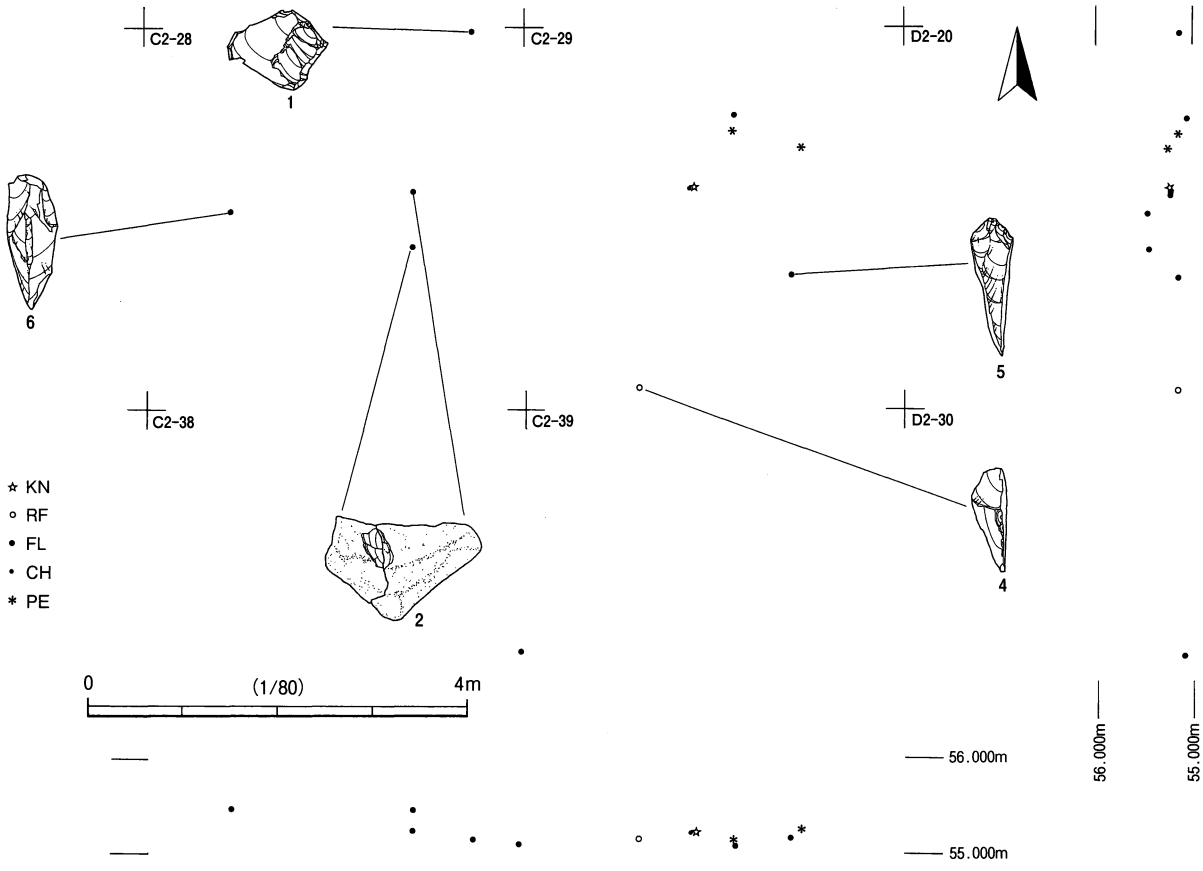
・**C2-9（第37図3～6）**　灰オリーブ色(7.5Y6/2)などの頁岩である。加工痕ある剥片1点，剥片3点，

第10表　C2-Bブロック母岩別石器組成表

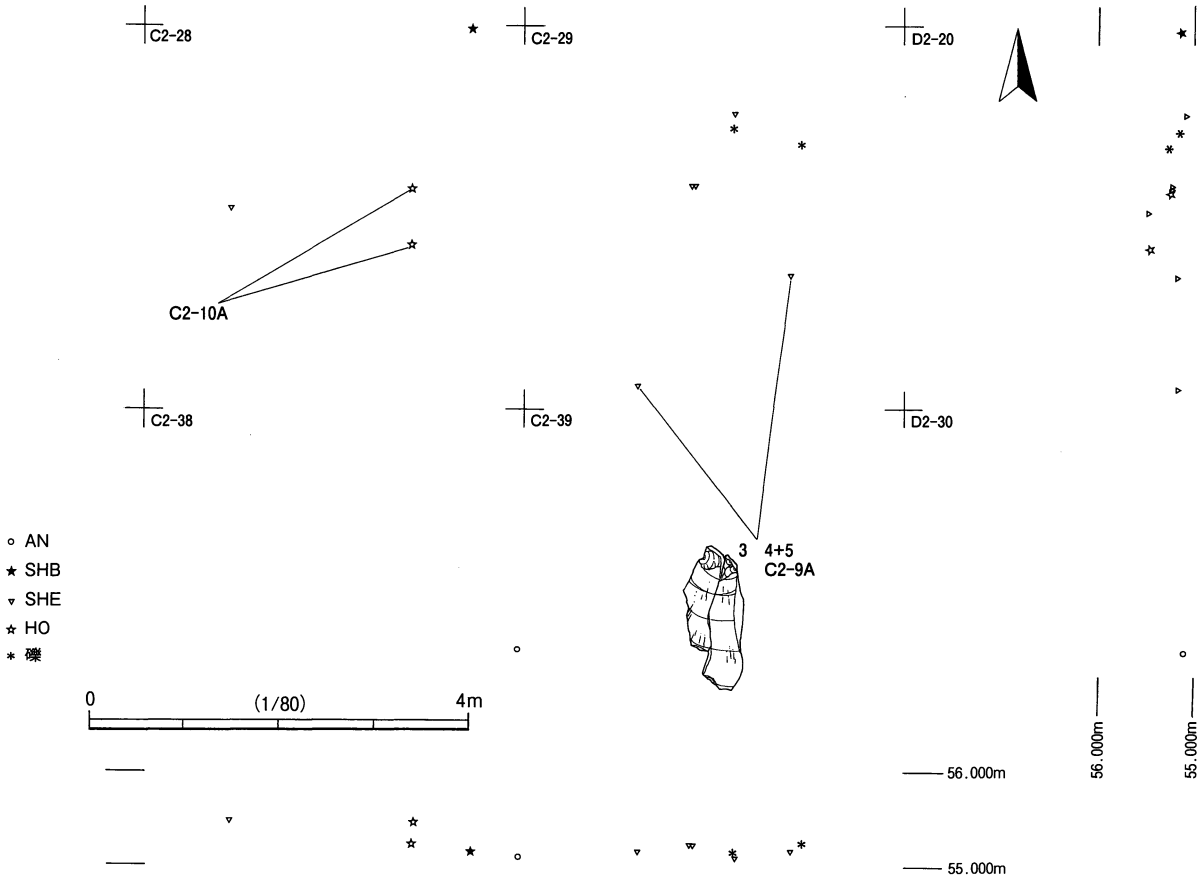
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
C2-8(SHB)																		1							1
C2-9(SHE)										1								3	1						5
C2-10(HO)																		2(1)							2(1)
C2-22(AN)																		1							1
その他(SHE)	1																								1
合　計	1									1								7(6)	1						10(9)

第11表　C2-Bブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
安山岩(AN)																		1							1
頁岩B(SHB)																		1							1
頁岩E(SHE)	1									1								3	1						6
ホルンフェルス(HO)																		2(1)							2(1)
合　計	1									1								7(6)	1						10(9)



第35図　Ｃ２-Ｂブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



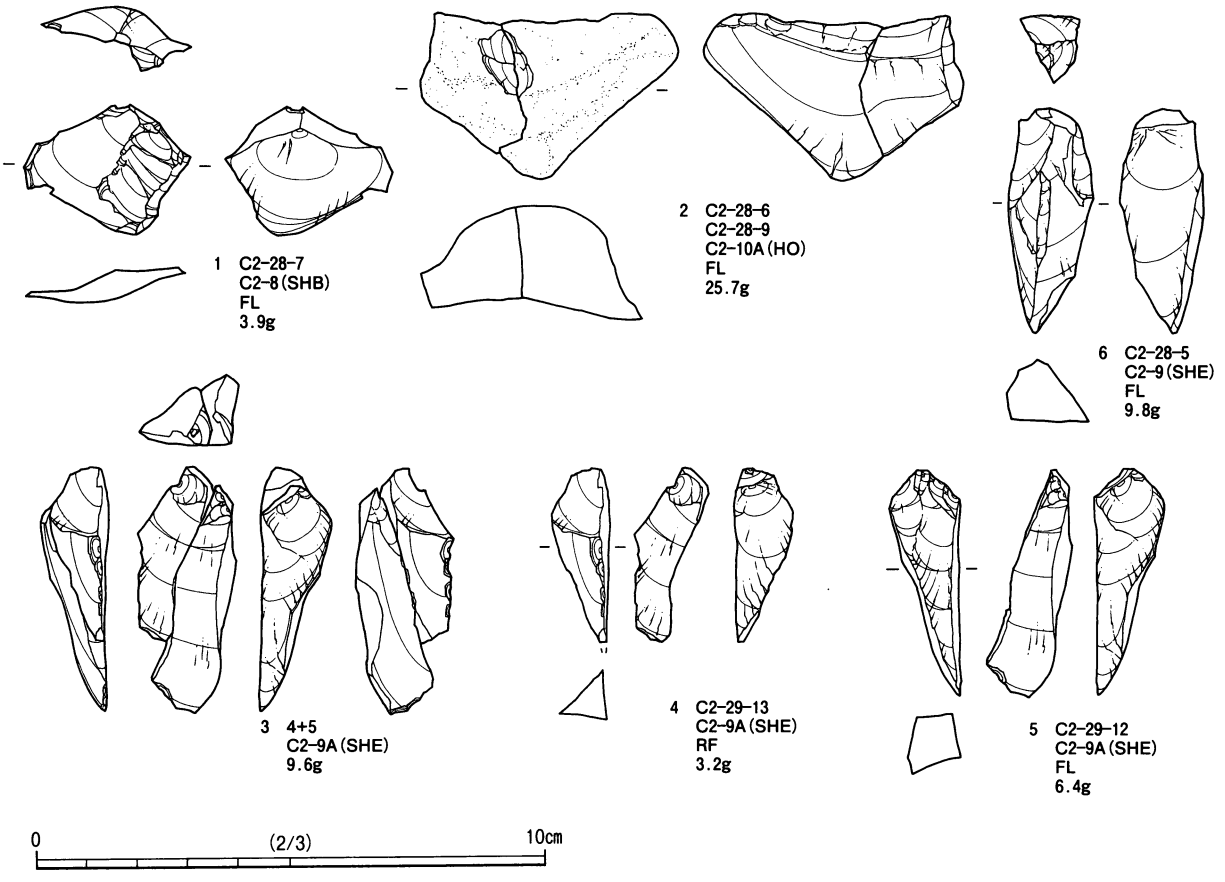
第36図　Ｃ２-Ｂブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

砕片１点の合計５点で構成される。３は加工痕ある剥片１点（４），剥片１点（５）の接合資料である。大型の剥片を素材とする石核の上方向から４→５の順に石刃状の縦長剥片を剥離している。４は加工痕ある剥片としたが，主要剥離面とは新旧関係がないことから，石核の段階の調整加工の可能性もある。６は接合しなかった同一母岩の石刃状の縦長剥片である。

第12表　C２-Bブロック礫組成表

母　岩	石 材	個数	重量
C2R-1	SA	1	22.8
C2R-2	CH	1	116.2

石　材	個数	重量
チャート(CH)	1	116.2
砂岩(SA)	1	22.8
合　計	2	139.0



第37図　C２-Bブロック出土遺物

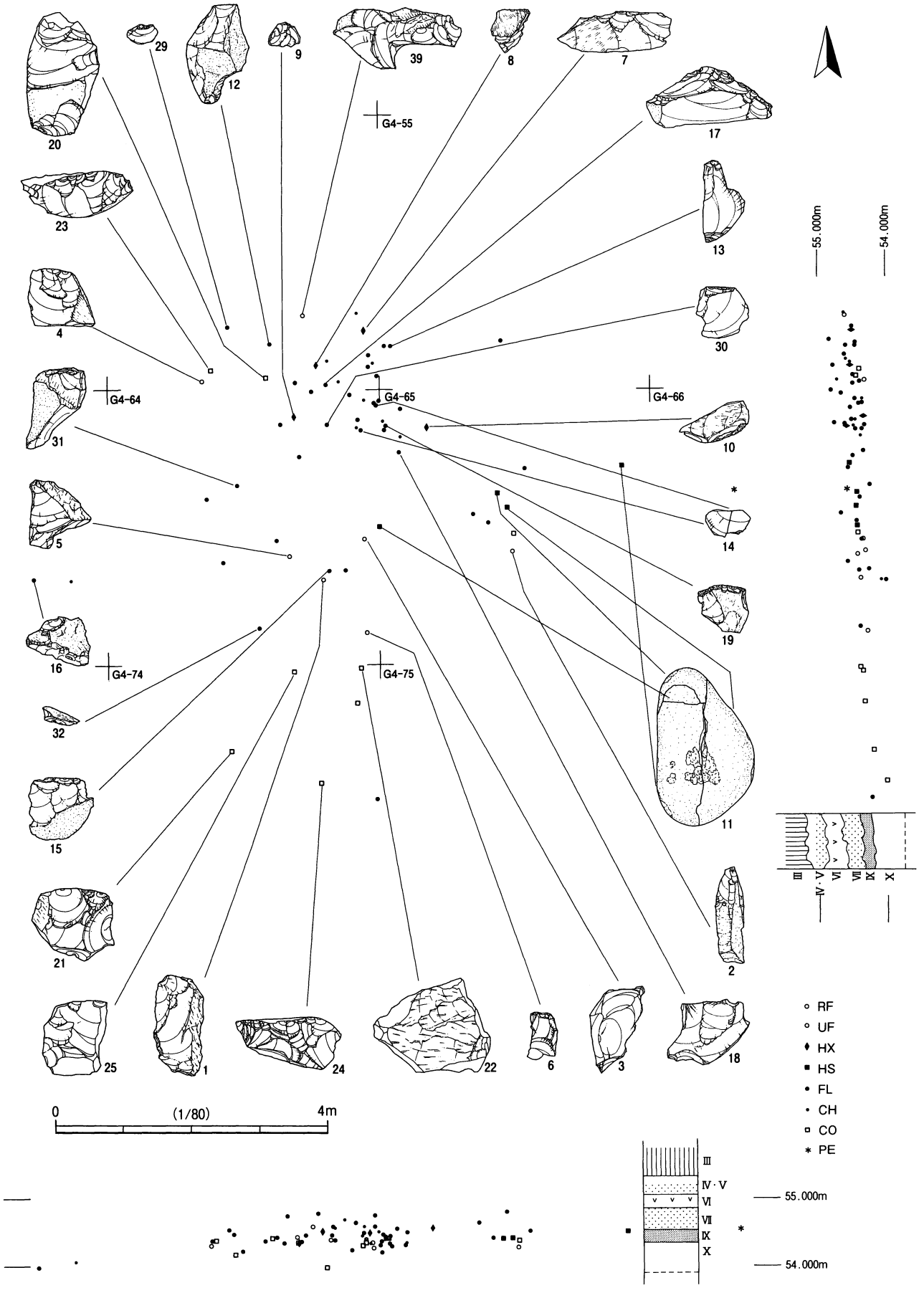
6　G4-Aブロック（第38～43図，第13～15表，カラー図版４・５・11・12，図版３）

1）ブロックの概要

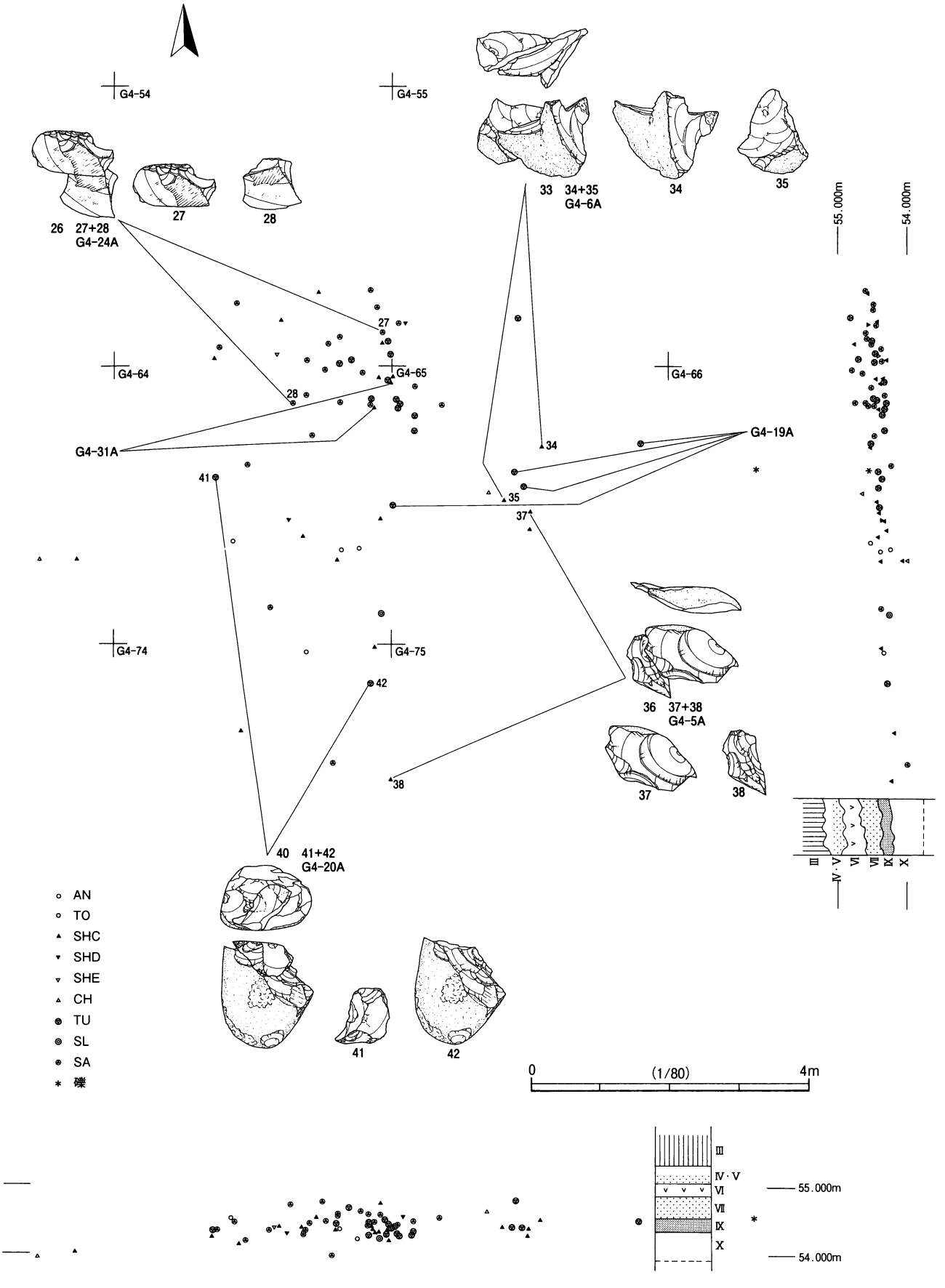
G4-Aブロックは，調査範囲ほぼ中央のG4-54･55･63～66･74グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）に位置する。

ブロックの規模と形状は，長軸10m，短軸７mの範囲に70点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅵ層からⅩ層にかけて，80cmほどの高低差をもっているが，中心はⅦ層からⅨ層で，40cmほどの高低差をもって包含されている（第38・39図）。

ブロックは，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片６点，局部磨製石斧４点，敲石４点（１個体），剥片36点（35個体），砕片10点，石核８点の合計69点（65個体）と礫１点で構成される。石器石材は，安山岩３点，軟質の安山岩１点，頁岩C19点（18個体），頁岩D２点，頁岩E１点，チャート２点，凝灰岩19点（16個体），粘板岩１点，砂岩21点である。礫石材は，砂岩１点（１母岩；4.1ｇ）で，識別率は100％である。



第38図　Ｇ４-Ａブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第39図　Ｇ４-Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは32母岩を識別した。内訳は，安山岩３母岩(G4-１～３)，軟質の安山岩１母岩(G4-４)，頁岩Ｃ12母岩(G4-５～15･31)，頁岩Ｄ２母岩(G4-16･17)，頁岩Ｅ１母岩(G4-18)，チャート２母岩(G4-22･23)，凝灰岩３母岩（G4-19～21)，粘板岩１母岩（G4-32)，砂岩７母岩（G4-24～30）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は94％（65/69点）である。

・**G4-１**：自然面は平滑で灰色（5Y6/1)，内部はオリーブ灰色（5GY6/1）の安山岩である。剥片１点（7.3ｇ）の単独資料である。

・**G4-２**：自然面は爪形の裂痕が密で，自然面及び内部は黄灰色(2.5Y5/1)の安山岩である。剥片１点(3.0ｇ）の単独資料である。

・**G4-３**：灰オリーブ色（5Y4/2）の安山岩である。剥片１点（5.8ｇ）の単独資料である。

・**G4-４**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰白色（7.5Y7/1）の軟質の安山岩である。石核１点（42.7ｇ）の単独資料である。

・**G4-５**：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色(10YR5/3)，内部は黄灰色(2.5Y4/1)･暗灰黄色(2.5Y5/2)･にぶい黄褐色（10YR5/3)，節理はにぶい黄色（2.5Y6/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片１点，石核１点の合計３点（40.7ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（19.0ｇ）である。

・**G4-６**：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3）の地に暗赤褐色（10R3/2）が混じり，内部は灰オリーブ色(5Y5/2)･にぶい黄褐色(10YR5/3)，節理はにぶい黄褐色(10YR4/3)の地に暗赤褐色(10R3/2)が混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点(40.3ｇ)である。接合資料は，剥片２点(40.3ｇ)である。

・**G4-７**：自然面は比較的平滑で褐色（10YR4/4)，内部は灰オリーブ色（7.5Y5/2)・褐色（7.5YR4/3)・にぶい黄褐色（10YR5/4)，節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の嶺岡産頁岩である。石核１点（62.9ｇ）の単独資料である。

・**G4-８**：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4)，内部は灰色（7.5Y4/1）の地に灰色（7.5Y6/1）が混じり，節理は褐色（7.5YR4/3）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（17.4ｇ）の単独資料である。

・**G4-９**：にぶい赤褐色（5YR4/3)・灰色（7.5Y4/1）の地に灰オリーブ色（7.5Y6/2）が混じる嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点（11.3ｇ）の単独資料である。

・**G4-10**：内部は灰オリーブ色（5Y5/3)，節理は褐色（7.5YR4/3）の嶺岡産頁岩である。加工痕ある剥片１点（14.4ｇ）の単独資料である。

・**G4-11**：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3)，内部は灰オリーブ色（7.5Y4/2）の地に灰オリーブ色（7.5Y6/2）が混じり，節理はにぶい赤褐色（5YR4/3）の嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点（14.8ｇ）の単独資料である。

・**G4-12**：内部はオリーブ褐色（2.5Y4/4)・暗灰黄色（2.5Y4/2)，節理はにぶい褐色（7.5YR5/4）の嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点（9.2ｇ）の単独資料である。

・**G4-13**：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3)，内部は灰オリーブ色（7.5Y4/2）の地に灰色（7.5Y4/1）が混じり，節理はにぶい赤褐色（5YR4/3)・暗赤褐色（5YR3/2）の嶺岡産頁岩である。石核１点（36.0ｇ）の単独資料である。

・G4-14：自然面は比較的平滑でオリーブ褐色（2.5Y4/4），内部は暗灰黄色（2.5Y4/2）の地に灰白色（2.5Y7/1）が混じり，節理はオリーブ褐色（2.5Y4/4）の嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点（6.8ｇ）の単独資料である。

・G4-15：自然面は凹凸が激しく褐色（10YR4/4），内部及び節理は褐色（10YR4/4）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（8.0ｇ）の単独資料である。

・G4-16：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y4/1）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（7.7ｇ）の単独資料である。

・G4-17：自然面は平滑で黄褐色（10YR5/6），内部は灰オリーブ色（5Y5/3）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（1.5ｇ）の単独資料である。

・G4-18：自然面は平滑で灰オリーブ色（7.5Y6/2），内部は浅黄色（5Y7/3）・灰白色（7.5Y7/2），新鮮な面は緑灰色（7.5GY5/1）の頁岩である。石核１点（42.2ｇ）の単独資料である。

・G4-19：自然面は平滑でにぶい黄色（2.5Y6/4）の凝灰岩である。石器群の内訳は，敲石４点（１個体；415.3ｇ）である。接合資料は，敲石４点（１個体；415.3ｇ）である。

・G4-20：自然面は平滑で灰オリーブ色（7.5Y6/2），内部は明オリーブ灰色（2.5GY7/1），新鮮な面は暗緑灰色（10GY4/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（110.8ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（110.8ｇ）である。

・G4-21：自然面は平滑で灰白色（7.5Y7/2），内部は灰白色（7.5Y7/2）の地に灰色（5Y6/1）・にぶい黄褐色（10YR5/4）が混じり，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片８点，砕片５点の合計13点（41.4ｇ）である。

・G4-22：自然面は敲打痕状の裂痕が密で褐色（10YR4/4）・緑灰色（7.5GY6/1），内部は緑灰色（7.5GY6/1）・明オリーブ灰色（2.5GY7/1）・褐色（10YR4/4）が縞状に入るチャートであるが，瑪瑙・玉髄の可能性もある。剥片１点（6.1ｇ）の単独資料である。

・G4-23：黒褐色（10YR3/1）のチャートであるが，頁岩の可能性もある。剥片１点（10.1ｇ）の単独資料である。

・G4-24：自然面は平滑で，自然面及び内面はオリーブ灰色（5GY5/1），新鮮な面は灰色（N4/0）の砂岩としたが，凝灰岩の可能性が極めて高い。石器群の内訳は，剥片９点，砕片１点の合計10点（24.3ｇ）である。接合資料は，剥片２点（8.1ｇ）である。

・G4-25：暗緑灰色（7.5GY4/1）の砂岩としたが，凝灰岩の可能性が極めて高い。石器群の内訳は，局部磨製石斧４点，剥片１点の合計５点（14.5ｇ）である。

・G4-26：自然面は平滑でオリーブ灰色（2.5GY6/1），内部は緑灰色（7.5GY6/1）の地に緑灰色（7.5GY5/1）が混じる砂岩としたが，凝灰岩の可能性が極めて高い。石核１点（50.0ｇ）の単独資料である。

・G4-27：灰色（10Y4/1）の砂岩としたが，凝灰岩の可能性が極めて高い。剥片１点（2.7ｇ）の単独資料である。

・G4-28：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（10Y4/1）の砂岩である。石核１点（55.7ｇ）の単独資料である。

・G4-29：灰色（7.5Y5/1）の砂岩であるが，凝灰岩の可能性もある。剥片１点（4.8ｇ）の単独資料である。

・G4-30：灰色（7.5Y4/1）の砂岩としたが，凝灰岩の可能性が極めて高い。砕片１点（0.6ｇ）の単独資

料である。

・**G4-31**：内部は灰色（7.5Y4/1），節理はにぶい褐色（7.5YR5/3）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；1.2ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；1.2ｇ）である。

・**G4-32**：灰色（10Y4/1）の粘板岩である。使用痕ある剥片１点（1.9ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，嶺岡産頁岩の剥片１点，砕片２点の合計３点（1.8ｇ），砂岩の砕片１点（0.1ｇ）がある。

３）出土遺物（第40・41図，第42図23～25）

１は嶺岡産頁岩による加工痕ある剥片である。石刃状の縦長剥片の表面左側縁の一部と裏面右側縁の一部に調整加工を行っている。

２～５は嶺岡産頁岩，６は粘板岩による使用痕ある剥片である。２は石刃状の縦長剥片の裏面左側縁の一部に微細な剥離痕が見られる。３・５は末端の一部，４は左側縁，６は表面右側縁の一部と裏面両側縁の下半部に微細な剥離痕が見られる。

７～10は同一母岩の砂岩による局部磨製石斧の一部あるいは調整剥片である。

11は凝灰岩による敲石である。４点が接合して１個体となるが，使用時に欠損したものと考えられる。両端，表面中央，左側面に敲打痕が見られる。

12・14は嶺岡産頁岩，13は硬質緻密な頁岩，15は安山岩，16はチャート，17～19は凝灰岩による不定型な剥片である。

20は頁岩，21・22は嶺岡産頁岩，23・24は砂岩，25は軟質な安山岩による石核である。20は厚手の縦長剥片を素材として，両端に剥離痕が見られ，両極石核と考えられる。21は不定型な剥片を素材として，求心的な剥離作業により不定型な剥片を剥離している。22は板状の不定型な剥片の平坦な自然面を打面として，小型な横長剥片を剥離している。24は厚手の剥片の平坦な自然面を打面として，不定型な剥片を剥離している。23は厚手の剥片を素材として，打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。25は90度打面を転移しながら，不定型な剥片を剥離している。

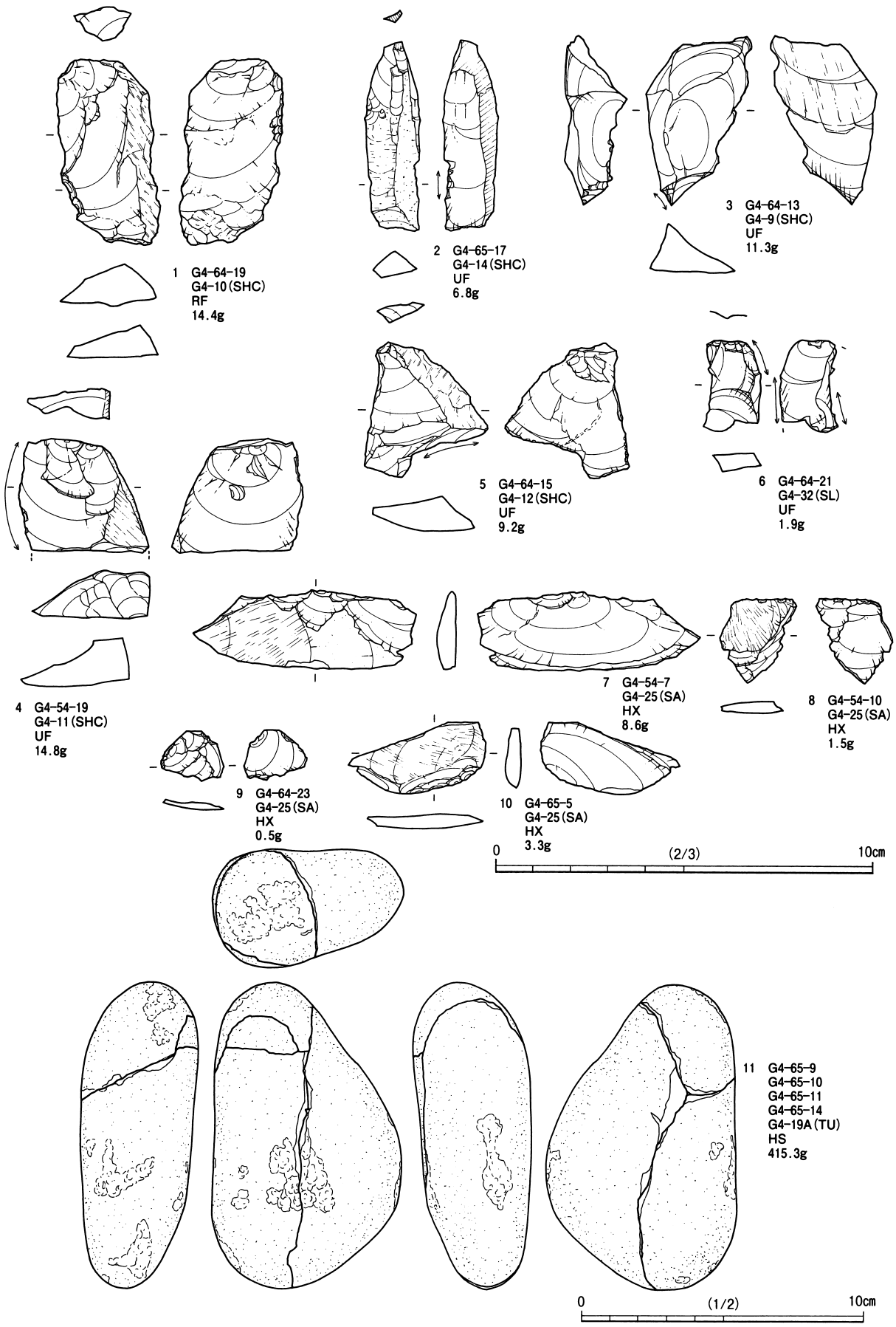
４）接合資料とその関連資料（第42図26～32，第43図）

・**G4-24（第42図26～32）**　オリーブ灰色（5GY5/1）などの砂岩である。剥片９点，砕片１点の合計10点で構成される。26は剥片２点（27・28）の接合資料である。局部磨製石斧の調整剥片と考えられる。29～32は接合しなかった同一母岩の剥片である。局部磨製石斧の調整剥片と考えられる。

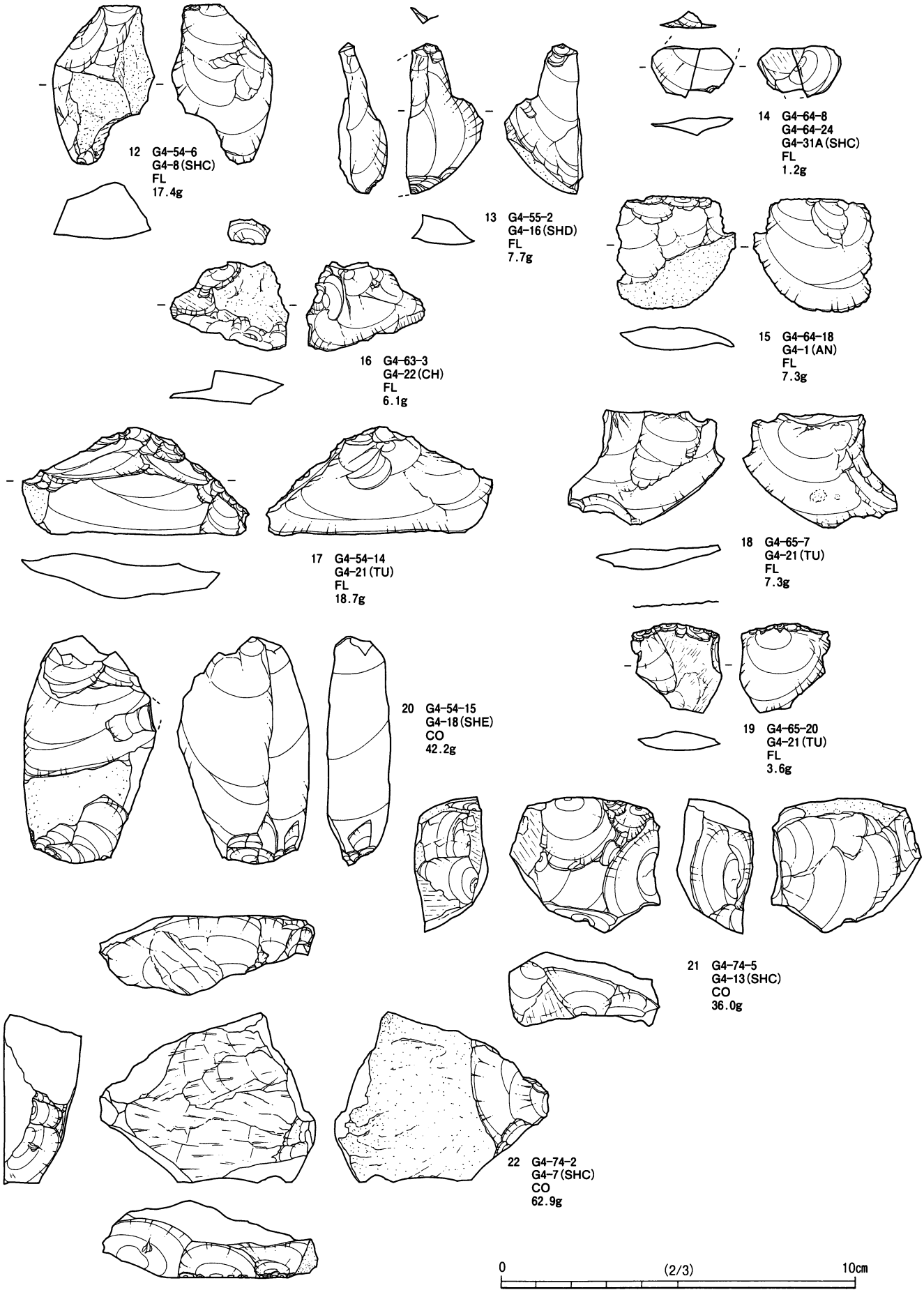
・**G4-６（第43図33～35）**　灰オリーブ色（5Y5/2）などの嶺岡産頁岩である。剥片２点で構成される。33は剥片２点（34・35）の接合資料である。34を剥離した後，90度打面を転移して35を剥離している。

・**G4-５（第43図36～39）**　黄灰色(2.5Y4/1)などの嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点，剥片１点，石核１点の合計３点で構成される。36は剥片１点（38），石核１点（37）の接合資料である。１個体であった剥片の36の素材の主要剥離面側で２枚ほど不定型な剥片を剥離している。39は接合しなかった同一母岩の使用痕ある剥片である。末端に微細な剥離痕が見られる。

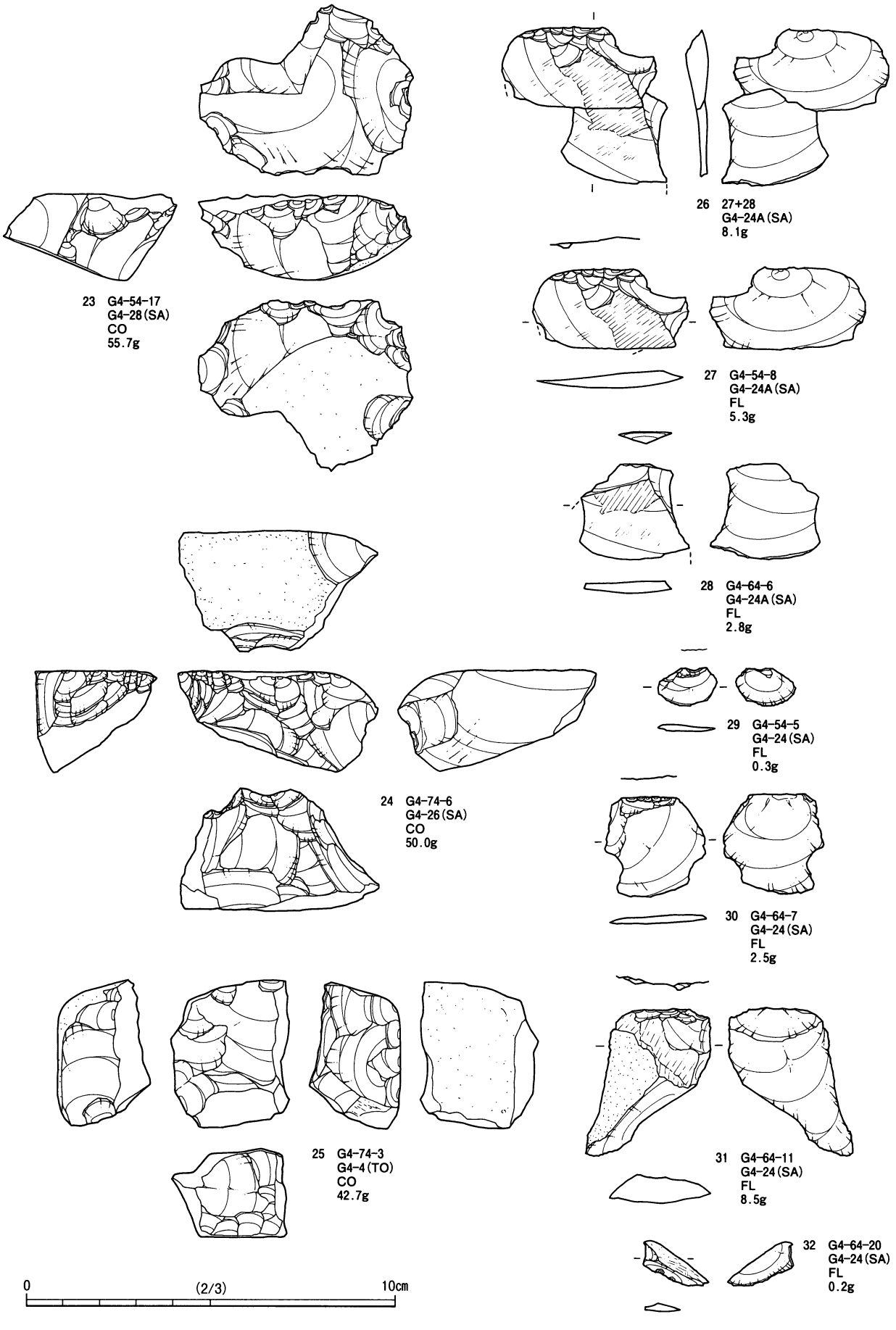
・**G4-20（第43図40～42）**　明オリーブ灰色（2.5GY7/1）などの凝灰岩である。剥片１点，石核１点の合計２点で構成される。40は剥片１点（41），石核１点（42）の接合資料である。90度打面を転移しながら，41を含む不定型な剥片を剥離している。末端，両面，右側面に敲打痕が見られる。



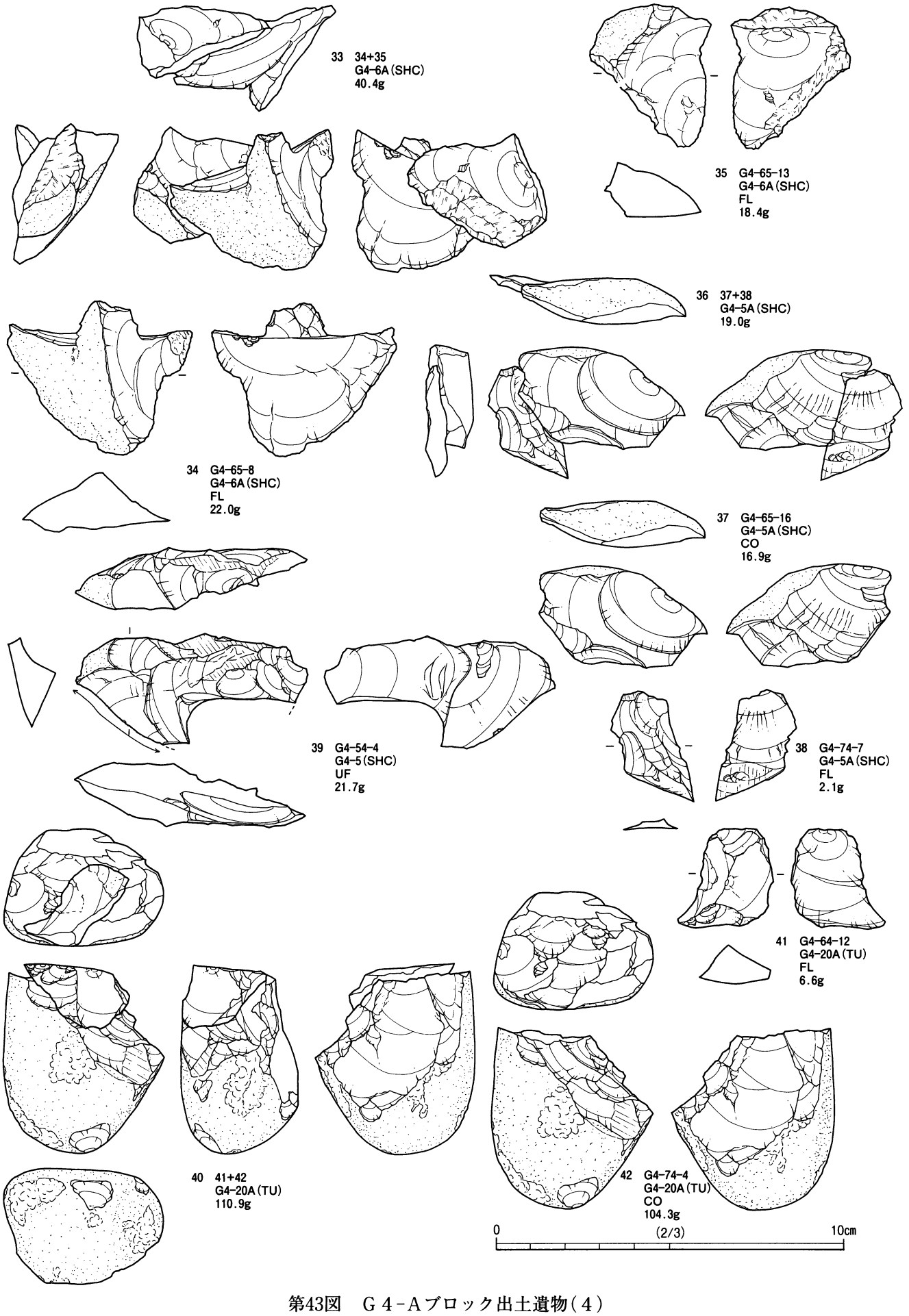
第40図　G4-Aブロック出土遺物(1)



第41図　Ｇ４-Ａブロック出土遺物（２）



第42図　G4-Aブロック出土遺物(3)



第43図　Ｇ４-Ａブロック出土遺物（４）

第13表　G４-Aブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
G4-1(AN)																		1							1
G4-2(AN)																		1							1
G4-3(AN)																		1							1
G4-4(TO)																				1					1
G4-5(SHC)											1							1		1					3
G4-6(SHC)																		2							2
G4-7(SHC)																				1					1
G4-8(SHC)																		1							1
G4-9(SHC)											1														1
G4-10(SHC)										1															1
G4-11(SHC)											1														1
G4-12(SHC)											1														1
G4-13(SHC)																				1					1
G4-14(SHC)											1														1
G4-15(SHC)																		1							1
G4-16(SHD)																		1							1
G4-17(SHD)																		1							1
G4-18(SHE)																				1					1
G4-19(TU)																4(1)									4(1)
G4-20(TU)																		1		1					2
G4-21(TU)																		8	5						13
G4-22(CH)																		1							1
G4-23(CH)																		1							1
G4-24(SA)																		9	1						10
G4-25(SA)														4				1							5
G4-26(SA)																				1					1
G4-27(SA)																		1							1
G4-28(SA)																				1					1
G4-29(SA)																		1							1
G4-30(SA)																			1						1
G4-31(SHC)																		2(1)							2(1)
G4-32(SL)											1														1
その他(SHC)																		1	2						3
その他(SA)																			1						1
合　計										1	6			4		4(1)		36(35)	10	8					69(65)

第14表　G４-Aブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
安山岩(AN)																		3							3
安山岩(TO)																				1					1
頁岩C(SHC)										1	5							8(7)	2	3					19(18)
頁岩D(SHD)																		2							2
頁岩E(SHE)																				1					1
チャート(CH)																		2							2
凝灰岩(TU)																4(1)		9	5	1					19(16)
粘板岩(SL)											1														1
砂岩(SA)														4				12	3	2					21
合　計										1	6			4		4(1)		36(35)	10	8					69(65)

第15表　G４-Aブロック礫組成表

母　岩	石 材	個数	重量
G4R-1	SA	1	4.1

石　材	個数	重量
砂岩(SA)	1	4.1
合　計	1	4.1

7　C7-Aブロック（第44～46図，第16・17表，カラー図版５，図版４）

１）ブロックの概要

C7-Aブロックは，調査範囲南側のC7-55･57･66～68･77～79グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の西側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸15m，短軸６mの範囲に16点の石器が散漫な状態で分布する。出土層位は，Ⅶ層からⅨc層にかけて，40cmほどの高低差をもって包含されている（第44・45図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，使用痕ある剥片１点，剥片12点，砕片２点の合計16点で構成される。石器石材は，軟質の安山岩５点，頁岩Ａ２点，頁岩Ｃ２点，頁岩Ｄ３点，頁岩Ｅ２点，チャート１点，ホルンフェルス１点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは９母岩を識別した。内訳は，軟質の安山岩１母岩（C7-１），頁岩Ａ１母岩（C7-２），頁岩Ｃ１母岩（C7-３），頁岩Ｄ３母岩（C7-４～６），頁岩Ｅ１母岩（C7-７），チャート１母岩（C7-８），ホルンフェルス１母岩（C7-９）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（16/16点）である。

・**C7-１**：自然面は平滑で灰褐色（5YR4/2）・にぶい黄褐色（10YR5/3），内部は灰白色（5Y7/1）の地に灰白色（7.5Y8/1）が混じり，新鮮な面は灰色（5Y4/1）の軟質の安山岩である。石器群の内訳は，剥片５点（36.5ｇ）である。

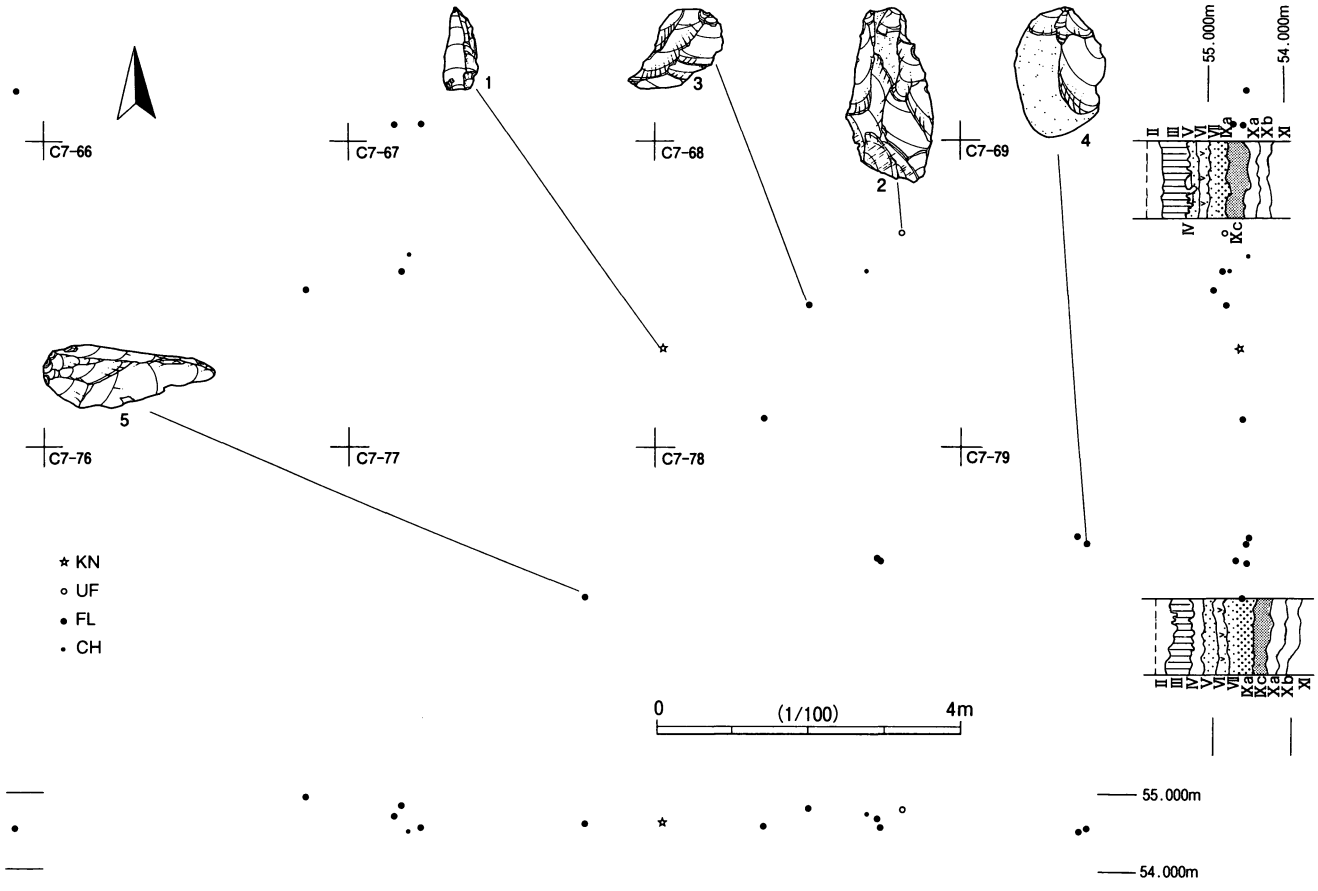
・**C7-２**：灰黄褐色（10YR4/2）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片１点の合計２点（3.7ｇ）である。

第16表　Ｃ７-Ａブロック母岩別石器組成表

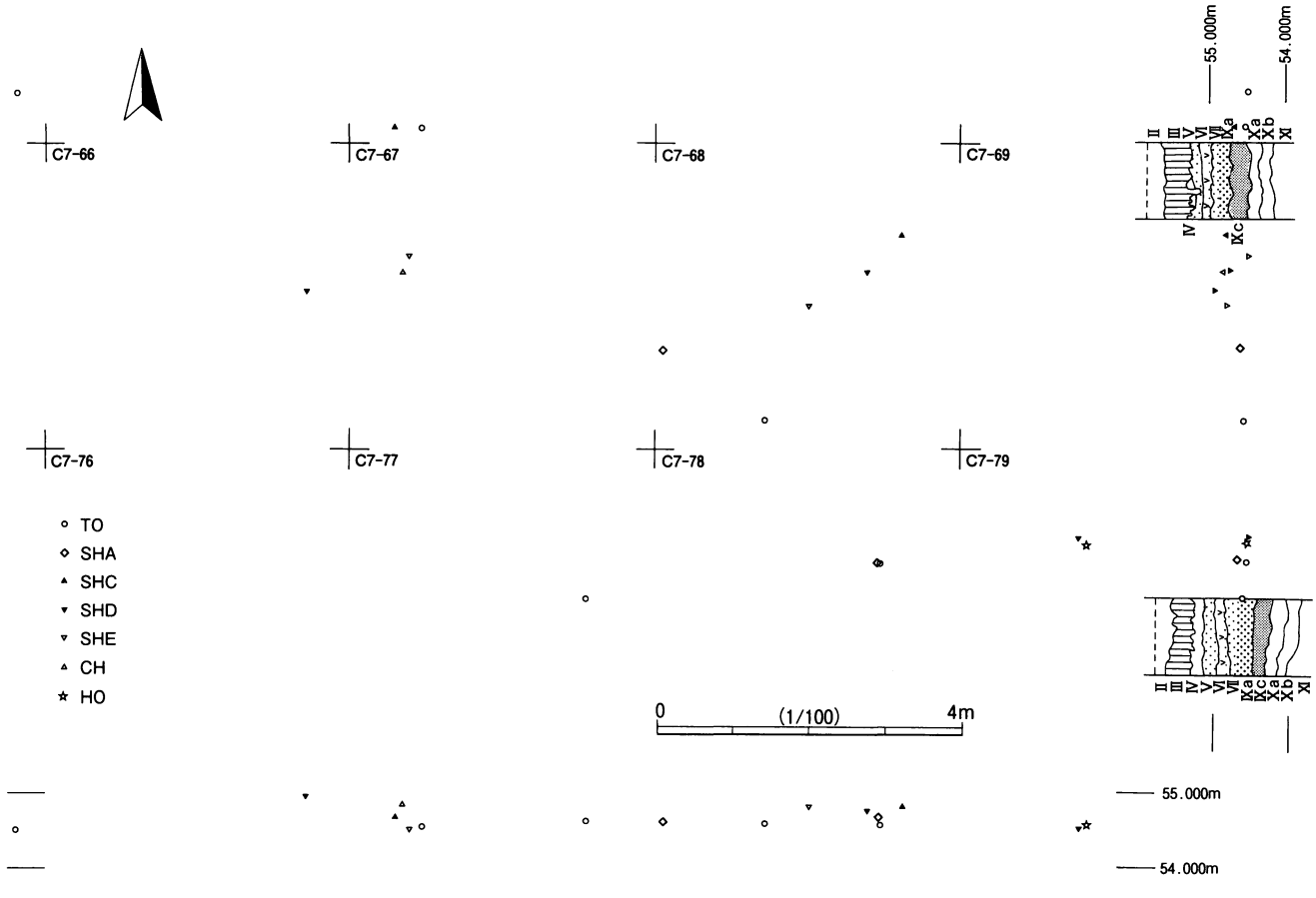
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
C7-1(TO)																		5							5
C7-2(SHA)	1																	1							2
C7-3(SHC)											1							1							2
C7-4(SHD)																		1							1
C7-5(SHD)																		1							1
C7-6(SHD)																			1						1
C7-7(SHE)																		1	1						2
C7-8(CH)																		1							1
C7-9(HO)																		1							1
合　計	1										1							12	2						16

第17表　Ｃ７-Ａブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
安山岩(TO)																		5							5
頁岩A(SHA)	1																	1							2
頁岩C(SHC)											1							1							2
頁岩D(SHD)																		2	1						3
頁岩E(SHE)																		1	1						2
チャート(CH)																		1							1
ホルンフェルス(HO)																		1							1
合　計	1										1							12	2						16



第44図　C7-Aブロック出土遺物分布(1)－石器別分布－



第45図　C7-Aブロック出土遺物分布(2)－石材別分布－

・C7-３：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の地ににぶい黄褐色（10YR5/4）が混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（13.9ｇ）である。

・C7-４：暗灰黄色（2.5Y5/2）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（1.0ｇ）の単独資料である。

・C7-５：オリーブ黒色（5Y3/1）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（0.7ｇ）の単独資料である。

・C7-６：黄灰オリーブ色（2.5Y5/1）の硬質緻密な頁岩である。砕片１点（0.3ｇ）の単独資料である。

・C7-７：内部はオリーブ灰色（2.5GY5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩としたが，凝灰岩の可能性が極めて高い。石器群の内訳は，剥片１点，砕片１点の合計２点（3.7ｇ）である。

・C7-８：自然面は比較的平滑でにぶい黄橙色（10YR6/3）・青黒色（5PB2/1），内部は青黒色（5PB2/1）の地に黒色の筋が入るチャートである。剥片１点（9.3ｇ）の単独資料である。

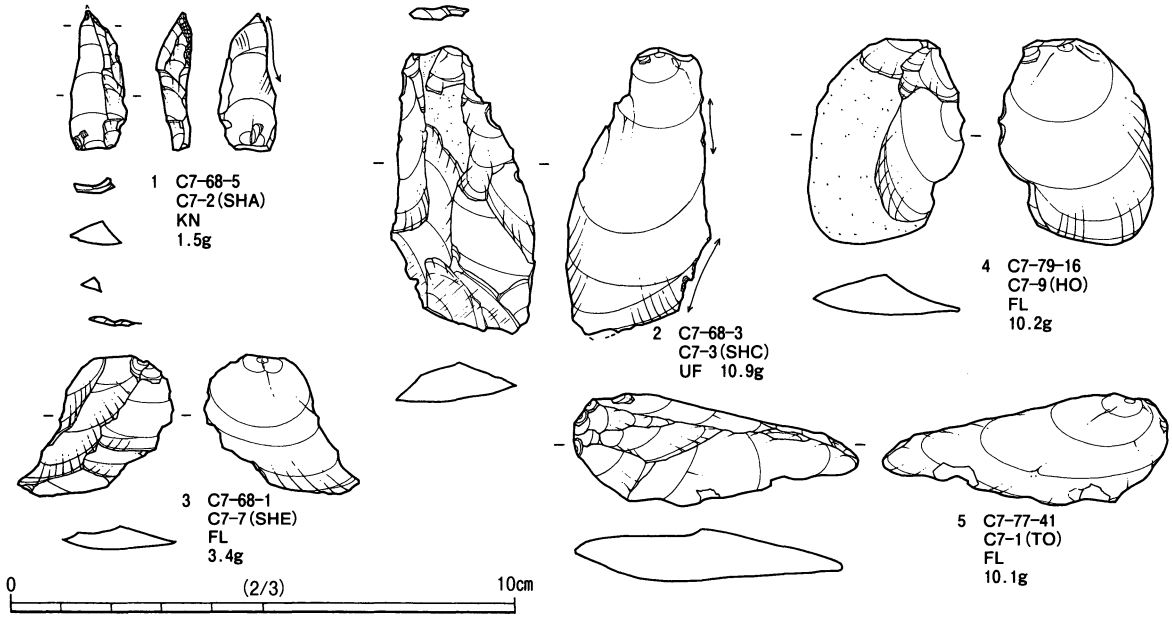
・C7-９：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y5/1）のホルンフェルスである。剥片１点（10.2ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第46図）

１は東北産頁岩による部分加工のナイフ形石器である。小型な石刃状の縦長剥片の打面を基部として，右側縁の上部に調整加工を行っている。裏面右側縁の上部に微細な剥離痕が見られる。

２は嶺岡産頁岩による使用痕ある剥片である。石刃状の縦長剥片の裏面右側縁の一部に微細な剥離痕が見られる。

３は頁岩，４はホルンフェルス，５は軟質の安山岩による不定型な剥片である。



第46図　Ｃ７-Ａブロック出土遺物

8　B9-Aブロック（第47～49図，第18・19表，カラー図版5，図版5）

1）ブロックの概要

B9-Aブロックは，調査範囲南側のB9-58・68・69グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の西側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は10mである。

ブロックの規模と形状は，長軸3m，短軸2mの範囲に9点の石器が分布する。出土層位は，Ⅸa層で，20cmほどの高低差をもって包含されている（第47・48図）。

ブロックは，ナイフ形石器1点，加工痕ある剥片1点，石刃4点，剥片3点の合計9点で構成される。石器石材は，黒曜石B1点，流紋岩2点，頁岩B1点，頁岩D2点，頁岩E1点，チャート1点，粘板岩1点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは8母岩を識別した。内訳は，黒曜石B1母岩（B9-1），流紋岩1母岩（B9-3），頁岩B1母岩（B9-4），頁岩D2母岩（B9-6・7），頁岩E1母岩（B9-9），チャート1母岩（B9-10），粘板岩1母岩（B9-12）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（9/9点）である。

・**B9-1**：薄墨を流した様な透明な黒曜石である。φ7mmほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。加工痕ある剥片1点（6.7g）の単独資料である。

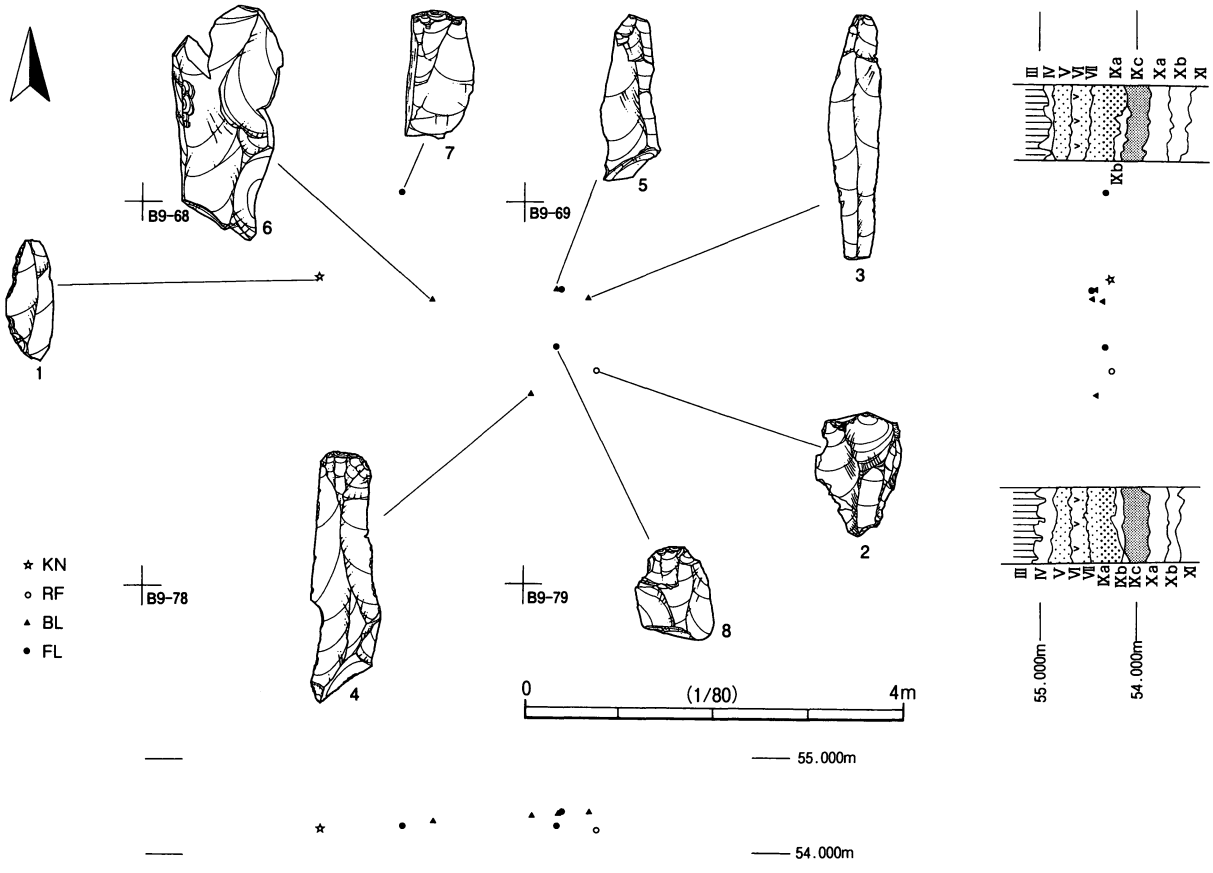
・**B9-3**：内部は淡黄色（5Y8/3）・灰白色（5Y8/2）・黄灰色（2.5Y6/1）が密に縞状に入り，新鮮な面は灰白色（7.5Y8/1）の流紋岩である。石器群の内訳は，石刃2点（15.2g）である。

第18表　B9-Aブロック母岩別石器組成表

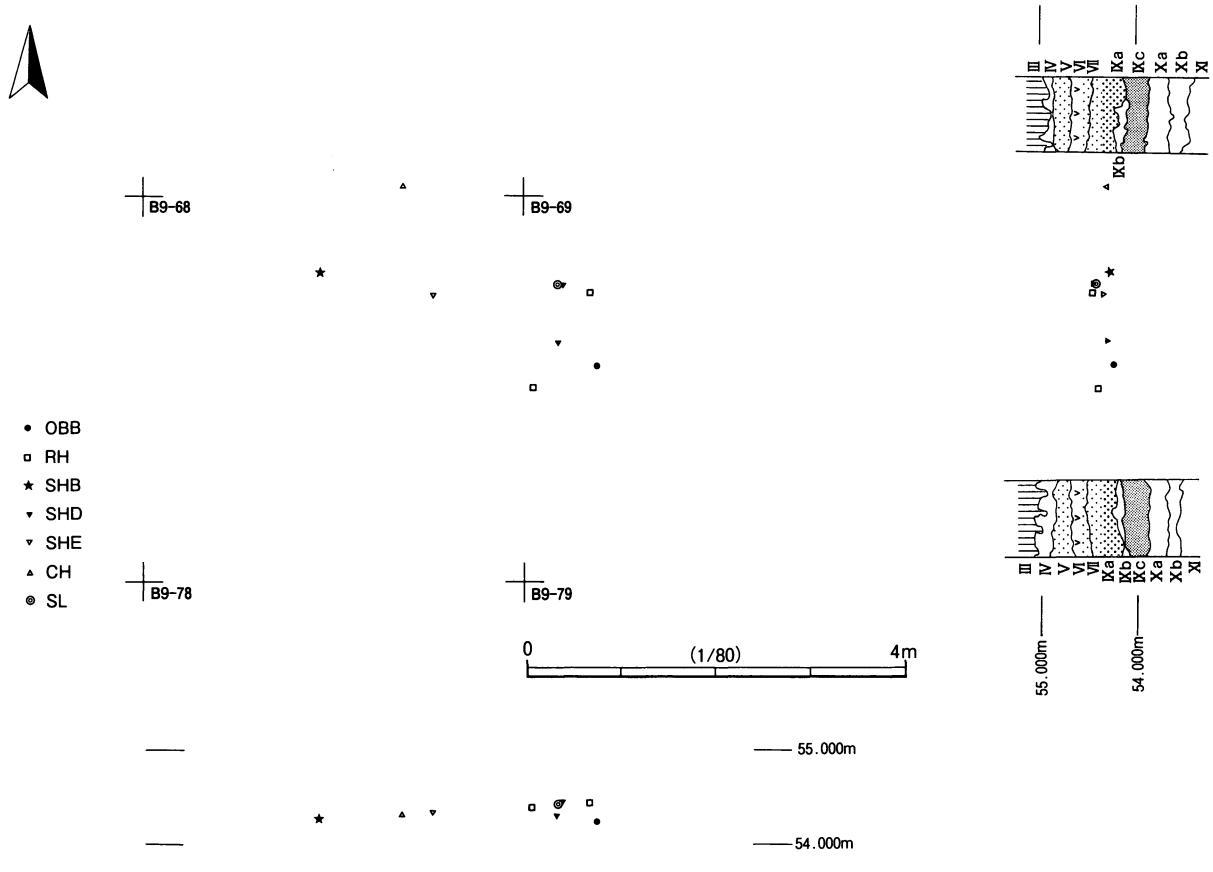
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
B9-1(OBB)										1															1
B9-3(RH)												2													2
B9-4(SHB)	1																								1
B9-6(SHD)																		1							1
B9-7(SHD)																		1							1
B9-9(SHE)												1													1
B9-10(CH)																		1							1
B9-12(SL)												1													1
合　計	1									1		4						3							9

第19表　B9-Aブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石B(OBB)										1															1
流紋岩(RH)												2													2
頁岩B(SHB)	1																								1
頁岩D(SHD)																		2							2
頁岩E(SHE)												1													1
チャート(CH)																		1							1
粘板岩(SL)												1													1
合　計	1									1		4						3							9



第47図　Ｂ９-Ａブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第48図　Ｂ９-Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

・B9-４：浅黄色（2.5Y7/3）の北関東産頁岩である。ナイフ形石器１点（2.6ｇ）の単独資料である。

・B9-６：暗褐色（10YR3/3）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（4.2ｇ）の単独資料である。

・B9-７：にぶい黄褐色（10YR4/3）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（0.9ｇ）の単独資料である。

・B9-９：内部は灰白色（7.5Y7/2)・灰色（N5/0），新鮮な面は灰色（N4/0）の頁岩である。石刃１点（33.6ｇ）の単独資料である。

・B9-10：内部は暗オリーブ灰色（2.5GY4/1），節理は灰オリーブ色（5Y6/2）のチャートである。剥片１点（6.9ｇ）の単独資料である。

・B9-12：暗緑灰色（10GY3/1）の粘板岩である。石刃１点（3.9ｇ）の単独資料である。

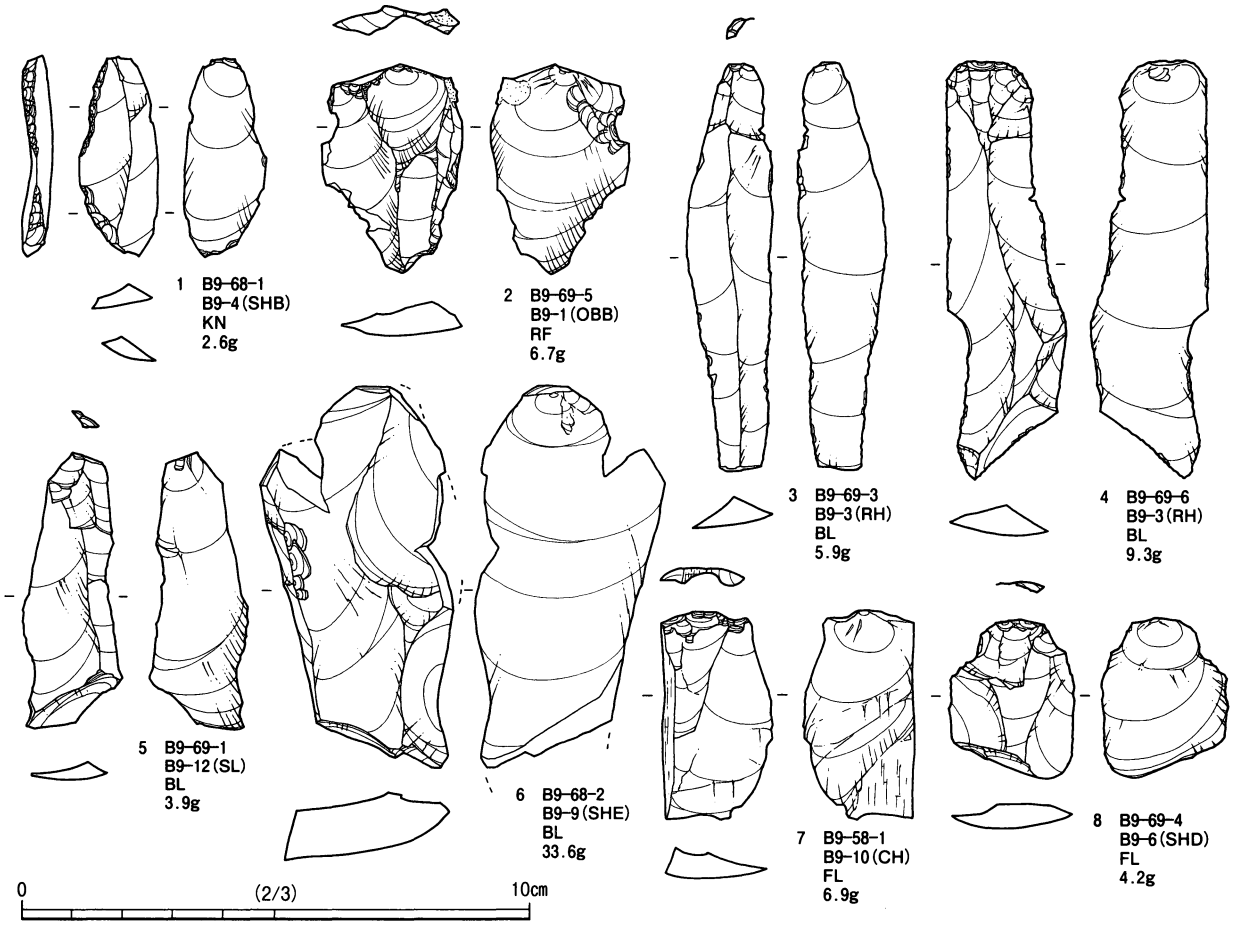
３）出土遺物（第49図）

１は北関東産頁岩によるナイフ形石器である。石刃状の縦長剥片を素材として，左側縁に調整加工を行っている。末端側を基部としたが，先端とした方が良かったかもしれない。

２は信州和田峠周辺産による加工痕ある剥片である。裏面右側縁の一部に抉入状の調整加工を行っている。

３・４は流紋岩，５は粘板岩，６は頁岩による石刃である。４は頭部調整が顕著である。

７はチャート，８は硬質緻密な頁岩による剥片である。



第49図　Ｂ９-Aブロック出土遺物

9　C9-Aブロック（第50～52図，第20・21表，カラー図版５・12，図版４）

１）ブロックの概要

C9-Aブロックは，調査範囲南側のC9-96・97，C10-06・07グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は30mである。

ブロックの規模と形状は，長軸５m，短軸２mの範囲に15点の石器が分布する。出土層位は，Ⅸa層からⅨc層で，40cmほどの高低差をもって包含されている（第50・51図）。

ブロックは，加工痕ある剥片１点，石刃２点，剥片９点，砕片２点，石核１点の合計15点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ１点，頁岩Ｃ７点，頁岩Ｄ４点，頁岩Ｅ３点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは５母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ１母岩（C9-１），頁岩Ｃ２母岩（C9-２・３），頁岩Ｄ１母岩（C9-４），頁岩Ｅ１母岩（C9-５）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（15/15点）である。

・**C9-１**：黒灰色半透明の地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。φ１mmほどの灰色と淡橙色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（1.4ｇ）の単独資料である。

・**C9-２**：内部は灰オリーブ色（5Y4/2）の地ににぶい黄褐色（10YR5/4）・黒褐色（10YR3/1）・明褐色（7.5YR5/6）が部分的に混じり，節理はにぶい黄色（2.5Y6/4）・にぶい赤褐色（5YR4/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，石刃１点，剥片２点，砕片１点，石核１点の合計６点（113.8ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（81.5ｇ）である。

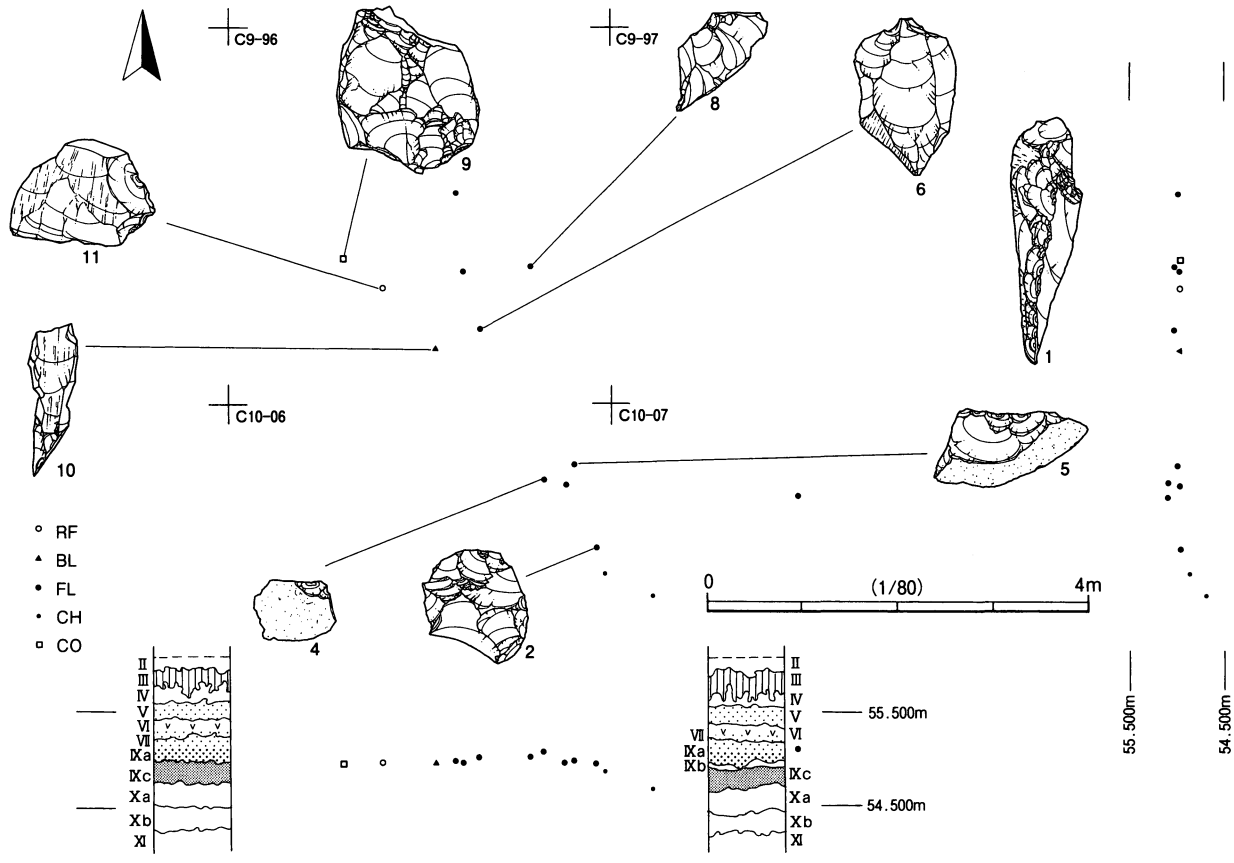
・**C9-３**：内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の地に灰白色（5Y7/2）が部分的に混じり，節理はにぶい赤褐色（5YR4/4）の嶺岡産頁岩である。石刃１点（23.1ｇ）の単独資料である。

第20表　Ｃ９-Ａブロック母岩別石器組成表

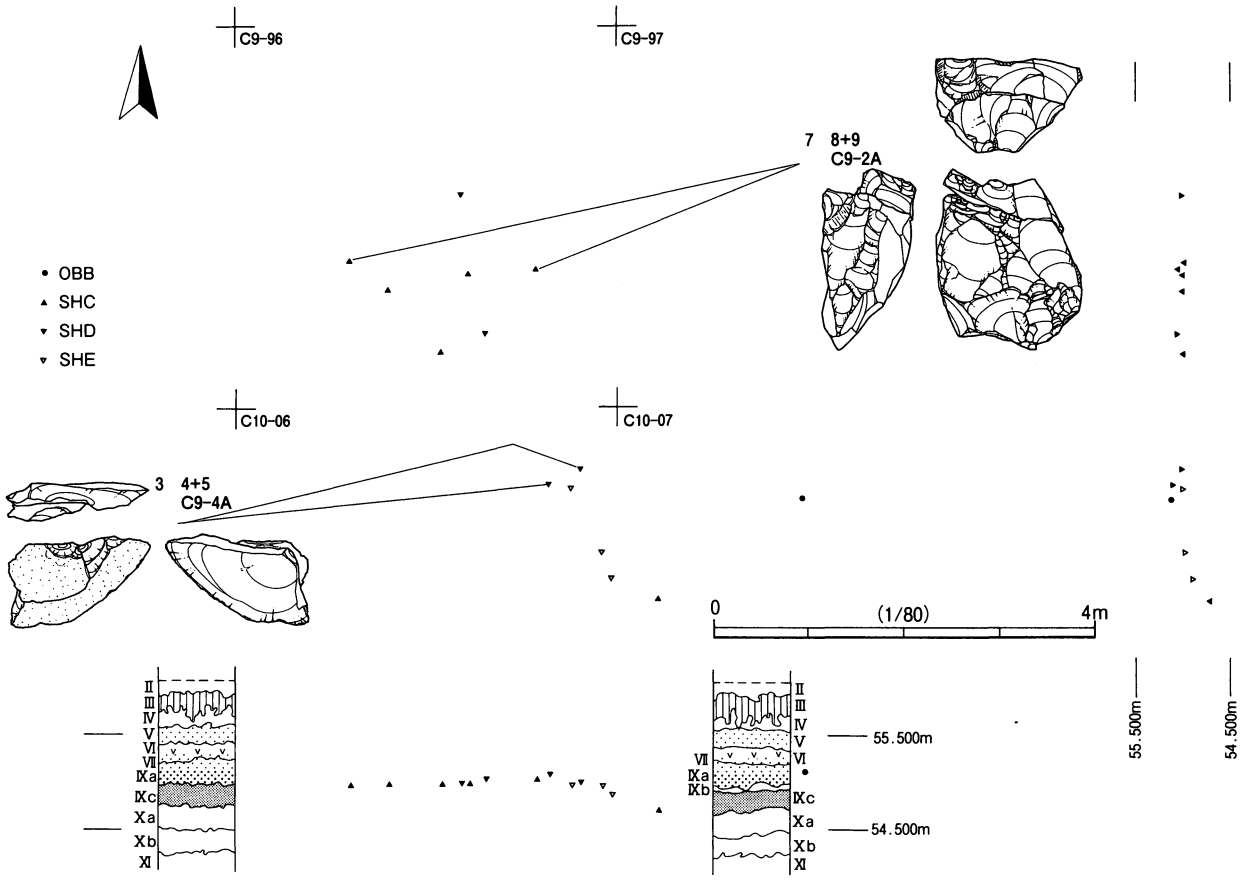
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
C9-1(OBB)																		1							1
C9-2(SHC)										1		1						2	1	1					6
C9-3(SHC)												1													1
C9-4(SHD)																		4							4
C9-5(SHE)																		2	1						3
合　計										1		2						9	2	1					15

第21表　Ｃ９-Ａブロック石材別石器組成表

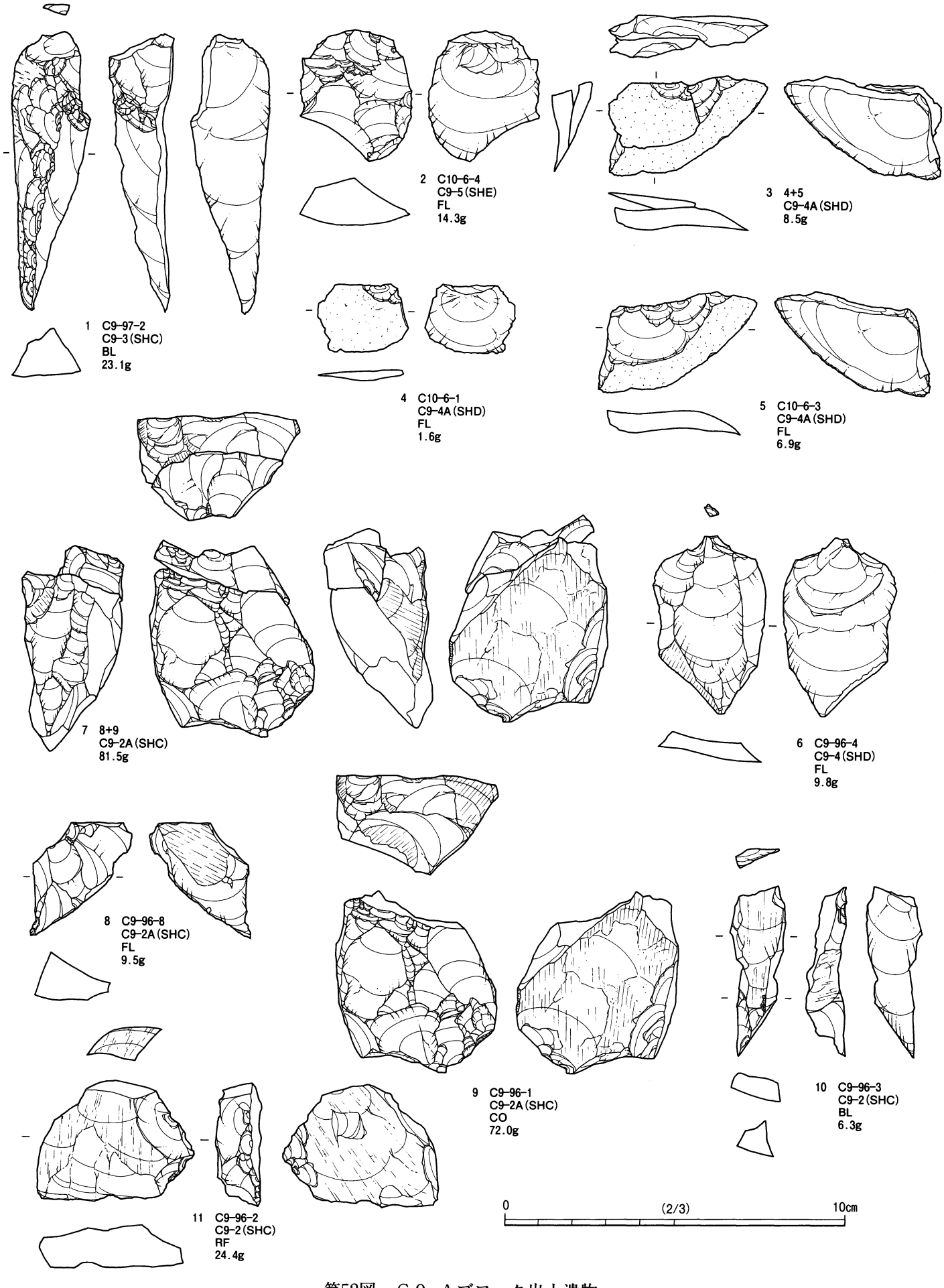
石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石B(OBB)																		1							1
頁岩C(SHC)										1		2						2	1	1					7
頁岩D(SHD)																		4							4
頁岩E(SHE)																		2	1						3
合　計										1		2						9	2	1					15



第50図　C9-Aブロック出土遺物分布(1)－石器別分布－



第51図　C9-Aブロック出土遺物分布(2)－石材別分布－



第52図　Ｃ９-Ａブロック出土遺物

・C9-4：自然面は平滑で暗灰黄色（2.5Y4/2），内部は灰オリーブ色（5Y5/2），節理は黄褐色（2.5Y5/4）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片4点（23.6g）である。接合資料は，剥片2点（8.5g）である。

・C9-5：内部は灰色（10Y5/1）・灰オリーブ色（7.5Y6/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点，砕片1点の合計3点（17.5g）である。

3）出土遺物（第52図1・2）

1は嶺岡産頁岩による稜付き石刃である。

2は頁岩による剥片である。

4）接合資料とその関連資料（第52図3～11）

・C9-4（第52図3～6）　灰オリーブ色(5Y5/2)などの硬質緻密な頁岩である。剥片4点で構成される。3は剥片2点（4・5）の接合資料である。6は接合しなかった同一母岩の剥片である。4・5と比べると縦長である。

・C9-2（第52図7～11）　灰オリーブ色（5Y4/2）などの嶺岡産頁岩である。加工痕ある剥片1点，石刃1点，剥片2点，砕片1点，石核1点の合計6点で構成される。7は剥片1点（8），石核1点（9）の接合資料である。大型の剥片を素材として，両設の打面から縦長剥片や不定型な剥片を剥離している。8は打面再生剥片である。10・11は接合しなかった同一母岩の資料である。10は石刃である。11は加工痕ある剥片で，表面右側縁と裏面左側縁に剥離痕が見られる。あるいは石核かもしれない。

10　D10-Aブロック（第53～55図，第22・23表，カラー図版5，図版4）

1）ブロックの概要

D10-Aブロックは，調査範囲南側のD10-20・21グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は30mである。

ブロックの規模と形状は，長軸4m，短軸1mの楕円形の範囲に7点の石器が分布する。出土層位は，Ⅸa層で，20cmほどの高低差をもって包含されている（第53・54図）。

ブロックは，掻器1点，使用痕ある剥片2点，剥片4点の合計7点で構成される。石器石材は，頁岩C7点である。

2）母岩の特徴と内容

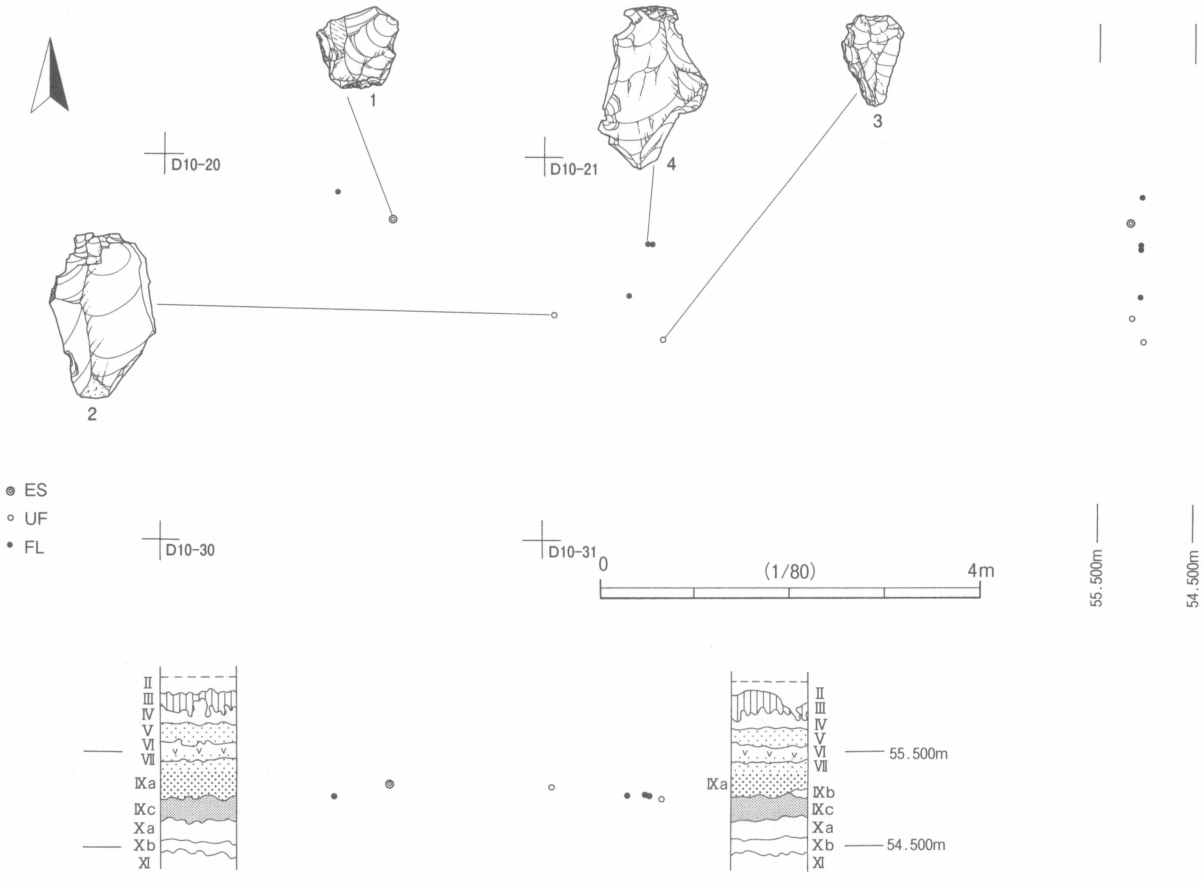
本ブロックでは4母岩を識別した。内訳は，頁岩C4母岩（D10-1～4）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（7/7点）である。

・D10-1：内部は黄灰色（2.5Y5/1）の地に黄灰色（2.5Y4/1）が部分的に混じり，節理は黄褐色（2.5Y5/3）の嶺岡産頁岩である。掻器1点（5.7g）の単独資料である。

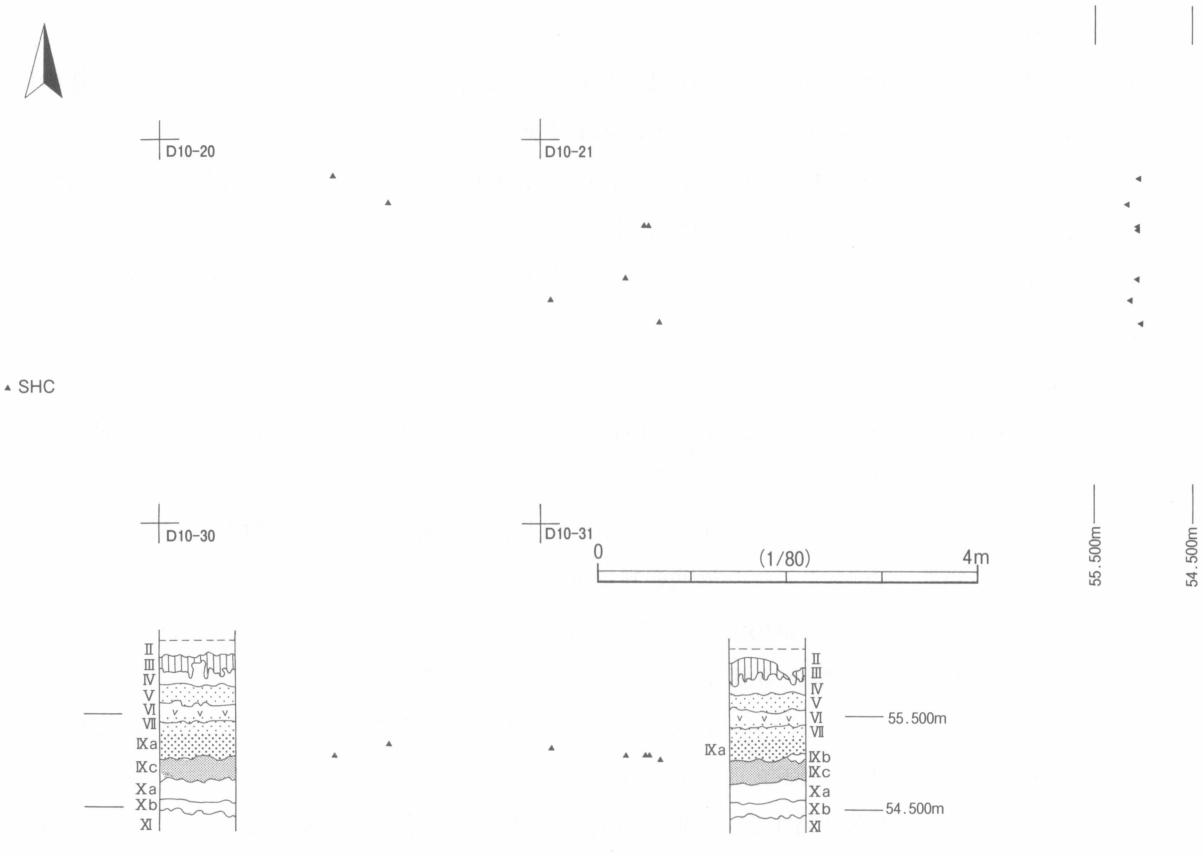
・D10-2：自然面は比較的平滑で暗赤褐色(5YR3/3)，内部は褐色(7.5YR4/3)の地に暗灰黄色(2.5Y5/2)が混じる嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片1点（12.8g）の単独資料である。

・D10-3：内部は灰色（7.5Y4/1）・にぶい黄褐色（10YR5/4）の地に暗灰色（N3/0）の筋が入る嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片1点（3.9g）の単独資料である。

・D10-4：内部は灰オリーブ色（5Y4/2）の地に灰色（5Y4/1）が混じり，節理は黄褐色（2.5Y5/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片4点（20.1g）である。



第53図　D10-Aブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



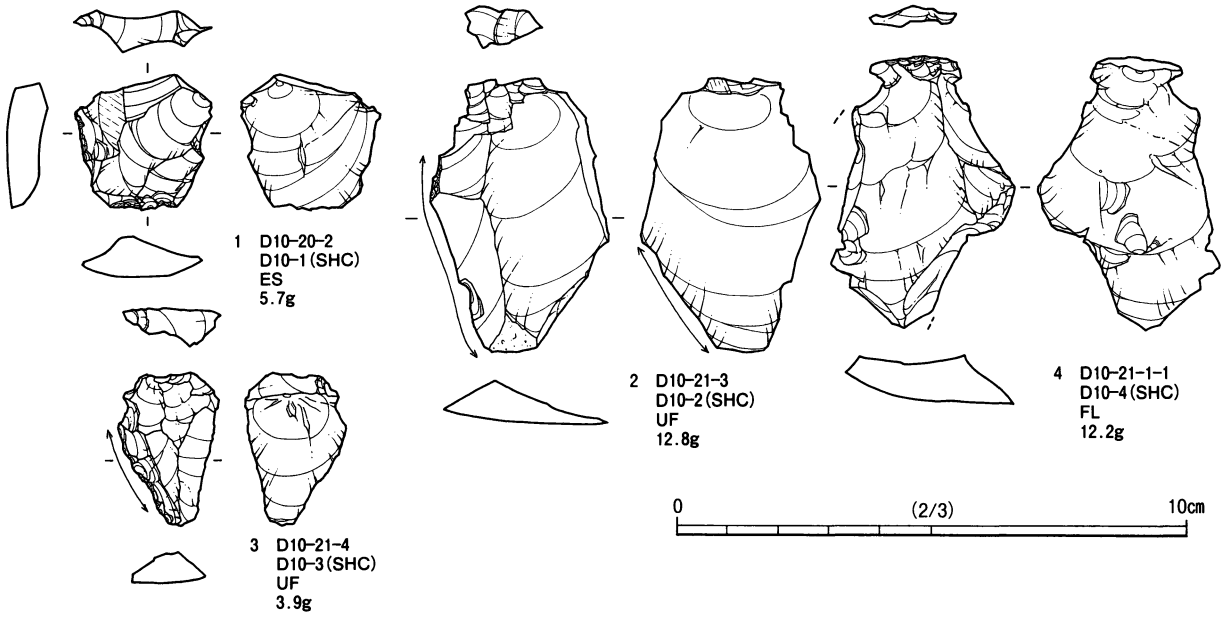
第54図　D10-Aブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

3）出土遺物（第55図）

1は嶺岡産頁岩による掻器である。不定型な剥片の末端と左側縁に調整加工を行っている。

2・3は嶺岡産頁岩による使用痕ある剥片である。2は表面左側縁と裏面左側縁，3は左側縁に微細な剥離痕が見られる。

4は嶺岡産頁岩による縦長剥片である。



第55図　D10-Aブロック出土遺物

第22表　D10-Aブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
D10-1(SHC)					1																				1
D10-2(SHC)											1														1
D10-3(SHC)											1														1
D10-4(SHC)																		4							4
合　計					1						2							4							7

第23表　D10-Aブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
頁岩C(SHC)					1						2							4							7
合　計					1						2							4							7

11　C10-Aブロック（第56図，第24・25表，カラー図版6）

1）ブロックの概要

C10-Aブロックは，調査範囲南側のC10-98グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の南側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）に位置する。

ブロックの規模と形状は，分布図がないため，不明である。出土層位は，10cmほどの高低差をもって包含されている。

ブロックは，使用痕ある剥片1点，石刃1点，剥片2点，石核1点の合計5点で構成される。石器石材は，頁岩C4点，頁岩D1点である。

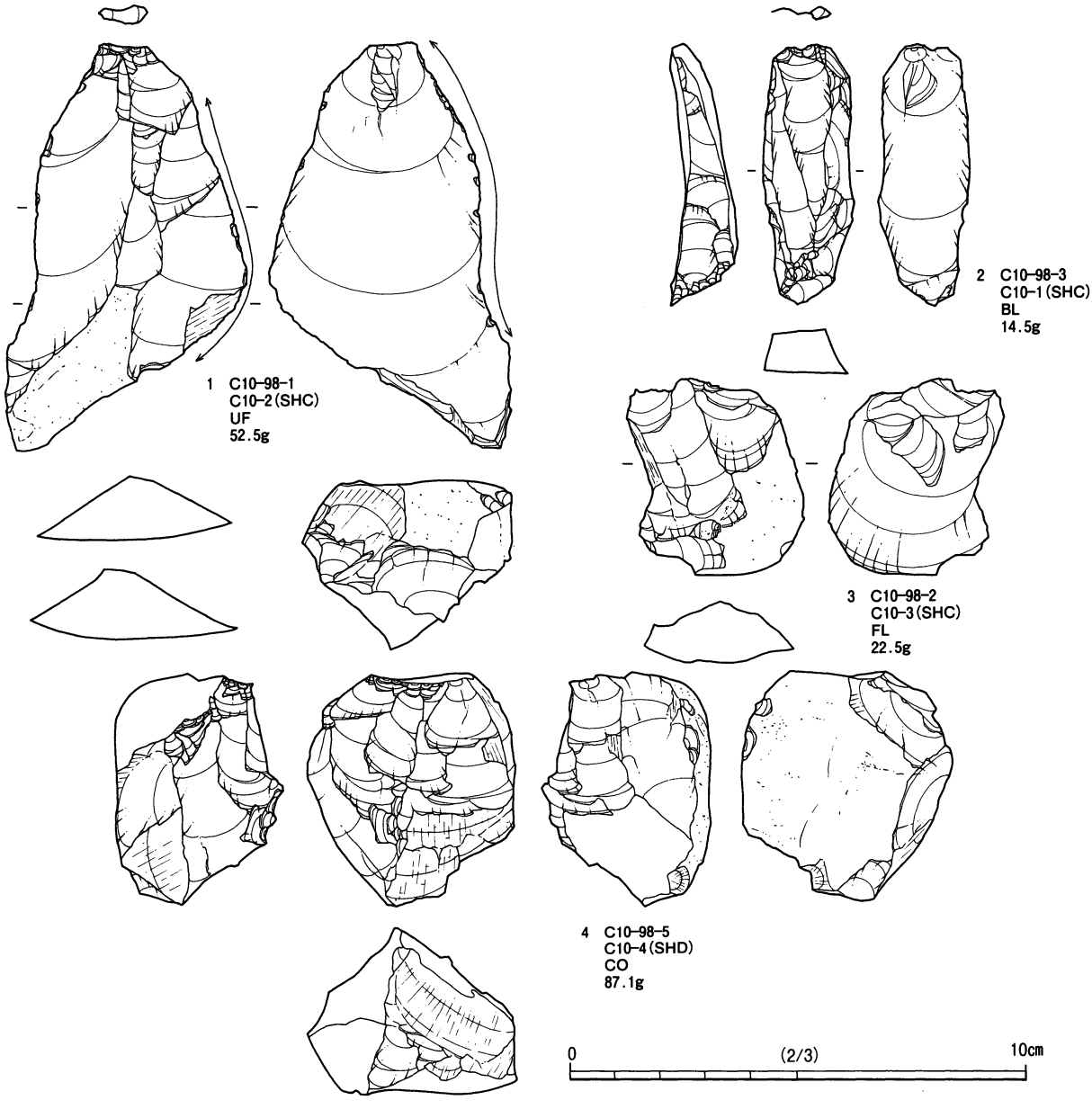
２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，頁岩Ｃ３母岩（C10-１～３），頁岩Ｄ１母岩（C10-４）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（5/5点）である。

・C10-１：灰オリーブ色（5Y6/2）の地に幅５㎜ほどの灰色（5Y4/1）の筋が入る嶺岡産頁岩である。石刃１点（14.5ｇ）の単独資料である。

・C10-２：自然面は比較的平滑でにぶい褐色（7.5YR5/3），内部は灰オリーブ色（5Y4/2）・暗灰黄色（2.5Y4/2）の地に明オリーブ灰色（2.5GY7/1）・オリーブ黒色（5Y3/1）・橙色（7.5YR6/6）が混じり，節理はにぶい褐色（7.5YR5/3）の嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点（52.5ｇ）の単独資料である。

・C10-３：自然面は平滑で灰褐色（7.5YR4/2），内部は灰オリーブ色（5Y5/3）・灰オリーブ色（5Y4/2），



第56図　C10-Aブロック出土遺物

節理はにぶい黄橙色（10YR6/3），新鮮な面は灰オリーブ色（5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（29.9ｇ）である。

・**C10-４**：自然面は平滑でにぶい黄橙色（10YR6/4），内部は灰オリーブ色（5Y6/2）の地に暗褐色（7.5YR3/3）の粒が密に入り，節理はにぶい褐色（7.5YR5/4）の硬質緻密な頁岩である。石核１点（87.1ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第56図）

１は嶺岡産頁岩による使用痕ある剥片である。石刃状の縦長剥片の表面右側縁と裏面右側縁に微細な剥離痕が見られる。

２は嶺岡産頁岩による稜付き石刃である。両設打面の石核から剥離されている。

３は嶺岡産頁岩による不定型な剥片である。

４は硬質緻密な頁岩による石核である。礫を素材として，90度の打面転移を行いながら，剥片を剥離している。

第24表　C10-Aブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
C10-1(SHC)												1													1
C10-2(SHC)											1														1
C10-3(SHC)																		2							2
C10-4(SHD)																				1					1
合　計											1	1						2		1					5

第25表　C10-Aブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
頁岩C(SHC)											1	1						2							4
頁岩D(SHD)																				1					1
合　計											1	1						2		1					5

12　E9-Cブロック（第57～59図，第26～28表，カラー図版６，図版４）

１）ブロックの概要

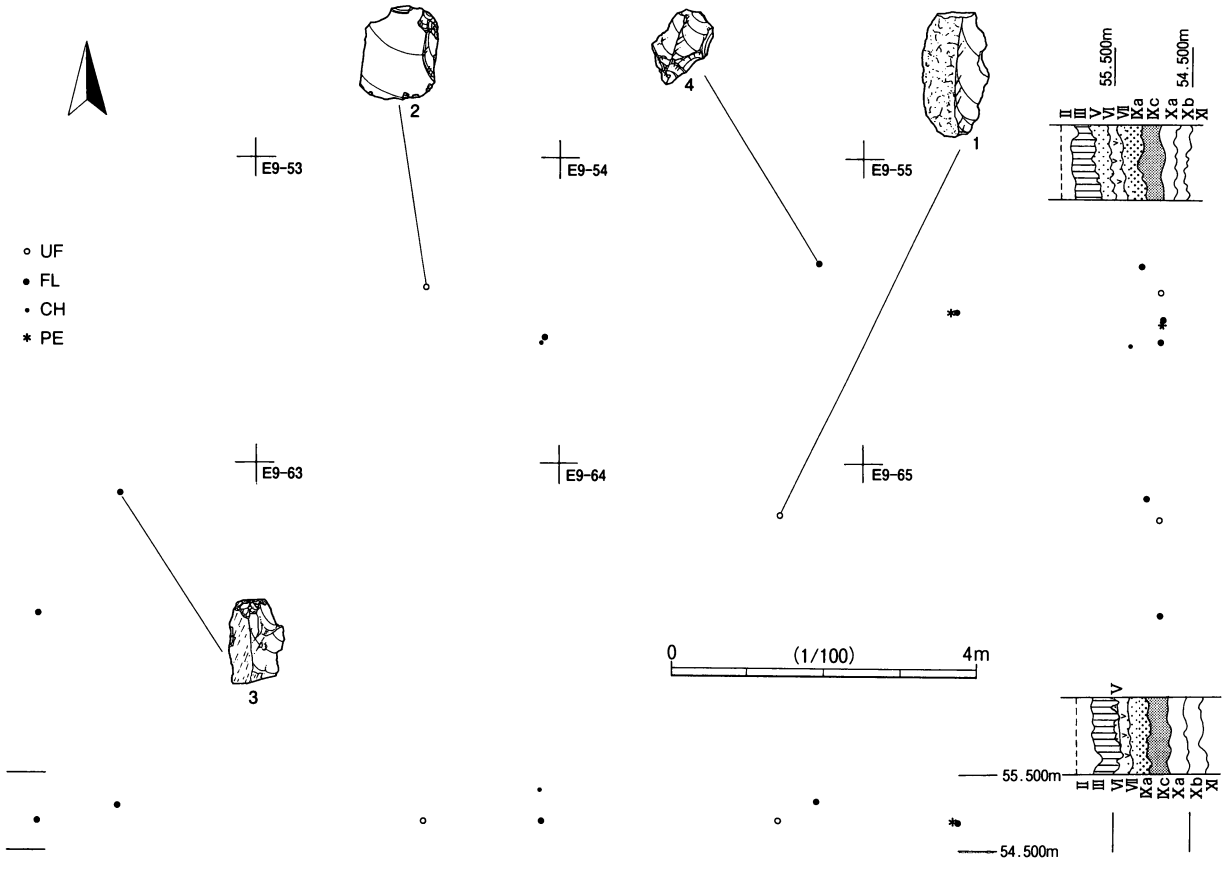
E9-Cブロックは，調査範囲南側のE9-53～55・62・64グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸13m，短軸４mの範囲に９点の石器･礫が散漫に分布する。出土層位は，Ⅸa層からⅨc層にかけて，40cmほどの高低差をもって包含されている（第57・58図）。

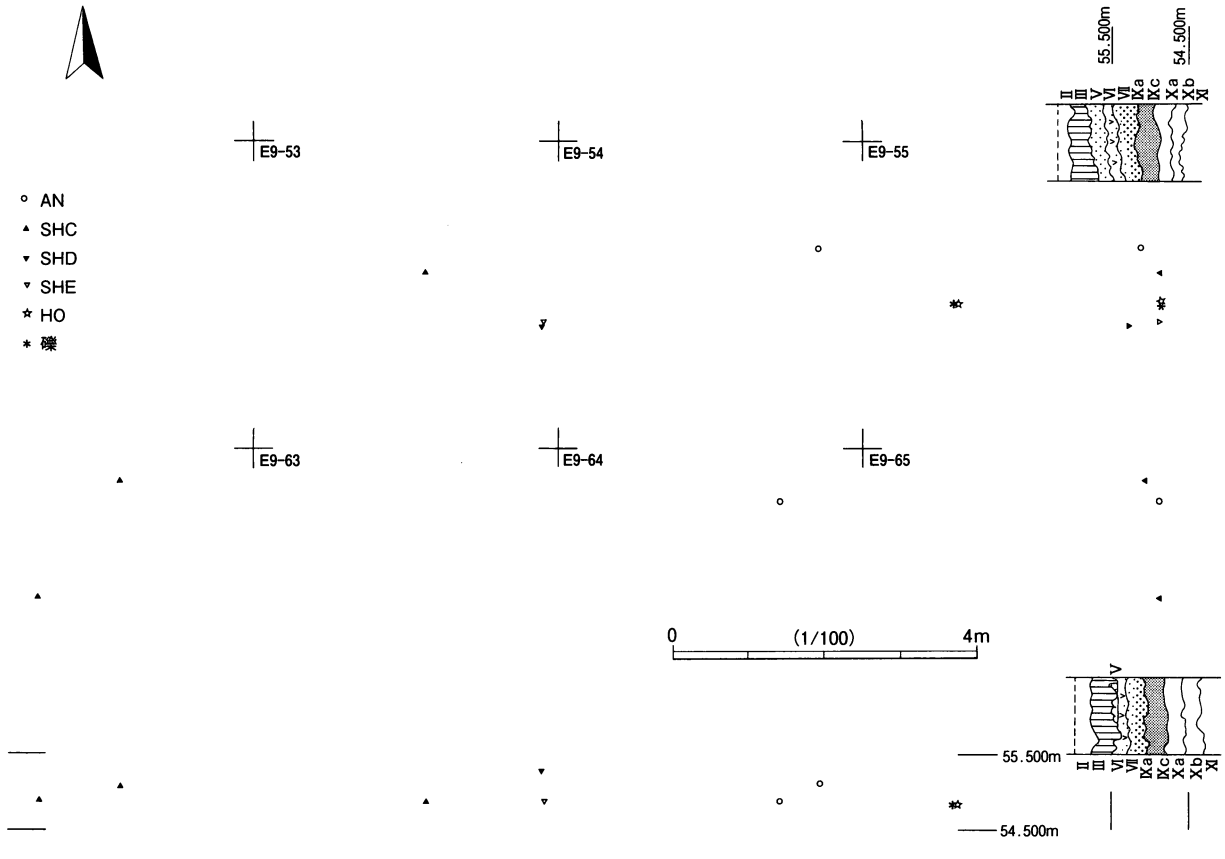
ブロックは，使用痕ある剥片２点，剥片５点，砕片１点の合計８点と礫１点で構成される。石器石材は，安山岩２点，頁岩Ｃ３点，頁岩Ｄ１点，頁岩Ｅ１点，ホルンフェルス１点である。礫石材は，凝灰岩１点（１母岩；40.8ｇ）で，識別率は100％である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは７母岩を識別した。内訳は，安山岩２母岩（E9-24・25），頁岩Ｃ２母岩（E9-26・27），頁岩Ｄ１母岩（E9-28），頁岩Ｅ１母岩（E9-29），ホルンフェルス１母岩（E9-30）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（8/8点）である。



第57図　Ｅ９-Ｃブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第58図　Ｅ９-Ｃブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

・**E9-24**：自然面は爪形の裂痕が密で，自然面及び内部は灰色（5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。使用痕ある剥片１点（6.6ｇ）の単独資料である。

・**E9-25**：灰色（7.5Y4/1）の安山岩である。剥片１点（1.8ｇ）の単独資料である。

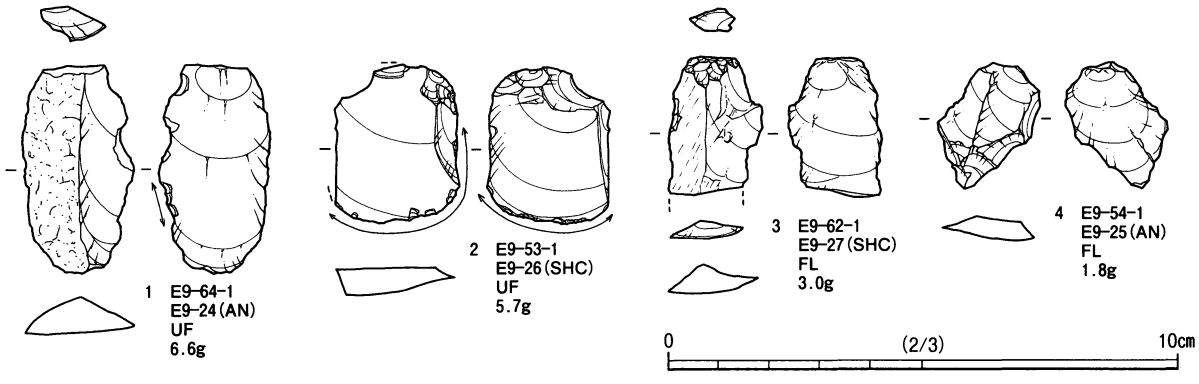
・**E9-26**：黄褐色（2.5Y5/3）・灰色（5Y5/1）の嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点（5.7ｇ）の単独資料である。

・**E9-27**：内部及び節理は灰オリーブ色（5Y5/2）・褐色（7.5YR4/3）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（4.6ｇ）である。

・**E9-28**：灰オリーブ色（5Y5/2）の硬質緻密な頁岩であるが，嶺岡産頁岩の可能性もある。砕片１点（0.2ｇ）の単独資料である。

・**E9-29**：内部は灰オリーブ色（5Y6/2），新鮮な面は灰色（5Y5/1）の頁岩であるが，安山岩の可能性もある。剥片１点（2.2ｇ）の単独資料である。

・**E9-30**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y5/1），新鮮な面は灰色（7.5Y4/1）のホルンフェルスである。剥片１点（22.6ｇ）の単独資料である。



第59図　Ｅ９-Ｃブロック出土遺物

第26表　Ｅ９-Ｃブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
E9-24(AN)											1														1
E9-25(AN)																		1							1
E9-26(SHC)											1														1
E9-27(SHC)																		2							2
E9-28(SHD)																			1						1
E9-29(SHE)																		1							1
E9-30(HO)																		1							1
合　計											2							5	1						8

第27表　Ｅ９-Ｃブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
安山岩(AN)											1							1							2
頁岩C(SHC)											1							2							3
頁岩D(SHD)																			1						1
頁岩E(SHE)																		1							1
ホルンフェルス(HO)																		1							1
合　計											2							5	1						8

３）出土遺物（第59図）

１は安山岩，２は嶺岡産頁岩による使用痕ある剥片である。１は石刃状の縦長剥片の裏面左側縁の一部，２は表面の末端から右側縁の一部にかけてと裏面末端に微細な剥離痕が見られる。

３は嶺岡産頁岩，４は安山岩による剥片である。

第28表　Ｅ９－Ｃブロック礫組成表

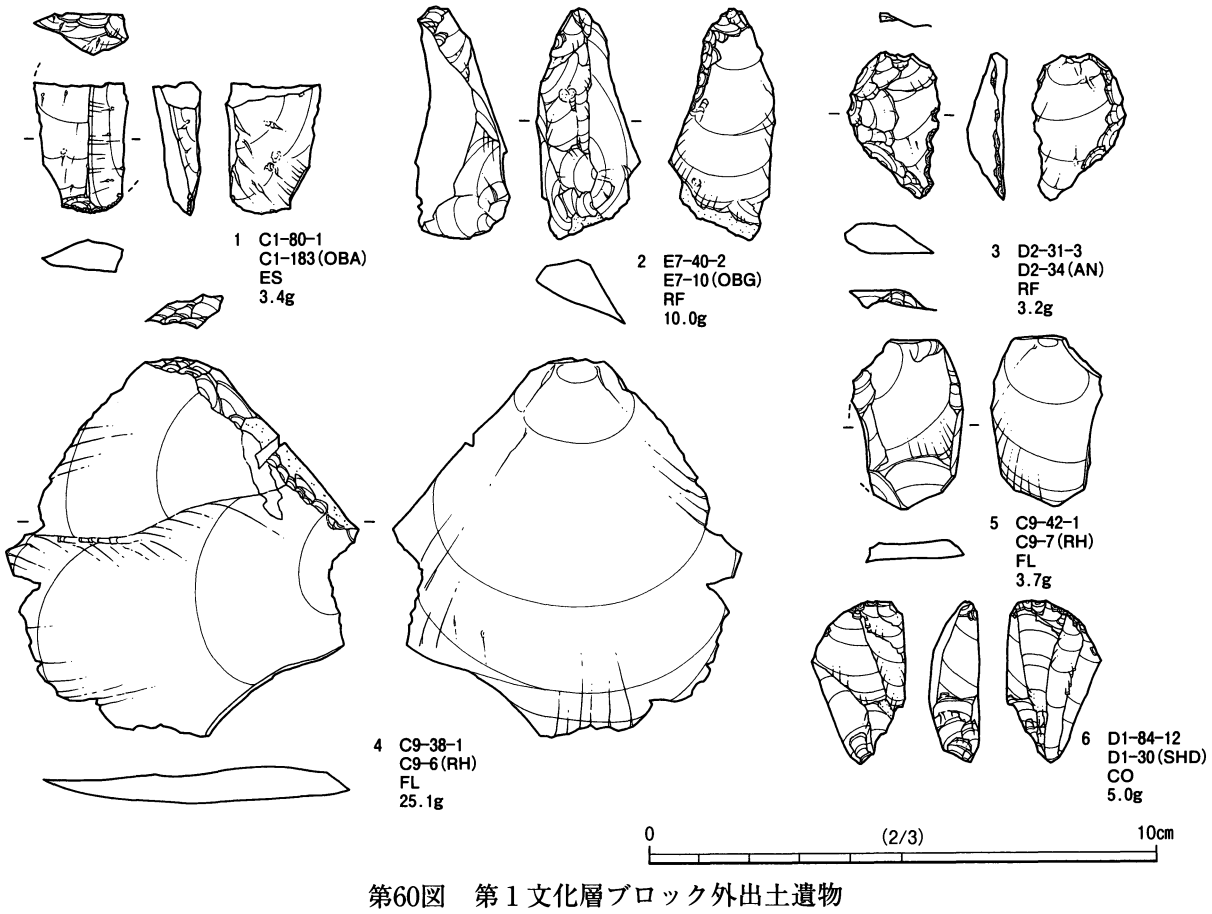
母　岩	石 材	個数	重量
E9R-151	TU	1	40.8

石　材	個数	重量
凝灰岩(TU)	1	40.8
合　計	1	40.8

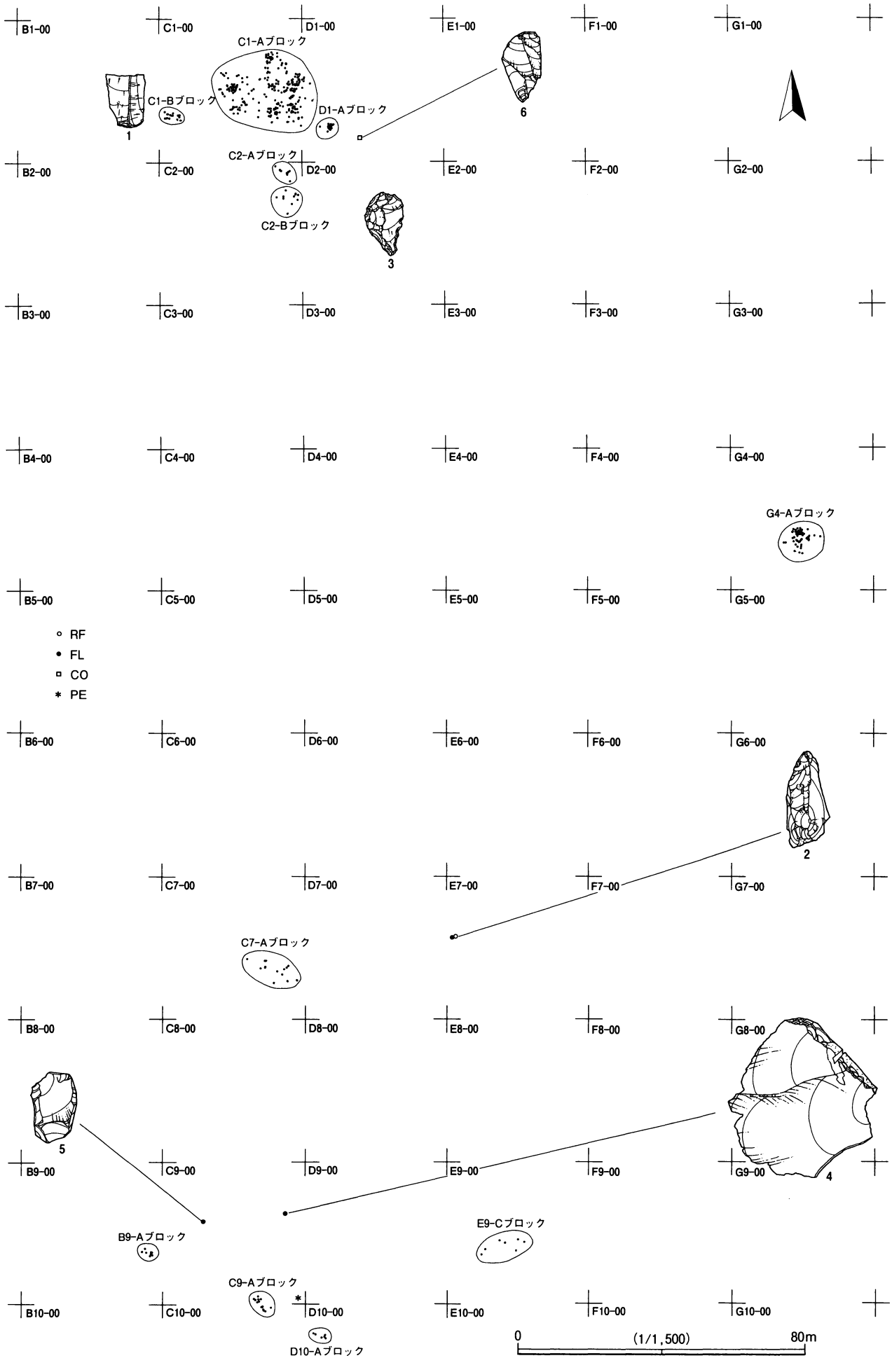
13　ブロック外（第60・61図，カラー図版６）

ここでは第１文化層のブロックを形成していないグリッド単独（２点以下）出土の遺物について記述する。掻器１点，加工痕ある剥片２点，剥片３点，石核１点，礫２点の合計９点が出土した。

１は漆黒色不透明で黄灰色の夾雑物を含む黒曜石による掻器である。栃木県高原山産と考えられる。素材の末端に70度ほどの調整加工を行っている。C1-80グリッドのⅦ層から出土した。２は自然面は爪形の裂痕が密で，自然面及び内部は黒褐色（10YR2/2）の半透明の黒曜石による加工痕ある剥片である。産地は不明である。被熱等によるものか，表面全体に光沢がない。縦長剥片を素材として，裏面左側縁の上部に調整加工を行っている。調査時の所見ではE7-40グリッドのⅢ層であったが，同層から出土した礫よりも50cmほど下部から出土しているため，第１文化層に帰属するものと考えた。３は暗灰黄色（2.5Y5/2）の安山岩による加工痕ある剥片である。表面左側縁から右側縁下部にかけてと裏面右側縁に調整加工を行っている。



第60図　第１文化層ブロック外出土遺物



第61図　第１文化層ブロック外出土遺物分布

石錐の可能性もある。D2-31グリッドのＸ層から出土した。器種や出土層位など問題の残る石器である。４は自然面は平滑で，自然面及び内部は灰白色（5Y8/2），新鮮な面は灰白色（N8/0）の流紋岩による剥片である。C9-38グリッドのⅨc層から出土した。５は淡黄色（2.5Y8/3）の流紋岩による剥片である。C9-42グリッドのⅦ～Ⅸa層から出土した。６はにぶい黄橙色（10YR7/4）・にぶい黄褐色（10YR5/3）の硬質緻密な頁岩による石核である。両端に剥離痕が見られ，両極石核と考えられる。D1-84グリッドのＸ層から出土した。３と同様，器種や出土層位など問題の残る石器である。

14　焼土遺構（第62図，図版４）

E4-04・05グリッドのⅨ層中で，焼土遺構を１基検出した。台地のほぼ中央部で，傾斜変換点までの距離は30mである。遺構の検出面はⅨ層上面で，焼土粒を多量に含む１層を中心として，直径３ｍ・深さ20cmの範囲に焼土粒や炭化物などが分布している。その性格については，明確なプランが確認されなかったこと，近くに関連する遺物などが検出されていないこと，炭化物の分布状況の確認に問題がなかったのかなど遺構として認識するには不確定な要素もあるが，限られた狭い範囲に集中していることから，野火などによって形成されたというよりも，焚き火の痕跡といった人為的な要因を考えても良いと思われる。なお，会田信行氏（当時，成田園芸高校教諭）に残留磁化測定を依頼したが，分析結果が所在せず，詳細は不明である。

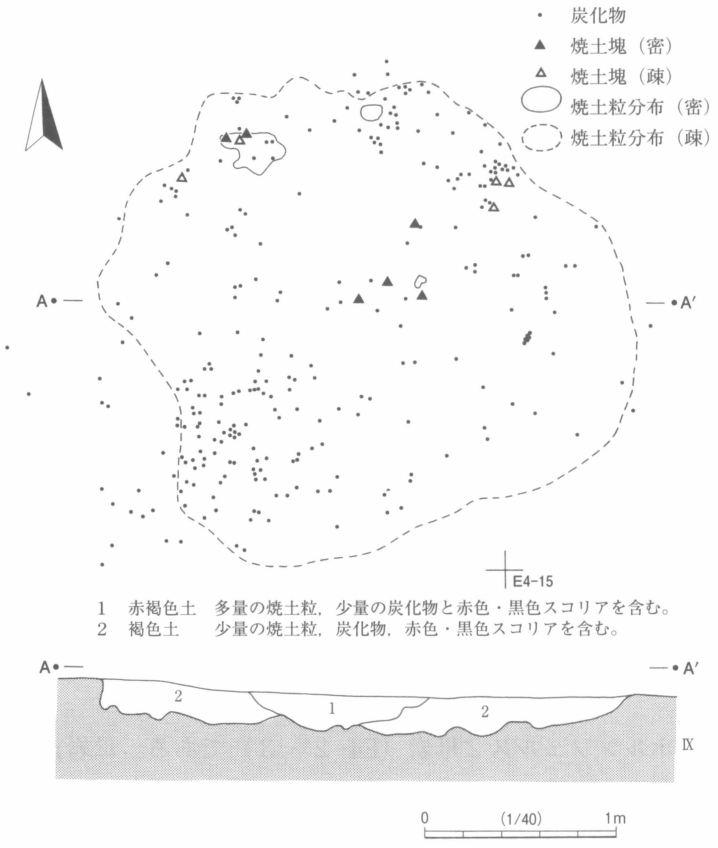
15　土坑（第63図，図版４）

台地のほぼ中央部のC9-38・48グリッドで，長軸80cm，短軸60cm，深さ10cmの楕円形の土坑を１基検出した。検出面は，第２黒色帯下部のⅨa層上部から中部と思われるが，本来の堀り込み面は，不明である。炭化物集中地点Ｃ－１が重複し，隣接するC9-38グリッドのⅨc層から剥片が単独で出土している。土坑内では遺物は発見されておらず，人為的に掘り込まれたのかどうかは不明であるが，炭化物がまとまって集中している。

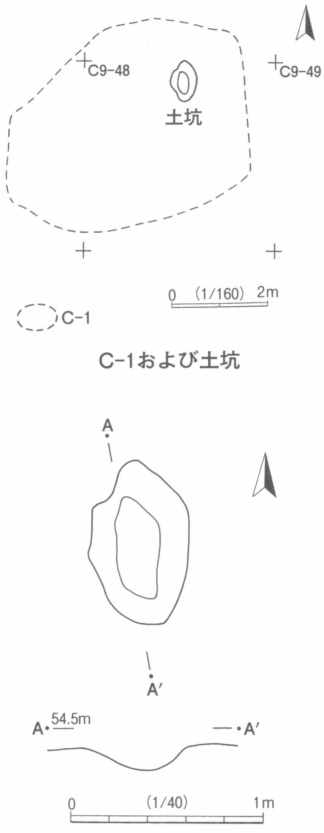
16　炭化物集中地点（第64図，図版４・５）

本遺跡では立川ローム層第２黒色帯下部からＸ層にかけて，炭化物が集中して６か所発見された。人為的か自然的要因か未だに確定していないという成因の問題や標本抽出における偏向の問題などが考えられるが，これらの炭化物の集中分布に対して，炭化物集中地点（Ｃ－１～Ｃ－６）と呼称し，記載した。

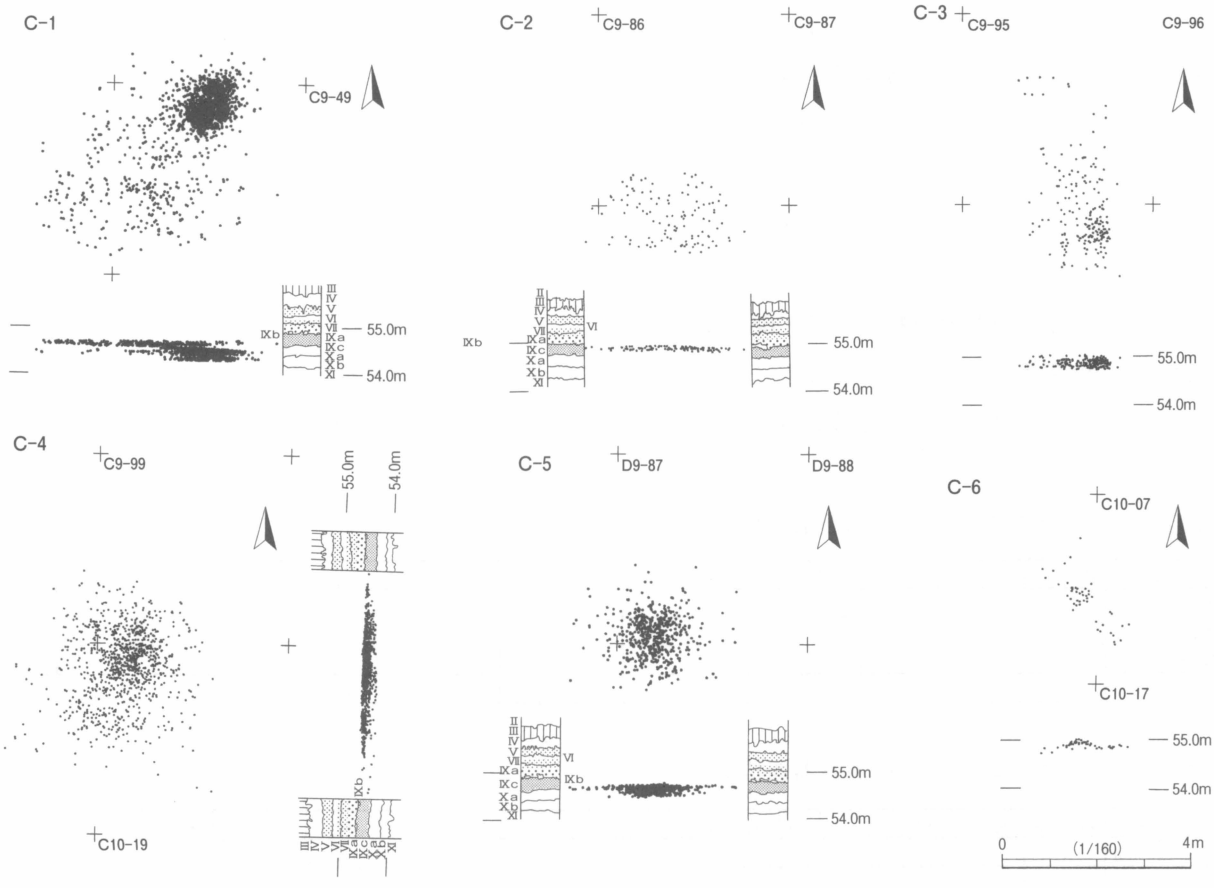
その分布状況について，①石器群との関係では，一部が重複するものが１か所（Ｃ－６），近接するものが３か所（Ｃ－２・３・４），20m以上離れるものが２か所（Ｃ－１・５）ある。また，Ｃ－１は，土坑が重複し，単独出土の石器が近接している。②全体の分布状況は，南に偏る。③個々の分布状況は，長軸２ｍ～６ｍ，短軸１ｍ～４ｍ，深さは0.2m～0.5mで，概ねⅨc層に収まる。④分布密度は，Ａ；全体的に散漫に広がるもの３か所（Ｃ－２・３・６），Ｂ；全体的に密度の高いまとまりを示すもの１か所（Ｃ－５），Ｃ；散漫な広がりの中に密度の高いまとまりを示すもの２か所（Ｃ－１・４）の３種類に分けられる。



第62図　焼土遺構



第63図　土坑



第64図　第１文化層炭化物集中地点

第３節　第２文化層

第２文化層は，立川ローム層のハードローム層（Ⅵ層下部～Ⅶ層）を中心に包含されている石器群である。E4-Ａ・Ｂ，B9-Ｃ，D10-Ｂブロックの４か所が該当する。武蔵野台地のⅥ層石器群に相当すると考えられる。

１　E4-Ａブロック（第65～68図，第29・30表，カラー図版６・12，図版５）

１）ブロックの概要

E4-Ａブロックは，調査範囲ほぼ中央のE4-45・55グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は10mである。

ブロックの規模と形状は，長軸２m，短軸１mの範囲に18点の石器が分布する。出土層位は，Ⅶ層からⅨc層にかけて，50cmほどの高低差をもっているが，中心はⅦ層で，20cmほどの高低差をもって包含されている（第65・66図）。

ブロックは，剥片14点(13個体)，砕片２点，石核２点の合計18点(17個体)で構成される。石器石材は，ホルンフェルス18点（17個体）である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは２母岩を識別した。内訳は，ホルンフェルス２母岩（E4-２・３）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は94％（17/18点）である。

・**E4-２**：自然面は平滑で，自然面及び内部は暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片６点，砕片１点，石核１点の合計８点（311.3ｇ）である。接合資料は，剥片４点，石核１点の合計５点（301.2ｇ）である。

・**E4-３**：自然面は平滑で暗オリーブ灰色（5GY3/1），内部は暗オリーブ灰色（5GY3/1）の地ににぶい赤褐色（5YR4/4）の鉄分が混じるホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片８点（７個体），石核１点の合計９点（８個体；101.9ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片２点，石核１点の合計３点（80.6ｇ），Ｂは剥片２点（１個体；3.3ｇ）である。

なお，母岩分類できなかった資料に，ホルンフェルスの砕片１点（0.4ｇ）がある。

３）接合資料とその関連資料（第67・68図）

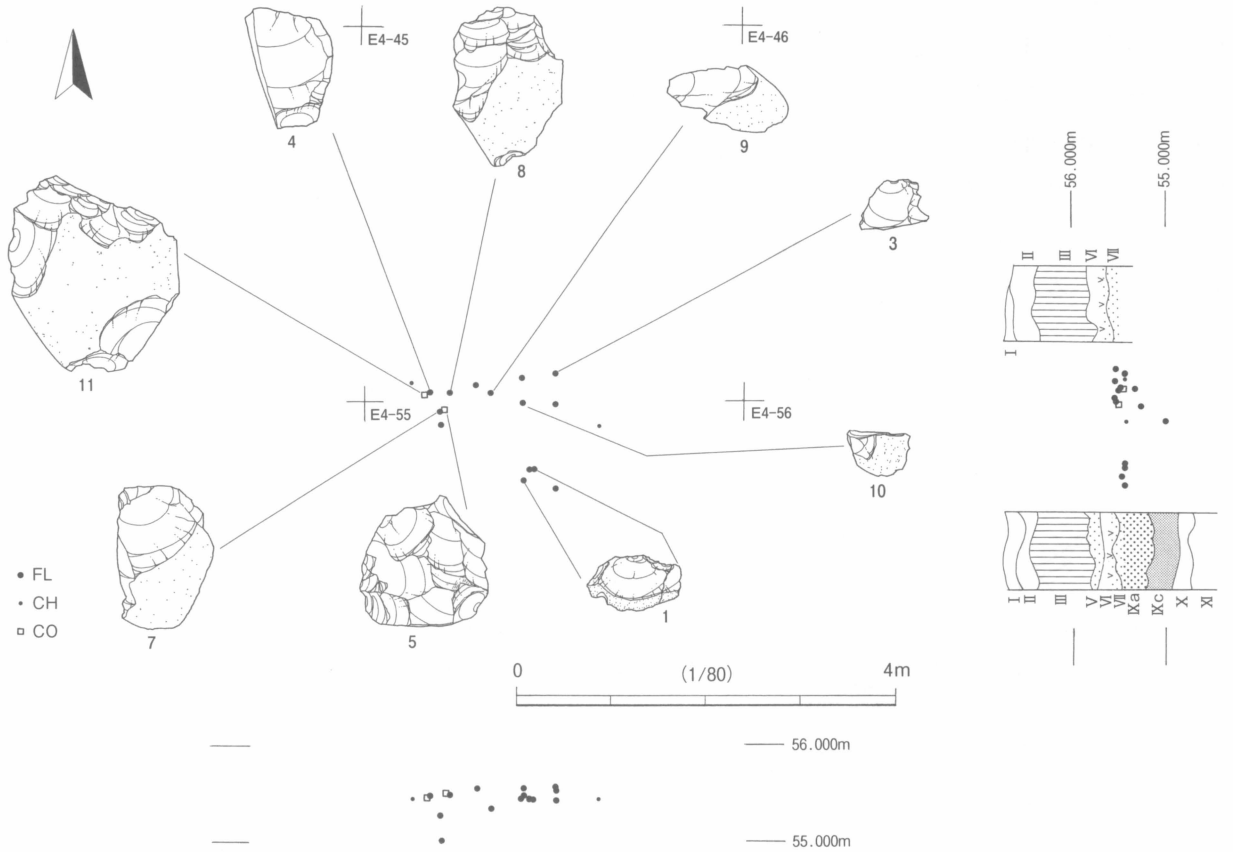
・**E4-３（第67図）**　暗オリーブ灰色（5GY3/1）などのホルンフェルスである。剥片８点（７個体），石核１点の合計９点（８個体）で構成される。接合資料は，２グループある。Ｂ（１）は剥片２点の接合資

第29表　Ｅ４-Ａブロック母岩別石器組成表

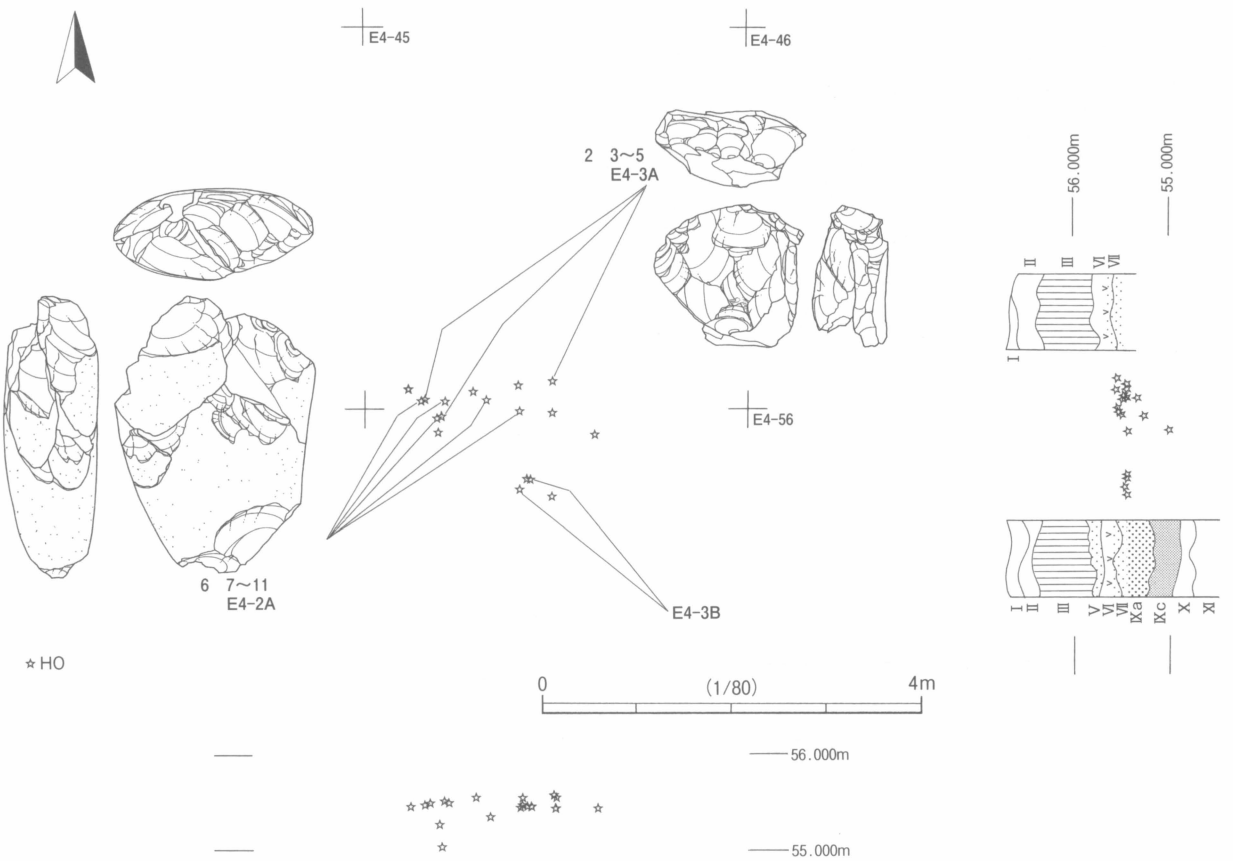
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
E4-2(HO)																		6	1	1					8
E4-3(HO)																		8(7)		1					9(8)
その他(HO)																			1						1
合　計																		14(13)	2	2					18(17)

第30表　Ｅ４-Ａブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
ホルンフェルス(HO)																		14(13)	2	2					18(17)
合　計																		14(13)	2	2					18(17)



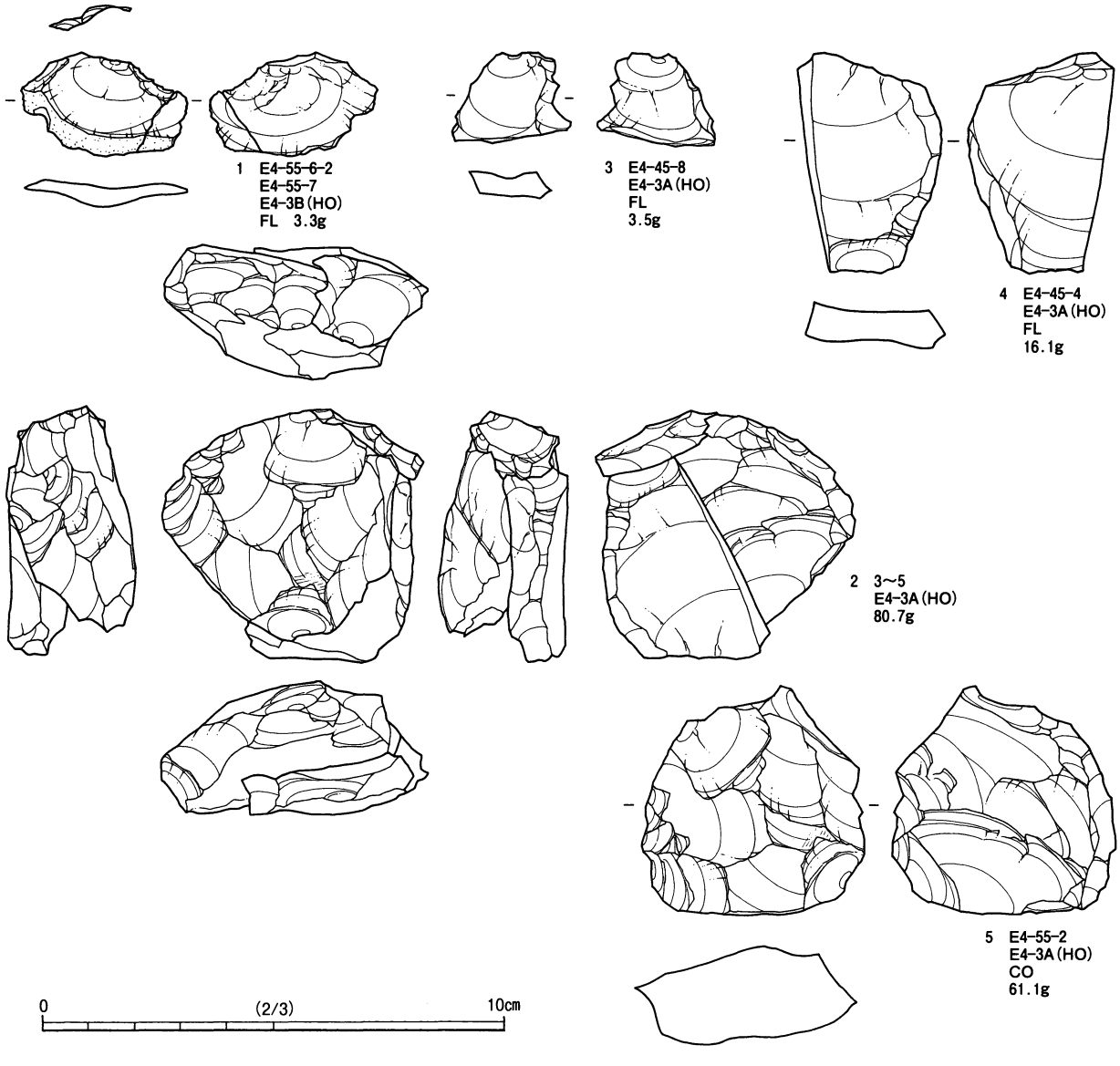
第65図　E4-Aブロック出土遺物分布(1)－石器別分布－



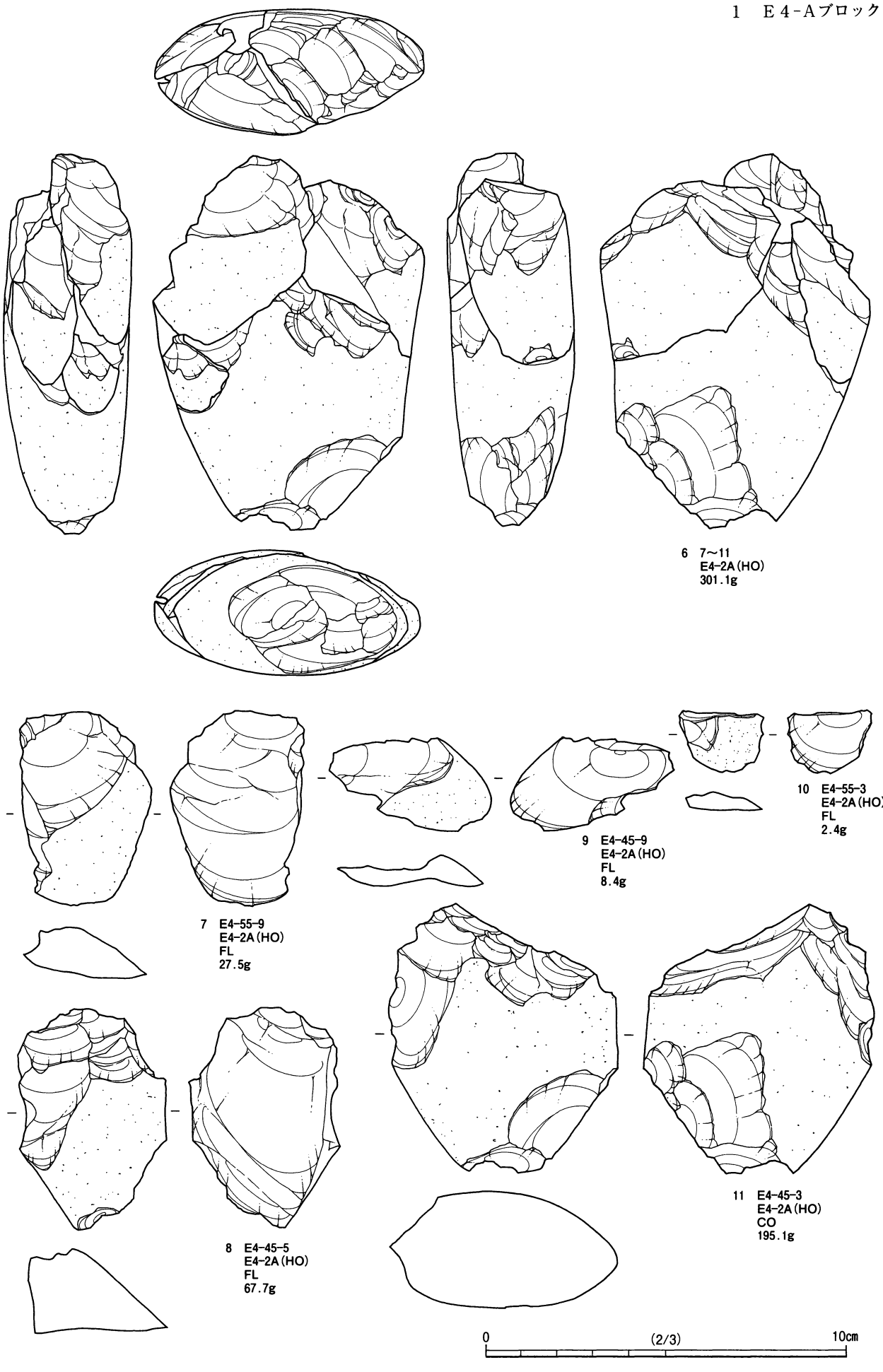
第66図　E4-Aブロック出土遺物分布(2)－石材別分布－

料で，接合して１個体となる。Ａ（２）は剥片２点（３・４），石核１点（５）の合計３点の接合資料である。打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。

・**E4-２（第68図）**　オリーブ灰色（2.5GY5/1）などのホルンフェルスである。剥片６点，砕片１点，石核１点の合計８点で構成される。６は剥片４点（７～10），石核１点（11）の接合資料である。比較的扁平な拳より大きい礫を素材として，打面と作業面を入れ替えながら，７→８→９→10の順に不定型な剥片を剥離している。



第67図　Ｅ４-Ａブロック出土遺物（１）



第68図　E4-Aブロック出土遺物(2)

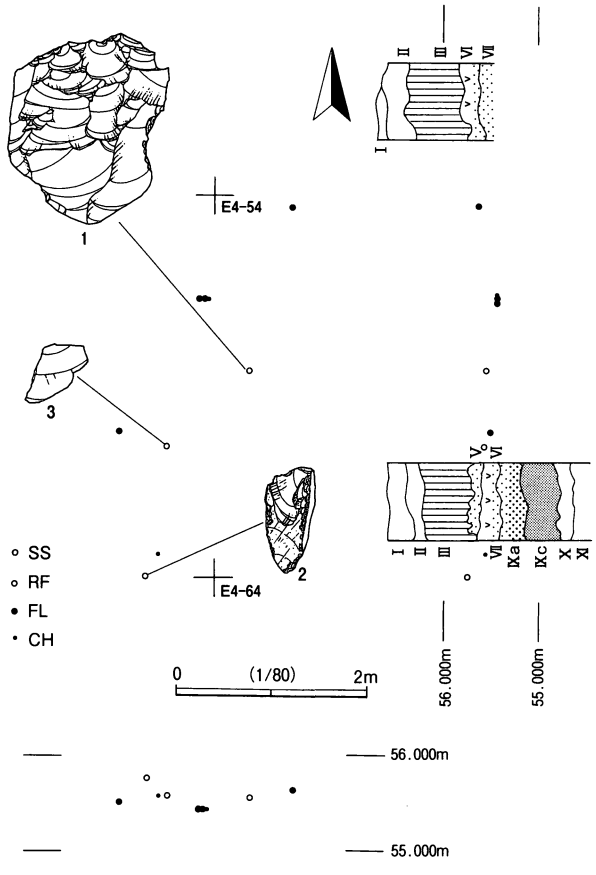
２ E4-Ｂブロック（第69～71図，第31・32表，カラー図版６，図版５）

１）ブロックの概要

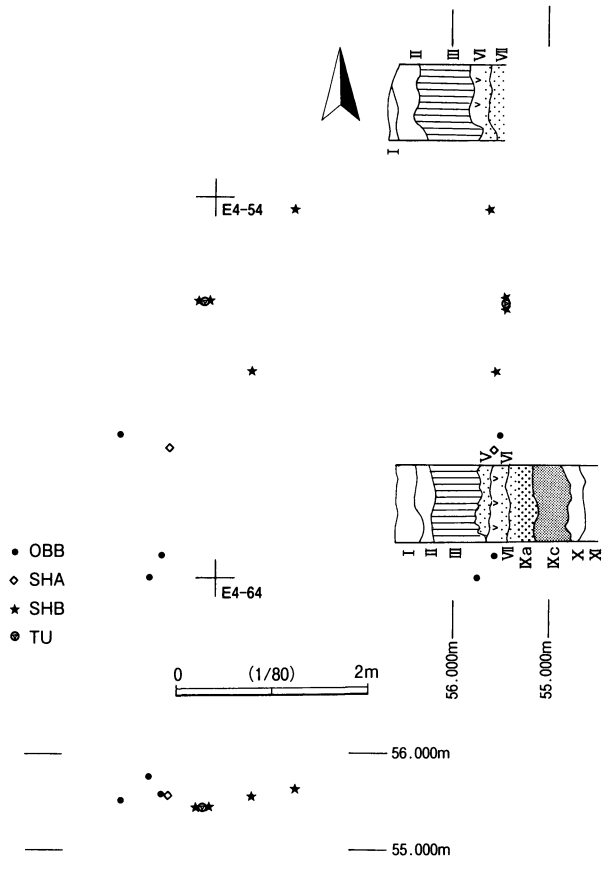
E4-Ｂブロックは，調査範囲ほぼ中央のE4-53・54グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸４ｍ，短軸１ｍの範囲に９点の石器が分布する。出土層位は，Ⅵ層からⅦ層にかけて，30cmほどの高低差をもって包含されている（第69・70図）。

ブロックは，削器１点，加工痕ある剥片２点，剥片４点，砕片２点の合計９点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ３点，頁岩Ａ１点，頁岩Ｂ４点，凝灰岩１点である。



第69図　Ｅ４-Ｂブロック出土遺物分布（１）
－石器別分布－



第70図　Ｅ４-Ｂブロック出土遺物分布（２）
－石材別分布－

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは８母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ２母岩（E4-４・５），頁岩Ａ１母岩（E4-６），頁岩Ｂ４母岩（E4-１・７～９），凝灰岩１母岩（E4-10）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は89％（8/9点）である。

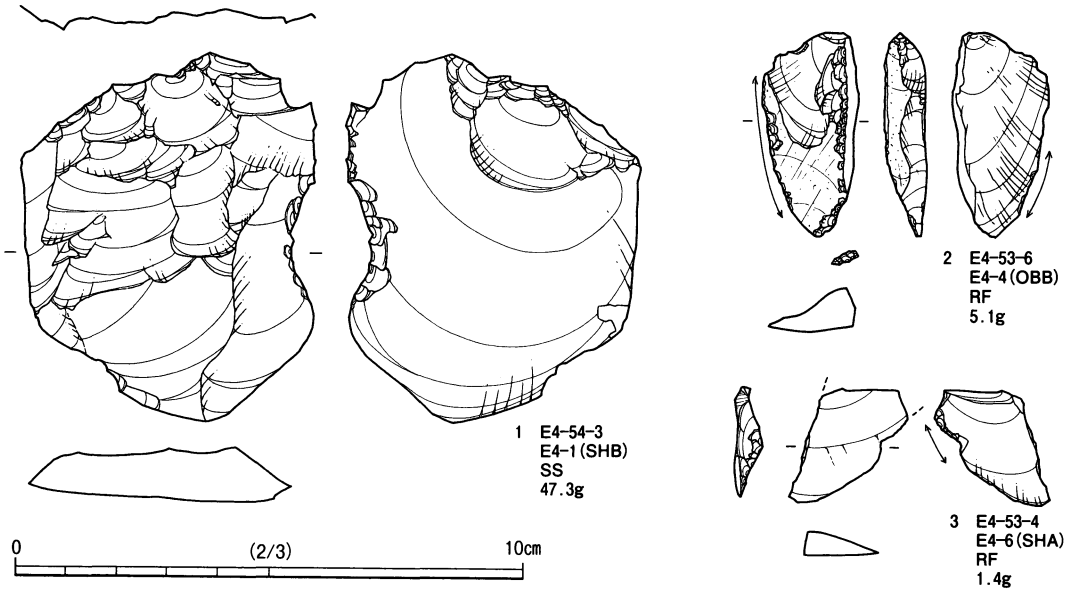
・E4-１：内部及び新鮮な面はにぶい黄橙色（10YR6/3）・にぶい黄褐色（10YR5/3）の北関東産頁岩であるが，東北産頁岩の可能性もある。削器１点（47.3ｇ）の単独資料である。

・E4-4：自然面は極めて平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。加工痕ある剥片1点（5.1g）の単独資料である。

・E4-5：自然面はスリガラス状で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な黒曜石である。E4-4と同一母岩の可能性がある。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点（0.9g）の単独資料である。

・E4-6：内部及び新鮮な面は灰黄褐色（10YR4/2），節理は灰黄褐色（10YR6/2）の東北産頁岩である。加工痕ある剥片1点（1.4g）の単独資料である。

・E4-7：暗灰黄色（2.5Y5/2）の北関東産頁岩である。剥片1点（1.4g）の単独資料である。



第71図　E4-Bブロック出土遺物

第31表　E4-Bブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
E4-1(SHB)						1																			1
E4-4(OBB)										1															1
E4-5(OBB)																		1							1
E4-6(SHA)										1															1
E4-7(SHB)																		1							1
E4-8(SHB)																		1							1
E4-9(SHB)																			1						1
E4-10(TU)																		1							1
その他(OBB)																			1						1
合　計						1				2								4	2						9

第32表　E4-Bブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石B(OBB)										1								1	1						3
頁岩A(SHA)										1															1
頁岩B(SHB)						1												2	1						4
凝灰岩(TU)																		1							1
合　計						1				2								4	2						9

・**E4-８**：にぶい黄橙色（10YR6/3）の北関東産頁岩である。E4-1と同一母岩の可能性が高い。剥片１点（0.5ｇ）の単独資料である。

・**E4-９**：にぶい黄褐色（10YR5/3）の北関東産頁岩である。E4-1と同一母岩の可能性が高い。砕片１点（0.2ｇ）の単独資料である。

・**E4-10**：自然面は凹凸が激しく浅黄色（2.5Y7/4）・黒褐色（5YR3/1），内部は浅黄色（2.5Y7/4）の凝灰岩である。剥片１点（1.6ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，信州和田峠周辺産の黒曜石の砕片１点（0.4ｇ）がある。

３）出土遺物（第71図）

１は北関東産頁岩による削器である。表面右側縁と裏面左側縁に調整加工を行っている。

２は信州和田峠周辺産の黒曜石による加工痕ある剥片である。両側縁に調整加工を行っており，表面左側縁と裏面右側縁の一部に微細な剥離痕が見られる。３は東北産頁岩による加工痕ある剥片である。裏面左側縁の一部に調整加工を行っている。

３ B9-Ｃブロック（第72～74図，第33・34表，カラー図版６・12，図版５）

１）ブロックの概要

B9-Ｃブロックは，調査範囲南側のB9-67グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の西側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）に位置する。

ブロックの規模と形状は，長軸３ｍ，短軸２ｍの範囲に９点の石器が分布する。出土層位は，Ⅵ層を中心として，20cmほどの高低差をもって包含されている（第72・73図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，使用痕ある剥片１点，敲石１点，剥片５点，原石１点の合計９点で構成される。石器石材は，軟質の安山岩１点，頁岩Ｄ１点，頁岩Ｅ１点，チャート１点，砂岩４点，ホルンフェルス１点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは６母岩を識別した。内訳は，軟質の安山岩１母岩（B9-２），頁岩Ｄ１母岩（B9-５），頁岩Ｅ１母岩（B9-８），チャート１母岩（B9-11），砂岩１母岩（B9-13），ホルンフェルス１母岩（B9-14）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（9/9点）である。

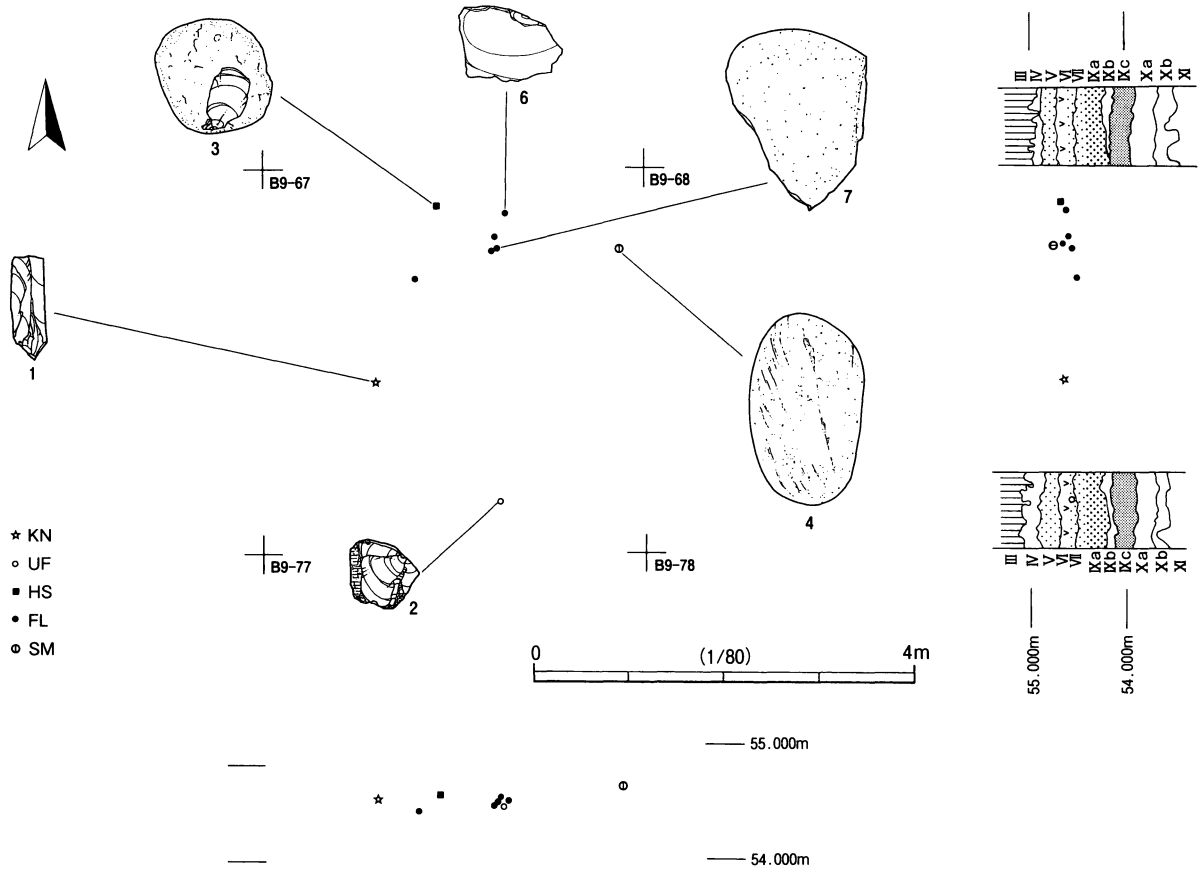
・**B9-２**：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4）・灰白色（7.5Y7/2），新鮮な面は灰白色（7.5Y7/1）の軟質な安山岩である。原石１点（81.5ｇ）の単独資料である。

・**B9-５**：暗灰黄色（2.5Y4/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の硬質緻密な頁岩である。使用痕ある剥片１点（3.2ｇ）の単独資料である。

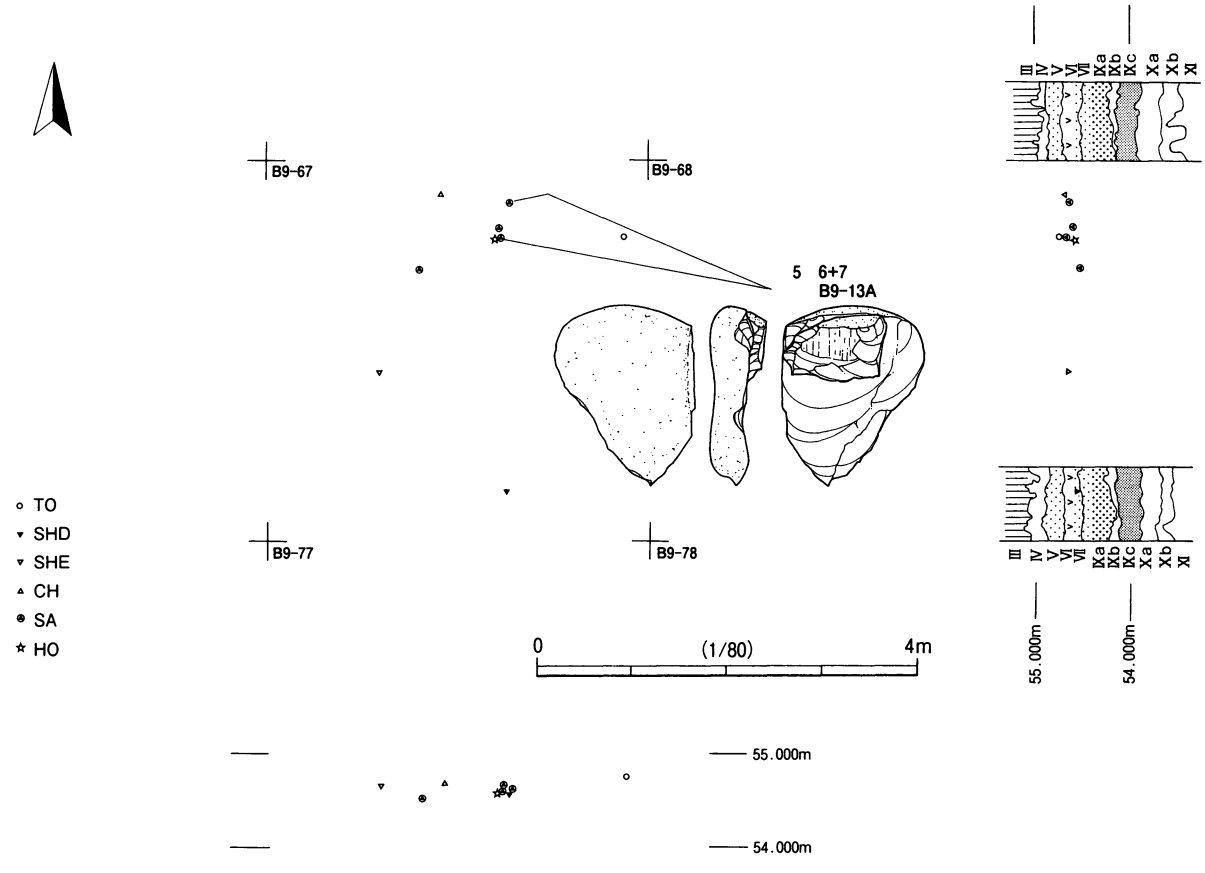
・**B9-８**：内部は淡黄色（2.5Y8/3）の地ににぶい黄色（2.5Y6/4），新鮮な面は黒褐色（2.5Y3/1）の頁岩である。ナイフ形石器１点（3.5ｇ）の単独資料である。

・**B9-11**：自然面は比較的平滑で黄褐色（2.5Y5/3）の地ににぶい黄褐色（10YR5/4）・黄灰色（2.5Y4/1）が混じり，内部は灰オリーブ色（7.5Y6/2）の地に褐色（7.5YR4/3）が混じるチャートである。敲石１点（37.8ｇ）の単独資料である。

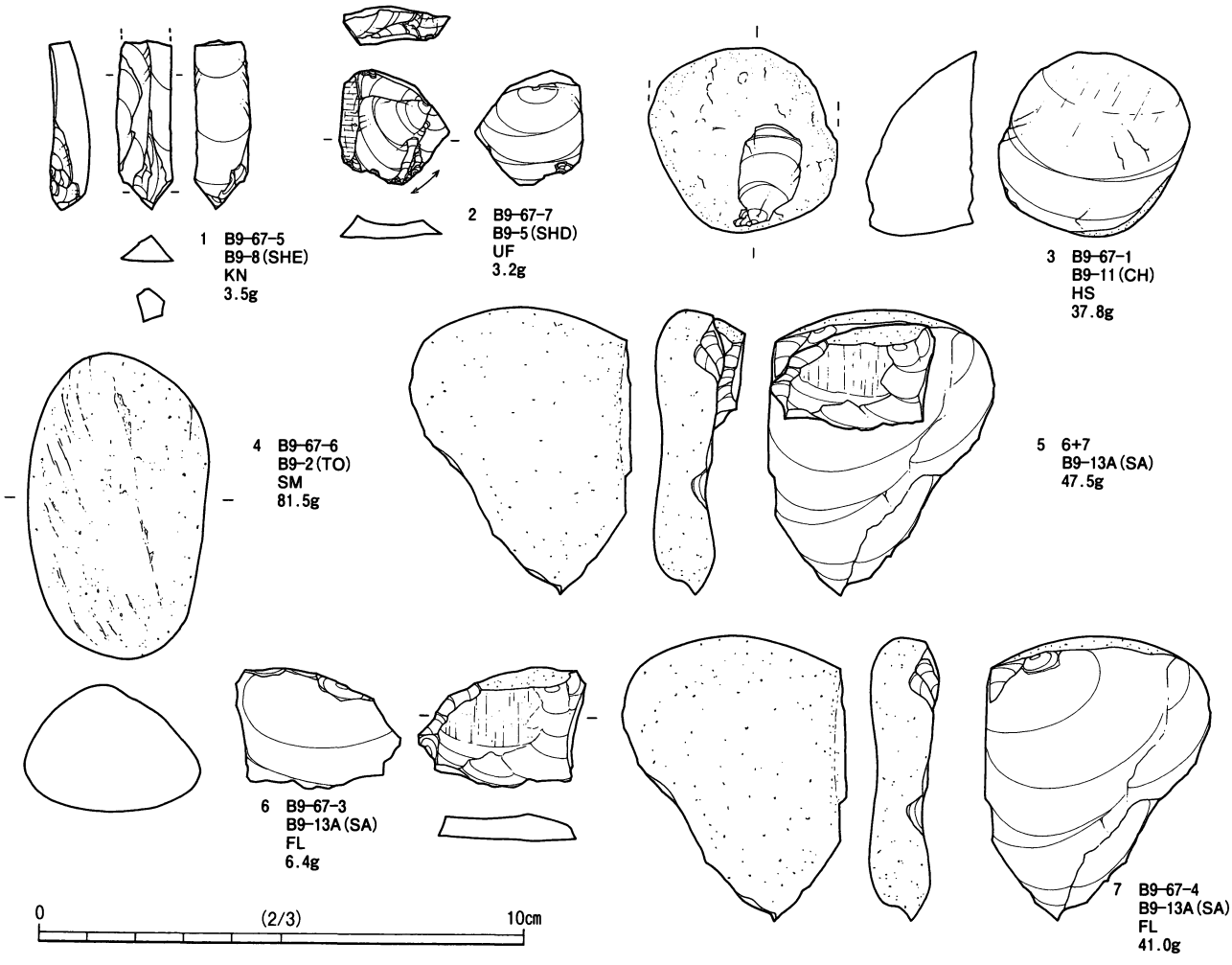
・**B9-13**：自然面は平滑で灰黄色（2.5Y6/2）・にぶい黄色（2.5Y6/4），内部は灰色（10Y6/1），節理は褐色（10YR4/6）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片４点（49.9ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石



第72図　B9-Cブロック出土遺物分布(1)－石器別分布－



第73図　B9-Cブロック出土遺物分布(2)－石材別分布－



第74図　Ｂ９-Ｃブロック出土遺物

第33表　Ｂ９-Ｃブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
B9-2(TO)																					1				1
B9-5(SHD)											1														1
B9-8(SHE)	1																								1
B9-11(CH)																1									1
B9-13(SA)																		4							4
B9-14(HO)																		1							1
合　計	1										1					1		5			1				9

第34表　Ｂ９-Ｃブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
安山岩(TO)																					1				1
頁岩D(SHD)											1														1
頁岩E(SHE)	1																								1
チャート(CH)																1									1
砂岩(SA)																		4							4
ホルンフェルス(HO)																		1							1
合　計	1										1					1		5			1				9

核１点の合計２点（47.5ｇ）である。

・**B9-14**：灰オリーブ色（7.5Y5/2）のホルンフェルスである。剥片１点（0.3ｇ）の単独資料である。

3）出土遺物（第74図１～４）

１は頁岩による部分加工のナイフ形石器である。石刃を素材として末端側を基部として調整加工を行っている。上部が欠損している。

２は硬質緻密な頁岩による使用痕ある剥片である。右側縁の一部に微細な剥離痕が見られる。

３はチャートによる敲石である。図上正面の剥離痕が敲打痕と考えられる。上部の大半を欠損し，末端部と思われる。

４は軟質の安山岩による原石である。

4）接合資料とその関連資料（第74図５～７）

・**B9-13（第74図５～７）**　灰色(10Y6/1)などの砂岩である。剥片４点で構成される。５は剥片２点(６・７）の接合資料である。７→６の順に剥離している。

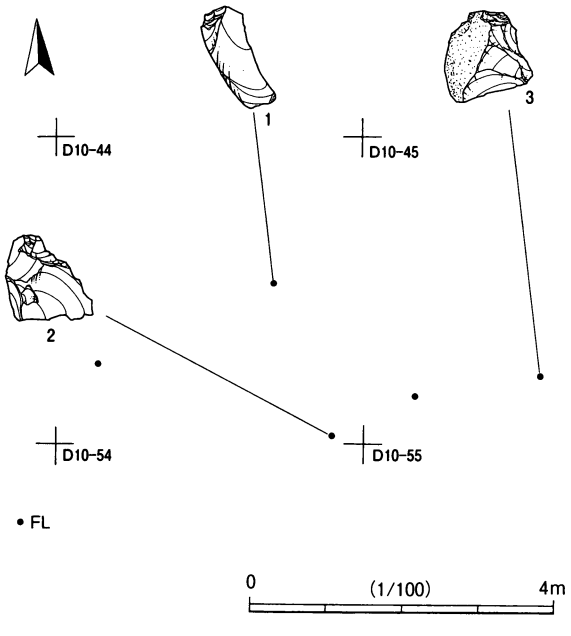
4 D10-Bブロック（第75～77図，第35・36表，カラー図版６，図版５）

1）ブロックの概要

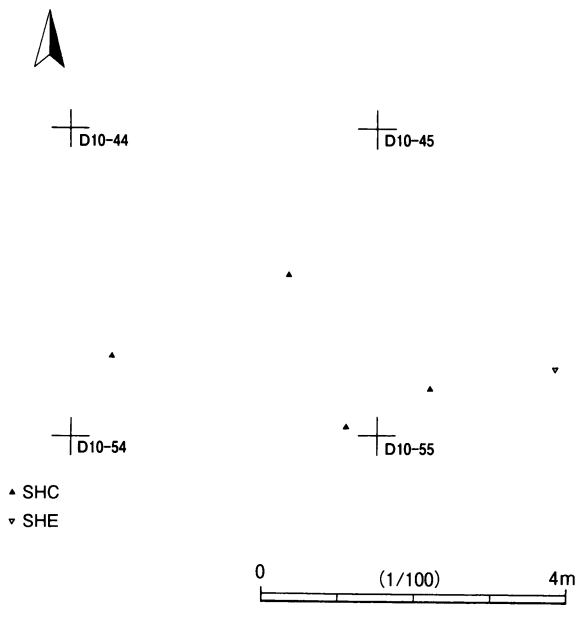
D10-Bブロックは，調査範囲南側のD10-44・45グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸６ｍ，短軸２ｍの範囲に６点の石器が散漫に分布する。出土層位は，調査時の所見によれば，Ⅵ層である（第75・76図)。

ブロックは，剥片６点で構成される。石器石材は，頁岩Ｃ５点，頁岩Ｅ１点である。



第75図　D10-Bブロック出土遺物分布(１)
－石器別分布－



第76図　D10-Bブロック出土遺物分布(２)
－石材別分布－

２）母岩の特徴と内容

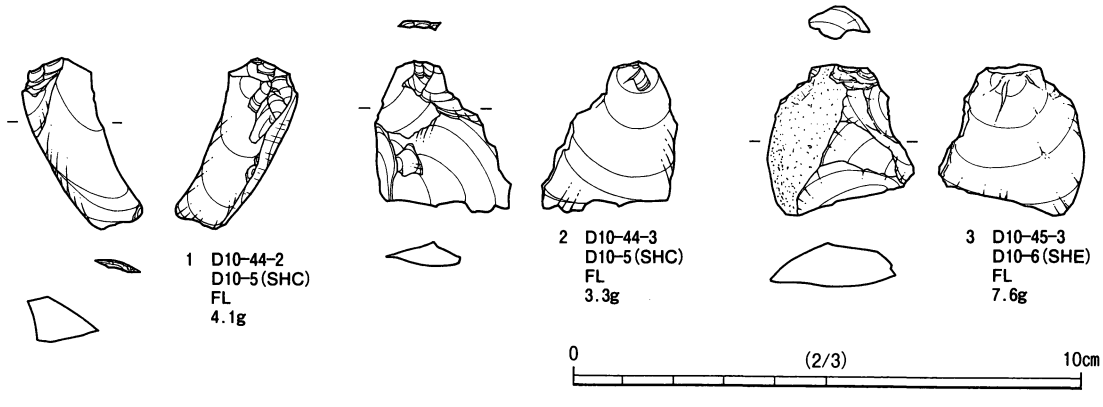
本ブロックでは２母岩を識別した。内訳は，頁岩Ｃ１母岩（D10-５），頁岩Ｅ１母岩（D10-６）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（6/6点）である。

・**D10-５**：自然面は比較的平滑で暗灰黄色（2.5Y4/2），内部及び新鮮な面が灰オリーブ色（5Y5/2）の資料と灰オリーブ色（5Y4/2）の資料など母岩内での変異のある嶺岡産頁岩である。後者は前者に比べると若干珪化度が高い。石器群の内訳は，剥片５点（14.0ｇ）である。

・**D10-６**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（7.5Y6/2），新鮮な面は灰色（7.5Y4/1）の頁岩である。剥片１点（7.6ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第77図）

１は嶺岡産頁岩による縦長剥片，２は嶺岡産頁岩による不定型な剥片，３は頁岩による不定型な剥片である。



第77図　D10-Ｂブロック出土遺物

第35表　D10-Ｂブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
D10-5(SHC)																		5							5
D10-6(SHE)																		1							1
合　計																		6							6

第36表　D10-Ｂブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
頁岩C(SHC)																		5							5
頁岩E(SHE)																		1							1
合　計																		6							6

第４節　第３文化層

第３文化層は，立川ローム層のハードローム層（Ｖ層下部）を中心に包含されている石器群である。C8-A，B9-Bブロックの２か所が該当する。他に単独地点３か所を検出した。前後する文化層に比べ，出土地点・出土層位に多少違いがあることや調査時の所見なども勘案して，設定したものである。武蔵野台地のＶ層下部の石器群に相当すると思われるが，層位的・資料的制約などから，その内容は明確ではなく，第４文化層の南側の一群に帰属する可能性もある。

1　C8-Aブロック（第78～80図，第37・38表，カラー図版６）

1）ブロックの概要

C8-Aブロックは，調査範囲南側のC8-19・28・29グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の西側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，直径３mの範囲に３点の石器が散漫に分布する。出土層位は，Ｖ層下部で，10cmほどの高低差をもって包含されている（第78・79図）。

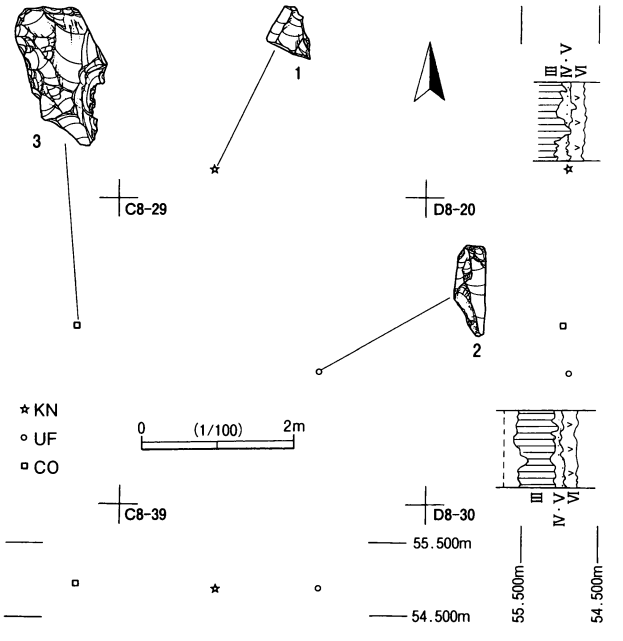
ブロックは，ナイフ形石器１点，使用痕ある剥片１点，石核１点の合計３点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｇ２点，頁岩Ｃ１点である。

2）母岩の特徴と内容

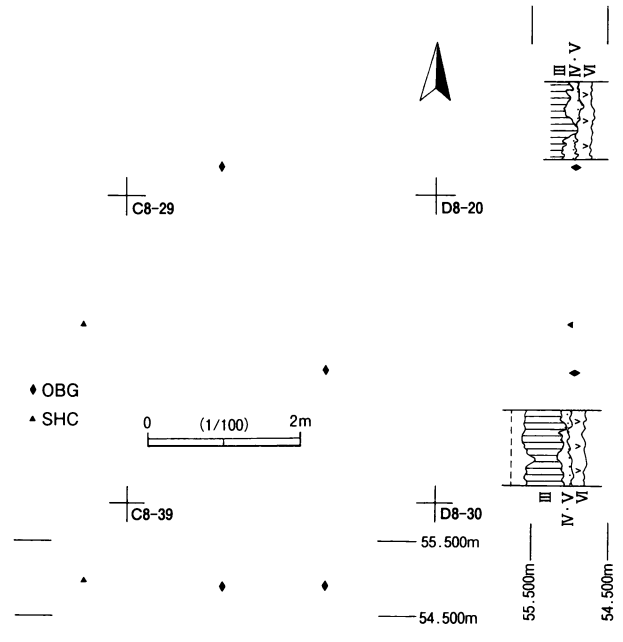
本ブロックでは２母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｇ１母岩（C8-１），頁岩Ｃ１母岩（C8-２）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（3/3点）である。

・C8-１：黒褐色（10YR3/2）で半透明な黒曜石である。被熱等によるものか，表面全体に光沢がない。産地は不明である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，使用痕ある剥片１点の合計２点（2.3ｇ）である。

・C8-２：灰オリーブ色（5Y5/2）の地に灰色（5Y5/1）が混じる嶺岡産頁岩である。石核１点（20.2ｇ）の単独資料である。



第78図　Ｃ８-Aブロック出土遺物分布（１）
－石器別分布－



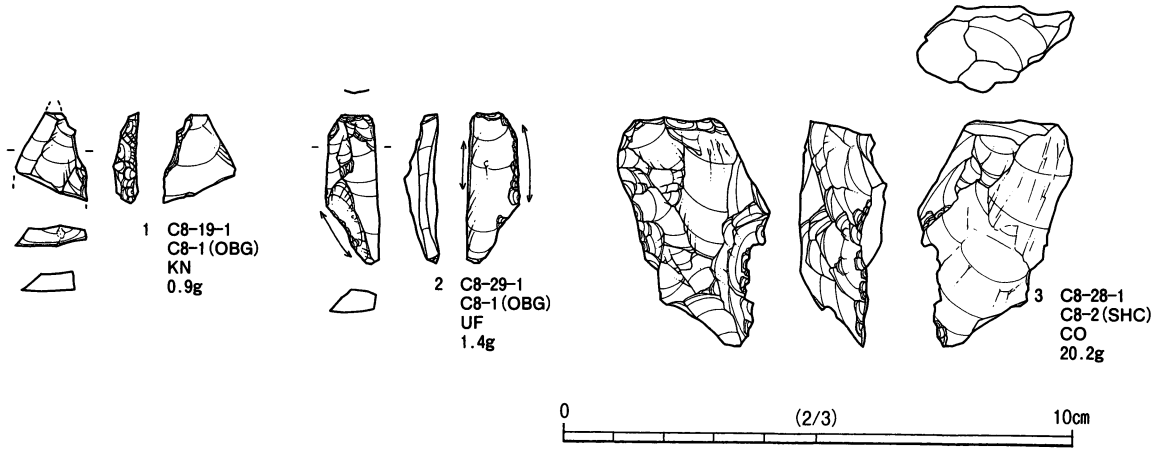
第79図　Ｃ８-Aブロック出土遺物分布（２）
－石材別分布－

３）出土遺物（第80図）

１は産地不明の黒曜石によるナイフ形石器である。打面側を先端部として，右側縁に調整加工を行っている。先端部と思われるが，下部の大半を欠損していることから，形態は不明である。

２は産地不明の黒曜石による使用痕ある剥片である。小型の石刃を素材として，表面左側縁の下半部と裏面両側縁の一部に微細な剥離痕が見られる。

３は嶺岡産頁岩による石核である。旧素材の主要剥離面を打面として，求心的な剥離作業により不定型な剥片を剥離している。



第80図　Ｃ８-Ａブロック出土遺物

第37表　Ｃ８-Ａブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
C8-1(OBG)	1										1														2
C8-2(SHC)																				1					1
合　計	1										1									1					3

第38表　Ｃ８-Ａブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石G(OBG)	1										1														2
頁岩C(SHC)																				1					1
合　計	1										1									1					3

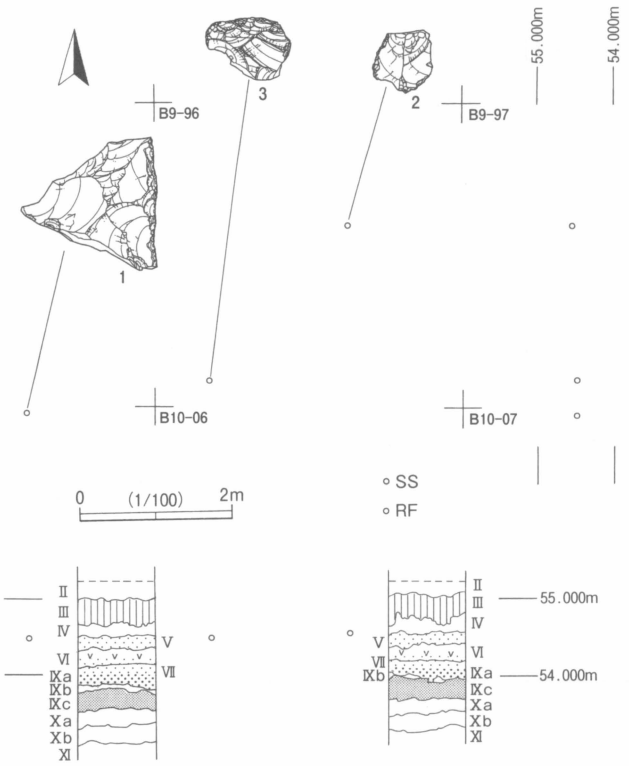
２　B9-Ｂブロック（第81～83図，第39・40表，カラー図版６）

１）ブロックの概要

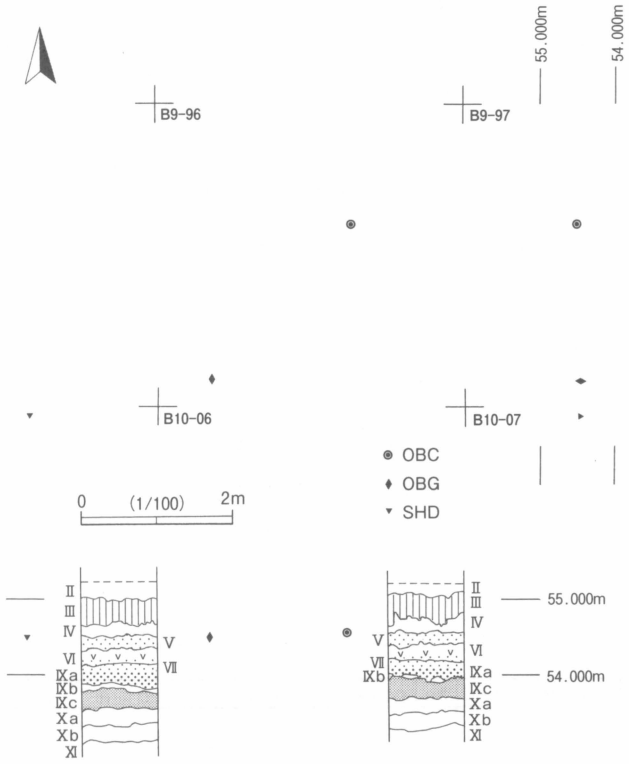
B9-Ｂブロックは，調査範囲南側のB9-96，B10-05グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の西側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は10mである。

ブロックの規模と形状は，長軸５m，短軸１mの範囲に３点の石器が分布する。出土層位は，Ｖ層で，10cmほどの高低差をもって包含されている（第81・82図）。

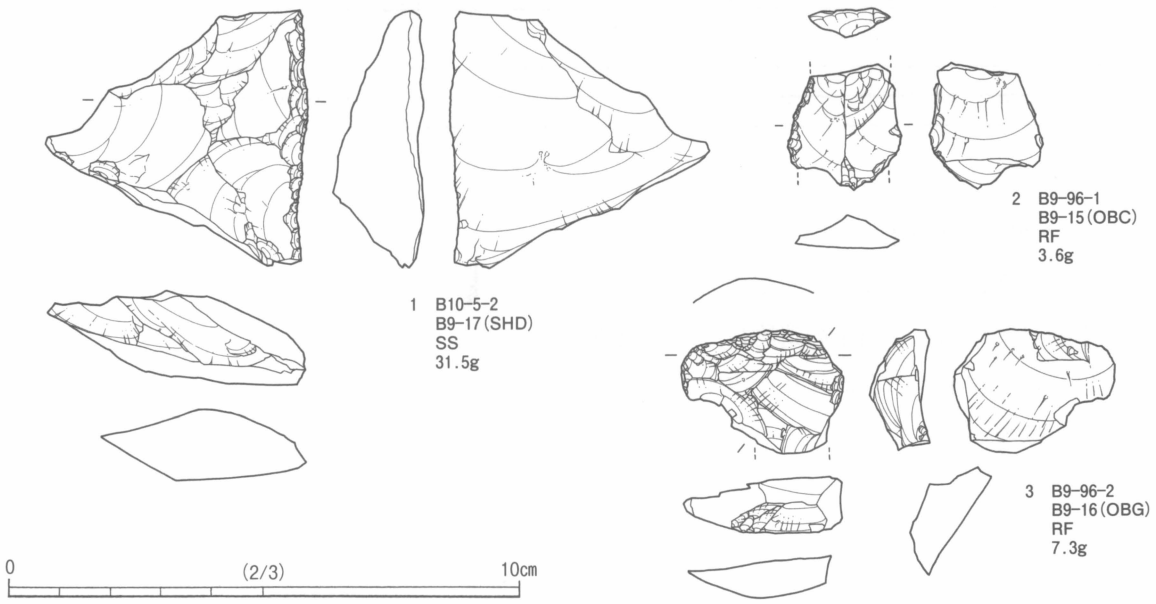
ブロックは，削器１点，加工痕ある剥片２点の合計３点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｃ１点，黒曜石Ｇ１点，頁岩Ｄ１点である。



第81図　Ｂ９-Ｂブロック出土遺物分布（１）
－石器別分布－



第82図　Ｂ９-Ｂブロック出土遺物分布（２）
－石材別分布－



第83図　Ｂ９-Ｂブロック出土遺物

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｃ１母岩（B9-15），黒曜石Ｇ１母岩（B9-16），頁岩Ｄ１母岩（B9-17）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（3/3点）である。

・**B9-15**：薄墨を流したような半透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの灰白色の夾雑物を含む。信州麦草峠産と考えられる。加工痕ある剥片１点（3.6ｇ）の単独資料である。

・**B9-16**：灰色と黒灰色が多数縞状に入る不透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの黄白色の夾雑物を含む。産地は不明である。加工痕ある剥片１点（7.3ｇ）の単独資料である。

・**B9-17**：にぶい黄褐色（10YR5/3）の硬質緻密な頁岩である。削器１点（31.5ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第83図）

１は硬質緻密な頁岩による削器である。右側縁に調整加工を行っている。

２は信州麦草峠周辺産の黒曜石，３は産地不明の黒曜石による加工痕ある剥片である。２は左側縁，３は右側縁の一部に調整加工を行っている。

第39表　Ｂ９-Ｂブロック母岩別石器組成表

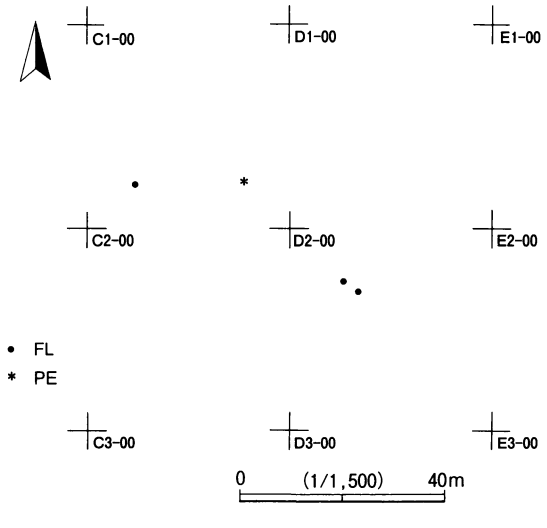
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
B9-15(OBC)										1															1
B9-16(OBG)										1															1
B9-17(SHD)						1																			1
合　計						1				2															3

第40表　Ｂ９-Ｂブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石C(OBC)										1															1
黒曜石G(OBG)										1															1
頁岩D(SHD)						1																			1
合　計						1				2															3

３　ブロック外（第84図）

ここでは第３文化層のブロックを形成していないグリッド単独（２点以下）出土の遺物について記述する。剥片３点，礫１点の合計４点が出土したが，図示するものはない。



第84図　第３文化層ブロック外出土遺物分布

第５節　第４文化層

第４文化層は，立川ローム層ソフトローム層（Ⅲ層下部）からハードローム最上層（Ⅳ・Ⅴ層）を中心に包含されている石器群である。武蔵野台地のⅣ層下部ないしⅤ層の石器群に相当すると考えられる。C1-C～F，D1-B，C2-C・D，D2-A～C，E6-A，D7-A，E7-A～C，E8-A～H，E9-A・B，D9-A・Bブロックの27か所が該当する。C1-C・D，C2-C，D1-B，D2-A～C，D7-A，E7-A～C，E8-C・D・F～H，E9-A・Bブロックにはブロック間に接合関係，これら及びC1-E，C2-D，D1-Cブロックにはブロック間に母岩の共有関係がある。また，これらのブロックは，石器石材では，ホルンフェルスを主体として，嶺岡産頁岩などの頁岩類や瑪瑙・玉髄などが伴う遺跡北側のC1-C～F，D1-B，C2-C・D，D2-A～C，E6-Aブロックと信州和田峠産の黒曜石などを主体とする遺跡南側のD7-A，E7-A～C，E8-A～H，E9-A・B，D9-A・Bブロックに分かれる。同様の分布上の差は，礫群の礫の属性などでも見られる。なお，礫はD9-Bブロックを除いて，すべてのブロックに伴っており，E8-Eブロックは礫のみである。他に，単独出土地点４か所を検出した。

1　C1-Cブロック（第85～90図，第41～43表，カラー図版７・12）

1）ブロックの概要

C1-Cブロックは，調査範囲北側のC1-81・82・88・91グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の西側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸５m，短軸４mの範囲に34点の石器・礫が分布する。出土層位は，調査時の所見によれば，Ⅳ層からⅥ層にかけて，50cmほどの高低差をもって包含されている（第85・86図）。

ブロックは，加工痕ある剥片２点，剥片24点，砕片２点，石核５点の合計33点と礫１点で構成される。石器石材は，頁岩Ａ１点，頁岩Ｅ１点，チャート２点，ホルンフェルス26点，瑪瑙・玉髄３点である。礫石材は，砂岩１点（１母岩；331.7ｇ）で，識別率は100％である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは17母岩を識別した。内訳は，頁岩Ａ１母岩（C1-152），頁岩Ｅ１母岩（C1-153），チャート１母岩（C1-154），ホルンフェルス13母岩（C1-155～167），瑪瑙・玉髄１母岩（C1-168）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は94％（31/33点）である。

・**C1-152**：にぶい黄褐色（10YR4/3）の東北産頁岩である。剥片１点（4.5ｇ）の単独資料である。

・**C1-153**：自然面は比較的平滑で黄褐色（2.5Y5/3）の地に灰白色（7.5Y8/2）の斑が入り，内部は灰オリーブ色（5Y6/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。剥片１点（9.4ｇ）の単独資料である。

・**C1-154**：自然面は比較的平滑で黒色（N2/0），内部は黒色（N2/0）・灰オリーブ色（7.5Y5/2）のチャートである。石器群の内訳は，剥片２点（6.1ｇ）である。接合資料は，剥片１点（5.2ｇ）が，C1-Dブロックの石核１点と接合している。

・**C1-155**：自然面は平滑で灰オリーブ色（5Y6/2），内部は青灰色（5B6/1）のホルンフェルスである。石核１点（49.3ｇ）の単独資料である。

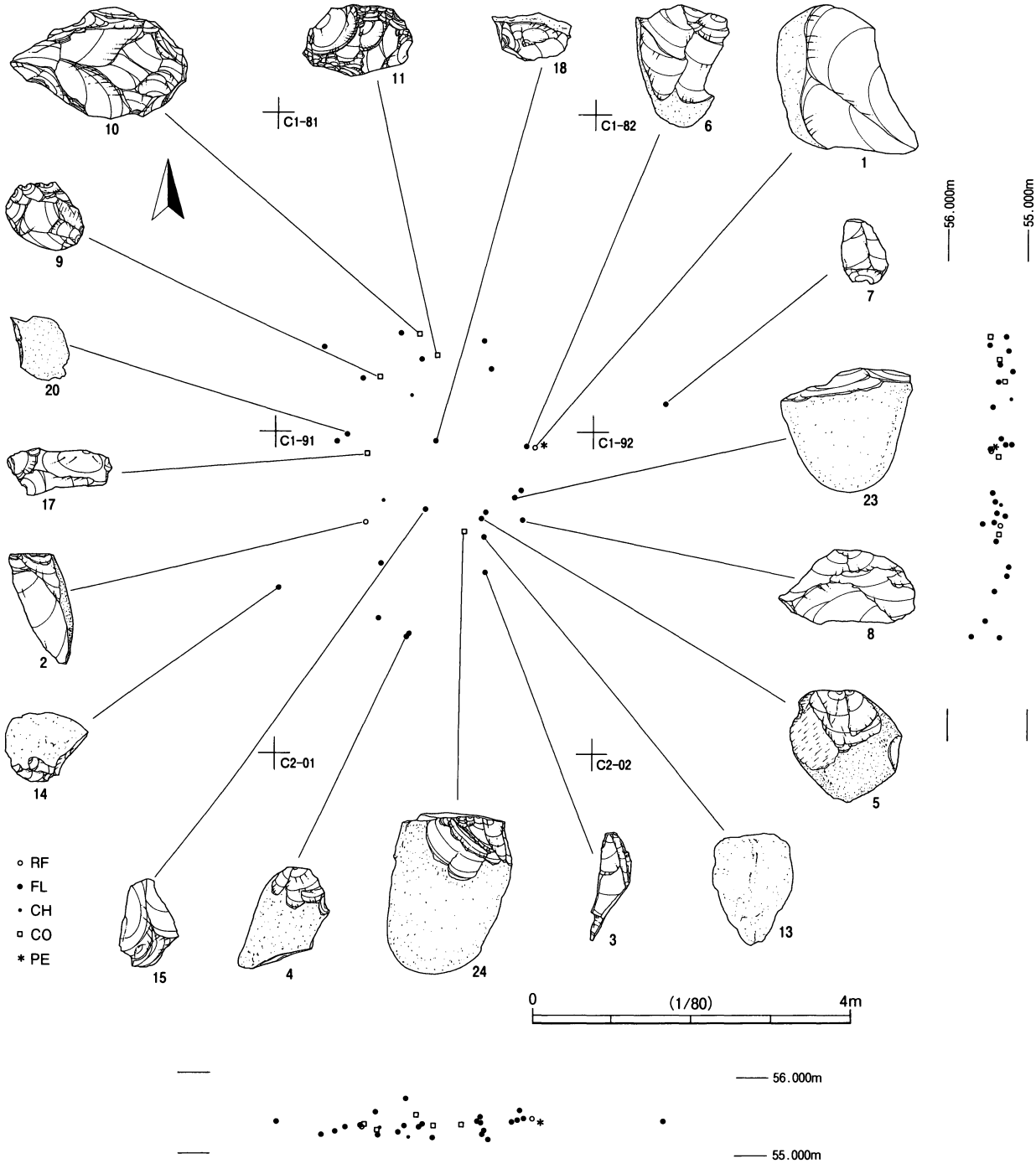
・**C1-156**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y5/1），節理は灰色（10Y4/1）のホルンフェルスである。石核１点（22.5ｇ）の単独資料である。

・**C1-157**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点（13.4ｇ）である。

・**C1-158**：自然面は比較的平滑で灰オリーブ色（5Y4/2），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）のホルンフェルスである。剥片１点（4.1ｇ）の単独資料である。

・**C1-159**：自然面は比較的平滑で灰黄色（2.5Y7/2），内部は灰色（5Y5/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（14.8ｇ）である。

・**C1-160**：自然面は平滑で灰色（7.5Y5/1）の地に灰白色（5Y8/2）が部分的に入り，内部は灰色（7.5Y5/1）の地に灰白色（5Y8/2）が部分的に入るホルンフェルスである。剥片１点（19.7ｇ）の単独資料である。



第85図　Ｃ１-Ｃブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－

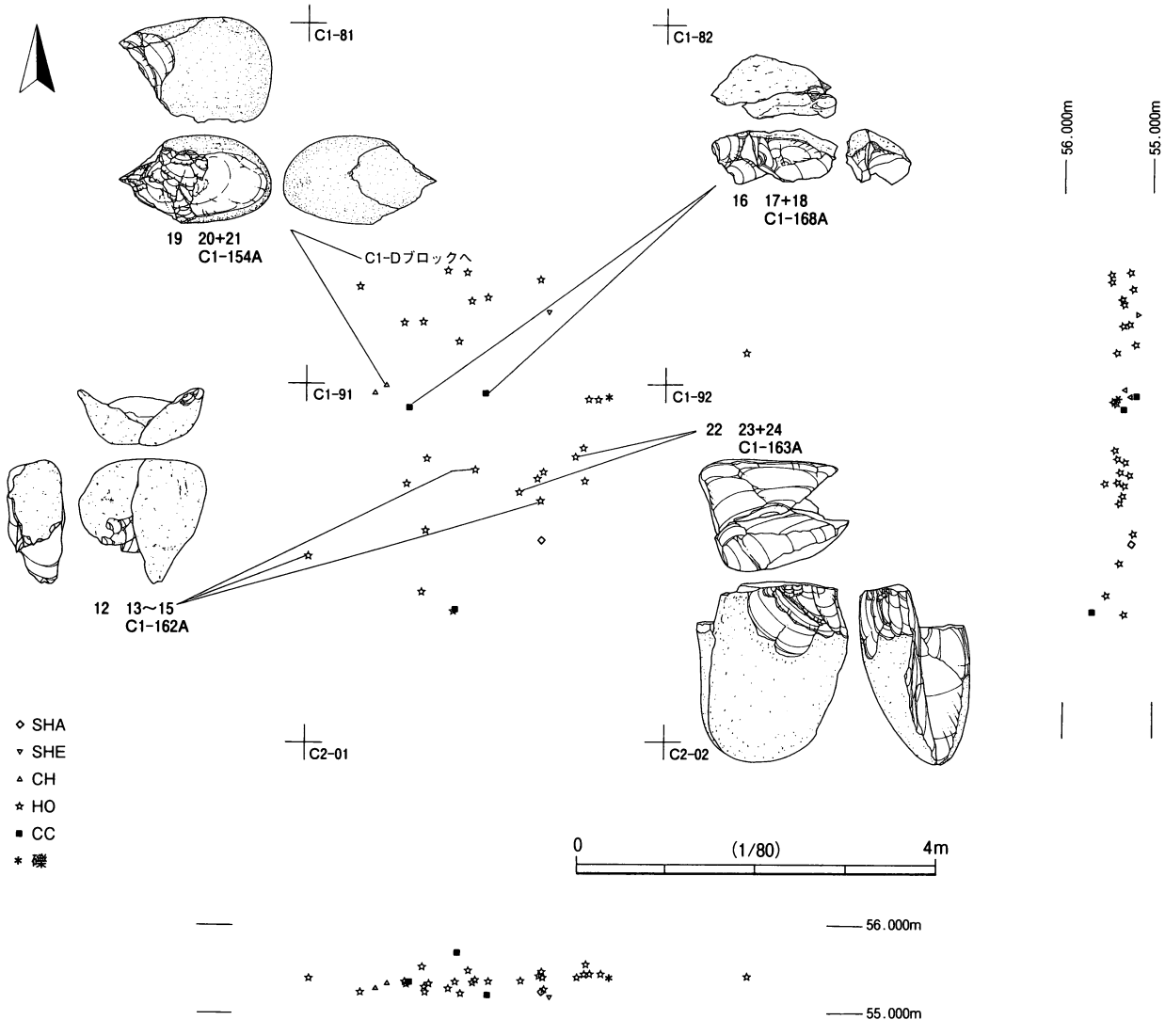
・**C1-161**：内部は灰色（10Y4/1），節理は淡黄色（2.5Y8/3），にぶい黄色（2.5Y6/4）のホルンフェルスである。剥片１点（5.5ｇ）の単独資料である。

・**C1-162**：自然面は比較的平滑で灰色（7.5Y4/1）の地ににぶい赤褐色（5YR4/3）が部分的に混じり，内部は灰色（7.5Y4/1）の地に灰白色（5Y8/2）が部分的に混じるホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片３点（46.2ｇ）である。接合資料は，剥片３点（46.2ｇ）である。

・**C1-163**：自然面は平滑で灰色（7.5Y5/1），内部は灰色（5Y5/1）・灰色（5Y4/1），節理は暗赤褐色（2.5YR3/3）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（186.9ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（186.9ｇ）である。

・**C1-164**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は浅黄色（2.5Y7/4），新鮮な面は黄灰色（2.5Y5/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，石核１点の合計２点（167.6ｇ）である。その他に同一母岩がC2-Dブロックに２点ある。

・**C1-165**：自然面は平滑で，自然面及び節理は灰オリーブ色（7.5Y4/2），内部は灰オリーブ色（7.5Y5/1）



第86図　Ｃ１-Ｃブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

の地に灰白色（5Y8/1）が部分的に混じるホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片３点（43.5ｇ）である。

・**C1-166**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片３点（44.6ｇ）である。

・**C1-167**：灰白色（7.5Y7/2）の地にオリーブ灰色（5GY5/1）の縞が入るホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点（32.7ｇ）である。

・**C1-168**：自然面は若干凹凸があり明黄褐色（2.5Y7/6），内部は灰白色（2.5Y8/2）で不透明な瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片２点，石核１点の合計３点（46.2ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（22.6ｇ）である。

なお，母岩分類できなかった資料に，ホルンフェルスの砕片２点（0.6ｇ）がある。

３）出土遺物（第87図，第88図９～11）

１・２はホルンフェルスによる加工痕ある剥片である。１は裏面右側縁の一部，２は右側縁下部に調整加工を行っている。

３は東北産頁岩，４～８はホルンフェルスによる剥片である。３は石刃状の縦長剥片，４～７は不定型な剥片，８は横長剥片である。

９～11はホルンフェルスによる石核である。打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。

４）接合資料とその関連資料（第88図12～15，第89・90図）

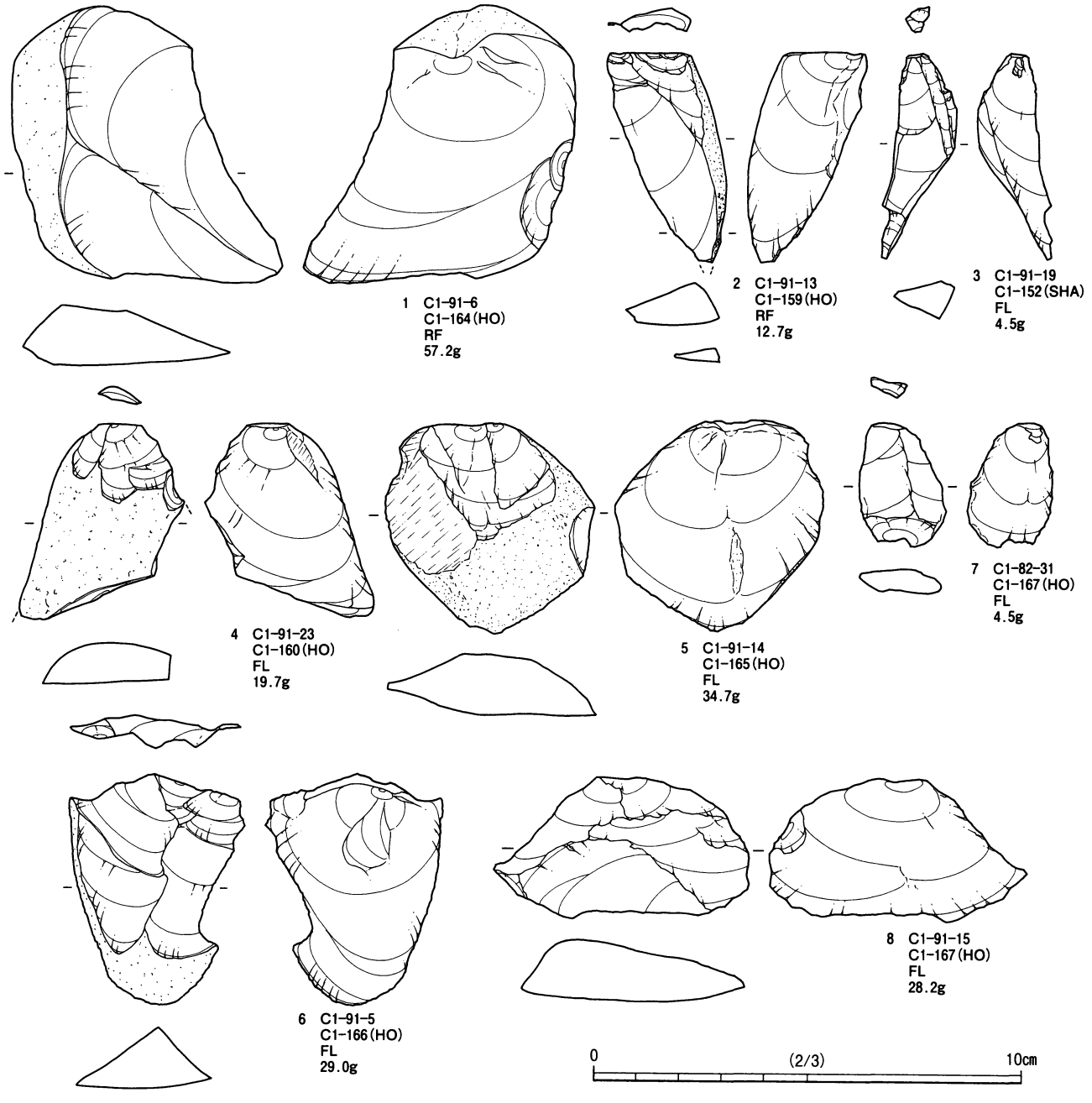
・**C1-162（第88図12～15）**　灰色（7.5Y4/1）などのホルンフェルスである。剥片３点で構成される。12は剥片３点（13～15）の接合資料である。角礫を素材として，13→14→15の順に上方向から剥離している。

・**C1-168（第89図16～18）**　灰白色（2.5Y8/2）などの瑪瑙・玉髄である。剥片２点，石核１点の合計３点で構成される。16は剥片１点（18），石核１点（17）の接合資料である。自然面を打面として，18を含む不定型な剥片を剥離している。

・**C1-154（第89図19～21）**　黒色（N2/0）などのチャートである。剥片２点で構成される。19は剥片１

第41表　Ｃ１-Ｃブロック母岩別石器組成表

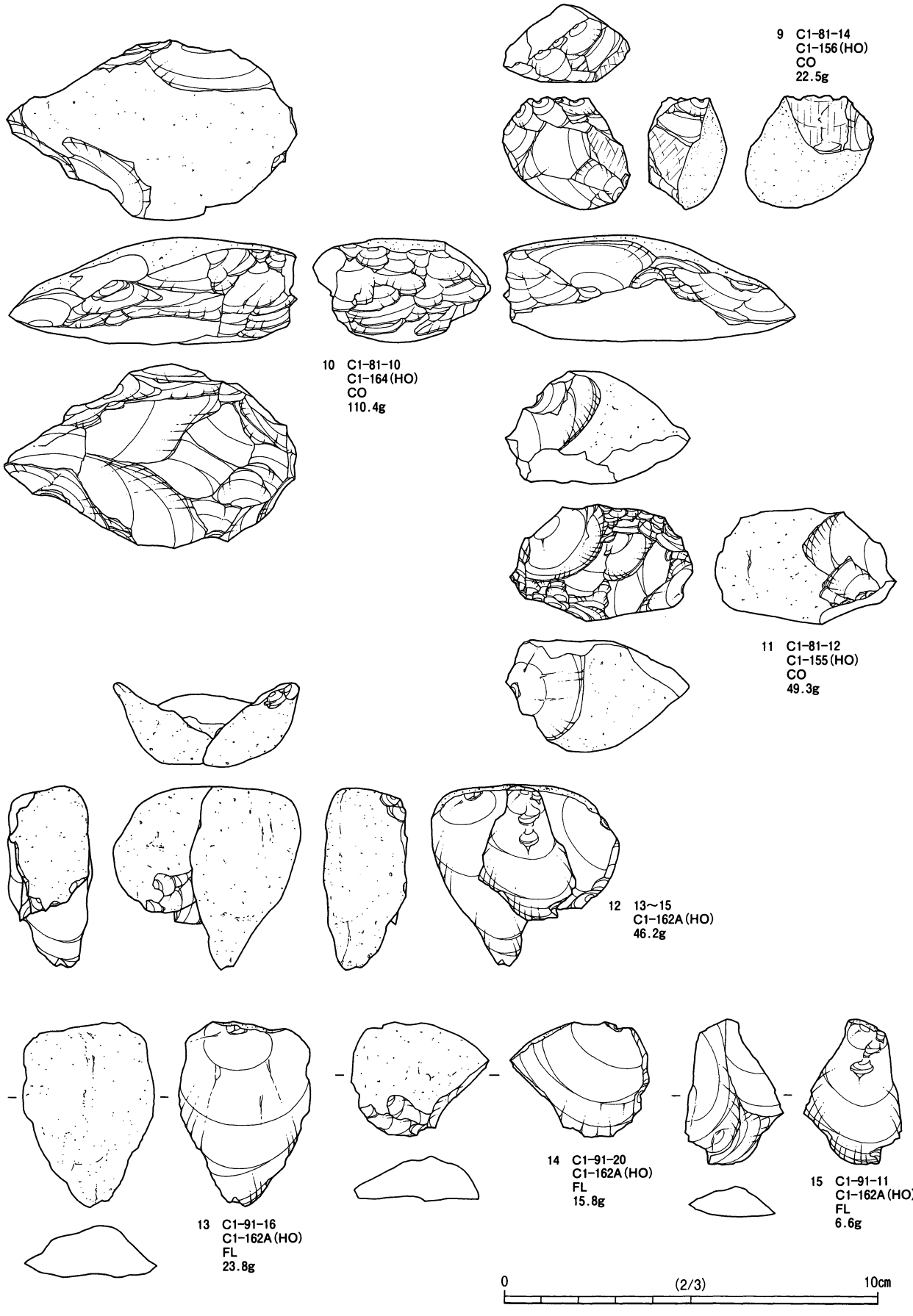
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
C1-152(SHA)																		1							1
C1-153(SHE)																		1							1
C1-154(CH)																		2							2
C1-155(HO)																				1					1
C1-156(HO)																				1					1
C1-157(HO)																		2							2
C1-158(HO)																		1							1
C1-159(HO)										1								1							2
C1-160(HO)																		1							1
C1-161(HO)																		1							1
C1-162(HO)																		3							3
C1-163(HO)																		1		1					2
C1-164(HO)										1										1					2
C1-165(HO)																		3							3
C1-166(HO)																		3							3
C1-167(HO)																		2							2
C1-168(CC)																		2		1					3
その他(HO)																			2						2
合　計										2								24	2	5					33



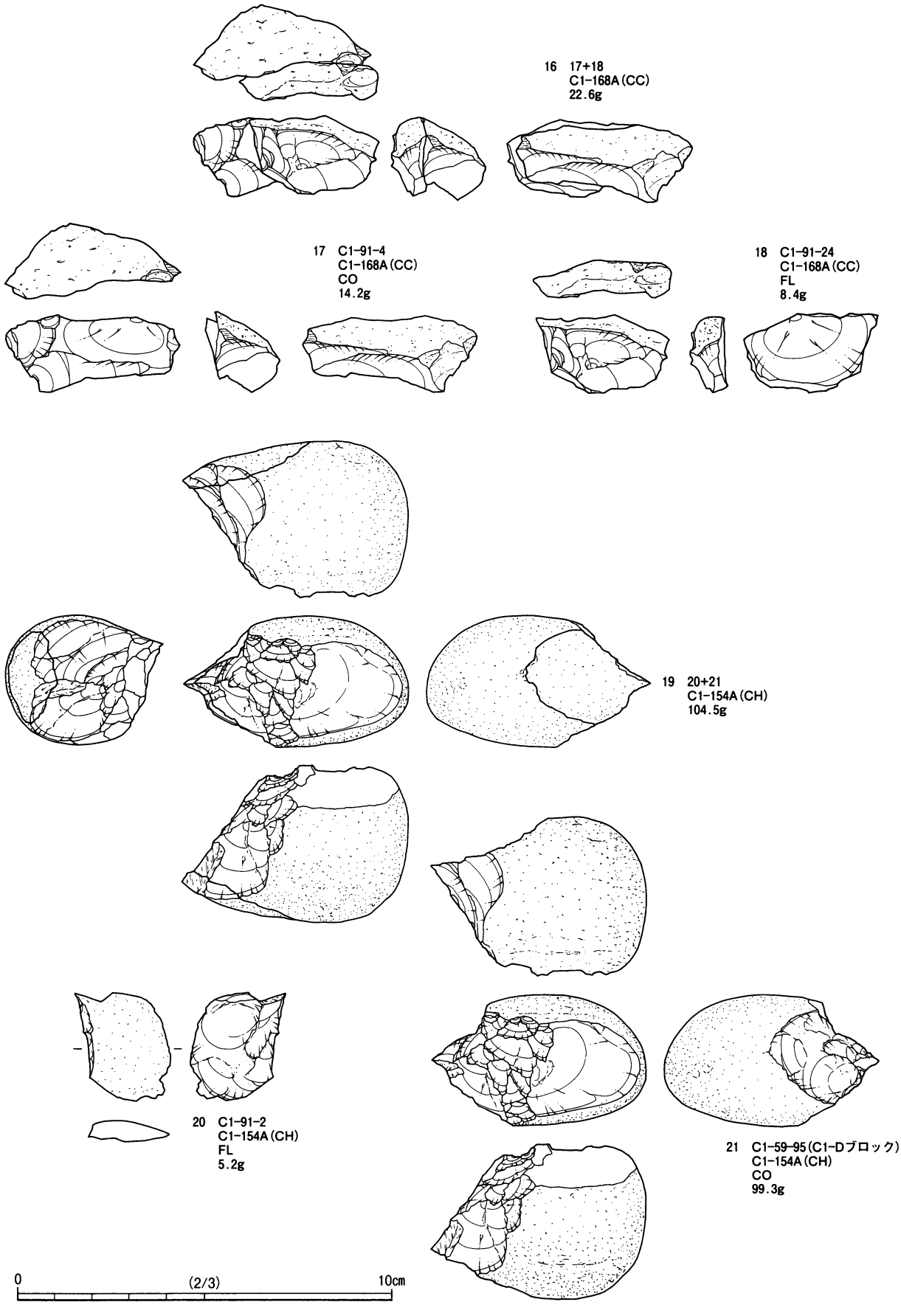
第87図　C1-Cブロック出土遺物(1)

第42表　C1-Cブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
頁岩A(SHA)																		1							1
頁岩E(SHE)																		1							1
チャート(CH)																		2							2
ホルンフェルス(HO)										2								18	2	4					26
瑪瑙・玉髄(CC)																		2		1					3
合　計										2								24	2	5					33



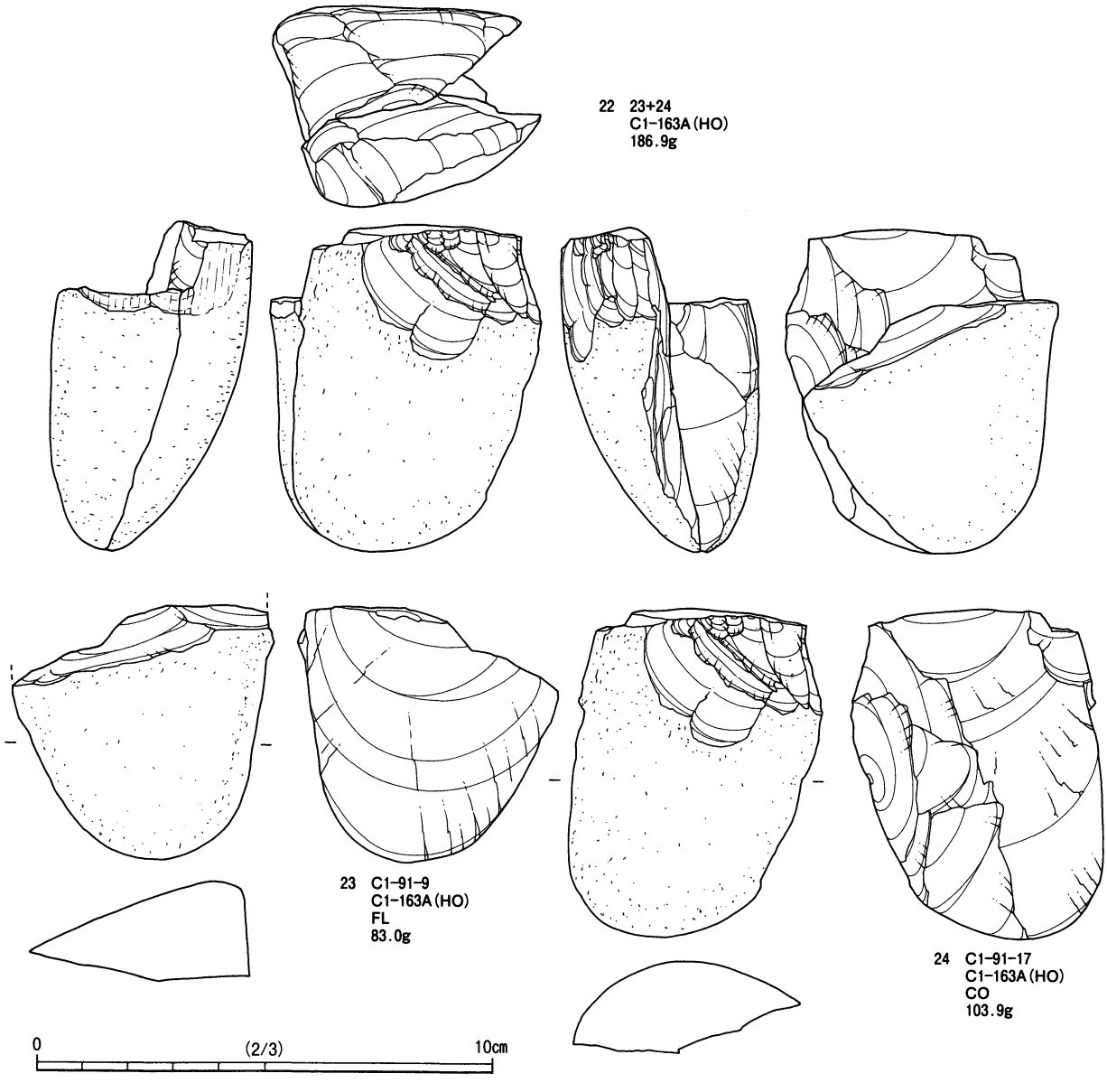
第88図　Ｃ１-Ｃブロック出土遺物（２）



第89図　C1-Cブロック出土遺物(3)

点（20）と石核１点（21）の接合資料である。小型の楕円礫を素材として，打面と作業面を入れ替えながら，20を含む不定型な剥片を剥離している。21の下面図の右下には浅い敲打痕が見られるが，台石上での作業によるものとすると打面や作業面の方向とは一致しないことから，敲石への（あるいはからの）転用の可能性がある。なお，21はC1-Dブロックから出土している。

・**C1-163（第90図）**　灰色（5Y5/1）などのホルンフェルスである。剥片１点，石核１点の合計２点で構成される。22は剥片１点（23），石核１点（24）の接合資料である。比較的扁平な礫を２分割し，24は自然面を打面として，不定型な剥片を剥離している。



第90図　Ｃ１-Ｃブロック出土遺物（４）

第43表　Ｃ１-Ｃブロック礫組成表

母　岩	石 材	個数	重量
C1R-24	SA	1	331.7

石　材	個数	重量
砂岩(SA)	1	331.7
合　計	1	331.7

2　C1-Dブロック（第91～95図，第44～46表，カラー図版7・12）

1）ブロックの概要

C1-Dブロックは，調査範囲北側のC1-49・59・69，D1-40・50・60グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）まで30mである。

ブロックの規模と形状は，長軸8m，短軸4mの範囲に105点の石器・礫が分布するが，そのほとんどが長軸5m，短軸4mの範囲に集中する。出土層位は，Ⅲ層を中心として，60cmほどの高低差をもって包含されているが，礫群は30cmほどの高低差に収まる（第91～94図）。

ブロックは，剥片25点（24個体），石核4点の合計29点（28個体）と礫76点で構成される。石器石材は，頁岩D1点，頁岩E3点，チャート1点，ホルンフェルス24点（23個体）である。礫石材は，流紋岩11点（4母岩；168.7g），頁岩1点（1母岩；24.0g），凝灰岩9点（4母岩；436.4g），砂岩55点（22母岩；1,072.6g），識別できなかった砂岩2点（14.9g）で，識別率は97%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは7母岩を識別した。内訳は，頁岩D1母岩（C1-169），頁岩E2母岩（C1-170・171），チャート1母岩（C1-154），ホルンフェルス3母岩（C1-172～174）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（29/29点）である。

・**C1-154**：黒色（N2/0）などのチャートである。母岩の特徴はC1-Cブロックで記したとおりである。本ブロックでは石核1点（99.3g）の単独資料であるが，C1-Cブロックの剥片1点と接合している。その他に同一母岩がC1-Cブロックに1点ある。

・**C1-169**：自然面は平滑で灰黄色（2.5Y7/2），内部は青灰色（5B6/1）の地に暗青灰色（5B3/1）が網目状に入り，節理は赤褐色（5YR4/8）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（11.1g）の単独資料である。

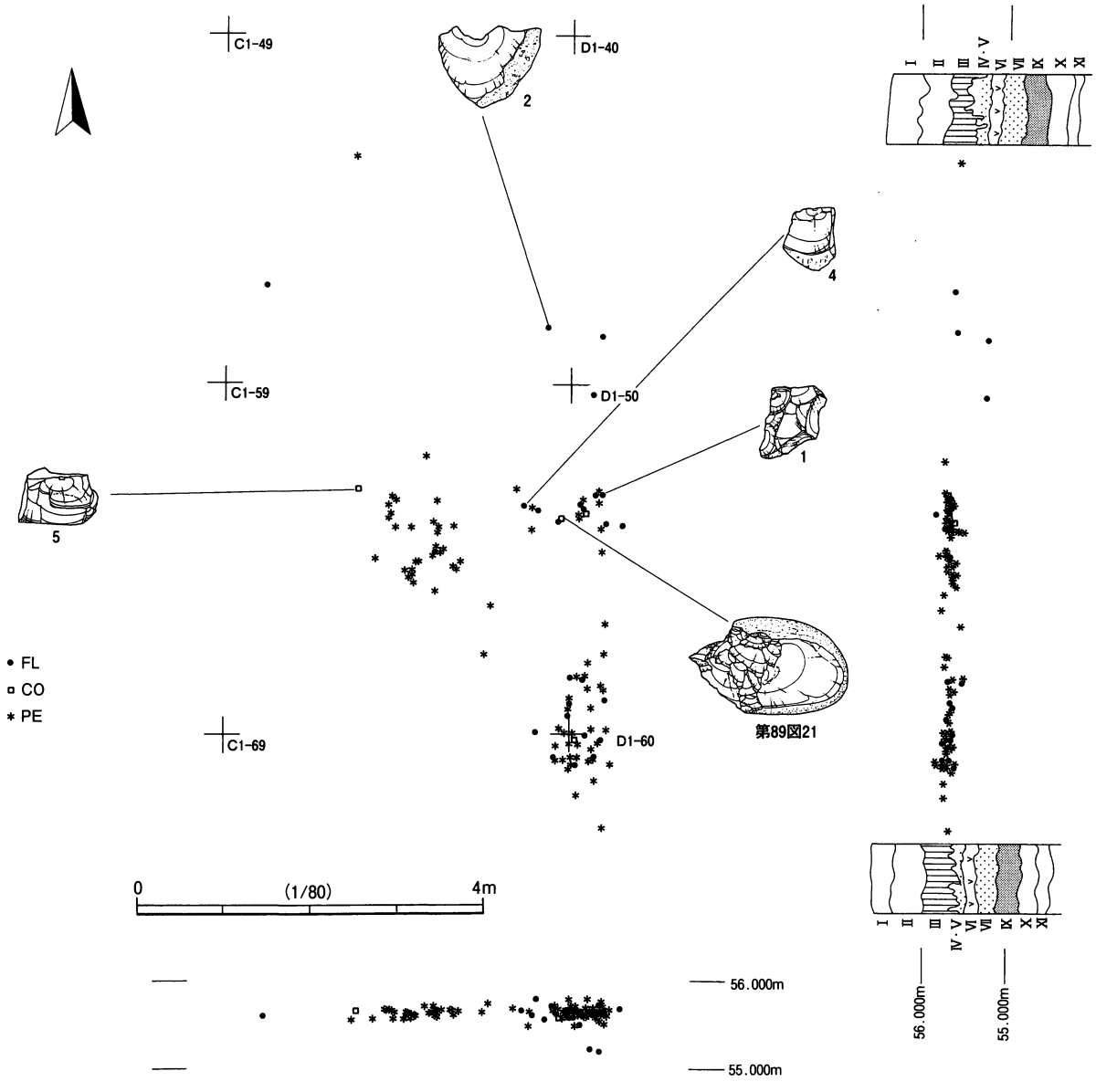
・**C1-170**：自然面は平滑で，自然面・内部・節理は灰白色（5Y7/2）・灰白色（5Y7/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点，石核1点の合計2点（55.4g）である。接合資料は，剥片1点，石核1点の合計2点（55.4g）である。

・**C1-171**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰白色（5Y8/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。C1-170と同一母岩の可能性が高い。剥片1点（17.4g）の単独資料である。

・**C1-172**：自然面は比較的平滑で灰黄色（2.5Y6/2）・にぶい赤褐色（5YR4/3），内部は黄灰色（2.5Y5/1）・褐色（7.5YR4/3），節理はにぶい赤褐色（5YR5/4）・にぶい橙色（5YR7/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片14点，石核2点の合計16点（399.3g）である。接合資料は，2グループあり，Aは剥片8点，石核1点の合計9点（179.2g），Bは剥片5点，石核1点の合計6点（217.8g）である。

・**C1-173**：自然面は細かい穴が密で灰色（5Y6/1）・にぶい赤褐色（5YR5/3），内部は褐灰色（10YR5/1）・にぶい赤褐色（5YR4/3）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片7点（6個体;44.9g）である。接合資料は，剥片2点（1個体；5.0g）である。

・**C1-174**：自然面は平滑で灰黄色（2.5Y6/2），内部は灰色（10Y4/1）・灰色（5Y5/1），節理は灰色（5Y5/1）のホルンフェルスである。本ブロックでは剥片1点（1.7g）の単独資料であるが，その他に同一母岩がD1-Bブロックに1点ある。



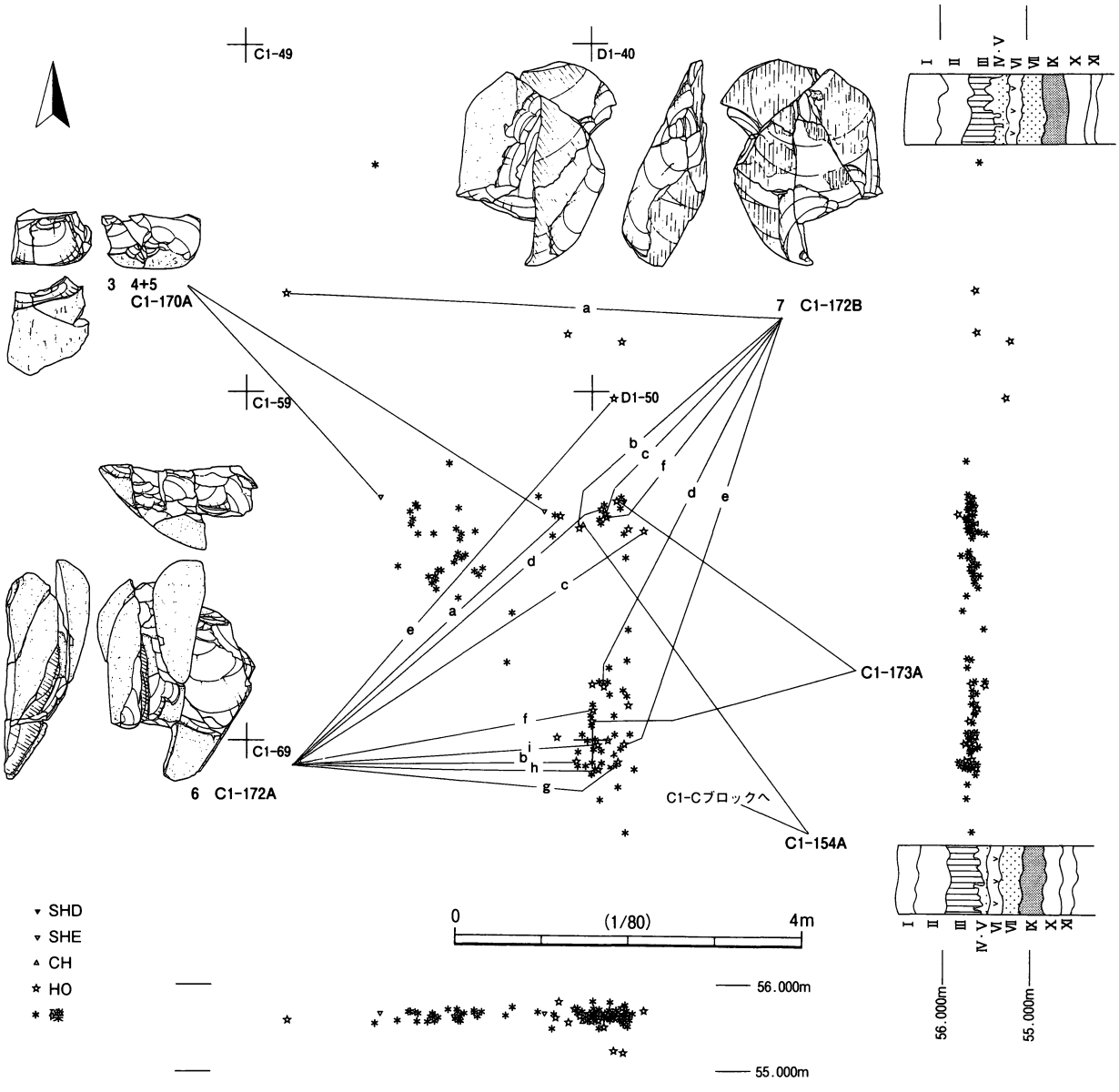
第91図　Ｃ１-Ｄブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－

第44表　Ｃ１-Ｄブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
C1-154(CH)																				1					1
C1-169(SHD)																		1							1
C1-170(SHE)																		1		1					2
C1-171(SHE)																		1							1
C1-172(HO)																		14		2					16
C1-173(HO)																		7(6)							7(6)
C1-174(HO)																		1							1
合　計																		25(24)		4					29(28)

第45表　Ｃ１-Ｄブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
頁岩D(SHD)																		1							1
頁岩E(SHE)																		2		1					3
チャート(CH)																				1					1
ホルンフェルス(HO)																		22(21)		2					24(23)
合　計																		25(24)		4					29(28)



第92図　C1-Dブロック出土遺物分布(2)－石材別分布－

第46表　C1-Dブロック礫組成表

母　岩	石 材	個数	重量
C1R-25	SA	5	108.6
C1R-26	SA	7	62.9
C1R-27	SA	5	107.6
C1R-28	SA	6	214.5
C1R-29	SA	3	109.3
C1R-30	SA	5	53.0
C1R-31	SA	4	65.9
C1R-32	SA	3	27.9
C1R-33	SA	1	34.1
C1R-34	SA	1	47.1
C1R-35	SA	1	19.9
C1R-36	SA	1	42.4
C1R-37	SA	1	10.8
C1R-38	SA	1	21.2
C1R-39	SA	1	21.2

母　岩	石 材	個数	重量
C1R-40	SA	2	24.9
C1R-41	SA	1	11.9
C1R-42	SA	1	8.8
C1R-43	SA	1	11.3
C1R-44	SA	1	6.8
C1R-45	SA	1	23.3
C1R-46	RH	7	101.9
C1R-47	RH	2	24.2
C1R-48	RH	1	36.7
C1R-49	RH	1	5.9
C1R-50	SH	1	24.0
C1R-51	TU	5	133.0
C1R-52	TU	2	131.4
C1R-53	TU	1	34.6
D1R-3	SA	1	39.2

母　岩	石 材	個数	重量
D2R-51	TU	1	137.4
その他	SA	2	14.9

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	11	168.7
頁岩(SH)	1	24.0
凝灰岩(TU)	9	436.4
砂岩(SA)	55	1087.5
合　計	76	1716.6

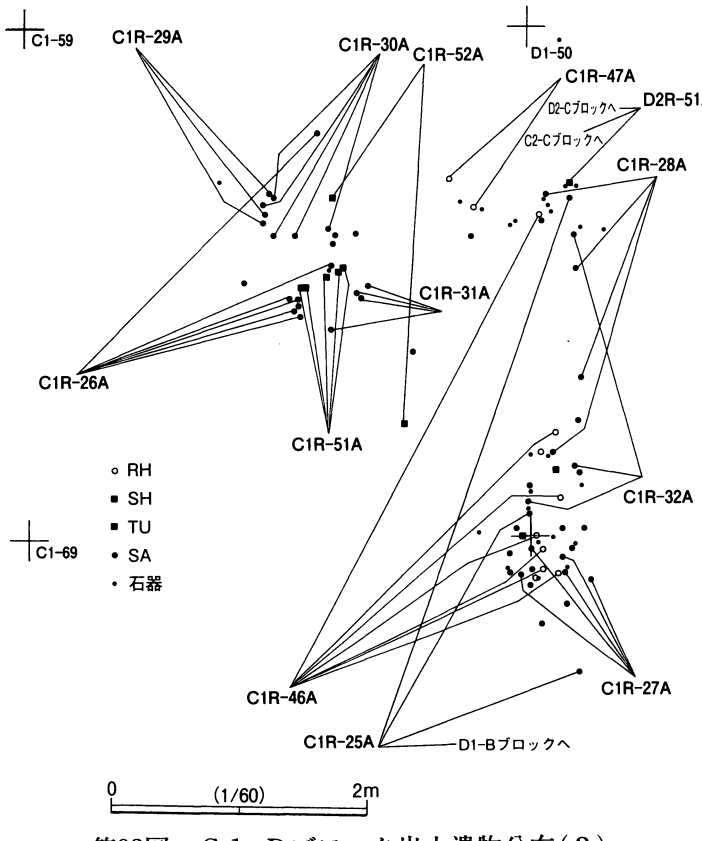
３）出土遺物（第95図１・２）

１は硬質緻密な頁岩，２はホルンフェルスによる不定型な剥片である。

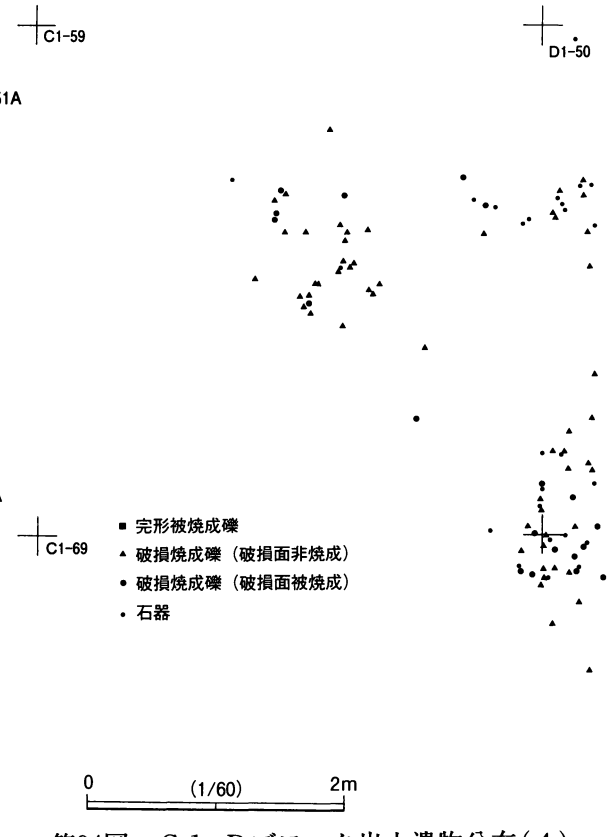
４）接合資料とその関連資料（第95図３～７）

・C1-170（第95図３～５）　灰白色（5Y7/2）などの頁岩である。剥片１点，石核１点の合計２点で構成される。３は剥片１点（４），石核１点（５）の接合資料である。小型の角礫を分割した剥片の節理状の主要剥離面を打面と不定型な剥片を剥離している。

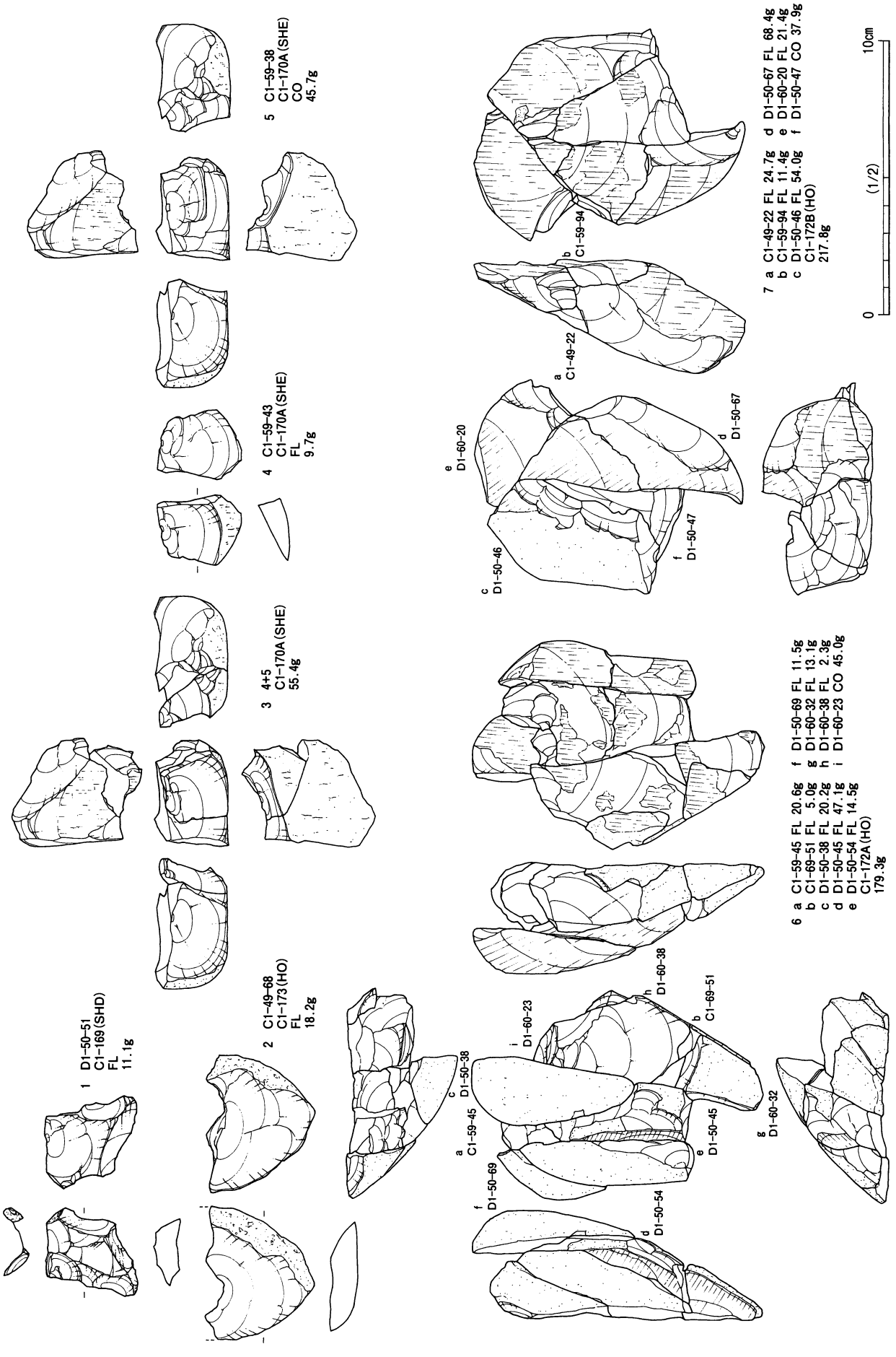
・C1-172（第95図６・７）　黄灰色（2.5Y5/1）などのホルンフェルスである。剥片14点，石核２点の合計16点で構成される。接合資料は，２グループある。Ａ（６）は剥片８点，石核１点の接合資料である。Ｂ（７）は剥片５点，石核１点の接合資料である。両者とも分割された焼成礫を素材として，同方向から剥離している。同一母岩であるが，接合しない。



第93図　Ｃ１-Ｄブロック出土遺物分布（３）
－礫石材別分布－



第94図　Ｃ１-Ｄブロック出土遺物分布（４）
－礫焼成別分布－



第95図　C1-Dブロック出土遺物

３　C1-Eブロック（第96～100図，第47～49表，カラー図版７）

１）ブロックの概要

C1-Eブロックは，調査範囲北側のC1-04・05グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の北側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）に位置する。

ブロックの規模と形状は，長軸３ｍ，短軸１ｍの範囲に34点の石器・礫が分布する。20cmほどの高低差をもって包含されている（第96～99図）。

ブロックは，敲石３点（２個体），剥片１点，石核１点の合計５点（４個体）と礫29点で構成される。石器石材は，頁岩Ｅ１点，砂岩１点，ホルンフェルス３点（２個体）である。礫石材は安山岩１点（１母岩；126.4ｇ），流紋岩10点（５母岩；583.2ｇ），凝灰岩４点（３母岩；856.0ｇ），砂岩11点（10母岩；1,394.9ｇ），ホルンフェルス１点（１母岩；293.0ｇ），粘板岩２点（１母岩；194.2ｇ）で，識別率は100％である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，頁岩Ｅ１母岩（C1-175），砂岩１母岩（C1-176），ホルンフェルス２母岩（C1-177・178）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（5/5点）である。

第47表　Ｃ１-Ｅブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
C1-175(SHE)																		1							1
C1-176(SA)																1									1
C1-177(HO)																2(1)									2(1)
C1-178(HO)																				1					1
合　計																3(2)		1		1					5(4)

第48表　Ｃ１-Ｅブロック石材別石器組成表

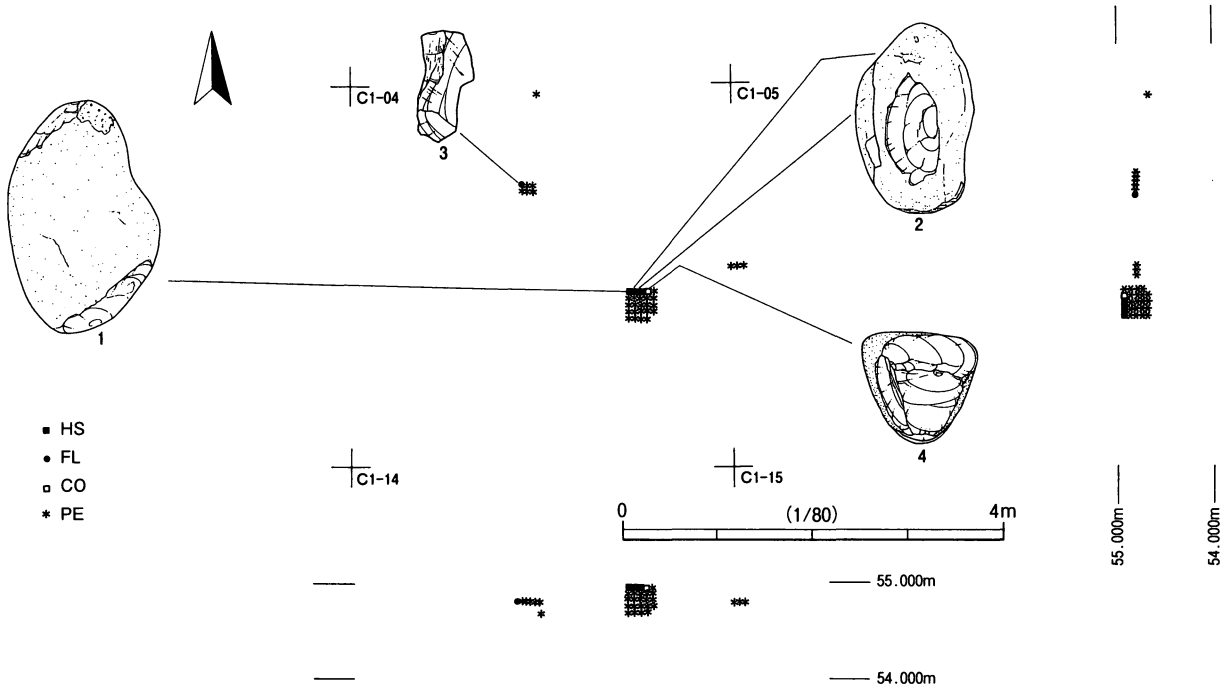
石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
頁岩E(SHE)																		1							1
砂岩(SA)																1									1
ホルンフェルス(HO)																2(1)				1					3(2)
合　計																3(2)		1		1					5(4)

第49表　Ｃ１-Ｅブロック礫組成表

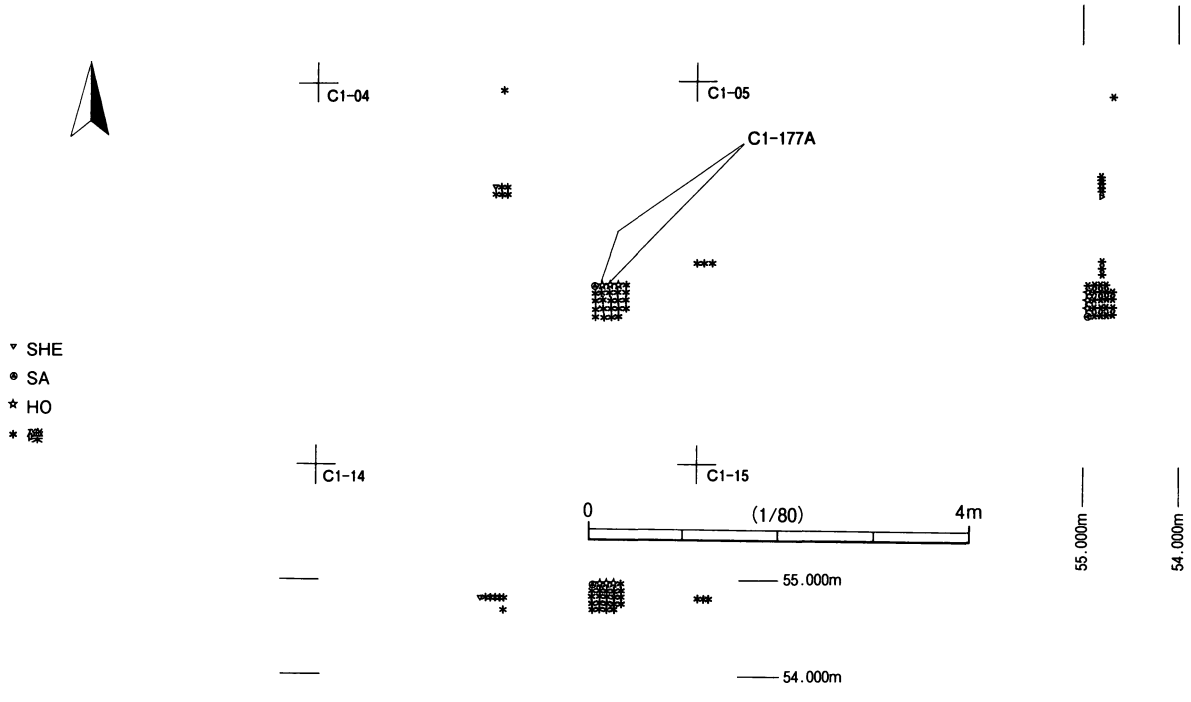
母　岩	石 材	個数	重量
C1R-29	SA	1	42.4
C1R-54	SA	2	94.3
C1R-55	SA	1	262.3
C1R-56	SA	1	322.1
C1R-58	SA	1	331.1
C1R-59	SA	1	87.4
C1R-60	SA	1	97.0
C1R-61	SA	1	65.4
C1R-62	SA	1	62.6
C1R-63	SA	1	30.2

母　岩	石 材	個数	重量
C1R-64	RH	4	44.7
C1R-65	RH	2	117.7
C1R-66	RH	2	88.8
C1R-67	RH	1	58.6
C1R-68	TU	2	403.6
C1R-69	TU	1	272.5
C1R-70	TU	1	179.9
C1R-71	SL	2	194.2
C1R-72	RH	1	273.5
C1R-73	AN	1	126.4
C1R-75	HO	1	293.0

石　材	個数	重量
安山岩(AN)	1	126.4
流紋岩(RH)	10	583.2
凝灰岩(TU)	4	856.0
砂岩(SA)	11	1394.9
ホルンフェルス(HO)	1	293.0
その他(SL)	2	194.2
合　計	29	3447.7



第96図　C1-Eブロック出土遺物分布(1)－石器別分布－



第97図　C1-Eブロック出土遺物分布(2)－石材別分布－

・**C1-175**：自然面は平滑で浅黄色(2.5Y7/4)の地に灰黄色(2.5Y6/2)の筋が入り，内部は緑灰色(7.5GY5/1)の地に灰白色（10Y8/1）が混じる頁岩である。剥片１点（5.5ｇ）の単独資料である。

・**C1-176**：自然面は比較的平滑でにぶい褐色（7.5YR5/3）・灰褐色（7.5YR5/2），内部はにぶい黄橙色（10YR7/3）・にぶい赤褐色（5YR5/4）の砂岩である。被熱のためか全体的に赤褐色化している。敲石１点（331.0ｇ）の単独資料である。

・**C1-177**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色(N5/0)の地に灰黄褐色(10YR5/2)が混じり，節理は灰色（N5/0）の地に灰色（5Y5/1）・灰褐色（7.5YR4/2）・灰白色（5Y8/2）が混じるホルンフェルスである。石器群の内訳は，敲石２点（１個体；183.4ｇ）である。接合資料は，敲石２点（１個体；183.4ｇ）である。

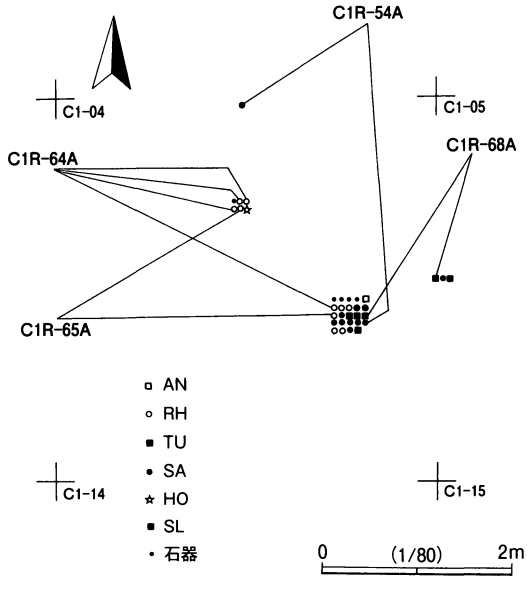
・**C1-178**：自然面は平滑で暗灰黄色（2.5Y5/2）・灰褐色（7.5YR5/2），内部は灰白色（5Y7/2），節理は灰赤色（2.5YR4/2）のホルンフェルスである。石核１点（347.3ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第100図）

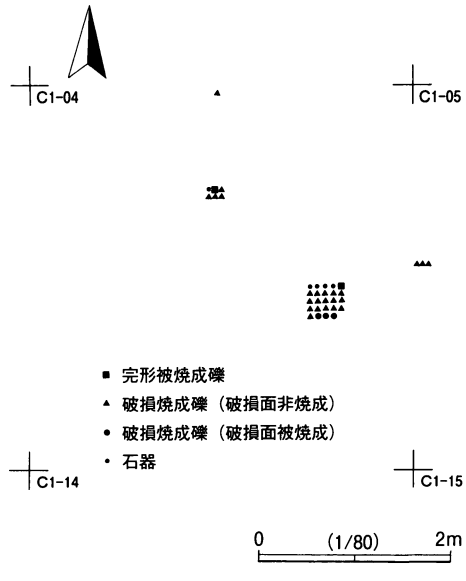
１は砂岩による敲石である。比較的細長い不定型な礫の両端に剥離痕を伴う敲打痕が見られる。敲打面も赤化していることから，廃棄後の焼成と分かる。敲石を礫群用の素材に転用したのか単に廃棄後の被熱によるものかは不明である。２はホルンフェルスによる敲石である。接合して１個体となる。比較的細長い不定型な礫の下部に若干他の面と異なる痕跡が見られることから敲石としたが，その痕跡は非常に微妙で，石核と剥片の可能性もある。

３は頁岩による縦長剥片である。

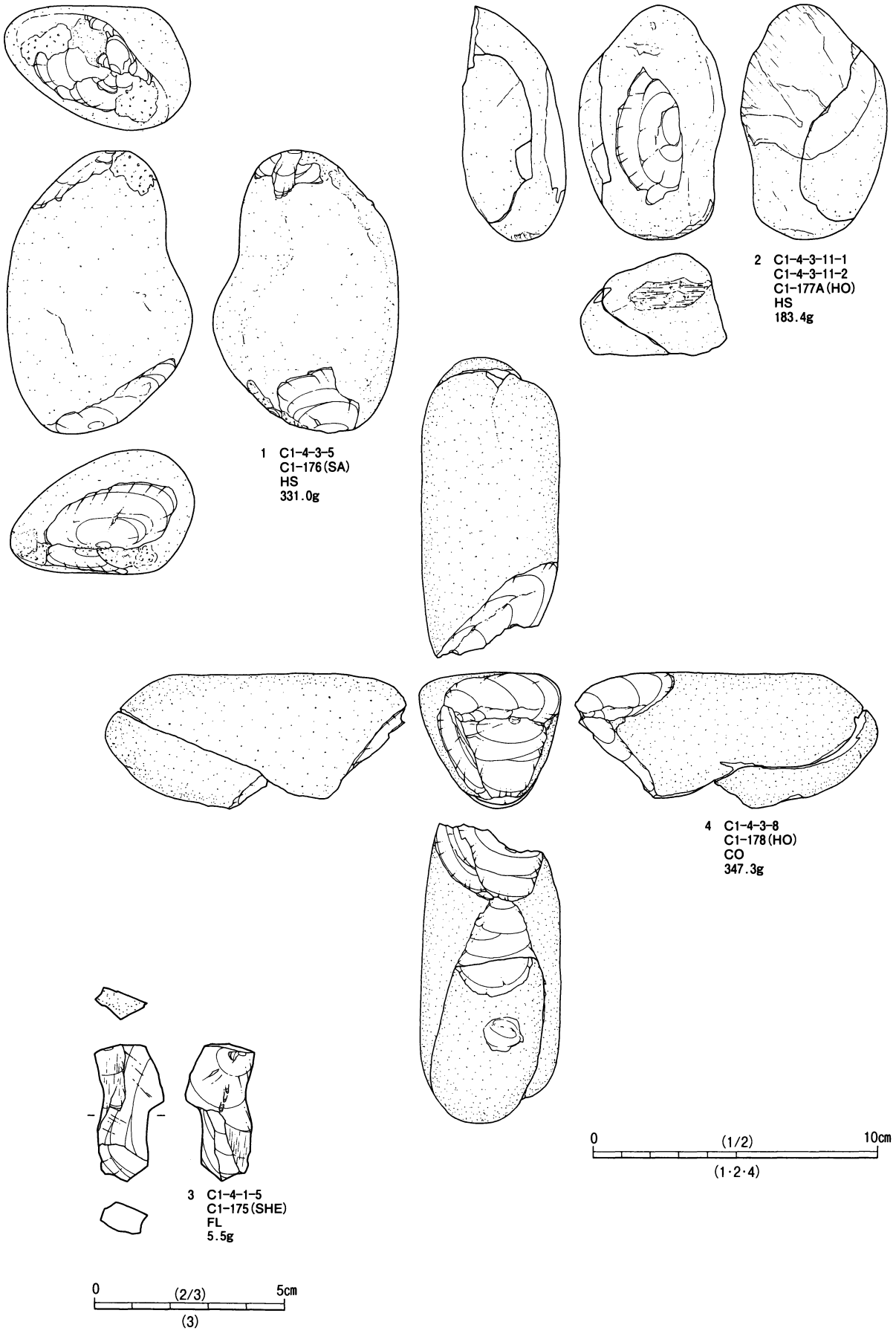
４はホルンフェルスによる石核である。断面が隅丸三角形の細長い礫の１辺を打面として，不定型な剥片を剥離している。



第98図　Ｃ１-Ｅブロック出土遺物分布（３）
－礫石材別分布－



第99図　Ｃ１-Ｅブロック出土遺物分布（４）
－礫焼成別分布－



第100図　C1-Eブロック出土遺物

４　C1-Fブロック（第101～106図，第50～52表，カラー図版７）

１）ブロックの概要

C1-Fブロックは，調査範囲北側のC1-56・66グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は30mである。

ブロックの規模と形状は，直径１mの範囲に17点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層下部からⅥ層にかけて，40cmほどの高低差をもって包含されている（第101～105図）。

ブロックは，加工痕ある剥片１点，剥片２点の合計３点と礫14点で構成される。石器石材は，流紋岩２点，チャート１点である。礫石材は，流紋岩１点（１母岩；85.0ｇ），チャート４点（３母岩；66.5ｇ），砂岩９点（６母岩；214.5ｇ）で，識別率は100％である。

２）母岩の特徴と内容

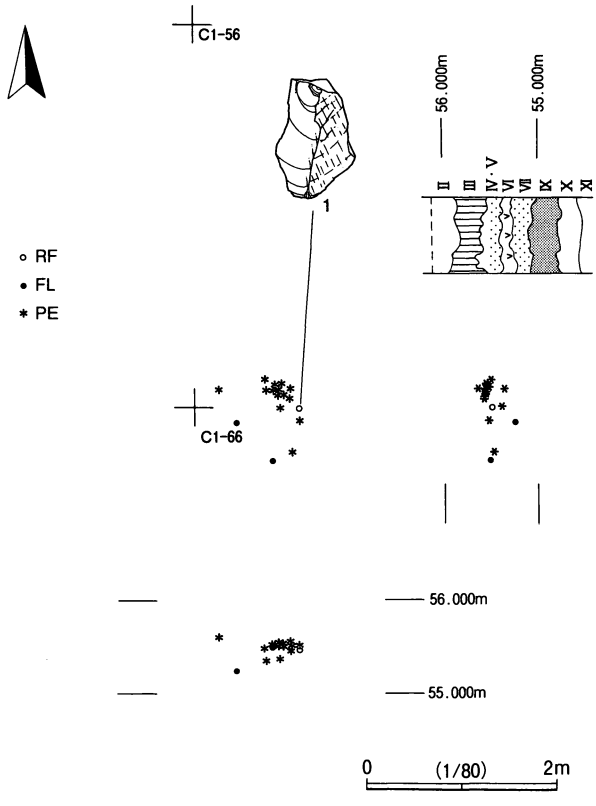
本ブロックでは２母岩を識別した。内訳は，流紋岩１母岩（C1-24），チャート１母岩（C1-112）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（3/3点）である。

・**C1-24**：内部は灰白色（10Y7/2），節理は褐色（7.5YR4/4）の流紋岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（22.4ｇ）である。

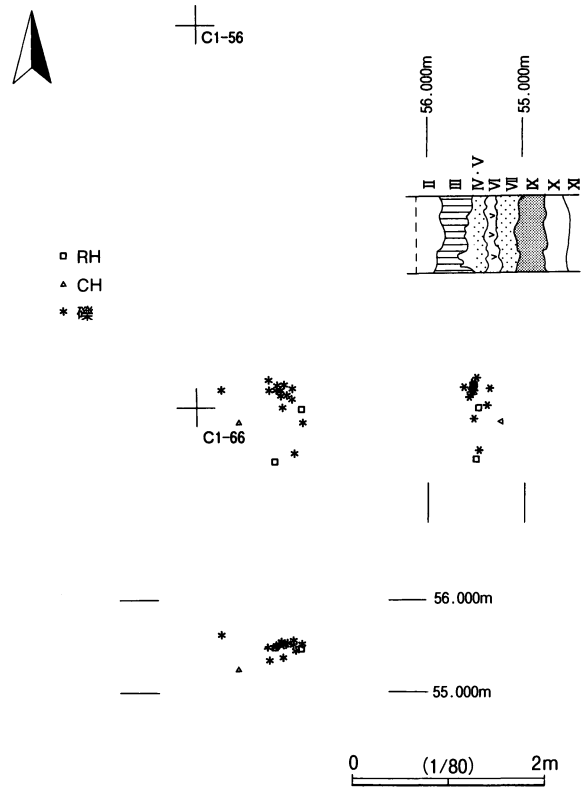
・**C1-112**：内部は明緑灰色（10GY7/1）の地に暗灰色（N3/0）の筋が網目状に入り，節理は黄褐色（2.5Y5/4）のチャートである。剥片１点（3.7ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第106図）

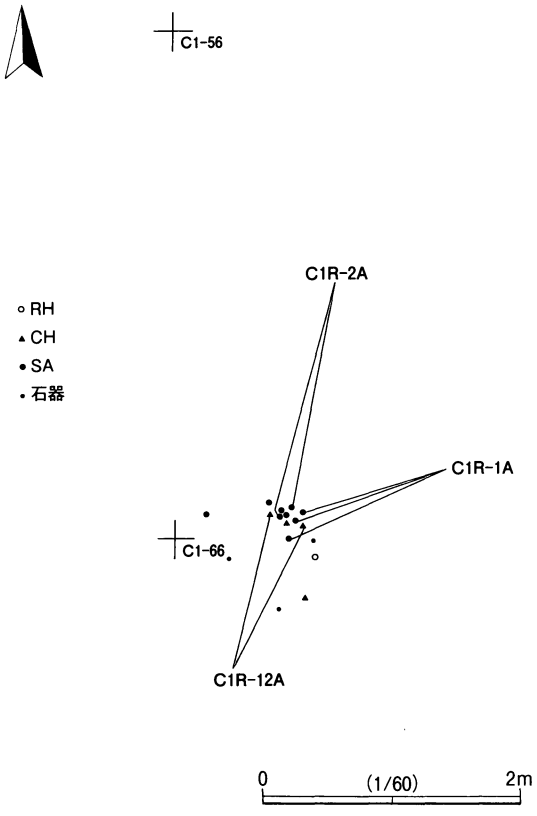
１は流紋岩による加工痕ある剥片である。裏面右側縁の一部に調整加工を行っている。



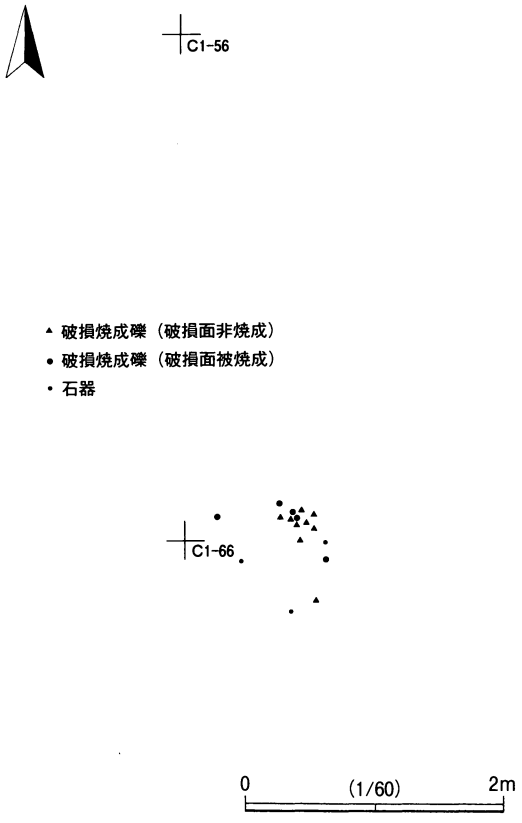
第101図　Ｃ１-Ｆブロック出土遺物分布（１）
－石器別分布－



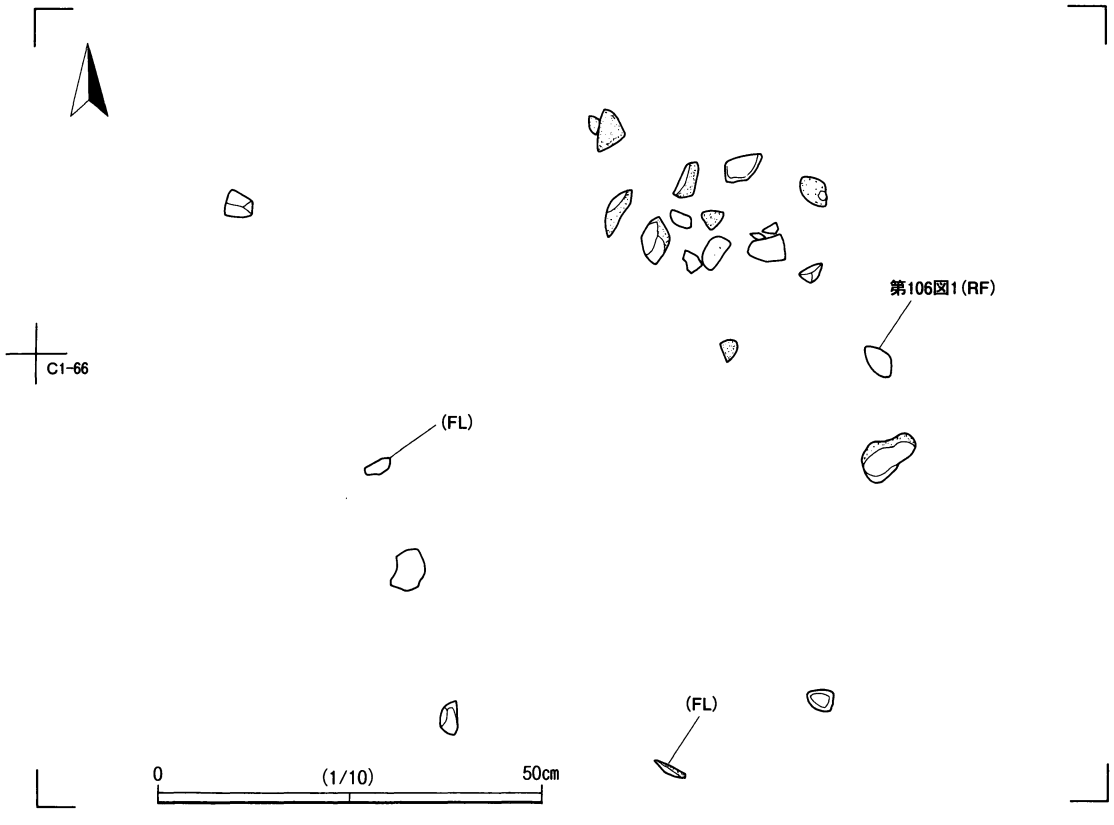
第102図　Ｃ１-Ｆブロック出土遺物分布（２）
－石材別分布－



第103図　C1-Fブロック出土遺物分布(3)
－礫石材別分布－



第104図　C1-Fブロック出土遺物分布(4)
－礫焼成別分布－



第105図　C1-Fブロック出土遺物分布(5)－礫詳細分布－

第50表　Ｃ１-Ｆブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
C1-24(RH)										1								1							2
C1-112(CH)																		1							1
合　計										1								2							3

第51表　Ｃ１-Ｆブロック石材別石器組成表

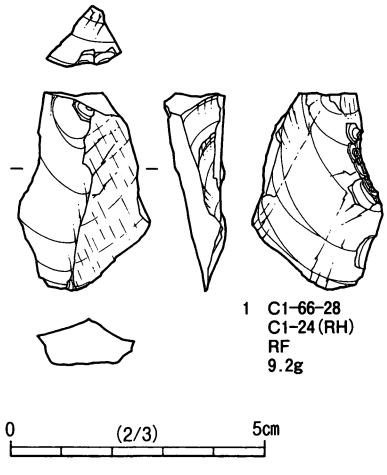
石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合 計
流紋岩(RH)										1								1							2
チャート(CH)																		1							1
合　計										1								2							3

第52表　Ｃ１-Ｆブロック礫組成表

母　岩	石 材	個数	重量
C1R-1	SA	3	96.3
C1R-2	SA	2	36.2
C1R-3	SA	1	31.5
C1R-4	SA	1	22.2
C1R-5	SA	1	25.1

母　岩	石 材	個数	重量
C1R-6	SA	1	3.2
C1R-11	RH	1	85.0
C1R-12	CH	2	19.6
C1R-13	CH	1	37.4
C1R-14	CH	1	9.5

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	1	85.0
チャート(CH)	4	66.5
砂岩(SA)	9	214.5
合　計	14	366.0



第106図　Ｃ１-Ｆブロック出土遺物

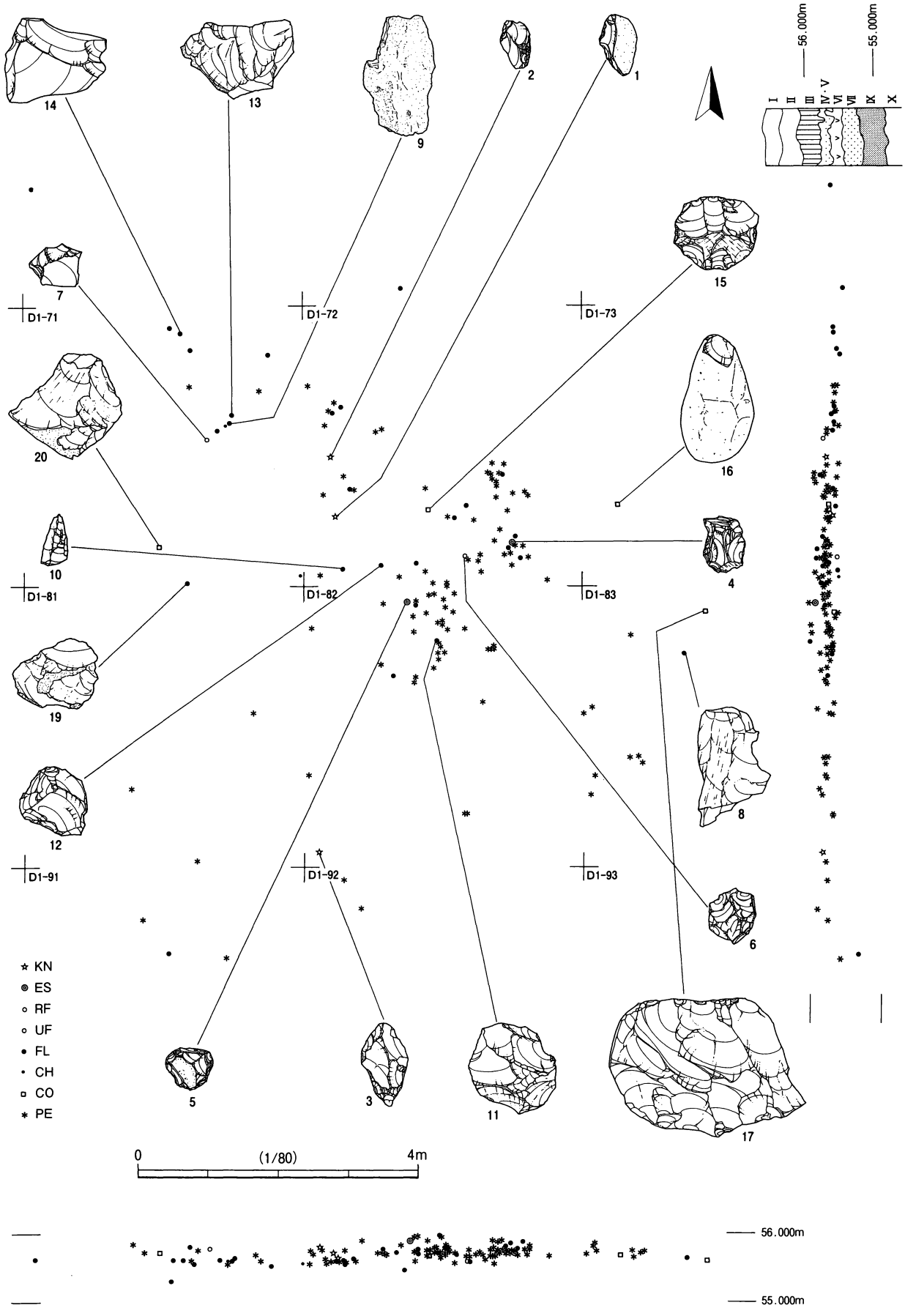
5　D1-Ｂブロック（第107～112図，第53～55表，カラー図版７・８・12，図版５）

１）ブロックの概要

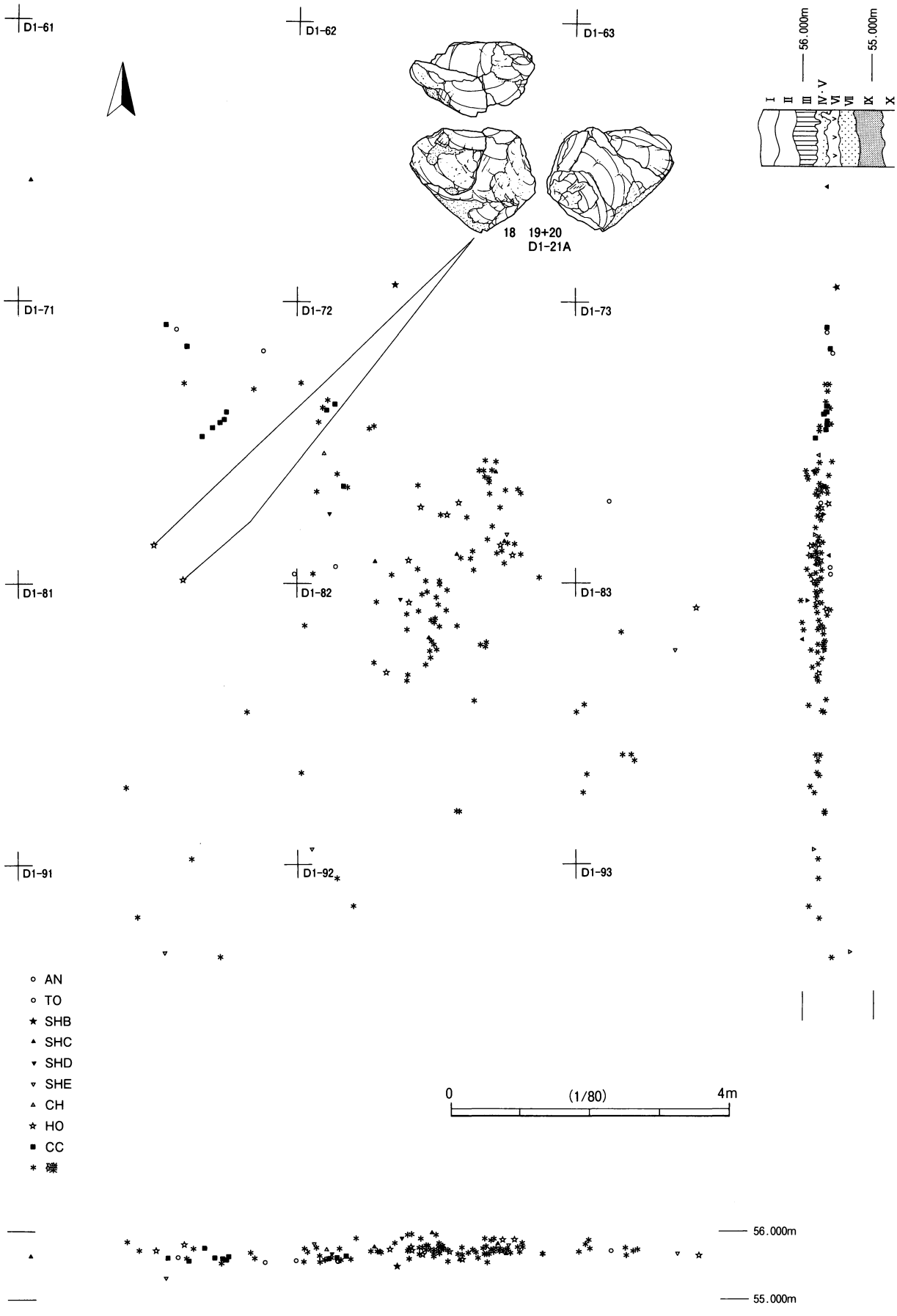
D1-Ｂブロックは，調査範囲北側のD1-61・62・71～73・81～83・91・92グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は30mである。

ブロックの規模と形状は，長軸12m，短軸９mの範囲に146点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層下部からⅥ層にかけて，70cmほどの高低差をもっているが，中心はⅣ・Ⅴ層で30cmほどの高低差をもって包含されている（第107～110図）。

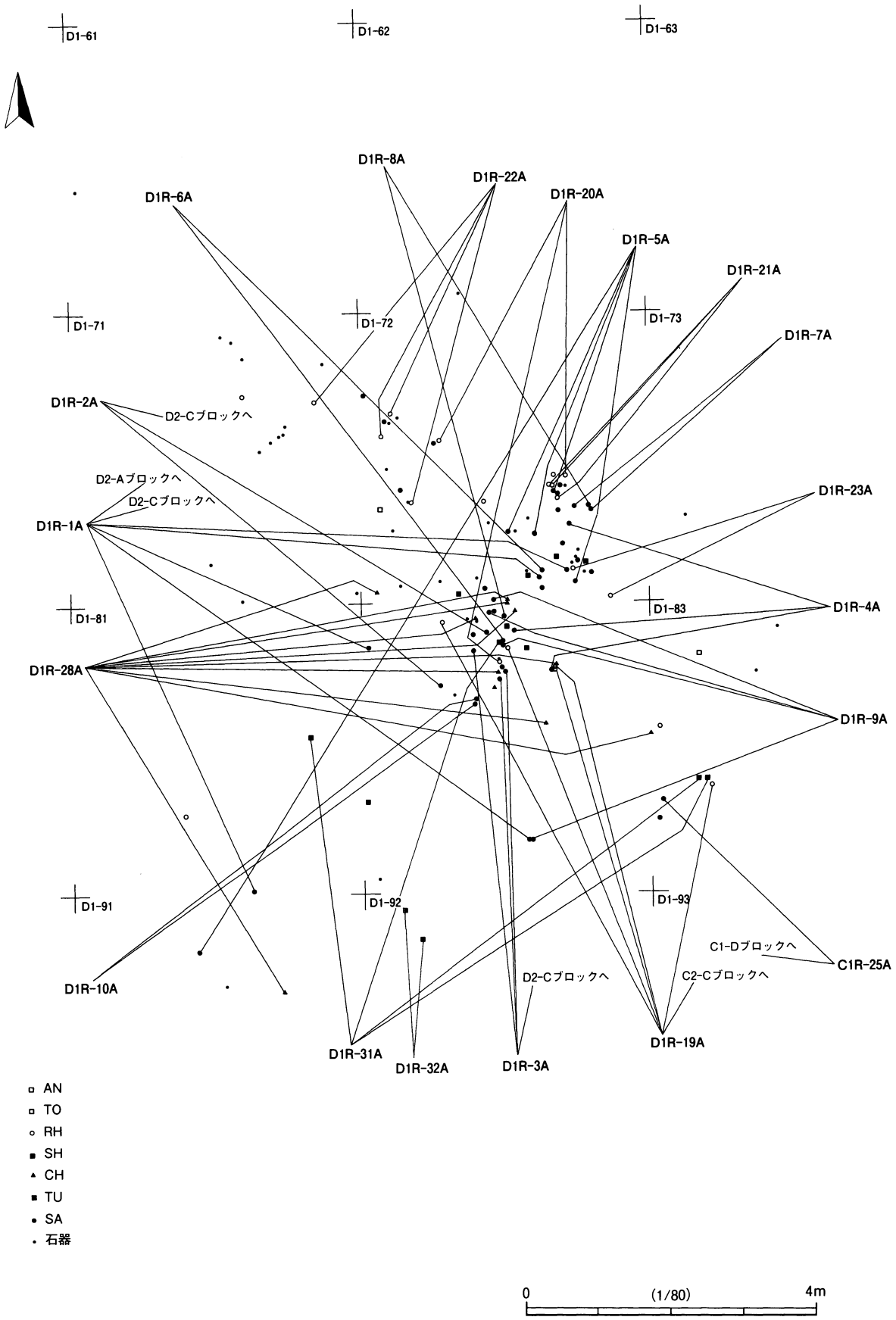
ブロックは，ナイフ形石器３点，掻器２点，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片１点，剥片27点，砕片５点，石核４点の合計43点と礫103点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｇ３点，安山岩３点，軟質の



第107図　D1-Bブロック出土遺物分布(1)－石器別分布－



第108図　Ｄ１-Ｂブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

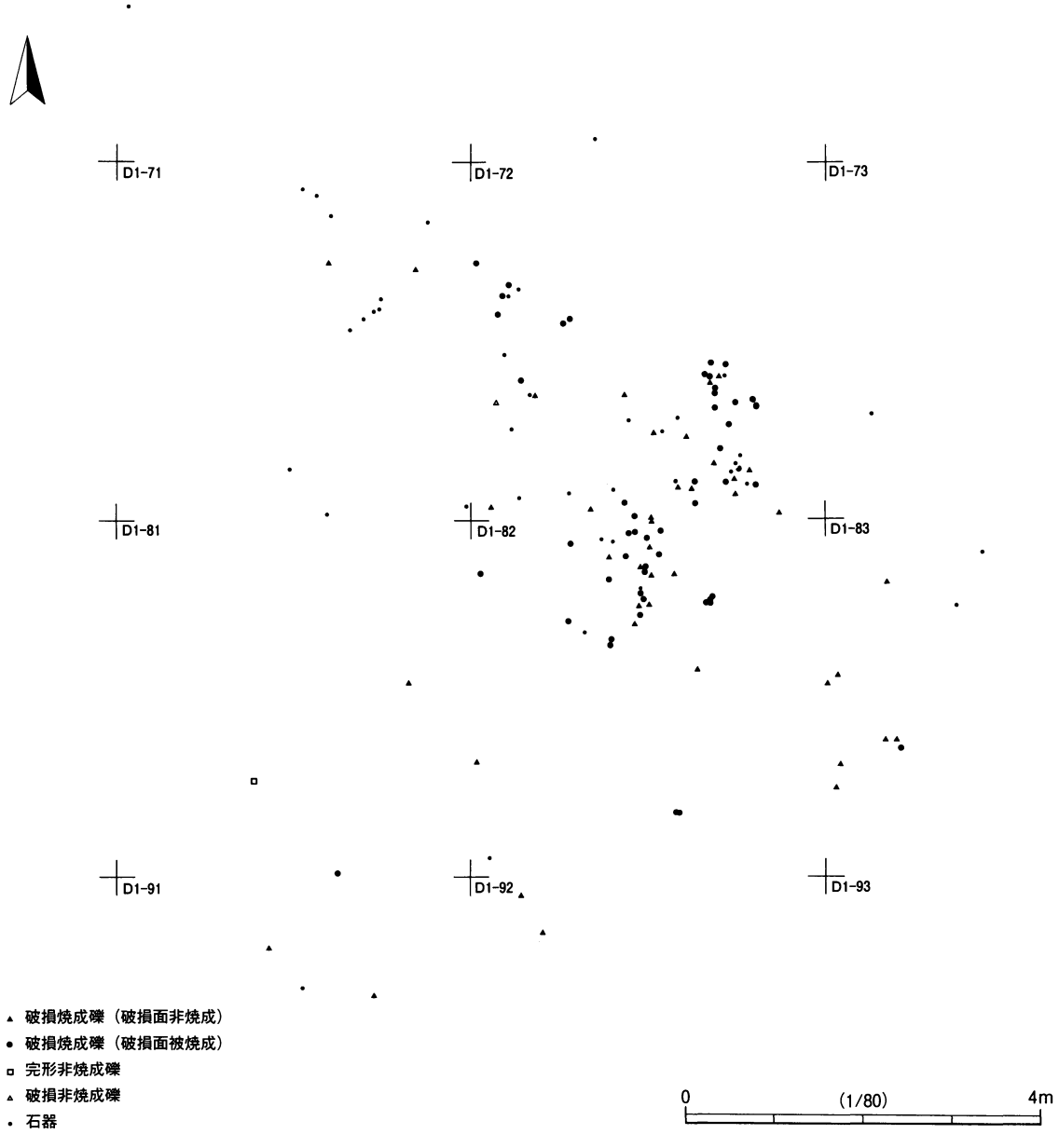


第109図　D1-Bブロック出土遺物分布(3)－礫石材別分布－

安山岩２点，頁岩Ｂ１点，頁岩Ｃ６点，頁岩Ｄ２点，頁岩Ｅ４点，チャート１点，ホルンフェルス11点，瑪瑙・玉髄10点である。礫石材は，安山岩１点（１母岩；2.7ｇ），軟質の安山岩１点（１母岩；21.4ｇ），流紋岩23点（９母岩；978.9ｇ），頁岩４点（１母岩；201.9ｇ），チャート13点（１母岩；268.9ｇ），凝灰岩９点（５母岩；257.9ｇ），砂岩50点（19母岩；1,394.5ｇ），識別できなかった砂岩２点（8.5ｇ）で，識別率は98％である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは27母岩を識別した。内訳は，安山岩２母岩(D1-４・５)，軟質の安山岩１母岩(D1-19)，頁岩Ｂ１母岩（D1-６），頁岩Ｃ６母岩（D1-７～12），頁岩Ｄ２母岩（D1-13･14），頁岩Ｅ４母岩（D1-15～18)，チャート１母岩（D1-20)，ホルンフェルス５母岩（C1-174･D1-21～24），瑪瑙･玉髄５母岩（D1-25



第110図　Ｄ１-Ｂブロック出土遺物分布（４）－礫焼成別分布－

～29）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は88％（38/43点）である。

・C1-174：灰色（10Y4/1）などのホルンフェルスである。母岩の特徴はC1-Dブロックで記したとおりである。本ブロックでは剥片1点（19.6g）の単独資料であるが，その他に同一母岩がC1-Dブロックに1点ある。

・D1-4：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部はにぶい黄褐色（10YR5/4）・灰黄褐色（10YR5/2）の地に褐灰色（10YR4/1）の筋が入る安山岩である。石核1点（43.9g）の単独資料である。

・D1-5：灰オリーブ色（5Y5/2）の安山岩である。剥片1点（2.0g）の単独資料である。

・D1-6：暗灰黄色（2.5Y4/2）の北関東産頁岩である。珪化度はやや低いが，硬質緻密な頁岩あるいは嶺岡産頁岩の可能性もある。剥片1点（7.7g）の単独資料である。

・D1-7：内部は暗灰黄色（2.5Y4/2）の地に灰褐色（5YR4/2）・黄灰色（2.5Y4/1）が混じり，節理は黄灰色（2.5Y5/1）と暗赤褐色（5YR3/3）の部分がある嶺岡産頁岩である。掻器1点（5.3g）の単独資料である。

・D1-8：暗灰黄色(2.5Y5/2)の地に黄灰色(2.5Y4/1)が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。剥片1点(21.0g）の単独資料である。

・D1-9：灰オリーブ色(7.5Y5/2)の地にオリーブ灰色(10Y4/2)が部分的に混じる嶺岡産頁岩であるが，硬質緻密な頁岩あるいは凝灰岩の可能性もある。加工痕ある剥片1点（3.7g）の単独資料である。

・D1-10：内部は黄褐色(2.5Y5/3)の地に黄灰色(2.5Y5/1)が部分的に混じり，節理は黄褐色(10YR5/6)の嶺岡産頁岩である。剥片1点（13.1g）の単独資料である。

・D1-11：内部は灰黄色(2.5Y6/2)，節理はにぶい黄褐色(10YR5/4)の嶺岡産頁岩である。剥片1点(2.6g）の単独資料である。

・D1-12：自然面は比較的平滑で，自然面及び節理は褐色（10YR4/4)，内部は黄灰色（2.5Y4/1)・灰色（5Y6/1）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（2.9g）の単独資料である。

・D1-13：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4)，内部はにぶい黄褐色（10YR5/4)・にぶい黄色（2.5Y6/4）の地に褐灰色（10YR5/1）の斑が入る硬質緻密な頁岩である。ナイフ形石器1点（2.5g）の単独資料である。

・D1-14：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は浅黄色（2.5Y7/3)・にぶい黄橙色（10YR6/4）の硬質緻密な頁岩である。掻器1点（3.3g）の単独資料である。

・D1-15：内部は浅黄色（2.5Y7/3)，新鮮な面は灰色（N5/0）の頁岩である。ナイフ形石器1点（5.7g）の単独資料である。

・D1-16：内部は灰白色（7.5Y7/2)，節理はオリーブ黄色（5Y6/3)，新鮮な面は灰色（N4/0）の頁岩である。剥片1点（29.4g）の単独資料である。

・D1-17：自然面は比較的平滑で灰黄褐色（10YR5/2)，内部は灰色（5Y6/1)・灰白色（5Y7/2)，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。剥片1点（4.2g）の単独資料である。

・D1-18：内部は灰色（5Y6/1)，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。若干珪化度が高いが，D1-17と同一母岩の可能性もある。剥片1点（2.5g）の単独資料である。

・D1-19：内部は灰白色（5Y7/1）の地に浅黄色（2.5Y7/4）が混じり，新鮮な面は灰白色（N7/1）の軟質な安山岩である。石器群の内訳は，剥片2点（21.7g）である。

・**D1-20**：灰オリーブ色(5Y5/2)のチャートであるが，嶺岡産頁岩の可能性もある。ナイフ形石器１点(1.6ｇ）の単独資料である。

・**D1-21**：自然面は比較的平滑で灰黄褐色（10YR5/2），内部は黄灰色（2.5Y5/1)・にぶい褐色（7.5YR5/4）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点(85.6ｇ)である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（85.6ｇ）である。

・**D1-22**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の地ににぶい黄橙色（10YR7/3)・灰色（5Y4/1）が混じり，節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（211.3ｇ）である。

・**D1-23**：自然面は比較的平滑で灰色（10Y4/1），内部は灰オリーブ色（7.5Y5/2），節理は暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片４点，石核１点の合計５点（34.8ｇ）である。

・**D1-24**：内部は灰色（N4/0），節理は褐色（10YR4/4）のホルンフェルスである。剥片１点（1.2ｇ）の単独資料である。

・**D1-25**：明黄褐色（10YR6/4)・灰白色（2.5Y8/2）の地に赤褐色（5YR4/6）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片２点の合計３点（19.0ｇ）である。

・**D1-26**：自然面は粗い紙ヤスリ状で，自然面及び内部は浅黄色（2.5Y7/4）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片２点（28.2ｇ）である。

・**D1-27**：自然面は凹凸が激しく浅黄橙色(10YR8/3)，内部はにぶい黄色(2.5Y6/4)の地に灰白色(5Y8/1)が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。剥片１点（23.2ｇ）の単独資料である。

・**D1-28**：浅黄色（2.5Y6/4)・浅黄色（2.5Y7/4）の地に灰白色（5Y8/1）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。D1-28を媒介としてD1-26～28が同一母岩としてまとめられるかもしれない。石器群の内訳は，剥片２点（7.1ｇ）である。

・**D1-29**：自然面は凹凸が激しく灰白色（5Y8/2)・褐色（7.5YR4/4），内部はにぶい黄色（2.5Y6/4)・暗赤褐色（5YR3/4)・灰白色（5Y8/2）の瑪瑙・玉髄である。剥片１点（7.3ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，産地不明の黒曜石の砕片３点(0.6ｇ)，安山岩の砕片１点(0.3ｇ)，瑪瑙・玉髄の砕片１点（0.3ｇ）がある。

３）出土遺物（第111図，第112図17）

１は硬質緻密な頁岩による部分加工あるいは一側縁加工のナイフ形石器である。打面側を先端として，左側縁に調整加工を行っている。２はチャートによる部分加工のナイフ形石器である。打面側を先端として，右側縁の下部に調整加工を行っている。３は頁岩による部分加工のナイフ形石器である。横長剥片を横位に用い，右側縁の下部に調整加工を行っている。

４は嶺岡産頁岩による掻器である。不定型な剥片を横位に用い，左側縁から末端の一部にかけて直角に近い調整加工を行っている。５は硬質緻密な頁岩による掻器である。打面を除くほぼ全周に直角に近い調整加工を行っている。

６は嶺岡産頁岩による加工痕ある剥片である。表面右側縁，裏面上部と右側縁に調整加工を行っている。表面の直角に近い加工に比べ，裏面側の加工はより鋭角である。掻器の可能性もある。

７は瑪瑙・玉髄による使用痕ある剥片である。右側縁に微細な剥離痕が見られる。

8は頁岩，9・13は瑪瑙・玉髄，10は安山岩，11・12は嶺岡産頁岩，14は軟質な安山岩による剥片である。8～10は縦長剥片，11～14は不定型な剥片である。

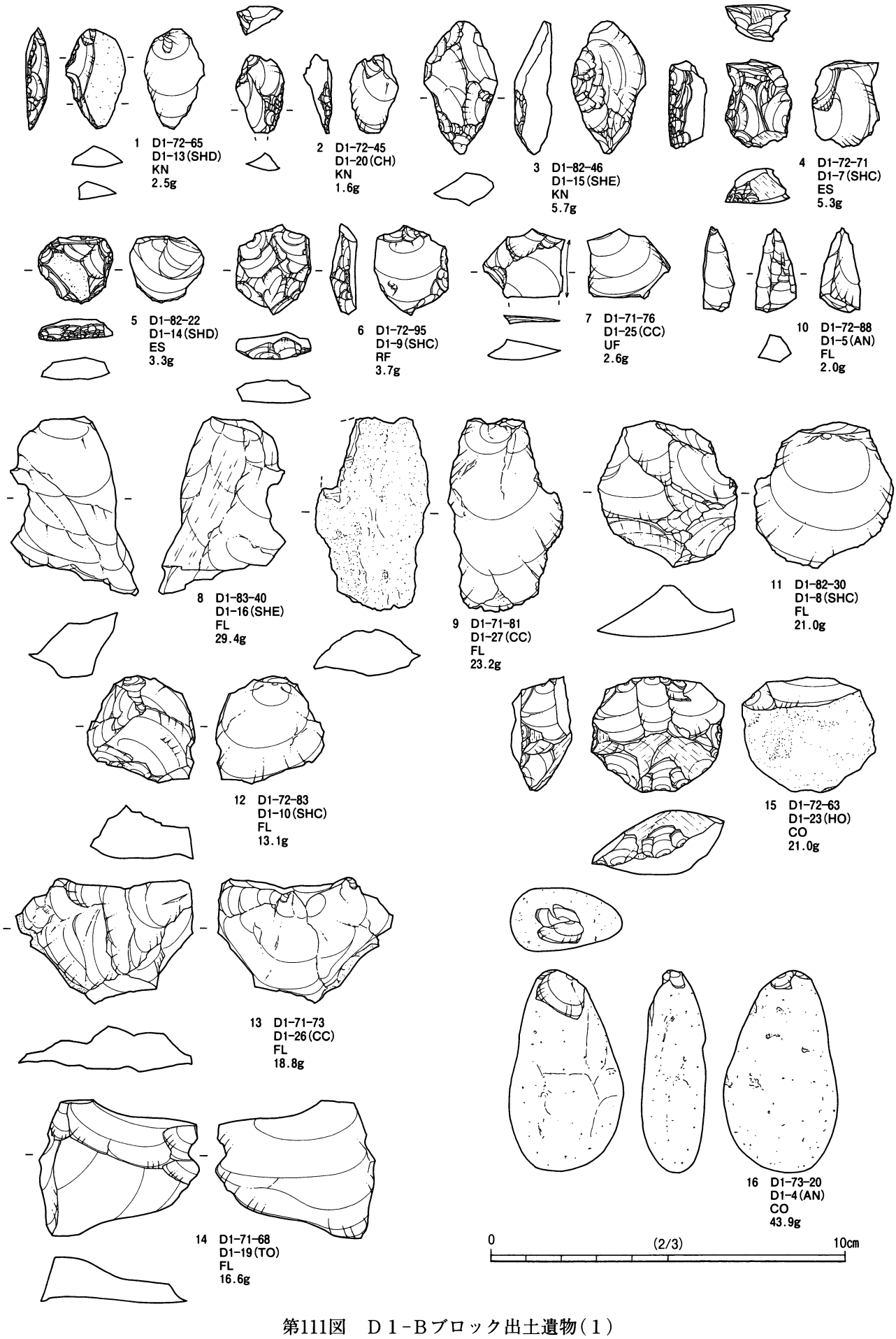
15・17はホルンフェルス，16は安山岩による石核である。15・17は打面と作業面を入れ替えながら，求心的な剥離作業により，不定型な剥片を剥離している。16は小型で扁平な礫の先端側に，交互剥離による剥離痕が残る。

第53表　D1-Bブロック母岩別石器組成表

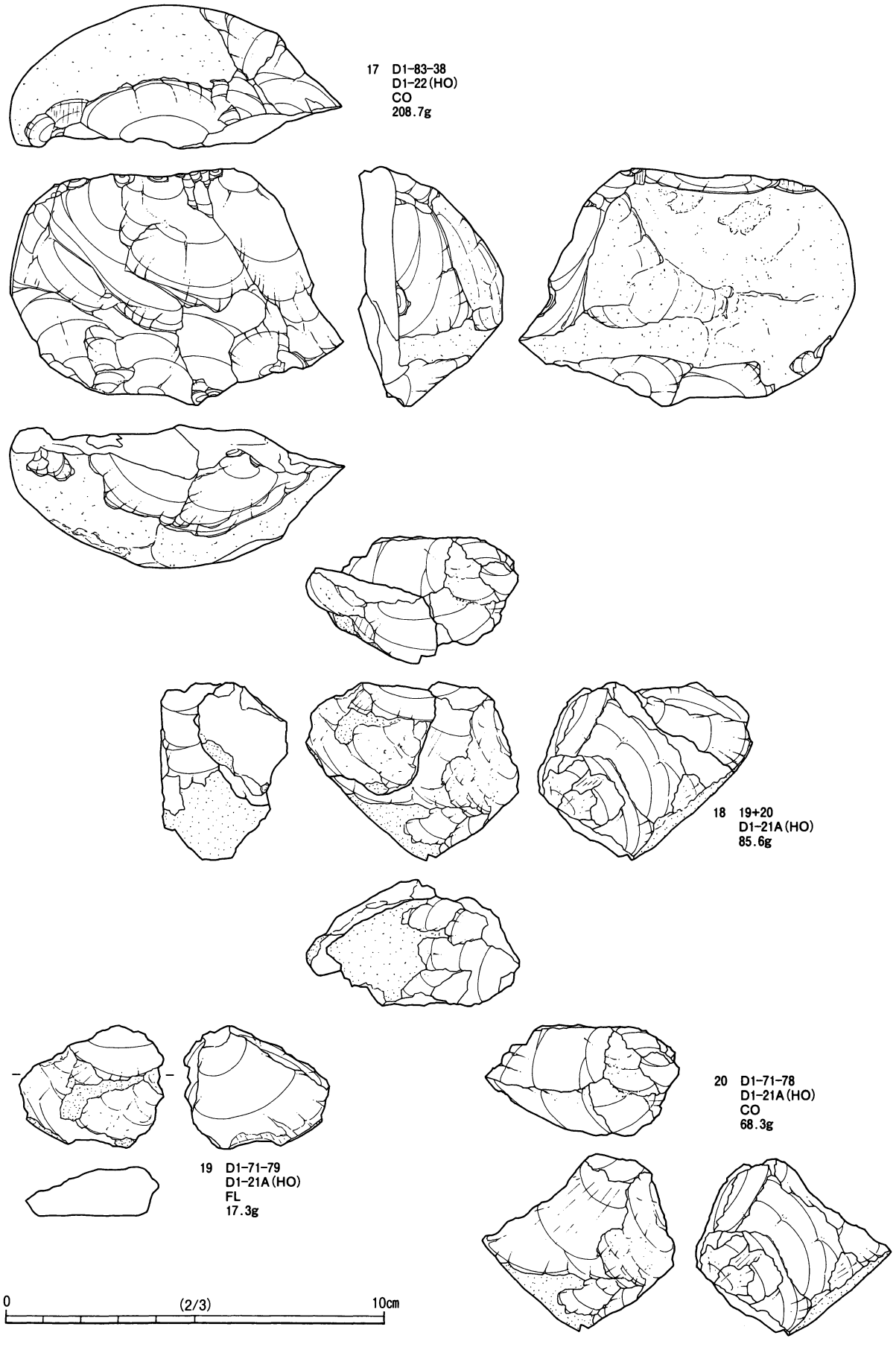
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
C1-174(HO)																		1							1
D1-4(AN)																				1					1
D1-5(AN)																		1							1
D1-6(SHB)																		1							1
D1-7(SHC)					1																				1
D1-8(SHC)																		1							1
D1-9(SHC)										1															1
D1-10(SHC)																		1							1
D1-11(SHC)																		1							1
D1-12(SHC)																		1							1
D1-13(SHD)	1																								1
D1-14(SHD)					1																				1
D1-15(SHE)	1																								1
D1-16(SHE)																		1							1
D1-17(SHE)																		1							1
D1-18(SHE)																		1							1
D1-19(TO)																		2							2
D1-20(CH)	1																								1
D1-21(HO)																		1		1					2
D1-22(HO)																		1		1					2
D1-23(HO)																		4		1					5
D1-24(HO)																		1							1
D1-25(CC)											1							2							3
D1-26(CC)																		2							2
D1-27(CC)																		1							1
D1-28(CC)																		2							2
D1-29(CC)																		1							1
その他(OBG)																			3						3
その他(AN)																			1						1
その他(CC)																			1						1
合　計	3				2					1	1							27	5	4					43

第54表　D1-Bブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石G(OBG)																			3						3
安山岩(AN)																		1	1	1					3
安山岩(TO)																		2							2
頁岩B(SHB)																		1							1
頁岩C(SHC)					1					1								4							6
頁岩D(SHD)	1				1																				2
頁岩E(SHE)	1																	3							4
チャート(CH)	1																								1
ホルンフェルス(HO)																		8		3					11
瑪瑙・玉髄(CC)											1							8	1						10
合　計	3				2					1	1							27	5	4					43



第111図　Ｄ１-Ｂブロック出土遺物（１）



第112図　D1-Bブロック出土遺物(2)

４）接合資料とその関連資料（第112図18～20）

・**D1-21（第112図18～20）**　黄灰色（2.5Y5/1）などのホルンフェルスである。剥片１点，石核１点の合計２点で構成される。18は剥片１点（19），石核１点（20）の接合資料である。硬質緻密ではあるが，節理状の面を多く含む質の悪い礫を素材として，不定型な剥片を剥離している。あるいは礫群の素材の可能性もある。

第55表　Ｄ１-Ｂブロック礫組成表

母　岩	石 材	個数	重量
C1R-25	SA	1	48.0
D1R-1	SA	6	206.2
D1R-2	SA	6	145.9
D1R-3	SA	5	119.6
D1R-4	SA	5	169.9
D1R-5	SA	5	136.0
D1R-6	SA	2	72.4
D1R-7	SA	2	59.0
D1R-8	SA	3	108.8
D1R-9	SA	4	102.5
D1R-10	SA	2	13.1
D1R-11	SA	2	35.9
D1R-12	SA	1	24.4
D1R-13	SA	1	47.3
D1R-14	SA	1	55.8

母　岩	石 材	個数	重量
D1R-15	SA	1	23.5
D1R-16	SA	1	17.4
D1R-17	SA	1	5.5
D1R-18	SA	1	3.3
D1R-19	RH	6	334.8
D1R-20	RH	3	139.6
D1R-21	RH	4	161.2
D1R-22	RH	4	191.2
D1R-23	RH	2	18.1
D1R-24	RH	1	24.5
D1R-25	RH	1	90.3
D1R-26	RH	1	13.9
D1R-27	RH	1	5.3
D1R-28	CH	13	268.9
D1R-29	AN	1	2.7

母　岩	石 材	個数	重量
D1R-30	TO	1	21.4
D1R-31	SH	4	201.9
D1R-32	TU	4	99.8
D1R-33	TU	2	103.7
D1R-34	TU	1	29.3
D1R-35	TU	1	21.5
D1R-36	TU	1	3.6
その他	SA	2	8.5

石　材	個数	重量
安山岩(AN)	1	2.7
安山岩(TO)	1	21.4
流紋岩(RH)	23	978.9
頁岩(SH)	4	201.9
チャート(CH)	13	268.9
凝灰岩(TU)	9	257.9
砂岩(SA)	52	1403.0
合　計	103	3134.7

６　C2-Ｃブロック（第113～117図，第56～58表，カラー図版８・13）

１）ブロックの概要

C2-Ｃブロックは，調査範囲北側のC2-09・19，D2-00・10グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は40mである。

ブロックの規模と形状は，長軸９ｍ，短軸６ｍの範囲に30点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層下部からⅣ・Ⅴ層にかけて，30cmほどの高低差をもって包含されている（第113～116図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，剥片13点，砕片２点，石核２点の合計18点と礫12点で構成される。石器石材は，安山岩７点，頁岩Ｅ１点，ホルンフェルス10点である。礫石材は，軟質の安山岩３点（２母岩；218.4ｇ），流紋岩３点（２母岩；48.5ｇ），凝灰岩３点（３母岩；79.7ｇ），砂岩３点（２母岩；105.6ｇ）で，識別率は100％である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは９母岩を識別した。内訳は，安山岩２母岩（C2-11・12），頁岩Ｅ１母岩（C2-13），ホルンフェルス６母岩(C2-14～16･18～20)である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は94％(17/18点）である。

・**C2-11**：暗灰黄色（2.5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N4/0）の安山岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片１点の合計２点(10.1ｇ)である。接合資料は，ナイフ形石器１点，剥片１点の合計２点(10.1ｇ）である。

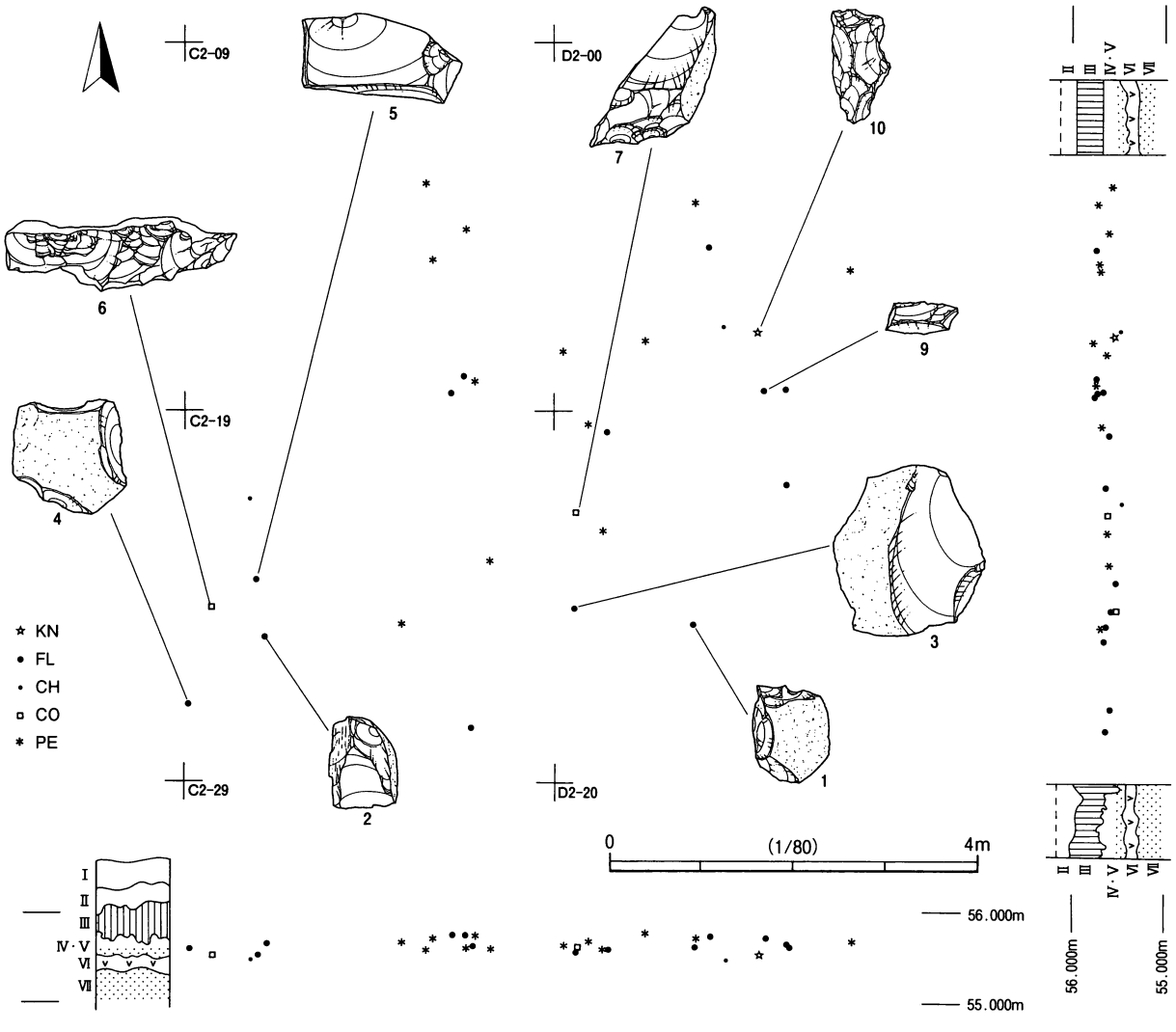
・C2-12：自然面は粗い紙ヤスリ状で，自然面及び内部は暗灰黄色(2.5Y4/2)，新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。石器群の内訳は，剥片４点（31.2ｇ）である。

・C2-13：内部は灰白色（7.5Y7/2），新鮮な面は灰色（N4/0）の頁岩である。砕片１点（0.1ｇ）の単独資料である。

・C2-14：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y6/2)･灰黄色（2.5Y7/2)･灰色（10Y6/2)，節理はにぶい黄色（2.5Y6/4)・灰色（7.5Y4/1)・褐色（10YR4/6）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点，石核１点の合計３点（114.6ｇ）である。

・C2-15：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色(5Y6/1)のホルンフェルスである。石核１点(23.6ｇ)の単独資料である。

・C2-16：灰色（7.5Y6/1）の地に灰白色（7.5Y7/2）が縞状に入るホルンフェルスである。剥片１点（17.0ｇ）の単独資料である。



第113図　Ｃ２-Ｃブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－

・**C2-18**：自然面は平滑で灰オリーブ色（5Y6/2），内部は灰色（5Y6/1），節理は褐色（10YR4/6）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片３点（64.0ｇ）である。接合資料は，剥片２点（23.8ｇ）である。

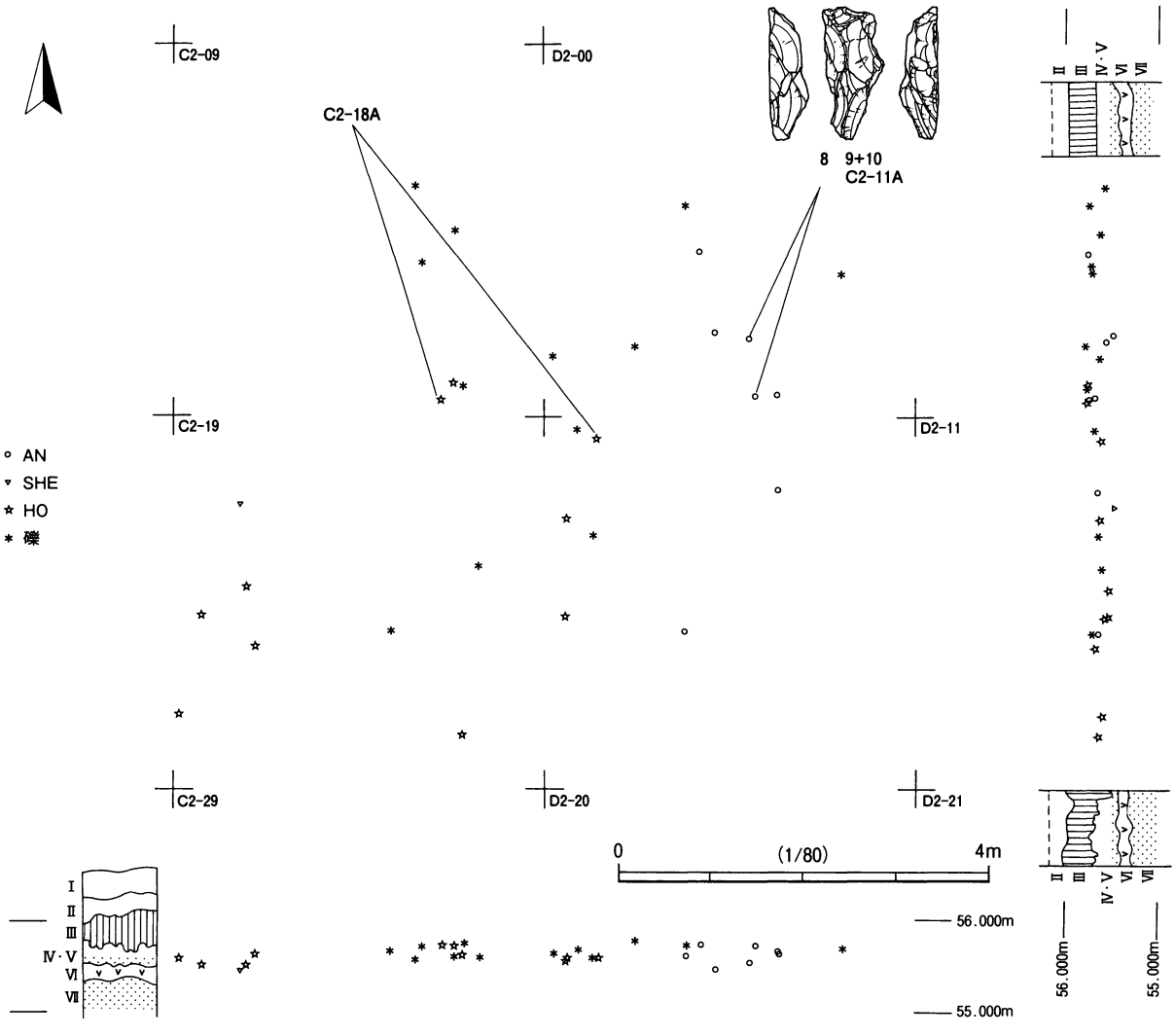
・**C2-19**：自然面は平滑で灰オリーブ色（5Y4/2），内部は灰オリーブ色（5Y4/2）・灰色（7.5Y5/1）のホルンフェルスである。剥片１点（5.1ｇ）の単独資料である。

・**C2-20**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰白色（5Y7/2）・灰色（5Y5/1）のホルンフェルスである。剥片１点（19.0ｇ）の単独資料である。

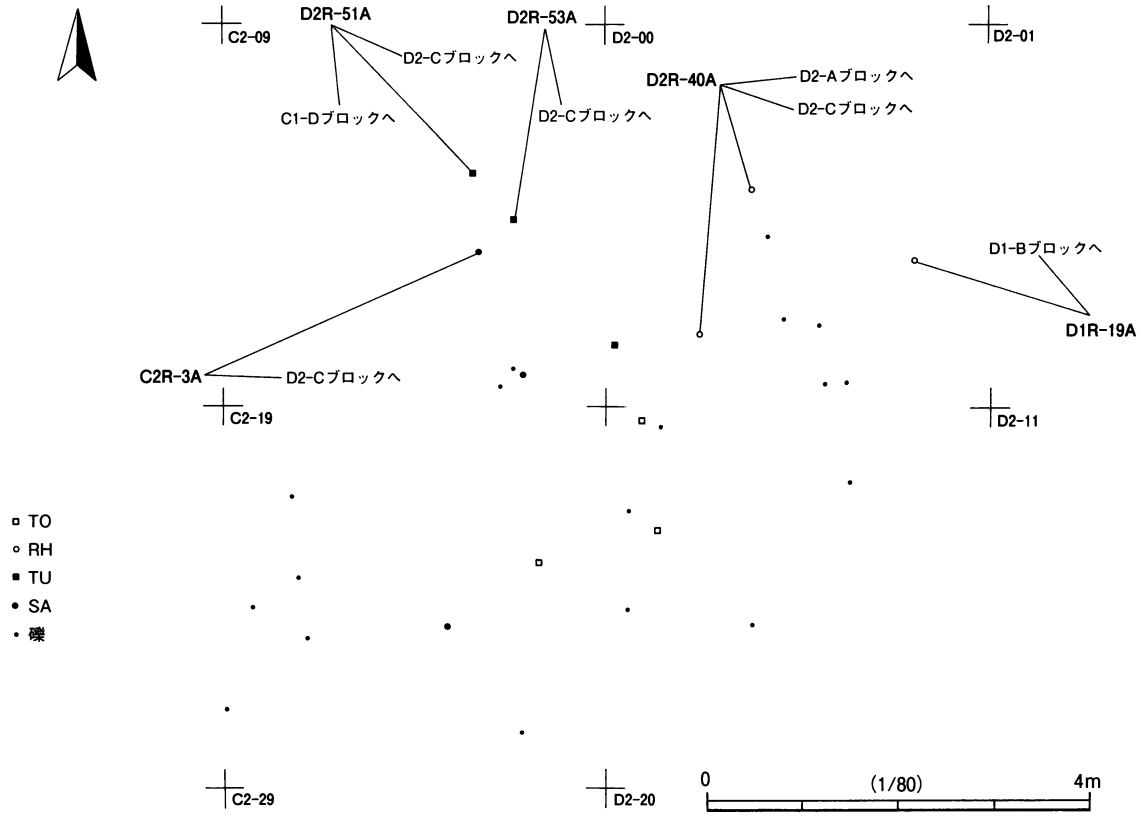
なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の砕片１点（0.5ｇ）がある。

３）出土遺物（第117図１～７）

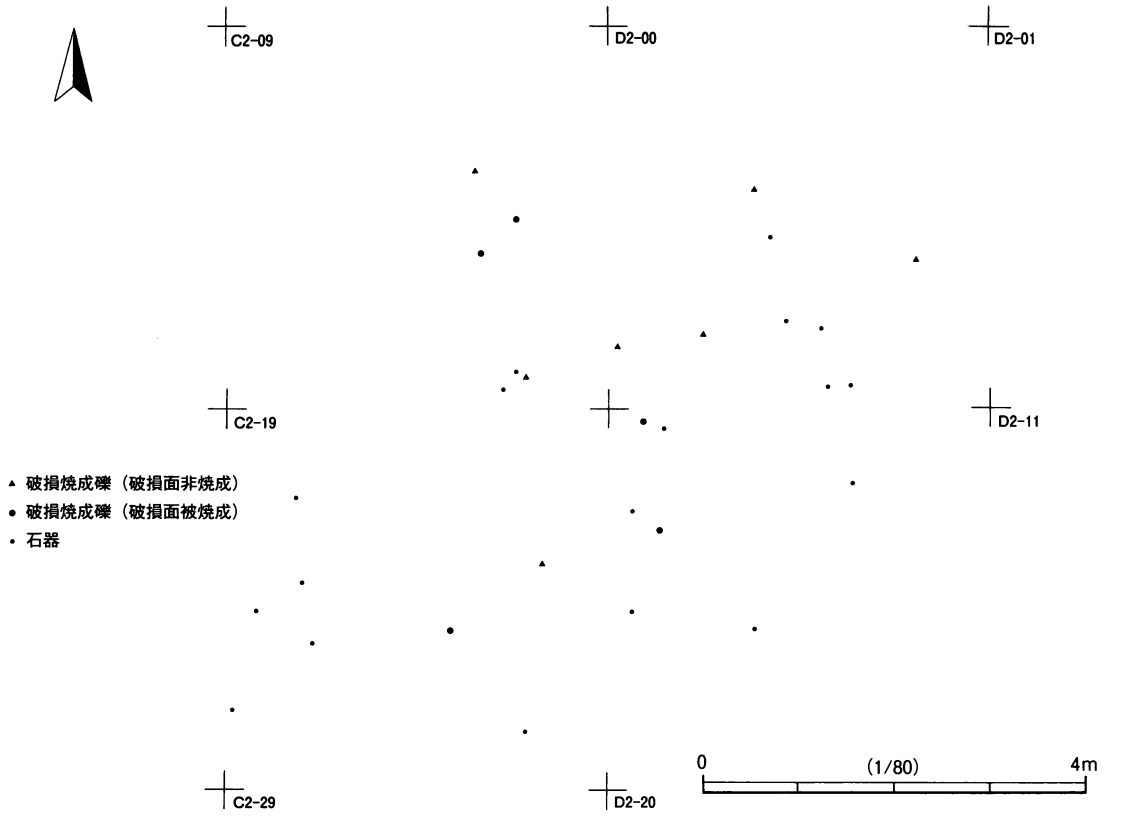
１は安山岩，２～５はホルンフェルスによる剥片である。１～４は長幅比がほぼ１：１の不定型な剥片，５は横長剥片である。



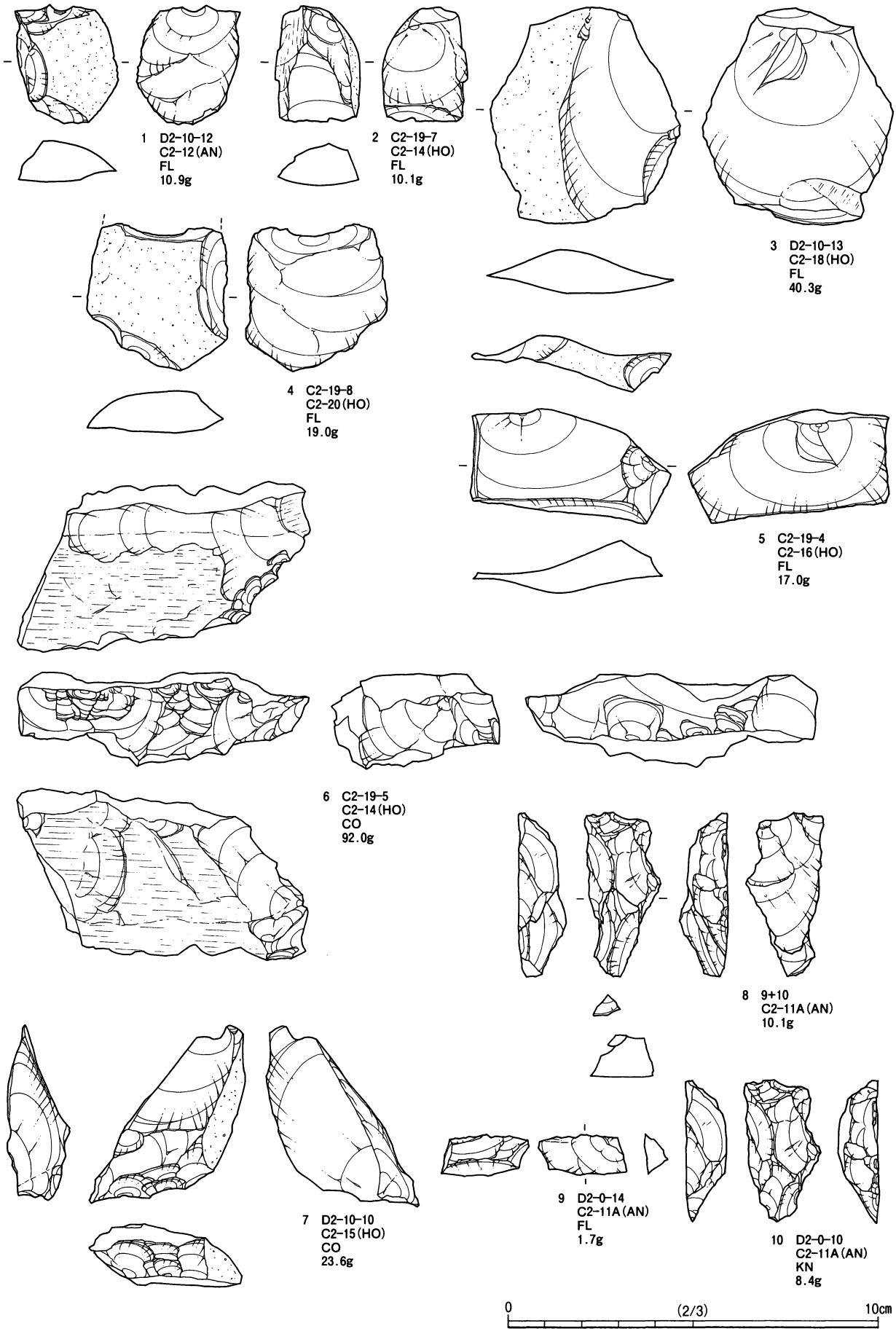
第114図　Ｃ２-Ｃブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第115図　Ｃ２-Cブロック出土遺物分布（３）－礫石材別分布－



第116図　Ｃ２-Cブロック出土遺物分布（４）－礫焼成別分布－



第117図　Ｃ２-Ｃブロック出土遺物

6・7はホルンフェルスによる石核である。6は板状の剥片の平坦な節理を打面として，小型で不定型な剥片を剥離している。7は素材の主要剥離面を打面として，小型で不定型な剥片を剥離している。

4）接合資料とその関連資料（第117図8～10）

・C2-11（第117図8～10）　暗灰黄色（2.5Y5/2）などの安山岩である。ナイフ形石器1点，剥片1点の合計2点で構成される。8はナイフ形石器1点（10），剥片1点（9）の接合資料である。9はナイフ形石器の調整剥片である。10は横長剥片を横位に用い，基部に鋸歯状の粗い調整加工を行っている。

第56表　C2-Cブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
C2-11(AN)	1																	1							2
C2-12(AN)																		4							4
C2-13(SHE)																			1						1
C2-14(HO)																		2		1					3
C2-15(HO)																				1					1
C2-16(HO)																		1							1
C2-18(HO)																		3							3
C2-19(HO)																		1							1
C2-20(HO)																		1							1
その他(AN)																			1						1
合　計	1																	13	2	2					18

第57表　C2-Cブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
安山岩(AN)	1																	5	1						7
頁岩E(SHE)																			1						1
ホルンフェルス(HO)																		8		2					10
合　計	1																	13	2	2					18

第58表　C2-Cブロック礫組成表

母　岩	石　材	個数	重量
C2R-3	SA	2	22.1
C2R-4	SA	1	83.5
C2R-5	TO	2	91.6
C2R-6	TO	1	126.9
D1R-19	RH	1	23.9

母　岩	石　材	個数	重量
D1R-32	TU	1	7.6
D2R-40	RH	2	24.5
D2R-51	TU	1	53.6
D2R-53	TU	1	18.5

石　材	個数	重量
安山岩(TO)	3	218.4
流紋岩(RH)	3	48.5
凝灰岩(TU)	3	79.7
砂岩(SA)	3	105.6
合　計	12	452.2

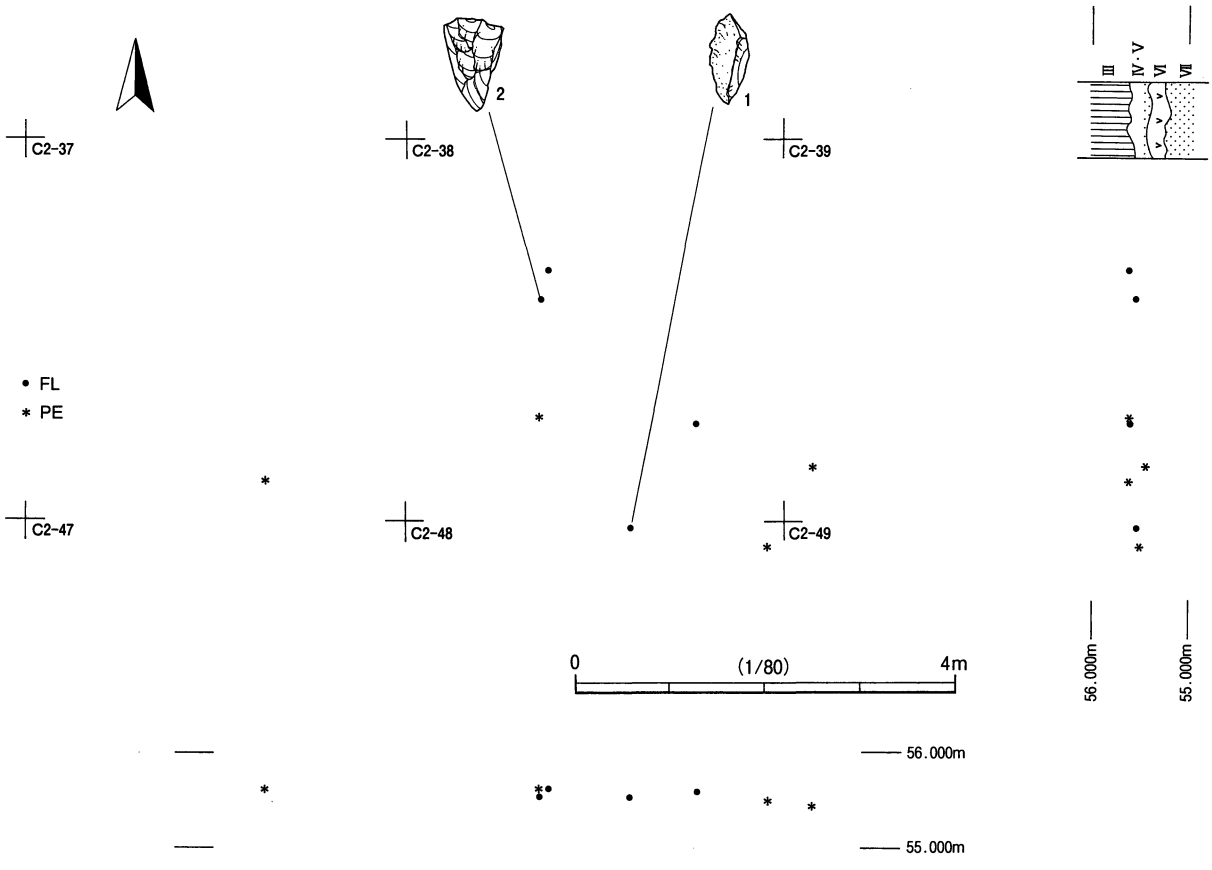
7　C2-Dブロック（第118～122図，第59～61表，カラー図版8）

1）ブロックの概要

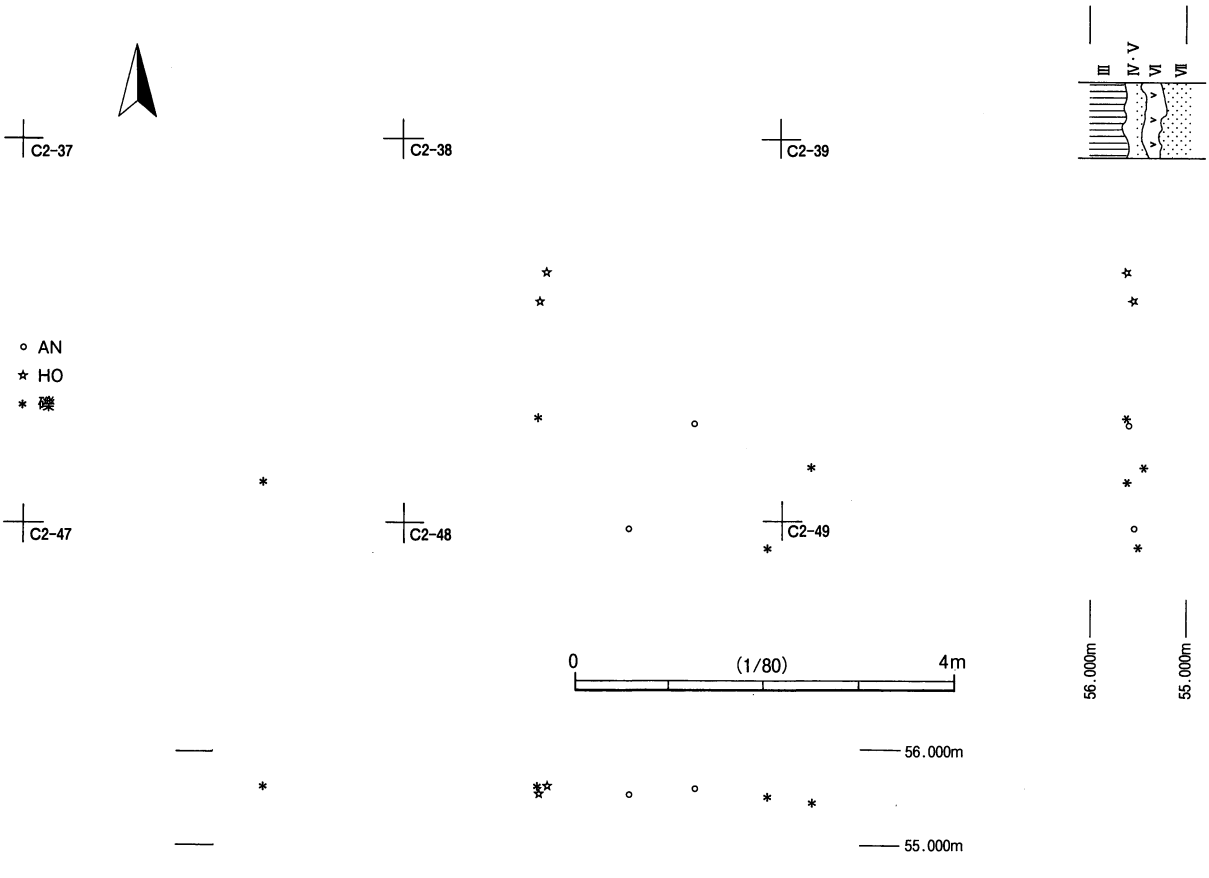
C2-Dブロックは，調査範囲北側のC2-37～39・48グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の西側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸6m，短軸3mの範囲に8点の石器・礫が散漫な状態で分布する。出土層位は，Ⅲ層下部からⅣ・Ⅴ層にかけて，20cmほどの高低差をもって包含されている（第118～121図）。

ブロックは，剥片4点と礫4点で構成される。石器石材は，安山岩2点，ホルンフェルス2点である。礫石材は，軟質の安山岩1点（1母岩；15.4g），流紋岩1点（1母岩；25.4g），砂岩2点（2母岩；69.9g）で，識別率は100%である。



第118図　Ｃ２-Ｄブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第119図　Ｃ２-Ｄブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

2）母岩の特徴と内容

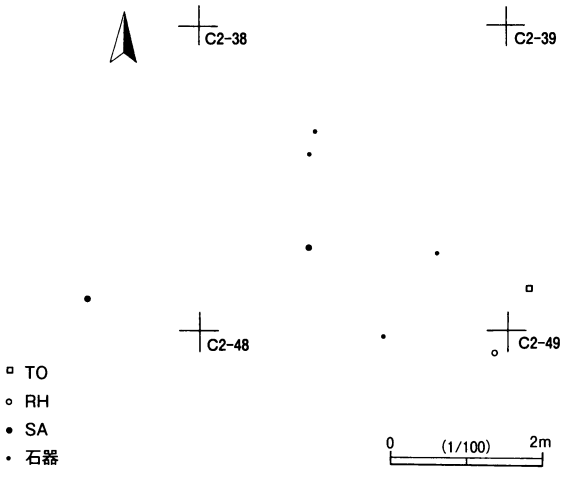
本ブロックでは2母岩を識別した。内訳は，安山岩1母岩（C2-21），ホルンフェルス1母岩（C1-164）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（4/4点）である。

・**C1-164**：浅黄色（2.5Y7/4）などのホルンフェルスである。母岩の特徴はC1-Cブロックで記したとおりである。石器群の内訳は，剥片2点（14.2g）である。その他に同一母岩がC1-Cブロックに2点ある。

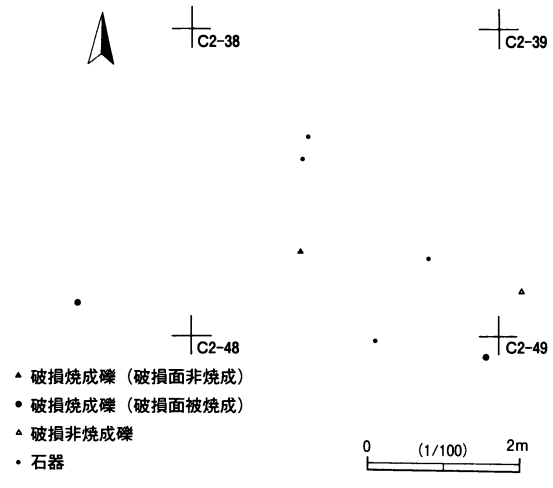
・**C2-21**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y5/2），新鮮な面は灰色（N5/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片2点（2.9g）である。

3）出土遺物（第122図）

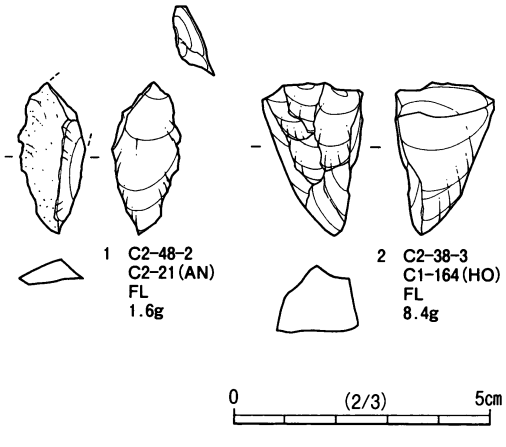
1は安山岩，2はホルンフェルスによる不定型な剥片である。



第120図　C2-Dブロック出土遺物分布（3）
－礫石材別分布－



第121図　C2-Dブロック出土遺物分布（4）
－礫焼成別分布－



第122図　C2-Dブロック出土遺物

第59表　Ｃ２-Ｄブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
C1-164(HO)																		2							2
C2-21(AN)																		2							2
合　計																		4							4

第60表　Ｃ２-Ｄブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
安山岩(AN)																		2							2
ホルンフェルス(HO)																		2							2
合　計																		4							4

第61表　Ｃ２-Ｄブロック礫組成表

母　岩	石 材	個数	重量
C2R-7	SA	1	25.7
C2R-8	SA	1	44.2
C2R-9	RH	1	25.4
C2R-10	TO	1	15.4

石　材	個数	重量
安山岩(TO)	1	15.4
流紋岩(RH)	1	25.4
砂岩(SA)	2	69.9
合　計	4	110.7

8　D2-Aブロック（第123～127図，第62～64表，カラー図版８・13）

１）ブロックの概要

D2-Aブロックは，調査範囲北側のD1-94，D2-04・14グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸６m，短軸４mの範囲に12点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層下部からⅣ・Ⅴ層にかけて，30cmほどの高低差をもって包含されている（第123～126図）。

ブロックは，削器１点，剥片４点の合計５点と礫７点で構成される。石器石材は，頁岩Ｅ１点，チャート１点，砂岩１点，ホルンフェルス２点である。礫石材は，流紋岩１点（１母岩;31.6ｇ），凝灰岩２点（１母岩；12.2ｇ），砂岩４点（４母岩；99.1ｇ）で，識別率は100％である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは５母岩を識別した。内訳は，頁岩Ｅ１母岩（D2-１），チャート１母岩（D2-２），砂岩１母岩（D2-３），ホルンフェルス２母岩（D2-４・12）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（5/5点）である。

・**D2-１**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y5/1）・灰白色（7.5Y7/2），節理は明黄褐色（2.5Y7/6）・灰白色（2.5Y8/1）の頁岩である。剥片１点（66.9ｇ）の単独資料である。

・**D2-２**：自然面は浅い爪形の裂痕が密で，自然面及び内部は黄灰色（2.5Y4/1）の地に灰白色（2.5Y7/1）が部分的に混じるチャートである。本ブロックでは削器１点（3.1ｇ）の単独資料であるが，D2-Ｃブロックの剥片１点と接合している。

・**D2-３**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部はにぶい褐色(7.5YR5/3)の砂岩である。剥片１点(49.8ｇ）の単独資料である。

・**D2-４**：自然面は細かい穴が密で灰黄褐色（10YR4/2）・にぶい赤褐色（2.5YR4/4），内部は黄灰色（2.5Y4/1)・にぶい赤褐色（2.5YR4/4）のホルンフェルスである。剥片１点（21.9ｇ）の単独資料である。

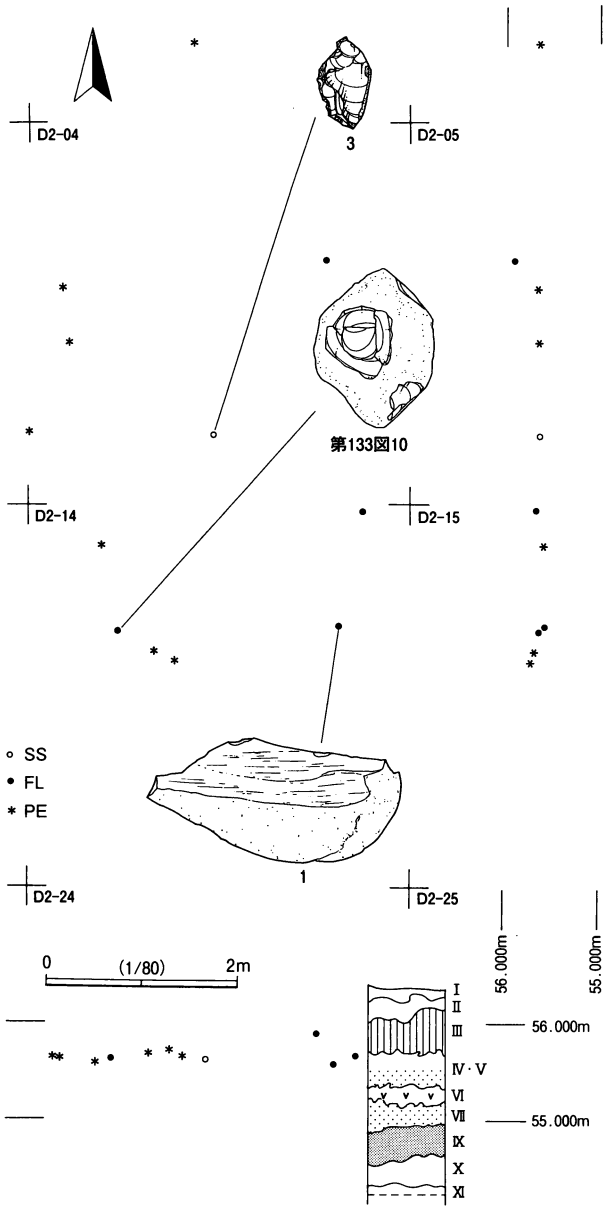
・**D2-12**：自然面は比較的平滑でにぶい褐色（7.5YR5/3）・にぶい橙色（7.5YR6/4）・灰色（5Y5/1），内部は灰色（5Y5/1）・灰色（5Y6/1）のホルンフェルスである。本ブロックでは剥片１点（124.0ｇ）の単独資料であるが，D2-Ｂブロックの剥片４点，石核１点の合計５点と接合している。

３）出土遺物（第127図１）

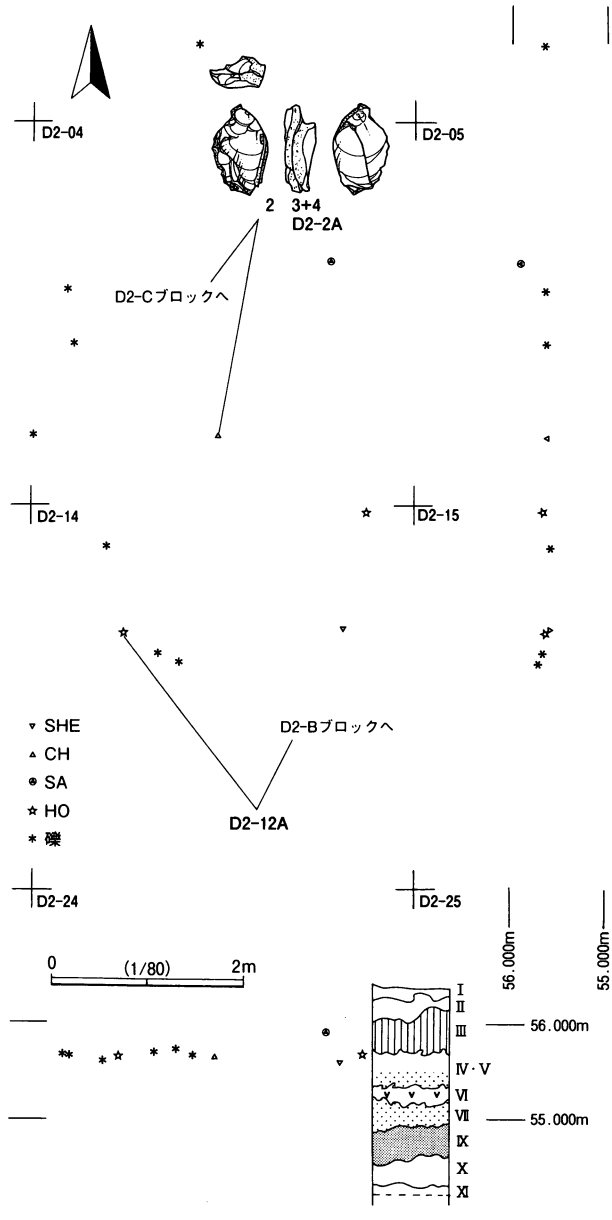
１は頁岩による横長剥片である。

４）接合資料とその関連資料（第127図２～４）

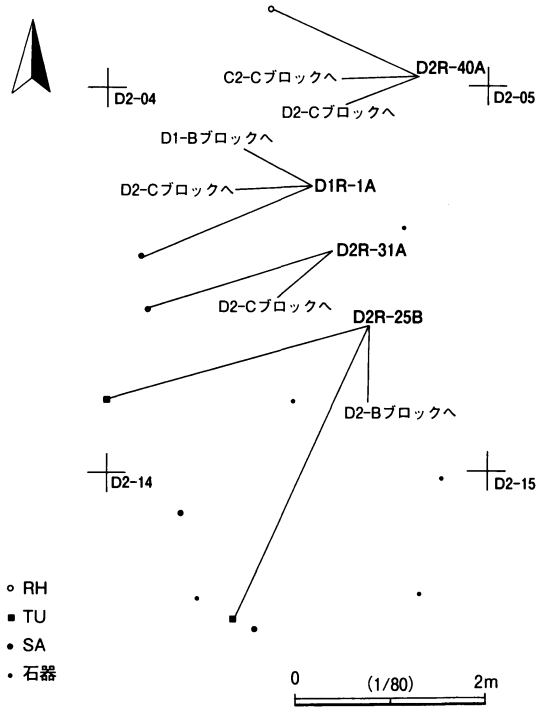
・**D2-２（第127図２～４）**　黄灰色（2.5Y4/1）などのチャートである。本ブロックでは削器１点の単独資料である。２は削器１点（３）と剥片１点（４）の接合資料である。４→３の順に上方向から剥離している。３は調整加工を行っている。なお，４はD2-Ｃブロックから出土している。



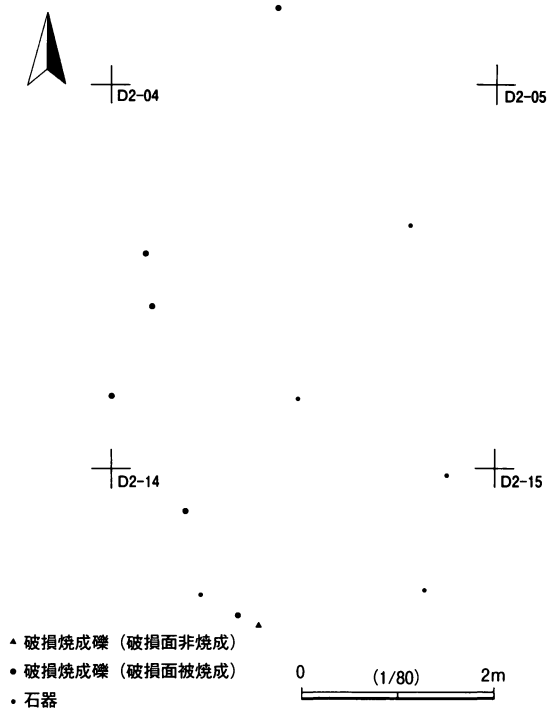
第123図　Ｄ２-Ａブロック出土遺物分布（１）
－石器別分布－



第124図　Ｄ２-Ａブロック出土遺物分布（２）
－石材別分布－



第125図　Ｄ２-Ａブロック出土遺物分布（３）
－礫石材別分布－



第126図　Ｄ２-Ａブロック出土遺物分布（４）
－礫焼成別分布－

第62表　Ｄ２-Ａブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
D2-1(SHE)																		1							1
D2-2(CH)						1																			1
D2-3(SA)																		1							1
D2-4(HO)																		1							1
D2-12(HO)																		1							1
合　計						1												4							5

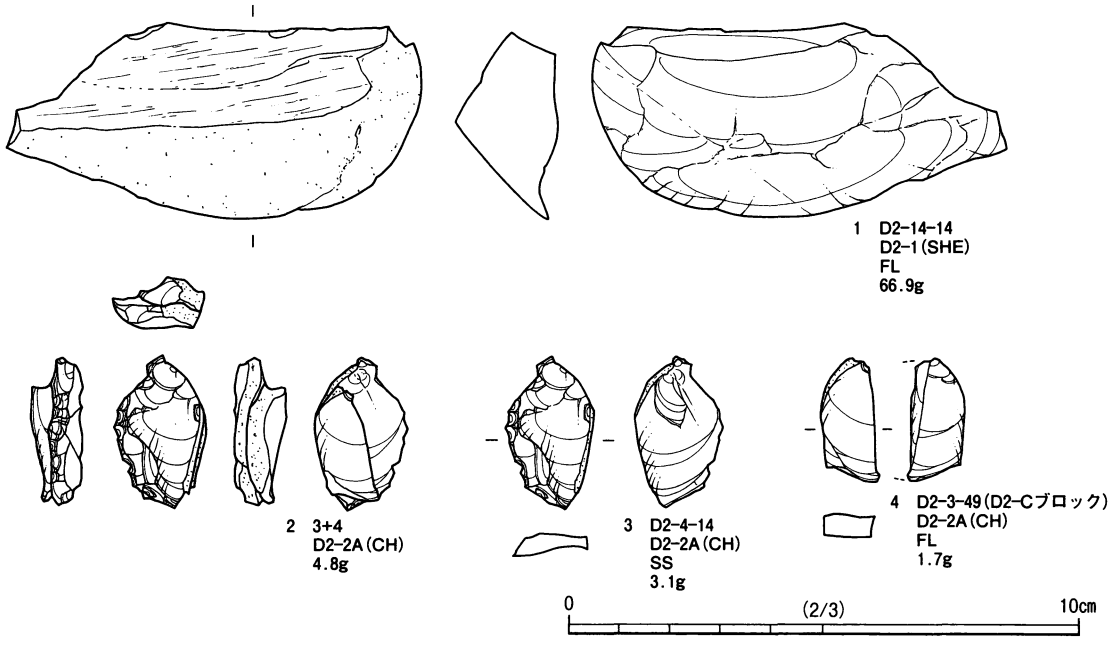
第63表　Ｄ２-Ａブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
頁岩E(SHE)																		1							1
チャート(CH)						1																			1
砂岩(SA)																		1							1
ホルンフェルス(HO)																		2							2
合　計						1												4							5

第64表　Ｄ２-Ａブロック礫組成表

母　岩	石　材	個数	重量
D1R-1	SA	1	25.9
D2R-1	SA	1	17.0
D2R-10	SA	1	14.7
D2R-25	TU	2	12.2
D2R-31	SA	1	41.5
D2R-40	RH	1	31.6

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	1	31.6
凝灰岩(TU)	2	12.2
砂岩(SA)	4	99.1
合　計	7	142.9



第127図　D2-Aブロック出土遺物

9　D2-Bブロック（第128～133図，第65～67表，カラー図版8・13）

1）ブロックの概要

D2-Bブロックは，調査範囲北側のD2-06・15・16・24・25グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸10m，短軸4mの範囲に83点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層下部を中心として，50cmほどの高低差をもって包含されている（第128～131図）。

ブロックは，剥片17点（15個体），砕片3点，石核1点の合計21点（19個体）と礫62点で構成される。石器石材は，流紋岩1点，頁岩C1点，頁岩D2点，チャート2点，粘板岩1点，ホルンフェルス14点（12個体）である。礫石材は，流紋岩2点（1母岩；38.1g），頁岩1点（1母岩；125.8g），凝灰岩10点（4母岩；274.4g），砂岩47点（21母岩；954.0g），ホルンフェルス1点（1母岩；20.9g），識別できなかった砂岩1点（3.0g）で，識別率は98%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは13母岩を識別した。内訳は，流紋岩1母岩（D2-5），頁岩C1母岩（D2-6），頁岩D2母岩（D2-7・8），チャート2母岩（D2-9・10），粘板岩1母岩（D2-11），ホルンフェルス6母岩（D2-12～17）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（21/21点）である。

・**D2-5**：灰白色（5Y8/2）・にぶい黄色（2.5Y6/4）の流紋岩である。剥片1点（1.8g）の単独資料である。

・**D2-6**：自然面は平滑で黒褐色（2.5Y3/2），内部の表皮に近い部分は褐色（10YR4/4），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（12.6g）の単独資料である。

・**D2-7**：自然面は凹凸が激しく，自然面及び内部はにぶい黄褐色（10YR5/4），節理は褐色（10YR4/4）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（19.0g）の単独資料である。

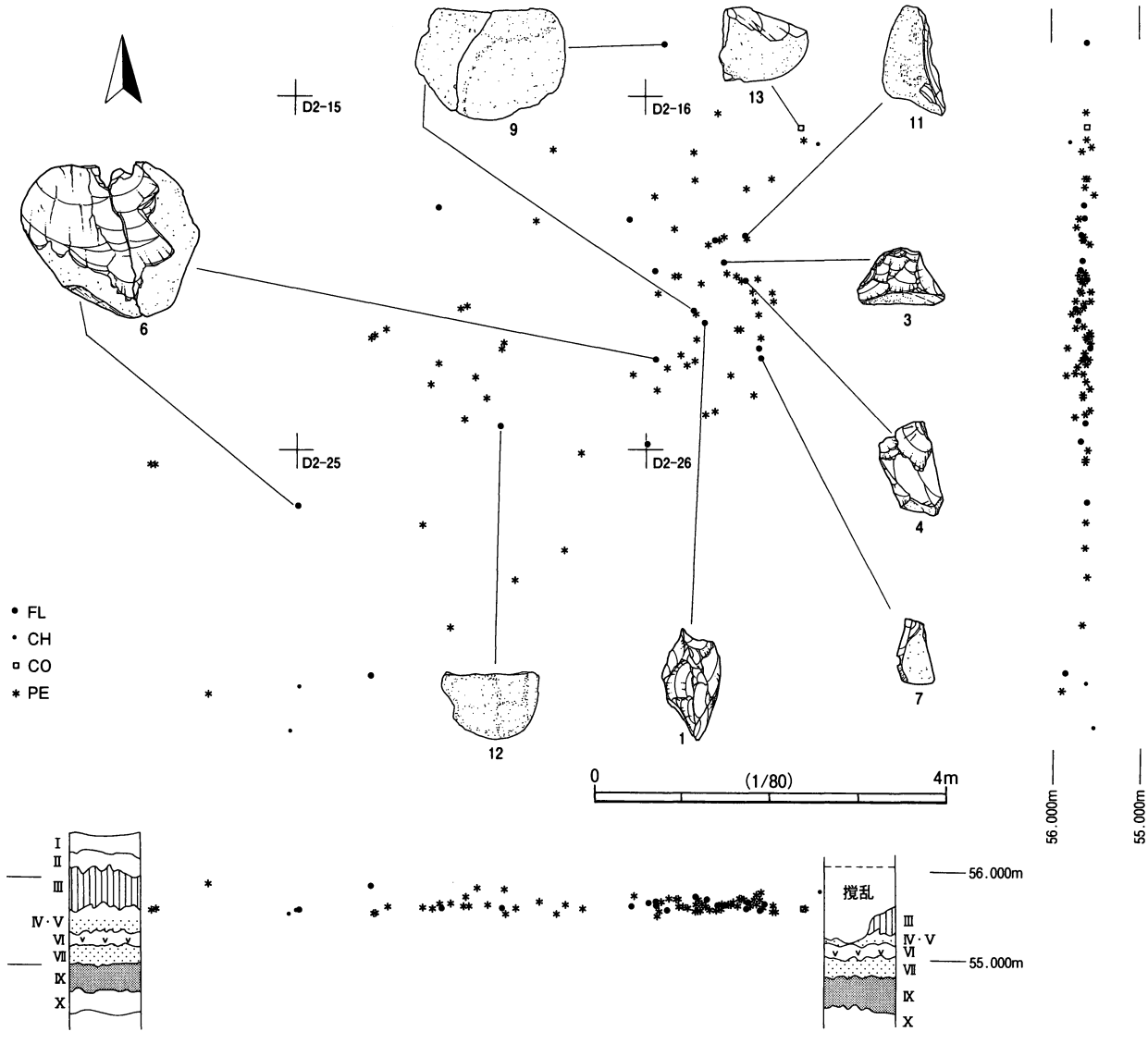
・**D2-8**：灰色（5Y4/1）・灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y6/1）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（1.9

ｇ）の単独資料である。

・**D2-９**：自然面は平滑で黄褐色（2.5Y5/4）・暗灰黄色（2.5Y4/2）・黄褐色（10YR5/6），内部は灰オリーブ色（5Y5/3）・灰色（5Y4/1）のチャートである。剥片１点（11.1ｇ）の単独資料である。

・**D2-10**：自然面は平滑で黄褐色（2.5Y5/3）・灰白色（2.5Y8/2），内部は灰白色（2.5Y8/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2）のチャートである。砕片１点（0.9ｇ）の単独資料である。

・**D2-11**：自然面は平滑でオリーブ褐色（2.5Y4/4），内部は灰色（5Y5/1）の資料，自然面は平滑で暗赤褐色（7.5R3/2）・褐灰色（7.5YR4/1），内部は黄灰色（2.5Y4/1）の地に灰黄色（2.5Y6/2）・にぶい褐色（7.5YR5/3）が縞状に入り，節理は褐灰色（7.5YR4/1）の資料など母岩内での変異のある粘板岩である。本ブロックでは剥片１点（1.9ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がD2-Ｃブロックに１点ある。



第128図　Ｄ２-Ｂブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－

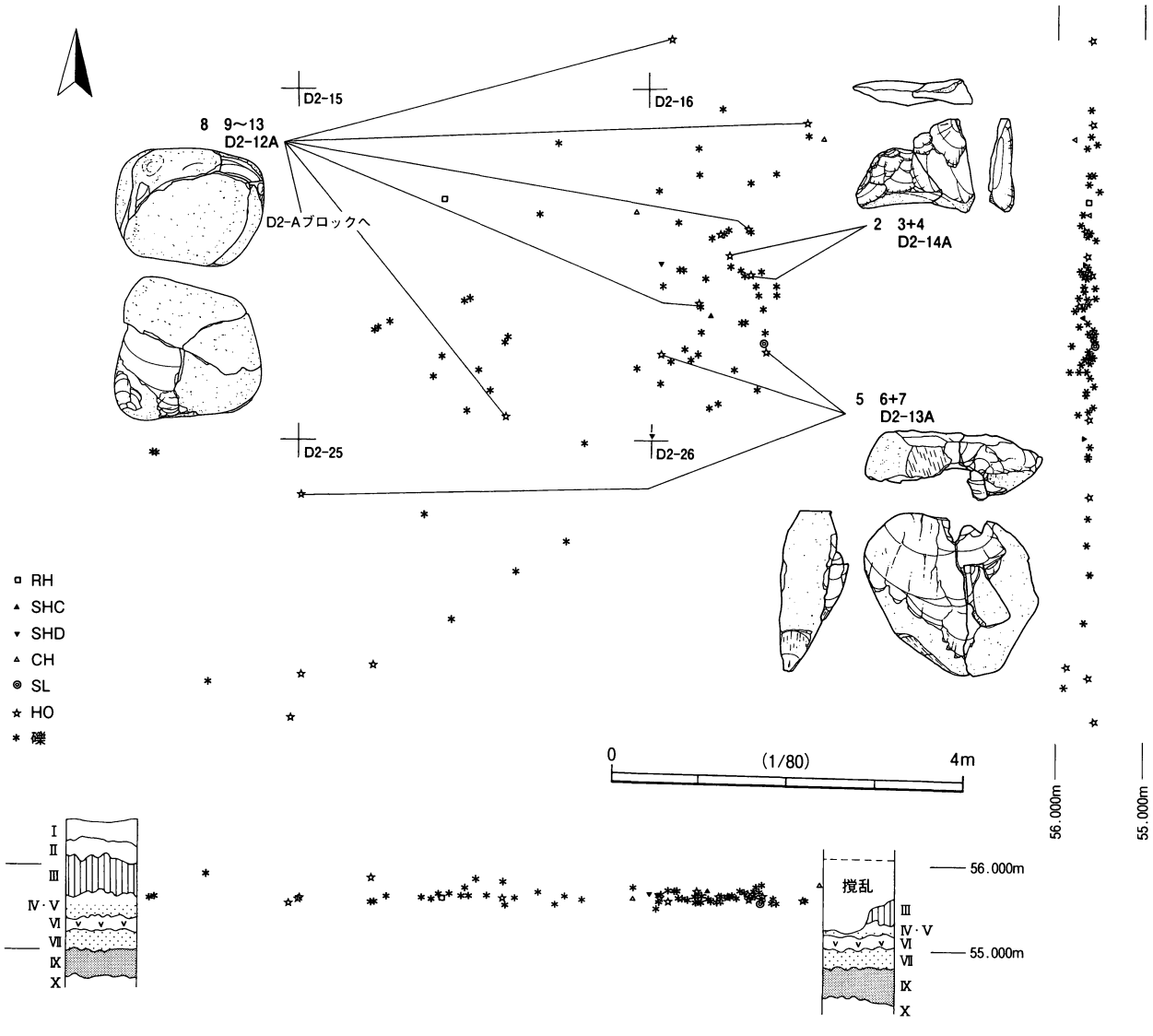
・**D2-12**：灰色（5Y5/1）などのホルンフェルスである。母岩の特徴はD2-Aブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，剥片４点（３個体），石核１点の合計５点（４個体;207.8ｇ）である。接合資料は，剥片４点，石核１点の合計５点（207.8ｇ）がD2-Aブロックの剥片１点と接合している。

・**D2-13**：自然面は比較的平滑でにぶい褐色（7.5YR5/3）・褐色（7.5YR4/3），内部は灰色（7.5Y4/1）・灰色（7.5Y6/1）・にぶい褐色（7.5YR5/4）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片３点（２個体；73.6ｇ）である。接合資料は，剥片３点（２個体；73.6ｇ）である。

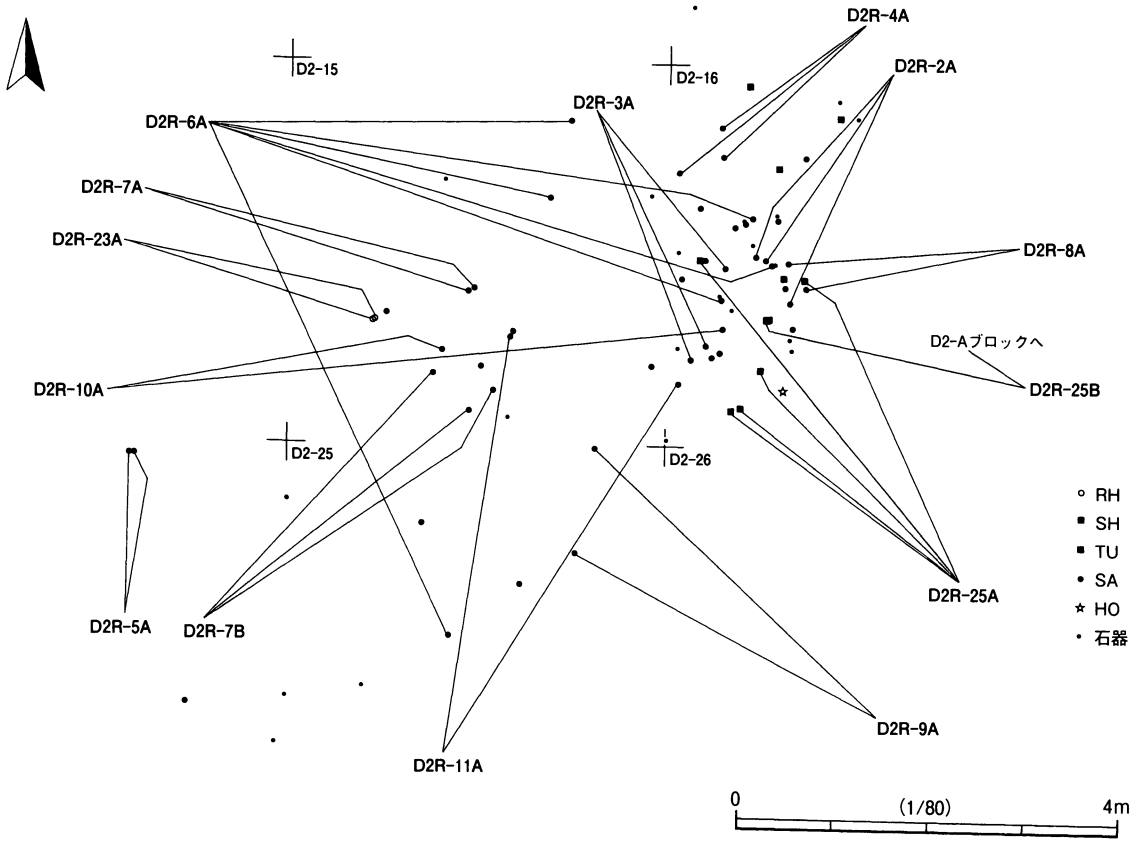
・**D2-14**：自然面は平滑で灰色（5Y5/1）･灰色（5Y6/1），内部は灰色（5Y5/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点（9.7ｇ）である。接合資料は，剥片２点（9.7ｇ）である。

・**D2-15**：灰色（5Y5/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片１点，砕片１点の合計２点（4.5ｇ）である。

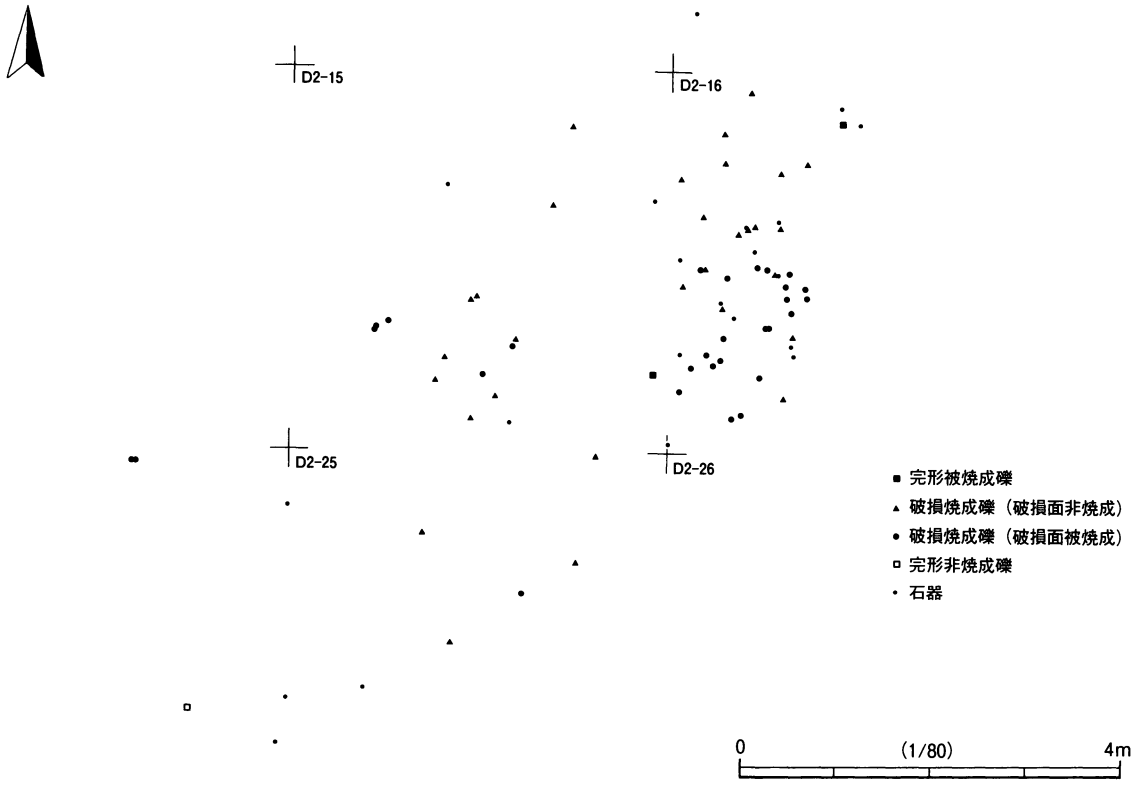
・**D2-16**：自然面は平滑で褐色（7.5YR4/3），内部は灰黄色（2.5Y6/2）のホルンフェルスである。剥片１点（1.3ｇ）の単独資料である。



第129図　Ｄ２-Ｂブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第130図　Ｄ２-Ｂブロック出土遺物分布（３）－礫石材別分布－



第131図　Ｄ２-Ｂブロック出土遺物分布（４）－礫焼成別分布－

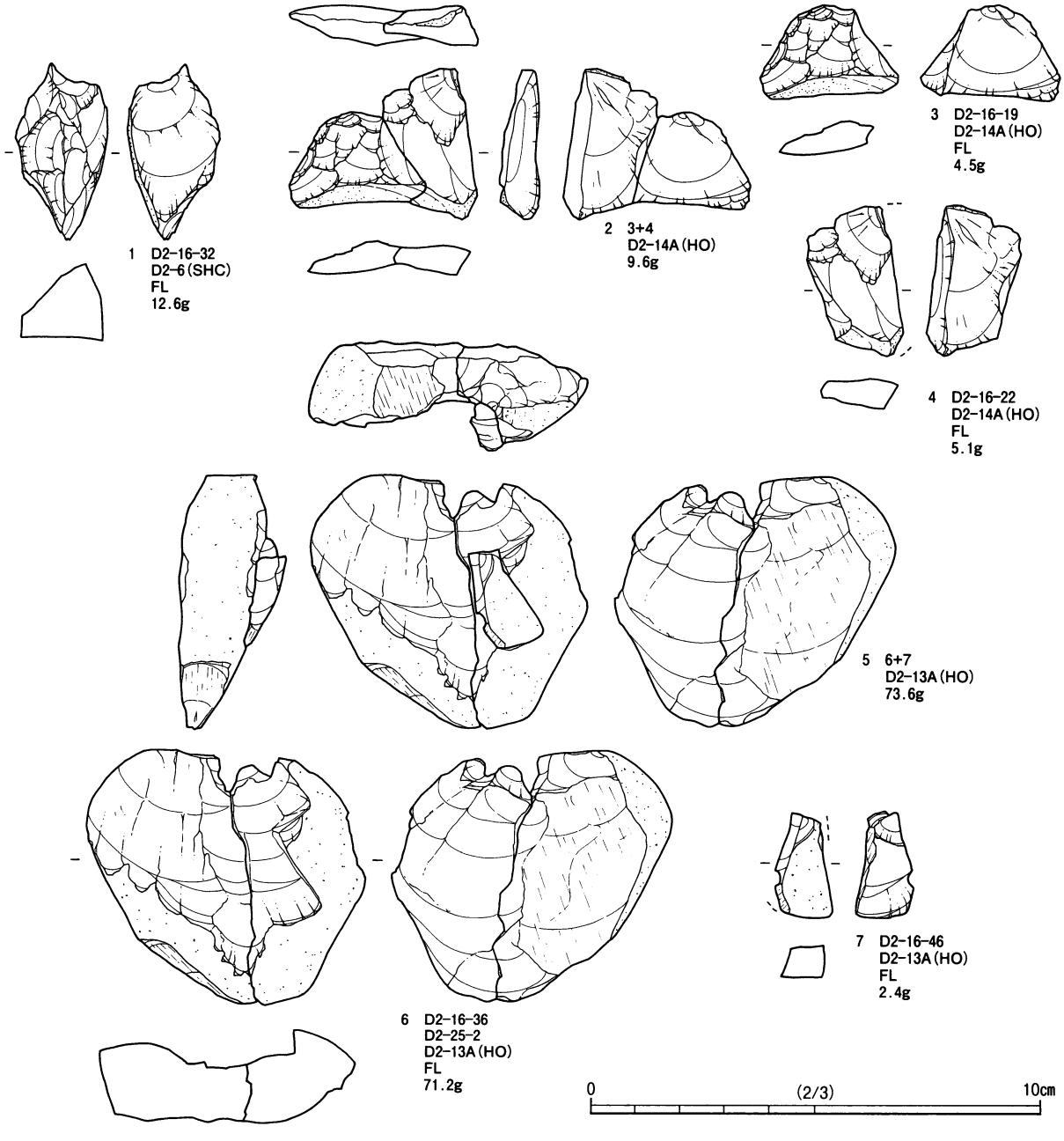
・**D2-17**：自然面は平滑で灰黄色（2.5Y6/2），内部は黄灰色（2.5Y6/1）のホルンフェルスである。砕片1点（1.4g）の単独資料である。

3）出土遺物（第132図1）

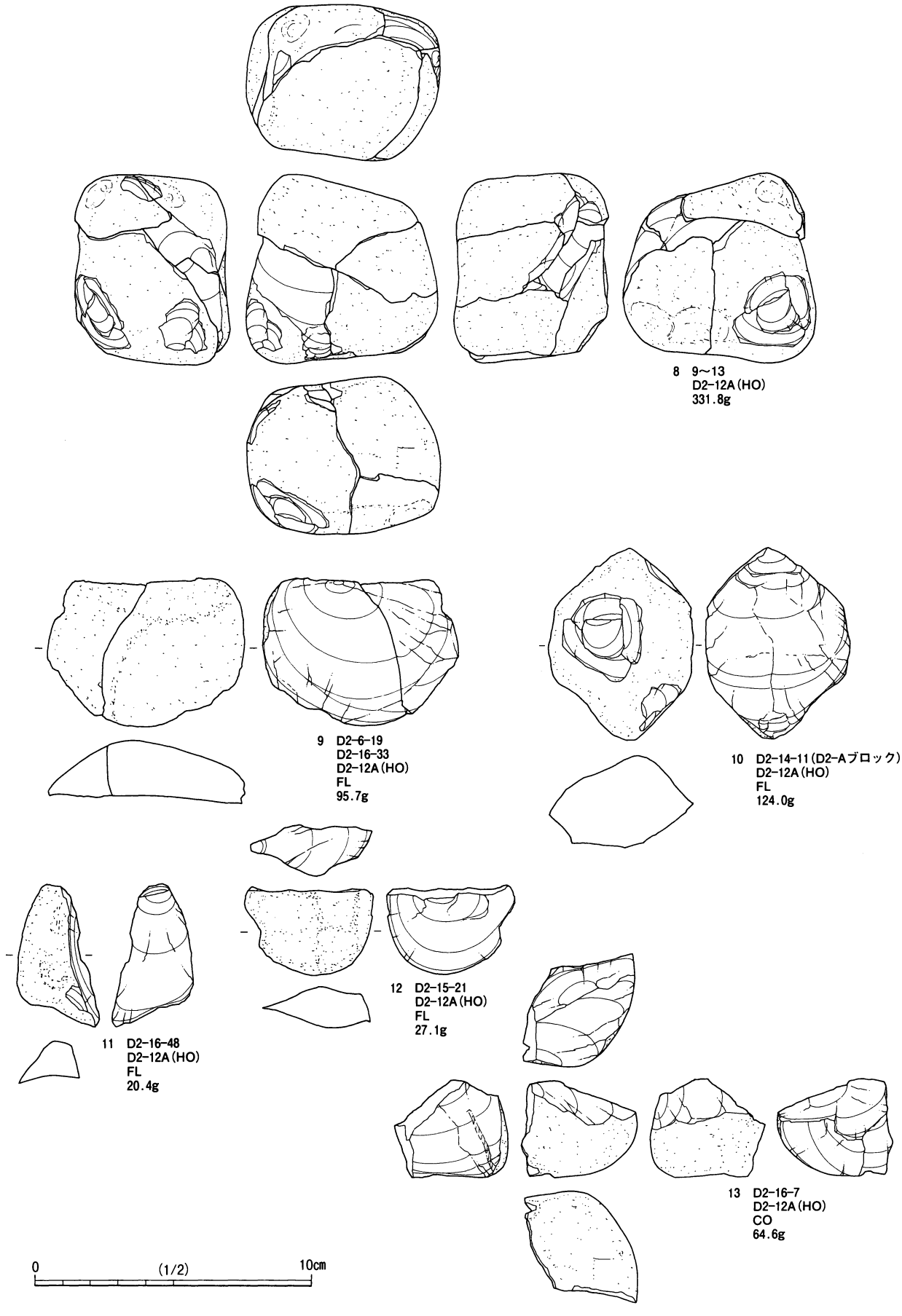
1は嶺岡産頁岩による不定型な剥片である。

4）接合資料とその関連資料（第132図2～7，第133図）

・**D2-14（第132図2～4）**　灰色（5Y5/1）などのホルンフェルスである。剥片2点で構成される。2は剥片2点（3・4）の接合資料である。3→4の順に剥離している。



第132図　D2-Bブロック出土遺物（1）



第133図　Ｄ２-Ｂブロック出土遺物（２）

・**D2-13（第132図５～７）**　灰色（7.5Y4/1）などのホルンフェルスである。剥片３点（２個体）で構成される。５は剥片３点（２個体；６・７）の接合資料である。比較的扁平な礫を素材として，７→６の順に剥離している。６は２点が接合して１個体となる。

・**D2-12（第133図）**　灰色（5Y5/1）などのホルンフェルスである。剥片４点（３個体），石核１点の合計５点（４個体）で構成される。８は剥片５点（４個体；９～12），石核１点（13）の接合資料である。拳大の角礫をチャンク状に分割したものである。９は２点が接合して１個体となる。なお，10はD2-Aブロックから出土している。

第65表　D２-Bブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
D2-5(RH)																		1							1
D2-6(SHC)																		1							1
D2-7(SHD)																		1							1
D2-8(SHD)																		1							1
D2-9(CH)																		1							1
D2-10(CH)																			1						1
D2-11(SL)																		1							1
D2-12(HO)																		4(3)		1					5(4)
D2-13(HO)																		3(2)							3(2)
D2-14(HO)																		2							2
D2-15(HO)																		1	1						2
D2-16(HO)																		1							1
D2-17(HO)																			1						1
合　計																		17(15)	3	1					21(19)

第66表　D２-Bブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
流紋岩(RH)																		1							1
頁岩C(SHC)																		1							1
頁岩D(SHD)																		2							2
チャート(CH)																		1	1						2
粘板岩(SL)																		1							1
ホルンフェルス(HO)																		11(9)	2	1					14(12)
合　計																		17(15)	3	1					21(19)

第67表　D２-Bブロック礫組成表

母　岩	石　材	個数	重量
D2R-2	SA	3	77.2
D2R-3	SA	4	76.6
D2R-4	SA	5	71.8
D2R-5	SA	2	71.2
D2R-6	SA	7	125.1
D2R-7	SA	5	101.8
D2R-8	SA	2	27.6
D2R-9	SA	2	67.1
D2R-10	SA	4	88.7
D2R-11	SA	2	9.8
D2R-12	SA	1	44.9
D2R-13	SA	1	16.4
D2R-14	SA	1	11.5
D2R-15	SA	1	25.0
D2R-16	SA	1	24.6

母　岩	石　材	個数	重量
D2R-17	SA	1	29.9
D2R-18	SA	1	29.3
D2R-19	SA	1	20.9
D2R-20	SA	1	0.8
D2R-21	SA	1	21.4
D2R-22	SA	1	12.4
D2R-23	RH	2	38.1
D2R-24	SH	1	125.8
D2R-25	TU	7	90.0
D2R-26	TU	1	125.8
D2R-27	TU	1	38.7
D2R-28	TU	1	19.9
D2R-29	HO	1	20.9
その他	SA	1	3.0

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	2	38.1
頁岩(SH)	1	125.8
凝灰岩(TU)	10	274.4
砂岩(SA)	48	957.0
ホルンフェルス(HO)	1	20.9
合　計	62	1416.2

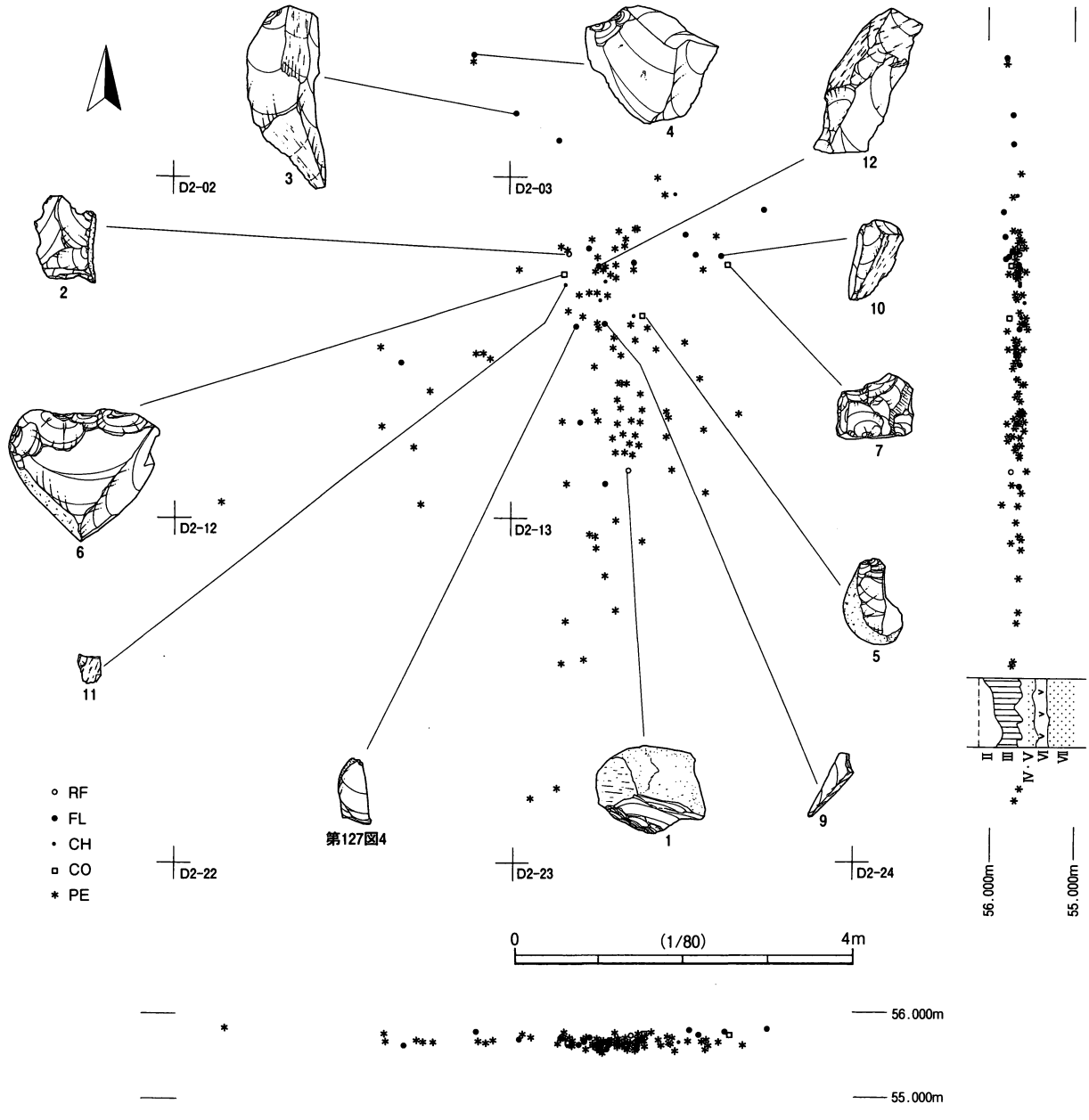
10　D2-Ｃブロック（第134～138図，第68～70表，カラー図版８・13，図版５）

１）ブロックの概要

D2-Ｃブロックは，調査範囲北側のD1-92･93，D2-02･03･13グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は30mである。

ブロックの規模と形状は，長軸９m，短軸７mの範囲に116点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層下部からⅣ・Ⅴ層を中心として，30cmほどの高低差をもって包含されている（第134～137図）。

ブロックは，加工痕ある剥片２点，剥片15点，砕片５点，石核３点の合計25点と礫91点で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ１点，安山岩３点，頁岩Ｃ３点，頁岩Ｅ１点，チャート２点，粘板岩９点，砂岩１点，ホルンフェルス３点，瑪瑙・玉髄２点である。礫石材は，安山岩２点（１母岩；29.3ｇ），流紋岩22点（11母岩；952.8ｇ），凝灰岩18点（５母岩；632.1ｇ），砂岩40点（14母岩；688.2ｇ），ホルンフェルス



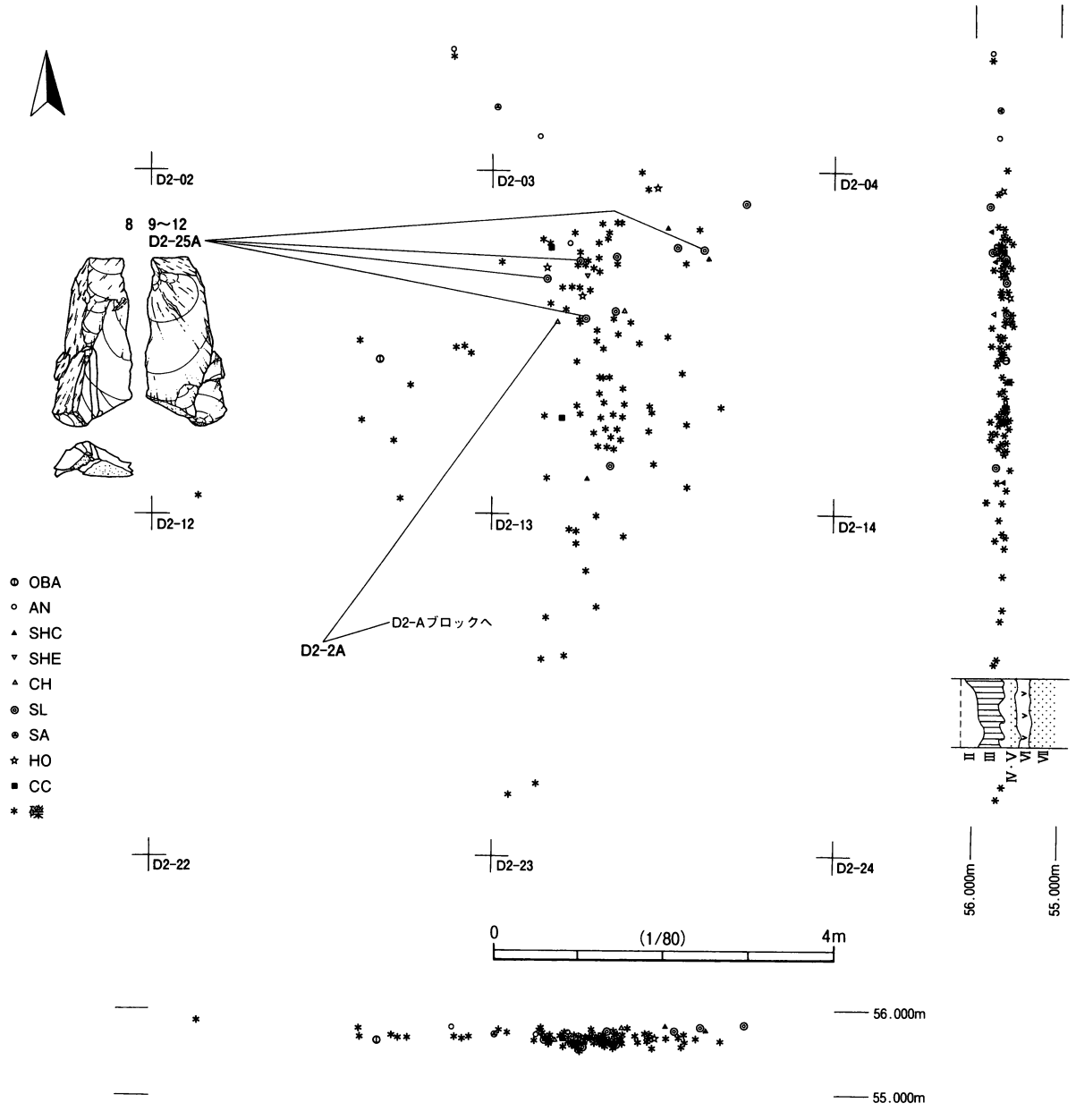
第134図　Ｄ２-Ｃブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－

３点（１母岩；122.4ｇ），識別できなかった流紋岩５点（5.5ｇ）・砂岩１点（0.8ｇ）で，識別率は93%である。

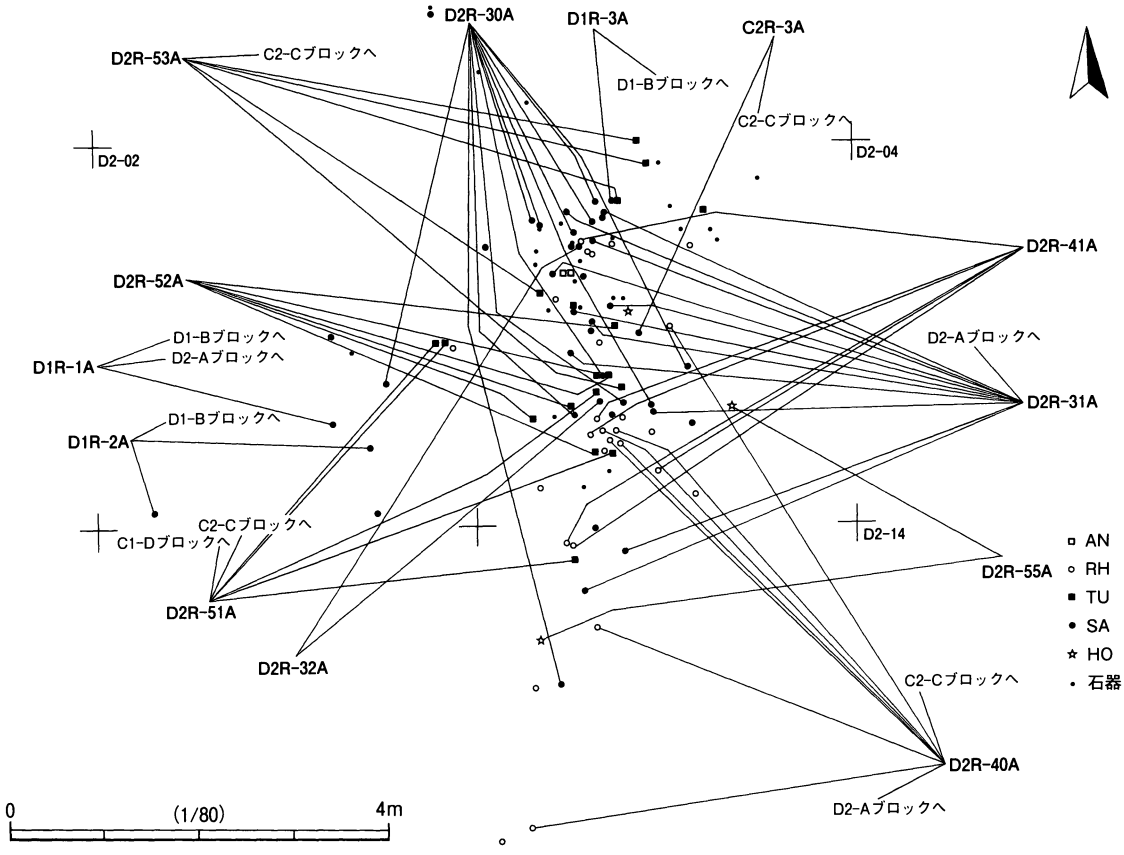
２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは16母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ１母岩（D2-18），安山岩２母岩（D2-19・20），頁岩Ｃ２母岩（D2-21･22），頁岩Ｅ１母岩（D2-23），チャート２母岩（D2-２･24），粘板岩４母岩（D2-11･25～27），砂岩１母岩（D2-28），ホルンフェルス１母岩（D2-29），瑪瑙･玉髄２母岩（D2-30･31）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は88%（22/25点）である。

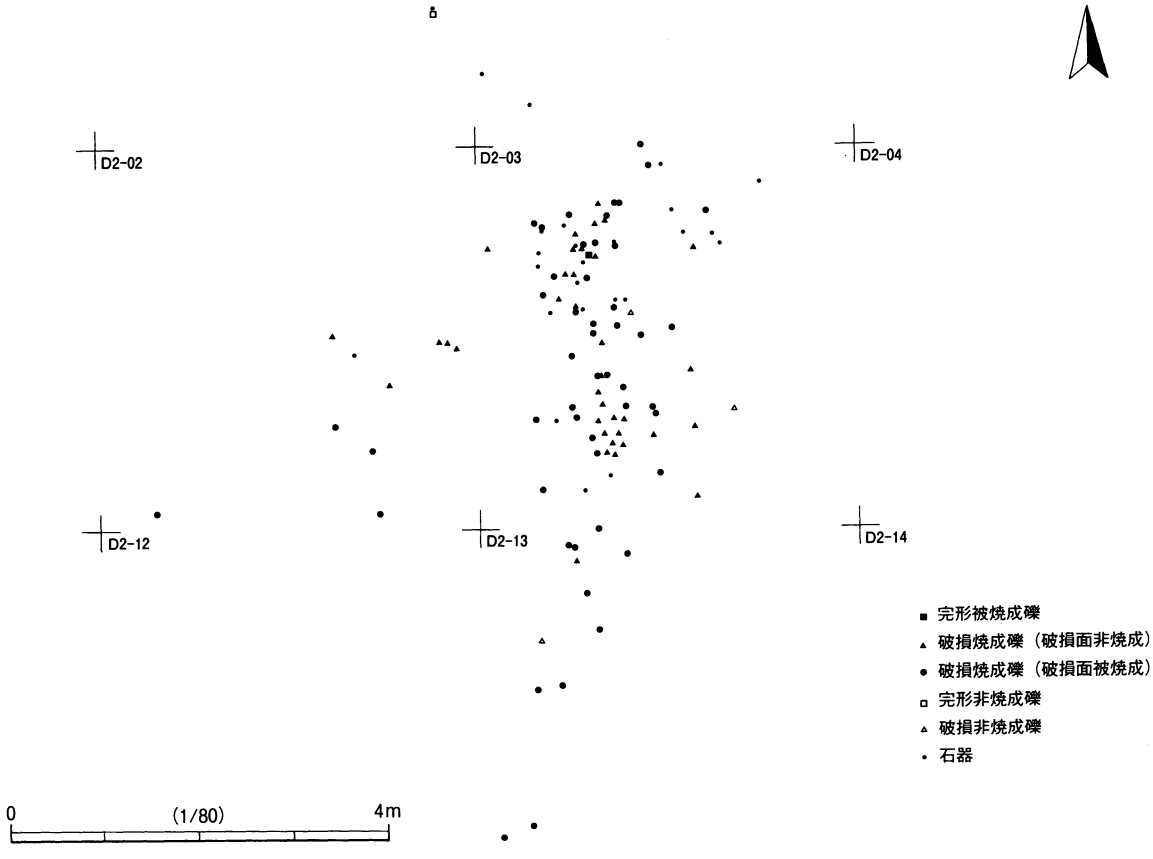
・D2-２：黄灰色（2.5Y4/1）などのチャートである。母岩の特徴はD2-Ａブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（1.7ｇ）の単独資料であるが，D2-Ａブロックの削器１点と接合している。



第135図　Ｄ２-Ｃブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第136図　Ｄ２-Ｃブロック出土遺物分布（３）－礫石材別分布－



第137図　Ｄ２-Ｃブロック出土遺物分布（４）－礫焼成別分布－

・**D2-11**：黄灰色（2.5Y4/1）などの粘板岩である。母岩の特徴はD2-Bブロックに記したとおりである。本ブロックでは加工痕ある剥片１点（15.3ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がD2-Bブロックに１点ある。

・**D2-18**：黒灰色半透明の黒曜石である。φ１㎜ほどの灰色と淡橙色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。剥片１点（1.8ｇ）の単独資料である。

・**D2-19**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点（26.5ｇ）である。

・**D2-20**：自然面は粗い紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰色(5Y4/1)の安山岩である。剥片１点(1.7ｇ）の単独資料である。

・**D2-21**：自然面は比較的平滑で，自然面及び節理はにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は灰オリーブ色（5Y6/2）の嶺岡産頁岩である。石核１点（11.0ｇ）の単独資料である。

・**D2-22**：自然面は比較的平滑でオリーブ褐色（2.5Y4/3），内部は灰オリーブ色（7.5Y5/2）・暗オリーブ灰色（2.5GY4/1），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（5.6ｇ）の単独資料である。

・**D2-23**：にぶい黄褐色（10YR5/3）の頁岩である。砕片１点（0.5ｇ）の単独資料である。

・**D2-24**：自然面は爪形の裂痕が密で，自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y4/2），節理状の内部はにぶい黄褐色(10YR4/3)のチャートであるが，硬質緻密な頁岩あるいは嶺岡産頁岩の可能性もある。石核１点(10.8ｇ）の単独資料である。

・**D2-25**：自然面は平滑で赤褐色（10R4/3），内部は灰色（N4/0）・灰色（7.5Y4/1），節理はにぶい黄橙色（10YR6/3）の粘板岩である。石器群の内訳は，剥片４点，砕片２点の合計６点（18.4ｇ）である。接合資料は，剥片３点，砕片１点の合計４点（17.7ｇ）である。

・**D2-26**：自然面は平滑で灰褐色（7.5YR4/2），内部はオリーブ灰色（2.5GY5/1）の粘板岩である。剥片１点（1.5ｇ）の単独資料である。

・**D2-27**：自然面は平滑で灰色（5Y4/1）・にぶい赤褐色（5YR4/4），内部はオリーブ灰色（5GY5/1）・灰色（N4/0），節理は暗灰黄色（2.5Y5/2）の粘板岩である。剥片１点（5.6ｇ）の単独資料である。なお，D2-25～27は部分的に共通する箇所が見られることから，同一母岩としてまとめるべきであったかもしれない。

・**D2-28**：内部は灰色（5Y6/1）・灰オリーブ色（5Y6/2），節理はにぶい黄色（2.5Y6/3），新鮮な面は褐色（10YR5/1）の砂岩である。剥片１点（19.6ｇ）の単独資料である。

・**D2-29**：自然面は細かい穴が密で灰色（5Y5/1）の地に灰色（5Y6/1）・灰黄褐色（10YR5/2）・黒褐色（10YR3/1）が部分的に混じり，内部は灰色（5Y5/1）の地に灰色（5Y6/1）が部分的に混じるホルンフェルスである。石核１点（56.8ｇ）の単独資料である。

・**D2-30**：自然面は平滑で明赤褐色（5YR5/6），内部は浅黄色（2.5Y7/4）の瑪瑙・玉髄である。加工痕ある剥片１点（5.6ｇ）の単独資料である。

・**D2-31**：浅黄色（2.5Y7/4）の瑪瑙・玉髄である。剥片１点（1.0ｇ）の単独資料である。D2-30と同一母岩の可能性が高い。

なお，母岩分類できなかった資料に，嶺岡産頁岩の剥片１点（0.7ｇ），ホルンフェルスの砕片２点（0.4

ｇ）がある。

３）出土遺物（第138図１～７）

１は粘板岩による加工痕ある剥片である。表面末端と裏面左側縁に調整加工を行っている。２は瑪瑙・玉髄による加工痕ある剥片である。裏面右側縁に鋸歯状の調整加工を行っている。

第68表　Ｄ２-Ｃブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
D2-2(CH)																		1							1
D2-11(SL)										1															1
D2-18(OBA)																		1							1
D2-19(AN)																		2							2
D2-20(AN)																		1							1
D2-21(SHC)																				1					1
D2-22(SHC)																		1							1
D2-23(SHE)																			1						1
D2-24(CH)																				1					1
D2-25(SL)																		4	2						6
D2-26(SL)																		1							1
D2-27(SL)																		1							1
D2-28(SA)																		1							1
D2-29(HO)																				1					1
D2-30(CC)										1															1
D2-31(CC)																		1							1
その他(SHC)																		1							1
その他(HO)																			2						2
合　計										2								15	5	3					25

第69表　Ｄ２-Ｃブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石A(OBA)																		1							1
安山岩(AN)																		3							3
頁岩C(SHC)																		2		1					3
頁岩E(SHE)																			1						1
チャート(CH)																		1		1					2
粘板岩(SL)										1								6	2						9
砂岩(SA)																		1							1
ホルンフェルス(HO)																			2	1					3
瑪瑙・玉髄(CC)										1								1							2
合　計										2								15	5	3					25

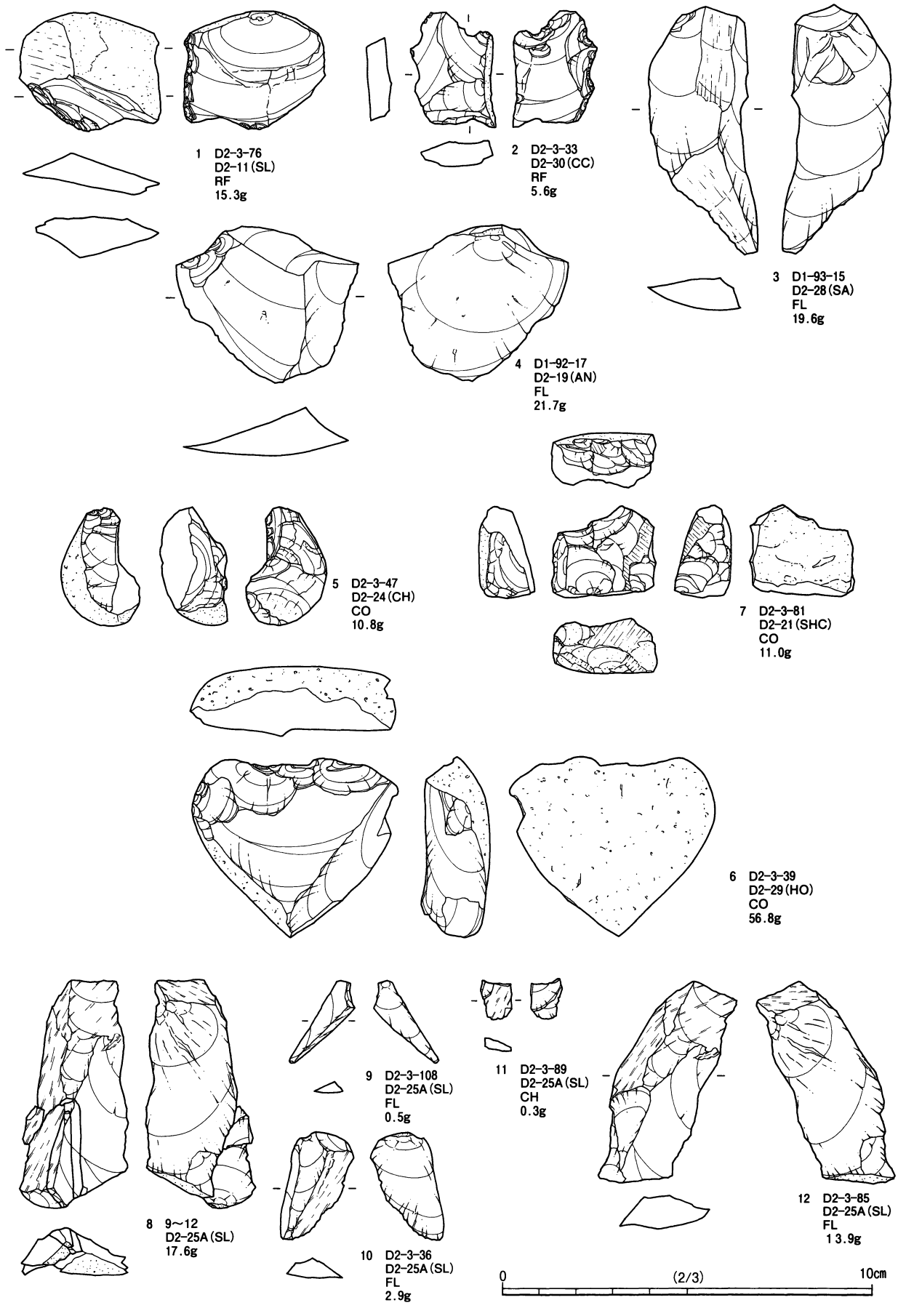
第70表　Ｄ２-Ｃブロック礫組成表

母　岩	石 材	個数	重量
C2R-3	SA	1	18.5
D1R-1	SA	1	62.2
D1R-2	SA	2	33.1
D1R-3	SA	1	12.8
D1R-20	RH	1	30.9
D1R-32	TU	1	3.7
D2R-30	SA	13	233.7
D2R-31	SA	12	156.0
D2R-32	SA	2	34.4
D2R-33	SA	1	57.1
D2R-34	SA	2	5.3
D2R-35	SA	1	11.8
D2R-36	SA	1	30.5
D2R-37	SA	1	21.2
D2R-38	SA	1	5.1

母　岩	石 材	個数	重量
D2R-39	SA	1	6.5
D2R-40	RH	7	182.0
D2R-41	RH	6	111.8
D2R-42	RH	1	63.2
D2R-43	RH	1	137.5
D2R-44	RH	1	135.3
D2R-45	RH	1	36.0
D2R-46	RH	1	226.2
D2R-47	RH	1	7.0
D2R-48	RH	1	7.4
D2R-49	RH	1	15.5
D2R-50	AN	2	29.3
D2R-51	TU	5	225.1
D2R-52	TU	6	238.6
D2R-53	TU	5	64.9

母　岩	石 材	個数	重量
D2R-54	TU	1	99.8
D2R-55	HO	3	122.4
その他	RH	5	5.5
その他	SA	1	0.8

石　材	個数	重量
安山岩(AN)	2	29.3
流紋岩(RH)	27	958.3
凝灰岩(TU)	18	632.1
砂岩(SA)	41	689.0
ホルンフェルス(HO)	3	122.4
合　計	91	2431.1



第138図　Ｄ２-Cブロック出土遺物

３は砂岩による石刃状の縦長剥片である。４は安山岩による不定型な剥片である。

５はチャート，６はホルンフェルス，７は嶺岡産頁岩による石核である。５・６は打面と作業面を入れ替えながら，小型で不定型な剥片を剥離している。７は90度の打面転移を行いながら，小型で不定型な剥片を剥離している。

４）接合資料とその関連資料（第138図８～12）

・D2-25（第138図８～12）　灰色（N4/0）などの粘板岩である。剥片４点，砕片２点の合計６点で構成される。８は剥片３点（９・10・12），砕片１点（11）の接合資料である。９→10→11の順に上方向から剥離した後，180度打面を転移して12を剥離している。９・10は小型な石刃状の縦長剥片，12は石刃状の縦長剥片である。

11　E6-Aブロック（第139～143図，第71～73表，カラー図版８，図版６）

１）ブロックの概要

E6-Aブロックは，調査範囲南側のE6-31・32・41～43・51～53グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地のほぼ中央で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は10mである。

ブロックの規模と形状は，長軸９m，短軸７mの範囲に142点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅣ・Ⅴ層にかけて，50cmほどの高低差をもって包含されている（第139～142図）。

ブロックは，加工痕ある剥片２点，剥片10点，石核１点の合計13点と礫129点で構成される。石器石材は，安山岩１点，頁岩Ｃ６点，頁岩Ｄ２点，頁岩Ｅ１点，チャート２点，瑪瑙・玉髄１点である。礫石材は，流紋岩18点（11母岩；302.6ｇ），チャート16点（10母岩；264.5ｇ），凝灰岩18点（11母岩；532.2ｇ），砂岩40点（26母岩；1,128.6ｇ），ホルンフェルス６点（４母岩；213.5ｇ），花崗岩１点（１母岩；72.5ｇ），識別できなかった流紋岩３点（2.4ｇ）・凝灰岩16点（590.9ｇ）・砂岩11点（42.0ｇ）で，識別率は77％である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは８母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（E6-１），頁岩Ｃ１母岩（E6-２），頁岩Ｄ２母岩（E6-３・４），頁岩Ｅ１母岩（E6-５），チャート２母岩（E6-６・７），瑪瑙・玉髄１母岩（E6-８）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（13/13点）である。

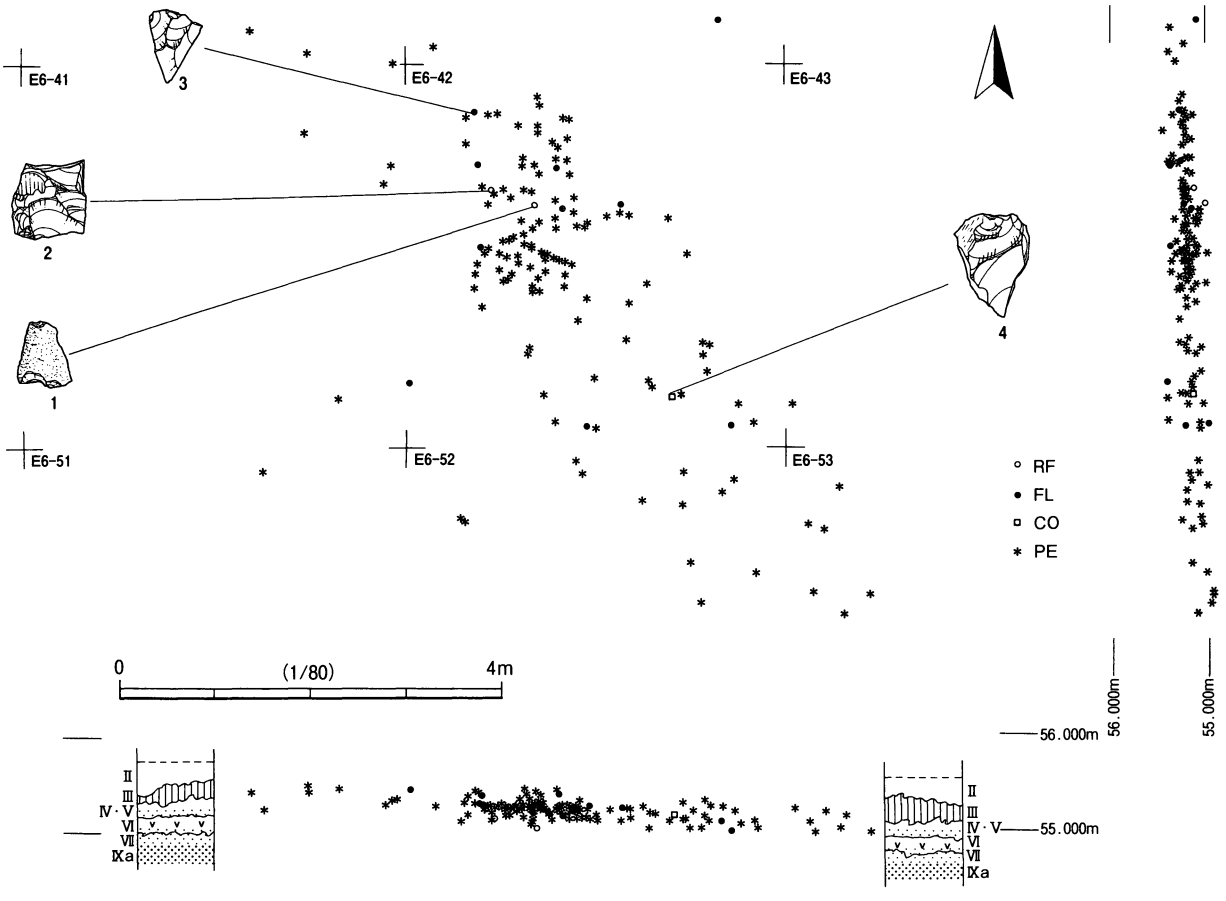
・E6-１：自然面は爪形の裂痕が粗で，自然面及び内部は黒褐色（10YR3/2）の安山岩である。加工痕ある剥片１点（2.1ｇ）の単独資料である。

・E6-２：自然面は比較的平滑で，自然面及び節理は褐色（7.5YR4/4），内部はにぶい黄褐色（10YR5/4）の地に灰オリーブ色（5Y5/3）・褐灰色（10YR4/1）・暗オリーブ灰色（5GY3/1）が混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片５点の合計６点（28.1ｇ）である。

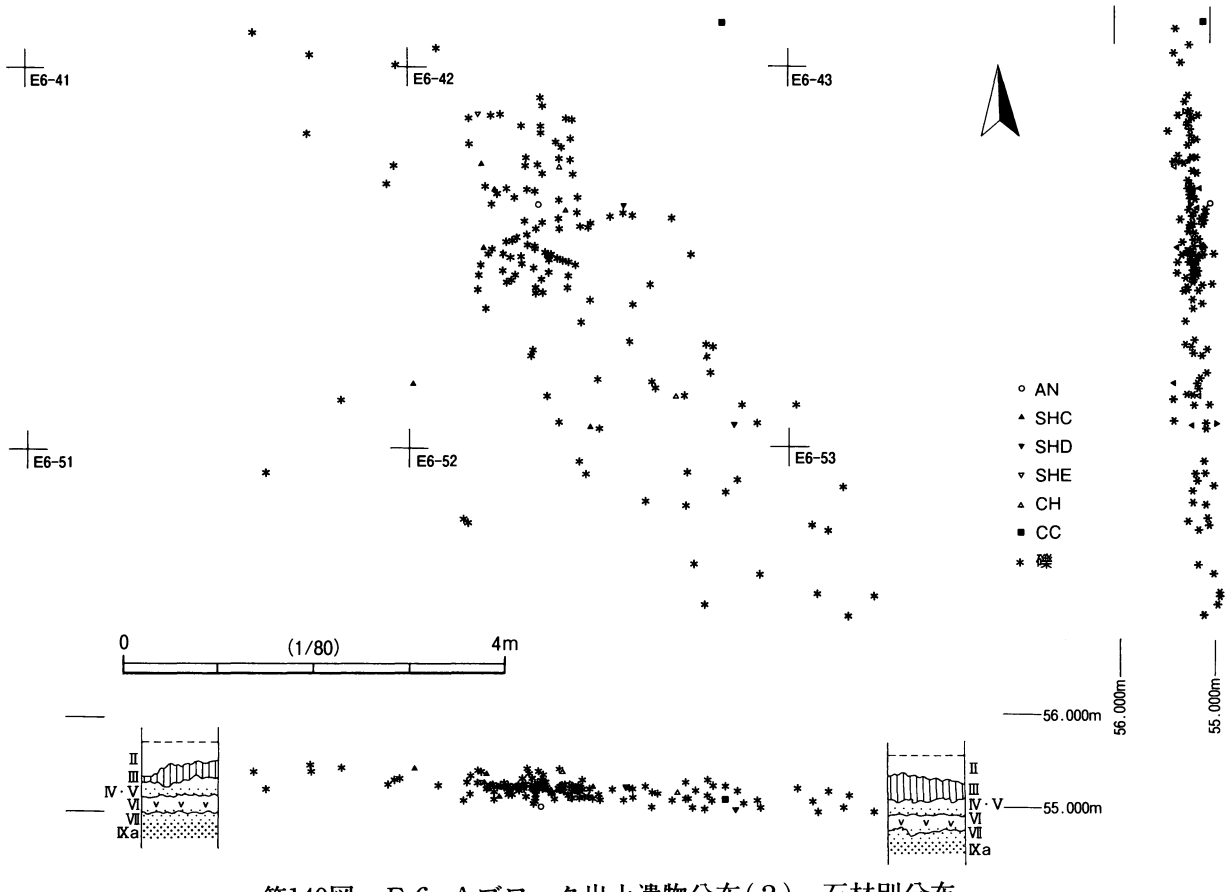
・E6-３：自然面は比較的平滑で黄褐色（2.5Y5/4），内部は灰色（5Y5/1）の硬質緻密な頁岩であるが，嶺岡産頁岩の可能性もある。剥片１点（2.6ｇ）の単独資料である。

・E6-４：自然面は平滑で灰色（5Y4/1），内部は灰色（5Y4/1）・褐色（7.5YR4/3）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（0.7ｇ）の単独資料である。

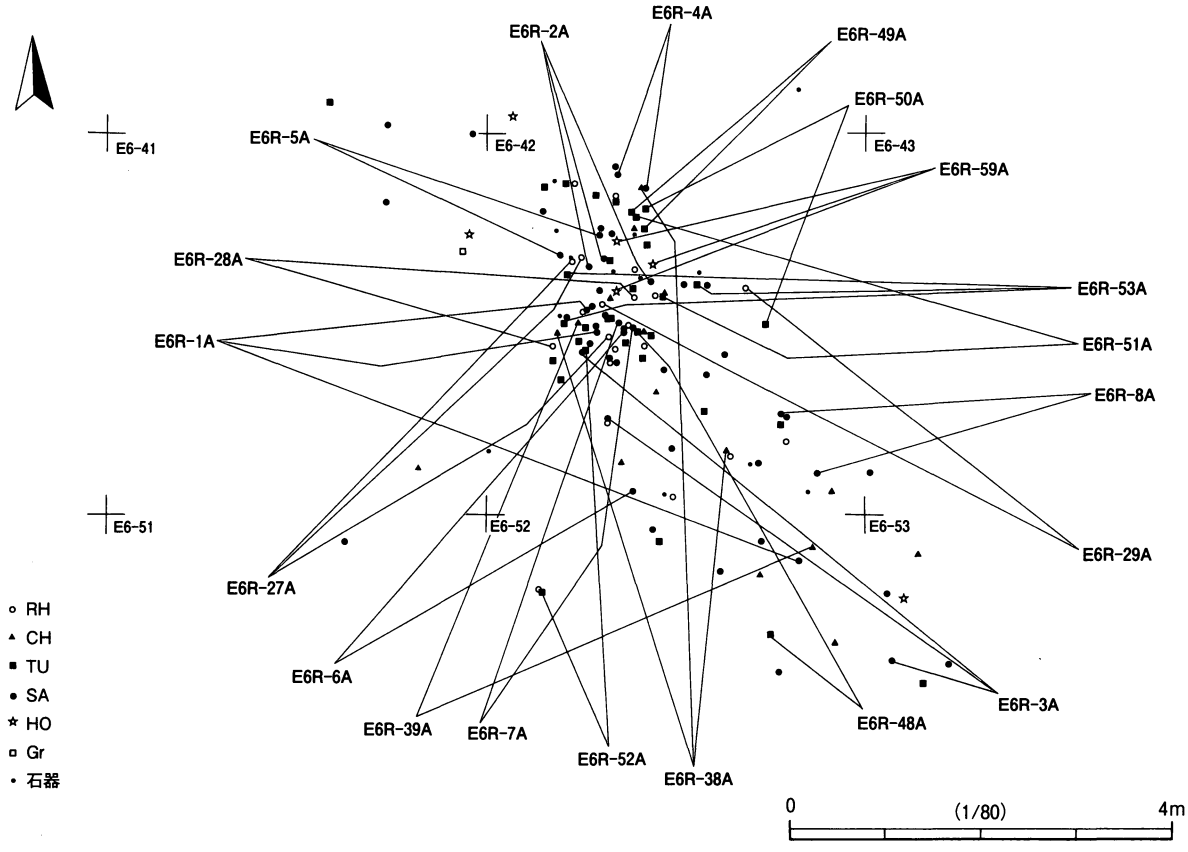
・E6-５：灰黄色（2.5Y6/2）の頁岩であるが，流紋岩の可能性もある。剥片１点（2.4ｇ）の単独資料である。



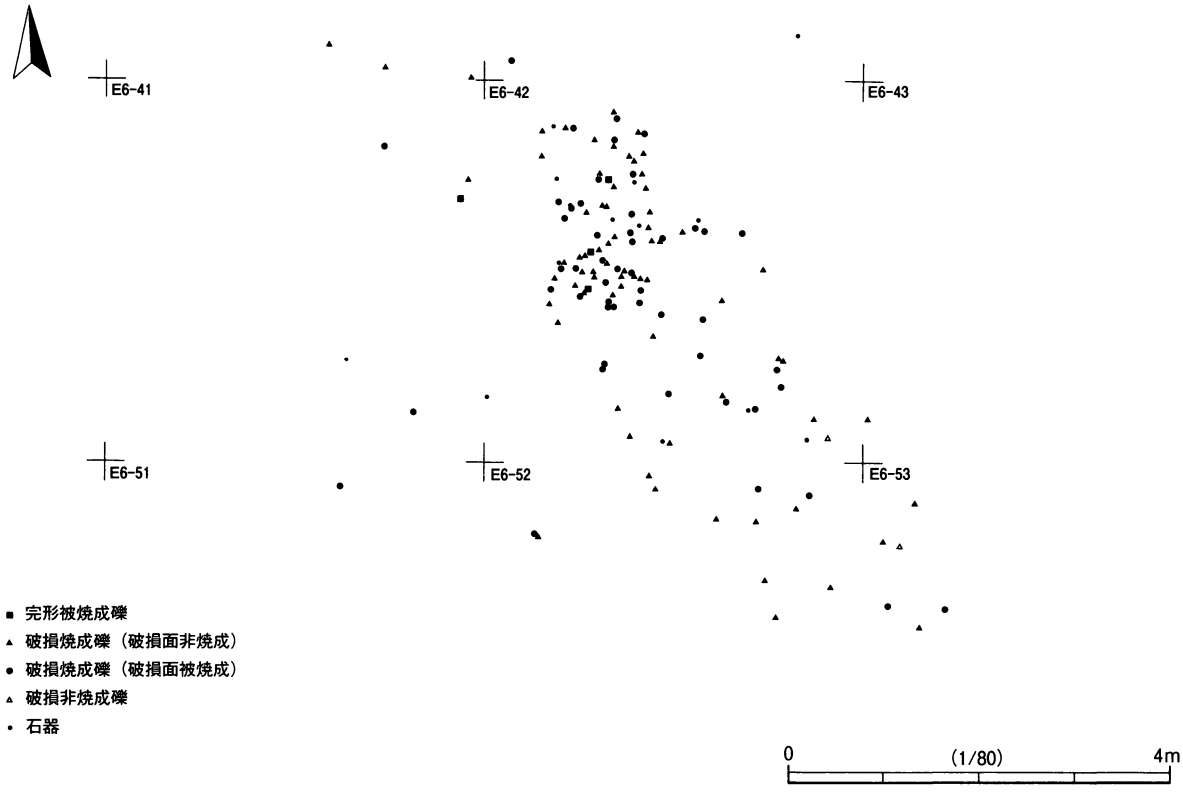
第139図　Ｅ６-Aブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第140図　Ｅ６-Aブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第141図　Ｅ６-Ａブロック出土遺物分布（３）－礫石材別分布－

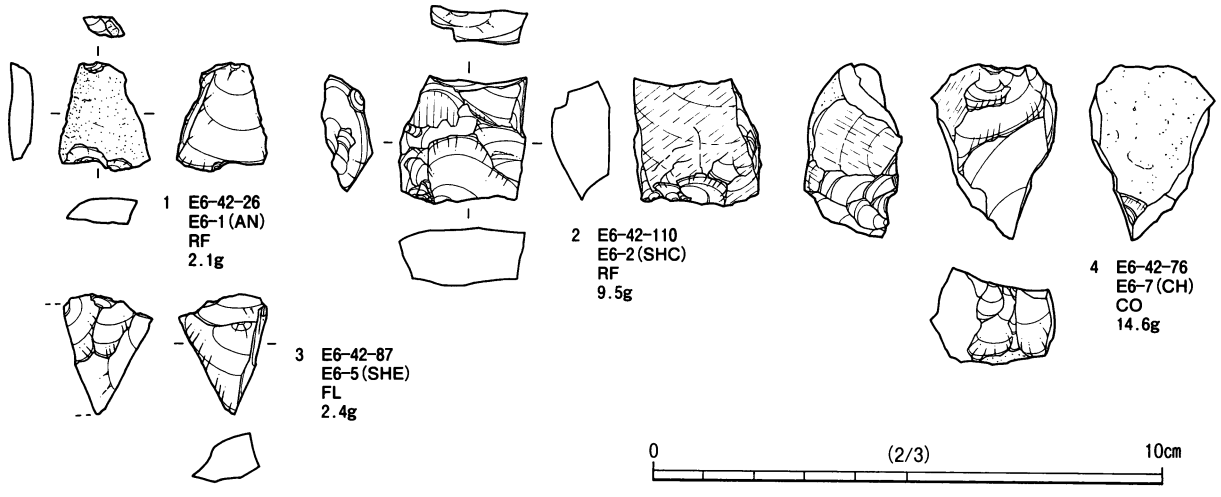


第142図　Ｅ６-Ａブロック出土遺物分布（４）－礫焼成別分布－

・E6-６：自然面は爪形の裂痕が粗で，自然面及び節理は灰黄褐色（10YR4/2），内部はオリーブ灰色（2.5GY5/1）の地に黒色の筋が入るチャートであるが，嶺岡産頁岩の可能性もある。剥片１点（4.8ｇ）の単独資料である。

・E6-７：自然面は比較的平滑で，自然面及び節理は暗赤色（10R3/4），内部は暗赤褐色（10R3/2）の地に暗オリーブ灰色（5GY3/1）が部分的に混じるチャートであるが，硬質緻密な頁岩あるいは嶺岡産頁岩の可能性もある。石核１点（14.6ｇ）の単独資料である。

・E6-８：浅黄色（2.5Y7/4）の瑪瑙・玉髄である。剥片１点（1.6ｇ）の単独資料である。



第143図　Ｅ６-Aブロック出土遺物

第71表　Ｅ６-Aブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
E6-1(AN)										1															1
E6-2(SHC)										1								5							6
E6-3(SHD)																		1							1
E6-4(SHD)																		1							1
E6-5(SHE)																		1							1
E6-6(CH)																		1							1
E6-7(CH)																				1					1
E6-8(CC)																		1							1
合　計										2								10		1					13

第72表　Ｅ６-Aブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
安山岩(AN)										1															1
頁岩C(SHC)										1								5							6
頁岩D(SHD)																		2							2
頁岩E(SHE)																		1							1
チャート(CH)																		1		1					2
瑪瑙・玉髄(CC)																		1							1
合　計										2								10		1					13

第73表　Ｅ６-Ａブロック礫組成表

母　岩	石 材	個数	重量
E6R-1	SA	3	82.9
E6R-2	SA	3	59.0
E6R-3	SA	3	59.1
E6R-4	SA	2	113.7
E6R-5	SA	2	30.9
E6R-6	SA	5	84.2
E6R-7	SA	2	24.5
E6R-8	SA	2	11.5
E6R-9	SA	1	254.5
E6R-10	SA	1	130.5
E6R-11	SA	1	62.9
E6R-12	SA	1	14.5
E6R-13	SA	1	21.2
E6R-14	SA	1	21.7
E6R-15	SA	1	24.0
E6R-16	SA	1	35.6
E6R-17	SA	1	24.0
E6R-18	SA	1	18.6
E6R-19	SA	1	10.1
E6R-20	SA	1	7.8
E6R-21	SA	1	10.7
E6R-22	SA	1	3.6
E6R-23	SA	1	4.1
E6R-24	SA	1	9.9
E6R-25	SA	1	5.7

母　岩	石 材	個数	重量
E6R-26	SA	1	3.4
E6R-27	RH	6	77.1
E6R-28	RH	2	21.9
E6R-29	RH	2	37.3
E6R-30	RH	1	54.8
E6R-31	RH	1	28.5
E6R-32	RH	1	38.2
E6R-33	RH	1	19.4
E6R-34	RH	1	10.9
E6R-35	RH	1	6.9
E6R-36	RH	1	5.2
E6R-37	RH	1	2.4
E6R-38	CH	6	62.7
E6R-39	CH	2	26.7
E6R-40	CH	1	81.7
E6R-41	CH	1	30.3
E6R-42	CH	1	29.8
E6R-43	CH	1	9.6
E6R-44	CH	1	5.1
E6R-45	CH	1	7.5
E6R-46	CH	1	5.6
E6R-47	CH	1	5.5
E6R-48	TU	2	77.8
E6R-49	TU	2	60.4
E6R-50	TU	2	101.4

母　岩	石 材	個数	重量
E6R-51	TU	2	34.0
E6R-52	TU	2	57.7
E6R-53	TU	3	76.5
E6R-54	TU	1	52.5
E6R-55	TU	1	31.6
E6R-56	TU	1	12.6
E6R-57	TU	1	19.4
E6R-58	TU	1	8.3
E6R-59	HO	3	66.1
E6R-60	HO	1	99.8
E6R-61	HO	1	30.4
E6R-62	HO	1	17.2
E6R-63	GR	1	72.5
その他	RH	3	2.4
その他	TU	16	590.9
その他	SA	11	42.0

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	21	305.0
チャート(CH)	16	264.5
凝灰岩(TU)	34	1123.1
砂岩(SA)	51	1170.6
ホルンフェルス(HO)	6	213.5
その他(GR)	1	72.5
合　計	129	3149.2

３）出土遺物（第143図）

１は安山岩による加工痕ある剥片である。末端に調整加工を行っている。２は嶺岡産頁岩による加工痕ある剥片である。裏面末端に調整加工を行っている。

３は頁岩による剥片である。

４はチャートによる石核である。90度の打面転移を行いながら，小型で不定型な剥片を剥離している。

12　D7-Aブロック（第144～148図，第74～76表，カラー図版９，図版６）

１）ブロックの概要

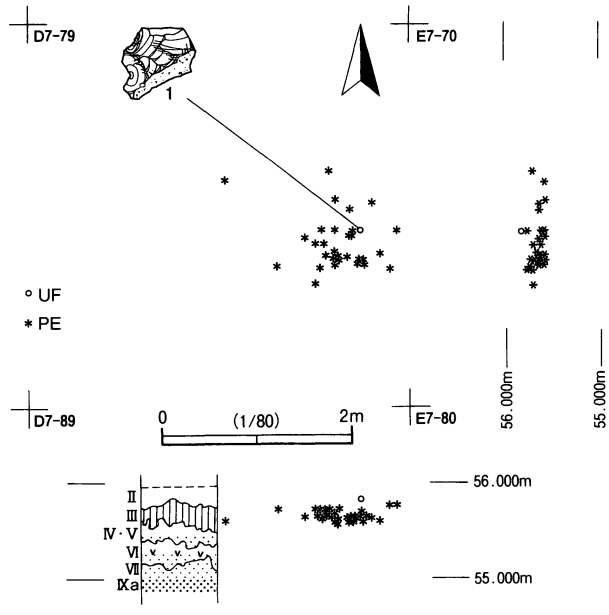
D7-Aブロックは，調査範囲南側のD7-79グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸２m，短軸１mの範囲に31点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層を中心として，30cmほどの高低差をもって包含されている（第144～147図）。

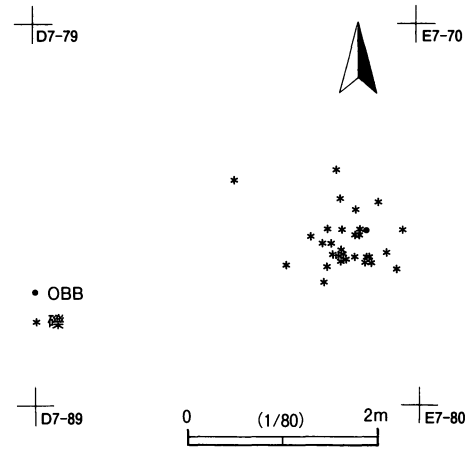
ブロックは，使用痕ある剥片１点と礫30点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ１点である。礫石材は，流紋岩８点（５母岩；200.5ｇ），チャート９点（５母岩；163.5ｇ），凝灰岩１点（１母岩；100.7ｇ），砂岩12点（７母岩；282.2ｇ）で，識別率は100％である。

２）母岩の特徴と内容

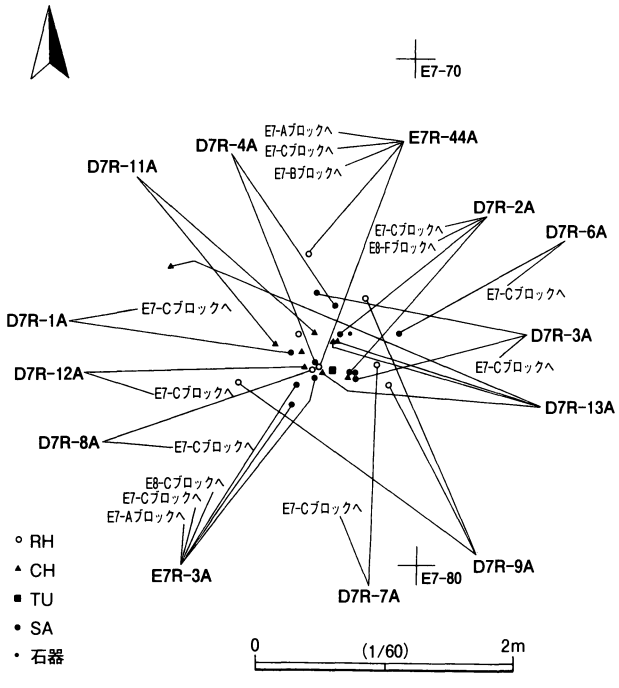
本ブロックでは１母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ１母岩（D7-１）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（1/1点）である。



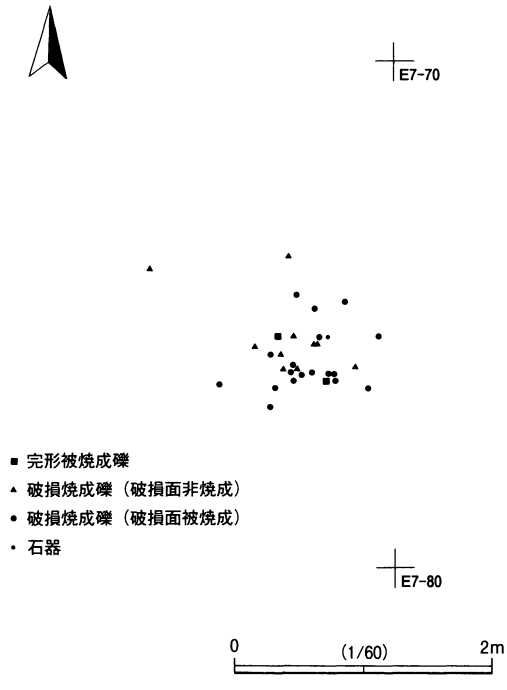
第144図　Ｄ７-Aブロック出土遺物分布（１）
－石器別分布－



第145図　Ｄ７-Aブロック出土遺物分布（２）
－石材別分布－



第146図　Ｄ７-Aブロック出土遺物分布（３）
－礫石材別分布－

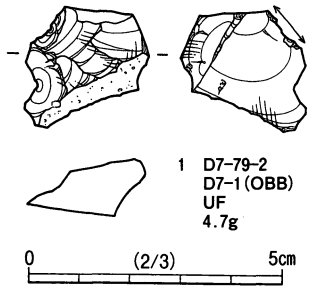


第147図　Ｄ７-Aブロック出土遺物分布（４）
－礫焼成別分布－

・**D7-１**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの黄白色の夾雑物を含む。信州和田峠峠産と考えられる。使用痕ある剥片１点（4.7ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第148図）

１は信州和田峠周辺産の黒曜石による使用痕ある剥片である。裏面右側縁の上部に微細な剥離痕が見られるが，偶発的な剥離痕の可能性もある。むしろ表面左側縁の比較的大きな剥離痕が主要剥離面を切っている可能性が高く，加工痕ある剥片あるいは石核とした方が良いかもしれない。



第148図　Ｄ７-Ａブロック出土遺物

第74表　Ｄ７-Ａブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
D7-1(OBB)											1														1
合　計											1														1

第75表　Ｄ７-Ａブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)											1														1
合　計											1														1

第76表　Ｄ７-Ａブロック礫組成表

母　岩	石　材	個数	重量
D7R-1	SA	1	63.1
D7R-2	SA	2	33.5
D7R-3	SA	2	37.4
D7R-4	SA	2	67.9
D7R-5	SA	1	35.8
D7R-6	SA	1	6.1
D7R-7	RH	1	51.2
D7R-8	RH	1	50.7
D7R-9	RH	3	38.6
D7R-10	RH	1	30.7

母　岩	石　材	個数	重量
D7R-11	CH	2	33.3
D7R-12	CH	1	23.7
D7R-13	CH	4	26.3
D7R-14	CH	1	41.9
D7R-15	CH	1	38.3
D7R-17	TU	1	100.7
E7R-3	SA	3	38.4
E7R-44	RH	2	29.3

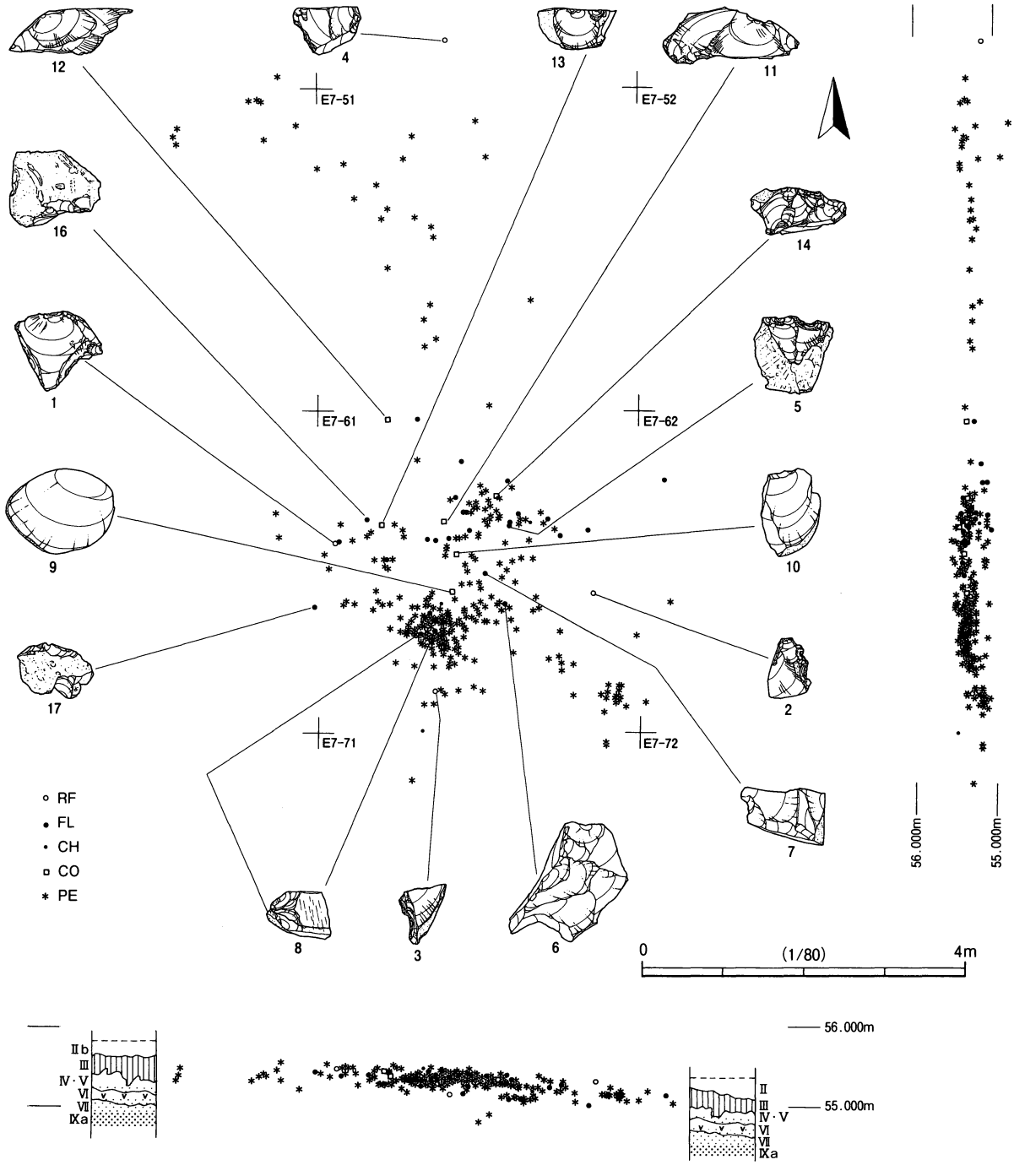
石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	8	200.5
チャート(CH)	9	163.5
凝灰岩(TU)	1	100.7
砂岩(SA)	12	282.2
合　計	30	746.9

13　E7-Aブロック（第149～157図，第77～79表，カラー図版９・13，図版６）

１）ブロックの概要

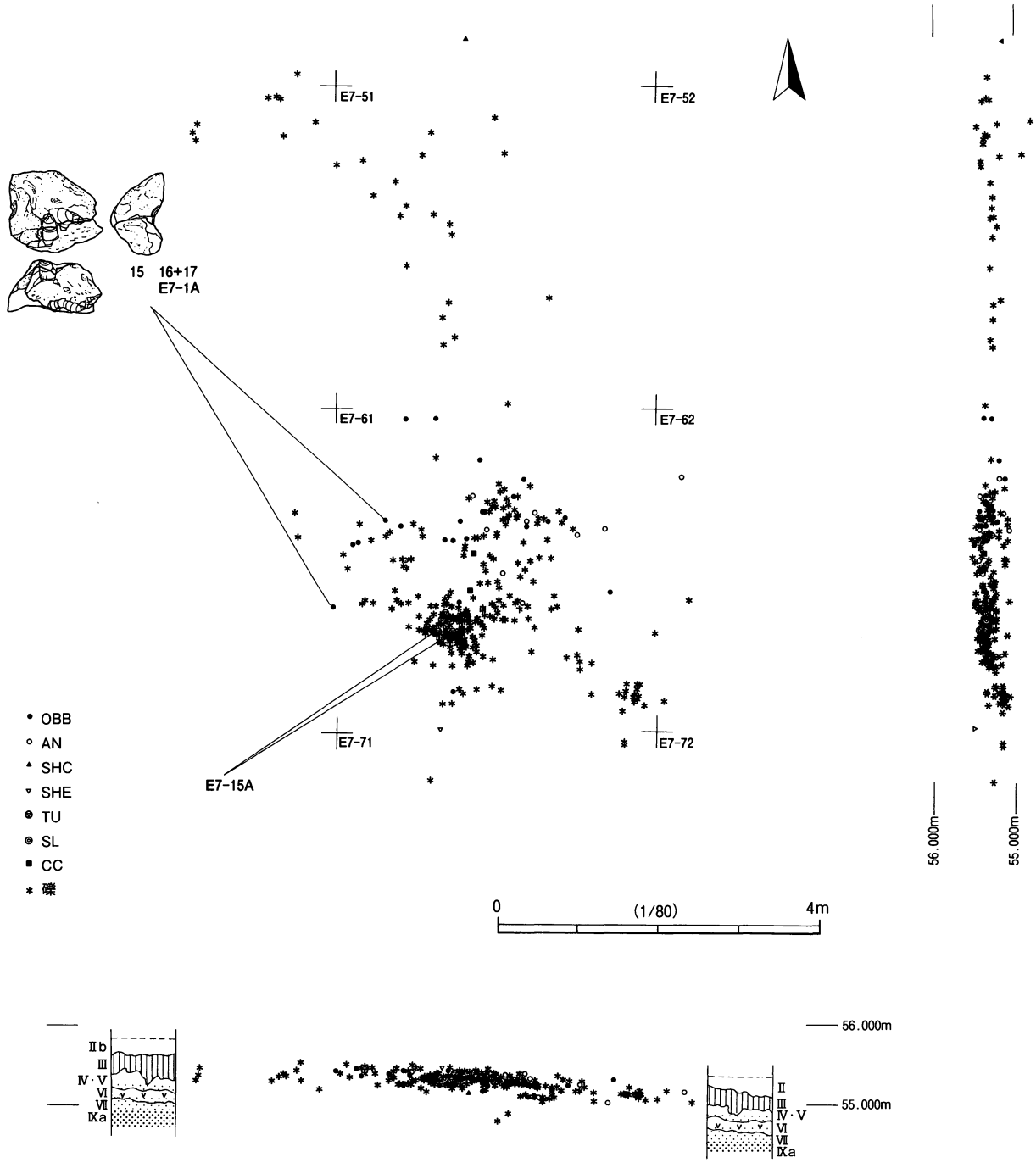
E7-Aブロックは，調査範囲南側のE7-40・41・50・51・60～62・71グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は10mである。

ブロックの規模と形状は，長軸10m，短軸５mの範囲に324点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅤ層下部にかけて，70cmほどの高低差をもっているが，中心はⅢ層で40cmほどの高低差をもって包含されている（第149～155図）。

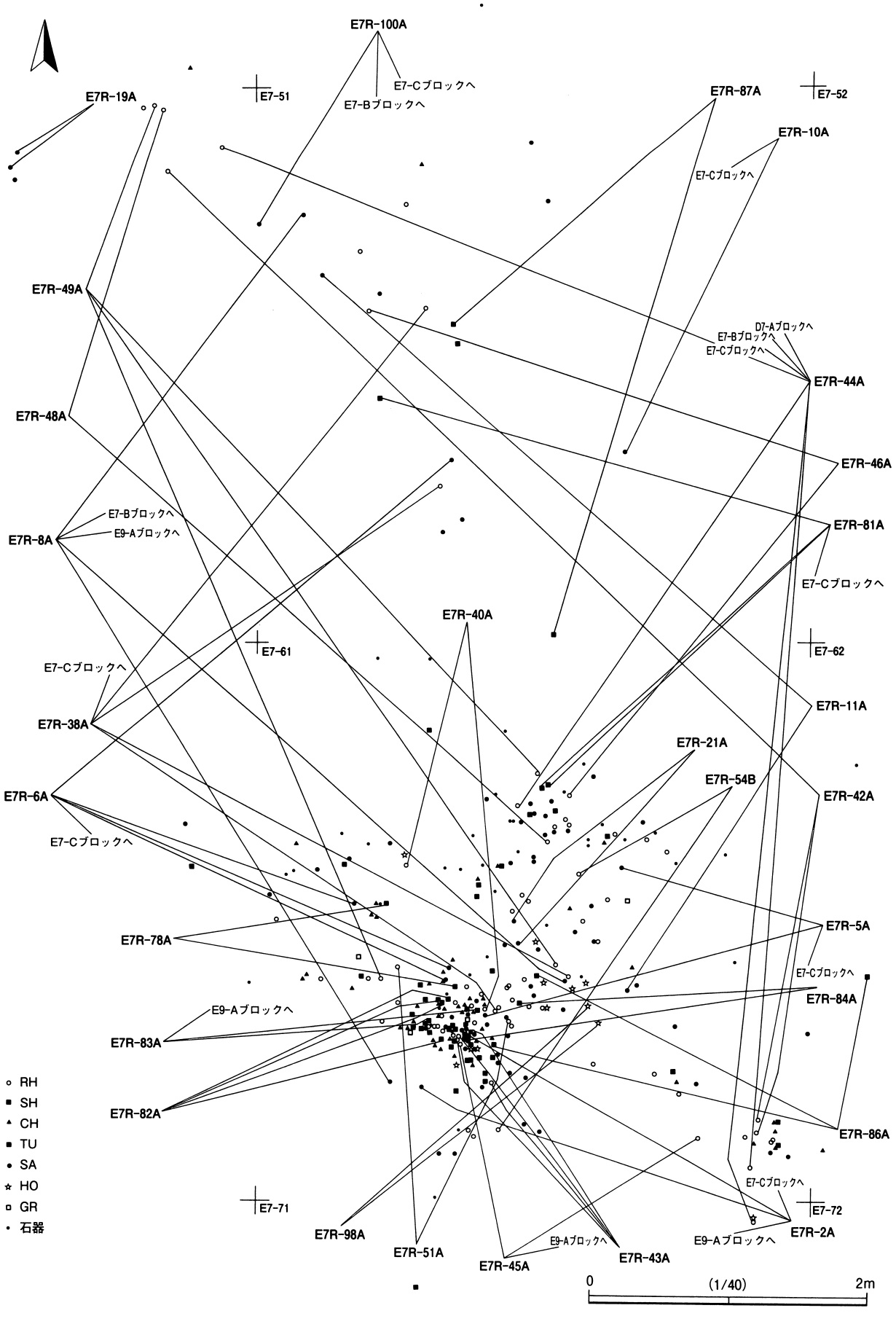


第149図　Ｅ７-Aブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－

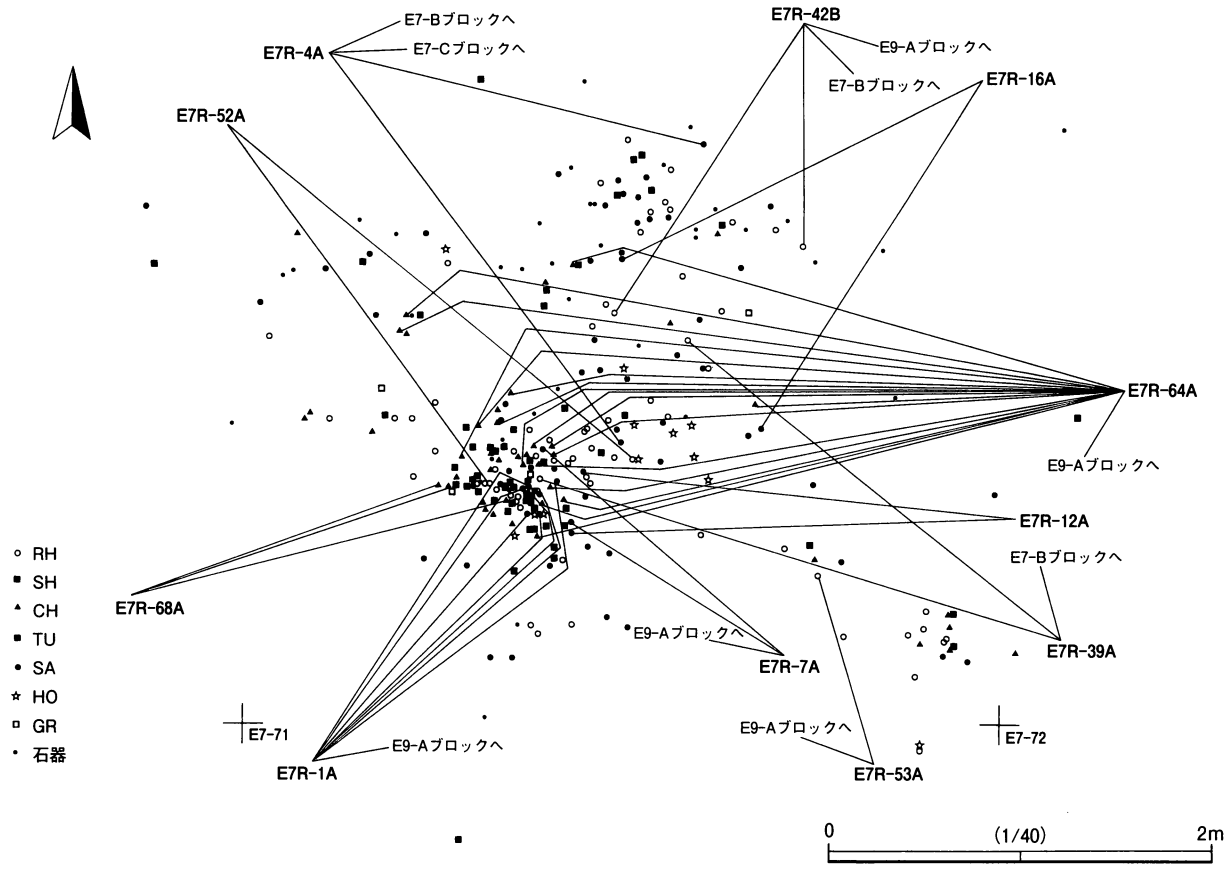
ブロックは，加工痕ある剥片４点，剥片26点（25個体），砕片４点，石核６点の合計40点（39個体）と礫284点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ22点，安山岩10点，頁岩Ｃ１点，頁岩Ｅ１点，凝灰岩３点（２個体），粘板岩１点，瑪瑙・玉髄２点である。礫石材は，流紋岩69点（26母岩；2,785.8ｇ），頁岩４点（３母岩；60.1ｇ），チャート45点（14母岩；1,491.4ｇ），凝灰岩43点（16母岩；1,378.1ｇ），砂岩66点（39母岩；2,208.3ｇ），ホルンフェルス12点（４母岩；135.5ｇ），花崗岩２点（１母岩；111.9ｇ），識別できなかった流紋岩11点（26.5ｇ）・チャート２点（1.2ｇ）・凝灰岩12点（8.1ｇ）・砂岩16点（95.8ｇ）・花崗岩２点（0.7



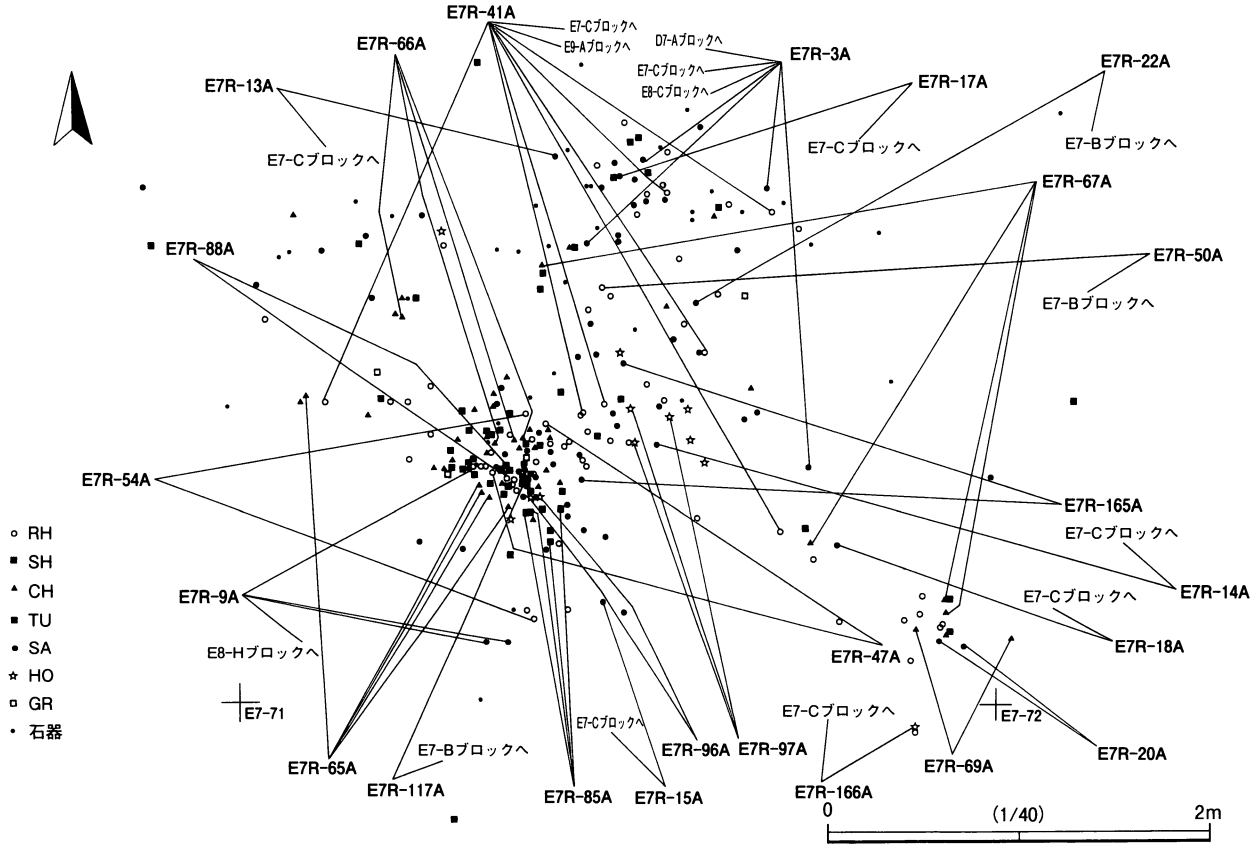
第150図　Ｅ７－Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



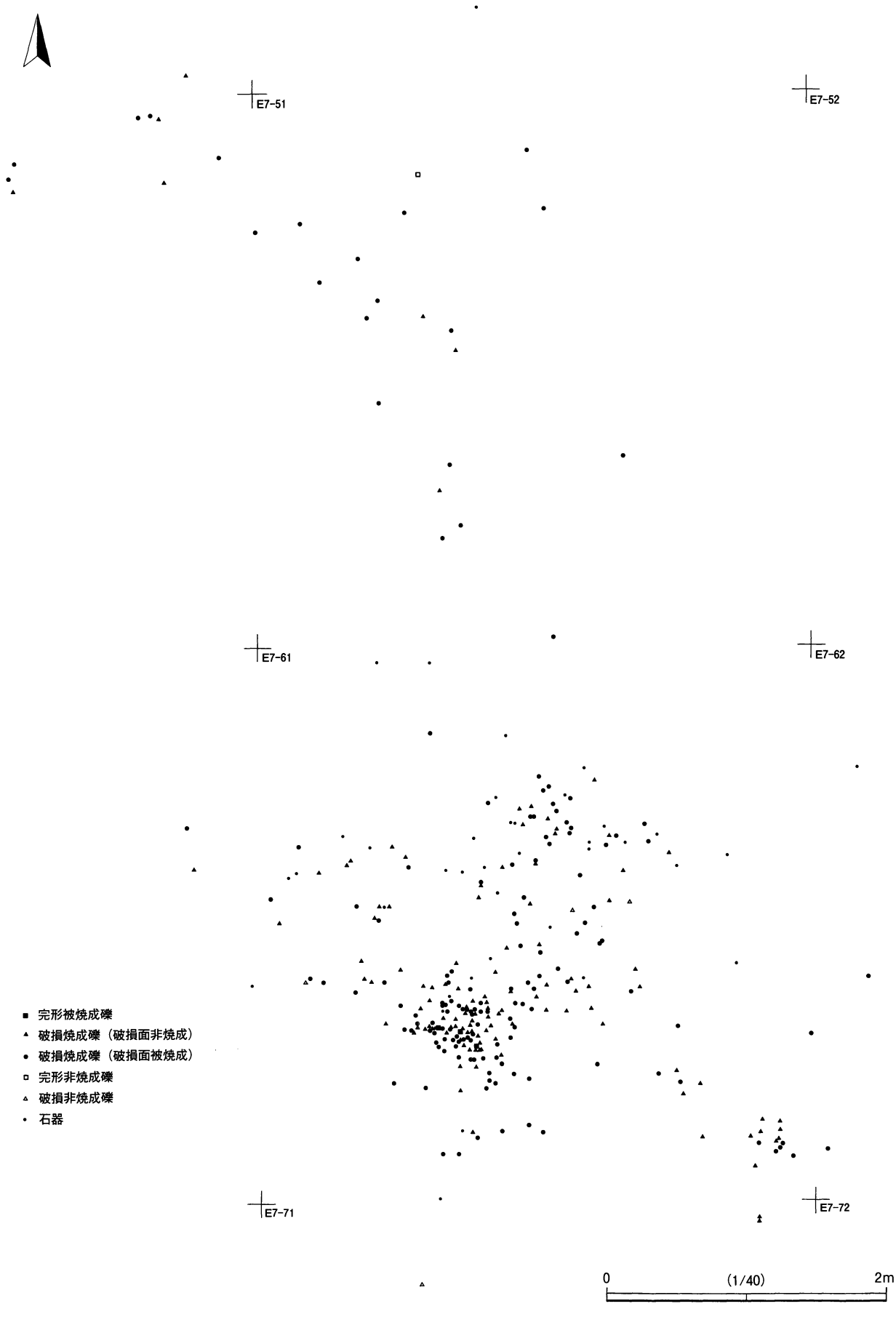
第151図　Ｅ７-Ａブロック出土遺物分布(３)－礫石材別分布(１)－



第152図　Ｅ７-Ａブロック出土遺物分布（４）－礫石材別分布（２）－



第153図　Ｅ７-Ａブロック出土遺物分布（５）－礫石材別分布（３）－



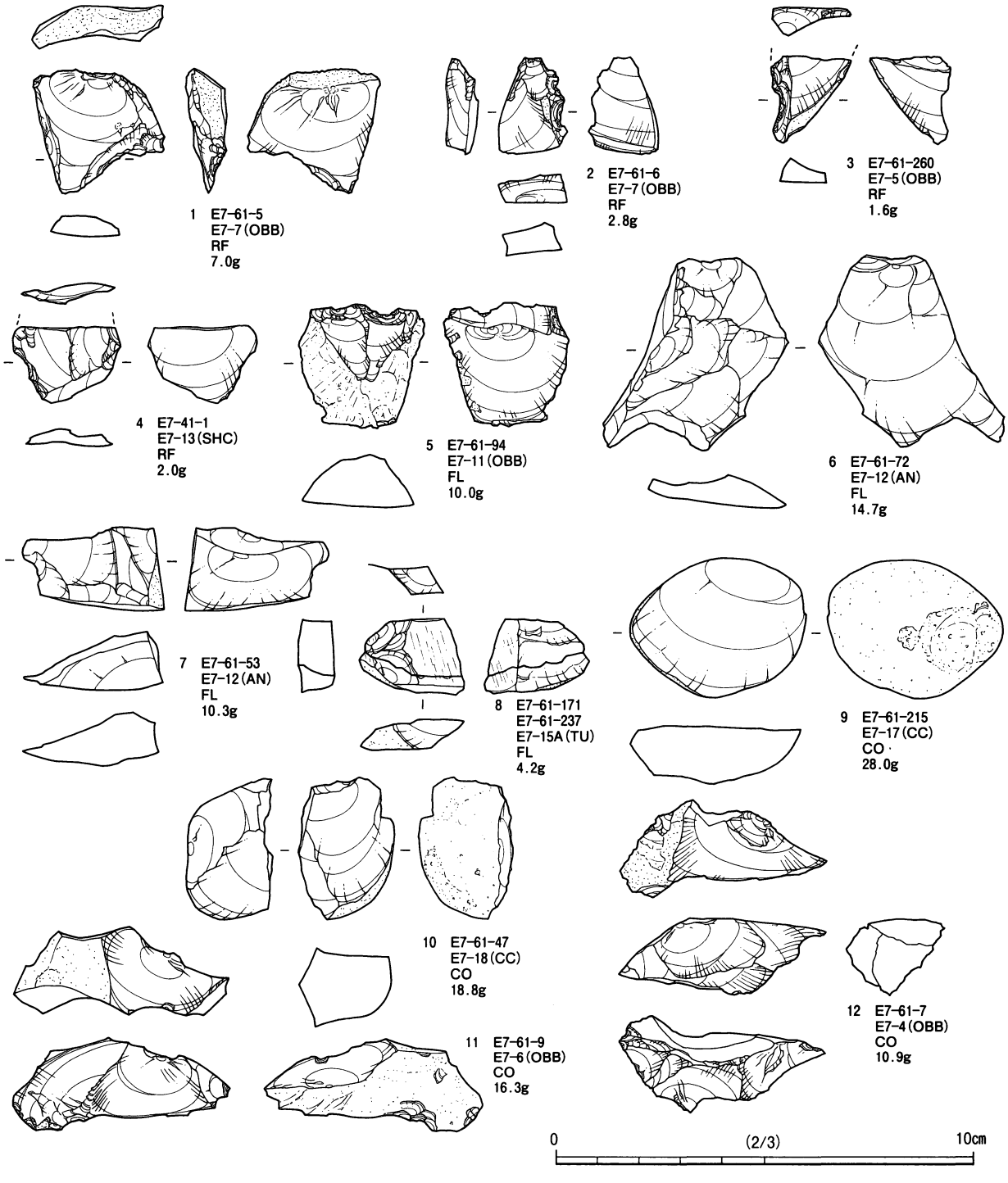
第154図　Ｅ７-Aブロック出土遺物分布（６）－礫焼成別分布－

第155図　Ｅ７-Ａブロック出土遺物分布（７）－詳細別分布－

g）で，識別率は85％である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは17母岩を識別した。内訳は，黒曜石B10母岩(E7-１～９･11)，安山岩１母岩(E7-12)，頁岩C１母岩（E7-13)，頁岩E１母岩（E7-14)，凝灰岩１母岩（E7-15)，粘板岩１母岩（E7-16)，瑪瑙･玉髄２母岩（E7-17・18）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は95％（38/40点）である。



第156図　E７-Aブロック出土遺物（１）

・E7-１：自然面は紙ヤスリ状の部分と凹凸の激しい部分があり，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（19.8ｇ）である。接合資料は，剥片２点（19.8ｇ）である。

・E7-２：自然面は紙ヤスリ状の部分と平滑な部分があり，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。φ３㎜ほどの気泡を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石核１点（10.5ｇ）の単独資料である。

・E7-３：自然面は紙ヤスリ状の部分と平滑な部分があり，自然面及び内部は黒色不透明の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石核１点（11.3ｇ）の単独資料である。

・E7-４：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石核１点（10.9ｇ）の単独資料である。

・E7-５：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色の縞が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点(2.7ｇ）である。

・E7-６：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（17.1ｇ）である。

第77表　Ｅ７-Ａブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
E7-1(OBB)																		2							2
E7-2(OBB)																				1					1
E7-3(OBB)																				1					1
E7-4(OBB)																				1					1
E7-5(OBB)										1								1							2
E7-6(OBB)																		1		1					2
E7-7(OBB)										2								4							6
E7-8(OBB)																		1							1
E7-9(OBB)																		1							1
E7-11(OBB)																		3							3
E7-12(AN)																		10							10
E7-13(SHC)										1															1
E7-14(SHE)																			1						1
E7-15(TU)																		3(2)							3(2)
E7-16(SL)																			1						1
E7-17(CC)																				1					1
E7-18(CC)																				1					1
その他(OBB)																			2						2
合　計										4								26(25)	4	6					40(39)

第78表　Ｅ７-Ａブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)										3								13	2	4					22
安山岩(AN)																		10							10
頁岩C(SHC)										1															1
頁岩E(SHE)																			1						1
凝灰岩(TU)																		3(2)							3(2)
粘板岩(SL)																			1						1
瑪瑙・玉髄(CC)																				2					2
合　計										4								26(25)	4	6					40(39)

・E7-７：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。φ２㎜ほどの夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片２点，剥片４点の合計６点（21.7ｇ）である。

・E7-８：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（2.4ｇ）の単独資料である。

・E7-９：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（2.0ｇ）の単独資料である。

・E7-11：自然面は紙ヤスリ状の部分と凹凸の激しい部分があり，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒色の縞が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片３点（15.1ｇ）である。

・E7-12：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面は灰色（N4/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片10点（61.8ｇ）である。

第79表　Ｅ７-Ａブロック礫組成表

母　岩	石 材	個数	重量
E7R-1	SA	7	379.4
E7R-2	SA	2	84.5
E7R-3	SA	4	49.2
E7R-4	SA	2	92.9
E7R-5	SA	2	59.5
E7R-6	SA	4	132.5
E7R-7	SA	2	263.9
E7R-8	SA	3	59.5
E7R-9	SA	3	113.3
E7R-10	SA	1	37.4
E7R-11	SA	2	72.4
E7R-12	SA	2	54.4
E7R-13	SA	1	14.9
E7R-14	SA	1	10.8
E7R-15	SA	1	15.0
E7R-16	SA	2	40.6
E7R-17	SA	1	13.1
E7R-18	SA	1	12.1
E7R-19	SA	2	21.9
E7R-20	SA	2	12.5
E7R-21	SA	2	13.1
E7R-22	SA	1	7.8
E7R-23	SA	1	87.0
E7R-24	SA	1	68.5
E7R-25	SA	1	106.8
E7R-26	SA	1	99.1
E7R-27	SA	1	39.6
E7R-28	SA	1	48.4
E7R-29	SA	1	22.0
E7R-30	SA	1	22.8
E7R-31	SA	1	25.7
E7R-32	SA	1	14.0
E7R-33	SA	1	11.2
E7R-34	SA	1	8.9
E7R-35	SA	1	20.1
E7R-36	SA	1	13.8
E7R-37	SA	1	19.2
E7R-38	RH	4	280.6
E7R-39	RH	2	202.2
E7R-40	RH	2	253.0

母　岩	石 材	個数	重量
E7R-41	RH	8	186.8
E7R-42	RH	6	89.4
E7R-43	RH	4	211.3
E7R-44	RH	4	44.1
E7R-45	RH	2	103.2
E7R-46	RH	2	103.9
E7R-47	RH	2	80.1
E7R-48	RH	2	68.5
E7R-49	RH	4	44.5
E7R-50	RH	3	17.0
E7R-51	RH	2	55.4
E7R-52	RH	2	72.4
E7R-53	RH	1	17.3
E7R-54	RH	10	171.0
E7R-55	RH	1	322.8
E7R-56	RH	1	83.4
E7R-57	RH	1	157.6
E7R-58	RH	1	73.1
E7R-59	RH	1	44.8
E7R-60	RH	1	75.9
E7R-61	RH	1	19.8
E7R-62	RH	1	4.8
E7R-63	RH	1	2.9
E7R-64	CH	17	744.8
E7R-65	CH	5	406.8
E7R-66	CH	4	82.1
E7R-67	CH	6	83.4
E7R-68	CH	3	55.4
E7R-69	CH	2	44.5
E7R-70	CH	1	22.4
E7R-71	CH	1	21.2
E7R-72	CH	1	9.3
E7R-73	CH	1	13.3
E7R-74	CH	1	4.0
E7R-75	CH	1	1.5
E7R-76	CH	1	1.3
E7R-77	CH	1	1.4
E7R-78	SH	2	49.2
E7R-80	SH	1	4.5
E7R-81	TU	3	122.9

母　岩	石 材	個数	重量
E7R-82	TU	4	195.7
E7R-83	TU	2	109.1
E7R-84	TU	2	288.2
E7R-85	TU	4	67.3
E7R-86	TU	3	74.7
E7R-87	TU	2	44.4
E7R-88	TU	12	35.4
E7R-89	TU	1	92.2
E7R-90	TU	1	71.8
E7R-91	TU	1	123.0
E7R-92	TU	1	70.7
E7R-93	TU	1	13.1
E7R-94	TU	1	3.7
E7R-95	SH	1	6.4
E7R-96	HO	4	75.4
E7R-97	HO	4	27.4
E7R-98	HO	3	24.3
E7R-99	GR	2	111.9
E7R-100	SA	1	25.2
E7R-117	TU	4	62.0
E7R-122	TU	1	3.9
E7R-165	SA	2	15.3
E7R-166	HO	1	8.4
その他	RH	11	26.5
その他	CH	2	1.2
その他	TU	12	8.1
その他	SA	16	95.8
その他	GR	2	0.7

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	80	2812.3
頁岩(SH)	4	60.1
チャート(CH)	47	1492.6
凝灰岩(TU)	55	1386.2
砂岩(SA)	82	2304.1
ホルンフェルス(HO)	12	135.5
その他(GR)	4	112.6
合　計	284	8303.4

・**E7-13**：灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。加工痕ある剥片１点（2.0ｇ）の単独資料である。
・**E7-14**：内部は灰オリーブ色（7.5Y6/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2），節理はにぶい橙色（7.5YR6/4）の頁岩である。砕片１点（0.4ｇ）の単独資料である。
・**E7-15**：自然面は平滑でにぶい黄橙色（10YR6/3），内部はにぶい褐色（7.5YR5/4）・灰黄色（2.5Y6/2），節理は灰褐色（7.5YR4/2）・灰色（N6/0）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片３点（２個体；7.2ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；4.2ｇ）である。
・**E7-16**：黒褐色（2.5Y3/1）の粘板岩である。砕片１点（0.1ｇ）の単独資料である。
・**E7-17**：自然面は平滑で橙色（7.5YR6/6），内部は浅黄橙色（10YR8/3）の瑪瑙・玉髄である。石核１点（28.0ｇ）の単独資料である。
・**E7-18**：自然面は平滑で黄褐色（10YR5/6）・褐色（10YR4/4），内部は浅黄橙色（10YR8/3）の瑪瑙・玉髄である。石核１点（18.8ｇ）の単独資料である。

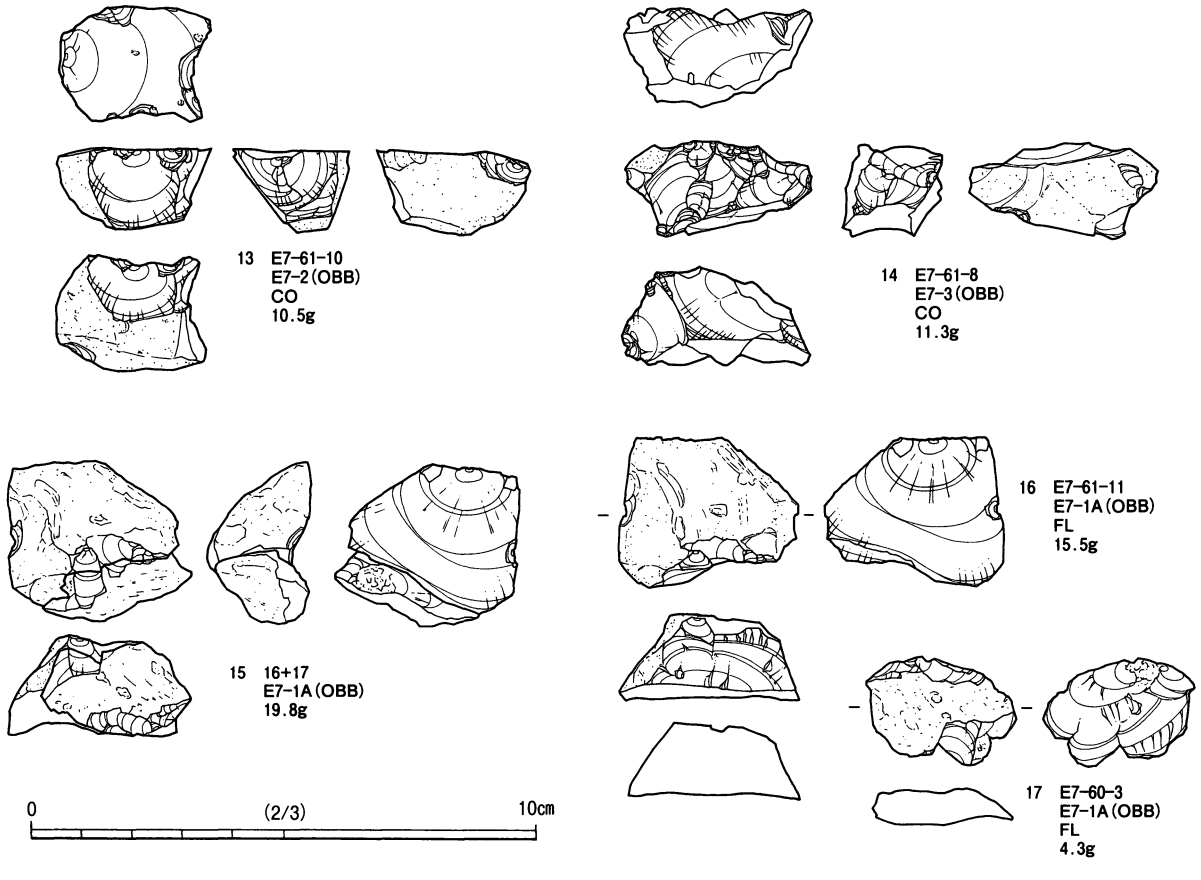
なお，母岩分類できなかった資料に，信州和田峠周辺産の砕片２点（0.4ｇ）がある。

３）出土遺物（第156図，第157図13・14）

１～３は信州和田峠周辺産の黒曜石，４は嶺岡産頁岩による加工痕ある剥片である。１は末端の一部，２は右側縁，３・４は左側縁に調整加工を行っている。

５は信州和田峠周辺産の黒曜石，６・７は安山岩，８は凝灰岩による不定型な剥片である。

９・10は瑪瑙・玉髄，11～14は信州和田峠周辺産の黒曜石による石核である。９は小型で扁平な礫を分



第157図　Ｅ７-Ａブロック出土遺物（２）

割した石核である。10・11は素材の主要剥離面側で１枚不定型な剥片を剥離している。12・14は打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。13は素材の主要剥離面を打面として，不定型な剥片を剥離している。

４）接合資料とその関連資料（第157図15～17）

・E7-１（第157図15～17）　薄墨を流したような半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片２点で構成される。15は剥片２点（16・17）の接合資料である。17を剥離した後，90度打面を転移して，18を剥離している。

14　E7-Bブロック（第158～162図，第80～82表，カラー図版９，図版６）

１）ブロックの概要

E7-Bブロックは，調査範囲南側のE7-70・71・80・81グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は10mである。

ブロックの規模と形状は，長軸７m，短軸４mの範囲に77点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層を中心として，30cmほどの高低差をもって包含されている（第158～161図）。

ブロックは，ナイフ形石器３点，加工痕ある剥片３点，使用痕ある剥片６点（４個体），剥片19点，砕片２点，石核７点（６個体）の合計40点（37個体）と礫37点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ38点（35個体），頁岩Ｄ１点，頁岩Ｅ１点である。礫石材は，流紋岩８点（８母岩；235.3ｇ），チャート２点（１母岩；18.8ｇ），凝灰岩７点（５母岩；152.1ｇ），砂岩19点（15母岩；434.3ｇ），ホルンフェルス１点（１母岩；51.5ｇ）で，識別率は100％である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは17母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ15母岩（E7-19～33），頁岩Ｄ１母岩（E7-34），頁岩Ｅ１母岩（E7-35）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は85％（34/40点）である。

・E7-19：自然面は平滑で，自然面及び内部は黒色不透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石核１点（8.9ｇ）の単独資料である。

・E7-20：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石核１点（9.2ｇ）の単独資料である。

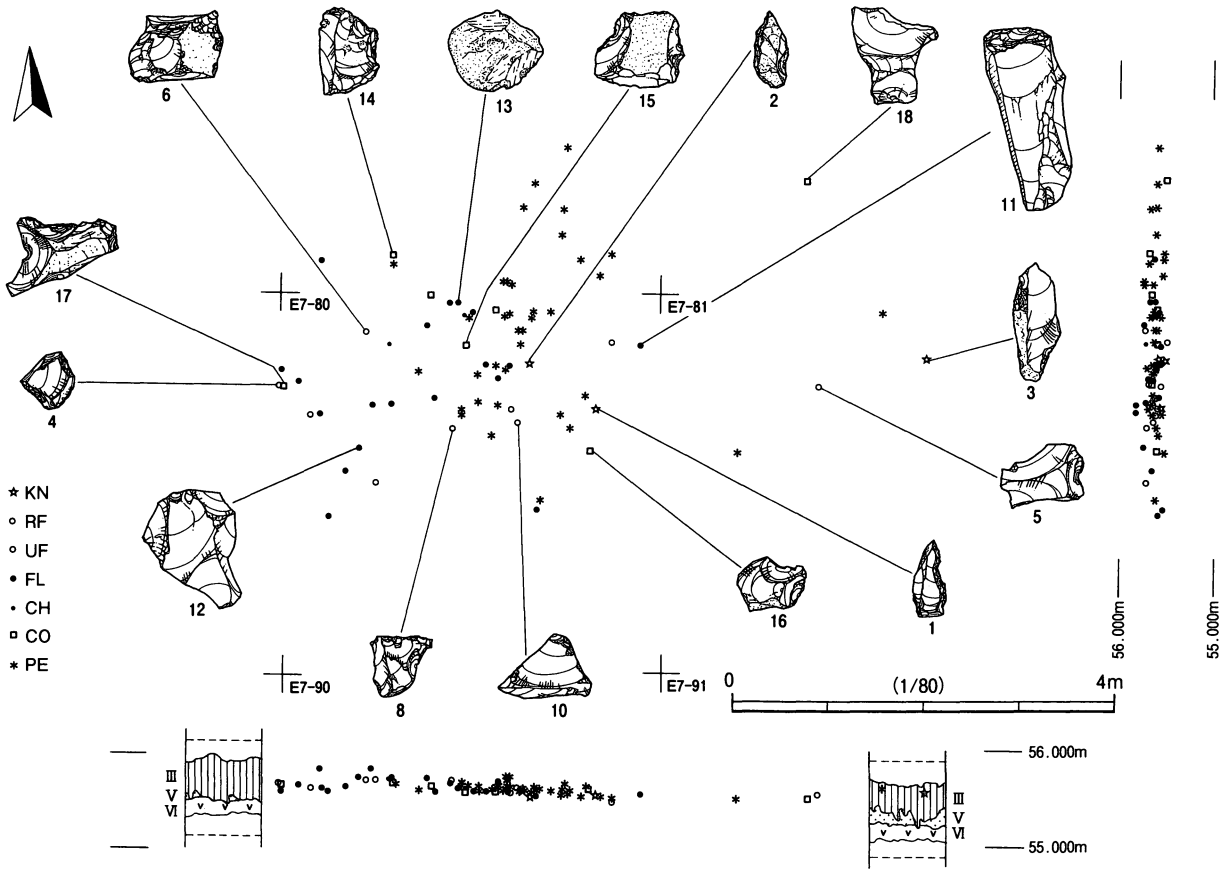
・E7-21：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。E7-20と同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，石核２点（１個体；10.6ｇ）である。接合資料は，石核２点（１個体；10.6ｇ）である。

・E7-22：自然面は凹凸があり，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に筋が入る黒曜石である。φ３㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石核１点（7.3ｇ）の単独資料である。

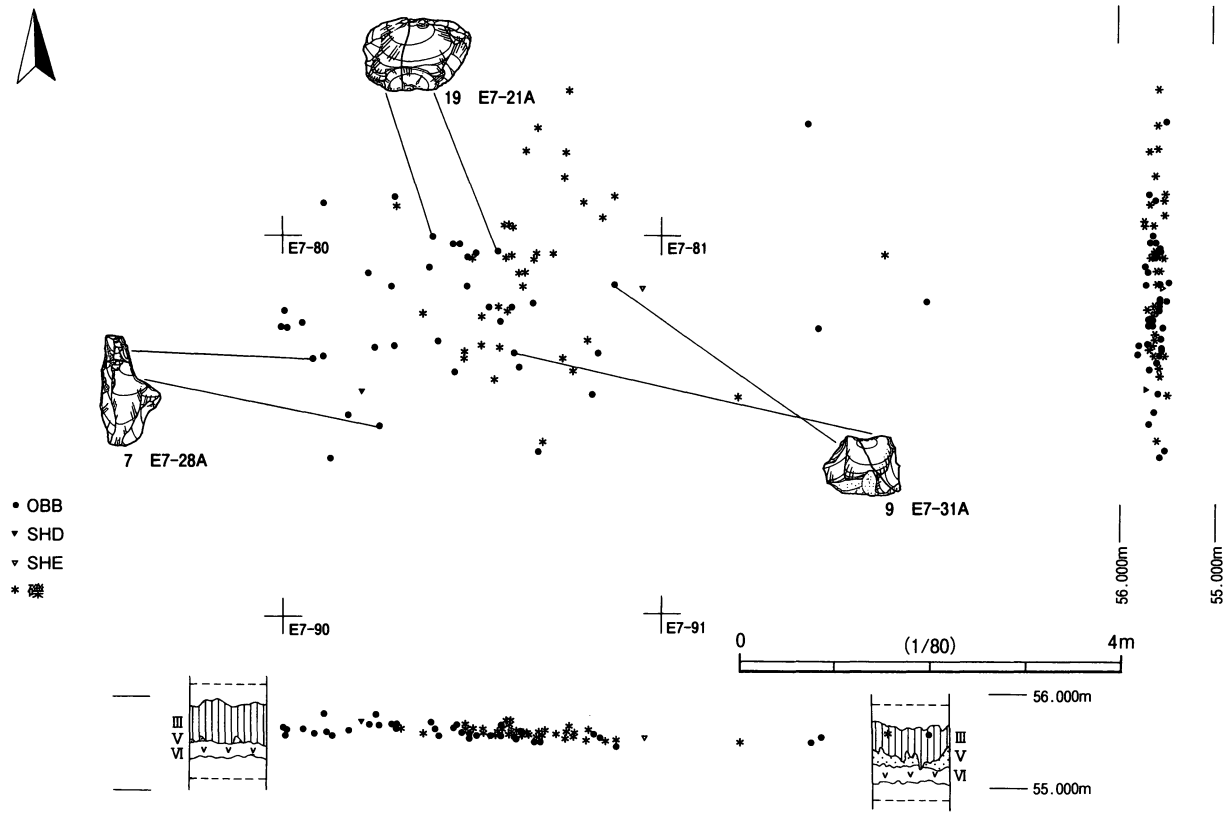
・E7-23：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（1.5ｇ）の単独資料である。

・E7-24：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。φ３㎜ほどの夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（10.4ｇ）である。

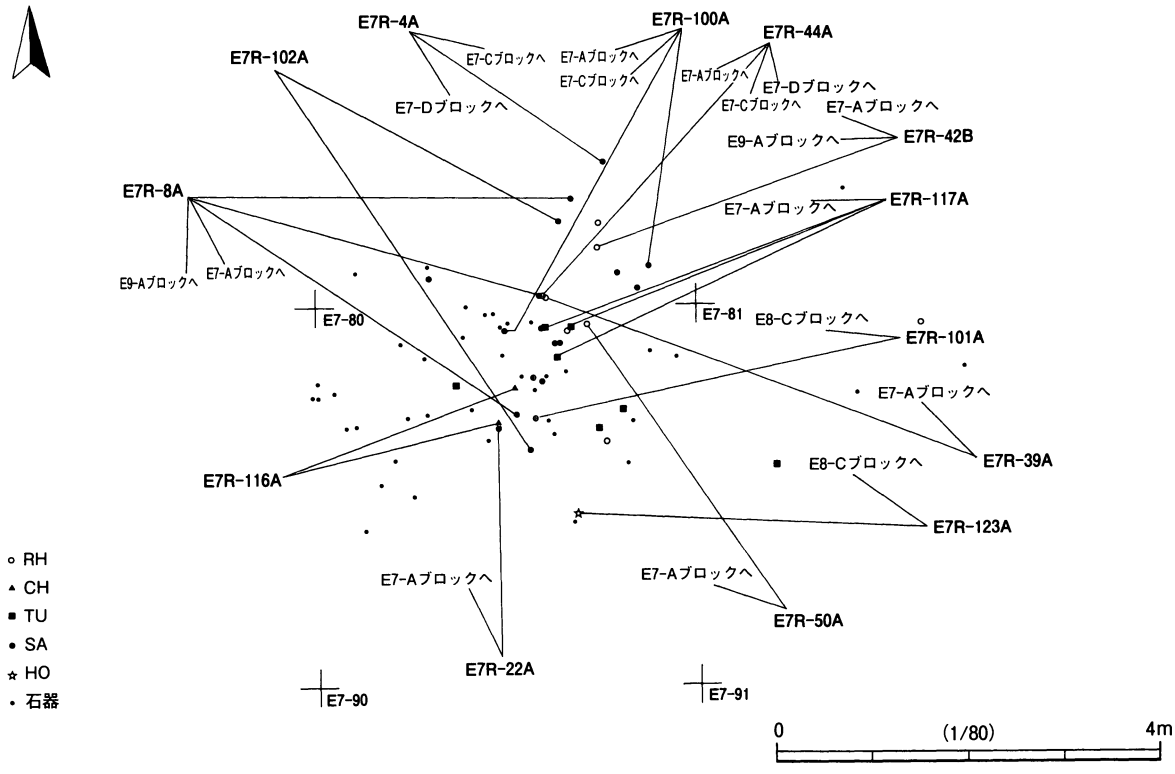
・E7-25：薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。本ブロックでは



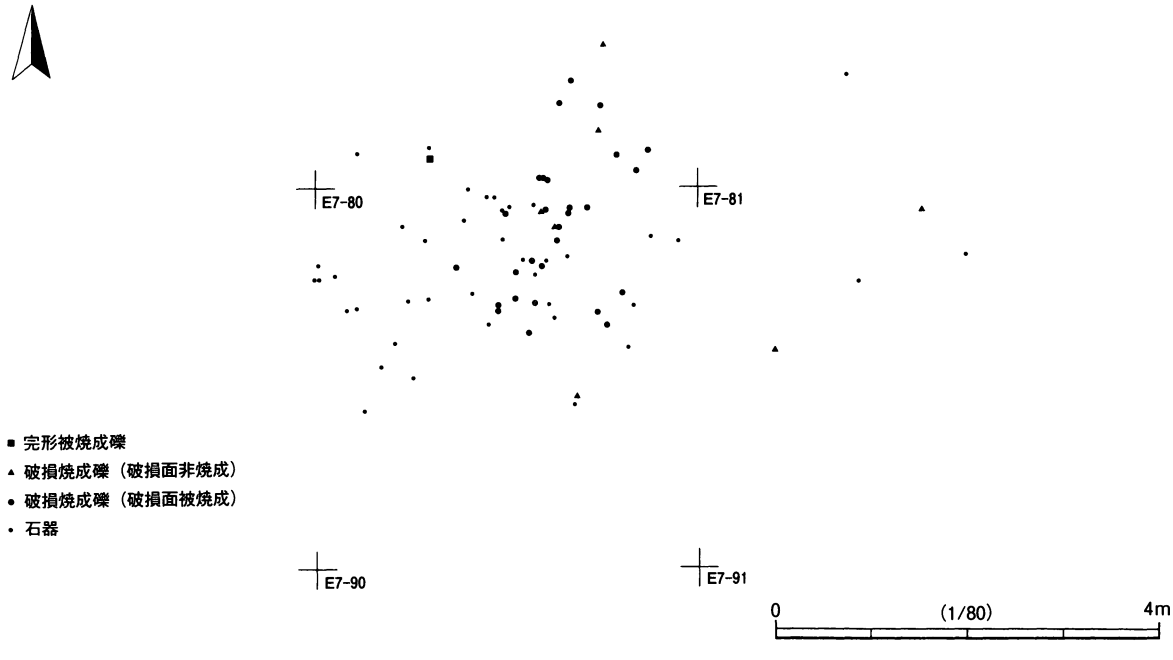
第158図　Ｅ７-Ｂブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第159図　Ｅ７-Ｂブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第160図　Ｅ７-Ｂブロック出土遺物分布（３）－礫石材別分布－



第161図　Ｅ７-Ｂブロック出土遺物分布（４）－礫焼成別分布－

使用痕ある剥片１点（4.0ｇ）の単独資料であるが，その他にE7-Ｃブロックに１点ある。

・**E7-26**：自然面は平滑な部分と多少凹凸の部分があり，自然面及び内部は半透明な地に灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，石核１点の合計２点（5.9ｇ）である。

・**E7-27**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片２点，砕片１点の合計４点（9.9ｇ）である。

・**E7-28**：薄墨を流したような半透明な黒曜石である。φ２㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片２点（１個体），剥片１点の合計３点（２個体;4.2ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片２点（１個体；2.7ｇ）である。

・**E7-29**：自然面は紙ヤスリ状の部分と平滑な部分があり，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器１点（1.6ｇ）の単独資料である。

・**E7-30**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（4.7ｇ）である。

・**E7-31**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片３点（２個体），剥片４点の合計９点（８個体;9.5ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片２点（１個体;2.3ｇ）である。

・**E7-32**：黒褐色不透明の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。加工痕ある剥片１点（3.2ｇ）の単独資料である。

・**E7-33**：自然面は凹凸があり，自然面及び内部は黒褐色不透明の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。E7-32と同一母岩の可能性がある。剥片１点（10.2ｇ）の単独資料である。

・**E7-34**：内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）の地に浅黄色（2.5Y7/3）が部分的に混じり，節理は褐色（7.5Y4/3），新鮮な面は黄灰色（2.5Y4/1）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（9.1ｇ）の単独資料である。

・**E7-35**：内部は灰色（5Y5/1）・にぶい黄色（2.5Y6/3），節理はにぶい黄色（2.5Y6/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。剥片１点（19.3ｇ）の単独資料である。

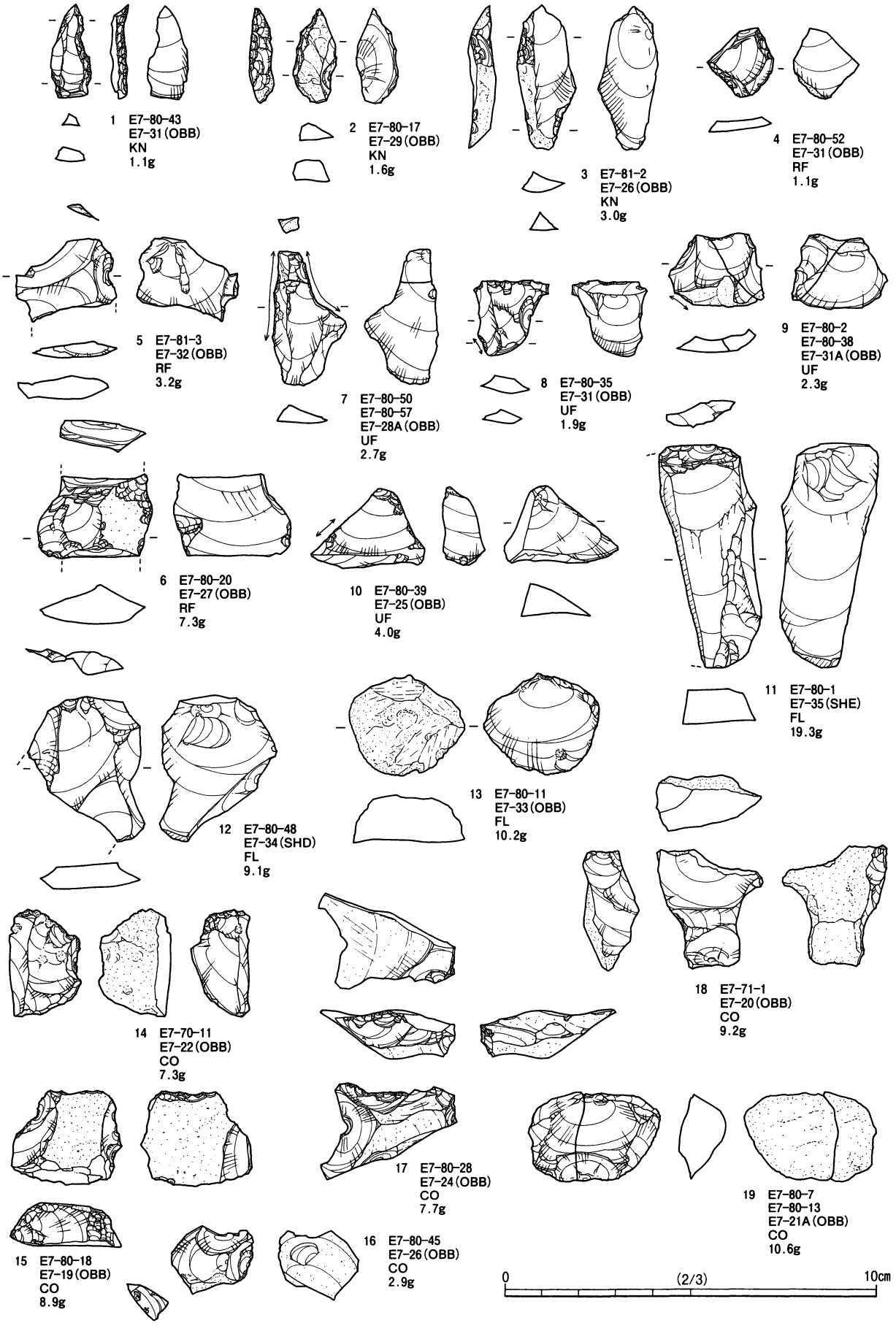
なお，母岩分類できなかった資料に，信州和田峠周辺産の黒曜石の剥片５点，砕片１点の合計６点（2.5ｇ）がある。

３）出土遺物（第162図）

１～３は信州和田峠周辺産の黒曜石による二側縁加工あるいは部分加工のナイフ形石器である。１は石刃状の縦長剥片の末端を先端として，右側縁と左側縁下部に調整加工を行っている。２は横長剥片を横位に用い，左側縁と右側縁下部に調整加工を行っている。３は石刃状の縦長剥片の打面側を先端として，右側縁下部と左側縁上部に調整加工を行っている。なお，左側縁から末端にかけて自然面が残っており，形態上は二側縁加工のナイフ形石器と同等である。

４～６は信州和田峠周辺産の黒曜石による加工痕ある剥片である。４は末端の一部，５は右側縁，６は表面右側縁，裏面両側縁の一部に調整加工を行っている。

７～10は信州和田峠周辺産の黒曜石による使用痕ある剥片である。７は両側縁，９は末端の一部，10は



第162図　Ｅ７-Ｂブロック出土遺物

左側縁に微細な剥離痕が見られる。８は左側縁の一部に微細な剥離痕が見られるが，右側縁の比較的大きな剥離痕が主要剥離面を切っている可能性が高く，加工痕ある剥片とした方が良いかもしれない。

11は頁岩，12は硬質緻密な頁岩，13は信州和田峠周辺産の黒曜石による剥片である。11は石刃状の縦長剥片，12・13は不定型な剥片である。

14～19は信州和田峠周辺産の黒曜石による石核である。14・15は打面と作業面を入れ替えながら，小型で不定型な剥片を剥離している。16～19は小型な剥片を素材として，小型で不定型な剥片を数枚剥離している。19は２点が接合して１個体となる。

第80表　Ｅ７-Ｂブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
E7-19(OBB)																				1					1
E7-20(OBB)																				1					1
E7-21(OBB)																				2(1)					2(1)
E7-22(OBB)																				1					1
E7-23(OBB)																		1							1
E7-24(OBB)																		1		1					2
E7-25(OBB)											1														1
E7-26(OBB)	1																			1					2
E7-27(OBB)										1								2	1						4
E7-28(OBB)											2(1)							1							3(2)
E7-29(OBB)	1																								1
E7-30(OBB)																		2							2
E7-31(OBB)	1									1	3(2)							4							9(8)
E7-32(OBB)										1															1
E7-33(OBB)																		1							1
E7-34(SHD)																		1							1
E7-35(SHE)																		1							1
その他(OBB)																		5	1						6
合　計	3									3	6(4)							19	2	7(6)					40(37)

第81表　Ｅ７-Ｂブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石B(OBB)	3									3	6(4)							17	2	7(6)					38(35)
頁岩D(SHD)																		1							1
頁岩E(SHE)																		1							1
合　計	3									3	6(4)							19	2	7(6)					40(37)

第82表　Ｅ７-Ｂブロック礫組成表

母　岩	石　材	個数	重量
E7R-4	SA	1	12.9
E7R-8	SA	3	72.7
E7R-22	SA	1	3.3
E7R-39	RH	1	64.3
E7R-42	RH	1	29.9
E7R-44	RH	1	6.3
E7R-50	RH	1	15.0
E7R-54	RH	1	23.0
E7R-100	SA	2	63.3
E7R-101	SA	1	48.1
E7R-102	SA	2	20.8
E7R-103	SA	1	94.8
E7R-105	SA	1	51.5
E7R-106	SA	1	22.8
E7R-107	SA	1	13.4

母　岩	石　材	個数	重量
E7R-108	SA	1	15.1
E7R-109	SA	1	5.5
E7R-110	SA	1	5.4
E7R-111	SA	1	3.2
E7R-112	SA	1	1.5
E7R-113	RH	1	52.4
E7R-114	RH	1	19.3
E7R-115	RH	1	25.1
E7R-116	CH	2	18.8
E7R-117	TU	3	36.5
E7R-118	TU	1	66.3
E7R-119	TU	1	37.8
E7R-120	TU	1	6.7
E7R-121	TU	1	4.8
E7R-123	HO	1	51.5

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	8	235.3
チャート(CH)	2	18.8
凝灰岩(TU)	7	152.1
砂岩(SA)	19	434.3
ホルンフェルス(HO)	1	51.5
合　計	37	892.0

15　E7-Cブロック（第163～168図，第83～85表，カラー図版9・13，図版6）

1）ブロックの概要

E7-Cブロックは，調査範囲南側のE7-81・91，E8-01グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は10mである。

ブロックの規模と形状は，長軸7m，短軸4mの範囲に116点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層を中心として，30cmほどの高低差をもって包含されている（第163～167図）。

ブロックは，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片1点，剥片11点，砕片1点，石核5点の合計19点と礫97点で構成される。石器石材は，黒曜石B12点，軟質の安山岩1点，頁岩D1点，頁岩E1点，凝灰岩2点，砂岩2点である。礫石材は，流紋岩35点（20母岩；1,217.1g），頁岩1点（1母岩；6.9g），チャート9点（8母岩；189.2g），凝灰岩10点（7母岩；238.4g），砂岩36点（29母岩；1,076.2g），ホルンフェルス1点（1母岩；17.0g），識別できなかった流紋岩4点（33.2g）・凝灰岩1点（0.5g）で，識別率は95%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは13母岩を識別した。内訳は，黒曜石B7母岩（E7-25・36・41～45），軟質の安山岩1母岩(E7-37)，頁岩D1母岩(E7-38)，頁岩E1母岩(E7-39)，凝灰岩1母岩(E7-40)，砂岩2母岩(E7-46・47）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（19/19点）である。

・**E7-25**：薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴はE7-Bブロックに記したとおりである。本ブロックでは使用痕ある剥片1点(6.8g)の単独資料であるが，その他にE7-Bブロックに1点ある。

・**E7-36**：薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片4点（1.4g）である。

・**E7-37**：にぶい黄色（2.5Y6/4）の軟質な安山岩である。砕片1点（0.2g）の単独資料である。

・**E7-38**：灰黄色（2.5Y7/2）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（0.5g）の単独資料である。

・**E7-39**：内部は黄灰色(2.5Y4/1)・暗灰黄色(2.5Y5/2)・にぶい赤褐色(5YR4/4)，節理は灰黄色(2.5Y6/2)の頁岩である。剥片1点（4.6g）の単独資料である。

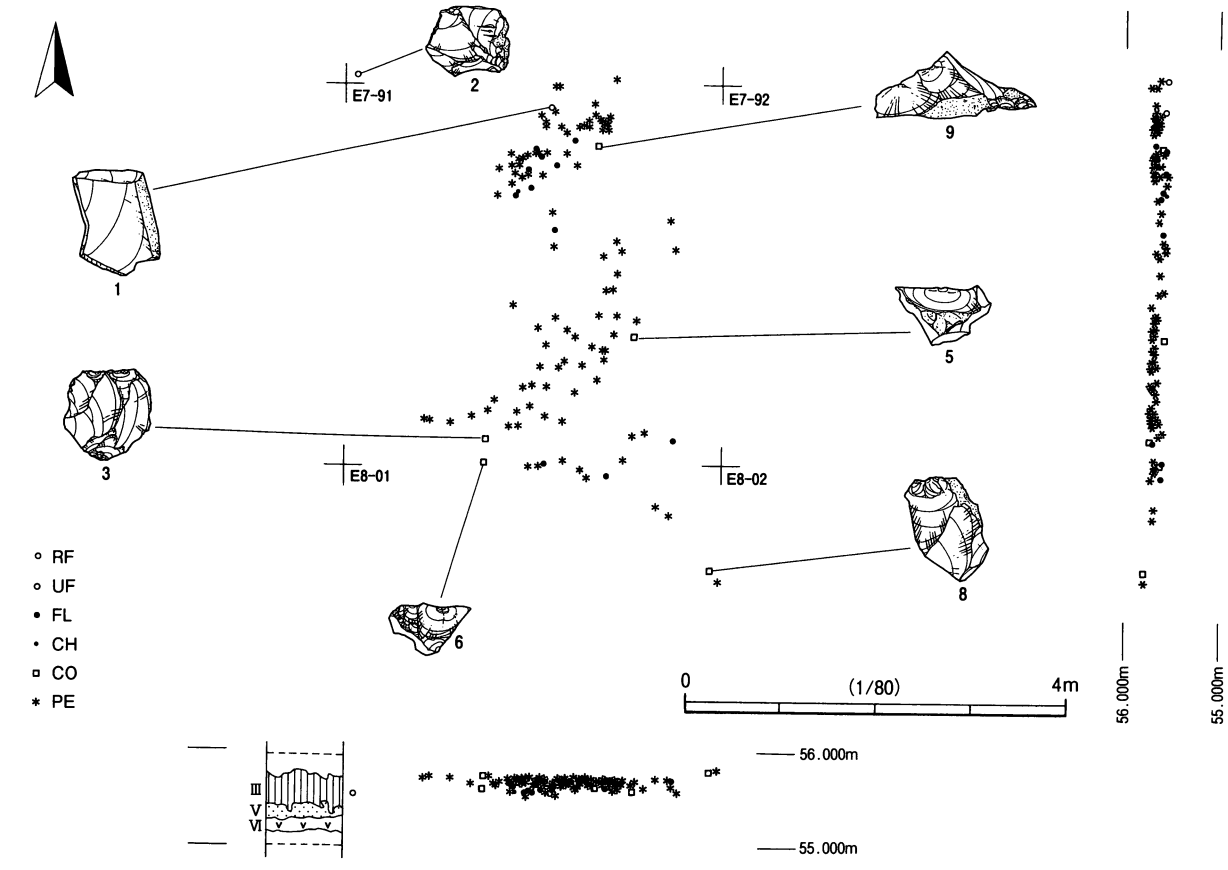
・**E7-40**：自然面は平滑で黄灰色(2.5Y5/1)・黄灰色(2.5Y4/1)，内部は灰色(5Y6/1)の地に浅黄色(2.5Y7/4)が部分的に混じり，節理はにぶい黄橙色（10YR6/3）の凝灰岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，剥片1点の合計2点（11.1g）である。

・**E7-41**：自然面は紙ヤスリ状で凹凸があり，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石核1点（10.1g）の単独資料である。

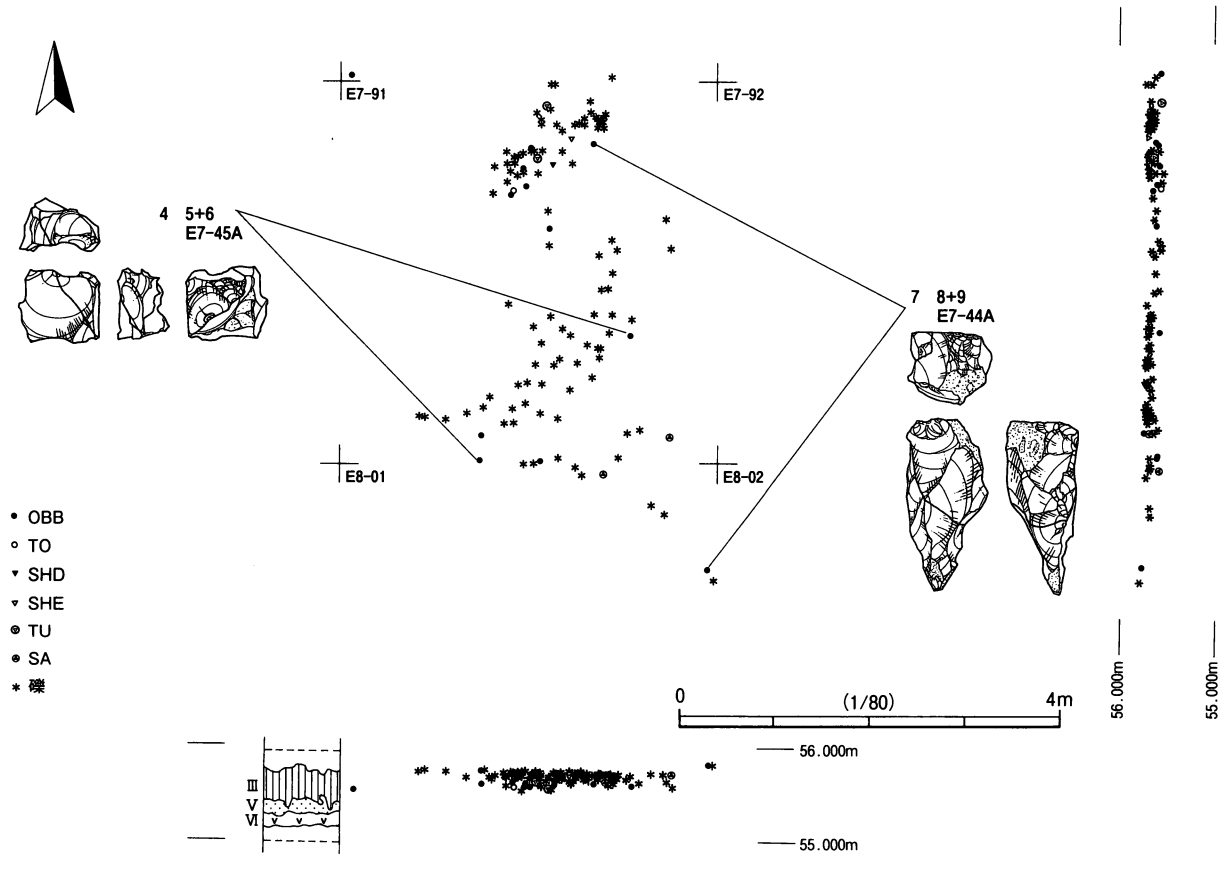
・**E7-42**：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点（10.0g）の単独資料である。

・**E7-43**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点（1.0g）の単独資料である。

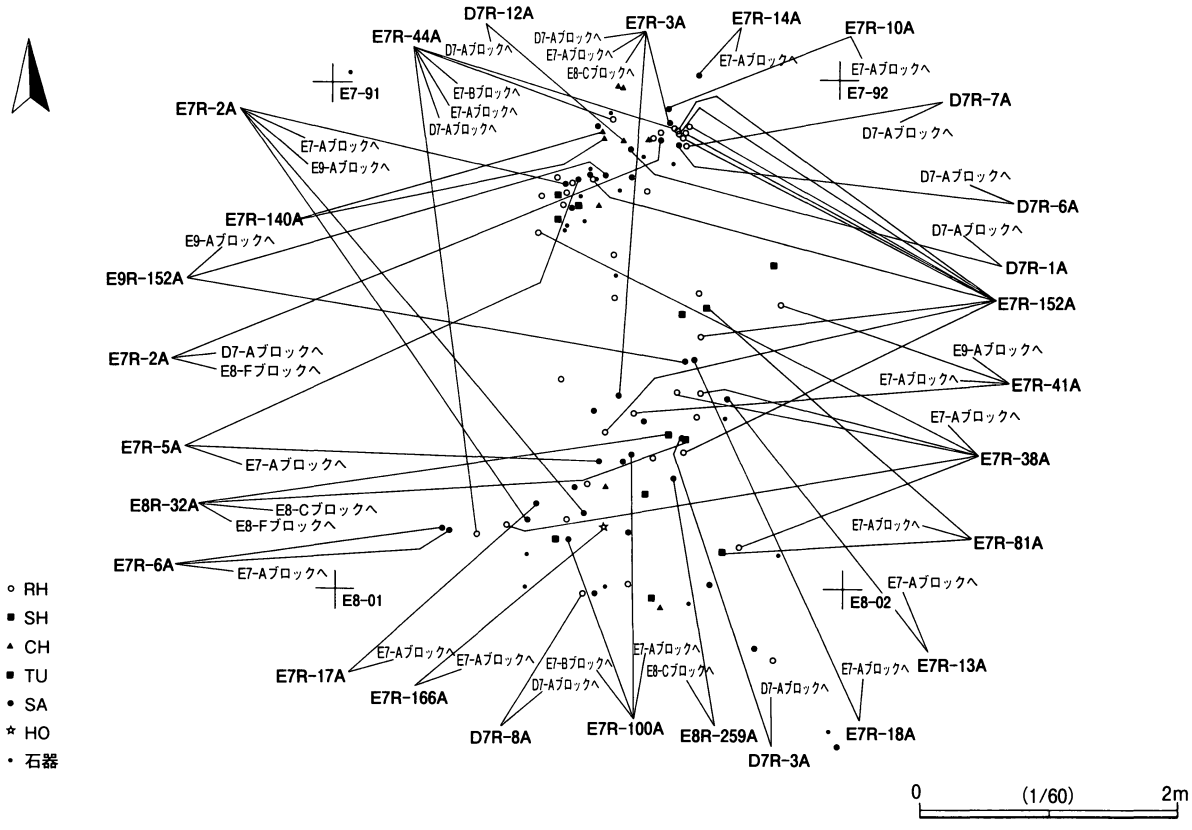
・**E7-44**：自然面は紙ヤスリ状で凹凸があり，自然面及び内部は黒色不透明な部分と半透明な部分がある黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石核2点(31.1g)である。接合資料は，石核2点（31.1g）である。



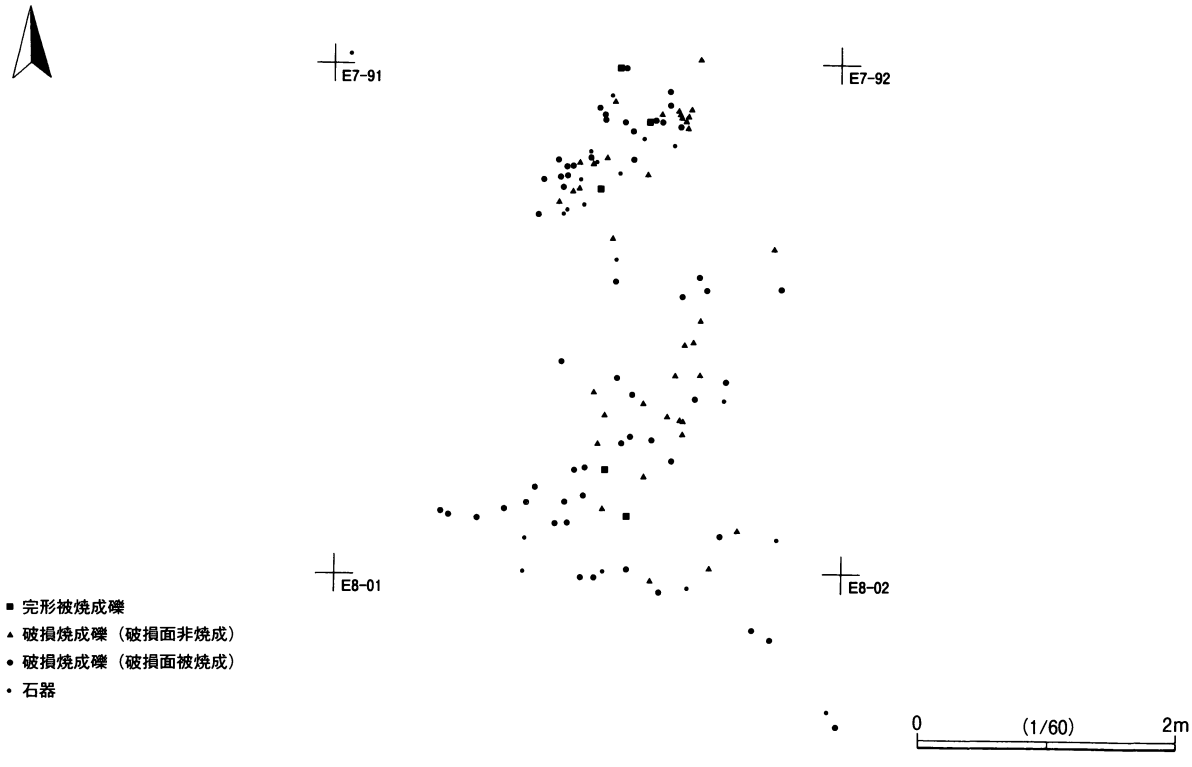
第163図　Ｅ７-Ｃブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



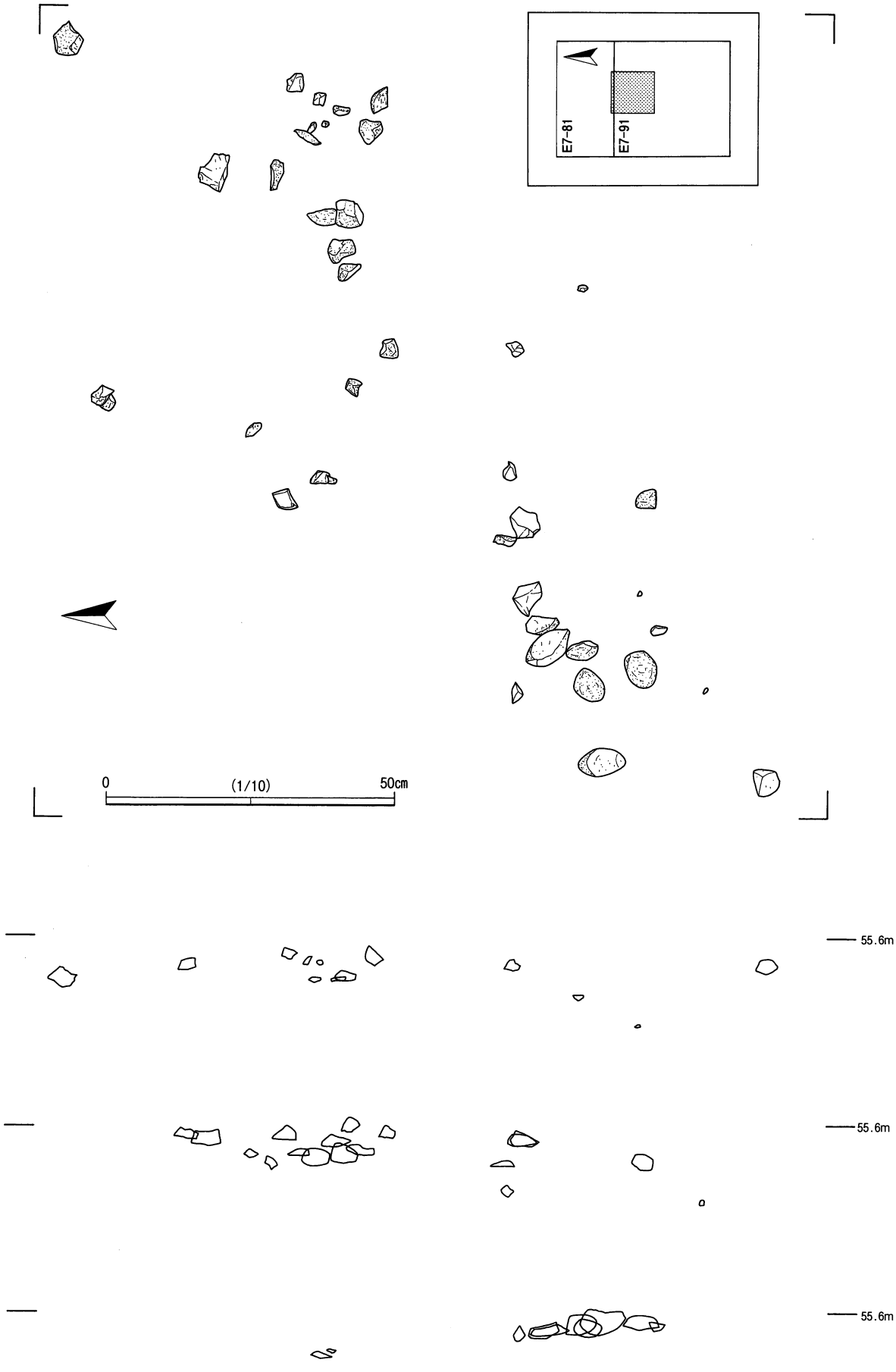
第164図　Ｅ７-Ｃブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第165図　Ｅ７-Ｃブロック出土遺物分布（３）－礫石材別分布－



第166図　Ｅ７-Ｃブロック出土遺物分布（４）－礫焼成別分布－



第167図　Ｅ７-Ｃブロック出土遺物分布（５）－礫詳細分布－

第83表　E7-Cブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
E7-25(OBB)											1														1
E7-36(OBB)																		4							4
E7-37(TO)																			1						1
E7-38(SHD)																		1							1
E7-39(SHE)																		1							1
E7-40(TU)										1								1							2
E7-41(OBB)																				1					1
E7-42(OBB)																		1							1
E7-43(OBB)																		1							1
E7-44(OBB)																				2					2
E7-45(OBB)																				2					2
E7-46(SA)																		1							1
E7-47(SA)																		1							1
合　計										1	1							11	1	5					19

第84表　E7-Cブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石B(OBB)											1							6		5					12
安山岩(TO)																			1						1
頁岩D(SHD)																		1							1
頁岩E(SHE)																		1							1
凝灰岩(TU)										1								1							2
砂岩(SA)																		2							2
合　計										1	1							11	1	5					19

第85表　E7-Cブロック礫組成表

母　岩	石　材	個数	重量
D7R-1	SA	1	15.4
D7R-2	SA	1	66.3
D7R-3	SA	1	25.7
D7R-6	SA	1	49.7
D7R-7	RH	1	40.4
D7R-8	RH	1	39.6
D7R-12	CH	1	14.9
E7R-2	SA	3	147.1
E7R-3	SA	2	43.5
E7R-4	SA	1	41.1
E7R-5	SA	2	91.2
E7R-6	SA	2	92.3
E7R-10	SA	1	52.4
E7R-13	SA	1	35.2
E7R-14	SA	1	58.9
E7R-17	SA	1	18.4
E7R-18	SA	1	50.1
E7R-38	RH	5	99.9
E7R-41	RH	2	48.8
E7R-44	RH	3	54.9
E7R-79	SH	1	6.9
E7R-81	TU	2	55.8
E7R-100	SA	2	50.1
E7R-117	TU	2	31.0
E7R-126	SA	1	29.6
E7R-127	SA	1	6.7
E7R-128	SA	1	4.8
E7R-129	SA	1	3.1
E7R-130	RH	1	167.1
E7R-131	RH	1	82.6

母　岩	石　材	個数	重量
E7R-132	RH	1	58.4
E7R-133	RH	1	41.6
E7R-134	RH	1	30.2
E7R-135	RH	1	16.0
E7R-136	CH	1	34.5
E7R-137	CH	1	22.9
E7R-138	CH	1	18.4
E7R-139	CH	1	10.1
E7R-140	CH	2	6.1
E7R-141	TU	1	86.6
E7R-142	TU	1	1.1
E7R-144	SA	1	23.8
E7R-145	SA	1	39.5
E7R-146	SA	1	14.6
E7R-147	SA	1	20.2
E7R-148	SA	1	3.0
E7R-149	SA	1	7.6
E7R-150	SA	1	15.0
E7R-151	SA	1	23.3
E7R-152	RH	9	162.3
E7R-153	RH	1	102.3
E7R-154	RH	1	36.0
E7R-155	RH	1	46.5
E7R-156	RH	1	47.2
E7R-157	RH	1	36.4
E7R-158	RH	1	38.3
E7R-159	RH	1	44.3
E7R-160	RH	1	24.3
E7R-161	CH	1	73.6

母　岩	石　材	個数	重量
E7R-162	CH	1	8.7
E7R-163	TU	1	25.6
E7R-164	TU	1	13.7
E7R-166	HO	1	17.0
E8R-32	TU	2	24.6
E8R-259	SA	1	24.4
E9R-152	SA	2	23.2
その他	RH	4	33.2
その他	TU	1	0.5

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	39	1250.3
頁岩(SH)	1	6.9
チャート(CH)	9	189.2
凝灰岩(TU)	11	238.9
砂岩(SA)	36	1076.2
ホルンフェルス(HO)	1	17.0
合　計	97	2778.5

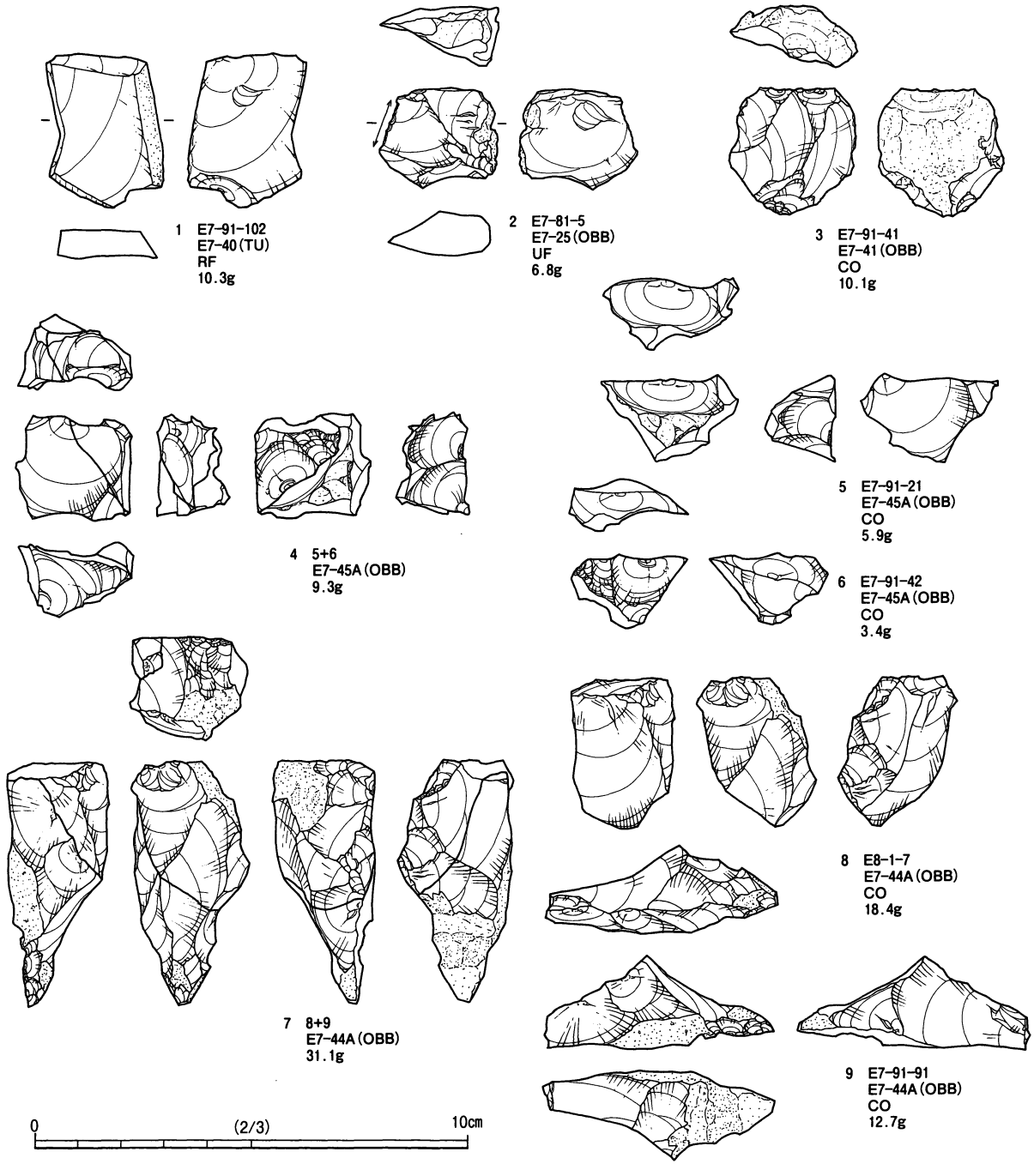
・**E7-45**：自然面は平滑で，自然面及び内部は黒灰色半透明の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石核２点（9.3ｇ）である。接合資料は，石核２点（9.3ｇ）である。

・**E7-46**：灰色（5Y5/1）の砂岩である。剥片１点（6.0ｇ）の単独資料である。

・**E7-47**：内部はオリーブ黄色（5Y6/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の砂岩である。剥片１点（1.9ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第168図１～３）

１は凝灰岩による加工痕ある剥片である。裏面末端に調整加工を行っている。



第168図　Ｅ７-Ｃブロック出土遺物

2は信州和田峠周辺産の黒曜石による使用痕ある剥片である。左側縁に微細な剥離痕が見られる。

3は信州和田峠周辺産の黒曜石による石核である。剥片を素材として，求心的な剥離作業により，小型で不定型な剥片を剥離している。

4）接合資料とその関連資料（第168図4～9）

・E7-45（第168図4～6）　黒灰色半透明の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石核2点で構成される。4は石核2点（5・6）の接合資料である。打面と作業面を入れ替えながら，剥離作業を続けていた石核が2つに欠損した後も，6は欠損面を打面として，小型で不定型な剥片を剥離している。

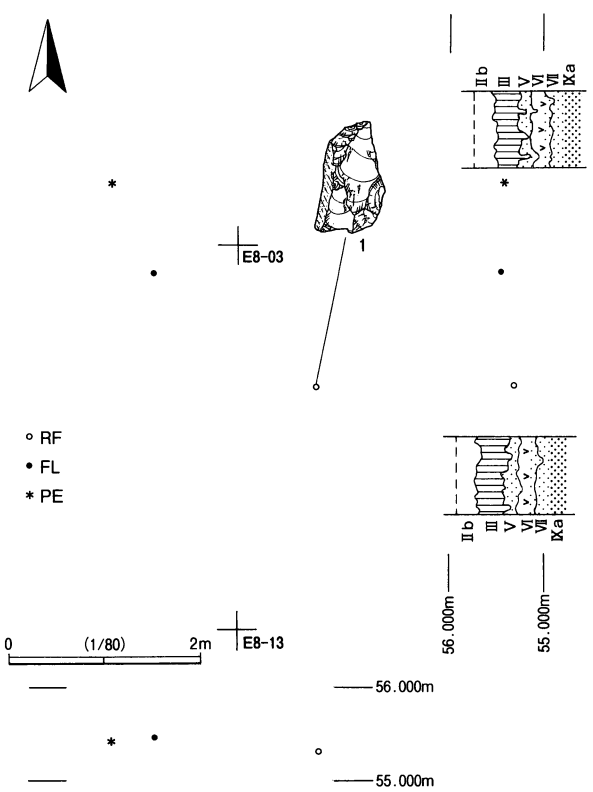
・E7-44（第168図7～9）　黒色不透明な部分と半透明な部分がある黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石核2点で構成される。7は石核2点（8・9）の接合資料である。打面と作業面を入れ替えながら，剥離作業を続けていた石核が2つに欠損した後も，9は欠損面を打面として，小型で不定型な剥片を剥離している。

16　E8-Aブロック（第169～171図，第86～88表，カラー図版9）

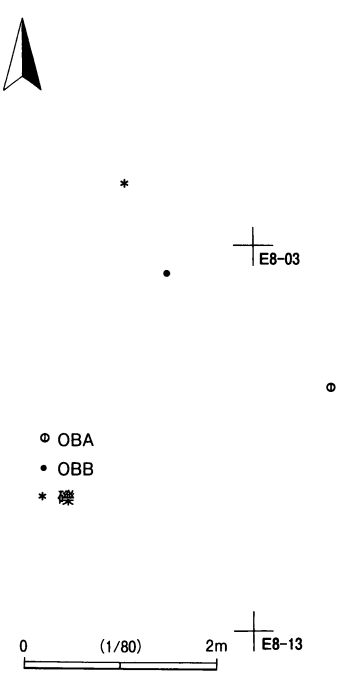
1）ブロックの概要

E8-Aブロックは，調査範囲南側のE7-92，E8-02・03グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は10mである。

ブロックの規模と形状は，長軸3m，短軸0.5mの範囲に3点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅤ層にかけて，20cmほどの高低差をもって包含されている（第169・170図）。



第169図　E8-Aブロック出土遺物分布（1）
－石器別分布－



第170図　E8-Aブロック出土遺物分布（2）
－石材別分布－

ブロックは，加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点と礫１点で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ１点，黒曜石Ｂ１点である。礫石材は，凝灰岩１点（１母岩；10.8ｇ）で，識別率は100％である。

２）母岩の特徴と内容

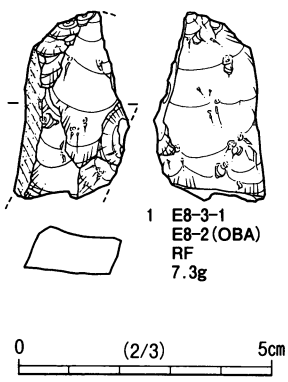
本ブロックでは２母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ１母岩（E8-２），黒曜石Ｂ１母岩（E8-１）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（2/2点）である。

・**E8-１**：薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点(1.2ｇ)の単独資料である。

・**E8-２**：内部は黒灰色不透明，節理は淡黄色（2.5Y8/3）の黒曜石である。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産としたが，神津島産あるいは産地不明とした方が良いかもしれない。加工痕ある剥片１点（7.3ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第171図）

１は栃木県高原山産の黒曜石による加工痕ある剥片である。右側縁の一部に調整加工を行っている。



第171図　Ｅ８-Ａブロック出土遺物

第86表　Ｅ８-Ａブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
E8-1(OBB)																		1							1
E8-2(OBA)										1															1
合　計										1								1							2

第87表　Ｅ８-Ａブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石A(OBA)										1															1
黒曜石B(OBB)																		1							1
合　計										1								1							2

第88表　Ｅ８-Ａブロック礫組成表

母　岩	石 材	個数	重量
E8R-1	TU	1	10.8

石　材	個数	重量
凝灰岩(TU)	1	10.8
合　計	1	10.8

17　E8-Bブロック（第172～176図，第89～91表，カラー図版９）

１）ブロックの概要

E8-Bブロックは，調査範囲南側のE7-90，E8-00・01・11・12・21グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸９m，短軸４mの範囲に10点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層を中心として，30cmほどの高低差をもって包含されている（第172～175図）。

ブロックは，剥片２点，石核２点の合計４点と礫６点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ４点である。礫石材は，チャート３点（２母岩；79.2ｇ），砂岩２点（２母岩；115.3ｇ），ホルンフェルス１点（１母岩；7.6ｇ）で，識別率は100％である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ４母岩（E8-３～６）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（4/4点）である。

・E8-３：自然面は凹凸があり，自然面及び内部は半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石核１点（13.7ｇ）の単独資料である。

・E8-４：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒色と黒灰色の筋が入る黒曜石である。φ５㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石核１点(8.1ｇ）の単独資料である。

・E8-５：半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点(0.8ｇ）の単独資料である。E8-３と同一母岩の可能性が高い。

・E8-６：半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。E8-３と同一母岩の可能性がある。剥片１点（0.8ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第176図）

１・２は信州和田峠周辺産の黒曜石による石核である。１は小型で不定形な礫を素材として，打面と作

第89表　Ｅ８-Bブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
E8-3(OBB)																				1					1
E8-4(OBB)																				1					1
E8-5(OBB)																		1							1
E8-6(OBB)																		1							1
合　計																		2		2					4

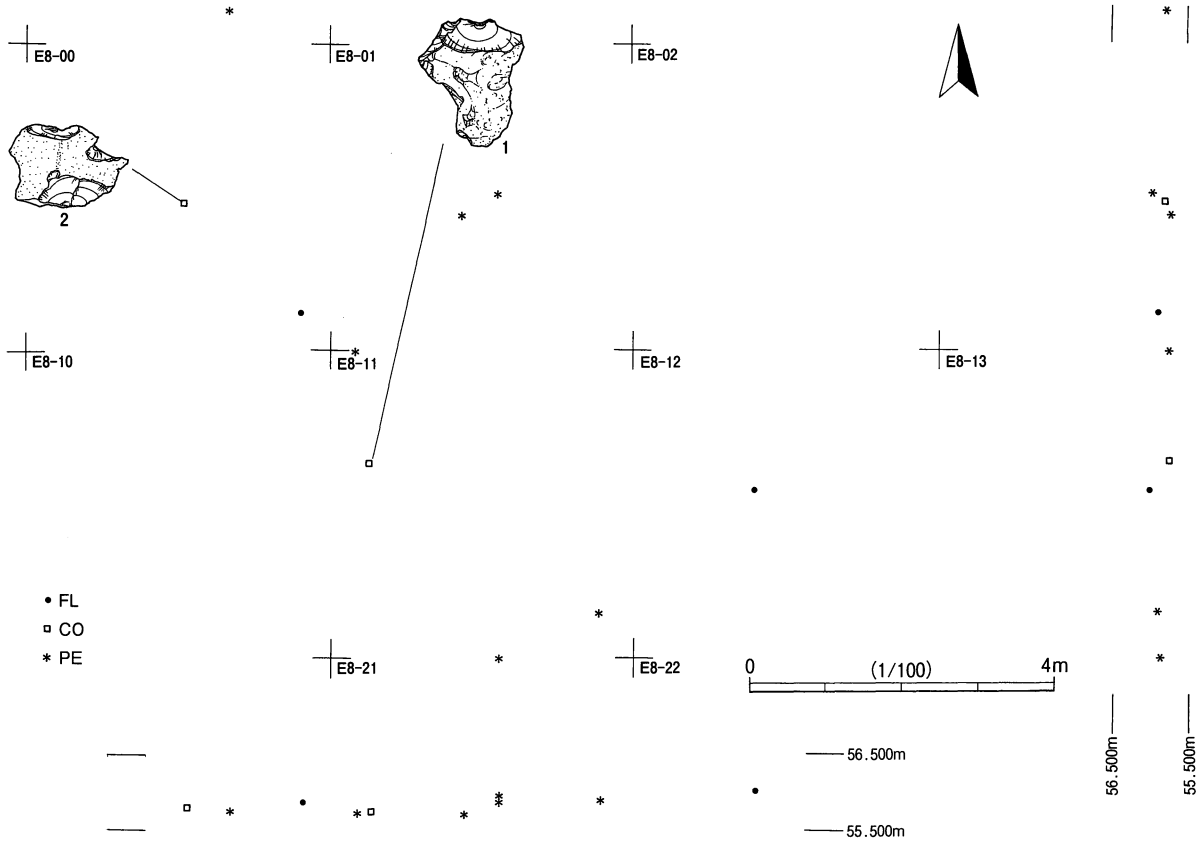
第90表　Ｅ８-Bブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)																		2		2					4
合　計																		2		2					4

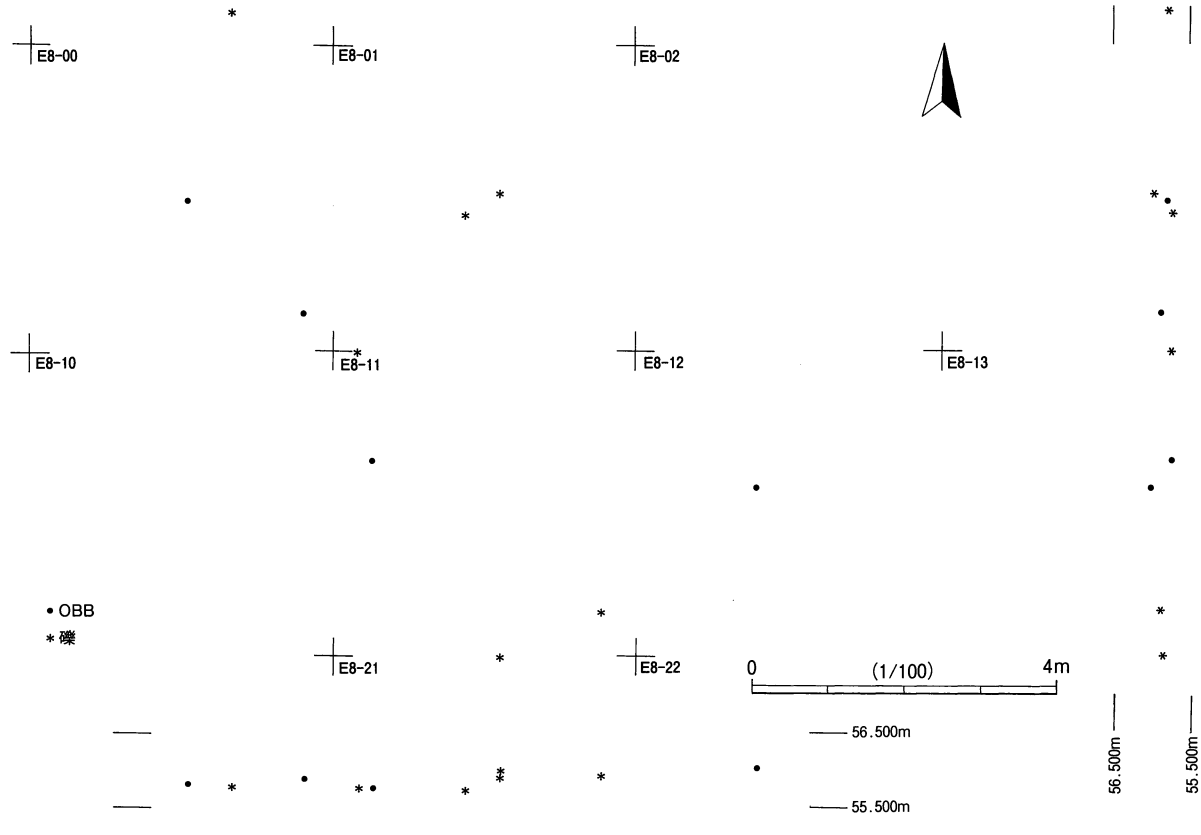
第91表　Ｅ８-Bブロック礫組成表

母　岩	石　材	個数	重量
E8R-2	SA	1	37.6
E8R-3	CH	2	53.7
E8R-4	CH	1	25.5
E8R-257	SA	1	77.7
E8R-258	HO	1	7.6

石　材	個数	重量
チャート(CH)	3	79.2
砂岩(SA)	2	115.3
ホルンフェルス(HO)	1	7.6
合　計	6	202.1

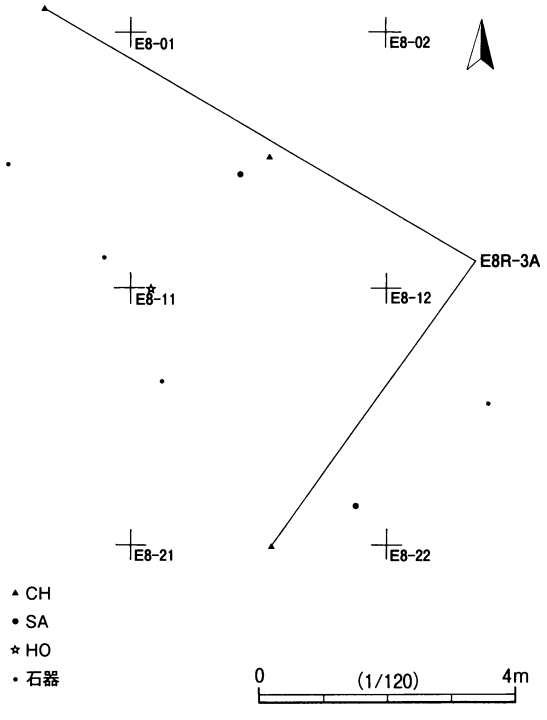


第172図　Ｅ８-Ｂブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－

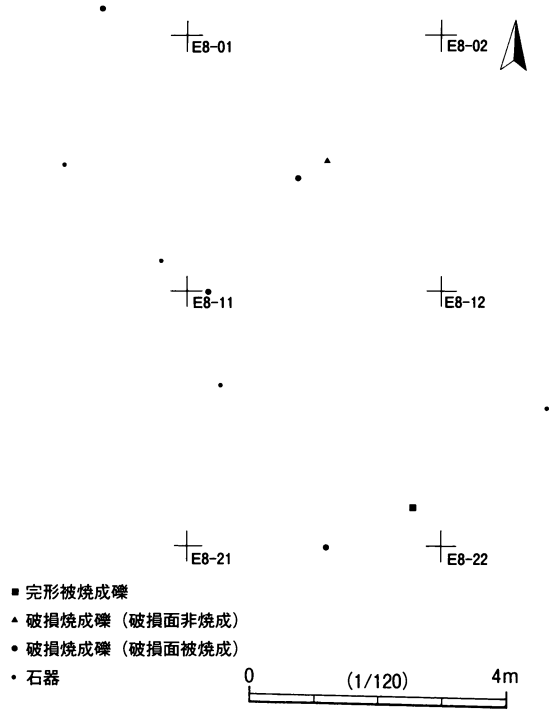


第173図　Ｅ８-Ｂブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

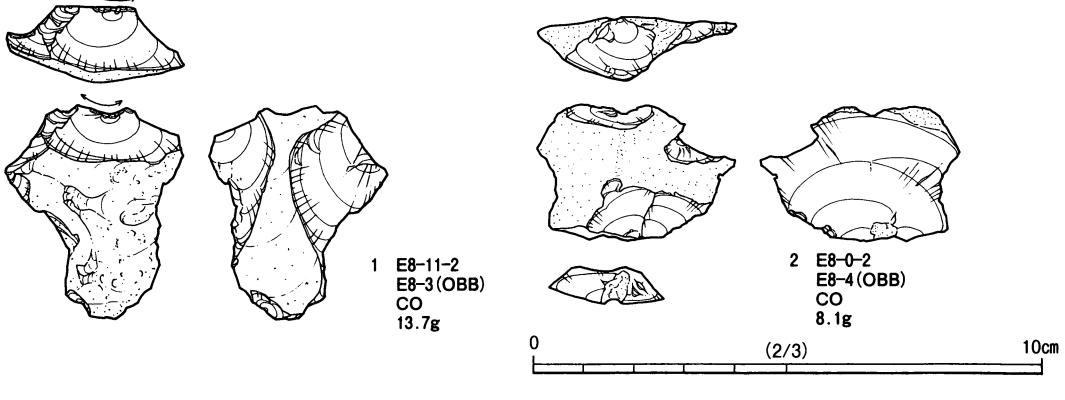
業面を入れ替えながら，小型で不定型な剥片を剥離している。頭部に微細な剥離痕が見られる。また，裏面側の自然面は剥離面の可能性もあるが，パティナの差から自然面とした。２は小型で不定形な礫から剥離した剥片の主要剥離面を打面として，小型で不定型な剥片を剥離している。



第174図　Ｅ８-Ｂブロック出土遺物分布（３）
－礫石材別分布－



第175図　Ｅ８-Ｂブロック出土遺物分布（４）
－礫焼成別分布－



第176図　Ｅ８-Ｂブロック出土遺物

18　E8-Ｃブロック（第177～182図，第92～94表，カラー図版９・13，図版６）

１）ブロックの概要

E8-Ｃブロックは，調査範囲南側のE8-30～34・43グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸13m，短軸４mの範囲に119点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅤ層下部にかけて，50cmほどの高低差をもって包含されている（第177～181図）。

ブロックは，加工痕ある剥片２点，使用痕ある剥片３点，剥片９点，砕片３点，石核６点の合計23点と礫96点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ20点，頁岩Ｄ１点，チャート１点，ホルンフェルス１点である。礫石材は，流紋岩19点（10母岩；1,005.7ｇ），チャート14点（８母岩；151.0ｇ），凝灰岩21点（11母岩；745.4ｇ），砂岩29点（13母岩；1,012.6ｇ），ホルンフェルス11点（８母岩；461.1ｇ），識別できなかった凝灰岩１点（0.1ｇ）・砂岩１点（1.6ｇ）で，識別率は98％である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは14母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ11母岩(E8-７・８・10～18)，頁岩Ｄ１母岩(E8-19)，チャート１母岩（E8-20），ホルンフェルス１母岩（E8-21）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は83％（19/23点）である。

・**E8-７**：自然面は凹凸があり，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な地に黒灰色の縞が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（11.6ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（11.6ｇ）である。

・**E8-８**：薄墨を流したような半透明な地に灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，石核２点の合計３点（8.4ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片１点，石核２点の合計３点（8.4ｇ）である。

・**E8-10**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色の縞が多数入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。加工痕ある剥片１点（3.2ｇ）の単独資料である。

・**E8-11**：自然面は紙ヤスリ状の部分と平滑な部分があり，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色のモヤが部分的に入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。使用痕ある剥片１点（4.4ｇ）の単独資料である。

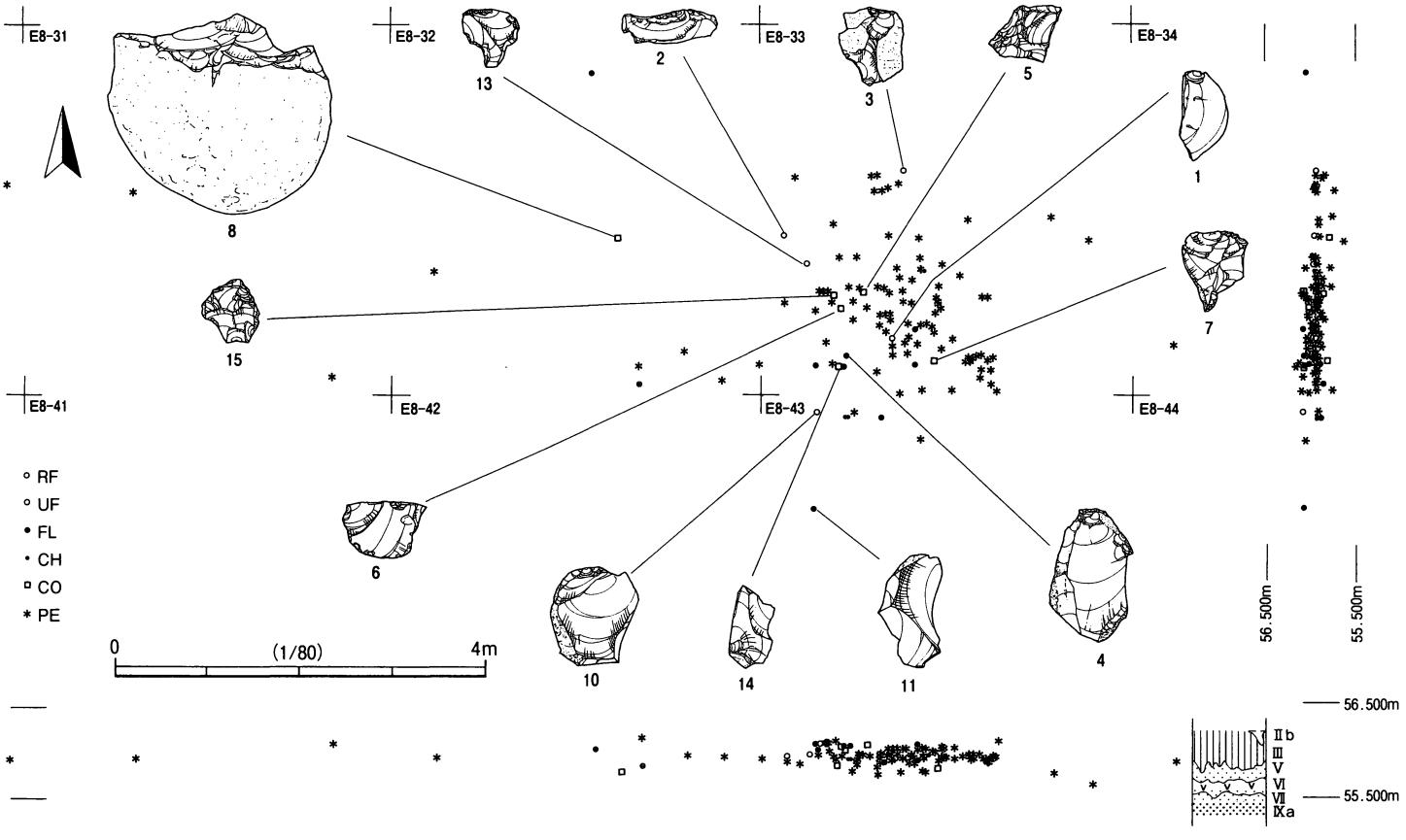
・**E8-12**：薄墨を流したような透明な地に黒灰色の縞が部分的に多数入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（2.5ｇ）の単独資料である。

・**E8-13**：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（1.8ｇ）の単独資料である。

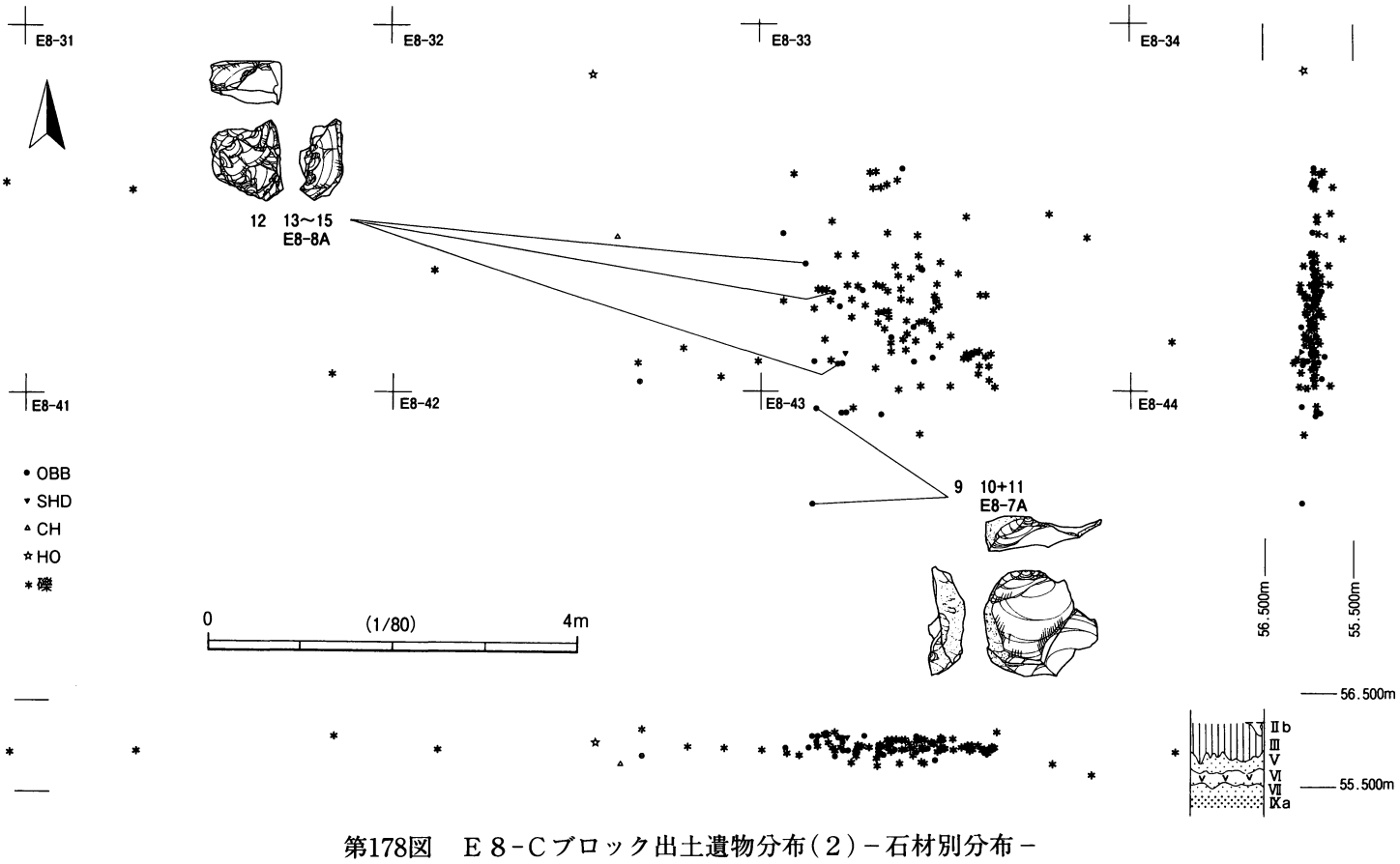
・**E8-14**：黒灰色半透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（8.3ｇ）である。

・**E8-15**：薄墨を流したような地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。φ１㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石核１点（5.3ｇ）の単独資料である。

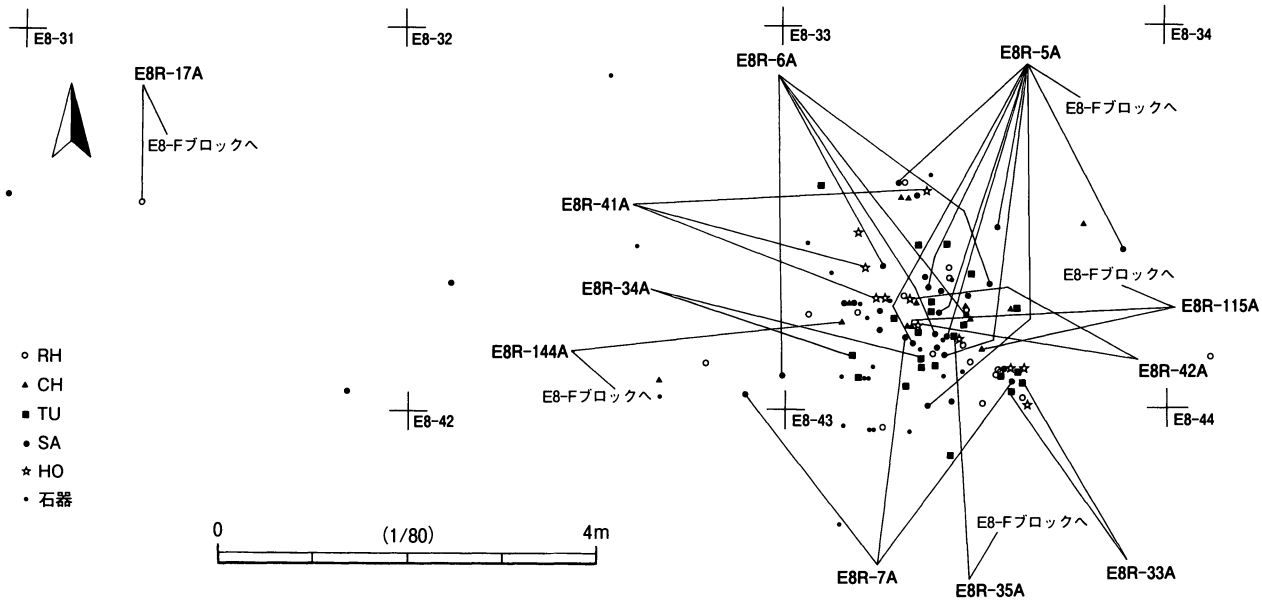
・**E8-16**：自然面は紙ヤスリ状の部分と平滑な部分があり，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石核１点（4.4ｇ）の単独資料である。



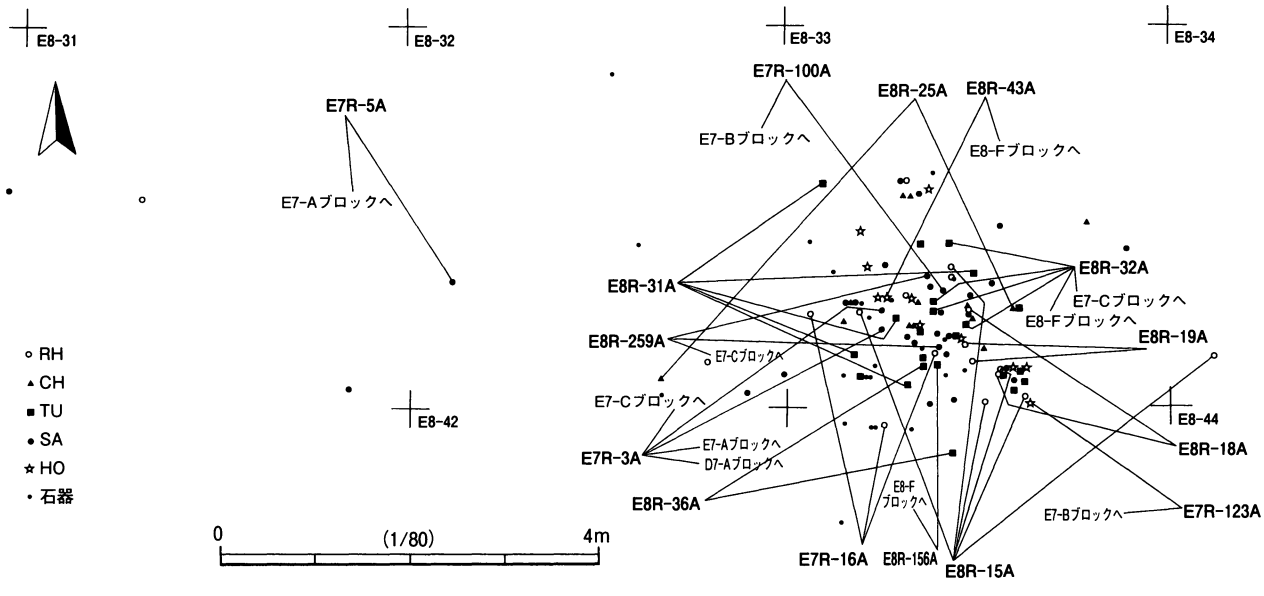
第177図　Ｅ８-Ｃブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



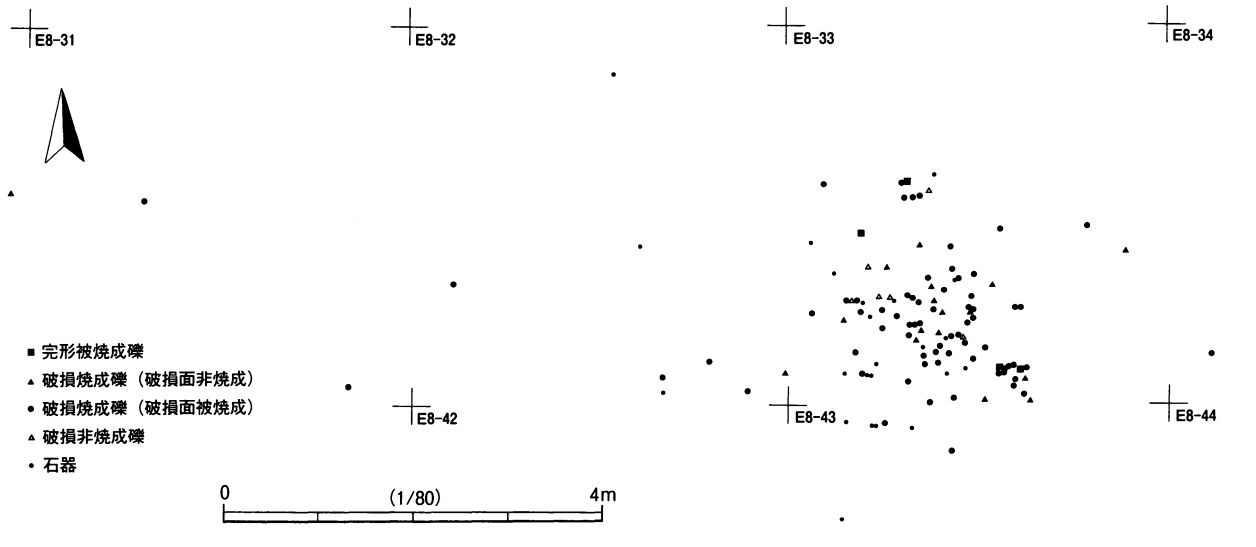
第178図　Ｅ８-Ｃブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第179図　Ｅ８-Ｃブロック出土遺物分布（３）－礫石材別分布（１）－



第180図　Ｅ８-Ｃブロック出土遺物分布（４）－礫石材別分布（２）－



第181図　Ｅ８-Ｃブロック出土遺物分布（５）－礫焼成別分布－

・**E8-17**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は黒灰色半透明で白濁したような黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石核１点（7.0ｇ）の単独資料である。

・**E8-18**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（1.8ｇ）である。

・**E8-19**：自然面は比較的平坦でにぶい黄橙色（10Y7/3），内部及び節理は灰白色（2.5Y8/2）の地に黄灰色（2.5Y5/1）が部分的に混じる硬質緻密な頁岩である。剥片１点（17.7ｇ）の単独資料である。

第92表　Ｅ８-Ｃブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
E8-7(OBB)											1							1							2
E8-8(OBB)											1									2					3
E8-10(OBB)										1															1
E8-11(OBB)											1														1
E8-12(OBB)																		1							1
E8-13(OBB)																		1							1
E8-14(OBB)										1								1							2
E8-15(OBB)																				1					1
E8-16(OBB)																				1					1
E8-17(OBB)																				1					1
E8-18(OBB)																		2							2
E8-19(SHD)																		1							1
E8-20(CH)																				1					1
E8-21(HO)																		1							1
その他(OBB)																		1	3						4
合　計										2	3							9	3	6					23

第93表　Ｅ８-Ｃブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)										2	3							7	3	5					20
頁岩D(SHD)																		1							1
チャート(CH)																				1					1
ホルンフェルス(HO)																		1							1
合　計										2	3							9	3	6					23

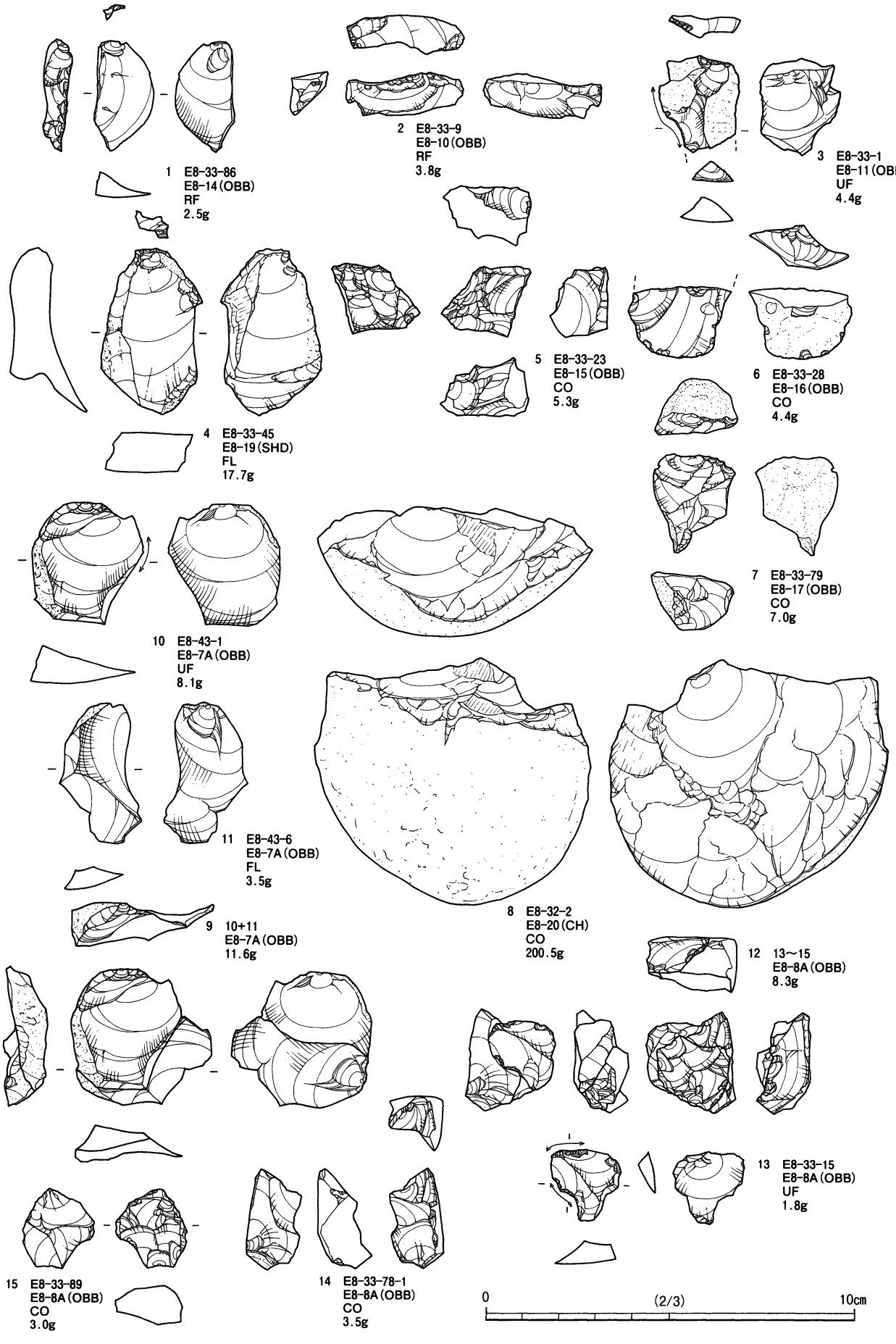
第94表　Ｅ８-Ｃブロック礫組成表

母　岩	石 材	個数	重量
E7R-3	SA	2	32.6
E7R-15	SA	1	19.7
E7R-101	SA	1	40.0
E7R-123	HO	1	89.4
E8R-5	SA	9	325.9
E8R-6	SA	5	131.9
E8R-7	SA	3	101.8
E8R-9	SA	1	100.1
E8R-10	SA	1	85.2
E8R-11	SA	1	58.4
E8R-12	SA	1	24.5
E8R-13	SA	1	33.7
E8R-14	SA	1	30.4
E8R-15	RH	6	258.3
E8R-16	RH	3	99.9
E8R-17	RH	1	60.9
E8R-18	RH	2	73.6
E8R-19	RH	2	14.3
E8R-20	RH	1	224.4
E8R-21	RH	1	165.0

母　岩	石 材	個数	重量
E8R-22	RH	1	45.0
E8R-23	RH	1	48.2
E8R-24	RH	1	16.1
E8R-25	CH	6	75.7
E8R-26	CH	1	11.5
E8R-27	CH	1	9.9
E8R-28	CH	1	5.8
E8R-29	CH	1	1.7
E8R-30	CH	1	1.0
E8R-31	TU	5	43.1
E8R-32	TU	4	40.7
E8R-33	TU	2	177.0
E8R-34	TU	2	44.6
E8R-35	TU	1	19.5
E8R-36	TU	2	43.4
E8R-37	TU	1	128.9
E8R-38	TU	1	74.7
E8R-39	TU	1	72.1
E8R-40	TU	1	77.8
E8R-41	HO	3	100.8

母　岩	石 材	個数	重量
E8R-42	HO	2	90.4
E8R-43	HO	1	38.1
E8R-44	HO	1	62.5
E8R-45	HO	1	74.0
E8R-46	HO	1	3.4
E8R-47	HO	1	2.5
E8R-114	CH	1	21.3
E8R-115	CH	2	24.1
E8R-156	TU	1	23.6
E8R-259	SA	2	28.4
その他	TU	1	0.1
その他	SA	1	1.6

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	19	1005.7
チャート(CH)	14	151.0
凝灰岩(TU)	22	745.5
砂岩(SA)	30	1014.2
ホルンフェルス(HO)	11	461.1
合　計	96	3377.5



第182図　Ｅ８-Ｃブロック出土遺物

・**E8-20**：自然面は概して平坦だが，一部に爪形の裂痕が密に見られ，自然面・内部・節理は灰色(5Y4/1)・灰オリーブ色（5Y4/2）が縞状に混じるチャートである。石核１点（200.5ｇ）の単独資料である。

・**E8-21**：灰色（7.5Y5/1）のホルンフェルスである。剥片１点（0.9ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，信州和田峠周辺産の黒曜石の剥片１点，砕片３点の合計４点(1.8ｇ）がある。

３）出土遺物（第182図１～８）

１・２は信州和田峠周辺産の黒曜石による加工痕ある剥片である。１は左側縁に調整加工を行っている。２は打面の左側に樋状剥離痕が見られる。

３は信州和田峠周辺産の黒曜石による使用痕ある剥片である。左側縁に微細な剥離痕が見られる。また，打面側に見られる微細な剥離痕も主要剥離面を切っている可能性がある。さらに，新旧関係は不明であるが，器体左側の自然面は階段状になっており，その稜線には表面方向からの微細な剥離痕が見られる。

４は硬質緻密な頁岩による縦長剥片である。末端が極度の蝶番状で，縦断面は「し」の字状である。

５～７は信州和田峠周辺産の黒曜石，８はチャートによる石核である。５は90度の打面転移を行いながら，小型で不定型な剥片を剥離している。６・７は剥片を素材として，小型で不定型な剥片を剥離している。加工痕ある剥片の可能性もある。８は打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。

４）接合資料とその関連資料（第182図９～15）

・**E8-７（第182図９～11）**　薄墨を流したような透明な地に黒灰色の縞が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。使用痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点で構成される。９は使用痕ある剥片１点（10），剥片１点（11）の接合資料である。10を剥離した後，90度打面を転移して，11を剥離している。10は右側縁の一部に微細な剥離痕が見られる。

・**E8-８（第182図12～15）**　薄墨を流したような半透明な地に灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。使用痕ある剥片１点，石核２点の合計３点で構成される。12は使用痕ある剥片１点（13），石核２点（14・15）の接合資料である。打面と作業面を入れ替えながら，13を含む不定型な剥片を剥離している。13は打面と左側縁の一部に微細な剥離痕が見られる。14・15は欠損後も，15は図上裏面側で，小型で不定型な剥片を剥離している。14は図上裏面の器体中央の稜線に欠損面を切る剥離痕が見られる。

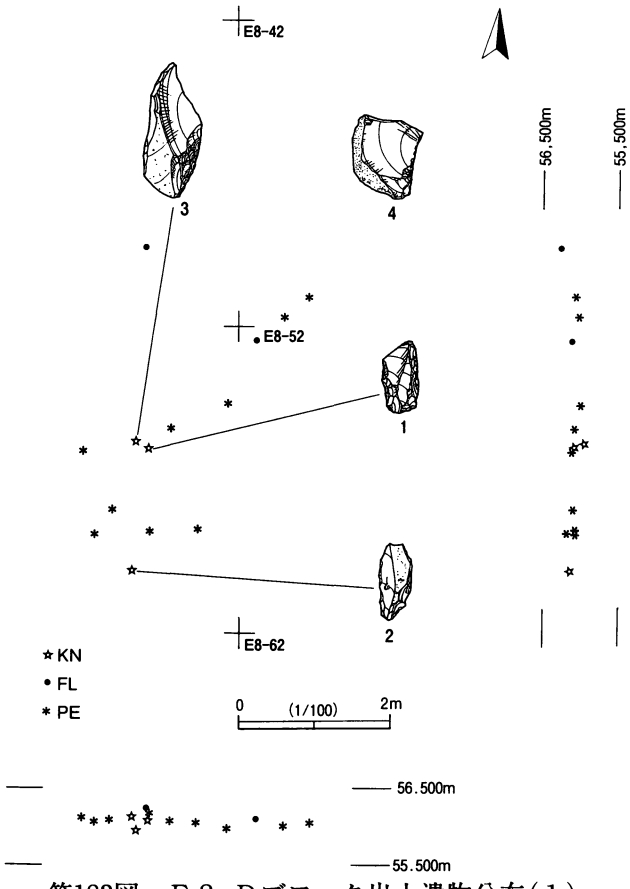
19　E8-Dブロック（第183～187図，第95～97表，カラー図版９，図版７）

１）ブロックの概要

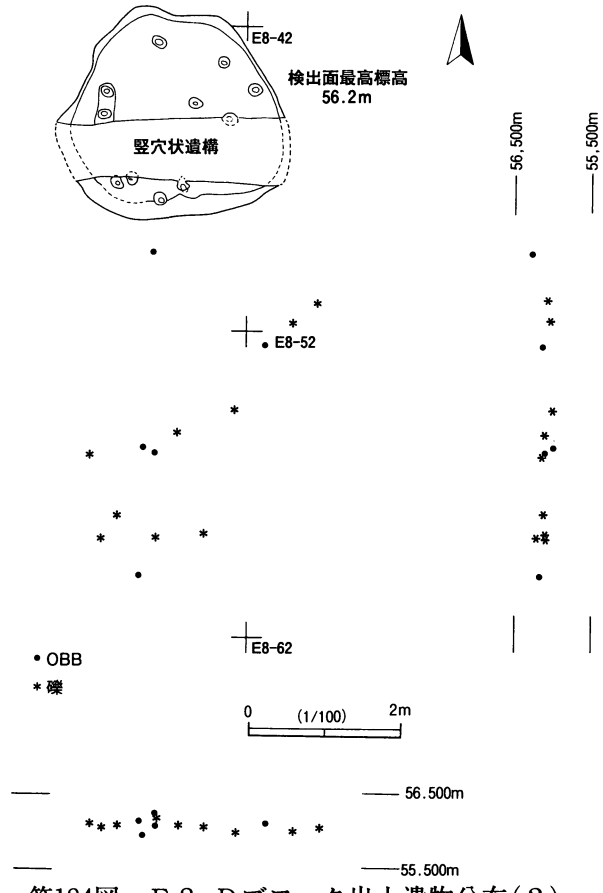
E8-Dブロックは，調査範囲南側のE8-41・42・51・52グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は30mである。

ブロックの規模と形状は，長軸５m，短軸２mの範囲に15点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層下部からⅣ層にかけて，30cmほどの高低差をもって包含されている（第183～186図)。

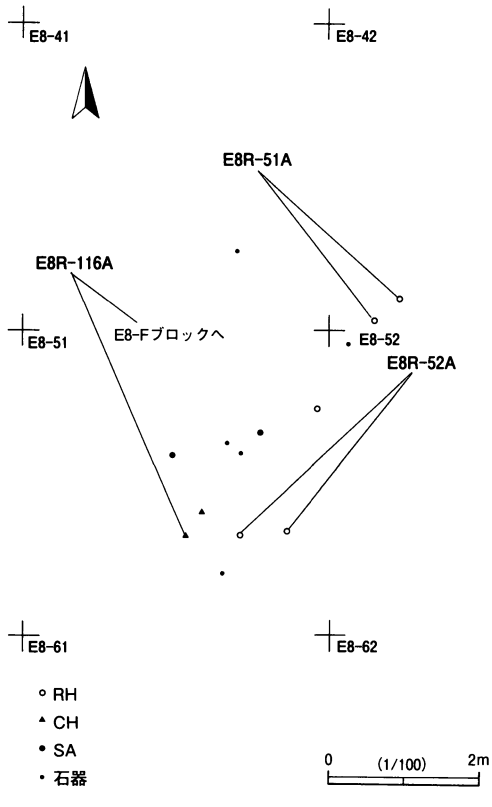
ブロックは，ナイフ形石器３点，使用痕ある剥片１点，剥片２点の合計６点と礫９点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ６点である。礫石材は，流紋岩５点（３母岩；304.1ｇ），チャート２点（２母岩；91.9ｇ），砂岩２点（２母岩；30.7ｇ）で，識別率は100％である。



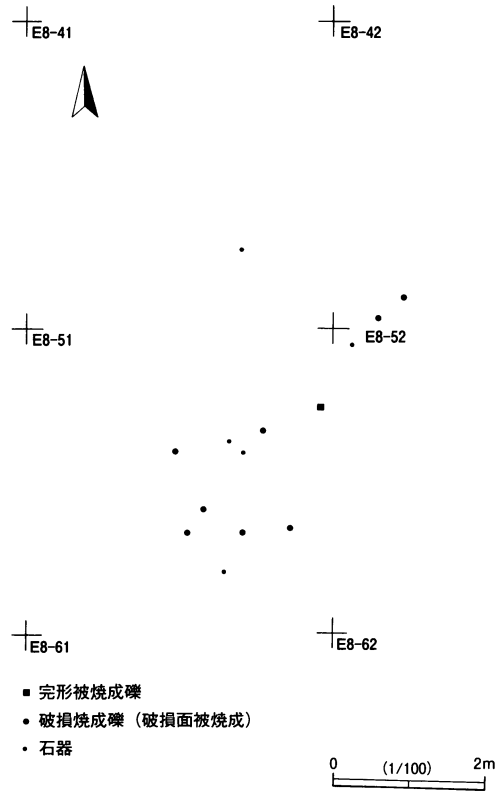
第183図　Ｅ８-Ｄブロック出土遺物分布（１）
－石器別分布－



第184図　Ｅ８-Ｄブロック出土遺物分布（２）
－石材別分布－



第185図　Ｅ８-Ｄブロック出土遺物分布（３）
－礫石材別分布－



第186図　Ｅ８-Ｄブロック出土遺物分布（４）
－礫焼成別分布－

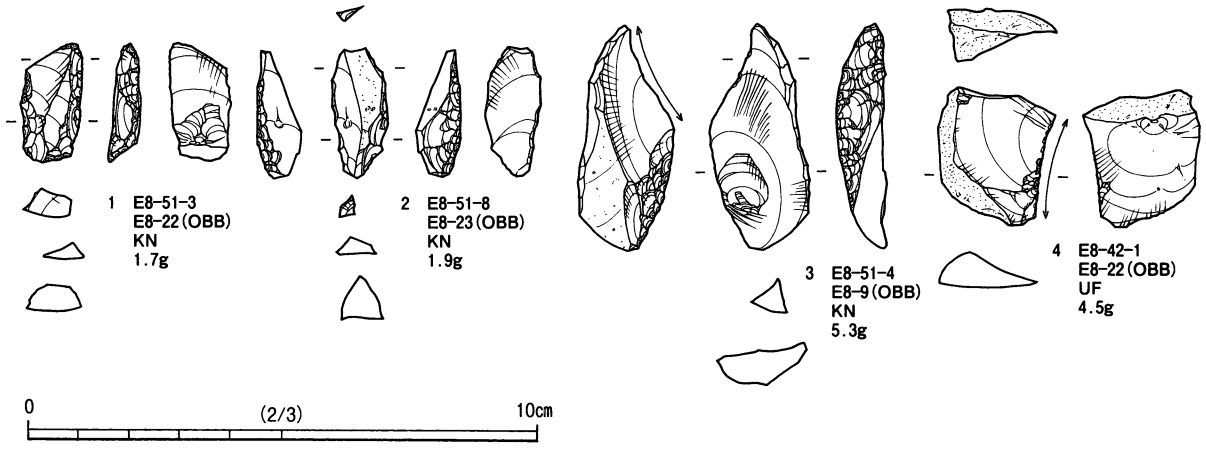
２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ３母岩（E8-９・22・23）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（6/6点）である。

・**E8-９**：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器１点（5.3ｇ）の単独資料である。

・**E8-22**：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，使用痕ある剥片１点，剥片２点の合計４点（9.0ｇ）である。

・**E8-23**：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器１点（1.9ｇ）の単独資料である。自然面の若干の相違などから母岩を分けたが，E8-9・22・23は同一母岩の可能性がある。



第187図　Ｅ８-Ｄブロック出土遺物

第95表　Ｅ８-Ｄブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
E8-9(OBB)	1																								1
E8-22(OBB)	1										1							2							4
E8-23(OBB)	1																								1
合　計	3										1							2							6

第96表　Ｅ８-Ｄブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石B(OBB)	3										1							2							6
合　計	3										1							2							6

第97表　Ｅ８-Ｄブロック礫組成表

母　岩	石　材	個数	重量
E8R-48	SA	1	23.6
E8R-49	SA	1	7.1
E8R-50	RH	1	206.6
E8R-51	RH	2	38.4
E8R-52	RH	2	59.1

母　岩	石　材	個数	重量
E8R-116	CH	1	88.6
E8R-242	CH	1	3.3

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	5	304.1
チャート(CH)	2	91.9
砂岩(SA)	2	30.7
合　計	9	426.7

３）出土遺物（第187図）

１～３は信州和田峠周辺産の黒曜石による切出形あるいは二側縁加工のナイフ形石器である。１・２は打面を基部として，両側縁に調整加工を行っている。１は切出形で，打面が残っている。３は横長剥片を横位に用い，左側縁と右側縁下半部に調整加工を行っている。右側縁上半部に微細な剥離痕が見られる。

４は信州和田峠周辺産の黒曜石による使用痕ある剥片である。右側縁に微細な剥離痕が見られる。

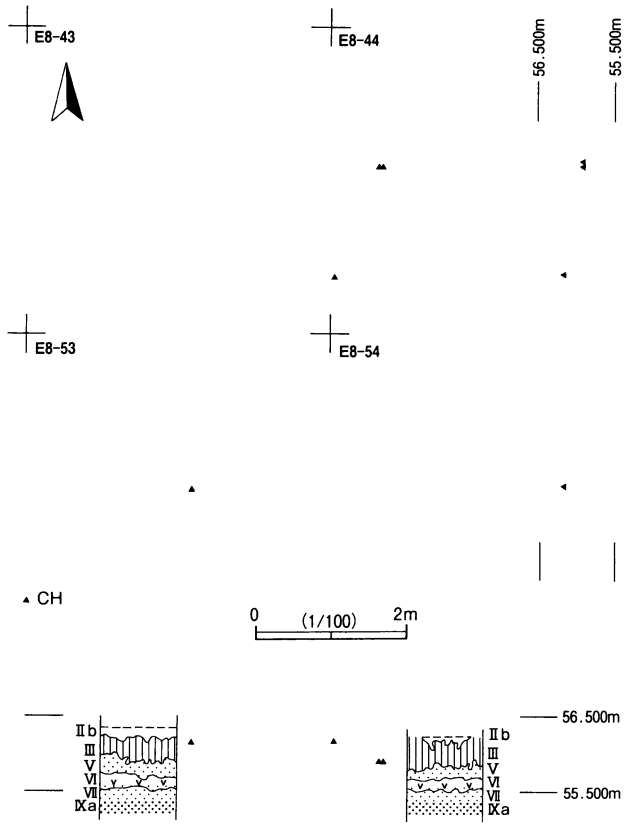
20　E8-Eブロック（第188・189図，第98表，図版６）

１）ブロックの概要

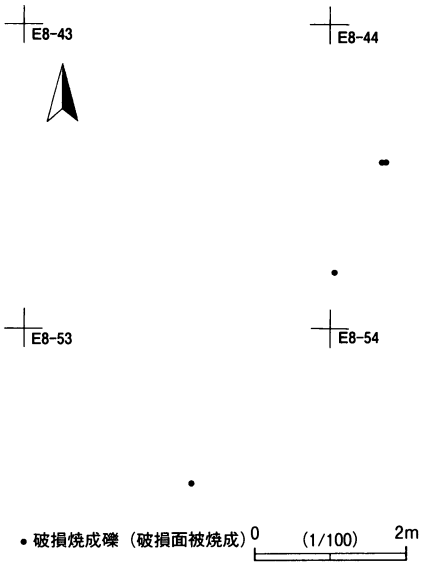
E8-Eブロックは，調査範囲南側のE8-44・53グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は10mである。

ブロックの規模と形状は，５mの直線上に４点の礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層を中心として，30cmほどの高低差をもって包含されている（第188・189図）。

ブロックは，礫４点で構成される。礫石材は，チャート４点（４母岩；56.2ｇ）で，識別率は100％である。本ブロックは，チャートによる礫のみで，石器はない。



第188図　Ｅ８-Ｅブロック出土遺物分布（１）
－礫石材別分布－



第189図　Ｅ８-Ｅブロック出土遺物分布（２）
－礫焼成別分布－

第98表　E8-Eブロック礫組成表

母　岩	石 材	個数	重量
E8R-53	CH	1	23.4
E8R-54	CH	1	20.6
E8R-55	CH	1	7.8
E8R-56	CH	1	4.4

石　材	個数	重量
チャート(CH)	4	56.2
合　計	4	56.2

21　E8-Fブロック（第190～195図，第99～101表，カラー図版9，図版7）

1）ブロックの概要

E8-Fブロックは，調査範囲南側のE8-46・54～56・64グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は10mである。

ブロックの規模と形状は，長軸8m，短軸5mの範囲に225点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅤ層にかけて，60cmほどの高低差をもって包含されている（第190～194図）。

ブロックは，ナイフ形石器1点，削器1点，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片3点，剥片20点，石核2点の合計28点と礫197点で構成される。石器石材は，黒曜石B26点，頁岩E1点，瑪瑙・玉髄1点である。礫石材は，安山岩2点（2母岩；55.7g），流紋岩22点（18母岩；862.6g），頁岩5点（3母岩；91.8g），チャート47点（33母岩；894.7g），凝灰岩27点（16母岩；1,334.0g），砂岩77点（42母岩；2,282.9g），ホルンフェルス11点（10母岩；271.8g），識別できなかった流紋岩1点（0.3g）・チャート5点（10.0g）で，識別率は97%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは17母岩を識別した。内訳は，黒曜石B15母岩（E8-24～35・48・59・60），頁岩E1母岩（E8-36），瑪瑙・玉髄1母岩（E8-37）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（28/28点）である。

・**E8-24**：自然面は紙ヤスリ状で凹凸があり，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。φ1mm～2mmほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片3点（3.3g）である。

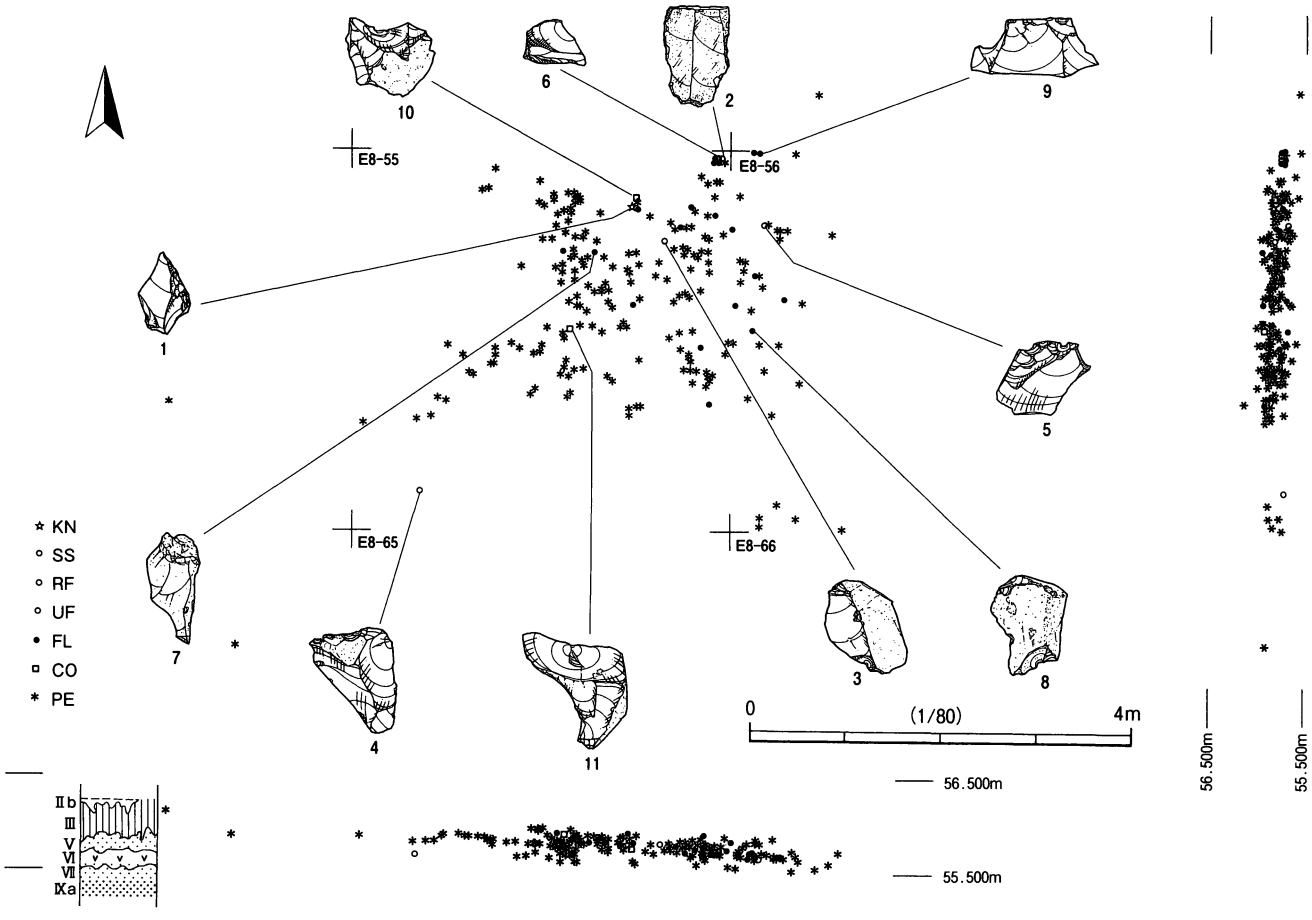
・**E8-25**：自然面は凹凸が激しい部分と平滑な部分があり，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。φ2mmほどの黄灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片1点，石核1点の合計2点（9.8g）である。

・**E8-26**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色の縞が多数入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。加工痕ある剥片1点（6.7g）の単独資料である。

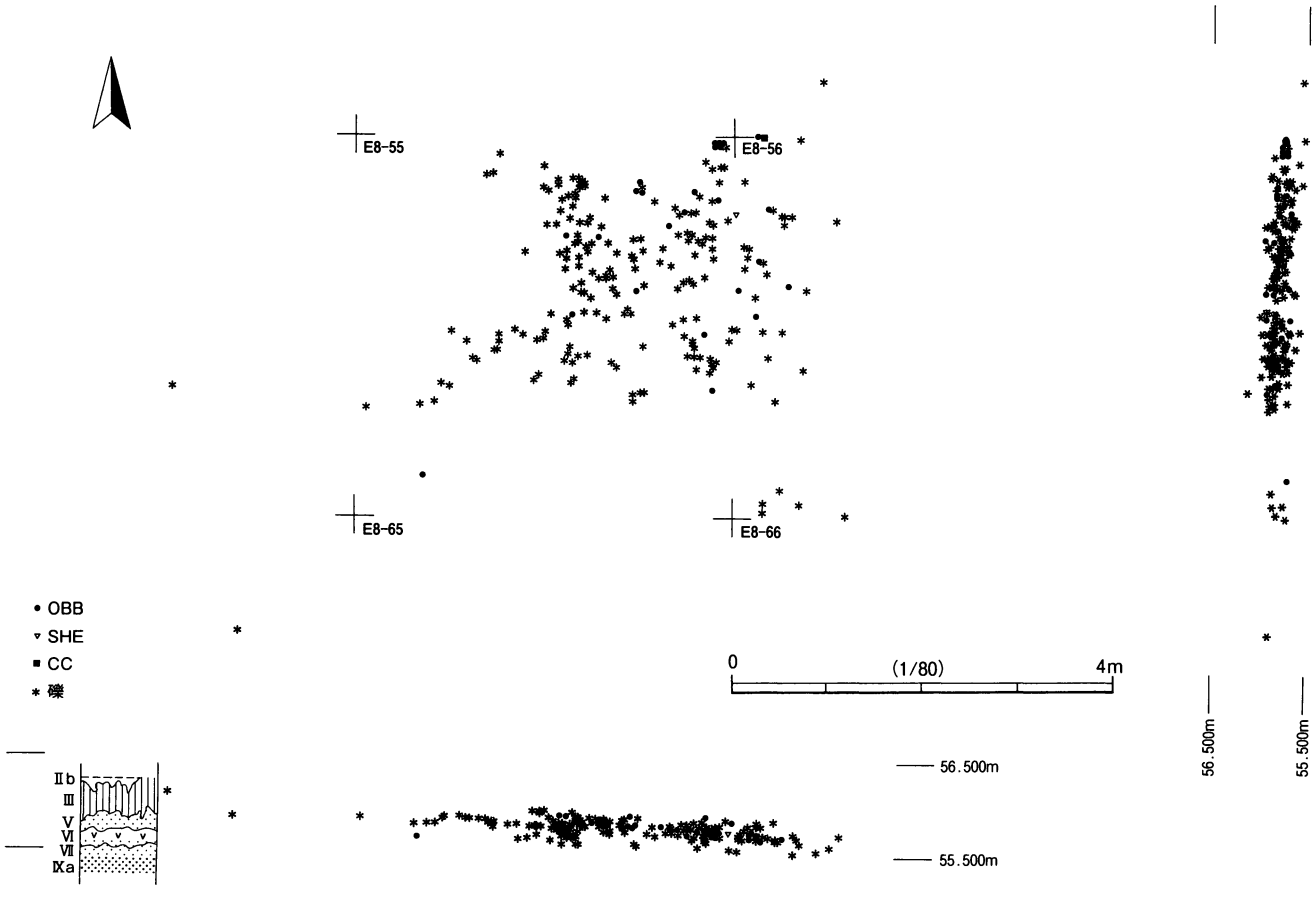
・**E8-27**：薄墨を流したような透明な地に灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器1点（1.6g）の単独資料である。

・**E8-28**：薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，剥片8点の合計9点（8.9g）である。

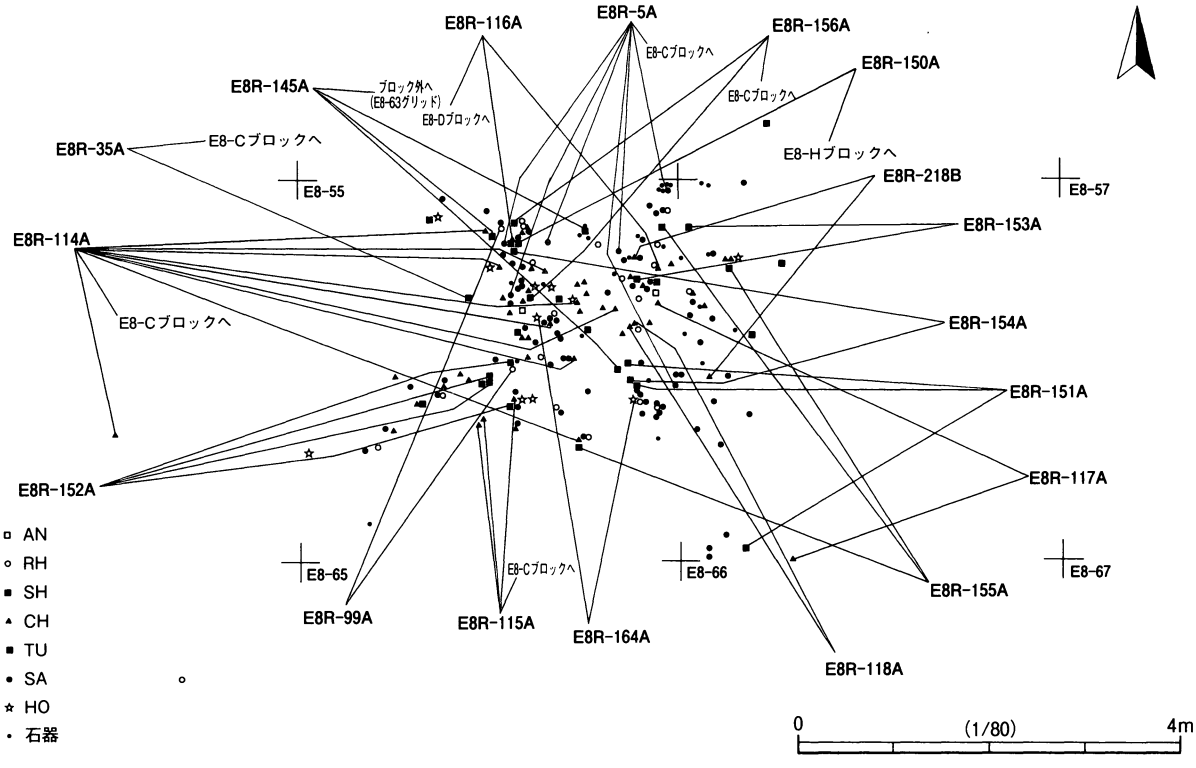
・**E8-29**：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。削器1点（4.7g）の単独資料である。



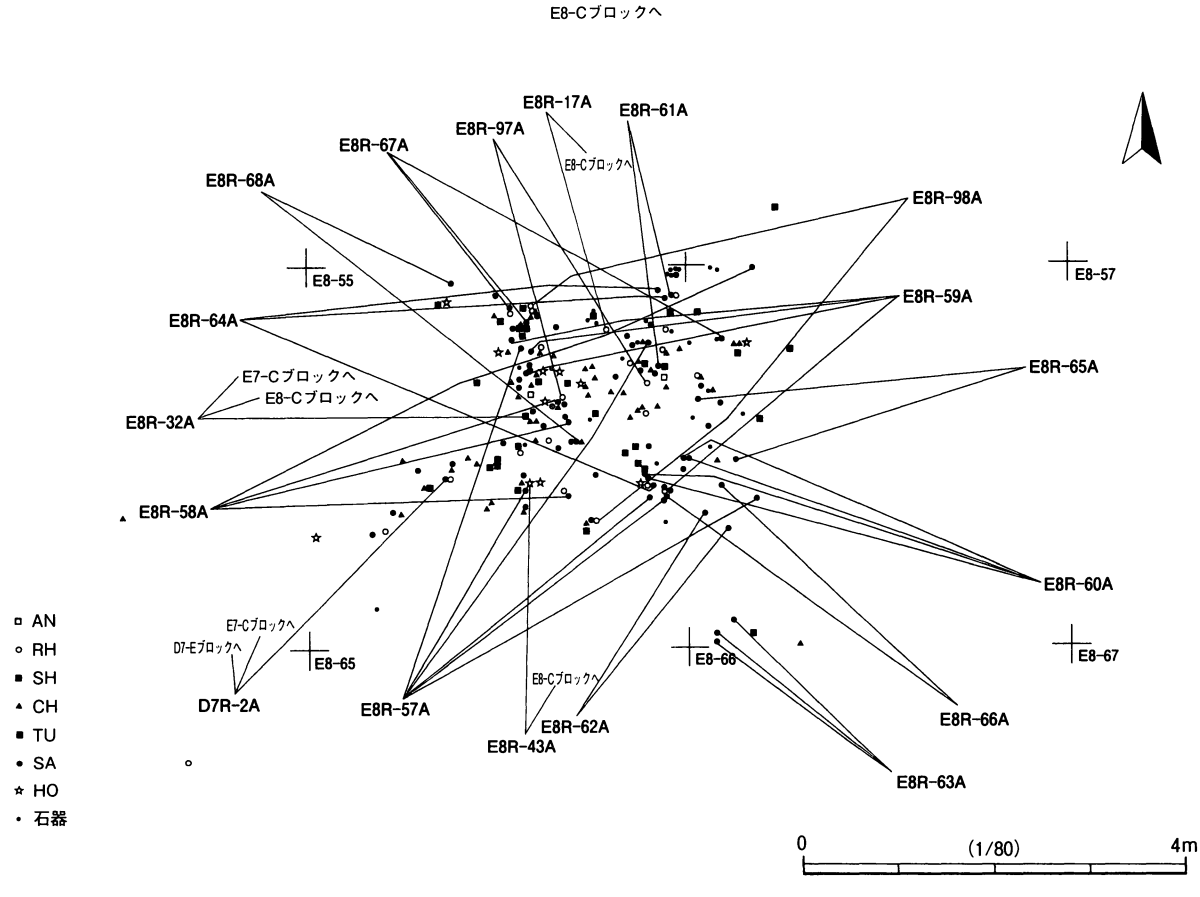
第190図　Ｅ８-Ｆブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



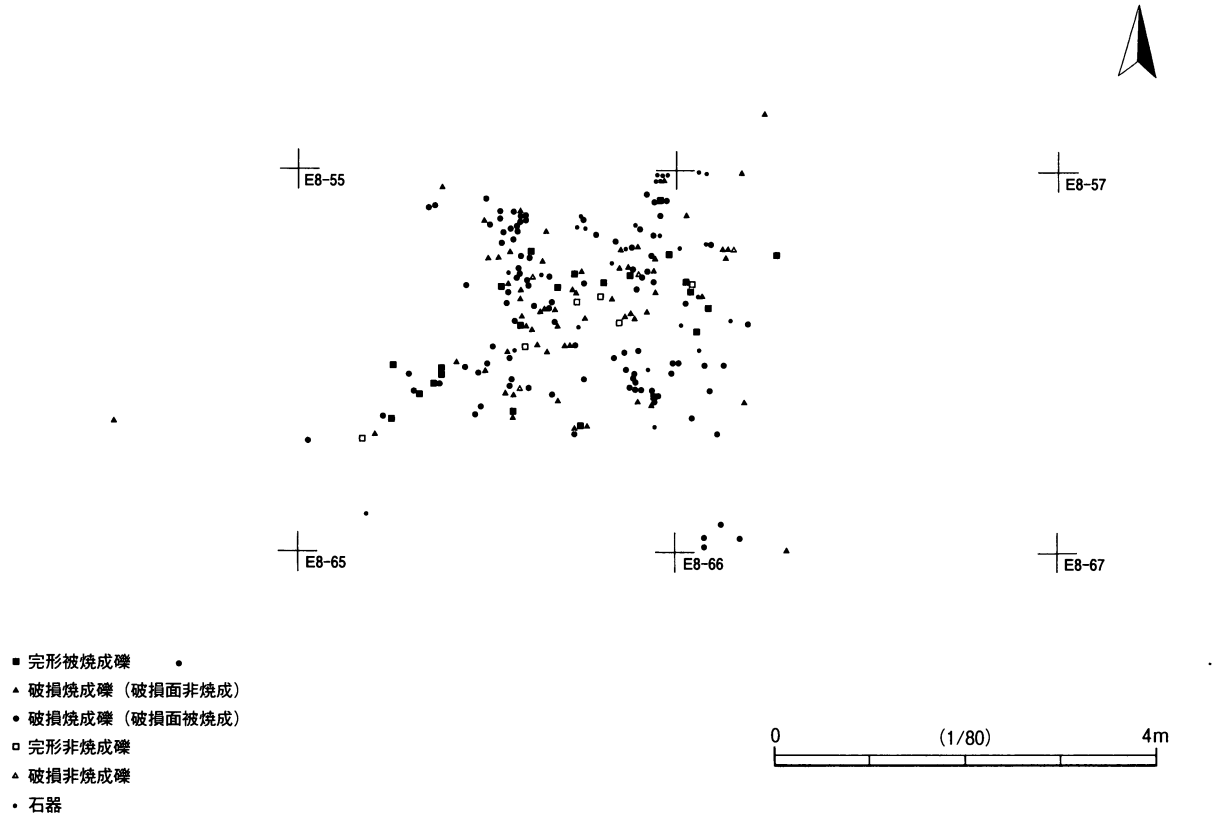
第191図　Ｅ８-Ｆブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第192図　Ｅ８-Ｆブロック出土遺物分布（３）－礫石材別分布（１）－



第193図　Ｅ８-Ｆブロック出土遺物分布（４）－礫石材別分布（２）－



第194図　Ｅ８－Ｆブロック出土遺物分布（５）－礫焼成別分布－

・**E8-30**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色の縞が部分的に多数入る黒曜石である。φ３㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（6.1ｇ）の単独資料である。

・**E8-31**：自然面は紙ヤスリ状で爪形の裂痕が粗な部分と平滑な部分があり，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（3.0ｇ）の単独資料である。

・**E8-32**：自然面は紙ヤスリ状で爪形の裂痕が密で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。E8-31と同一母岩の可能性がある。剥片１点（4.6ｇ）の単独資料である。

・**E8-33**：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な地に黒灰色のモヤが縞状に入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。使用痕ある剥片１点（2.3ｇ）の単独資料である。

・**E8-34**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は黒灰色半透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石核１点（10.8ｇ）の単独資料である。

・**E8-35**：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色の縞が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（2.5ｇ）の単独資料である。

・**E8-36**：浅黄色（2.5Y7/3）の地に暗灰黄色（2.5Y5/2）が部分的に混じる頁岩である。剥片１点（0.7ｇ）の単独資料である。

・**E8-37**：内部はにぶい黄橙色（10YR7/4）の地に黄褐色（10YR5/6）が部分的に混じり，全体に黒灰色の粒が入り，新鮮な面は灰白色（10YR8/1）の瑪瑙・玉髄である。剥片１点（6.2ｇ）の単独資料である。

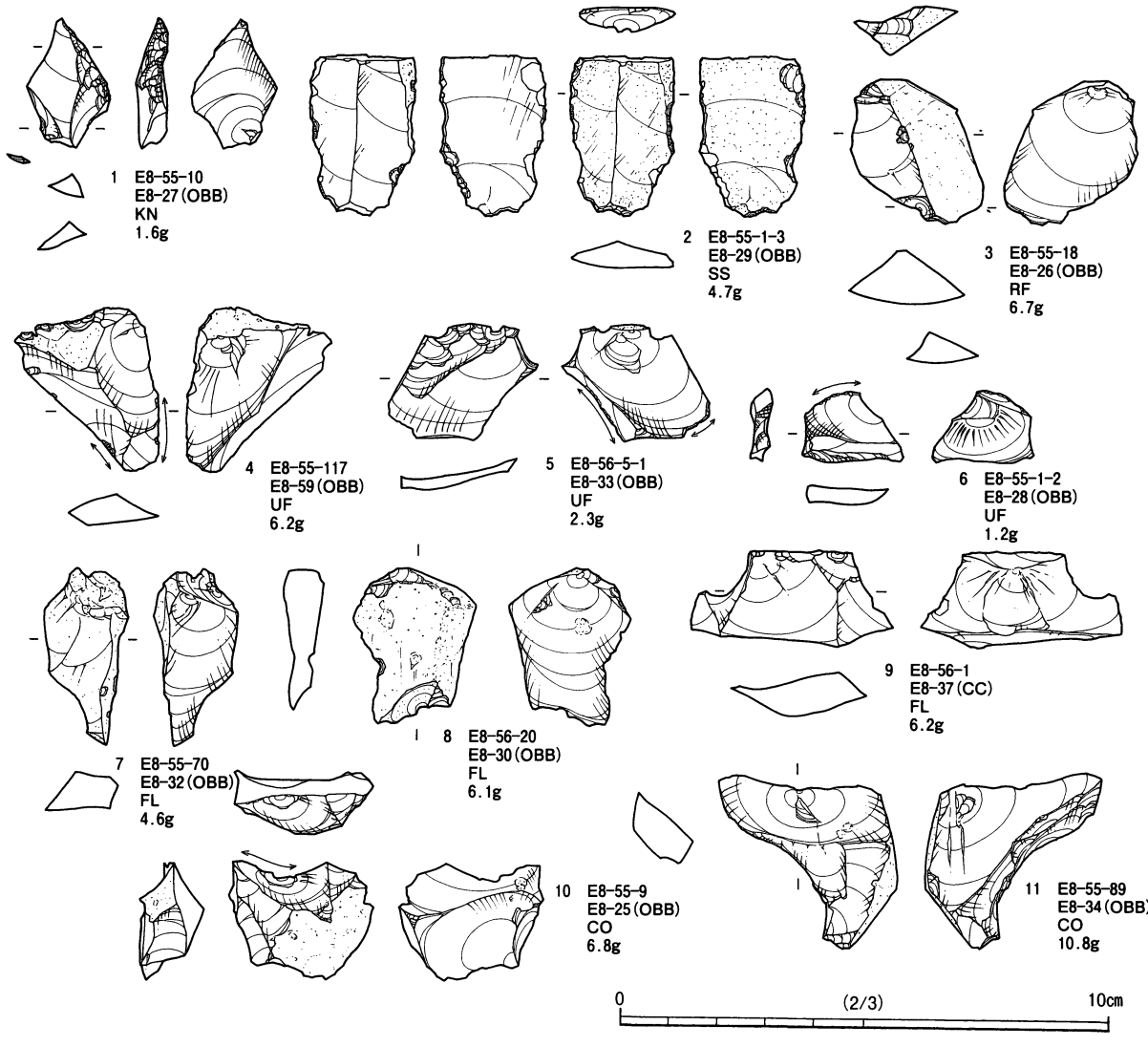
・**E8-48**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（3.0ｇ）の単独資料である。

・**E8-59**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な地に黒色・黒褐色のモヤが縞状に入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。使用痕ある剥片１点（6.2ｇ）の単独資料である。

・**E8-60**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は黒色不透明の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（2.7ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第195図）

１は信州和田峠周辺産の黒曜石による部分加工のナイフ形石器である。右側縁上半部に調整加工を行っている。



第195図　Ｅ８-Ｆブロック出土遺物

２は信州和田峠周辺産の黒曜石による削器である。２重パティナの痕跡が残る石器の二次利用に関する資料である。ところで，黒曜石の場合，新規の欠損であっても，水和層の発達などの風化によって，若干光沢が鈍くなることもあるが，この資料についてはガジリと思われるより新しい光沢が観察されることから，その可能性は低いと思われる。さて，図上左側の２面が，石刃の表面両側縁の一部と裏面左側縁に調整加工痕が残る当初のもので，全体がローリングしている。その後，この資料が原石（素材）として，原産地で，あるいは遺跡に持ち込まれて，右側の２面に図示したように，折断され，末端と両側縁の一部に調整加工が行われている。これらの調整加工と折断面は当初のパティナとは異なり，光沢がある。このように元の素材は，石器ではなかったかというような資料は他にも散見されるが，現在でも原産地周辺の沢筋では前者のような石器や石器に類似した資料を採集することが可能である。

３は信州和田峠周辺産の黒曜石による加工痕ある剥片である。末端の一部に調整加工を行っている。

４～６は信州和田峠周辺産の黒曜石による使用痕ある剥片である。４は両側縁の末端側，５は裏面両側縁の末端側に微細な剥離痕が見られる。６は打面側に左側面の折断面を切る微細な剥離痕が見られる。

７・８は信州和田峠周辺産の黒曜石よる縦長剥片である。９は瑪瑙・玉髄による横長剥片である。

10・11は信州和田峠周辺産の黒曜石による石核である。小型な剥片を素材として，不定型な剥片を剥離している。10は打面側に微細な剥離痕が見られる。

第99表　Ｅ８-Ｆブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
E8-24(OBB)																		3							3
E8-25(OBB)																		1		1					2
E8-26(OBB)										1															1
E8-27(OBB)	1																								1
E8-28(OBB)											1							8							9
E8-29(OBB)						1																			1
E8-30(OBB)																		1							1
E8-31(OBB)																		1							1
E8-32(OBB)																		1							1
E8-33(OBB)											1														1
E8-34(OBB)																				1					1
E8-35(OBB)																		1							1
E8-36(SHE)																		1							1
E8-37(CC)																		1							1
E8-48(OBB)																		1							1
E8-59(OBB)											1														1
E8-60(OBB)																		1							1
合　計	1					1				1	3							20		2					28

第100表　Ｅ８-Ｆブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)	1					1				1	3							18		2					26
頁岩E(SHE)																		1							1
瑪瑙・玉髄(CC)																		1							1
合　計	1					1				1	3							20		2					28

第101表　E8-Fブロック礫組成表

母　岩	石 材	個数	重量
D7R-2	SA	1	6.4
E8R-5	SA	11	171.8
E8R-17	RH	1	48.2
E8R-32	TU	1	20.2
E8R-35	TU	1	49.0
E8R-43	HO	1	3.6
E8R-57	SA	6	689.4
E8R-58	SA	4	77.3
E8R-59	SA	4	108.3
E8R-60	SA	4	173.4
E8R-61	SA	2	111.6
E8R-62	SA	2	84.1
E8R-63	SA	3	127.7
E8R-64	SA	3	55.6
E8R-65	SA	2	30.9
E8R-66	SA	2	78.4
E8R-67	SA	3	53.5
E8R-68	SA	2	15.4
E8R-69	SA	1	64.4
E8R-70	SA	1	53.3
E8R-71	SA	1	27.3
E8R-72	SA	1	17.3
E8R-73	SA	1	28.2
E8R-74	SA	1	18.5
E8R-75	SA	1	17.6
E8R-76	SA	1	16.0
E8R-77	SA	1	14.6
E8R-78	SA	1	13.8
E8R-79	SA	1	10.6
E8R-80	SA	1	27.5
E8R-81	SA	1	28.9
E8R-82	SA	1	14.3
E8R-83	SA	1	24.3
E8R-84	SA	1	25.4
E8R-85	SA	1	17.5
E8R-86	SA	1	17.0
E8R-87	SA	1	8.5
E8R-88	SA	1	12.5
E8R-89	SA	1	10.7
E8R-90	SA	1	9.0
E8R-91	SA	1	7.9
E8R-92	SA	1	2.9
E8R-93	SA	1	6.4
E8R-94	SA	1	1.3
E8R-95	SA	1	2.3

母　岩	石 材	個数	重量
E8R-96	SA	1	1.1
E8R-97	RH	2	170.4
E8R-98	RH	3	66.1
E8R-99	RH	2	17.0
E8R-100	RH	1	105.4
E8R-101	RH	1	106.5
E8R-102	RH	1	29.2
E8R-103	RH	1	85.5
E8R-104	RH	1	45.2
E8R-105	RH	1	48.1
E8R-106	RH	1	22.5
E8R-107	RH	1	30.7
E8R-108	RH	1	24.7
E8R-109	RH	1	15.2
E8R-110	RH	1	20.2
E8R-111	RH	1	13.7
E8R-112	RH	1	9.8
E8R-113	RH	1	4.2
E8R-114	CH	9	172.8
E8R-115	CH	3	51.6
E8R-116	CH	2	102.7
E8R-117	CH	2	46.4
E8R-118	CH	2	18.9
E8R-119	CH	1	37.8
E8R-120	CH	1	54.7
E8R-121	CH	1	71.2
E8R-122	CH	1	32.2
E8R-123	CH	1	24.9
E8R-124	CH	1	19.5
E8R-125	CH	1	20.8
E8R-126	CH	1	14.4
E8R-127	CH	1	20.1
E8R-128	CH	1	23.5
E8R-129	CH	1	24.6
E8R-130	CH	1	16.2
E8R-131	CH	1	11.6
E8R-132	CH	1	26.2
E8R-133	CH	1	10.8
E8R-134	CH	1	14.3
E8R-135	CH	1	9.4
E8R-136	CH	1	17.2
E8R-137	CH	1	7.4
E8R-138	CH	1	9.9
E8R-139	CH	1	3.9
E8R-140	CH	1	4.3

母　岩	石 材	個数	重量
E8R-141	CH	1	1.9
E8R-142	CH	1	1.6
E8R-143	CH	1	4.2
E8R-144	CH	1	2.5
E8R-145	SH	3	61.6
E8R-146	SH	1	9.5
E8R-147	SH	1	20.7
E8R-148	AN	1	27.5
E8R-149	AN	1	28.2
E8R-150	TU	1	103.2
E8R-151	TU	3	479.3
E8R-152	TU	4	22.3
E8R-153	TU	2	131.0
E8R-154	TU	3	174.8
E8R-155	TU	3	89.7
E8R-156	TU	2	87.5
E8R-157	TU	1	72.2
E8R-158	TU	1	25.1
E8R-159	TU	1	40.6
E8R-160	TU	1	20.0
E8R-161	TU	1	7.2
E8R-162	TU	1	8.4
E8R-163	TU	1	3.5
E8R-164	HO	2	110.2
E8R-165	HO	1	55.0
E8R-166	HO	1	46.4
E8R-167	HO	1	20.0
E8R-168	HO	1	12.3
E8R-169	HO	1	9.0
E8R-170	HO	1	7.6
E8R-171	HO	1	5.0
E8R-172	HO	1	2.7
E8R-218	CH	2	15.6
E8R-221	CH	1	1.6
その他	RH	1	0.3
その他	CH	5	10.0

石　材	個数	重量
安山岩(AN)	2	55.7
流紋岩(RH)	23	862.9
頁岩(SH)	5	91.8
チャート(CH)	52	904.7
凝灰岩(TU)	27	1334.0
砂岩(SA)	77	2282.9
ホルンフェルス(HO)	11	271.8
合　計	197	5803.8

22　E8-Gブロック（第196～201図，第102～104表，カラー図版10，図版7）

1）ブロックの概要

E8-Gブロックは，調査範囲南側のE8-85・86・95・96グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は10mである。

ブロックの規模と形状は，直径6mの範囲に219点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅥ層にかけて，50cmほどの高低差をもっているが，中心はⅢ層で30cmほどの高低差をもって包含されている（第196～200図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，加工痕ある剥片４点，使用痕ある剥片２点，剥片８点，砕片３点，石核１点の合計19点と礫200点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ17点，軟質の安山岩１点，凝灰岩１点である。礫石材は，流紋岩21点（10母岩;909.7ｇ），頁岩５点（３母岩;129.6ｇ），チャート27点（９母岩;470.9ｇ），凝灰岩７点（４母岩;272.4ｇ），砂岩98点（38母岩;1,705.5ｇ），ホルンフェルス26点（10母岩;769.5ｇ），識別できなかった凝灰岩１点（0.1ｇ）・砂岩15点（67.1ｇ）で，識別率は92％である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは12母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ10母岩(E8-38～47)，軟質の安山岩１母岩(E8-49)，凝灰岩１母岩（E8-50）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は84％（16/19点）である。

・**E8-38**：自然面は紙ヤスリ状の部分と平滑な部分があり，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片２点，剥片２点の合計４点（11.2ｇ）である。

・**E8-39**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片２点（6.8ｇ）である。

・**E8-40**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色の縞が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。使用痕ある剥片１点（31.4ｇ）の単独資料である。

・**E8-41**：薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器１点（3.0ｇ）の単独資料である。

・**E8-42**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（1.7ｇ）の単独資料である。

・**E8-43**：自然面は平滑で，自然面及び内部は若干褐色がかった黒色不透明の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（1.7ｇ）の単独資料である。

・**E8-44**：自然面は紙ヤスリ状で凹凸があり，自然面及び内部は黒灰色半透明の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（2.0ｇ）の単独資料である。

・**E8-45**：薄墨を流したような透明な地に灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（1.5ｇ）の単独資料である。

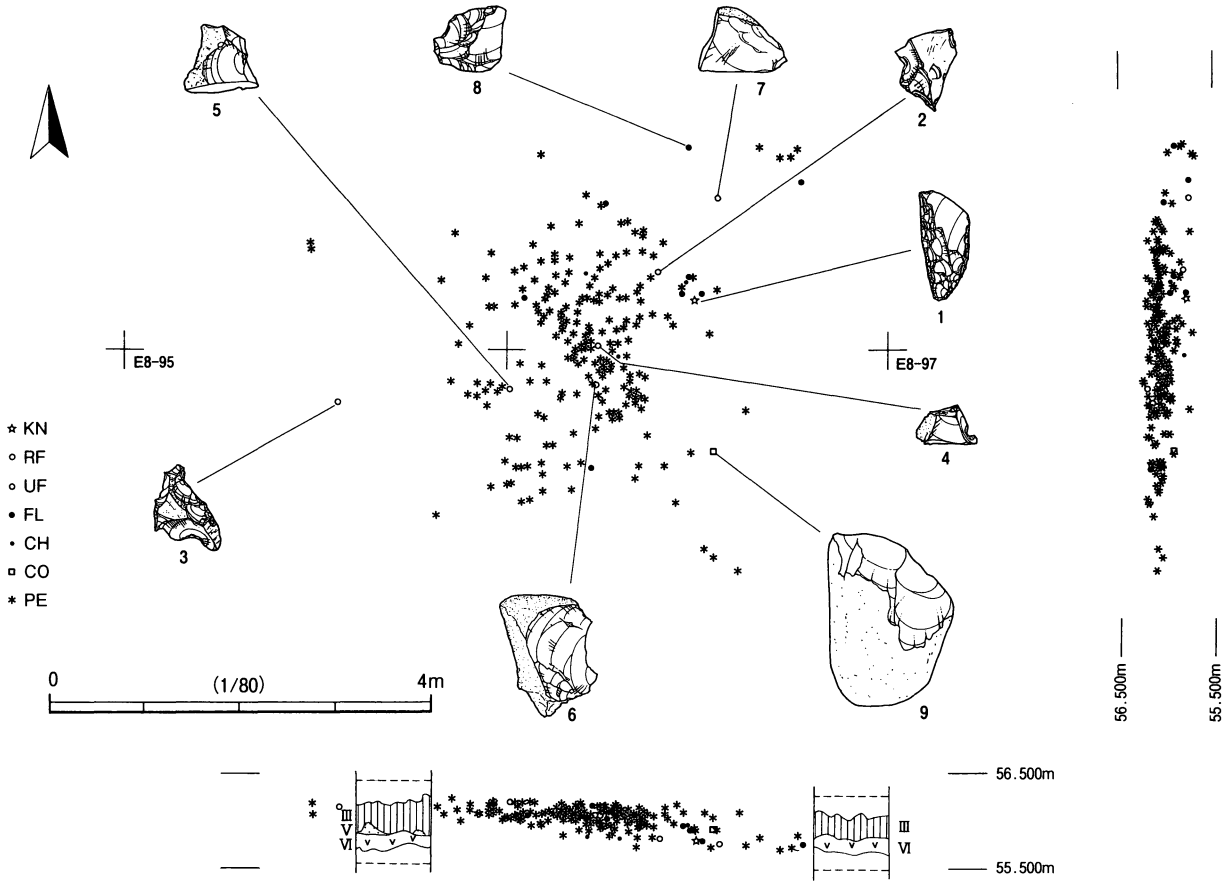
・**E8-46**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明で光沢のない黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（2.8ｇ）の単独資料である。

・**E8-47**：灰白色半透明で光沢のない黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（2.8ｇ）の単独資料である。光沢を失ったのは，被熱によるものと思われる。

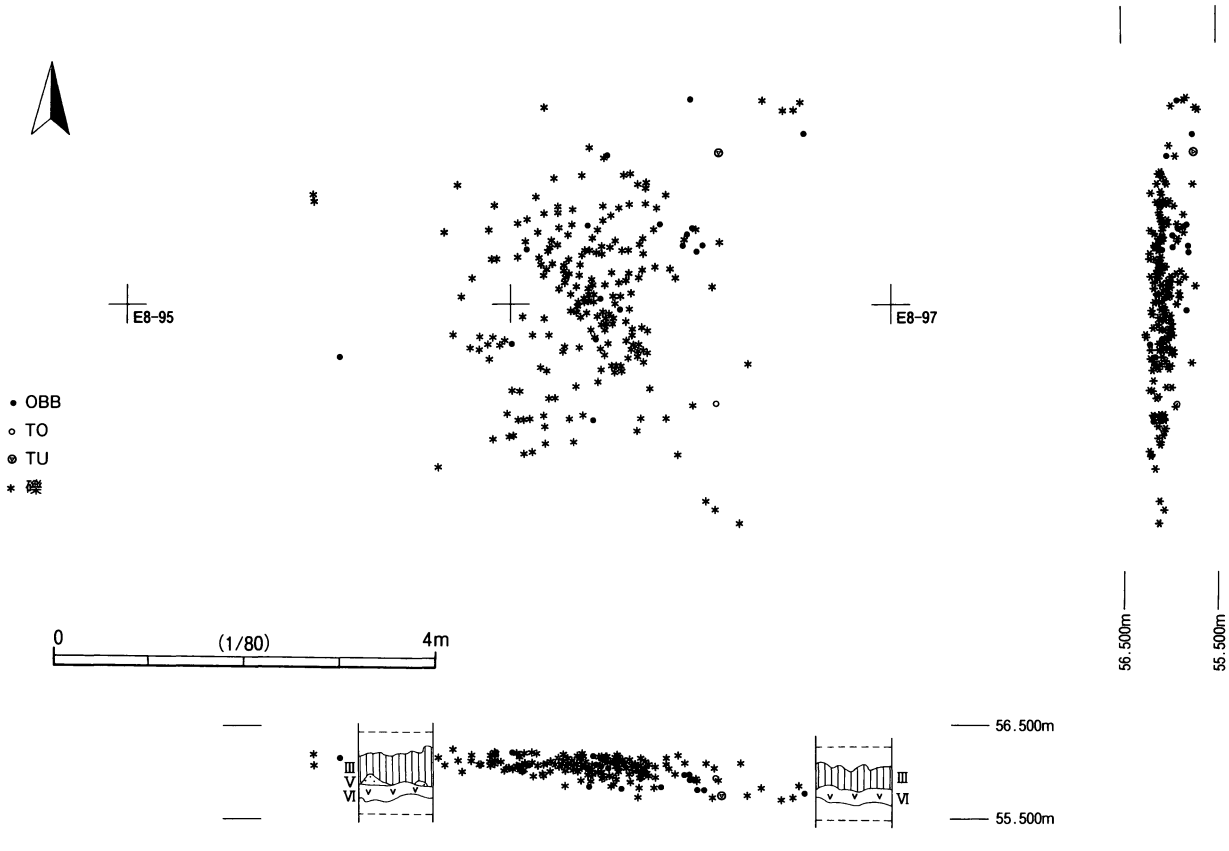
・**E8-49**：自然面は平滑で浅黄色（2.5Y7/4）の地ににぶい褐色（7.5YR5/4）・灰黄褐色（10YR6/2）が部分的に混じり，内部は浅黄色（2.5Y7/4），新鮮な面は灰白色（2.5Y7/1）の軟質な安山岩である。石核１点（77.4ｇ）の単独資料である。

・**E8-50**：自然面は平滑で浅黄色（5Y7/3），内部は灰白色（5Y7/2）の凝灰岩である。使用痕ある剥片１点（5.6ｇ）の単独資料である。

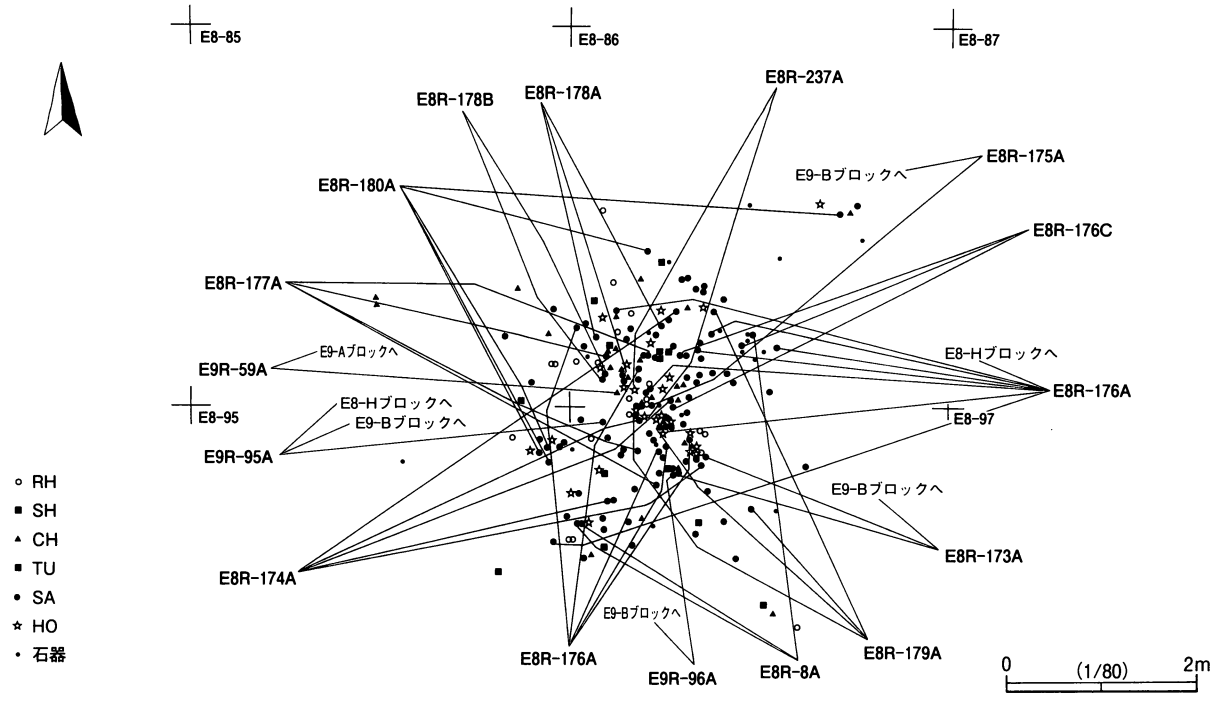
なお，母岩分類できなかった資料に，信州和田峠周辺産の黒曜石の砕片３点（0.4ｇ）がある。



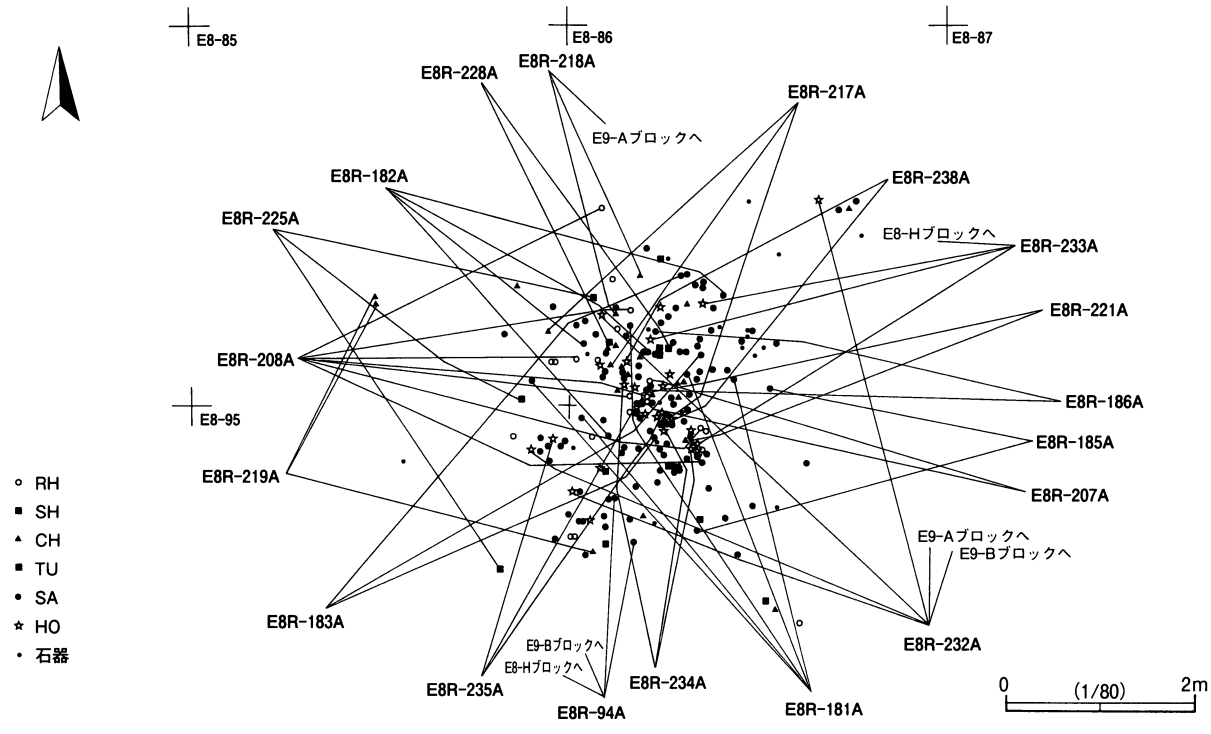
第196図　Ｅ８-Ｇブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



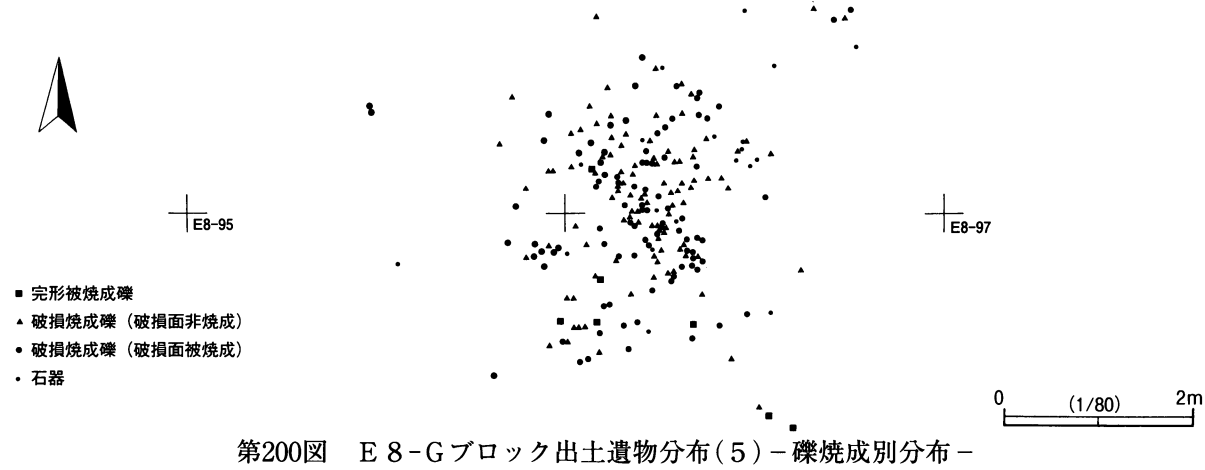
第197図　Ｅ８-Ｇブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第198図　Ｅ８-Ｇブロック出土遺物分布（３）－礫石材別分布（１）－



第199図　Ｅ８-Ｇブロック出土遺物分布（４）－礫石材別分布（２）－



第200図　Ｅ８-Ｇブロック出土遺物分布（５）－礫焼成別分布－

３）出土遺物（第201図）

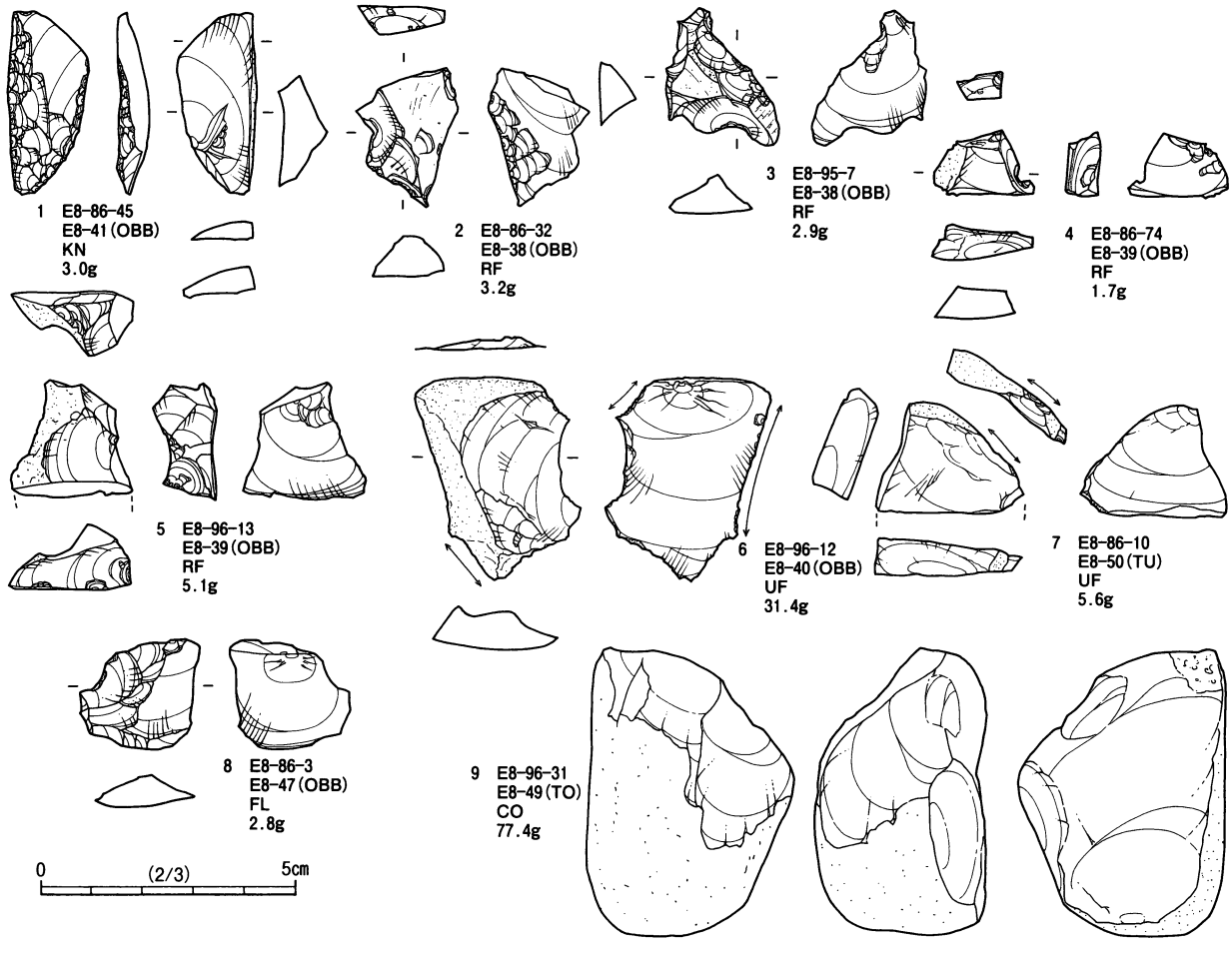
１は信州和田峠周辺産の黒曜石による二側縁加工のナイフ形石器である。左側縁と右側縁下半部に調整加工を行っている。左側縁については，主要剥離面とは直接新旧関係はないが，基部側での切合関係から判断した。

２～５は信州和田峠周辺産の黒曜石による加工痕ある剥片である。２は表面左側縁と裏面左側縁，３は末端と右側縁に調整加工を行っているが，比較的大きな剥離痕が見られることから，石核からの転用かもしれない。４は右側面の折断面に調整加工を行っている。５は右側面の末端側に調整加工を行っているが、主要剥離面とは直接新旧関係がないので、剥片とした方が良いかもしれない。

６は信州和田峠周辺産の黒曜石による使用痕ある剥片である。６は表面左側縁の下部、裏面左側縁の上部と右側縁、７は凝灰岩による使用痕ある剥片である。右側縁に微細な剥離痕が見られる。

８は信州和田峠周辺産の黒曜石よる不定型な剥片である。

９は軟質な安山岩による石核である。不定型な礫を素材として，打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。



第201図　E８-Gブロック出土遺物

第102表　Ｅ８-Ｇブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
E8-38(OBB)										2								2							4
E8-39(OBB)										2															2
E8-40(OBB)											1														1
E8-41(OBB)	1																								1
E8-42(OBB)																		1							1
E8-43(OBB)																		1							1
E8-44(OBB)																		1							1
E8-45(OBB)																		1							1
E8-46(OBB)																		1							1
E8-47(OBB)																		1							1
E8-49(TO)																				1					1
E8-50(TU)											1														1
その他(OBB)																			3						3
合　計	1									4	2							8	3	1					19

第103表　Ｅ８-Ｇブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)	1									4	1							8	3						17
安山岩(TO)																				1					1
凝灰岩(TU)											1														1
合　計	1									4	2							8	3	1					19

第104表　Ｅ８-Ｇブロック礫組成表

母　岩	石　材	個数	重量
E8R-8	SA	3	26.4
E8R-173	SA	2	62.5
E8R-174	SA	5	116.5
E8R-175	SA	1	18.6
E8R-176	SA	15	226.0
E8R-177	SA	4	117.5
E8R-178	SA	5	97.2
E8R-179	SA	4	56.3
E8R-180	SA	5	42.1
E8R-181	SA	5	51.9
E8R-182	SA	4	58.5
E8R-183	SA	4	64.7
E8R-184	SA	3	62.8
E8R-185	SA	2	13.2
E8R-186	SA	2	13.0
E8R-187	SA	1	13.4
E8R-188	SA	2	18.5
E8R-189	SA	2	5.6
E8R-190	SA	8	34.1
E8R-191	SA	1	196.8
E8R-192	SA	1	58.4
E8R-193	SA	1	47.5
E8R-194	SA	1	24.1
E8R-195	SA	1	35.5
E8R-196	SA	1	10.4
E8R-197	SA	1	31.2
E8R-198	SA	1	27.0
E8R-199	SA	1	27.2
E8R-200	SA	1	15.9
E8R-201	SA	1	6.4

母　岩	石　材	個数	重量
E8R-202	SA	2	14.3
E8R-203	SA	1	17.4
E8R-204	SA	1	9.0
E8R-205	SA	1	6.6
E8R-206	SA	1	6.5
E8R-207	RH	3	274.3
E8R-208	RH	9	200.1
E8R-209	RH	2	96.7
E8R-210	RH	1	194.9
E8R-211	RH	1	48.1
E8R-212	RH	1	34.6
E8R-213	RH	1	29.7
E8R-214	RH	1	16.6
E8R-215	RH	1	8.6
E8R-216	RH	1	6.1
E8R-217	CH	3	108.7
E8R-218	CH	2	15.8
E8R-219	CH	3	33.9
E8R-220	CH	9	95.0
E8R-221	CH	5	42.7
E8R-222	CH	1	84.1
E8R-223	CH	1	35.1
E8R-224	CH	2	26.0
E8R-225	SH	3	81.3
E8R-226	SH	1	25.6
E8R-227	SH	1	22.7
E8R-228	TU	4	47.7
E8R-229	TU	1	116.3
E8R-230	TU	1	79.8
E8R-231	TU	1	28.6

母　岩	石　材	個数	重量
E8R-232	HO	5	136.5
E8R-233	HO	3	155.1
E8R-234	HO	5	102.9
E8R-235	HO	3	102.2
E8R-236	HO	1	68.2
E8R-237	HO	2	71.8
E8R-238	HO	3	18.8
E8R-239	HO	2	40.9
E8R-240	HO	1	66.9
E8R-241	HO	1	6.2
E9R-59	CH	1	29.6
E9R-94	SA	2	35.5
E9R-95	SA	1	6.6
E9R-96	SA	1	30.4
その他	TU	1	0.1
その他	SA	15	67.1

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	21	909.7
頁岩(SH)	5	129.6
チャート(CH)	27	470.9
凝灰岩(TU)	8	272.5
砂岩(SA)	113	1772.6
ホルンフェルス(HO)	26	769.5
合　計	200	4324.8

23　E8-Hブロック（第202～206図，第105～107表，カラー図版10・13，図版７）

１）ブロックの概要

E8-Hブロックは，調査範囲南側のE8-92～94，E9-02～04グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は30mである。

ブロックの規模と形状は，長軸９m，短軸５mの範囲に41点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅥ層にかけて，60cmほどの高低差をもって包含されている（第202～205図）。

ブロックは，ナイフ形石器２点，加工痕ある剥片１点，剥片９点，砕片５点，石核１点の合計18点と礫23点で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ３点，黒曜石Ｂ９点，軟質の安山岩４点，凝灰岩１点，ホルンフェルス１点である。礫石材は，流紋岩２点（２母岩；210.7ｇ），チャート２点（２母岩；36.7ｇ），凝灰岩２点（２母岩；385.8ｇ），砂岩15点（12母岩；1,003.5ｇ），ホルンフェルス２点（２母岩；25.3ｇ）で，識別率は100％である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは８母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ１母岩（E8-52），黒曜石Ｂ４母岩（E8-51・53～55），軟質の安山岩１母岩（E8-56），凝灰岩１母岩（E8-57），ホルンフェルス１母岩（E8-58）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は94％（17/18点）である。

・**E8-51**：薄墨を流したような半透明な地に灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片２点，砕片２点の合計５点（7.3ｇ）である。

・**E8-52**：黒色不透明の黒曜石である。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片１点，砕片１点の合計３点（6.3ｇ）である。

・**E8-53**：薄墨を流したような透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器１点（4.4ｇ）の単独資料である。

・**E8-54**：自然面は平滑で，自然面及び内部は若干褐色がかった黒色不透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（6.2ｇ）の単独資料である。

・**E8-55**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（1.7ｇ）の単独資料である。

・**E8-56**：自然面は平滑で，自然面及び節理はにぶい黄橙色（10YR6/4）の地ににぶい黄褐色（10YR5/4）が混じり，内部は浅黄色（2.5Y7/4）の地に灰白色（5Y7/1）が部分的に混じる軟質な安山岩である。石器群の内訳は，剥片３点，石核１点の合計４点（100.7ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（73.8ｇ）である。

・**E8-57**：にぶい黄橙色（10YR5/4）の凝灰岩である。砕片１点（0.3ｇ）の単独資料である。

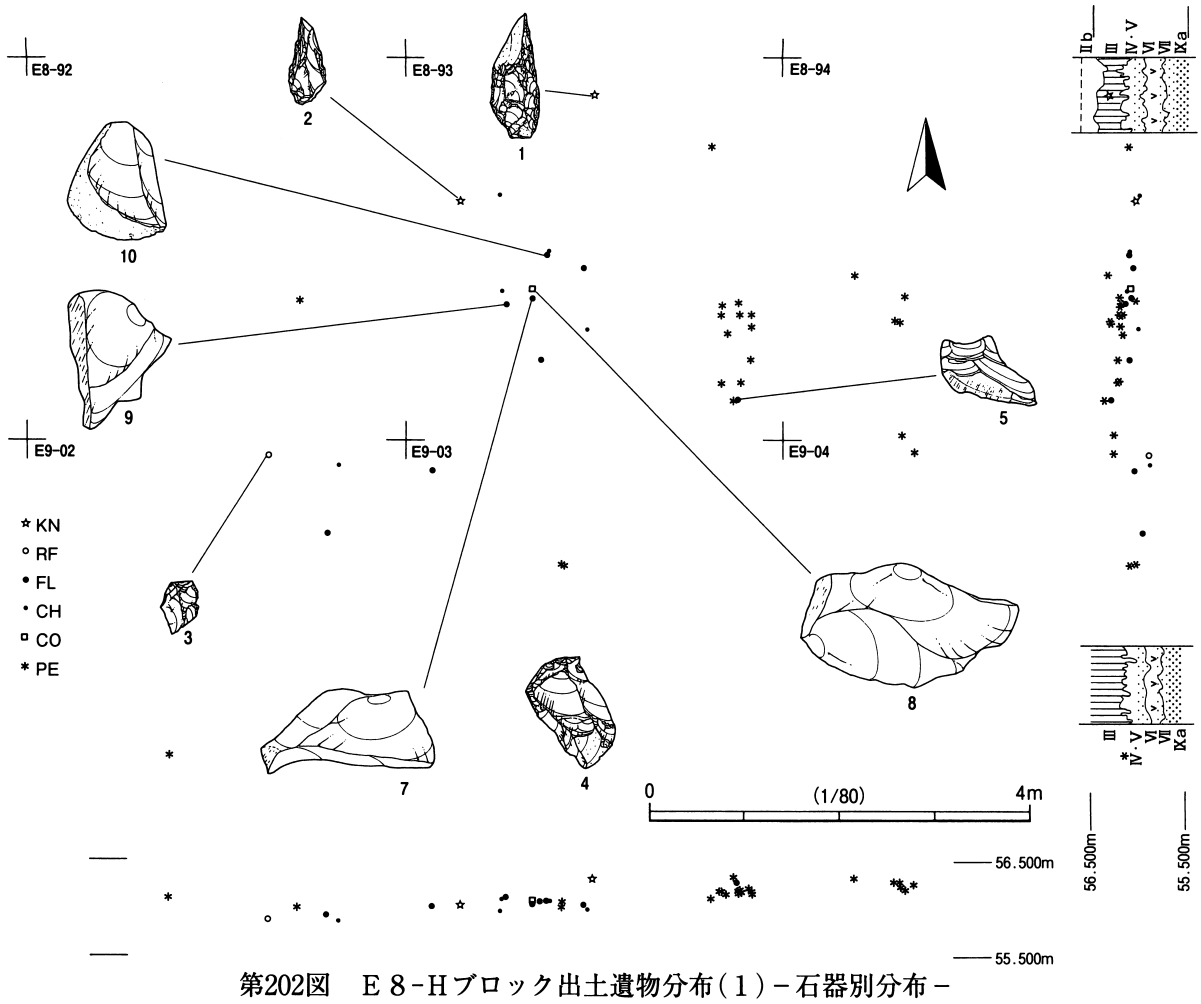
・**E8-58**：内部は灰色（7.5Y6/1），節理は浅黄色（2.5Y7/3）のホルンフェルスである。剥片１点（3.8ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，信州和田峠周辺産の黒曜石の砕片１点（0.1ｇ）がある。

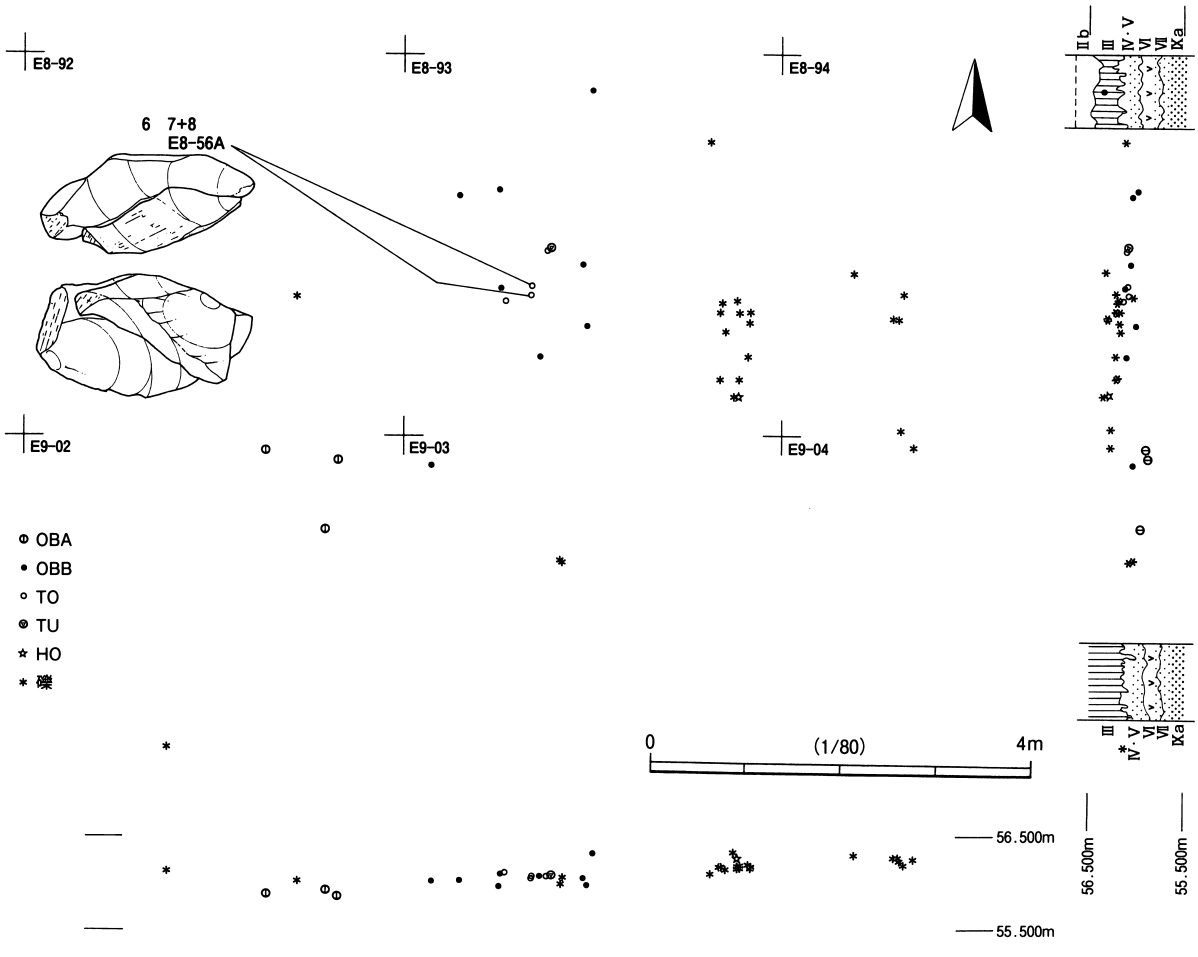
３）出土遺物（第206図１～５）

１・２は信州和田峠周辺産の黒曜石による二側縁加工のナイフ形石器である。横長剥片を横位に用い，１は右側縁と左側縁下半部，２は左側縁と右側縁下半部に調整加工を行っている。

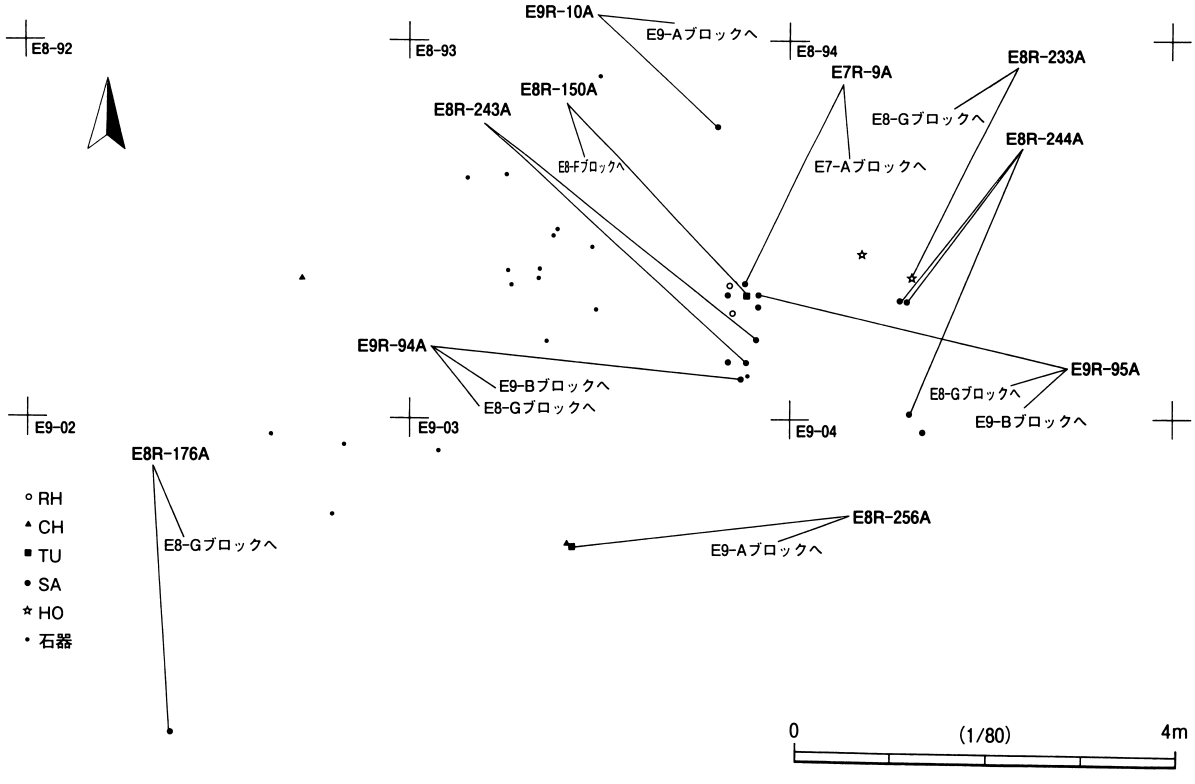
３は栃木県高原山産の黒曜石による加工痕ある剥片である。右側縁の一部に調整加工を行っている。



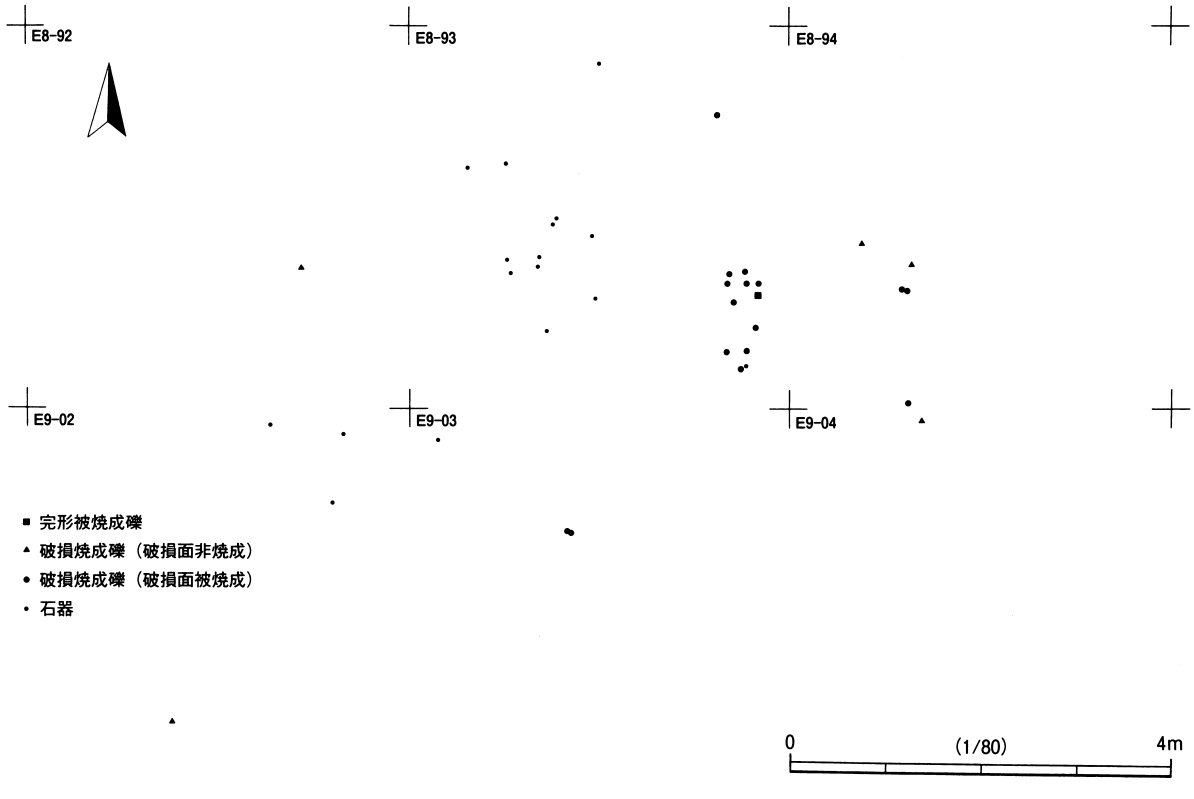
第202図　Ｅ８-Ｈブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



第203図　Ｅ８-Ｈブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第204図　Ｅ８-Ｈブロック出土遺物分布（３）－礫石材別分布－

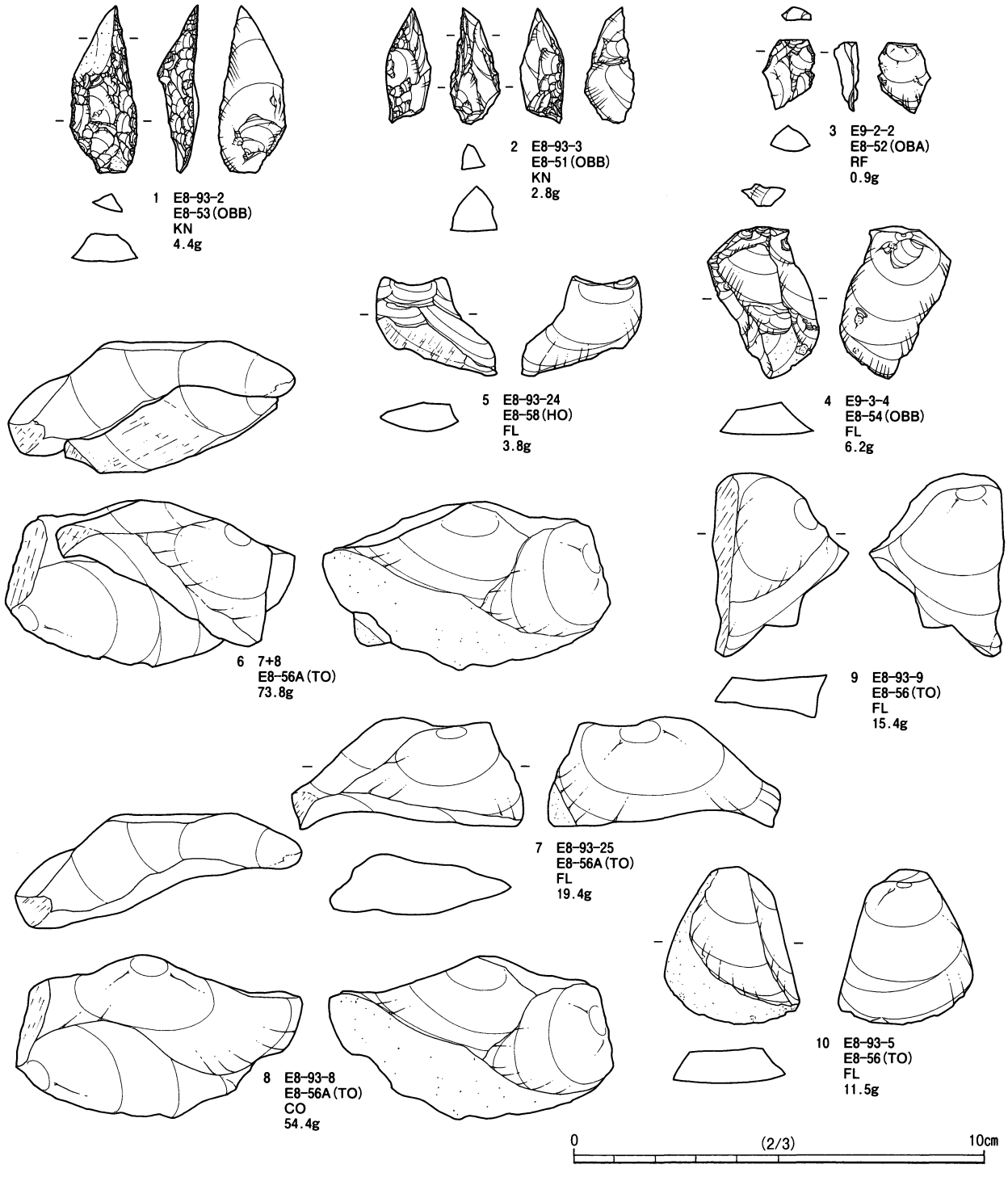


第205図　Ｅ８-Ｈブロック出土遺物分布（４）－礫焼成別分布－

４は信州和田峠周辺産の黒曜石，５はホルンフェルスによる剥片である。

４）接合資料とその関連資料（第206図６～10）

・E8-56（第206図６～10）　浅黄色（2.5Y7/4）などの軟質な安山岩である。剥片３点，石核１点の合計４点で構成される。６は剥片１点（７），石核１点（８）の接合資料である。９・10は接合しなかった同一母岩の剥片である。



第206図　Ｅ８-Ｈブロック出土遺物

第105表　E８-Hブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
E8-51(OBB)	1																	2	2						5
E8-52(OBA)										1								1	1						3
E8-53(OBB)	1																								1
E8-54(OBB)																		1							1
E8-55(OBB)																		1							1
E8-56(TO)																		3		1					4
E8-57(TU)																			1						1
E8-58(HO)																		1							1
その他(OBB)																			1						1
合　計	2									1								9	5	1					18

第106表　E８-Hブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石A(OBA)										1								1	1						3
黒曜石B(OBB)	2																	4	3						9
安山岩(TO)																		3		1					4
凝灰岩(TU)																			1						1
ホルンフェルス(HO)																		1							1
合　計	2									1								9	5	1					18

第107表　E８-Hブロック礫組成表

母　岩	石 材	個数	重量
E7R-9	SA	1	35.3
E8R-150	TU	1	357.3
E8R-176	SA	1	3.5
E8R-187	SA	1	18.9
E8R-233	HO	1	10.5
E8R-243	SA	2	251.3
E8R-244	SA	3	23.6
E8R-245	SA	1	195.7
E8R-246	SA	1	164.2
E8R-247	SA	1	174.0

母　岩	石 材	個数	重量
E8R-248	RH	1	178.7
E8R-249	RH	1	32.0
E8R-252	CH	1	32.4
E8R-253	CH	1	4.4
E8R-254	HO	1	14.8
E8R-255	SA	1	28.9
E8R-256	TU	1	28.4
E9R-10	SA	1	35.9
E9R-94	SA	1	41.1
E9R-95	SA	1	31.1

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	2	210.7
チャート(CH)	2	36.7
凝灰岩(TU)	2	385.8
砂岩(SA)	15	1003.5
ホルンフェルス(HO)	2	25.3
合　計	23	1662.0

24　E9-Aブロック（第207～213図，第108～110表，カラー図版10・13，図版７）

１）ブロックの概要

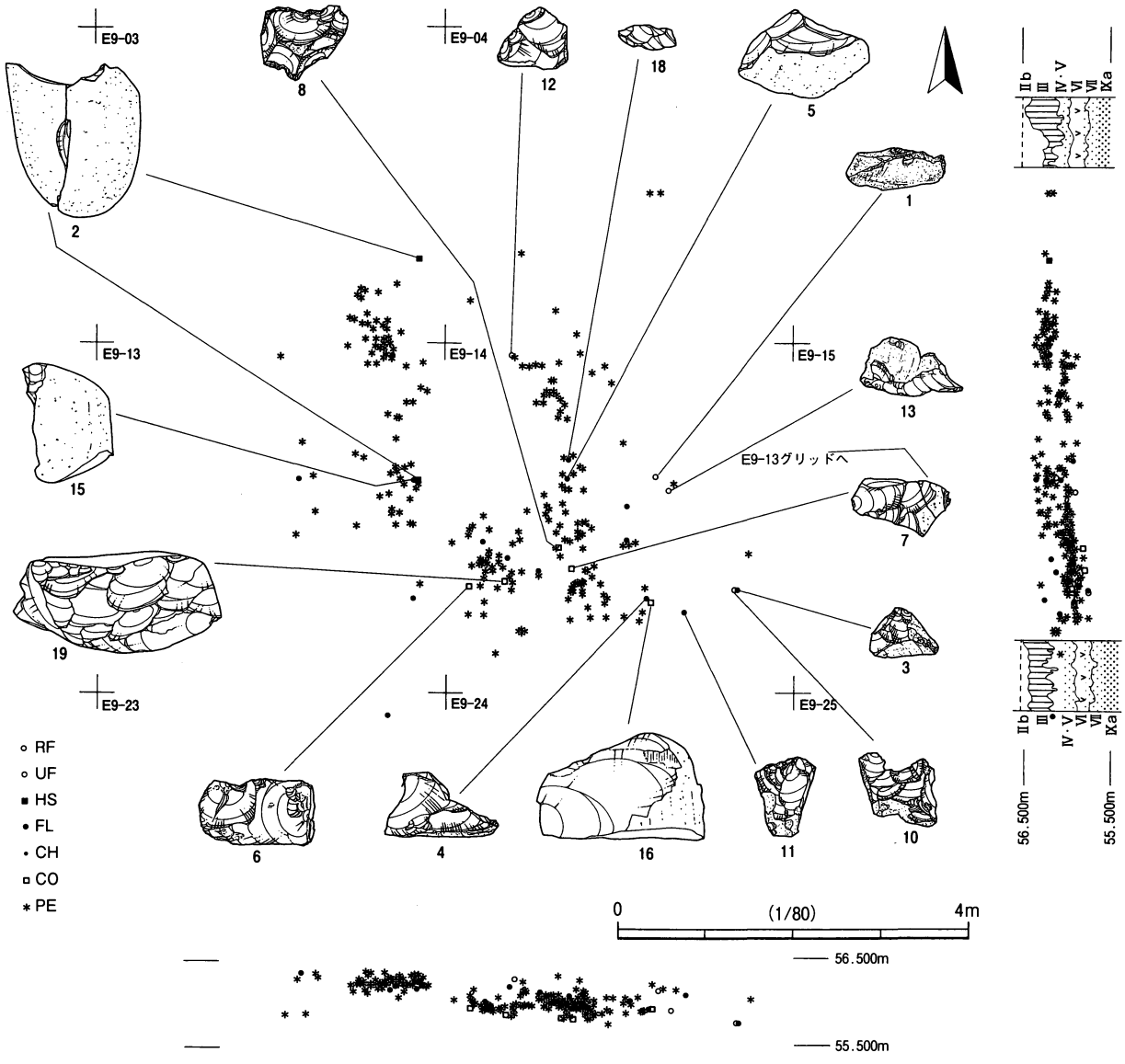
E9-Aブロックは，調査範囲南側のE9-03・04・13・14・23グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸７m，短軸６mの範囲に235点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅦ層にかけて，60cmほどの高低差をもって包含されている（第207～211図）。

ブロックは，加工痕ある剥片２点，使用痕ある剥片２点，敲石２点（１個体），剥片15点，砕片１点，石核６点（５個体）の合計28点（26個体）と礫207点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ21点（20個体），凝灰岩２点（１個体），ホルンフェルス５点である。礫石材は，流紋岩45点（25母岩；1,969.7ｇ），頁岩１点（１母岩；49.0ｇ），チャート11点（８母岩；303.0ｇ），凝灰岩22点（18母岩；1,448.0ｇ），砂岩85点（45母岩；3,063.9ｇ），ホルンフェルス22点（13母岩；598.0ｇ），識別できなかった流紋岩２点（16.8ｇ）・砂岩16点（58.8ｇ）・ホルンフェルス３点（7.5ｇ）で，識別率は90％である。

２）母岩の特徴と内容

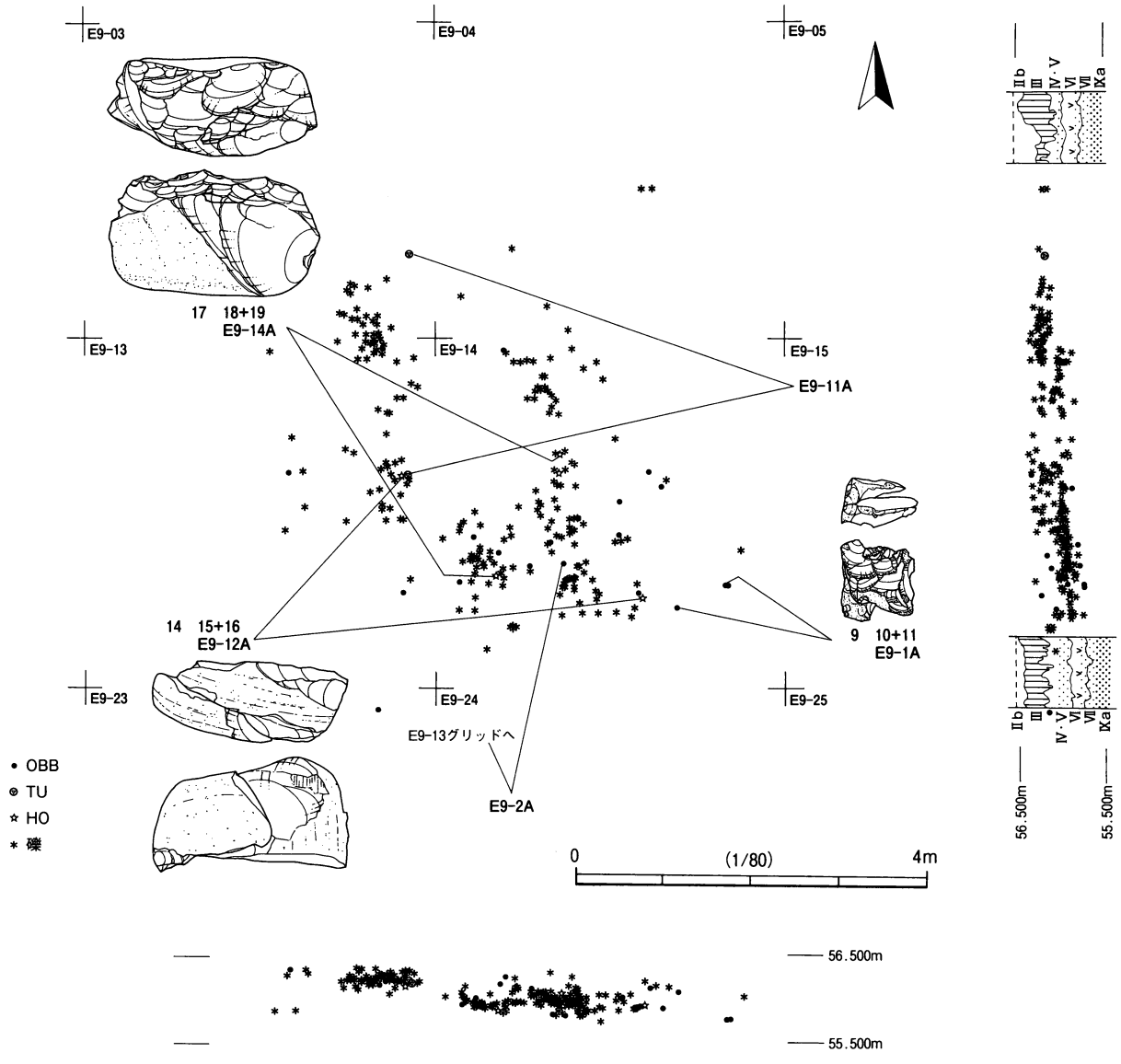
本ブロックでは14母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ10母岩（E9-１～10），凝灰岩１母岩（E9-11），



第207図　Ｅ９-Ａブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－

第108表　Ｅ９-Ａブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
E9-1(OBB)										1	2							5							8
E9-2(OBB)																				2(1)					2(1)
E9-3(OBB)																				1					1
E9-4(OBB)										1															1
E9-5(OBB)																				1					1
E9-6(OBB)																		1							1
E9-7(OBB)																		1							1
E9-8(OBB)																		1							1
E9-9(OBB)																		1							1
E9-10(OBB)																		1							1
E9-11(TU)																2(1)									2(1)
E9-12(HO)																		1		1					2
E9-13(HO)																		1							1
E9-14(HO)																		1		1					2
その他(OBB)																		2	1						3
合　計										2	2					2(1)		15	1	6(5)					28(26)



第208図　Ｅ９-Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

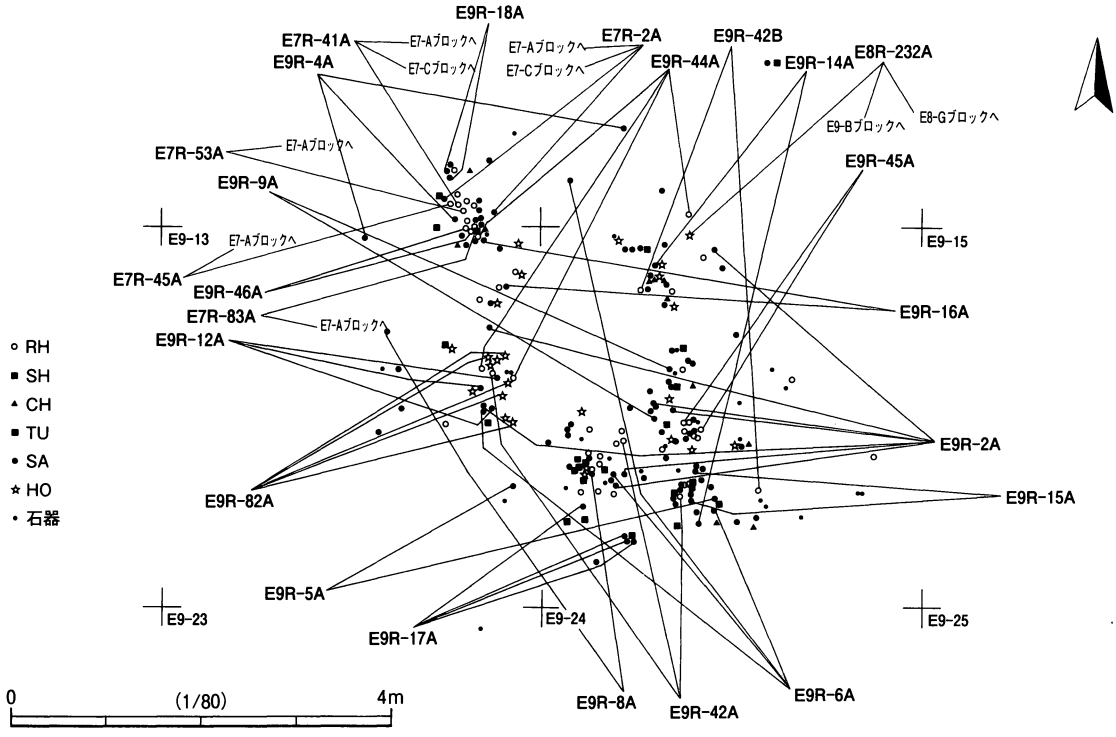
第109表　Ｅ９-Ａブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)										2	2							12	1	4(3)					21(20)
凝灰岩(TU)																2(1)									2(1)
ホルンフェルス(HO)																		3		2					5
合　計										2	2					2(1)		15	1	6(5)					28(26)

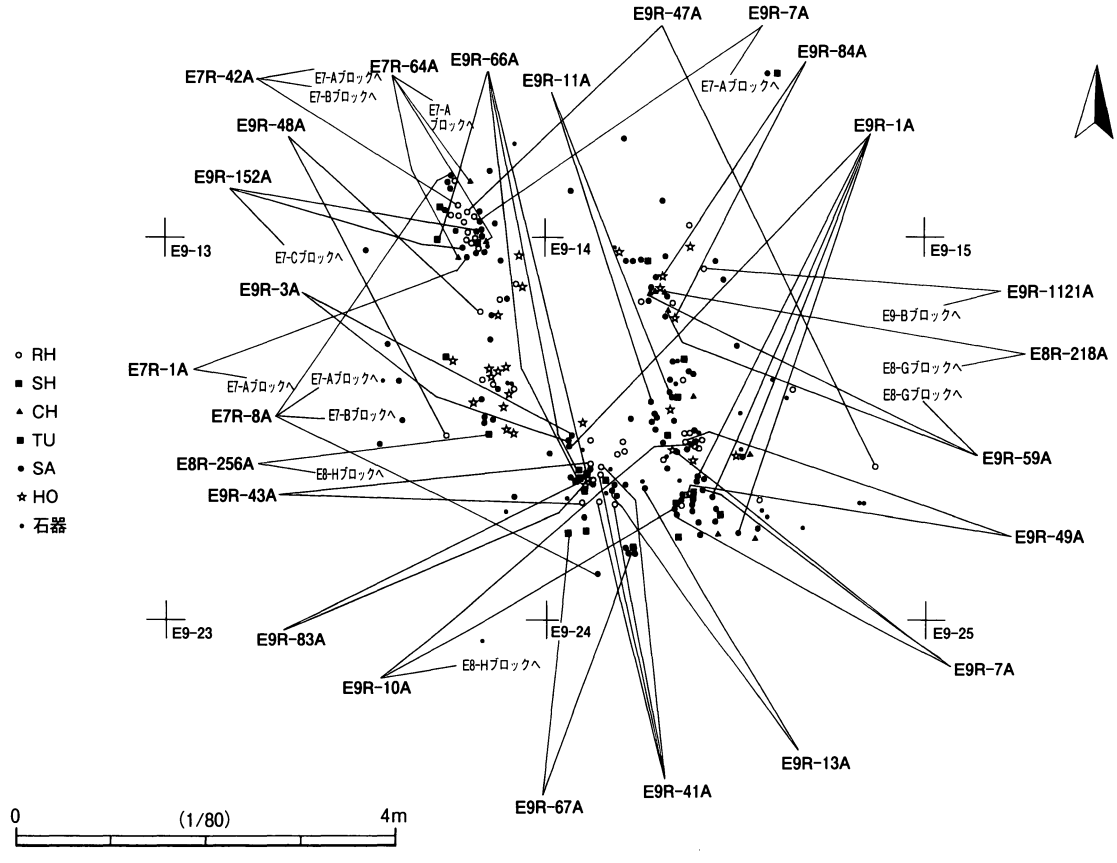
ホルンフェルス３母岩（E9-12～14）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は89％（25/28点）である。

・**E9-１**：自然面は凹凸があり，黒灰色不透明の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片２点，剥片５点の合計８点（24.8ｇ）である。接合資料は，加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（8.4ｇ）である。

・**E9-２**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は透明な地に黒色の縞が多数入る黒曜石である。自然面及び内部は信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石核２点（１個体；8.9ｇ）である。接



第209図　Ｅ９-Ａブロック出土遺物分布（３）－礫石材別分布（１）－



第210図　Ｅ９-Ａブロック出土遺物分布（４）－礫石材別分布（２）－

合資料は，石核２点（１個体；8.9ｇ）である。

・E9-３：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。φ２㎜～３㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石核１点（11.7ｇ）の単独資料である。

・E9-４：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色のモヤが部分的に縞状に入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。加工痕ある剥片１点（4.0ｇ）の単独資料である。

・E9-５：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石核１点（7.7ｇ）の単独資料である。

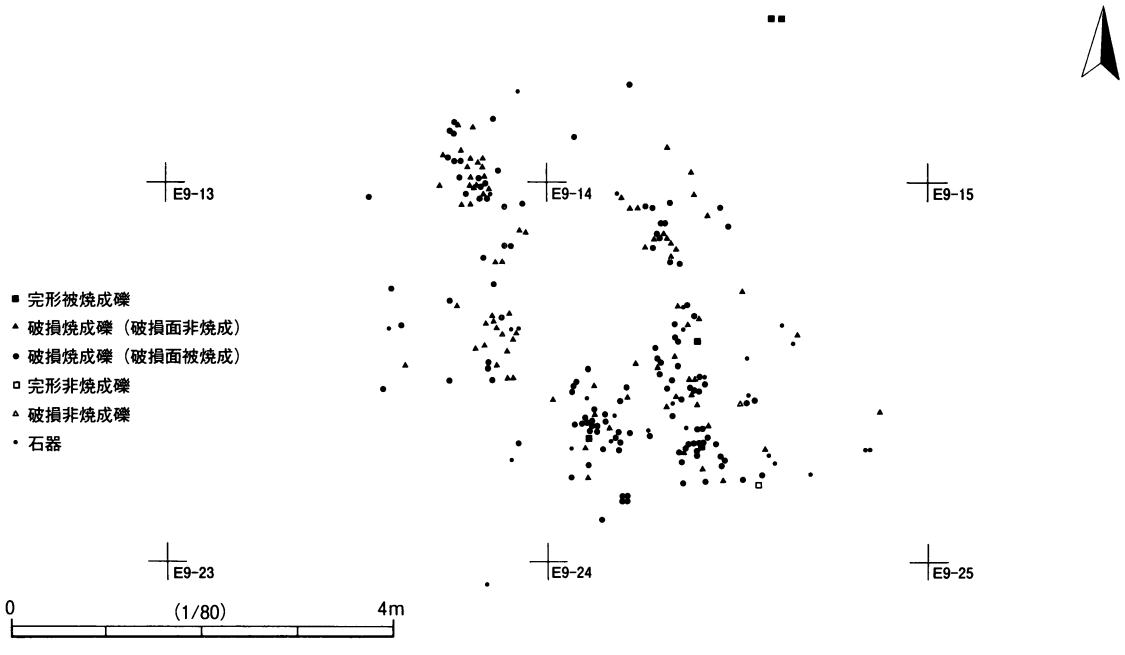
・E9-６：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（3.0ｇ）の単独資料である。

・E9-７：自然面は平滑で，自然面及び内部は若干褐色がかった黒色不透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（4.3ｇ）の単独資料である。

・E9-８：薄墨を流したような半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（3.4ｇ）の単独資料である。

・E9-９：薄墨を流したような半透明な地に黒灰色のモヤが縞状に入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（1.3ｇ）の単独資料である。

・E9-10：自然面は紙ヤスリ状で凹凸があり，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色のモヤが部分的に点在する黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（1.9ｇ）の単独資料である。



第211図　Ｅ９-Ａブロック出土遺物分布（５）－礫焼成別分布－

・**E9-11**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色(7.5Y6/2)の凝灰岩である。石器群の内訳は，敲石２点（１個体；106.0ｇ）である。接合資料は，敲石２点（１個体；106.0ｇ）である。

・**E9-12**：自然面は比較的平滑でにぶい褐色（7.5YR6/3)・にぶい褐色（7.5YR5/4)・褐灰色（7.5YR5/1)，内部及び新鮮な面は灰色（5Y5/1)・浅黄色（2.5Y7/3）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（89.9ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（89.9ｇ）である。

・**E9-13**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y6/1)，節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）のホルンフェルスである。剥片１点（13.2ｇ）の単独資料である。

・**E9-14**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y5/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（152.5ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（152.5ｇ）である。

第110表　Ｅ９-Ａブロック礫組成表

母　岩	石 材	個数	重量
E7R-1	SA	1	19.8
E7R-2	SA	2	48.1
E7R-7	SA	1	56.7
E7R-8	SA	2	13.0
E7R-41	RH	1	20.2
E7R-42	RH	1	46.4
E7R-45	RH	1	57.5
E7R-53	RH	1	32.5
E7R-64	CH	3	71.1
E8R-83	TU	1	61.7
E8R-218	CH	1	20.2
E8R-232	HO	1	37.9
E8R-256	TU	1	33.8
E9R-1	SA	6	121.8
E9R-2	SA	7	270.8
E9R-3	SA	2	99.2
E9R-4	SA	3	67.6
E9R-5	SA	5	178.4
E9R-6	SA	4	54.2
E9R-7	SA	3	131.9
E9R-8	SA	2	183.0
E9R-9	SA	2	93.5
E9R-10	SA	2	35.2
E9R-11	SA	2	62.7
E9R-12	SA	3	63.2
E9R-13	SA	2	27.7
E9R-14	SA	2	81.1
E9R-15	SA	2	46.5
E9R-16	SA	2	37.5
E9R-17	SA	4	31.2
E9R-18	SA	2	44.4
E9R-19	SA	1	210.6
E9R-20	SA	1	177.0
E9R-21	SA	1	117.8
E9R-22	SA	1	138.4
E9R-23	SA	1	109.1
E9R-24	SA	1	60.7
E9R-25	SA	1	49.6
E9R-26	SA	1	53.9
E9R-27	SA	1	43.3

母　岩	石 材	個数	重量
E9R-28	SA	1	36.6
E9R-29	SA	1	42.2
E9R-30	SA	1	25.7
E9R-31	SA	1	26.6
E9R-32	SA	1	6.3
E9R-33	SA	1	15.2
E9R-34	SA	1	11.9
E9R-35	SA	1	27.6
E9R-36	SA	1	14.7
E9R-37	SA	1	16.6
E9R-38	SA	1	16.8
E9R-39	SA	1	11.7
E9R-40	SA	1	3.0
E9R-41	RH	4	277.3
E9R-42	RH	8	127.7
E9R-43	RH	2	375.9
E9R-44	RH	5	139.4
E9R-45	RH	2	113.3
E9R-46	RH	2	31.5
E9R-47	RH	2	52.0
E9R-48	RH	2	78.8
E9R-49	RH	2	64.8
E9R-50	RH	1	244.0
E9R-51	RH	1	35.7
E9R-52	RH	1	33.5
E9R-53	RH	1	35.8
E9R-54	RH	1	14.3
E9R-55	RH	1	12.5
E9R-56	RH	1	1.9
E9R-57	RH	1	61.9
E9R-58	RH	1	56.6
E9R-59	CH	2	53.7
E9R-60	CH	1	57.3
E9R-61	CH	1	27.0
E9R-62	CH	1	50.5
E9R-63	CH	1	21.6
E9R-64	CH	1	1.6
E9R-65	SH	1	49.0
E9R-66	TU	4	99.3
E9R-67	TU	2	278.4

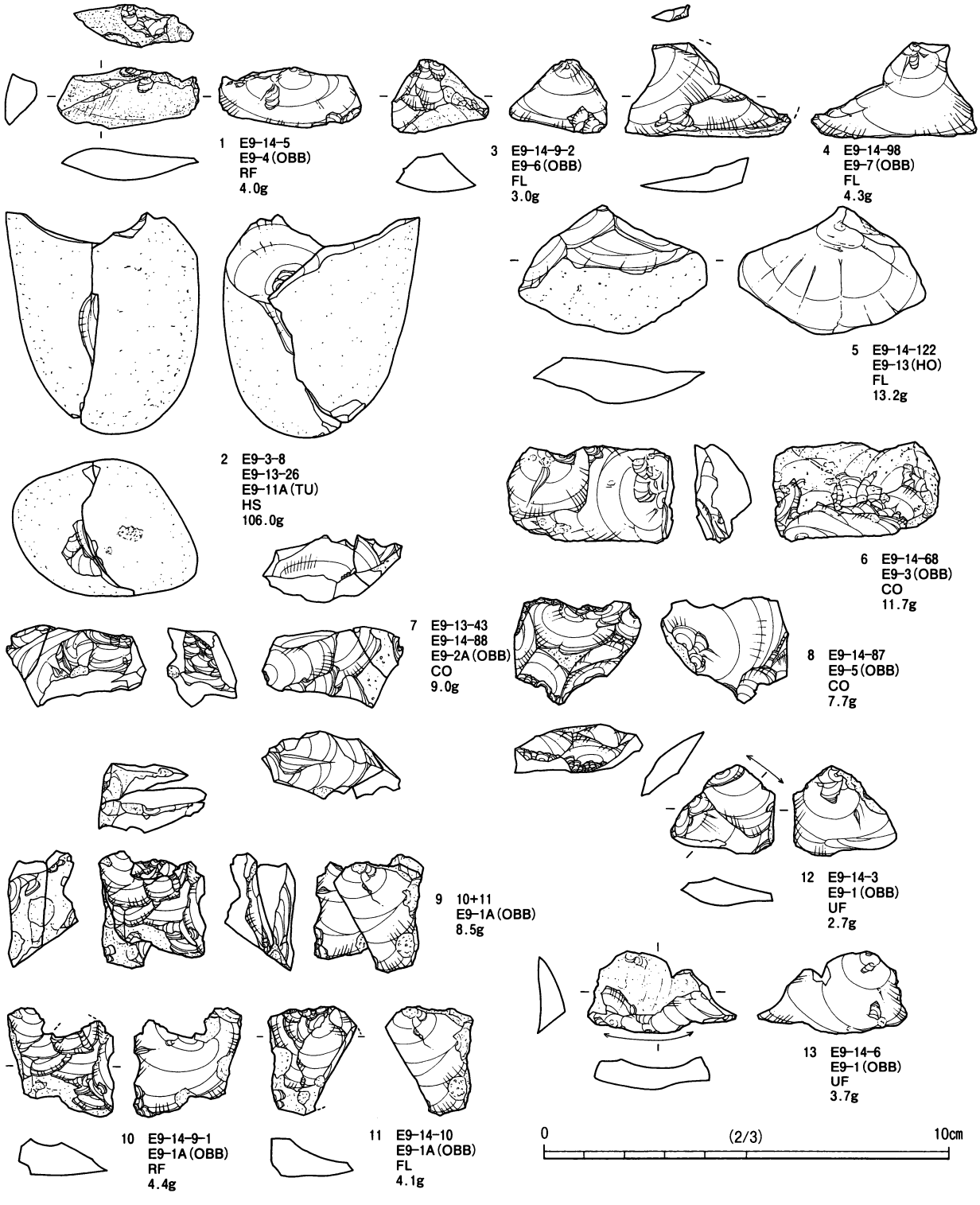
母　岩	石 材	個数	重量
E9R-68	TU	1	232.0
E9R-69	TU	1	155.5
E9R-70	TU	1	99.8
E9R-71	TU	1	68.4
E9R-72	TU	1	149.2
E9R-73	TU	1	83.2
E9R-74	TU	1	53.3
E9R-75	TU	1	45.0
E9R-76	TU	1	46.2
E9R-77	TU	1	19.7
E9R-78	TU	1	13.6
E9R-79	TU	1	3.7
E9R-80	TU	1	4.4
E9R-81	TU	1	0.8
E9R-82	HO	6	52.2
E9R-83	HO	2	170.0
E9R-84	HO	3	58.5
E9R-85	HO	2	146.8
E9R-86	HO	1	51.9
E9R-87	HO	1	34.8
E9R-88	HO	1	13.5
E9R-89	HO	1	10.1
E9R-90	HO	1	5.0
E9R-91	HO	1	4.3
E9R-92	HO	1	8.2
E9R-93	HO	1	4.8
E9R-121	RH	1	47.7
E9R-152	SA	2	81.1
E9R-153	RH	1	7.7
E9R-154	RH	1	0.8
その他	RH	2	16.8
その他	SA	16	58.5
その他	HO	3	7.5

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	47	1986.5
頁岩(SH)	1	49.0
チャート(CH)	11	303.0
凝灰岩(TU)	22	1448.0
砂岩(SA)	101	3122.4
ホルンフェルス(HO)	25	605.5
合　計	207	7514.4

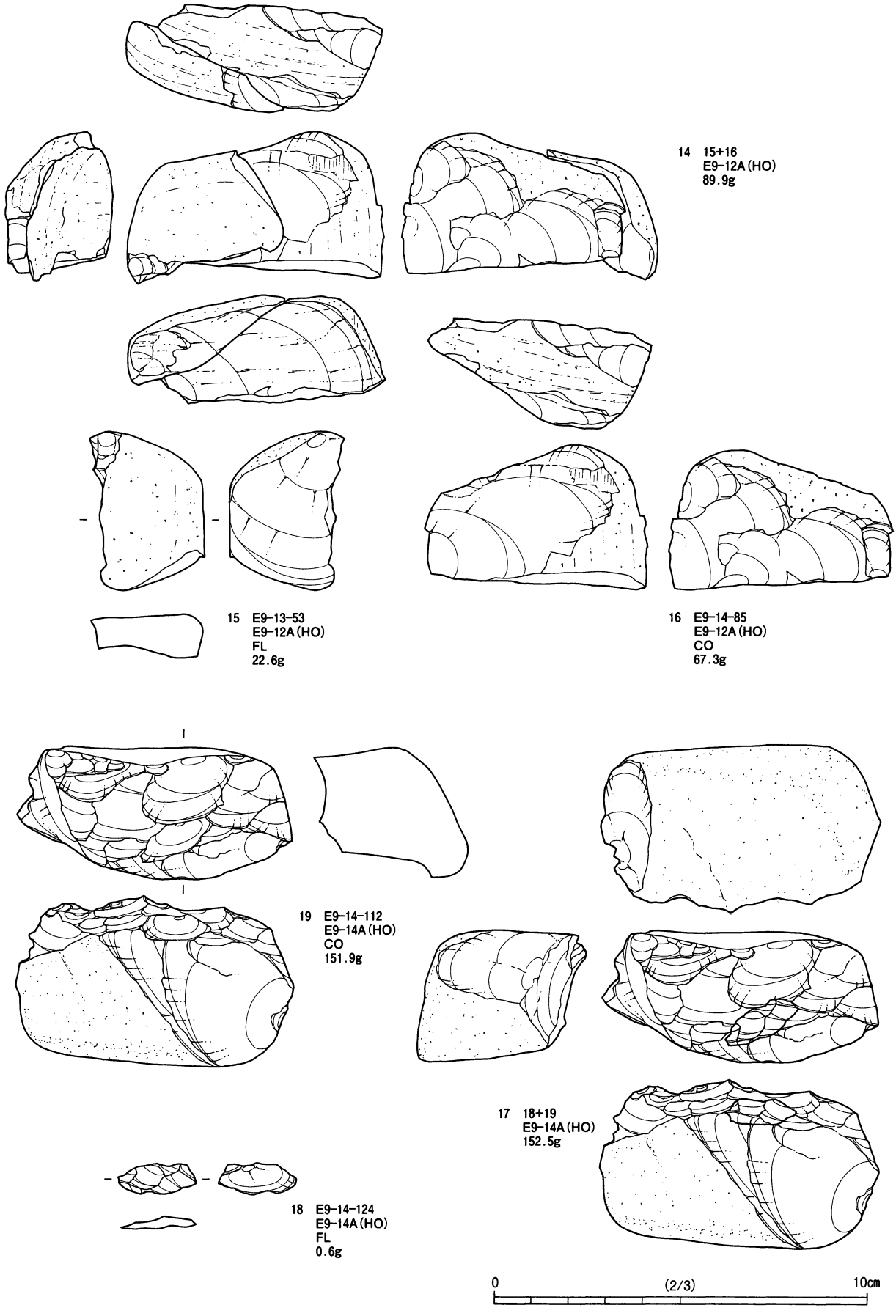
なお，母岩分類できなかった資料に，信州和田峠周辺産の黒曜石の剥片２点，砕片１点の合計３点（1.8ｇ）がある。

３）出土遺物（第212図１～８）

１は信州和田峠周辺産の黒曜石による加工痕ある剥片である。裏面末端の一部に調整加工を行っている。



第212図　Ｅ９-Ａブロック出土遺物（１）



第213図　Ｅ９-Ａブロック出土遺物（２）

2は凝灰岩による敲石である。下端部に浅い敲打痕が見られる。上半部は欠損している。

3・4は信州和田峠周辺産の黒曜石，5はホルンフェルスによる不定型な剥片である。

6～8は信州和田峠周辺産の黒曜石による石核である。6は小型な剥片を素材として，不定型な剥片を剥離している。7は小型で比較的厚手の剥片を素材として，90度の打面転移を行いながら，小型で不定型な剥片を剥離している。2点が接合して1個体となる。8は小型な剥片を素材として，求心的な剥離作業により不定型な剥片を剥離している。両端に加工痕とも考えられる剥離痕が見られる。

4）接合資料とその関連資料（第212図9～13，第213図）

・E9-1（第212図9～13）　黒灰色不透明の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片2点，剥片5点の合計8点で構成される。9は加工痕ある剥片1点（10），剥片1点（11）の接合資料である。10→11の順に上方向から剥離している。11は裏面右側縁の一部に調整加工を行っている。12・13は接合しなかった同一母岩の使用痕ある剥片である。12は打面側，13は末端に微細な剥離痕が見られる。

・E9-12（第213図14～16）　灰色（5Y5/1）などのホルンフェルスである。剥片1点，石核1点の合計2点で構成される。14は剥片1点（15），石核1点（16）の接合資料である。不定型な礫を素材として，不定型な剥片を剥離している。

・E9-14（第213図17～19）　灰色（5Y5/1）などのホルンフェルスである。剥片1点，石核1点の合計2点で構成される。17は剥片1点（18），石核1点（19）の接合資料である。細長い不定型な礫の長軸と短軸方向でそれぞれ1枚ずつ不定型な剥片を剥離した後，90度打面を転移し，長軸の平坦面を打面として，小型で寸詰まりの剥片を剥離している。

25　E9-Bブロック（第214～220図，第111～113表，カラー図版10・13，図版7）

1）ブロックの概要

E9-Bブロックは，調査範囲南側のE9-15・16・26グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の東側縁辺部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は10mである。

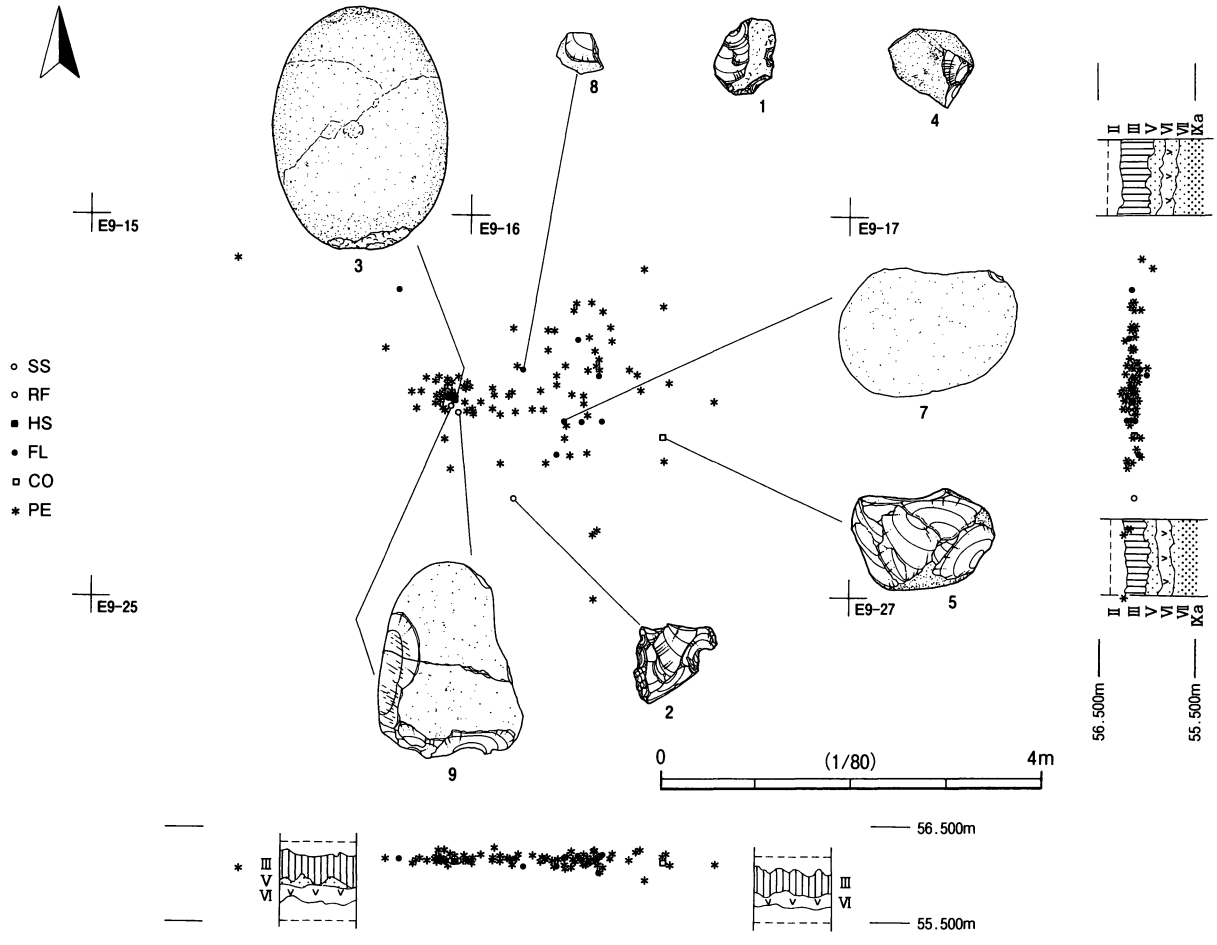
ブロックの規模と形状は，長軸4m，短軸3mの範囲に104点の石器・礫と2m離れて1点の礫が分布する。出土層位は，Ⅱ層からⅤ層にかけて，60cmほどの高低差をもっているが，中心はⅢ層で20cmほどの高低差をもって包含されている（第214～218図）。

ブロックは，削器2点（1個体），加工痕ある剥片2点，敲石1点，剥片10点，石核1点の合計16点（15個体）と礫89点で構成される。石器石材は，黒曜石B10点，頁岩E1点，砂岩5点（4個体）である。礫石材は，流紋岩19点（15母岩；2,008.3g），チャート8点（7母岩；244.6g），凝灰岩5点（4母岩；619.0g），砂岩47点（29母岩；2,493.1g），ホルンフェルス7点（5母岩；614.7g），識別できなかった砂岩3点（6.4g）で，識別率は97%である。

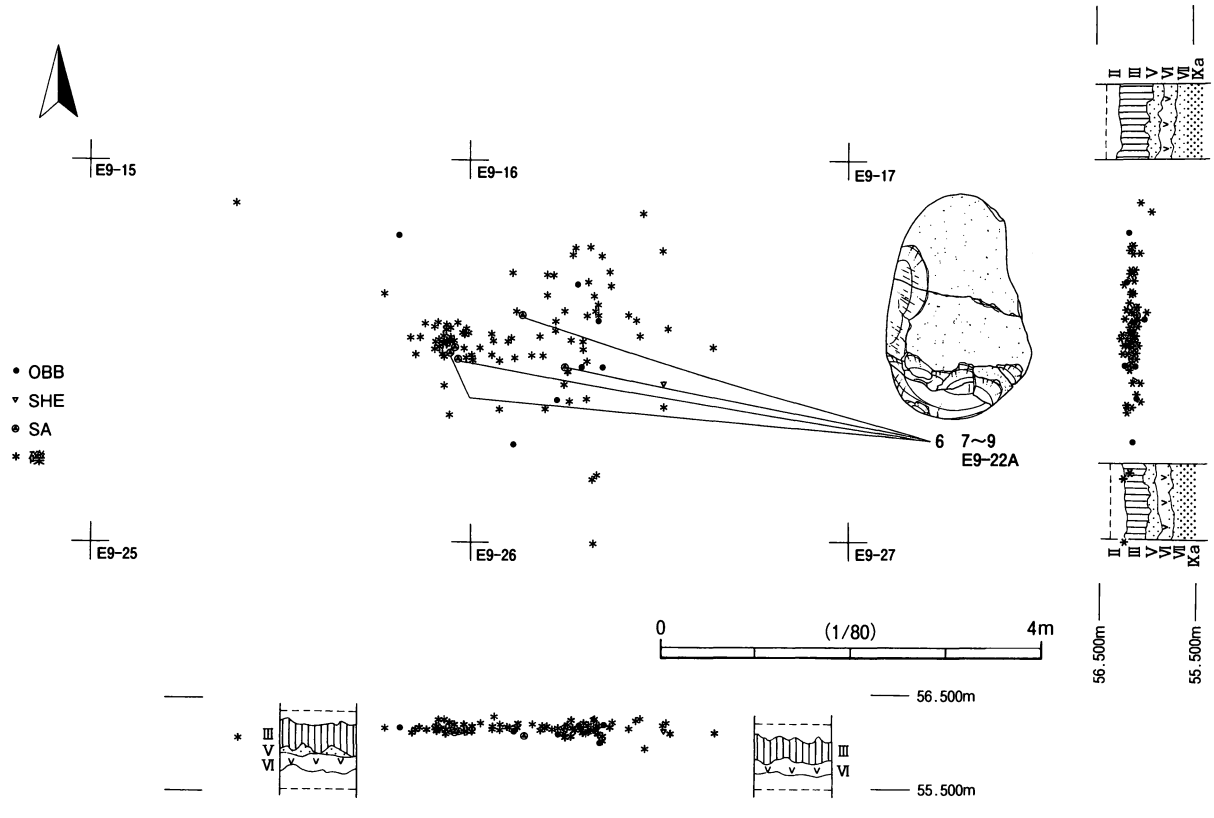
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは9母岩を識別した。内訳は，黒曜石B6母岩（E9-15～20），頁岩E1母岩（E9-21），砂岩2母岩（E9-22・23）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（16/16点）である。

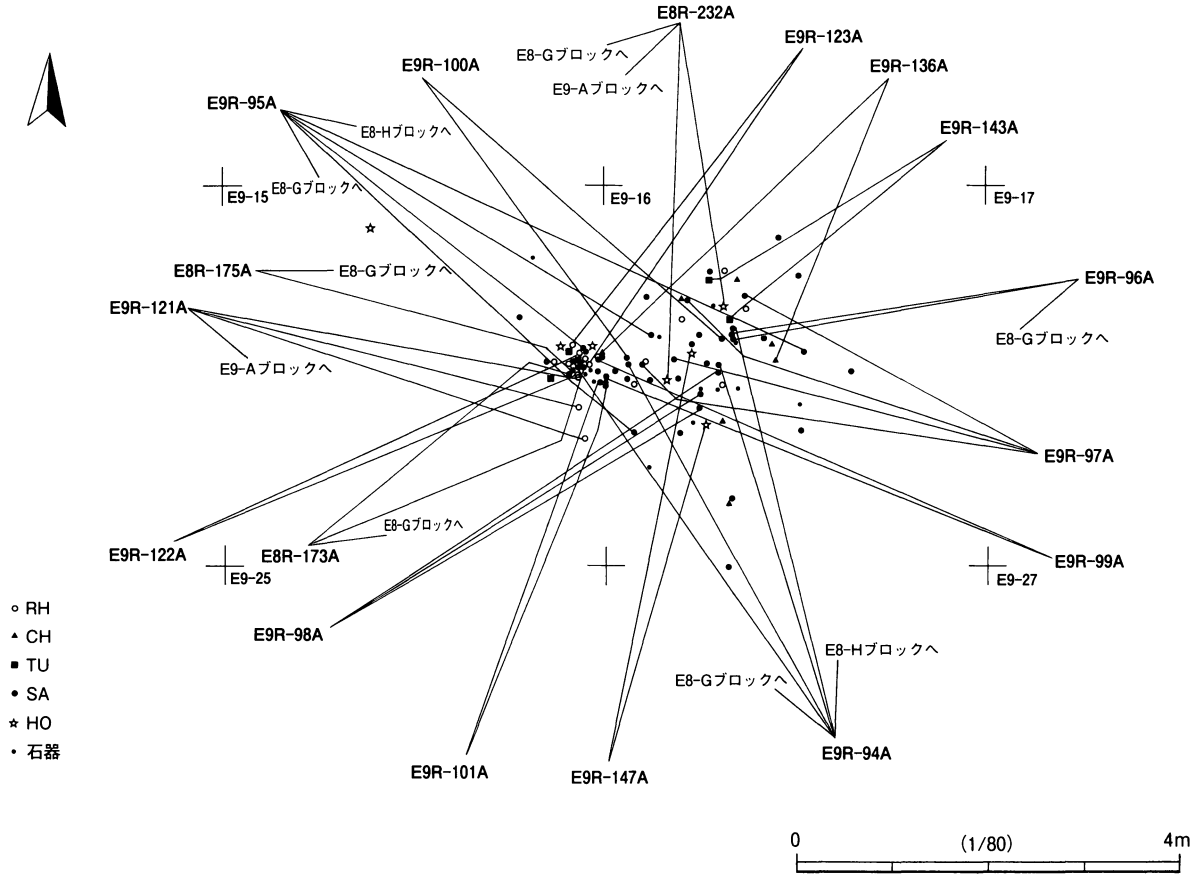
・E9-15：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。加工痕ある剥片1点（3.5g）の単独資料である。



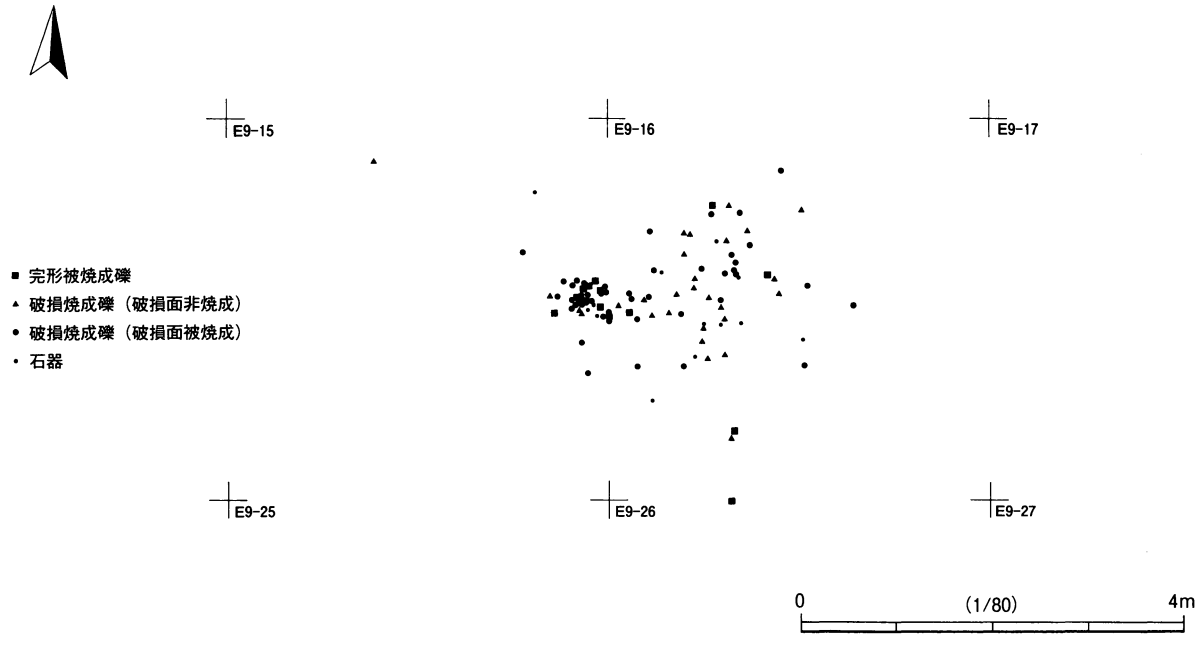
第214図　Ｅ９-Ｂブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



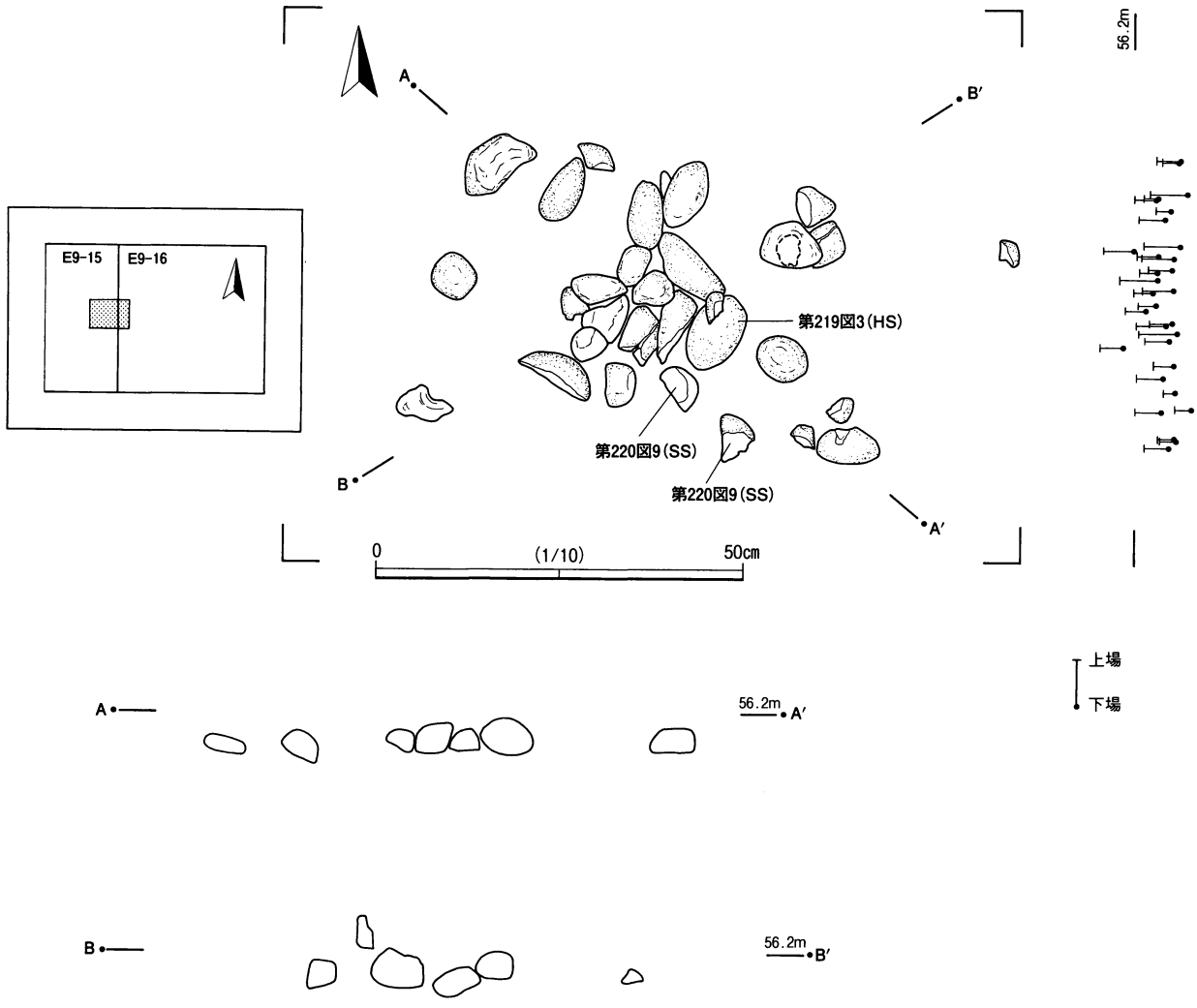
第215図　Ｅ９-Ｂブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第216図　Ｅ９-Ｂブロック出土遺物分布（３）－礫石材別分布－



第217図　Ｅ９-Ｂブロック出土遺物分布（４）－礫焼成別分布－



第218図　Ｅ９-Ｂブロック出土遺物分布（５）－礫詳細分布－

・**E9-16**：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（1.8ｇ）の単独資料である。

・**E9-17**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（7.4ｇ）である。

・**E9-18**：自然面は平滑で，自然面及び内部は黒灰色半透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（6.0ｇ）である。

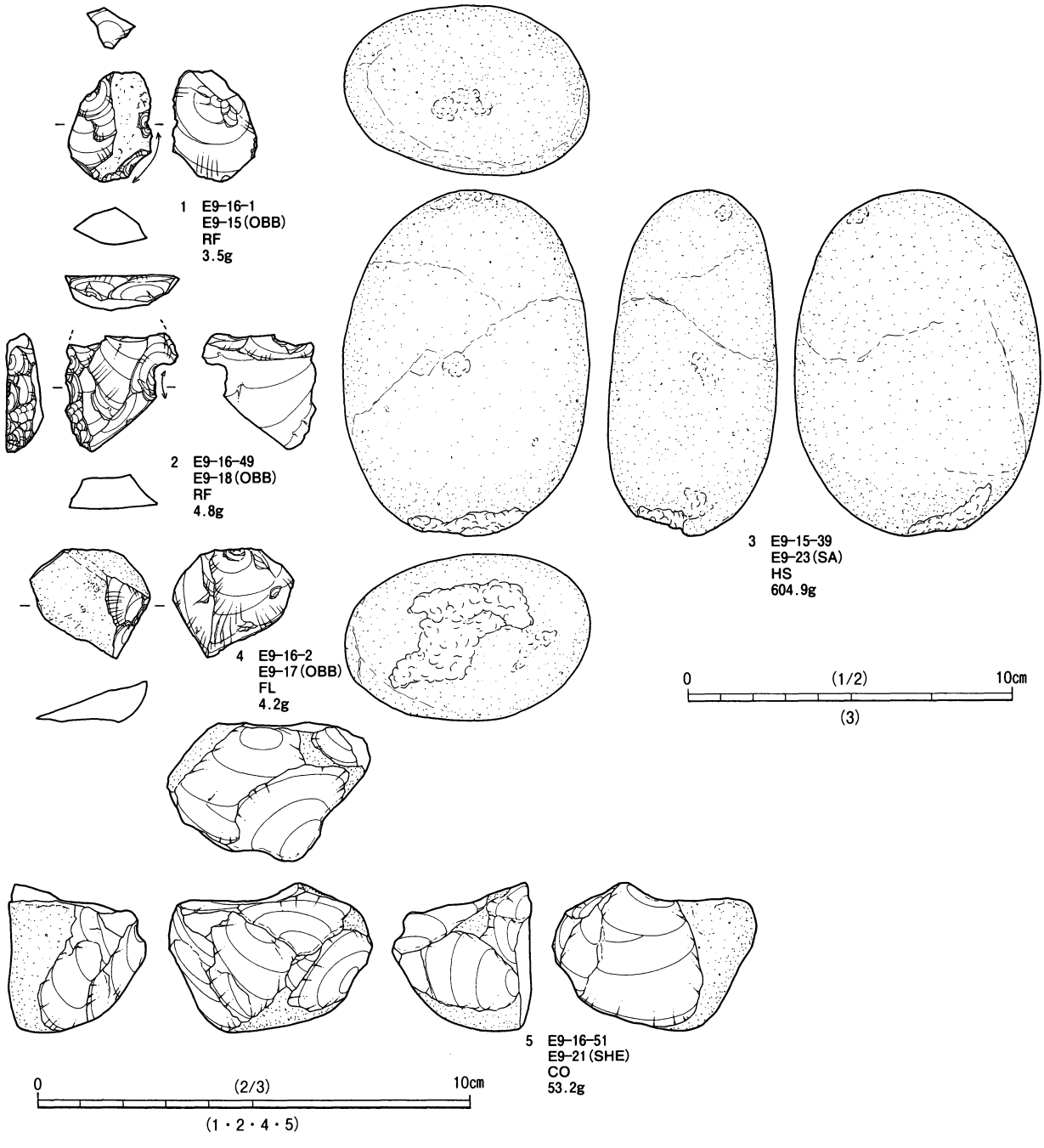
・**E9-19**：自然面はスリガラス状で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（5.1ｇ）である。

・**E9-20**：自然面はスリガラス状で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（1.3ｇ）である。

・**E9-21**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰白色（2.5Y8/2）の頁岩である。石核１点（53.2ｇ）

の単独資料である。

・**E9-22**：自然面は平滑で灰白色（5Y7/2）の部分とにぶい黄褐色（10YR5/4）に変色した部分があり，内部も灰白色（5Y7/2）の部分とにぶい赤褐色（5YR5/3）に変色した部分があり，節理は灰黄色（2.5Y7/2）の砂岩である。変色は被熱によるものと思われる。石器群の内訳は，削器２点（１個体），剥片２点の合計４点（３個体；234.5ｇ）である。接合資料は，削器２点（１個体），剥片２点の合計４点（３個体；



第219図　Ｅ９-Bブロック出土遺物（１）

234.5ｇ）である。

・**E9-23**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部はにぶい赤褐色（5YR5/4）・黄灰色（2.5Y4/1）の砂岩であるが，被熱により変色したものと思われる。敲石１点（604.9ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第219図）

１・２は信州和田峠周辺産の黒曜石による加工痕ある剥片である。１は末端から右側縁の一部にかけて調整加工を行っており，同部位に微細な剥離痕が見られる。２は左側縁と右側縁の一部に調整加工を行っている。右側縁の加工は抉入状で，同部位に微細な剥離痕が見られる。

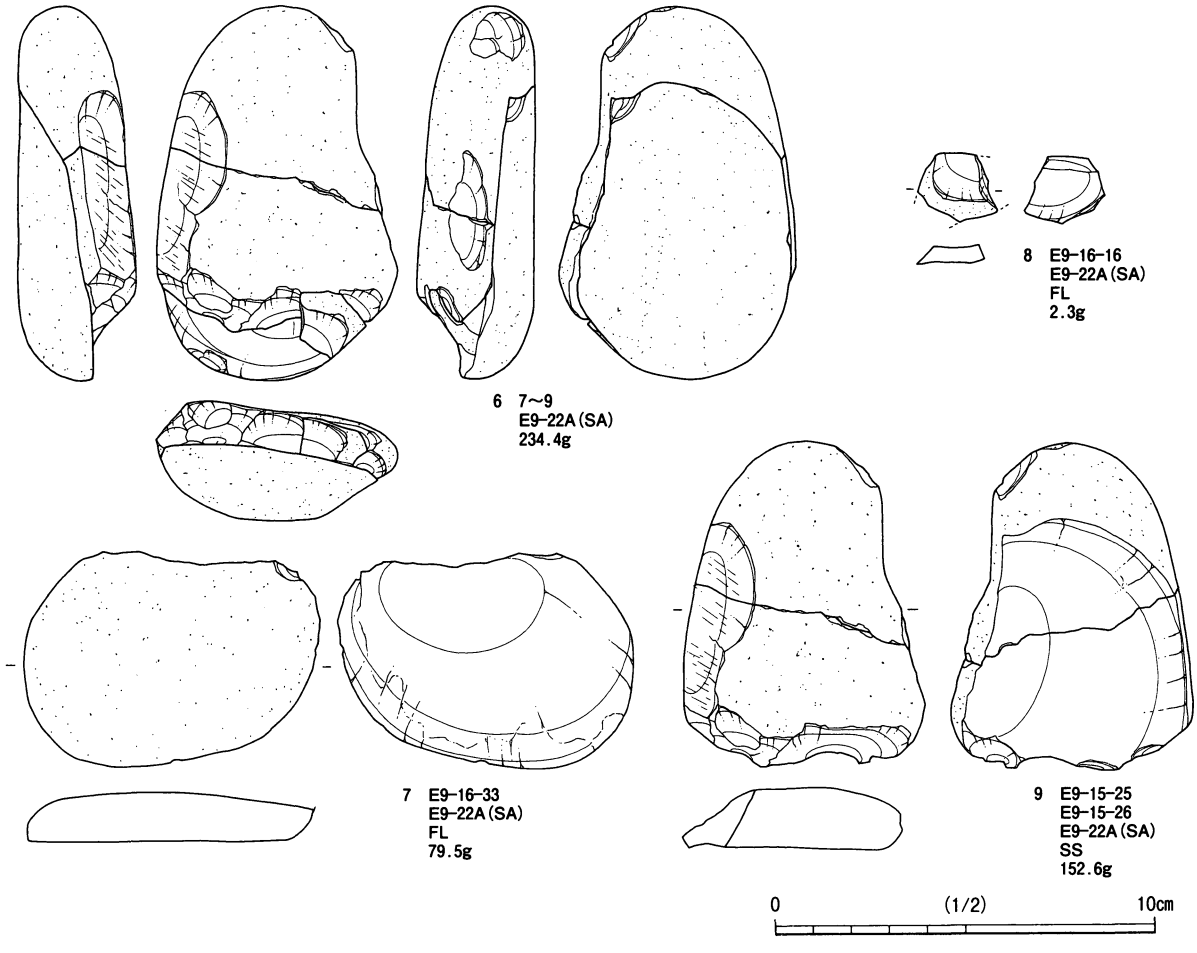
３は砂岩による敲石である。両端に浅い敲打痕が見られる。

４は信州和田峠周辺産の黒曜石による不定型な剥片である。

５は頁岩による石核である。打面と作業面を入れ替えながら，小型で不定型な剥片を剥離している。

４）接合資料とその関連資料（第220図）

・**E9-22（第220図）**　灰白色（5Y7/2）などの砂岩である。削器２点（１個体），剥片２点の合計４点（３個体）で構成される。６は削器２点（１個体；９），剥片２点（７・８）の接合資料である。扁平な礫を７と８・９の２つに分割し，９は末端に粗い調整加工を行っている。８は削器の調整剥片である。なお，９は欠損面も含め，全体が被熱により変色している。



第220図　Ｅ９-Ｂブロック出土遺物（２）

第111表　E９-Bブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
E9-15(OBB)										1															1
E9-16(OBB)																		1							1
E9-17(OBB)																		2							2
E9-18(OBB)										1								1							2
E9-19(OBB)																		2							2
E9-20(OBB)																		2							2
E9-21(SHE)																				1					1
E9-22(SA)						2(1)												2							4(3)
E9-23(SA)																1									1
合　計						2(1)				2						1		10		1					16(15)

第112表　E９-Bブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)										2								8							10
頁岩E(SHE)																				1					1
砂岩(SA)						2(1)										1		2							5(4)
合　計						2(1)				2						1		10		1					16(15)

第113表　E９-Bブロック礫組成表

母　岩	石 材	個数	重量
E8R-173	SA	2	381.3
E8R-175	SA	1	124.2
E8R-232	HO	2	56.1
E9R-94	SA	4	206.1
E9R-95	SA	4	80.3
E9R-96	SA	2	64.9
E9R-97	SA	4	65.3
E9R-98	SA	5	37.0
E9R-99	SA	2	63.9
E9R-100	SA	2	49.5
E9R-101	SA	2	219.4
E9R-102	SA	1	122.9
E9R-103	SA	1	135.2
E9R-104	SA	1	63.5
E9R-105	SA	1	17.0
E9R-106	SA	1	32.8
E9R-107	SA	1	20.9
E9R-108	SA	1	18.1
E9R-109	SA	1	20.7
E9R-110	SA	1	4.1
E9R-111	SA	1	1.8
E9R-112	SA	1	3.7
E9R-113	SA	1	111.6
E9R-114	SA	1	171.0
E9R-115	SA	1	157.9

母　岩	石 材	個数	重量
E9R-116	SA	1	160.0
E9R-117	SA	1	99.5
E9R-118	SA	1	28.7
E9R-119	SA	1	21.1
E9R-120	SA	1	10.7
E9R-121	RH	3	214.5
E9R-122	RH	2	186.7
E9R-123	RH	2	108.4
E9R-124	RH	1	222.3
E9R-125	RH	1	312.3
E9R-126	RH	1	191.1
E9R-127	RH	1	263.2
E9R-128	RH	1	169.3
E9R-129	RH	1	232.0
E9R-130	RH	1	39.1
E9R-131	RH	1	20.1
E9R-132	RH	1	32.8
E9R-133	RH	1	10.3
E9R-134	RH	1	4.3
E9R-135	RH	1	1.9
E9R-136	CH	2	94.5
E9R-137	CH	1	65.1
E9R-138	CH	1	48.1
E9R-139	CH	1	10.7
E9R-140	CH	1	10.7

母　岩	石 材	個数	重量
E9R-141	CH	1	10.3
E9R-142	CH	1	5.2
E9R-143	TU	2	97.0
E9R-144	TU	1	301.1
E9R-145	TU	1	138.5
E9R-146	TU	1	82.4
E9R-147	HO	2	18.6
E9R-148	HO	1	299.7
E9R-149	HO	1	171.4
E9R-150	HO	1	68.9
その他	SA	3	6.4

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	19	2008.3
チャート(CH)	8	244.6
凝灰岩(TU)	5	619.0
砂岩(SA)	50	2499.5
ホルンフェルス(HO)	7	614.7
合　計	89	5986.1

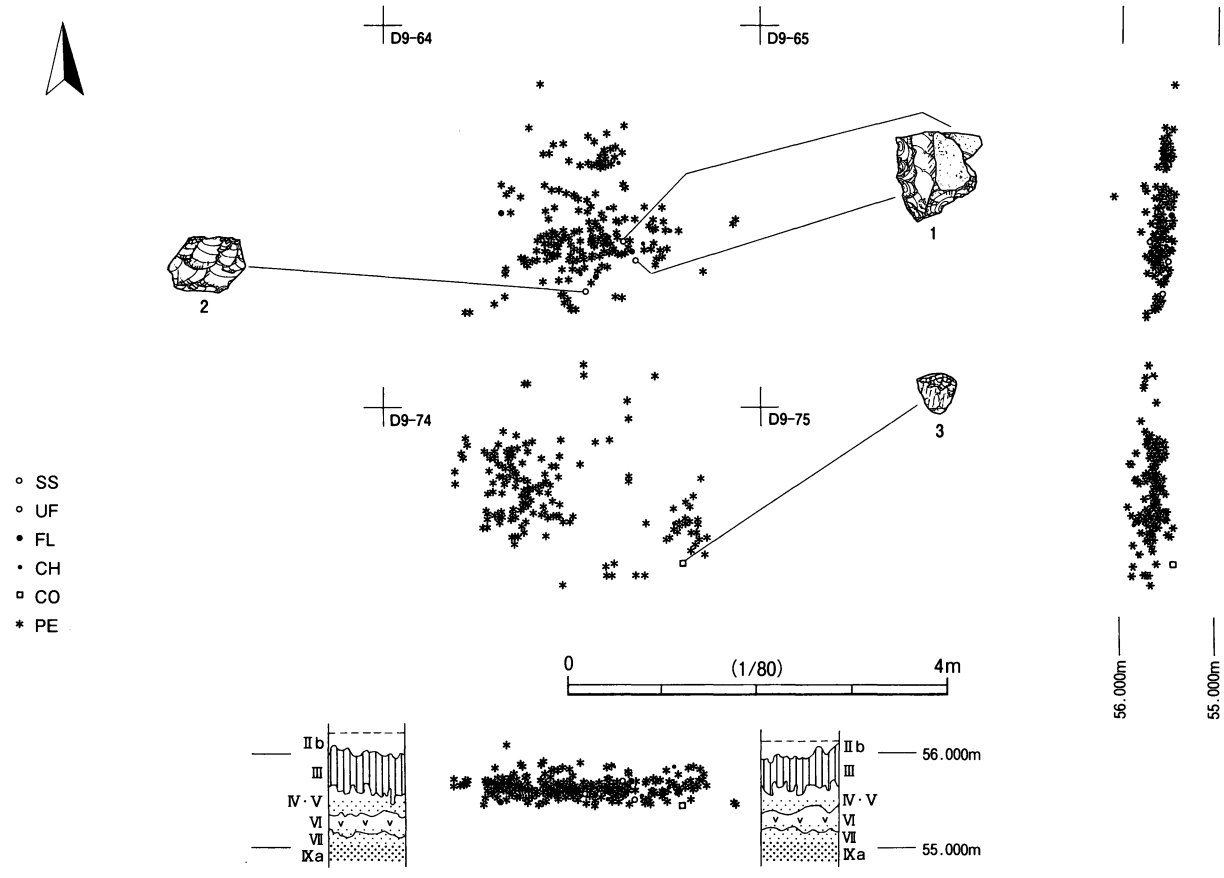
26　D9-Aブロック（第221～228図，第114～116表，カラー図版10，図版７）

１）ブロックの概要

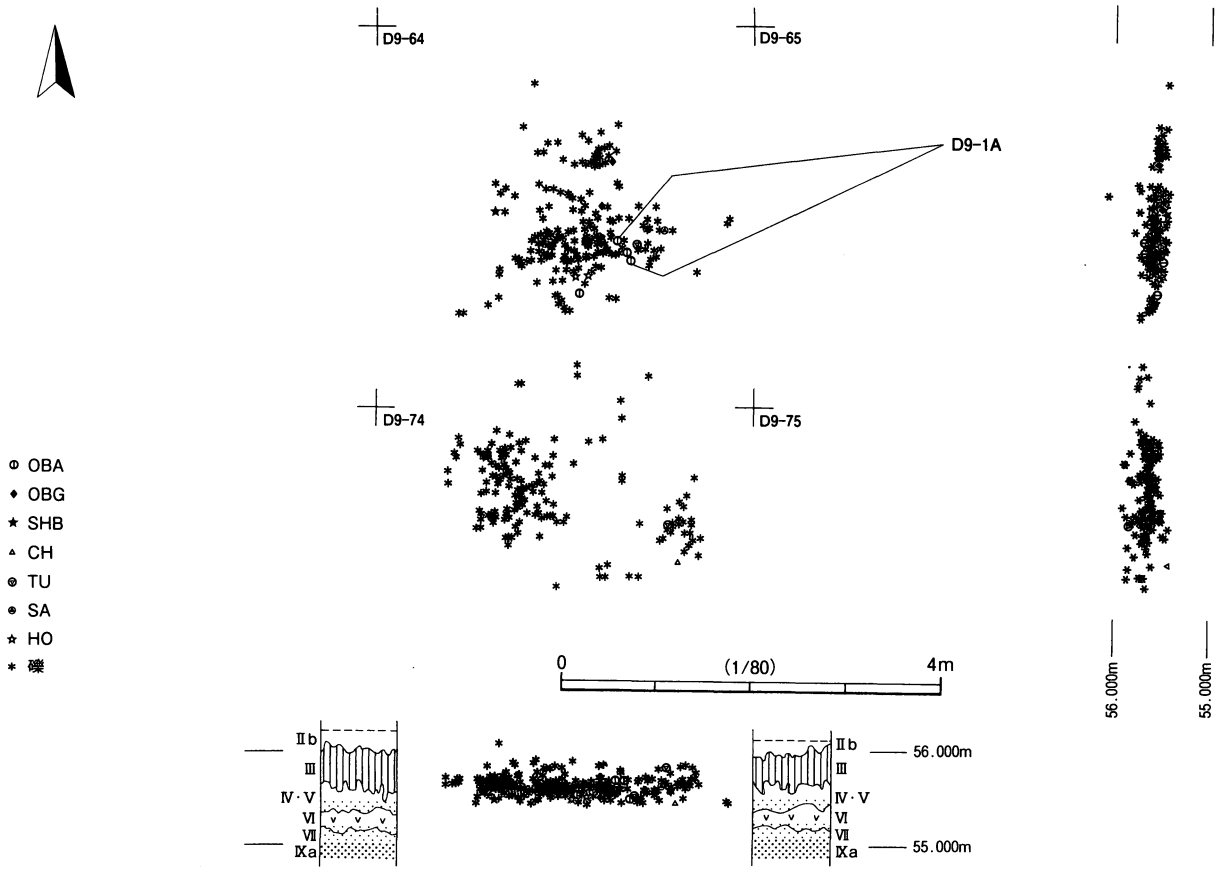
D9-Aブロックは，調査範囲南側のD9-64・74グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は50mである。

ブロックの規模と形状は，長軸６m，短軸３mの範囲に349点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅣ・Ⅴ層にかけて，60cmほどの高低差をもっているが，中心はⅢ層で20cmほどの高低差をもって包含されている（第221～227図）。

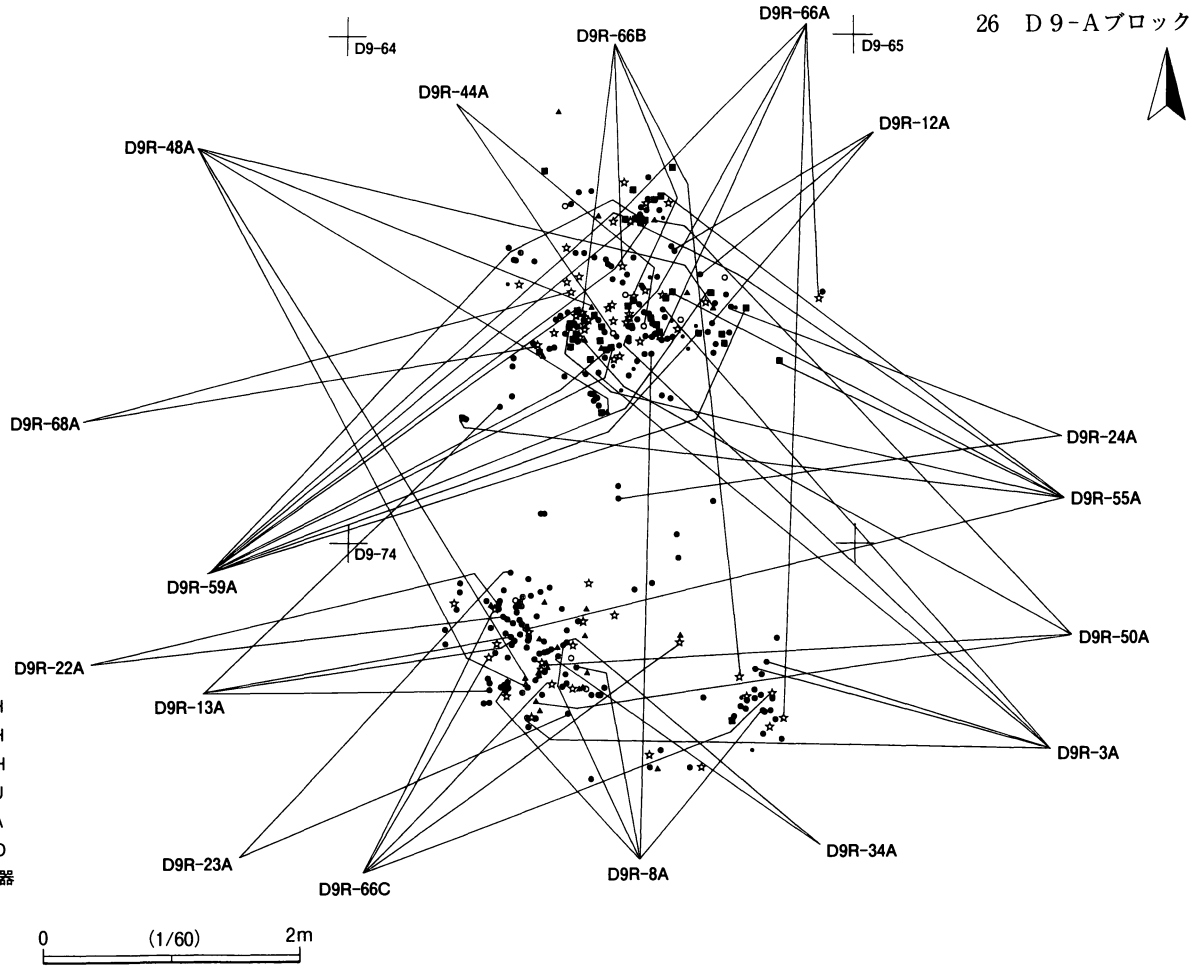
ブロックは，削器２点（１個体），使用痕ある剥片１点，剥片３点，砕片６点，石核１点の合計13点（12



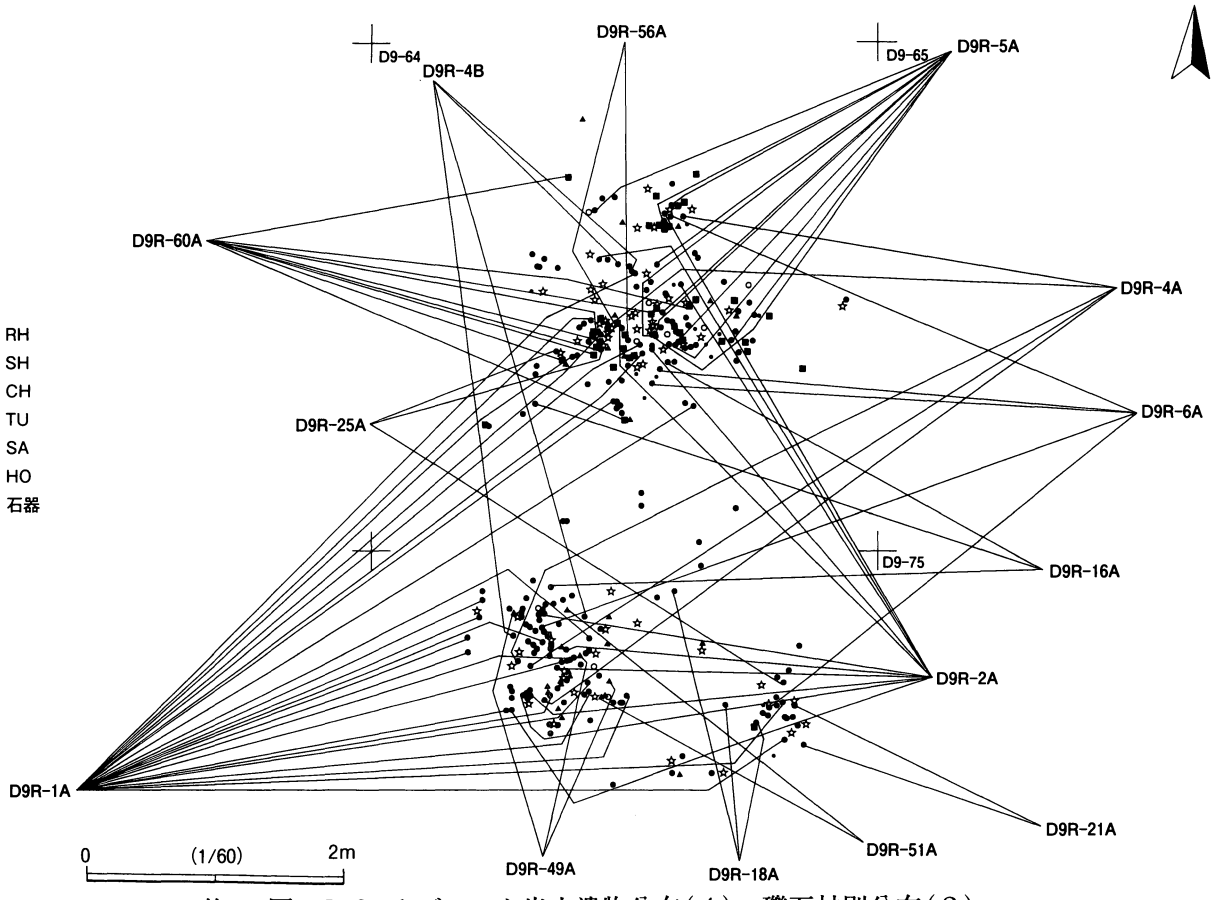
第221図　Ｄ９－Ａブロック出土遺物分布（１）－石器別分布－



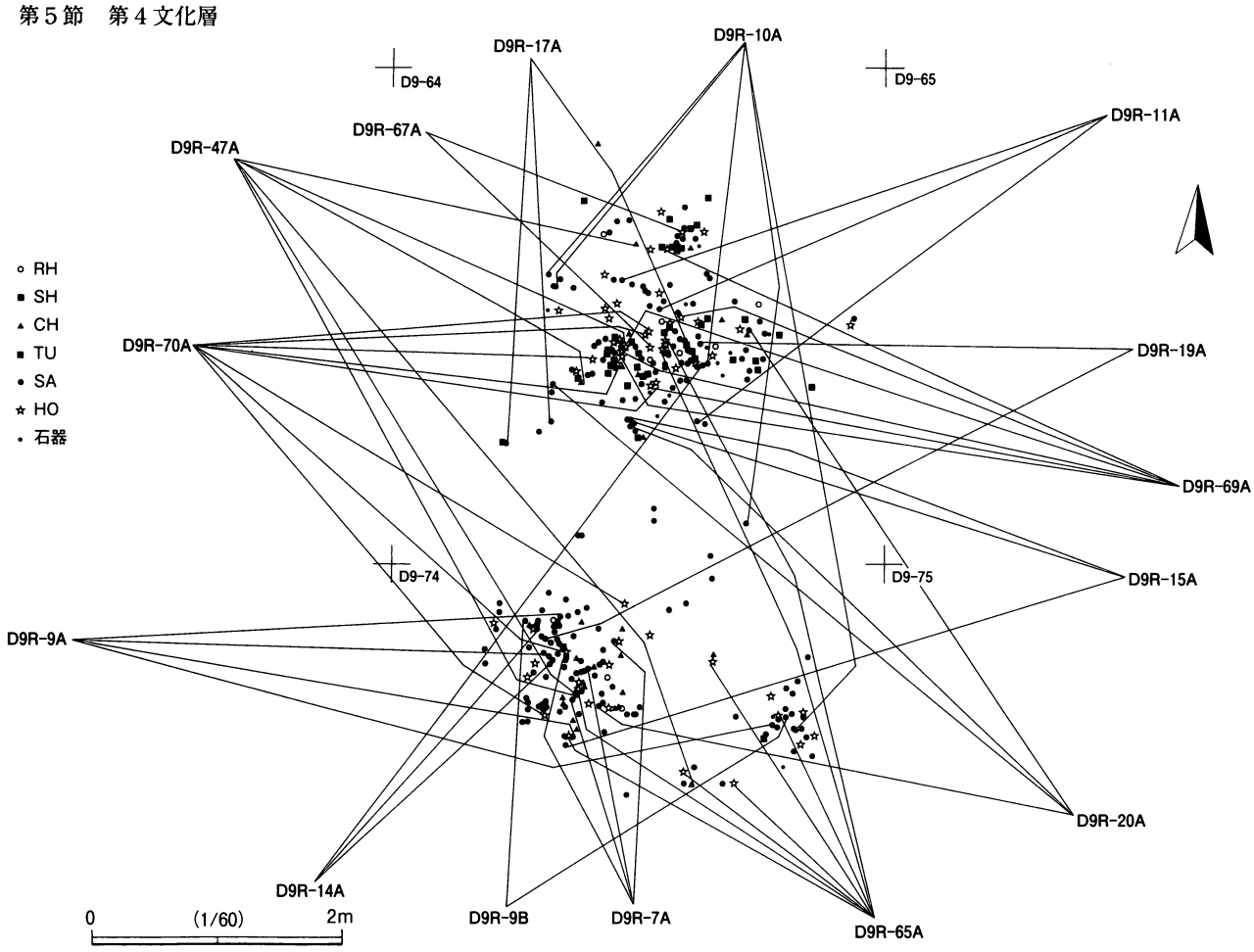
第222図　Ｄ９－Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



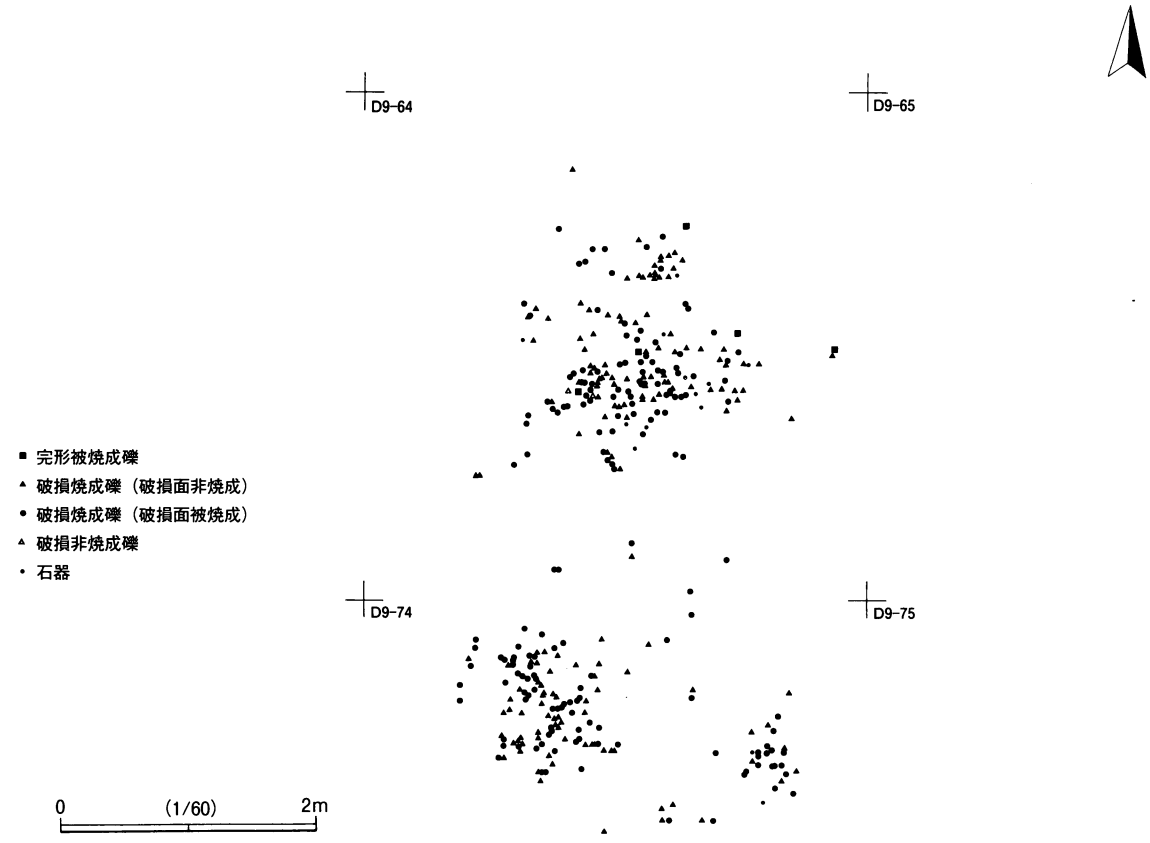
第223図　Ｄ９-Ａブロック出土遺物分布（３）－礫石材別分布（１）－



第224図　Ｄ９-Ａブロック出土遺物分布（４）－礫石材別分布（２）－



第225図　Ｄ９-Ａブロック出土遺物分布（５）－礫石材別分布（３）－



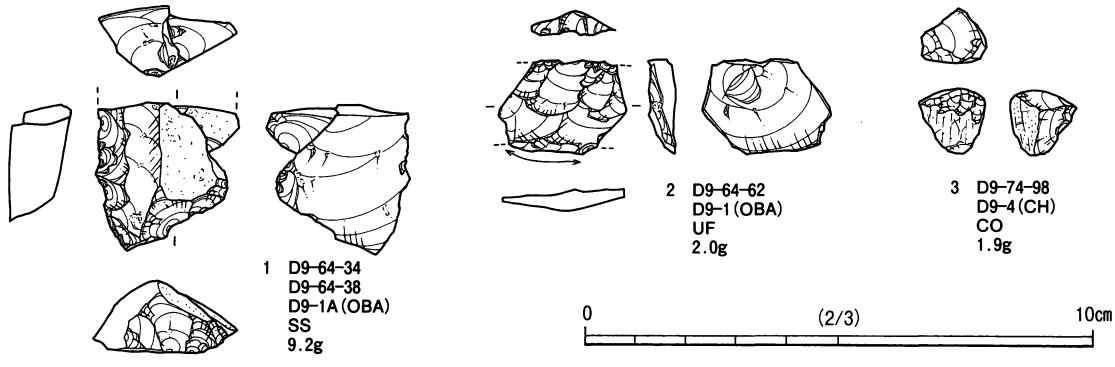
第226図　Ｄ９-Ａブロック出土遺物分布（６）－礫焼成別分布－

第227図　Ｄ９-Ａブロック出土遺物分布（７）－礫詳細分布－

個体）と礫336点で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ４点（３個体），黒曜石Ｇ２点，頁岩Ｂ１点，チャート１点，凝灰岩２点，砂岩１点，ホルンフェルス２点である。礫石材は，流紋岩４点（３母岩;715.6ｇ），頁岩12点（４母岩；475.7ｇ），チャート25点（８母岩；462.2ｇ），凝灰岩28点（６母岩；1,686.7ｇ），砂岩168点（43母岩；4,482.7ｇ），ホルンフェルス54点（６母岩；1,171.9ｇ），識別できなかった流紋岩５点（7.4ｇ）・チャート５点（3.9ｇ）・砂岩31点（115.1ｇ）・ホルンフェルス４点（2.1ｇ）で，識別率は87％である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは９母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ１母岩（D9-１），黒曜石Ｇ１母岩（D9-２），頁岩Ｂ１母岩（D9-３），チャート１母岩（D9-４），凝灰岩２母岩（D9-５・６），砂岩１母岩（D9-７），ホ



第228図　Ｄ９-Ａブロック出土遺物

第114表　Ｄ９-Ａブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
D9-1(OBA)						2(1)					1							1							4(3)
D9-2(OBG)																			2						2
D9-3(SHB)																		1							1
D9-4(CH)																				1					1
D9-5(TU)																			1						1
D9-6(TU)																			1						1
D9-7(SA)																			1						1
D9-8(HO)																		1							1
D9-9(HO)																			1						1
合　計						2(1)					1							3	6	1					13(12)

第115表　Ｄ９-Ａブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合計
黒曜石(OBA)						2(1)					1							1							4(3)
黒曜石G(OBG)																			2						2
頁岩B(SHB)																		1							1
チャート(CH)																				1					1
凝灰岩(TU)																			2						2
砂岩(SA)																			1						1
ホルンフェルス(HO)																		1	1						2
合　計						2(1)					1							3	6	1					13(12)

ルンフェルス２母岩（D9-８・９）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（13/13点）である。

・**D9-１**：自然面は平滑で，自然面及び内部は黒色不透明の黒曜石である。φ１㎜～２㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，削器２点（１個体），使用痕ある剥片１点，剥片１点の合計４点（３個体；12.4ｇ）である。接合資料は，削器２点（１個体；9.2ｇ）である。

・**D9-２**：黒灰色半透明の黒曜石である。産地は不明である。石器群の内訳は，砕片２点（0.1ｇ）である。

・**D9-３**：自然面は平滑で，自然面及び内部はにぶい黄橙色（10YR6/4）・にぶい黄橙色（10YR6/3）の北関東産頁岩である。剥片１点（2.6ｇ）の単独資料である。

・**D9-４**：自然面は比較的平滑で灰黄褐色(10YR5/2)，内部は暗灰色(N3/0)，節理は灰黄褐色(10YR5/2)のチャートである。石核１点（1.9ｇ）の単独資料である。

・**D9-５**：明オリーブ灰色（5GY7/1）の凝灰岩である。砕片１点（0.1ｇ）の単独資料である。

・**D9-６**：灰オリーブ色（5Y6/2）の凝灰岩である。砕片１点（0.3ｇ）の単独資料である。

・**D9-７**：灰オリーブ色（5Y5/2）の砂岩である。砕片１点（0.3ｇ）の単独資料である。

・**D9-８**：内部は灰オリーブ色（5Y5/2），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）のホルンフェルスである。剥片１点（0.9ｇ）の単独資料である。

・**D9-９**：内部は灰色（5Y4/1），節理はにぶい赤褐色（5YR4/3）のホルンフェルスである。砕片１点（0.3ｇ）の単独資料である。

第116表　Ｄ９-Ａブロック礫組成表

母　岩	石 材	個数	重量
D9R-1	SA	23	407.2
D9R-2	SA	11	424.8
D9R-3	SA	6	278.9
D9R-4	SA	14	357.2
D9R-5	SA	11	240.0
D9R-6	SA	5	281.4
D9R-7	SA	4	111.1
D9R-8	SA	5	261.6
D9R-9	SA	11	227.7
D9R-10	SA	8	140.2
D9R-11	SA	3	127.5
D9R-12	SA	3	55.6
D9R-13	SA	7	135.8
D9R-14	SA	3	38.2
D9R-15	SA	3	60.0
D9R-16	SA	3	34.0
D9R-17	SA	3	55.8
D9R-18	SA	3	47.2
D9R-19	SA	2	69.6
D9R-20	SA	7	79.5
D9R-21	SA	2	40.1
D9R-22	SA	2	30.3
D9R-23	SA	2	23.3
D9R-24	SA	3	35.0
D9R-25	SA	5	65.4
D9R-26	SA	1	206.5
D9R-27	SA	1	101.0
D9R-28	SA	1	118.2
D9R-29	SA	1	71.5
D9R-30	SA	1	36.0

母　岩	石 材	個数	重量
D9R-31	SA	1	57.8
D9R-32	SA	1	52.4
D9R-33	SA	1	55.1
D9R-34	SA	2	26.7
D9R-35	SA	1	13.6
D9R-36	SA	1	24.2
D9R-37	SA	1	30.2
D9R-38	SA	1	3.5
D9R-39	SA	1	9.2
D9R-40	SA	1	18.5
D9R-41	SA	1	17.6
D9R-42	SA	1	5.9
D9R-43	SA	1	7.4
D9R-44	RH	2	38.9
D9R-45	RH	1	295.4
D9R-46	RH	1	381.3
D9R-47	CH	6	121.7
D9R-48	CH	6	100.2
D9R-49	CH	3	101.5
D9R-50	CH	4	61.5
D9R-51	CH	3	7.7
D9R-52	CH	1	50.9
D9R-53	CH	1	12.2
D9R-54	CH	1	6.5
D9R-55	SH	8	180.9
D9R-56	SH	2	10.9
D9R-57	SH	1	282.9
D9R-58	SH	1	1.0
D9R-59	TU	15	635.5
D9R-60	TU	9	912.8

母　岩	石 材	個数	重量
D9R-61	TU	1	78.3
D9R-62	TU	1	33.1
D9R-63	TU	1	25.2
D9R-64	TU	1	1.8
D9R-65	HO	8	191.5
D9R-66	HO	27	347.2
D9R-67	HO	2	189.8
D9R-68	HO	2	11.3
D9R-69	HO	7	198.3
D9R-70	HO	8	233.8
その他	RH	5	7.4
その他	CH	5	3.9
その他	SA	31	115.1
その他	HO	4	2.1

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	9	723.0
頁岩(SH)	12	475.7
チャート(CH)	30	466.1
凝灰岩(TU)	28	1686.7
砂岩(SA)	199	4597.8
ホルンフェルス(HO)	58	1174.0
合　計	336	9123.3

３）出土遺物（第228図）

１は栃木県高原山産の黒曜石による削器である。末端から左側縁にかけて急角度の調整加工を行っている。上部が欠損している。

２は栃木県高原山産の黒曜石による使用痕ある剥片である。末端に微細な剥離痕が見られる。

３はチャートによる石核である。小型で不定型な三角錐状の剥片を素材として，表面に主要剥離面を切る細かい剥離痕が見られる。

27　D9-Bブロック（第229図，第117・118表，カラー図版10）

１）ブロックの概要

D9-Bブロックは，調査範囲南側のD9-89グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地のほぼ中央部で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は30mである。

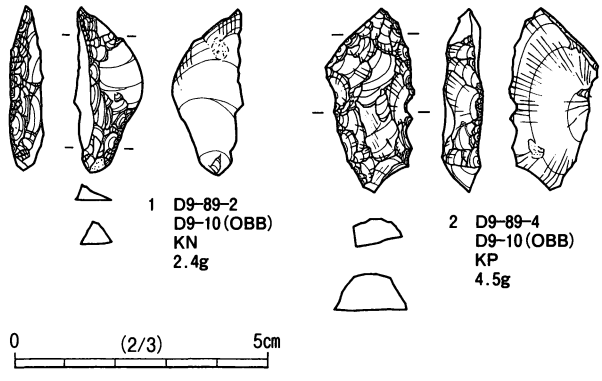
D9-89グリッドから４点の石器が20cmほどの高低差をもって出土している。

ブロックは，ナイフ形石器１点，角錐状石器１点，剥片２点の合計４点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ４点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは１母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ１母岩（D9-10）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％(4/4点)である。

・**D9-10**：薄墨を流したような半透明な黒曜石である。φ２mmほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，角錐状石器１点，剥片２点の合計４点（9.0ｇ）である。



第229図　Ｄ９-Ｂブロック出土遺物

３）出土遺物（第229図）

１は信州和田峠周辺産の黒曜石による一側縁加工のナイフ形石器である。打面側を基部として，左側縁に急角度の調整加工を行っている。

２は信州和田峠周辺産の黒曜石による角錐状石器である。横長剥片を横位に用い，両側縁に急角度で鋸歯状の調整加工を行っている。

第117表　Ｄ９-Ｂブロック母岩別石器組成表

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
D9-10(OBB)	1			1														2							4
合　計	1			1														2							4

第118表　Ｄ９-Ｂブロック石材別石器組成表

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	DA	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	合　計
黒曜石B(OBB)	1			1														2							4
合　計	1			1														2							4

第119表　ブロック別礫分類

礫分類	A		B		C		D		E		合　計	
ブロック名	点数	点数比	点数	点数比	点数	点数比	点数	点数比	点数	点数比	点数	点数比
C1-C					1	100.0%					1	100.0%
C1-D	1	1.3%	56	73.7%	19	25.0%					76	100.0%
C1-E	2	6.9%	24	82.8%	3	10.3%					29	100.0%
C1-F			9	64.3%	5	35.7%					14	100.0%
D1-B			44	42.7%	57	55.3%	1	1.0%	1	1.0%	103	100.0%
C2-C			7	58.3%	5	41.7%					12	100.0%
C2-D			1	25.0%	2	50.0%			1	25.0%	4	100.0%
D2-A			1	14.3%	6	85.7%					7	100.0%
D2-B	2	3.2%	30	48.4%	29	46.8%	1	1.6%			62	100.0%
D2-C	1	1.1%	36	39.6%	50	54.9%	1	1.1%	3	3.3%	91	100.0%
E6-A	4	3.1%	72	55.8%	51	39.5%			2	1.6%	129	100.0%
D7-A	2	6.7%	10	33.3%	18	60.0%					30	100.0%
E7-A	3	1.1%	121	42.6%	155	54.6%	1	0.4%	4	1.4%	284	100.0%
E7-B	1	2.7%	7	18.9%	29	78.4%					37	100.0%
E7-C	5	5.2%	37	38.1%	55	56.7%					97	100.0%
E8-A					1	100.0%					1	100.0%
E8-B	1	16.7%	1	16.7%	4	66.7%					6	100.0%
E8-C	4	4.2%	17	17.7%	69	71.9%			6	6.3%	96	100.0%
E8-D	1	11.1%			8	88.9%					9	100.0%
E8-E					4	100.0%					4	100.0%
E8-F	23	11.7%	62	31.5%	102	51.8%	6	3.0%	4	2.0%	197	100.0%
E8-G	7	3.5%	103	51.5%	90	45.0%					200	100.0%
E8-H	1	4.3%	6	26.1%	16	69.6%					23	100.0%
E9-A	5	2.4%	80	38.6%	120	58.0%	1	0.5%	1	0.5%	207	100.0%
E9-B	13	14.6%	29	32.6%	47	52.8%					89	100.0%
D9-A	5	1.5%	159	47.3%	170	50.6%			2	0.6%	336	100.0%
ブロック外					2	100.0%					2	100.0%
合　計	81	3.8%	912	42.5%	1118	52.1%	11	0.5%	24	1.1%	2146	100.0%

第120表　ブロック別礫遺存率

礫遺存率	a		b		c		d		合　計	
ブロック名	点数	点数比	点数	点数比	点数	点数比	点数	点数比	点数	点数比
C1-C					1	100.0%			1	100.0%
C1-D	1	1.3%			75	98.7%			76	100.0%
C1-E	2	6.9%	6	20.7%	21	72.4%			29	100.0%
C1-F					14	100.0%			14	100.0%
D1-B	1	1.0%			101	98.1%	1	1.0%	103	100.0%
C2-C					12	100.0%			12	100.0%
C2-D					4	100.0%			4	100.0%
D2-A					7	100.0%			7	100.0%
D2-B	3	4.8%	1	1.6%	57	91.9%	1	1.6%	62	100.0%
D2-C	2	2.2%	1	1.1%	83	91.2%	5	5.5%	91	100.0%
E6-A	4	3.1%	1	0.8%	116	89.9%	8	6.2%	129	100.0%
D7-A	2	6.7%	3	10.0%	25	83.3%			30	100.0%
E7-A	4	1.4%	8	2.8%	244	85.9%	28	9.9%	284	100.0%
E7-B	1	2.7%	1	2.7%	35	94.6%			37	100.0%
E7-C	5	5.2%	4	4.1%	84	86.6%	4	4.1%	97	100.0%
E8-A					1	100.0%			1	100.0%
E8-B	1	16.7%			5	83.3%		0.0%	6	100.0%
E8-C	4	4.2%	2	2.1%	88	91.7%	2	2.1%	96	100.0%
E8-D	1	11.1%			8	88.9%			9	100.0%
E8-E					4	100.0%			4	100.0%
E8-F	27	13.7%	9	4.6%	158	80.2%	3	1.5%	197	100.0%
E8-G	7	3.5%	1	0.5%	186	93.0%	6	3.0%	200	100.0%
E8-H	1	4.3%	4	17.4%	18	78.3%			23	100.0%
E9-A	6	2.9%	11	5.3%	189	91.3%	1	0.5%	207	100.0%
E9-B	13	14.6%	10	11.2%	66	74.2%			89	100.0%
D9-A	5	1.5%	2	0.6%	314	93.5%	15	4.5%	336	100.0%
ブロック外					2	100.0%			2	100.0%
合　計	90	4.2%	64	3.0%	1918	89.4%	74	3.4%	2146	100.0%

第121表　ブロック別母岩復元率

母岩復元率	a		b		c		d		合　計	
ブロック名	母岩数	母岩数比	母岩数	母岩数比	母岩数	母岩数比	母岩数	母岩数比	母岩数	母岩数比
C1-C					1	100.0%			1	100.0%
C1-D	1	3.3%	3	10.0%	26	86.7%			30	100.0%
C1-E	2	10.0%	6	30.0%	12	60.0%			20	100.0%
C1-F					10	100.0%			10	100.0%
D1-B	1	2.7%	5	13.5%	31	83.8%			37	100.0%
C2-C					4	100.0%			4	100.0%
C2-D					4	100.0%			4	100.0%
D2-A					1	100.0%			1	100.0%
D2-B	3	10.7%	1	3.6%	23	82.1%	1	3.6%	28	100.0%
D2-C	3	11.5%	5	19.2%	18	69.2%			26	100.0%
E6-A	4	6.3%	1	1.6%	58	92.1%			63	100.0%
D7-A	3	18.8%	6	37.5%	7	43.8%			16	100.0%
E7-A	5	5.0%	21	20.8%	75	74.3%			101	100.0%
E7-B	1	4.5%	1	4.5%	20	90.9%			22	100.0%
E7-C	5	12.5%	4	10.0%	30	75.0%	1	2.5%	40	100.0%
E8-A					1	100.0%			1	100.0%
E8-B	1	20.0%			4	80.0%			5	100.0%
E8-C	4	9.3%	5	11.6%	33	76.7%	1	2.3%	43	100.0%
E8-D	1	16.7%			5	83.3%			6	100.0%
E8-E					4	100.0%			4	100.0%
E8-F	27	23.3%	19	16.4%	70	60.3%			116	100.0%
E8-G	8	11.4%	5	7.1%	57	81.4%			70	100.0%
E8-H	1	8.3%	4	33.3%	7	58.3%			12	100.0%
E9-A	6	6.3%	13	13.5%	76	79.2%	1	1.0%	96	100.0%
E9-B	13	22.8%	11	19.3%	33	57.9%			57	100.0%
D9-A	5	7.0%	9	12.7%	57	80.3%			71	100.0%
ブロック外			1	50.0%	1	50.0%			2	100.0%
合　計	94	10.6%	120	13.5%	668	75.4%	4	0.5%	886	100.0%

礫分類

A：完形被焼成礫

B：破損焼成礫（破損面非焼成）

C：破損焼成礫（破損面被焼成）

D：完形非焼成礫

E：破損非焼成礫

礫遺存率

a：完形

b：1/2以上

c：1/2未満

d：破片

母岩復元率

a：完形

b：1/2以上

c：1/2未満

d：破片

第230図　第４文化層ブロック外出土遺物分布

28 礫群（第119～121表）

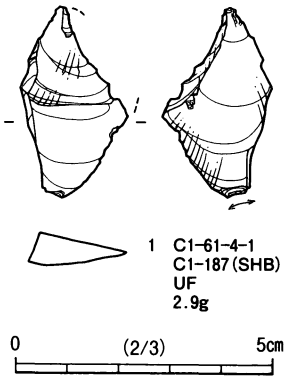
本文化層では，26か所のブロックと２か所の単独地点から礫の集中分布が確認されており，それらに対して通例の名称である礫群を呼称した。礫群を構成する礫の属性分類に当たっては，石材・母岩・重量・礫分類・礫遺存率・母岩復元率について分類を行った。礫分類は，Ａ：完形被焼成礫，Ｂ：破損被焼成礫（破損面非焼成），Ｃ：破損被焼成礫（破損面被焼成），Ｄ：完形非焼成礫，Ｅ：破損非焼成礫に区分し，礫遺存率及び母岩復元率は，ａ：完形，ｂ：1/2以上，ｃ：1/2未満，ｄ：破片とした。なお，被焼成と非焼成の区別は，表面が赤化している，煤けたように黒くなっている，あるいはひび割れが生じているなど，被熱によると考えられる痕跡が肉眼で観察されるか否かによった。

礫の総点数は2,146点，総重量は68,003.6ｇである。最大重量は381.3ｇ，最低重量は0.1ｇ，平均重量は31.8ｇである。母岩分類のできなかった資料を除いた石材の母岩数と点数は，ブロックにより差があるが，全体としては，砂岩が391母岩916点（44％）とほぼ半数を占め，以下，流紋岩が170母岩349点（17％），凝灰岩が111母岩248点（12％），チャートが117母岩241点（12％），ホルンフェルスが62母岩159点（８％）で砂岩と合わせて93％を占める。礫分類も，ブロックにより差があるが，全体としては，Ｂ：破損被焼成礫（破損面非焼成）とＣ：破損被焼成礫（破損面被焼成）が各々ほぼ半数で90％以上を占める。礫遺存率はｃ：1/2未満が90％，母岩復元率でもｃ：1/2未満が75％と完形礫の割合が極めて低い。

29 ブロック外（第230・231図，カラー図版10）

ここでは第４文化層のブロックを形成していないグリッド単独（２点以下）出土の遺物について記述する。使用痕ある剥片１点，剥片１点，礫２点の合計５点が出土している。

１はグリッド単独出土で，にぶい黄褐色（10YR5/3）の北関東産頁岩による使用痕ある剥片である。折断剥片の末端に微細な剥離痕が見られる。C1-61グリッドのⅣ・Ⅴ層から出土している。

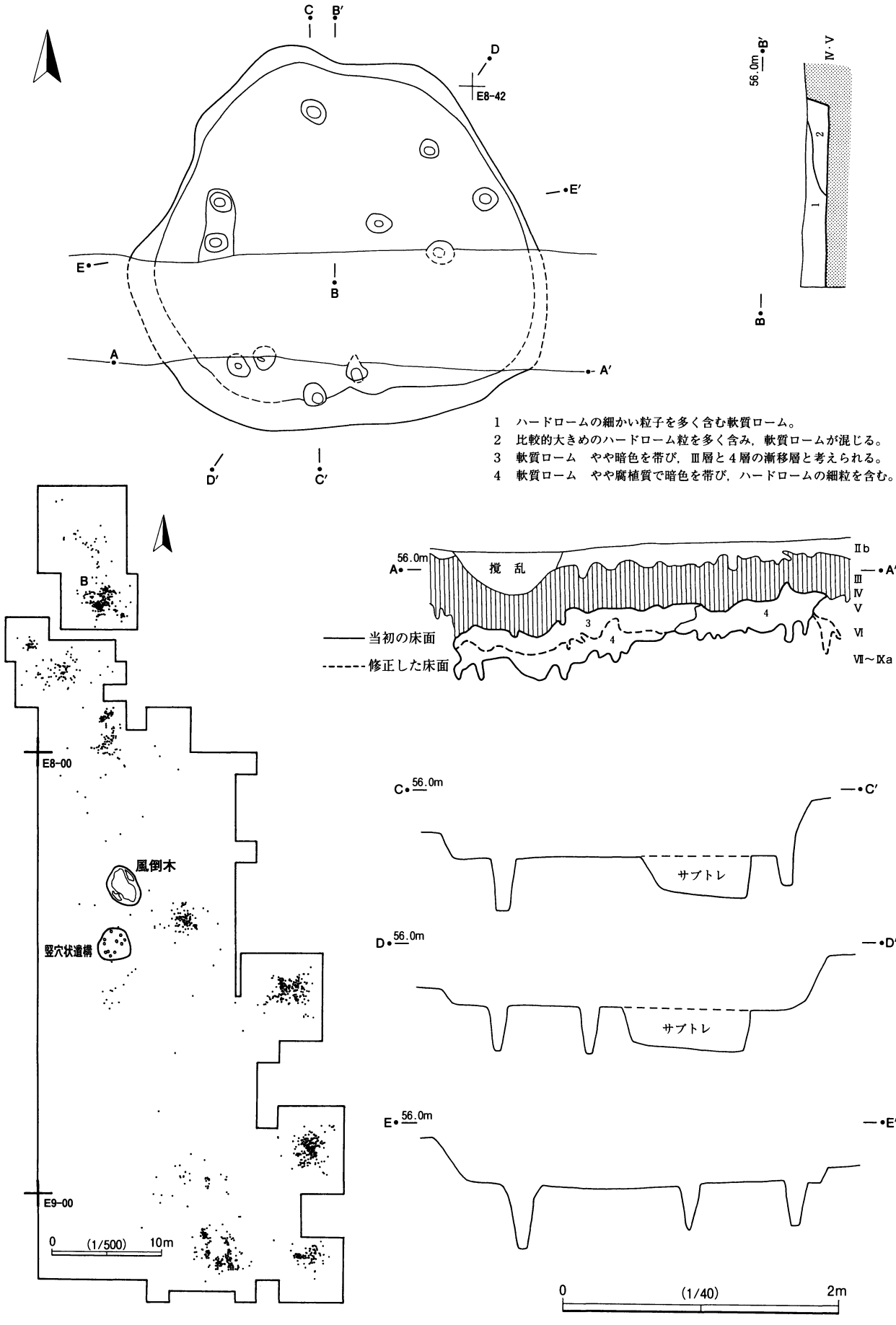


第231図　第４文化層ブロック外出土遺物

30 竪穴状遺構（第232・233図，カラー図版14）

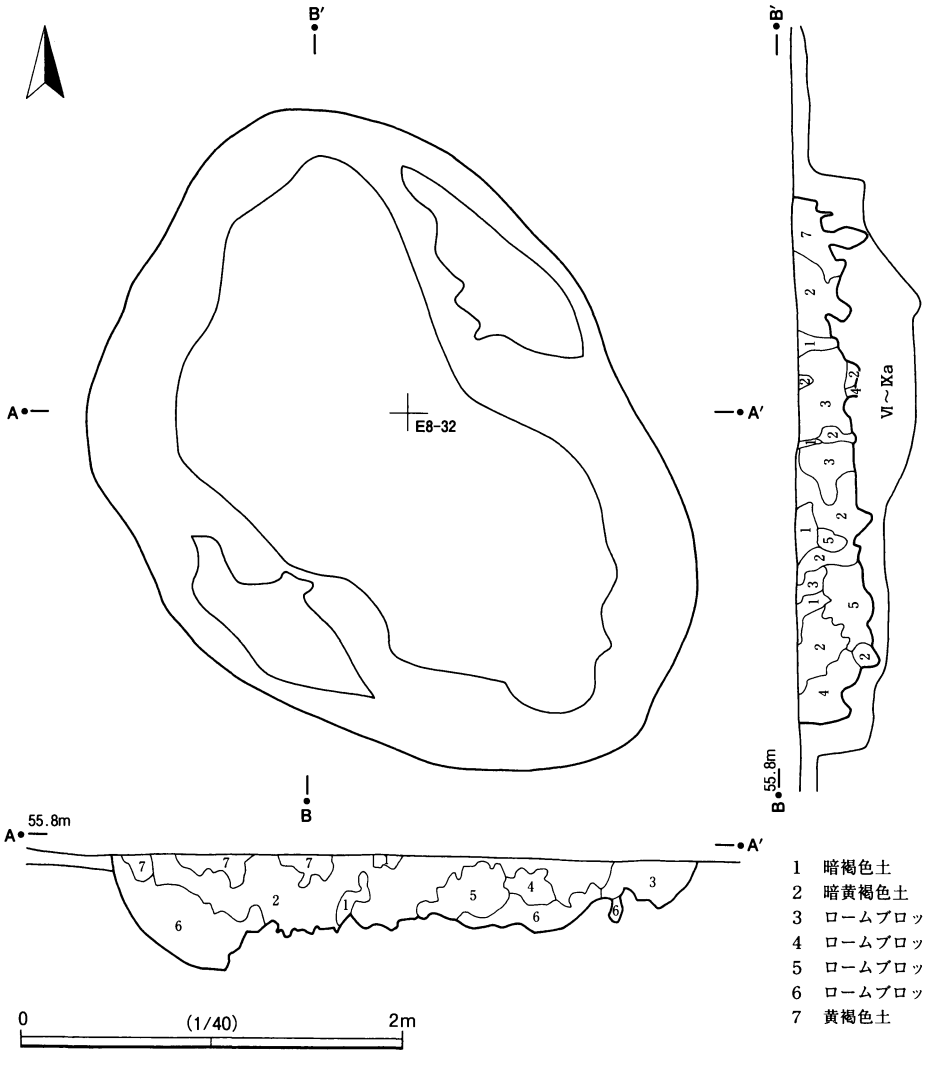
台地の東側縁辺部のE8-41グリッドを中心に，長軸3.1m，短軸2.6m，深さ40cmの不整円形の竪穴状遺構を１基検出した。検出面は，土層断面図から判断すればⅣ層である。床面は調査時の所見によれば，Ⅵ層からⅦa層上部（Ⅶ層～Ⅸa層）にかけてで，覆土は腐食性のローム土が主体で，その上面をⅢ層が覆っている。また，柱穴内の覆土は調査時の所見によれば，１層あるいは４層である。

稲田孝司氏が『古代史復元１』（1988）や『考古学研究第50巻３号』（2003）などで，旧石器時代住居遺構判断の３条件を述べているが，当該遺構と照らし合わせてみると，始めに，竪穴状遺構「を安定した無遺物層がおおい，新しい時代の遺構・遺物との見分けは明瞭で」（第３条件）はある。次に，E8-Dブロックが隣接し，最も近接した遺物との距離は40cmほどであるが，昭和58年度の千葉県文化財センター年報によれば，「出土遺物が見られない」と記載されており，遺構内では「年代判定可能な遺物を伴」（第２条件）っていない。最後に，炉が検出されず，底面の傾斜や凹凸があり，柱穴の深さ・並びが不揃いなど，


C
B′
D
E8-42
E′
E
B
A
A′
D′
C′
56.0m
B′
Ⅳ・Ⅴ
2
1
B
1　ハードロームの細かい粒子を多く含む軟質ローム。
2　比較的大きめのハードローム粒を多く含み，軟質ロームが混じる。
3　軟質ローム　やや暗色を帯び，Ⅲ層と４層の漸移層と考えられる。
4　軟質ローム　やや腐植質で暗色を帯び，ハードロームの細粒を含む。
56.0m
A
撹　乱
Ⅱb
A′
Ⅲ
Ⅳ
Ⅴ
Ⅵ
Ⅶ～Ⅸa
3
4
4
当初の床面
修正した床面
B
E8-00
風倒木
竪穴状遺構
E9-00
0　(1/500)　10m
C
56.0m
C′
サブトレ
D
56.0m
D′
サブトレ
E
56.0m
E′
0　(1/40)　2m

第232図　竪穴状遺構

「安定した状態」（第１条件）とはいえない。先に挙げた第３条件についても，検出面からⅡ層最下部まで30cmほどあることから，旧石器時代に属する可能性は高いと思われるが，昭和58年度の千葉県文化財センター年報によれば，「石器集中地点の調査中には発見されず，セクション図作成のためサブトレンチを入れて断面を清掃した際に検出され，平面的にはハードローム面が露呈し乾燥が進んだ後，含水率の差によってプランを確認した」もので，土層断面図を見る限りでも，検出面はⅣ層としても，本来の掘り込み面は明らかとはいえない。これらのことから，人為的に掘り込まれた遺構として積極的に扱うことには難点があるように思われる。現段階では，可能性の指摘にとどめ，有力な類似の資料の発見をまって判断したい。また，付近では風倒木によるものと考えられる痕跡も検出されており，竪穴状遺構との比較のために記録されていることから，併せて記載した。



1　暗褐色土　腐植土とソフトローム粒を含む。
2　暗黄褐色土　ハードロームブロックを含む汚れたソフトローム。
3　ロームブロック　Ⅳ・Ⅴ層。
4　ロームブロック　多量の腐植土を含む。
5　ロームブロック　Ⅴ層を主体として，ソフトロームを含む。
6　ロームブロック　多量の腐植土・ソフトロームを含み，非常にもろい。
7　黄褐色土　腐植土を含むソフトローム。

第233図　風倒木痕

第６節　時期不明・その他

ここでは，帰属文化層の不明な遺物，旧石器時代終末期のブロックを形成していないグリッド単独（２点以下）出土の遺物について記述する。ナイフ形石器２点，剥片３点，礫１点，尖頭器２点の合計８点が出土している。

１　ブロック外（第234・235図，カラー図版10）

１・２はグリッドから出土した帰属文化層の不明な石器である。１は内部は灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は灰色（5Y4/1）の頁岩による基部加工のナイフ形石器である。素材の打面側を基部として，基部に細かな調整加工を行っている。C1-1グリッドから出土している。２は自然面は褐色（10YR4/4），内部は褐灰色（10YR5/1）・黄灰色（2.5Y6/1）・灰白色（5Y7/1）の嶺岡産頁岩による部分加工のナイフ形石器である。素材の打面側を基部として，左側縁の下半部と右側縁の上部に細かな調整加工を行っている。なお，右側縁の大半に自然面が残っており，形態上は二側縁加工のナイフ形石器と同等である。また，先端に微細な剥離痕が見られる。C1-88グリッドから出土している。

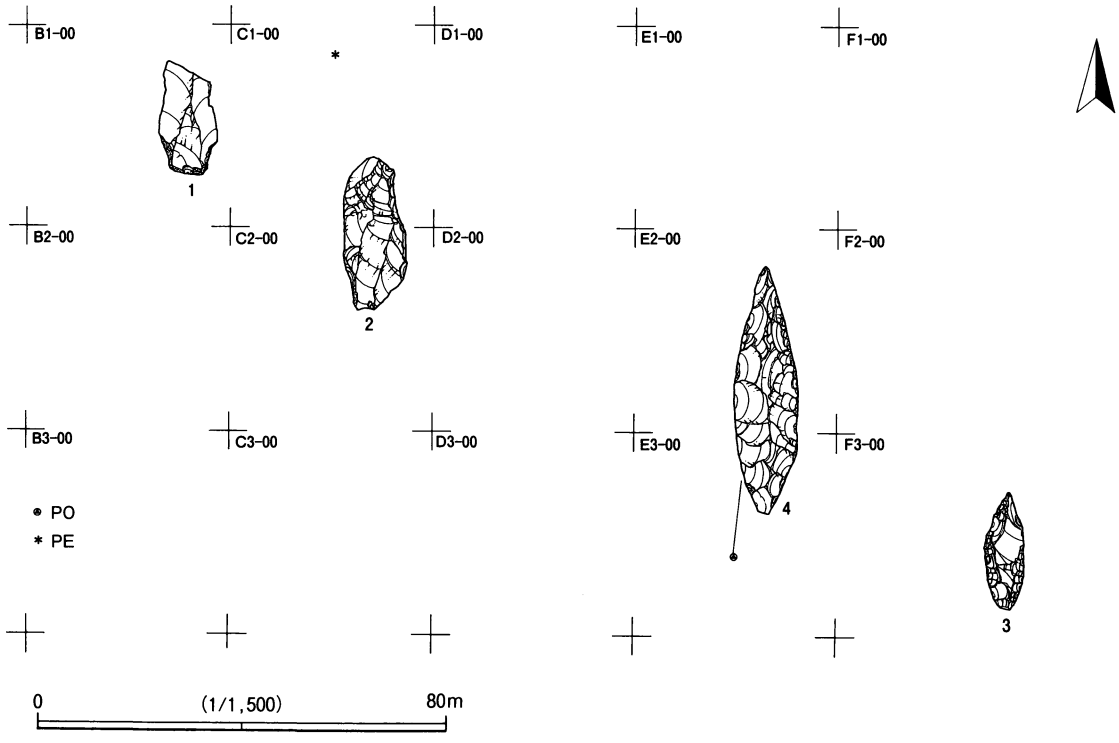
３・４は旧石器時代終末期のブロックを形成していないグリッド単独（２点以下）出土の石器である。３は灰オリーブ色（5Y6/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の嶺岡産頁岩による尖頭器である。周辺加工による柳葉形に近い木葉形で，横断面形は台形に近い形状である。素材の打面側を基部として，表裏のほぼ全周に細かな調整加工を行っている。C1グリッド表採である。４は灰黄褐色(10YR6/2)の地に灰白色(10YR8/2)が部分的に混じる流紋岩による尖頭器である。両面加工による柳葉形で，横断面形は凸レンズ状である。表裏に平坦剥離を行っている。概して両面とも器体の右側に末端が蝶番状あるいは階段状となる調整加工が目立つ。素材時の剥離面は，残されていない。E3-54グリッドのⅡ層下部から出土している。縄文時代草創期に帰属する可能性もある。

引用文献

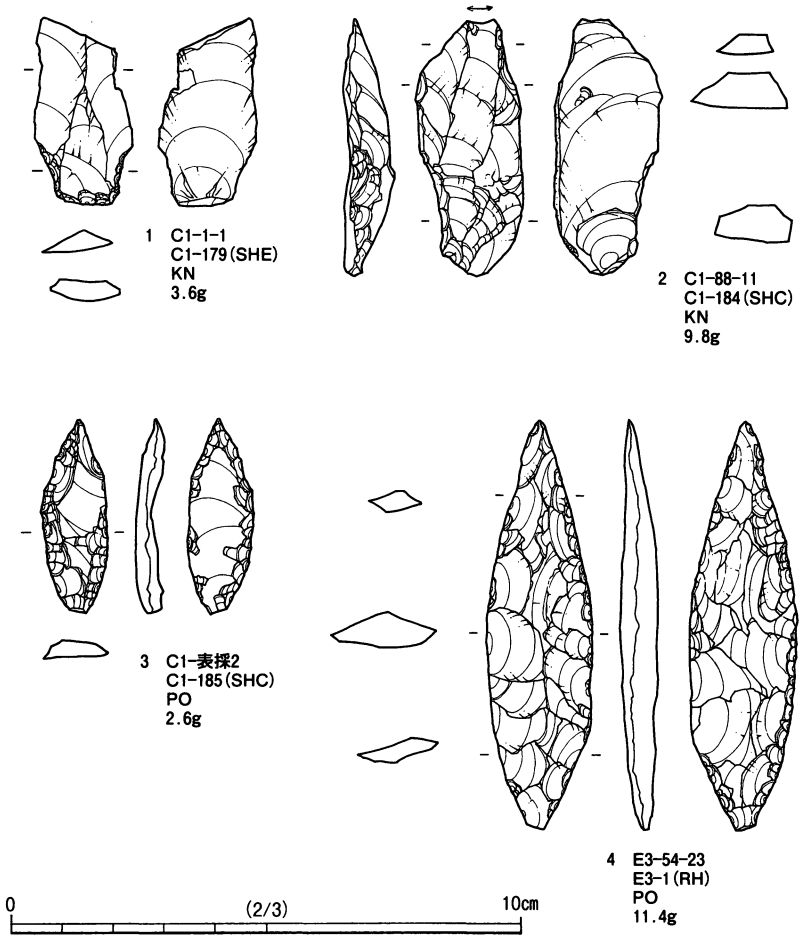
稲田孝司　1988　「旧石器集団の行動軌跡」『古代史復元１・旧石器人の生活と集団』講談社

稲田孝司　2003　「日本における旧石器時代住居遺構の批判的検討」『考古学研究』第50巻第３号

（財）千葉県文化財センター　1983　『千葉県文化財センター年報』No.９－昭和58年度－



第234図　時期不明・その他ブロック外出土遺物分布



第235図　時期不明・その他ブロック外出土遺物

第3章　ま　と　め

ナキノ台遺跡では，45か所のブロックから約3,200点の石器・礫が出土した。これらは，立川ローム層第２黒色帯下部から立川ローム層上部にかけて出土しており，石器群の内容とその出土層準から４枚の文化層に区分した。本章では，代表的なブロックを取り上げながら文化層ごとにまとめたいと思う。

第１文化層

第１文化層は，立川ローム層第２黒色帯（Ⅶ層～Ⅸ層）を中心に包含される石器群で，石器476点，礫19点が12か所のブロック（C1-A・B，D1-A，C2-A・B，G4-A，C7-A，B9-A，C9-A，D10-A，C10-A，E9-Cブロック）と７か所の単独出土地点から出土した。本文化層は，出土層位に幅があり，石器群の内容も一様ではないことから，２～３時期に細分される可能性もあるが，C1-A，D1-Aブロックにはブロック間に接合関係，これら及びC1-B，C2-Aブロックにはブロック間に母岩の共有関係があることから同時期と考えられる。また，E4-04・05グリッドでは焼土遺構が検出されている。さらに，C9-48グリッドでは土坑が検出されており，後述する炭化物集中地点のC-１と重複している。他に，炭化物集中地点（C-１～C-６）が６か所検出されている。また，本文化層ではC1-A，G4-Aブロックで12点の石斧が出土しているが，他に比較的軟質のホルンフェルスによる疑似分銅型の石斧１点がD1-50グリッドのⅨ層から出土しており，遺物には黄褐色土の付着も見られるが，出土状況の写真（ハードローム中に包含されている遺物の周辺は黒褐色土），使用石材，形態等から上層の遺物の可能性もあると判断し，今回の掲載は見送った。なお，未整理のため，実見はしていないが，調査時の所見によれば，早期の陥穴状遺構008（G3-23グリッド）の覆土下部（底部から40cm上の黒褐色土）からは礫斧が出土しているようである。

第２文化層

第２文化層は，立川ローム層のハードローム層（Ⅵ層下部～Ⅶ層）を中心に包含される石器群で，石器42点が４か所のブロック（E4-A・B，B9-C，D10-Bブロック）から出土した。武蔵野台地のⅥ層の石器群に相当すると考えられる。

第３文化層

第３文化層は，立川ローム層のハードローム層（Ⅴ層下部）を中心に包含される石器群で，石器６点，礫１点が２か所のブロック（C8-A，B9-Bブロック）と３か所の単独出土地点から出土した。前後する文化層に比べ，出土地点・出土層位に多少違いがあることや調査時の所見なども勘案して，設定したものである。武蔵野台地のⅤ層下部の石器群に相当すると思われるが，層位的・資料的制約などから，その内容は明確ではなく，第４文化層あるいは第３文化層に帰属する可能性もある。いずれにしろ，Ⅴ層下部の石器群を認めるかどうかを含め，ＡＴ降灰前後の石器群の詳細な再検討が必要と思われる。

第４文化層

第４文化層は，立川ローム層ソフトローム層（Ⅲ層下部）からハードローム最上層（Ⅳ・Ⅴ層）を中心に包含されている石器群である。武蔵野台地のⅣ層下部ないしⅤ層の石器群に相当すると考えられる。C1-C～F，D1-B，C2-C・D，D2-A～C，E6-A，D7-A，E7-A～C，E8-A～H，E9-A・B，D9-A・Bブロックの27か所が該当する。他に，単独出土地点４か所を検出した。C1-C・D，C2-C，

D1-B，D2-A～C，D7-A，E7-A～C，E8-C・D・F～H，E9-A・Bブロックにはブロック間に接合関係，前行のブロック及びC1-E，C2-D，D1-Cブロックにはブロック間に母岩の共有関係がある。また，これらのブロックは，石器石材の上では，ホルンフェルスを主体として，嶺岡産頁岩などの頁岩類や瑪瑙・玉髄などが伴う遺跡北側のC1-C～F，D1-B，C2-C・D，D2-A～C，E6-Aブロックと信州和田峠産の黒曜石などを主体とする遺跡南側のD7-A，E7-A～C，E8-A～H，E9-A・B，D9-A・Bブロックに分かれる。礫は，D9-Bブロックを除いて，すべてのブロックに伴っており，E8-Eブロックは礫のみである。礫石材や礫分類については，概ね共通しているが，ブロックにより多少，差も見られる。本文化層は，近接する草刈遺跡第６文化層や押沼大六天遺跡第２文化層と共通する点が多い。

また，台地の東側縁辺部のE8-41グリッドを中心に，長軸３m，短軸2.6m，深さ20cmの不整円形の竪穴状遺構を１基検出した。人為的に掘り込まれた遺構として積極的に扱うことには難点があるように思われることから，現段階では，可能性の指摘にとどめ，有力な類似の資料の発見をまって判断したい。

ブロック別石器垂直分布グラフについて（第236～239図）

ブロック別に石材による遺物の出土レベルを10cm刻みに区切り，出土点数をグラフ化した。

石器石材について

本遺跡では，既報告の草刈遺跡や押沼大六天遺跡と同様に，東北産頁岩，北関東及び東関東方面と考えられている頁岩，県南嶺岡産と考えられている頁岩，上総丘陵砂礫層ほかと考えられているチャート，砂岩，凝灰岩，瑪瑙・玉髄，信州産，栃木県高原山産などと考えられる黒曜石，産地の特定できない安山岩などが用いられている。頁岩類については，田村　隆氏を中心に精力的な産地探索が継続されており，その実態も判明しつつあるようである。なお，本報告では，珪化度の高いものも頁岩に区分し，「珪質頁岩」を用いていない。また，土色計及び標準土色帖のマンセル表色系による色調の表示は，遺跡内で出土した石器の母岩をまとめる上などで有効であった。

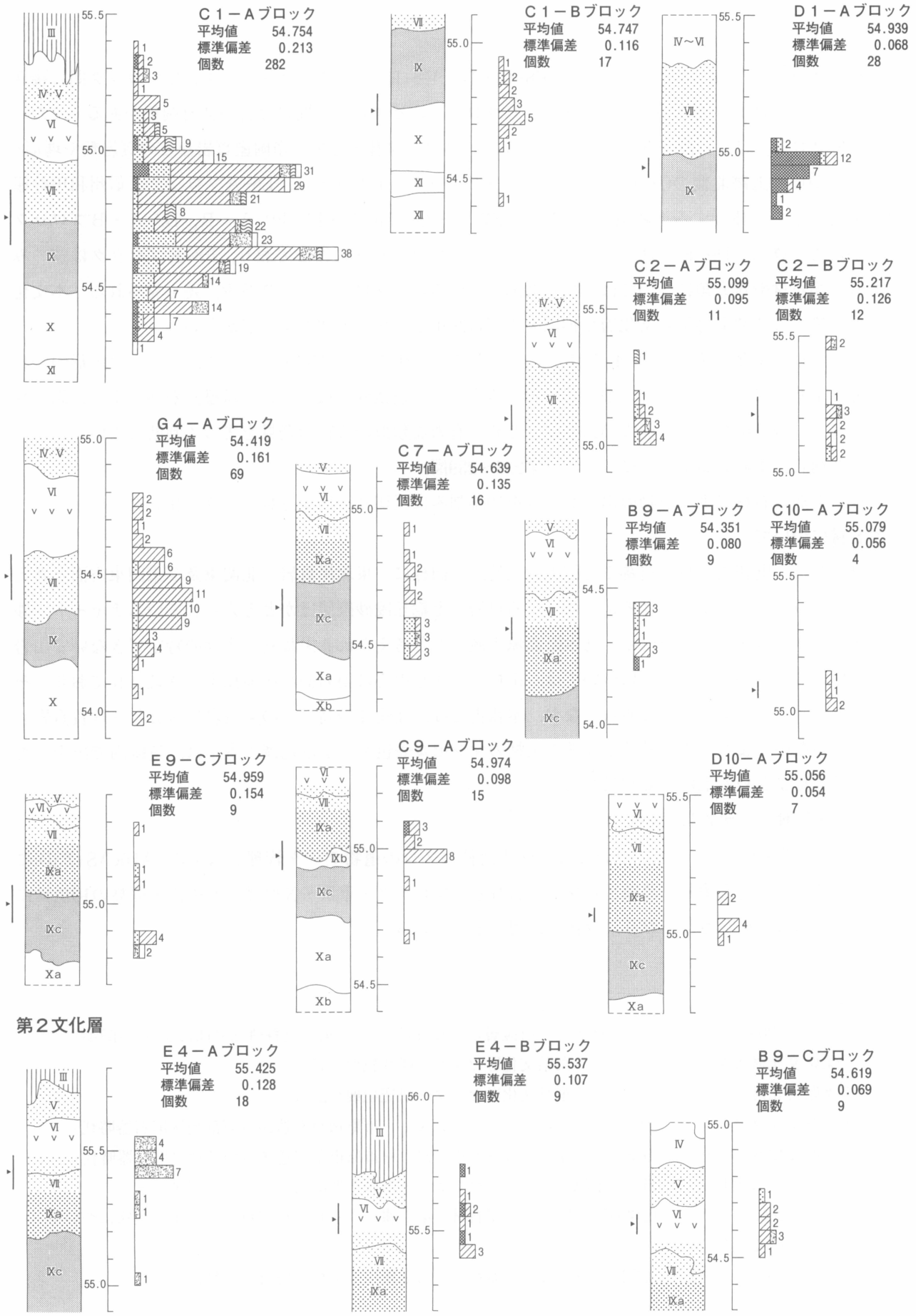
遺物データ管理システムについて

ナキノ台遺跡のデータ管理については，株式会社パスコの遺物データ管理システムPADRAS-T3Diにより，グリッド・遺物番号・器種・石材・母岩番号・ブロック・重量・X座標・Y座標・標高の10項目についてExel形式で保存されており，今後の活用に備えている。

参考文献

加納　実ほか　2003　「房総の石器石材２　－白滝層の珪質頁岩－」『千葉県史料研究財団だより』第14号
（財）千葉県文化財センター　1987　『千葉県文化財センター研究紀要』11号
（財）千葉県文化財センター　2001　『千葉県文化財センター研究紀要』22号
（財）千葉県文化財センター　2004　『千原台ニュータウンX　－市原市草刈遺跡（東部地区旧石器時代）－』
（財）千葉県文化財センター　2005　『千原台ニュータウンXIII　－市原市草刈遺跡（西部地区旧石器時代）－』
（財）千葉県教育振興財団　2006　『千原台ニュータウンXV　－市原市押沼大六天遺跡（下層）－』
田村　隆ほか　2003　「下野－北総回廊外縁部の石器石材（第１報）　－特に珪質頁岩の分布と産状について－」『千葉県史研究』第11号
田村　隆ほか　2004　「下野－北総回廊外縁部の石器石材（第２報）」『千葉県史研究』第12号

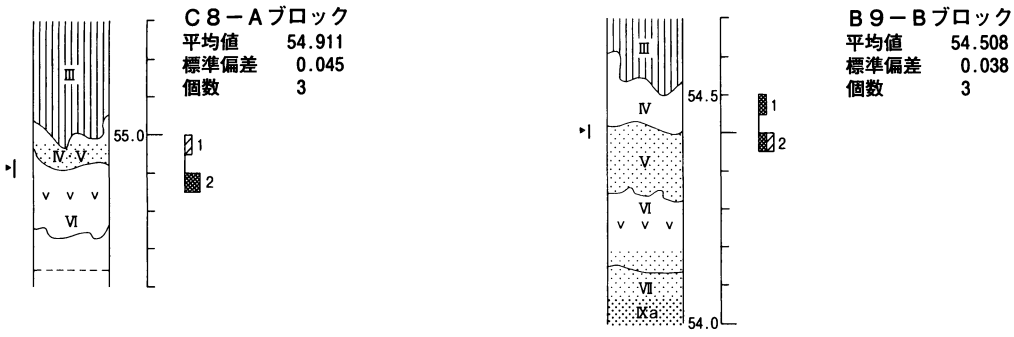
第１文化層



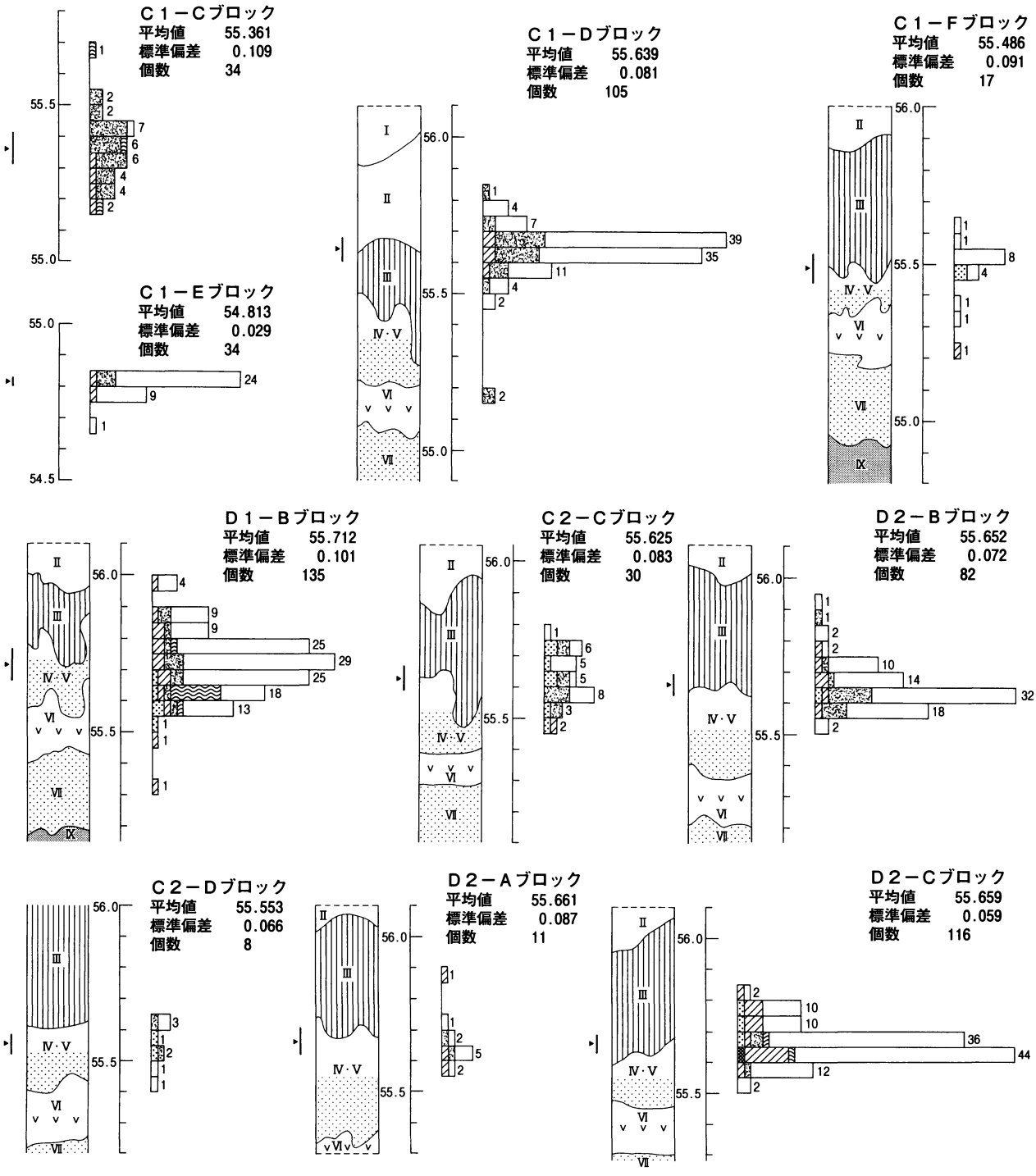
第２文化層

第236図　ブロック別石器垂直分布グラフ（１）

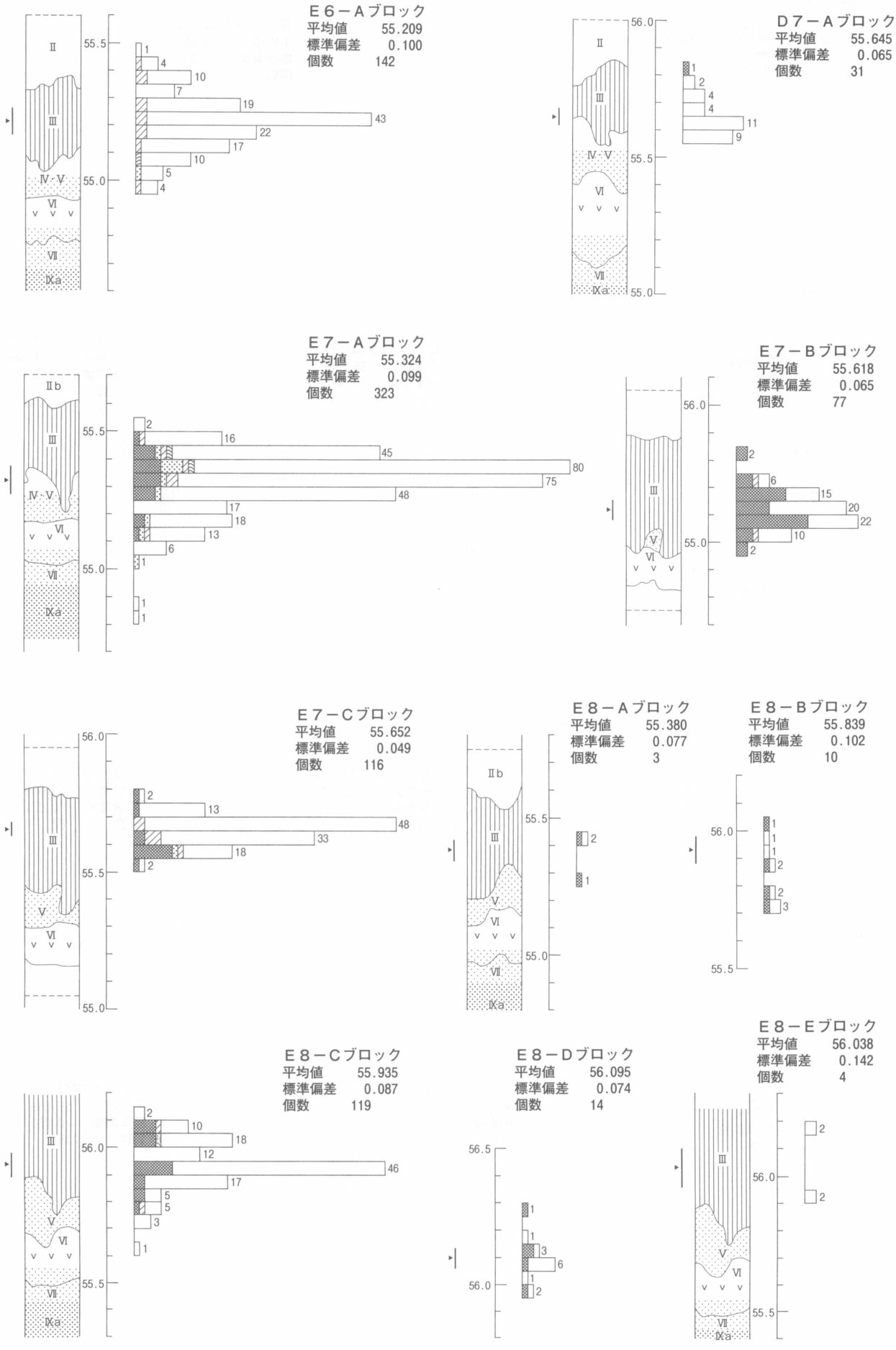
第３文化層



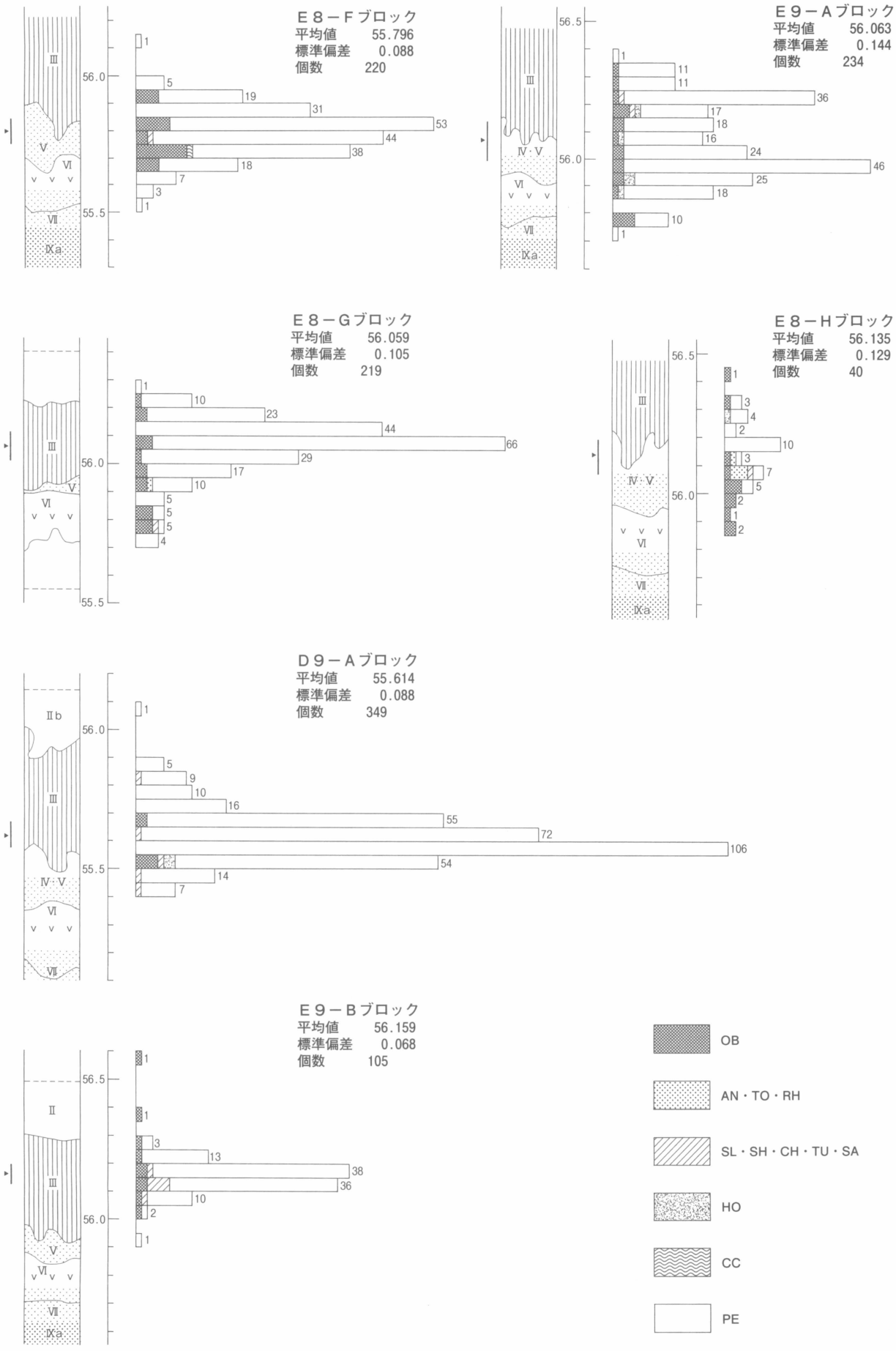
第４文化層



第237図　ブロック別石器垂直分布グラフ（２）



第238図　ブロック別石器垂直分布グラフ（3）



第239図　ブロック別石器垂直分布グラフ（４）

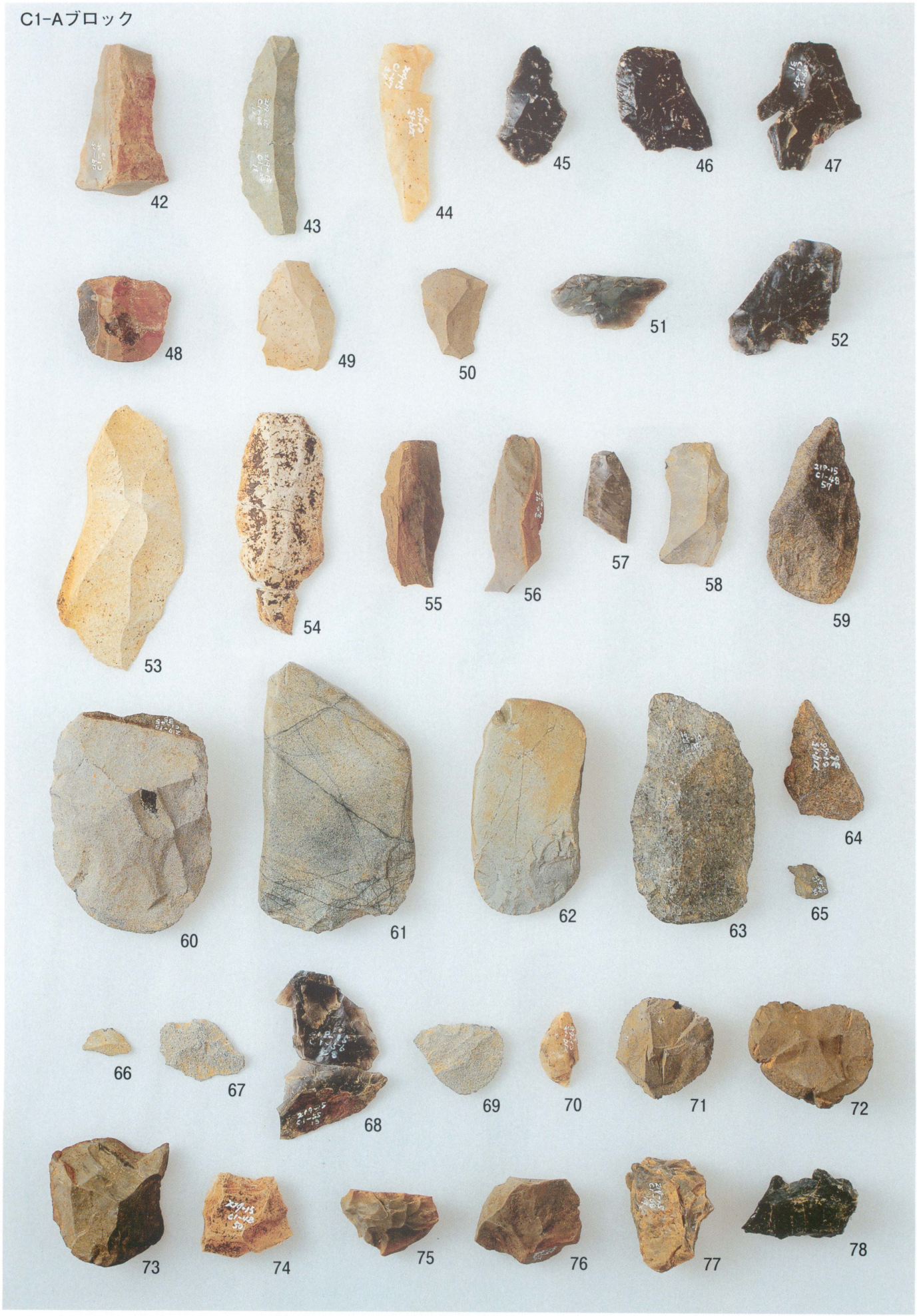
写　真　図　版

C1-Aブロック

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41

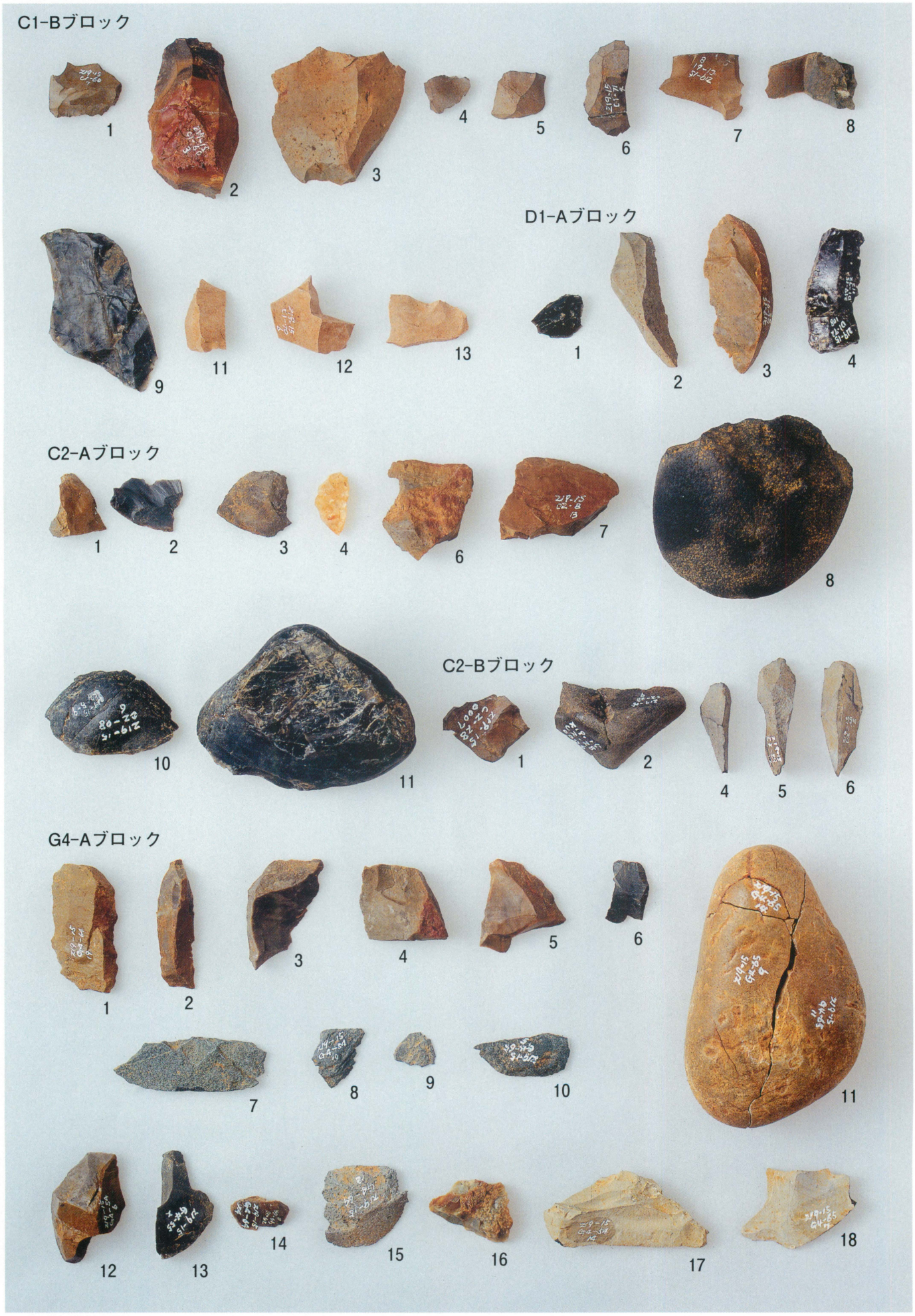
2. 第１文化層出土遺物 2

C1-Aブロック



79
80
81
82
83
84
85a
85b
85c
86
87
88
89
90
92
93
95
96
98
99
100
102
103
105
106
108
109
111
112
113
114
116
117
118
119a
119b
120
122
123
124
126
127
128

4. 第１文化層出土遺物 4



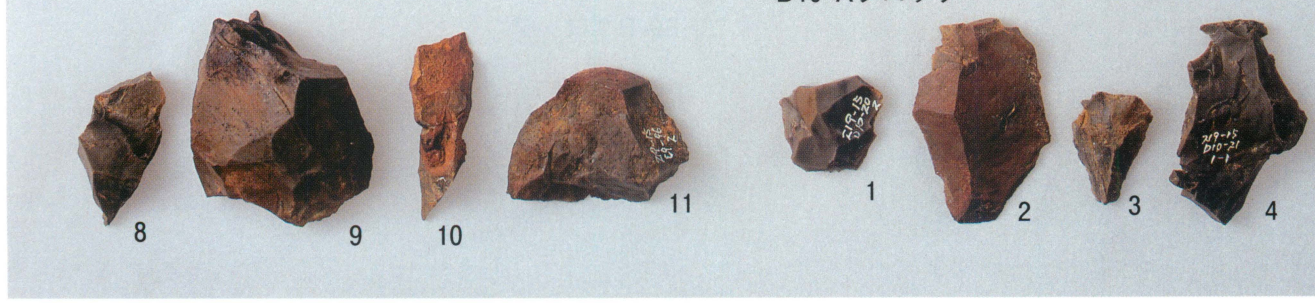
G4-Aブロック

C7-Aブロック

B9-Aブロック

C9-Aブロック

D10-Aブロック

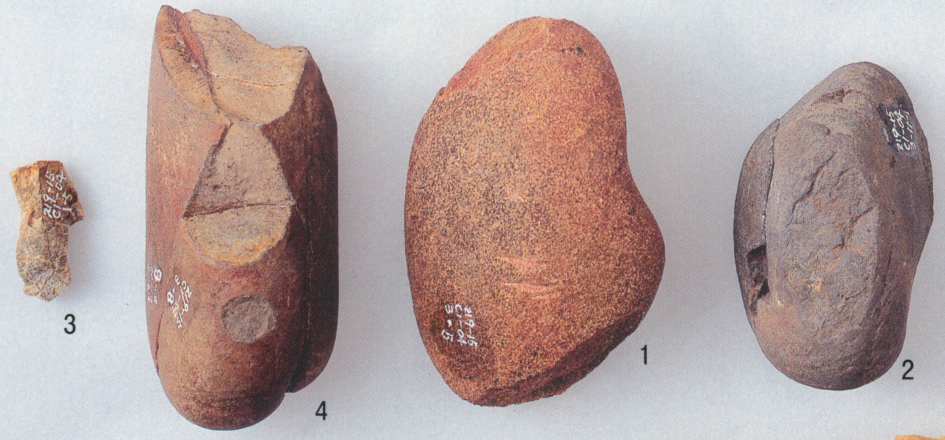


6. 第１文化層出土遺物 6・第２文化層出土遺物・第３文化層出土遺物

C1-Cブロック

C1-Dブロック

C1-Eブロック



C1-Fブロック

D1-Bブロック

8. 第４文化層出土遺物 2

D7-Aブロック　E7-Aブロック

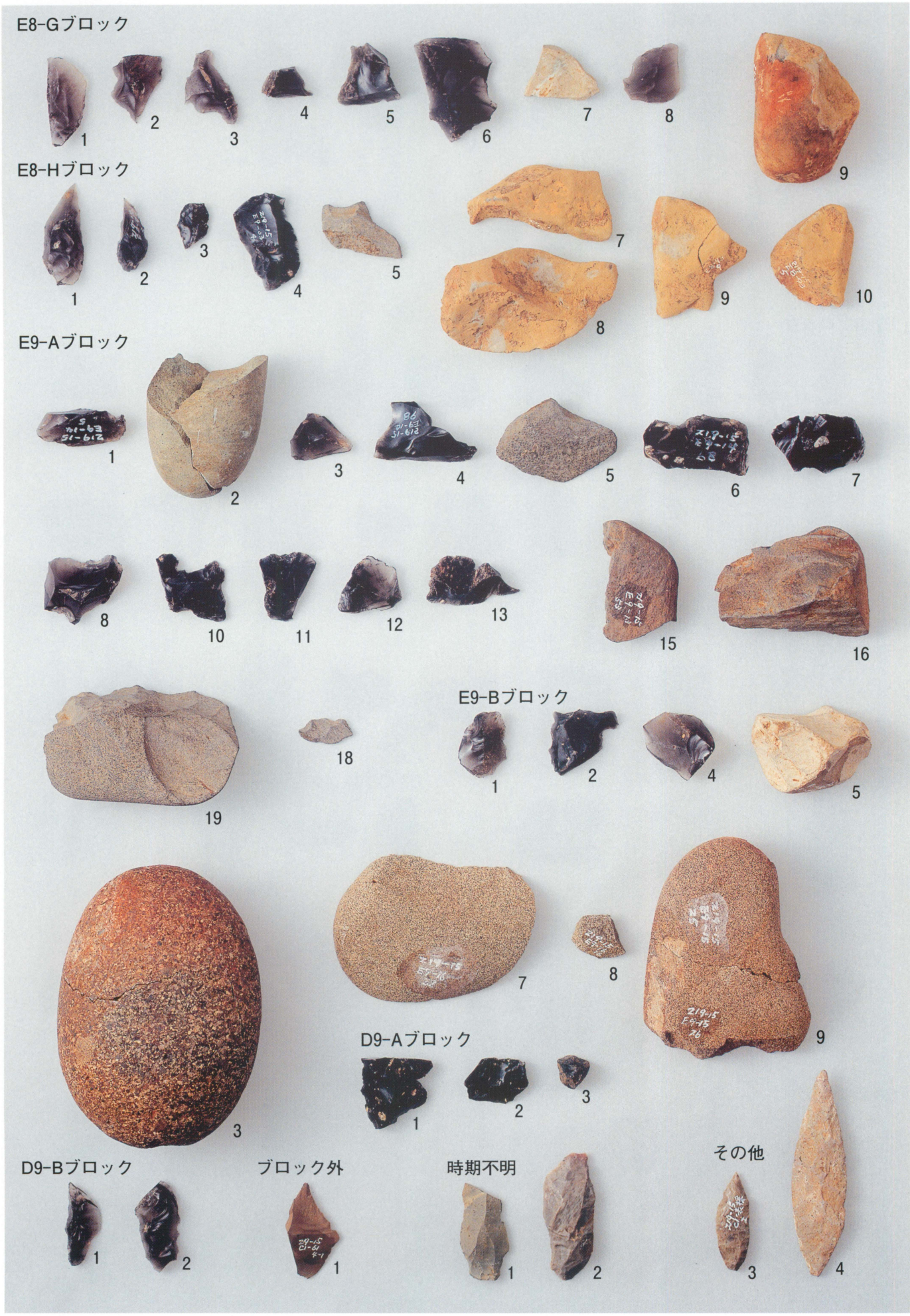
E7-Bブロック

E7-Cブロック

E8-Aブロック　E8-Bブロック　E8-Cブロック

E8-Dブロック　E8-Fブロック

10. 第４文化層出土遺物 4・時期不明出土遺物・その他出土遺物



C1-Aブロック

85 C1-129A

91 C1-5A

94 C1-1A

97 C1-47A

101 C1-46A

104 C1-93A

107 C1-18A

110 C1-17A

115 C1-49A

119 C1-45A

C2-Aブロック

121 C1-44A

125 C1-16A

5 C2-3A

9 C2-4A

C1-Bブロック

10 C1-146A

C2-Bブロック

3 C2-9A

C4-Aブロック

26 G4-24A

33 G4-6A

G4-Aブロック

36 G4-5A

40 G4-20A

G9-Aブロック

3 C9-4A

7 C9-2A

E4-Aブロック

2 E4-3A

6 E4-2A

B9-Cブロック

5 B9-13A

C1-Cブロック

12 C1-162A

16 C1-168A

C1-Dブロック

3 C1-170A

19 C1-154A

22 C1-163A

D1-Bブロック

18 D1-21A

C2-Cブロック

8 C2-11A

D2-Aブロック

2 D2-2A

2 D2-14A

D2-Bブロック

5 D2-13A

8 D2-12A

D2-Cブロック

8 D2-25A

E7-Aブロック

15 E7-1A

E7-Cブロック

4 E7-45A

7 E7-44A

E8-Cブロック

9 E8-7A

12 E8-8A

E8-Hブロック

6 E8-56A

E9-Aブロック

9 E9-1A

E9-Bブロック

14 E9-12A

17 E9-14A

6 E9-22A

14. 竪穴状遺構

1 竪穴状遺構土層断面 西から

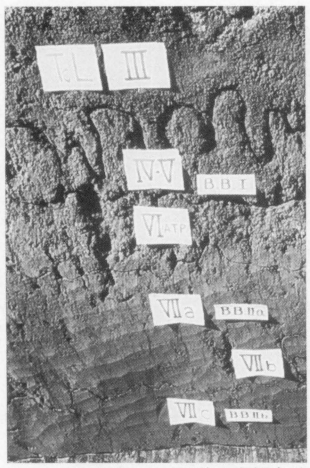
2 竪穴状遺構ピット検出状況及び土層断面 北から

3 竪穴状遺構土層断面 北から

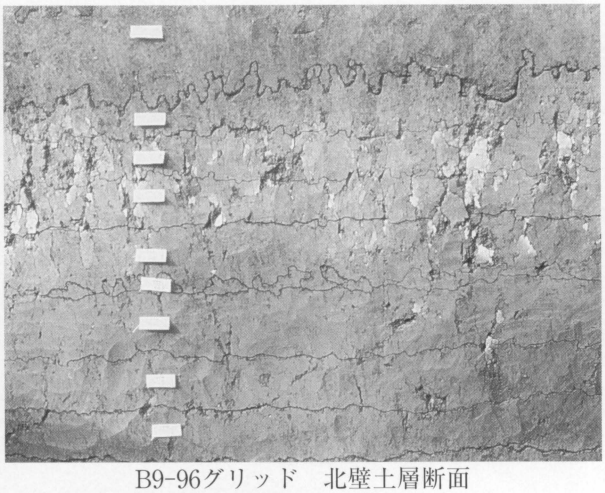
4 竪穴状遺構完掘 北から

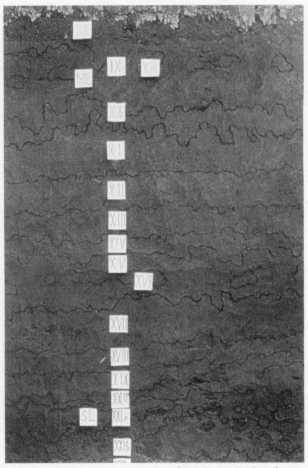
ナキノ台遺跡周辺航空写真（約1：10,000　昭和45年撮影）

図版 2　土層断面，第1文化層遺物出土状況 1



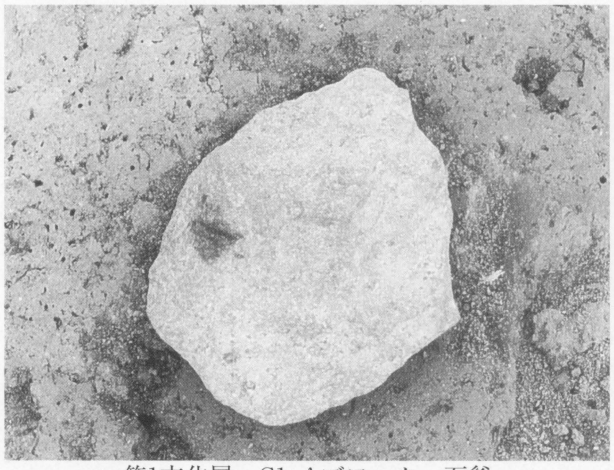
D10-46グリッド西壁土層断面


B9-96グリッド　北壁土層断面


C10-09グリッド東壁土層断面

第1文化層　C1-Aブロック　西から

第1文化層　C1-Aブロック　南西から


第1文化層　C1-Aブロック　石斧

第1文化層　C1-Aブロック　石斧

第1文化層　C1-Aブロック　石斧

第1文化層　C1-Aブロック　石斧

第1文化層　C1-Bブロック　西から

第1文化層　C1-Bブロック　西から

第1文化層　D1-Aブロック　西から

第1文化層　C2-Bブロック　南西から

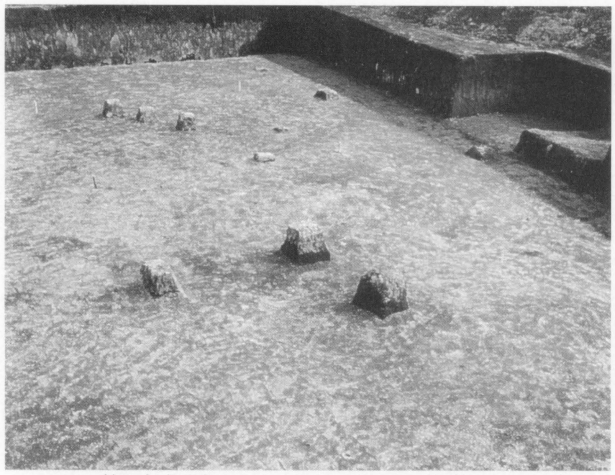
第1文化層　G4-Aブロック　南西から

第1文化層　G4-Aブロック　北から

第1文化層　G4-Aブロック　西から

第1文化層　G4-Aブロック　南東から

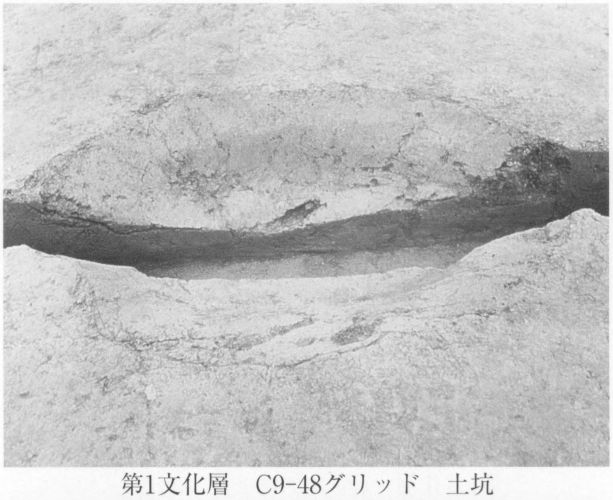
図版 4　第1文化層遺物出土状況 3

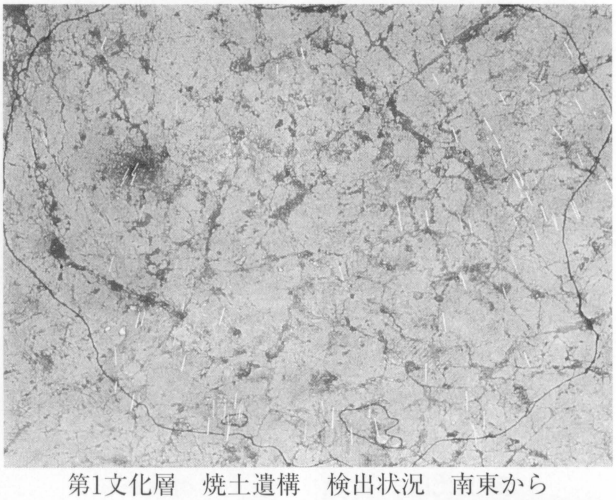

第1文化層　C7-Aブロック　北東から

第1文化層　C9-Aブロック　南東から

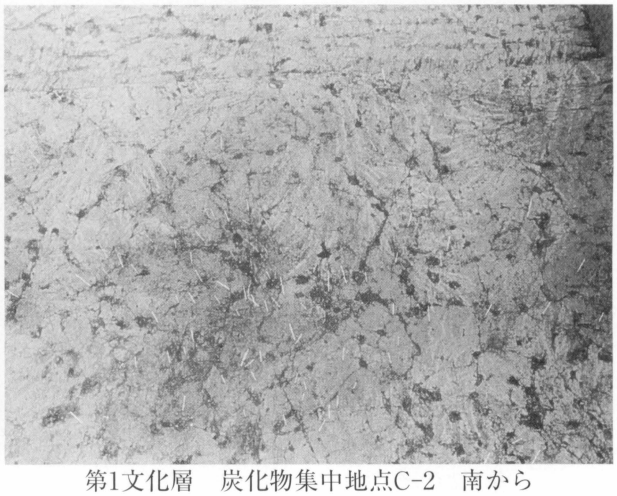
第1文化層　D10-Aブロック　南から

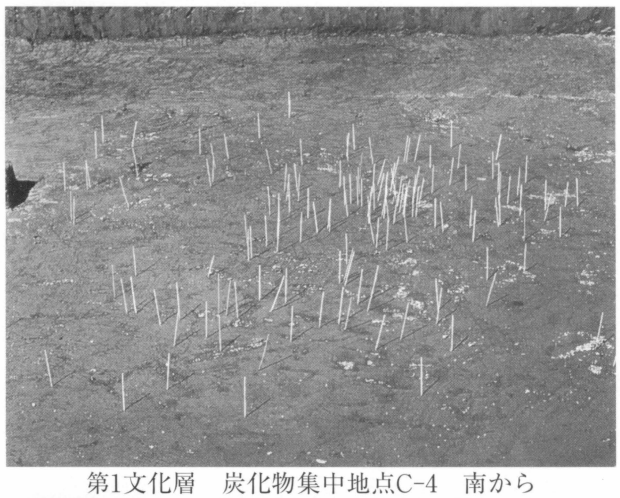
第1文化層　E9-Cブロック　西から


第1文化層　C9-48グリッド　土坑


第1文化層　焼土遺構　検出状況　南東から

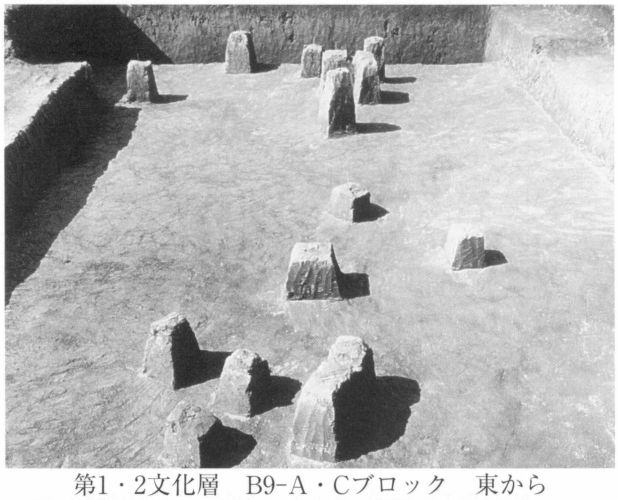
第1文化層　炭化物集中地点C-1　南東から


第1文化層　炭化物集中地点C-2　南から



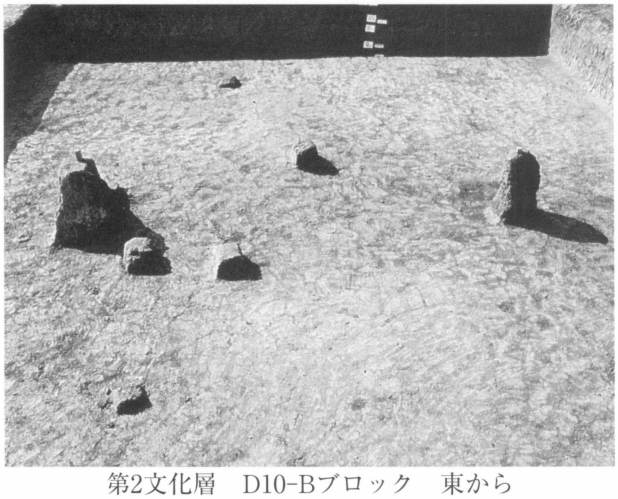
第1文化層　炭化物集中地点C-4　南から

第1文化層　炭化物集中地点C-5　西から



第1・2文化層　B9-A・Cブロック　東から

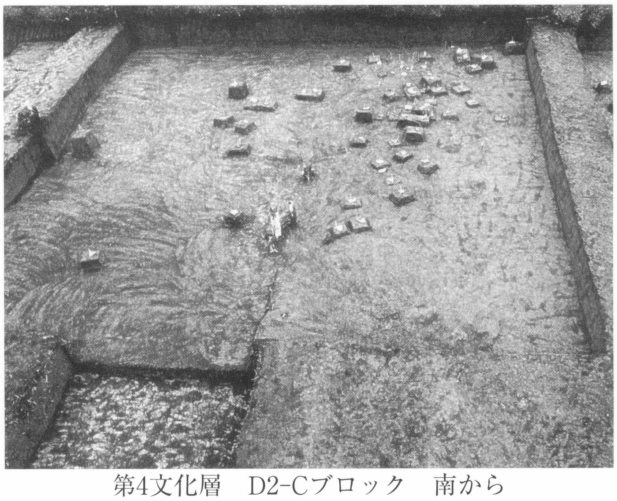
第2文化層　E4-A・Bブロック　西から



第2文化層　D10-Bブロック　東から

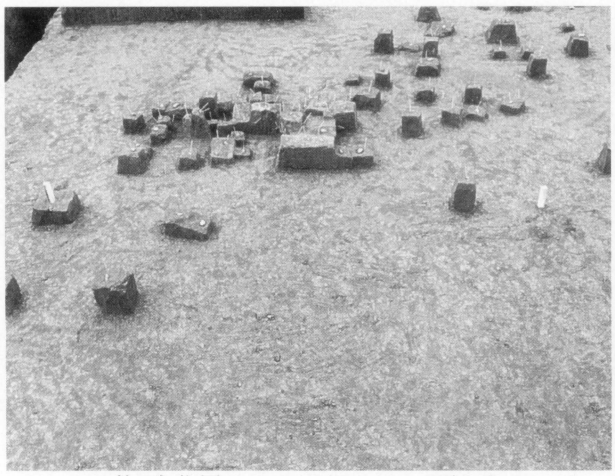
第4文化層　D1-Bブロック　西から

第4文化層　D1-Bブロック　西から



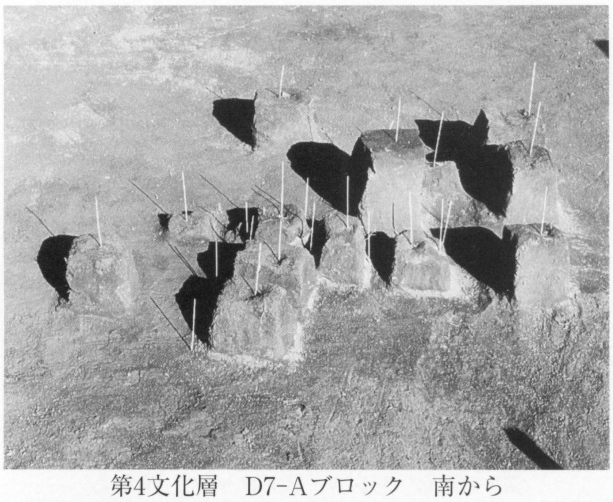
第4文化層　D2-Cブロック　南から

図版 6　第4文化層遺物出土状況 2



第4文化層　E6-Aブロック　西から

第4文化層　D7-A・E7-Bブロック　北西から



第4文化層　D7-Aブロック　南から

第4文化層　E8-C・Eブロック　北から

第4文化層　E7-Aブロック　北から

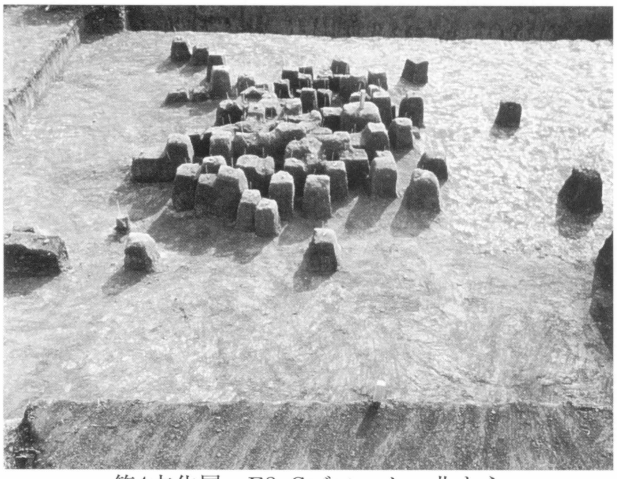
第4文化層　E7-Aブロック　南から

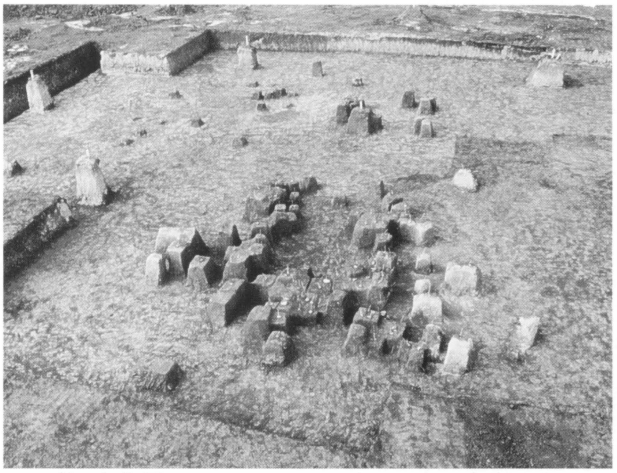
第4文化層　E7-Cブロック　北から

第4文化層　E7-Cブロック　南から

第4文化層　E8-Dブロック　東から

第4文化層　E8-Fブロック　南から


第4文化層　E8-Gブロック　北から


第4文化層　E8-H・E9-Aブロック　南東から

第4文化層　E9-Bブロック　東から

第4文化層　E9-Bブロック　北から

第4文化層　D9-Aブロック　南から

第4文化層　D9-Aブロック　北から

報告書抄録

ふりがな	ちはらだいにゅーたうん
書名	千原台ニュータウン
副書名	市原市ナキノ台遺跡（下層）
巻次	１８
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告
シリーズ番号	第580集
編著者名	田島　新
編集機関	財団法人千葉県教育振興財団　文化財センター
所在地	〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809番地の2　　TEL　043(424)4848
発行年月日	西暦2007年10月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ナキノ台（なきのだい）遺跡	千葉県市原市（ちばけんいちはらし）ちはら台南（みなみ）４丁目13番地	２１９	０１５	３５度３１分３３秒	１４０度１１分４２秒	1982.07.01～1984.03.31	41,000	千原台地区土地区画整理事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ナキノ台遺跡	包蔵地	旧石器時代	石器集中地点45か所 竪穴状遺構	ナイフ形石器・台形石器・石斧・角錐状石器・掻器・削器・尖頭器・楔形石器・石刃	立川ローム層下部～立川ローム層最上部で４枚の文化層を確認した。第１文化層では多数の石斧が発見され，第４文化層では，角錐状石器やナイフ形石器などと一緒に多量の礫群が発見された。

千葉県教育振興財団調査報告第580集

千原台ニュータウンⅩⅧ

－市原市ナキノ台遺跡（下層）－

平成19年10月31日発行

編　集　財団法人　千葉県教育振興財団
文化財センター

発　行　独立行政法人都市再生機構千葉地域支社
千葉市美浜区中瀬1-31

財団法人　千葉県教育振興財団
四街道市鹿渡809番地の2

印　刷　株式会社　エリート情報社［印刷出版局］
成田市東和田415番地10